

2012(平成24)年9月実施

第41回 足立区政に関する世論調査

定住性 / 災害対策 / 環境・エネルギーに対する意識 /
「あだち広報」、「わたしの便利帳」 / 保健・医療や福祉 /
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」 / 区政

はじめに

昨年9月、3千人の区民の皆様にご協力いただいた「第41回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりましたのでご報告申し上げます。

足立区では「協働で築く力強い足立の実現」を基本理念に掲げております。そのため、「協働」の前提となる、区民の皆様と行政との信頼関係を何よりも大切に考えています。信頼の源は「互いをいかに理解しあえるか」にありますから、区が常に活発に情報発信を行い、透明性を高める一方で、区民の皆様のご要望や、区政をどのように受け止めていただいているかを熟知することが大変重要です。その意味で年に一度の世論調査は大きな意味を持っています。

交通の利便性向上など、都市機能面での評価が内外に高まる一方で、当区でも急激に高齢化が進行中です。人口構造の逆ピラミッド化は、区政のいたるところに深刻な影響を及ぼしつつあり、特に「社会的孤立」を根本原因として、自殺・引きこもり・ゴミ屋敷問題などの諸課題が顕在化してきています。区では今年度より「孤立ゼロプロジェクト」を本格実施し、この問題に真正面から挑んでいきます。

たとえいくつになっても、安心して住み続けることのできるまちの実現に向けて、区民の皆様のご理解を深めつつ、今後とも着実に施策を進めてまいります。

平成25年3月

足立区長 近藤 やよい

はじめに

調査の概要

1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
3	調査の設計	3
4	調査ブロック	4
5	調査方法	5
6	回収結果	5
7	報告書の見方	7
8	標本構成	10

調査結果の要約

1	定住性	15
2	災害対策	16
3	環境・エネルギーに対する意識	17
4	「あだち広報」, 「わたしの便利帳」	18
5	保健・医療や福祉	19
6	「ビューティフル・ウィンドウズ運動」	20
7	区政	21

調査結果の分析

1	定住性	
	(1) お住まいの地域についての感じ方	27
	(2) 総合的な暮らしやすさ	48
	(3) 定住・移転意向	53
2	災害対策	
	(1) 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度	61
	(1-1) 避難場所等を確認する方法	69
	(2) 備蓄や防災用具などの用意	72
	(2-1) 備蓄や防災用具などの用意の開始時期	75
	(2-2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	77
	(2-3) 家庭での備蓄の量	80
	(3) 町会や自治会の防災訓練への参加状況	86
	(3-1) 防災訓練へ参加しない理由	89
	(4) 災害弱者・災害時要援護者の有無	92
	(4-1) 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無	95

目次

(5) 大地震が起きたとき不安に思うこと	98
(6) 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと	101
3 環境・エネルギーに対する意識	
(1) 環境のために心がけていること	107
(2) 震災前のエネルギーに対する意識	109
(3) 震災後のエネルギーに対する意識	112
(4) エネルギーに対する考え	115
(5) エネルギー使用についての現在の状況	128
4 「あだち広報」, 「わたしの便利帳」	
(1) 足立区に関する情報入手の手段	149
(2) 「あだち広報」を読む程度	152
(2 - 1) 「あだち広報」で読む内容	155
(2 - 2) 記事をよく読む理由	158
(3) 「あだち広報」の読みやすさ	159
(3 - 1) 「あだち広報」が読みやすい理由	162
(3 - 2) 「あだち広報」が読みにくい理由	165
(4) 「わたしの便利帳」の利用頻度	166
(5) 「わたしの便利帳」の利用内容	169
(6) 「あだちマップ」の利用頻度	172
(7) 「あだちマップ」の利用内容	175
5 保健・医療や福祉	
(1) 保健と医療について	181
(2) 「成年後見制度」の認知度	184
(2 - 1) 「成年後見制度」に関する取組みの認知度	186
6 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」	
(1) イメージキャラクターの認知度	191
(2) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度	193
(3) 刑法犯認知件数減少の認知度	196
(4) 地域の治安	198
(5) 自転車に鍵をかけているか	201
(6) 地域の変化についての評価	204
(7) この1年間に参加された活動	212
(7 - 1) 引き続き、または今後参加したいと思う活動	215
(7 - 2) 参加してみたい活動	218

7 区政	
(1) 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み	221
(1-1) 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み	224
(2) 区の取り組みについての評価・印象	231
(3) 区政に対する満足度	245
(3-1) 不満だと思ふ理由	249
(4) 区に対する気持ち	250
(5) 区政についてのご意見、ご要望(自由回答)	257
(6) アンケートの有効性	261
使用した調査票	265

調査の概要

調査の概要

1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2 調査の内容

今回の調査では、次の7項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 災害対策
- (3) 環境・エネルギーに対する意識
- (4) 「あだち広報」、「わたしの便利帳」
- (5) 保健・医療や福祉
- (6) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」
- (7) 区政

3 調査の設計

- | | |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満20歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000 サンプル |
| (4) 調査対象者の抽出 | |
| 抽出台帳 | 足立区住民基本台帳 |
| 抽出方法 | 単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 平成24年9月7日(金)～10月1日(月) |
| (6) 調査機関 | (株)エスピー研 |

4 調査ブロック

図1 ブロック区分図



表1 調査ブロック - 町丁目対応表

ブロック名	地 区 町 丁 目 名
第1ブロック	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2ブロック	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3ブロック	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町、西新井栄町三丁目
第4ブロック	西新井栄町一丁目～二丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5ブロック	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6ブロック	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目、東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第7ブロック	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第8ブロック	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目、保木間二丁目(12番を除く)、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第9ブロック	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間二丁目(12番のみ)、保木間三丁目～五丁目
第10ブロック	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第11ブロック	西新井一丁目～七丁目、谷在家一丁目、西伊興町、古千谷一丁目(7、12、13、18番地)、栗原三丁目～四丁目、西伊興一丁目～二丁目、伊興一丁目～三丁目、西竹の塚一丁目～二丁目(1～7番[4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22を除く])
第12ブロック	鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、谷在家二丁目～三丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第13ブロック	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目(4～5、8～11、14～17番地)、古千谷二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、西竹の塚二丁目(4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22、8～17番)、入谷町、伊興四丁目～五丁目、西伊興三丁目～四丁目、東伊興一丁目～四丁目、舎人町、舎人公園、伊興本町一丁目～二丁目

5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法(依頼状1回、督促状1回)
(2) 調査票 章の調査票を使用

6 回収結果

- (1) 標本数 3,000 票
(2) 有効回答数 1,999 票 有効回収率 66.6 %
(3) 回収不能数 1,001 票 回収不能率 33.4 %

(4) 地区別回収結果

表2 調査ブロック - 地区別回収結果

ブロック名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	556,678人	100.0%	3,000票	1,999票	66.6%
第1ブロック	62,388	11.2	333	245	73.6
第2ブロック	39,531	7.1	214	139	65.0
第3ブロック	35,642	6.4	193	113	58.5
第4ブロック	47,374	8.5	256	165	64.5
第5ブロック	51,692	9.3	279	185	66.3
第6ブロック	60,070	10.8	325	229	70.5
第7ブロック	44,959	8.1	243	163	67.1
第8ブロック	36,198	6.5	195	128	65.6
第9ブロック	27,145	4.9	147	87	59.2
第10ブロック	47,352	8.5	256	170	66.4
第11ブロック	35,355	6.4	191	122	63.9
第12ブロック	29,765	5.3	161	111	68.9
第13ブロック	39,207	7.0	207	142	68.6

(20歳以上人口は平成24年8月1日現在)

(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000 票	1,999 票	66.6%
男性(計)	1,490	870	58.4
20 代	205	96	46.8
30 代	284	147	51.8
40 代	316	156	49.4
50 代	218	137	62.8
60 代	243	179	73.7
70 歳以上	224	154	68.8
女性(計)	1,510	1,040	68.9
20 代	196	98	50.0
30 代	276	177	64.1
40 代	238	153	64.3
50 代	192	152	79.2
60 代	264	217	82.2
70 歳以上	344	242	70.3
無 回 答		89	

(注) この表での無回答は「性」を回答していない数を掲載している。また、「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」(計)の数とは一致しない。

7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 基数となるべき実数は、nで表している。nは、回答者総数または該当設問の該当者数である。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (6) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (7) 問3の定住・移転意向における『定住意向(計)』のように、「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の算出式と早見表を示した。

標本誤差および早見表は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。」という質問に対して、「ずっと住み続けたい」と答えた人は、1,999人のうち37.9%であった。回答者数が1,999人、回答率が40%前後のときの標本誤差は、早見表では±2.19%であるから、「ずっと住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の35.71%から40.09%であると推定できる。

標本誤差算出式

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差
N = 母集団数(足立区の20歳以上人口)
n = 比率算出の基数(回答者数)
P = 回答の比率(0 P 1)

早見表

回答の比率 (P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,999	± 1.34	± 1.79	± 2.05	± 2.19	± 2.24
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00

早見表 - 性・年代別

回答の比率 (P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全体 1,999	± 1.34	± 1.79	± 2.05	± 2.19	± 2.24
男性 (計) 870	± 2.03	± 2.71	± 3.11	± 3.32	± 3.39
20代 96	± 6.12	± 8.16	± 9.35	± 10.00	± 10.21
30代 147	± 4.95	± 6.60	± 7.56	± 8.08	± 8.25
40代 156	± 4.80	± 6.41	± 7.34	± 7.84	± 8.01
50代 137	± 5.13	± 6.83	± 7.83	± 8.37	± 8.54
60代 179	± 4.48	± 5.98	± 6.85	± 7.32	± 7.47
70歳以上 154	± 4.83	± 6.45	± 7.39	± 7.90	± 8.06
女性 (計) 1,040	± 1.86	± 2.48	± 2.84	± 3.04	± 3.10
20代 98	± 6.06	± 8.08	± 9.26	± 9.90	± 10.10
30代 177	± 4.51	± 6.01	± 6.89	± 7.36	± 7.52
40代 153	± 4.85	± 6.47	± 7.41	± 7.92	± 8.08
50代 152	± 4.87	± 6.49	± 7.43	± 7.95	± 8.11
60代 217	± 4.07	± 5.43	± 6.22	± 6.65	± 6.79
70歳以上 242	± 3.86	± 5.14	± 5.89	± 6.30	± 6.43

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1}$ 1とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類に使用した項目の定義

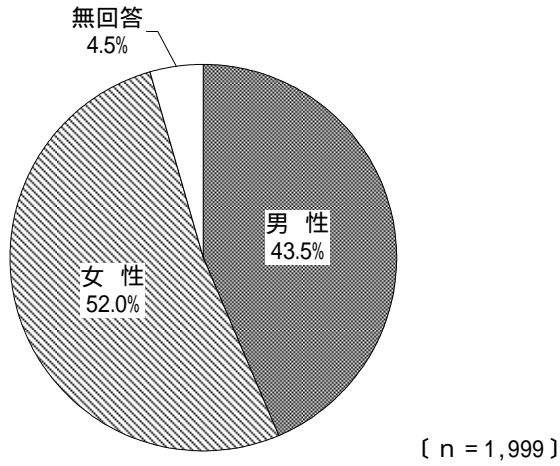
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

地域ブロック別	……	(13 カテゴリー)
性別	……	(2 カテゴリー)
年代別	……	(6 カテゴリー)
性・年代別	……	(12 カテゴリー)
ライフステージ別	……	(7 カテゴリー)
・独身期		40 歳未満の独身者
・家族形成期		40 歳未満で子どものいない夫婦、または本人が 64 歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
・家族成長前期		本人が 64 歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人 (家族成長小学校期) 本人が 64 歳以下で一番上の子どもが小学生の人 (家族成長中学校期) 本人が 64 歳以下で一番上の子どもが中学生の人
・家族成長後期		本人が 64 歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
・家族成熟期		本人が 64 歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
・高齢期		本人が 65 歳以上の人 (ひとり暮らし高齢者) 本人が 65 歳以上でひとり暮らしの人 (夫婦二人暮らし高齢者) 本人が 65 歳以上で夫婦二人暮らしの人 (その他的高齢者) 本人が 65 歳以上でひとり暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
・その他壮年期		本人が 40 歳 ~ 64 歳で独身、または本人が 40 歳 ~ 64 歳で子どものいない夫婦 (壮年独身者) 本人が 40 歳 ~ 64 歳で独身 (壮年夫婦のみ者) 本人が 40 歳 ~ 64 歳で子どものいない夫婦
住居形態別	……	(9 カテゴリー)
職業別	……	(11 カテゴリー)
就労(就学場所)別	……	(5 カテゴリー)
居住年数別	……	(5 カテゴリー)

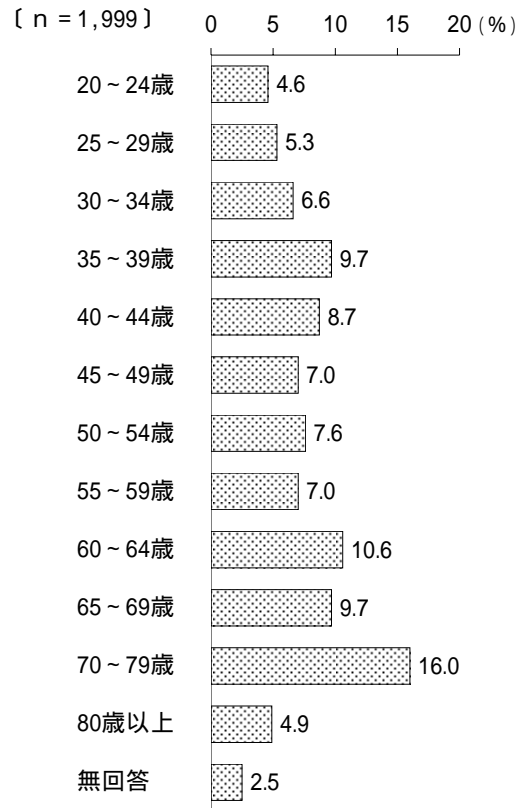
本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

8 標本構成

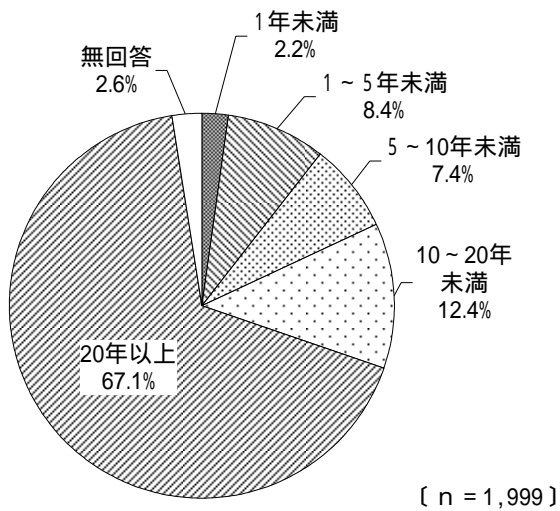
F 1 性別



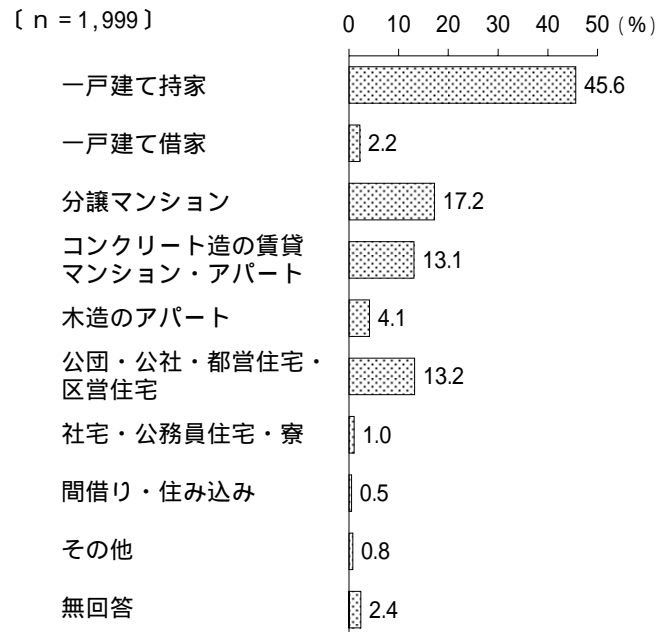
F 2 年齢



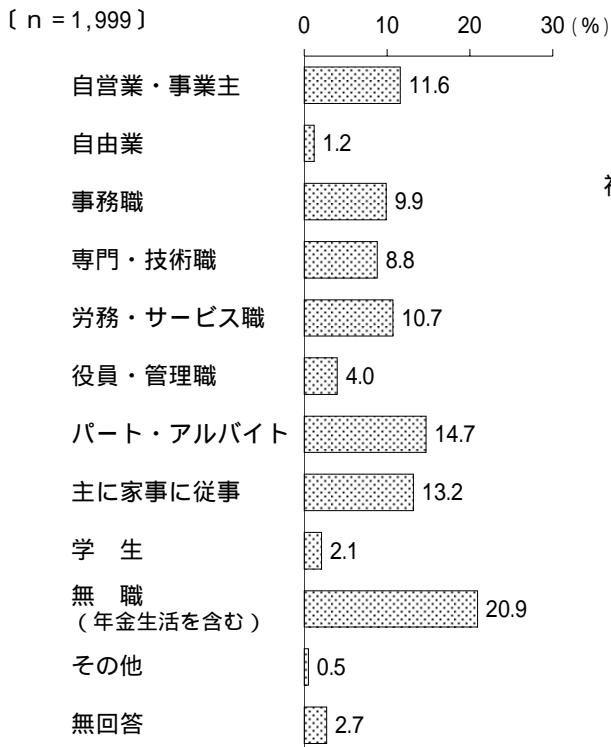
F 3 居住年数



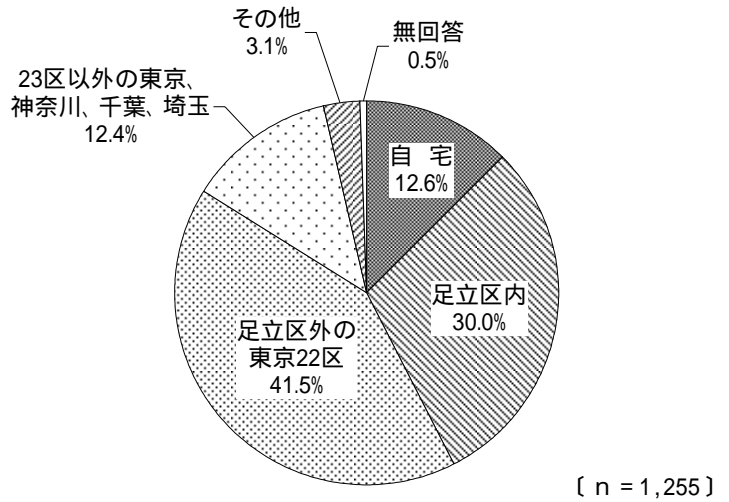
F 4 住居形態



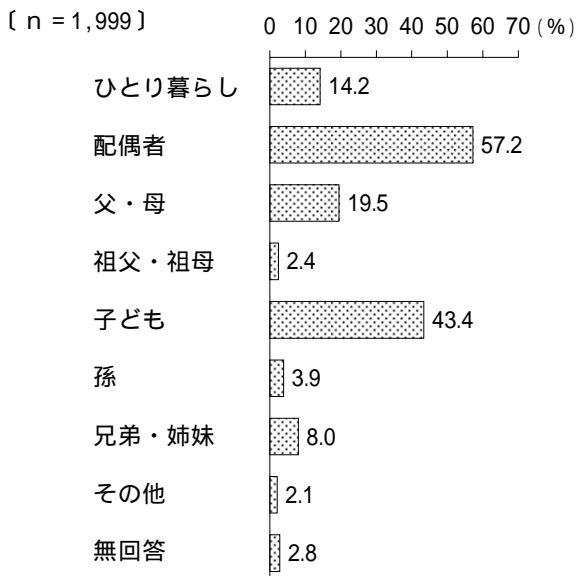
F 5 職 業



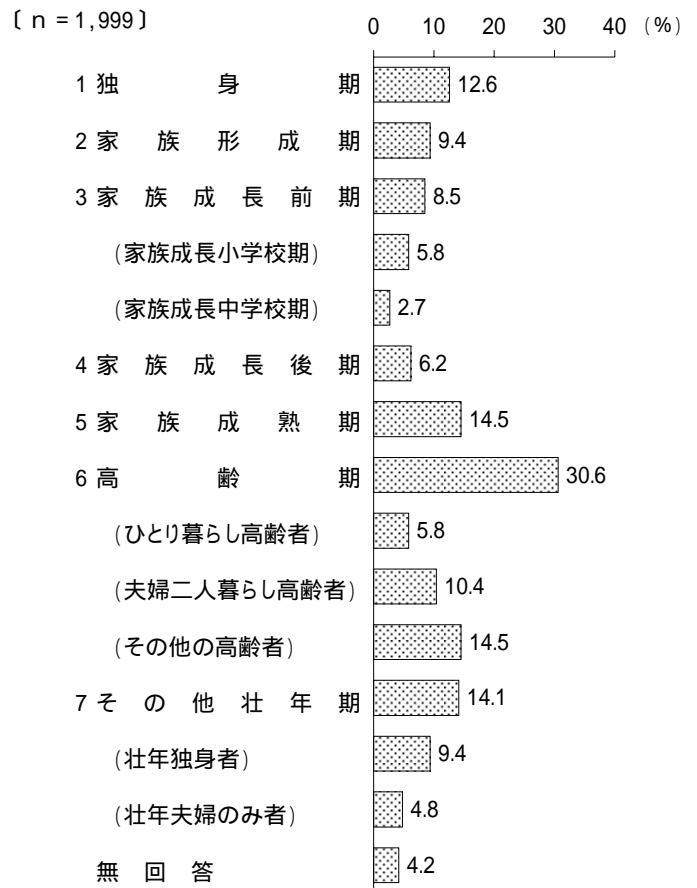
F 6 就労(就学)場所



F 7 同居家族(複数回答)



F 8 ライフステージ



()内は内訳

調査結果の要約

調査結果の要約

1 定住性

「定住性」については、毎年設問を設け経年変化を捉えている。

主な設問内容としては、「暮らしやすいと感じるか」「今後も足立区に住み続けたいと思うか」であるが、それぞれ「暮らしやすい」が82.5%、「住み続けたい」が76.4%と高い割合である。

「暮らしやすい」と感じる人は、平成14年の78.9%が最低で、ここ数年は毎年8割を超える傾向が見られる。男女別、年齢別での感じ方に大差はないものの、ライフステージ別の高齢期層で「暮らしやすい」と感じる人がやや多い傾向にある。

「定住意向」についても、平成14年の72.3%が最低で、ここ数年は毎年75%を超え、高い定住意向で推移している。「住み続けたい」と思う人は、男女とも高い年代ほど割合が高く、特に60代以上では8割以上が「定住意向」をもっている。また、居住年数が長いほど「定住意向」は高く、逆に、若年層や居住期間が短い人ほど「移転意向」が強い傾向が見られる。

2 災害対策

平成23年3月の「東日本大震災」を経験し、区の災害対策強化のために、昨年度から新たに設けた調査項目である。今年度、「今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み」で、「防災対策」が世論調査実施上、初めて第1位になった。

主な調査項目としては、「避難場所等の認知度」「備蓄などの用意」「防災訓練への参加状況」「区に期待する防災対策」などを尋ねた。

「避難所・避難場所」などの認知度は、各々昨年度に比較して「知っている」の割合が増加している。また、「家庭備蓄などの用意」については73.9%が何らかの用意をしており、昨年度とほぼ同様の割合となっており、災害に備えをする区民の姿勢が見受けられる。

一方で「防災訓練に参加していない」は77.6%と高く、理由としては「訓練を実施することを知らなかった」「参加したかったが、都合がつかなかった」などと答えている。

「身近に大地震が起きた場合、特に不安に思うこと」では、「家族の安否」が75.3%、「建物の倒壊」が65.4%、「火災の発生」が62.7%となっている。こうしたことを踏まえて、「区に特に力を入れてほしい防災対策」については、「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」83.5%、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」76.6%、「医療体制の確保」56.6%が上位3位となっている。

3 環境・エネルギーに対する意識

経年で確認している環境全般について心がけていることに加え、震災と原発事故後のエネルギーに対する意識の変化について新たな設問を設けた。

「環境のために心がけていること」では、「ごみと資源の分別を実行している」が 86.4%と最も高く、「ごみや吸いがらのポイ捨てはしていない」72.1%、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」67.4%と続く。昨年度と比較すると、それぞれ2～6ポイント減少している。

東日本大震災発生前に、省エネや節電などエネルギーについて意識していたか聞いたところ、「意識していた」が 60.9%、「意識していなかった」が 35.9%と一定程度が意識していたことがわかった。しかし、東日本大震災発生後の意識の変化について尋ねたところ、「意識するようになった」が 85.6%に上り、意識の変化が結果として明確に表れている。

4 「あだち広報」、「わたしの便利帳」

「あだち広報」、「わたしの便利帳」の見直しを視野に入れ、それぞれの利用状況について調査を実施した。

「足立区に関する情報入手の手段」について尋ねたところ、「あだち広報」が 82.5%と最も高く、今でも区の情報入手の主要な手段であることがわかる。その他の方法では、「ときめき」49.2%、「町会・自治会掲示板・回覧板」31.9%、「区のホームページ」15.7%と続いている。

「あだち広報をどの程度読むか」については、「ほとんどの記事を読んでいる」20.0%、「興味のある記事だけを読んでいる」45.5%、「見出しだけをながめる程度」15.6%の合計で 81.1%となる。2年前の同様の調査結果 88.7%と比較すると、若干数値が低下している一方で、「あだち広報は読みやすい」と答えている人は 86.6%に上っている。

また、「あだち広報でよく読む記事」は、「お知らせ記事（区の制度関係）」58.6%、「お知らせ記事（講座・イベント情報）」49.4%、「特集面（見開きカラー中面）」39.5%の順である。2年前の同様の調査では、「お知らせ記事（講座・イベント情報）」52.5%、「お知らせ記事（区の制度関係）」51.8%、「まちの見どころ（区の施設や史跡などの紹介）」37.2%であったが、やや順位が変化した。

「わたしの便利帳」の利用頻度は、「年数回」が 37.6%、「ほとんど使わない」35.7%と利用頻度が低いことがわかる。また、「便利帳の存在を知らない」が 17.6%であった。見る内容としては、「施設案内」46.5%、「急病・緊急のとき」36.3%、「医療機関ガイド」31.6%が上位となっている。

5 保健・医療や福祉

この分野の区民の意識変化については、経年調査しているものである。

「保健と医療などについて、あなた自身にあてはまるものをお答えください。」という問いに対して、一番多かった答えは「毎日朝ごはんを食べている」で68.3%である。次いで「毎年健康診断を受けている」58.5%、「食品などの保管方法や調理前の手洗いきれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」57.8%となっている。

この設問に対する回答では、男女別、年代別の差が大きく、例えば「毎日朝ごはんを食べている」については、70歳以上で8割を超える反面、20代では5割台にとどまっている。また、「食品などの保管方法や調理前の手洗いきれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」については、女性では7割に達するが、男性は4割台にとどまっている。

「成年後見制度の認知度」について、「内容を含め知っている」14.6%、「内容は分からないが、名前は知っている」26.2%を合わせて、40.8%であった。本年度は、障がい者虐待防止法が施行された年であったが、「知っている」は、3.2ポイント減少している。

6 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組みは、今年3年目の集大成の時期にあたるため、その成果について調査を実施した。

まず「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度について尋ねたところ、「知っており、活動を実践している」2.8%、「知っているが、特に何も行っていない」13.5%、「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」17.3%と合わせた「知っている」が、33.6%となっている。運動を始めた2年前の26.8%から、徐々に認知度が上がってきている。また、地域の体感治安について「お住まいの地域の治安は、よいと感じますか」の質問には、「そう思う」11.8%、「ややそう思う」29.2%で、41.0%の人が「よい」と感じていることがわかった。

「地域の変化についての評価」では、「ゴミやタバコのポイ捨て」が減っていると感じる人が52.7%、「放置自転車」が減っていると感じる人が49.2%、「ペットの糞」が減っていると感じる人が40.0%となり、2年前より増加している。また、「登下校時のあいさつなどの声掛け運動」が増えていると感じる人が15.8%、「防犯パトロール」が増えていると感じる人が31.8%となるなど、目に見える形での運動の成果が徐々に浸透している。

7 区政

以前と比べてよくなったと思う区の取り組み、今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みについて、経年調査を実施している。

「以前と比べてよくなったと思う区の取り組み」では、「都市開発」35.6%、「自然・緑化対策」30.0%、「交通対策」26.8%が上位3位である。昨年度の「都市開発」34.5%、「資源環境対策」30.3%、「自然・緑化対策」29.5%、一昨年度の「都市開発」35.3%、「自然・緑化対策」31.2%、「交通対策」28.0%とほぼ同様の傾向が伺える。

「今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み」について尋ねたところ、今年度初めて「防災対策」45.6%が第1位になった。次いで「交通対策」45.4%、「高齢者支援」43.9%と続く。昨年度の上位3位は、「交通対策」33.6%、「高齢者支援」33.1%、「防災対策」28.8%、一昨年度は「高齢者支援」36.2%、「交通対策」27.8%、「子育て支援」20.3%となっており、「高齢者支援」「交通対策」が毎年、上位3位までに含まれている。

こうしたことを踏まえ、「区政に満足しているか」尋ねたところ、「満足」7.9%、「やや満足」43.1%を含めた「満足層」は51.0%に上った。これは、昨年度の「満足層」41.7%、一昨年度の「満足層」41.6%を大きく上回った。

また、「足立区に愛着をもっているか」「足立区に誇りをもっているか」尋ねたところ、「足立区に愛着をもっている」で「そう思う」は29.1%、「どちらかといえばそう思う」は42.0%で、合計71.1%の人が愛着をもっていると答えている。昨年度71.2%、一昨年度64.7%に比べ、増加傾向にある。また、「足立区に誇りをもっている」で「そう思う」は12.2%、「どちらかといえばそう思う」は27.8%と、合計40.0%の人が誇りをもっていると回答した。昨年度37.0%、一昨年度29.8%と比べて増加傾向が顕著になっている。

調査結果の分析

1 定 住 性

-
- (1) お住まいの地域についての感じ方
 - (2) 総合的な暮らしやすさ
 - (3) 定住・移転意向
-

1 定 住 性

(1) お住まいの地域についての感じ方

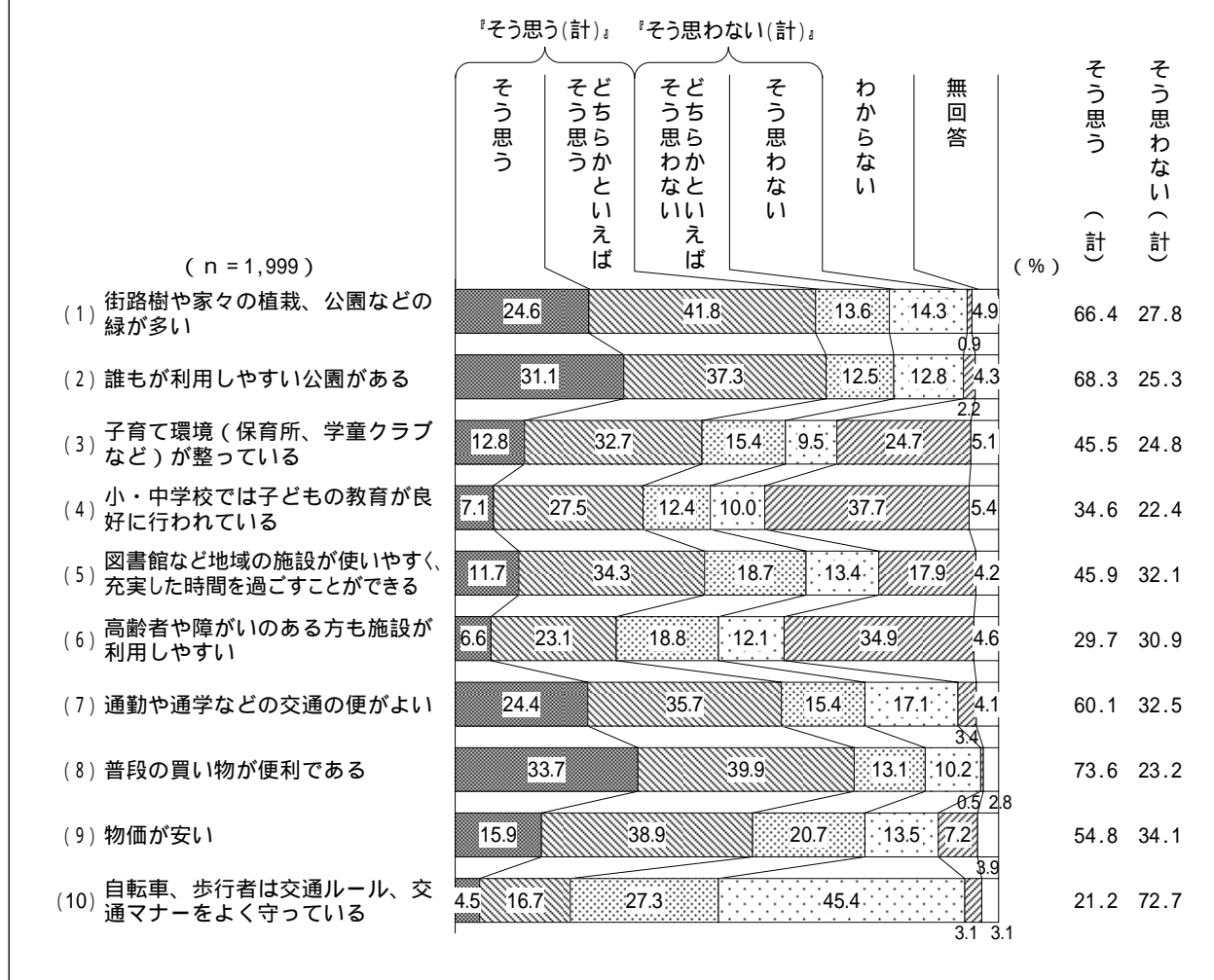
【普段の買い物が便利である】と思う人が7割を超える

【自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている】と思わない人が7割を超える

問 1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか。

(は各項目とも1つだけ)

図 1 - 1 - 1 お住まいの地域についての感じ方



お住まいの地域について、どのように感じているか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、【普段の買い物が便利である】(73.6%) が7割を超え最も高く、次いで【誰もが利用しやすい公園がある】(68.3%) が7割近く、【街路樹や家々の植栽、公園などの緑が多い】(66.4%) が6割半ばと高くなっている。

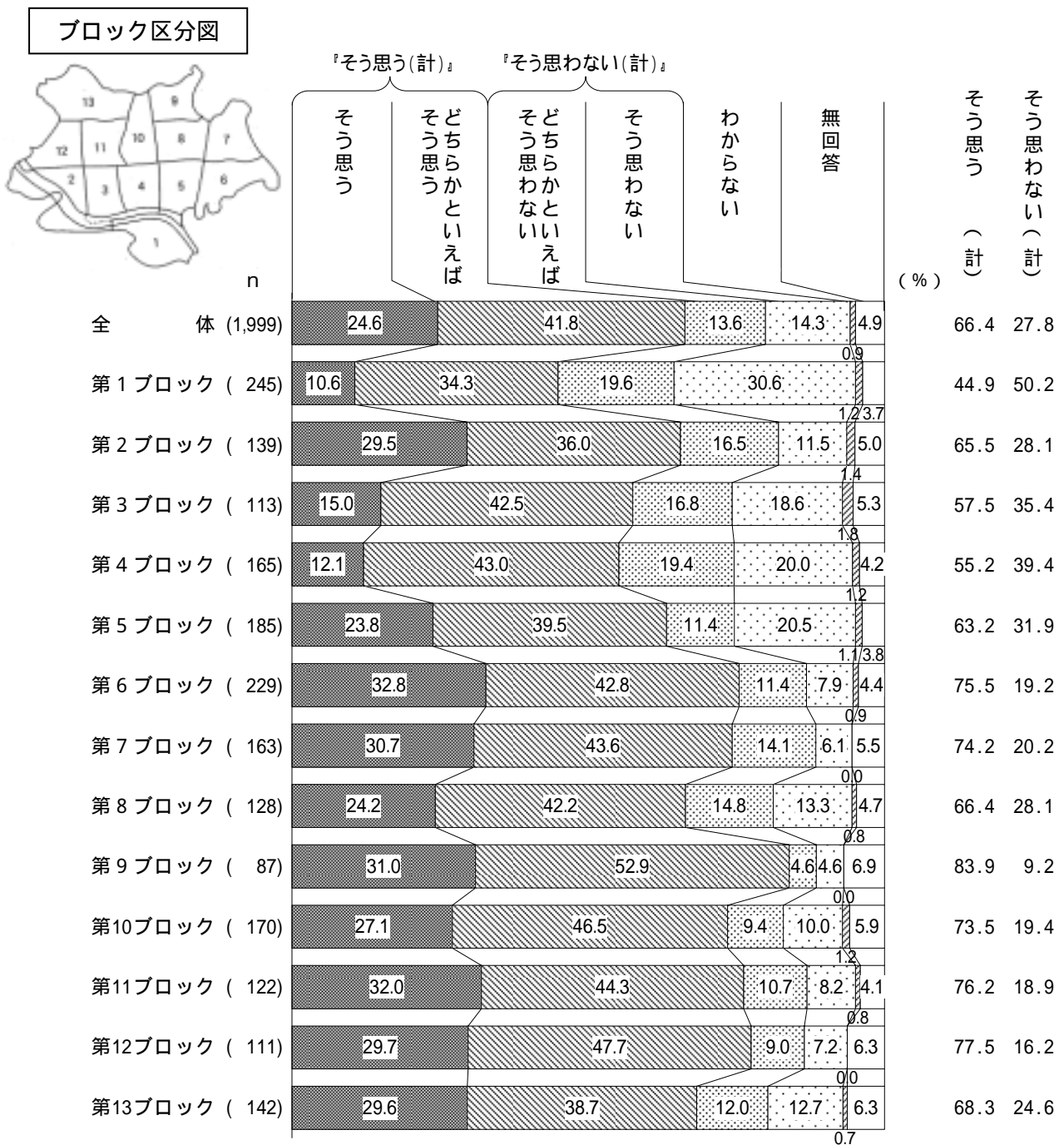
一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、【自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている】(72.7%) が7割を超え最も高く、次いで【物価が安い】(34.1%)、【通勤や通学などの交通の便がよい】(32.5%) の順で高くなっている。(図 1 - 1 - 1)

地域ブロック別でみると、「そう思う」は第6ブロック（32.8%）と第11ブロック（32.0%）と第9ブロック（31.0%）と第7ブロック（30.7%）で3割を超え高くなっている。また、『そう思う（計）』では第9ブロック（83.9%）で8割を超え高くなっている。

一方、「そう思わない」は第1ブロック（30.6%）で3割と高くなっている。また、『そう思わない（計）』では第1ブロック（50.2%）で5割と高くなっている。（図1-1-2）

図1-1-2 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別（1）

（1）街路樹や家々の植栽、公園などの緑が多い

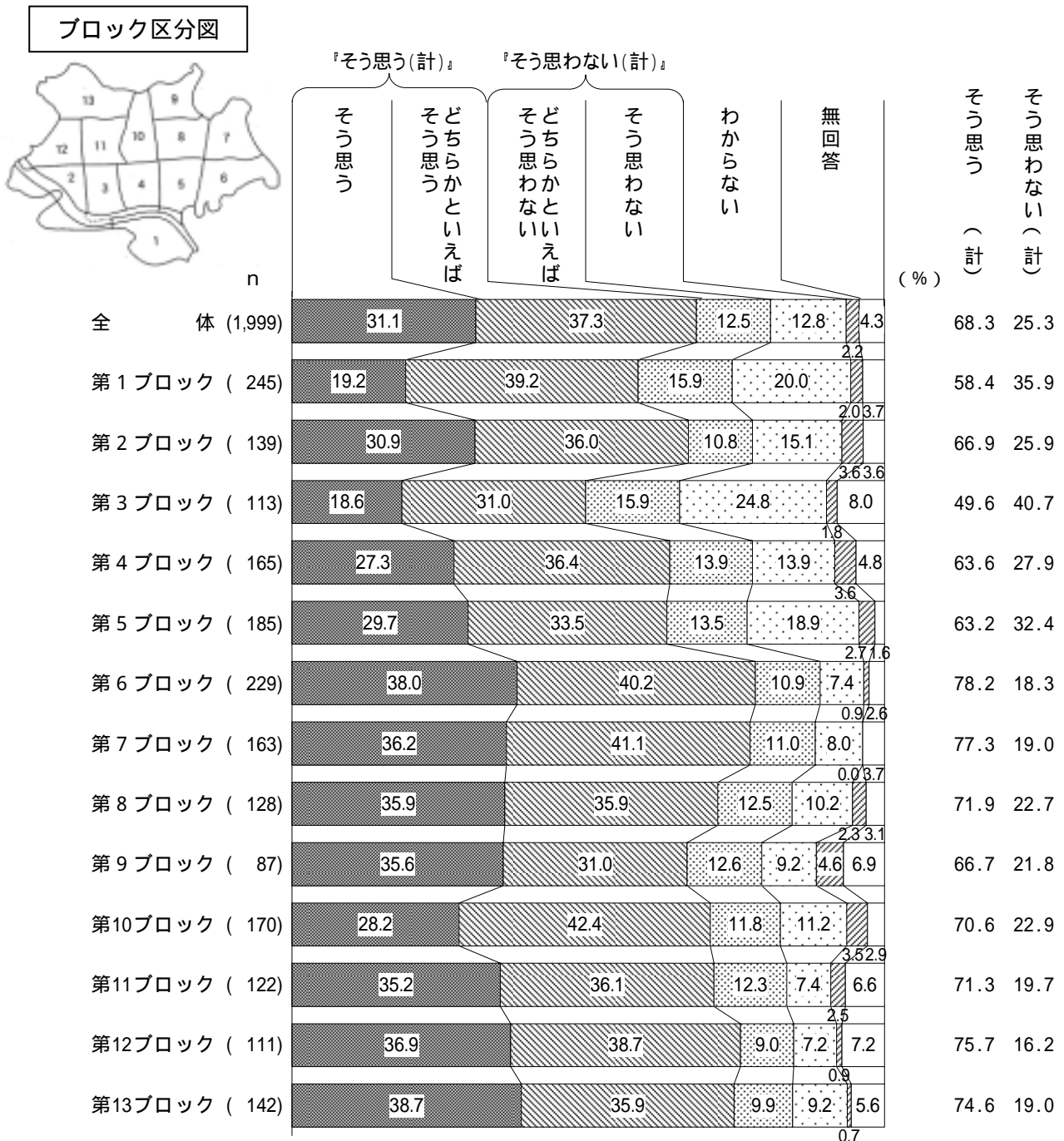


地域ブロック別でみると、「そう思う」は第13ブロック(38.7%)と第6ブロック(38.0%)で4割近くと高くなっている。また、『そう思う(計)』では第6ブロック(78.2%)と第7ブロック(77.3%)で8割近くと高くなっている。

一方、「そう思わない」は第3ブロック(24.8%)で2割半ばと最も高く、『そう思わない(計)』でも第3ブロック(40.7%)で4割と最も高くなっている。(図1-1-3)

図1-1-3 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(2)

(2) 誰もが利用しやすい公園がある



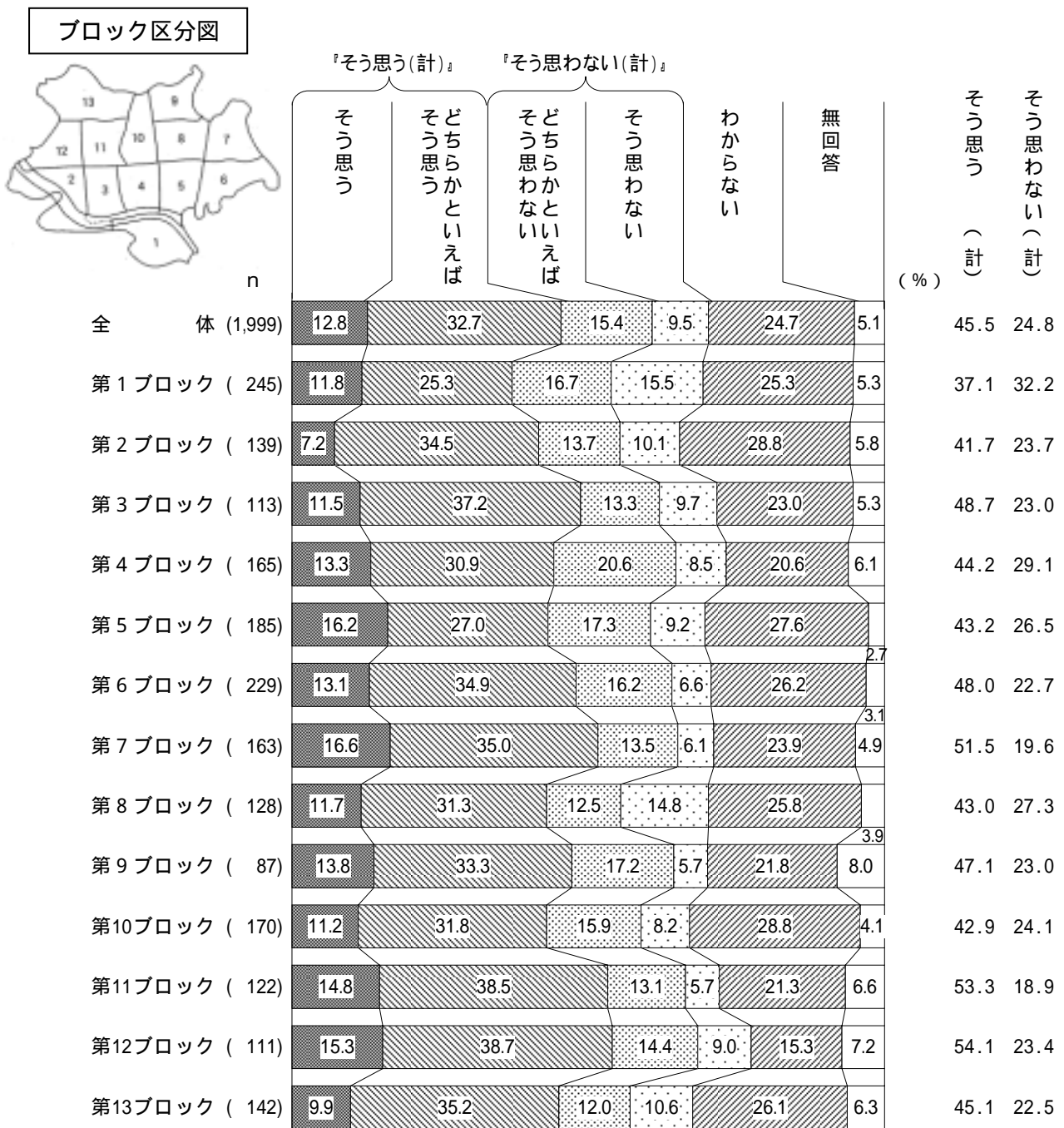
地域ブロック別でみると、「そう思う」は第7ブロック（16.6%）と第5ブロック（16.2%）の順で高くなっている。また、『そう思う（計）』では第12ブロック（54.1%）と第11ブロック（53.3%）で5割半ばと高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』では第1ブロック（32.2%）で3割を超え高くなっている。

（図1-1-4）

図1-1-4 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別（3）

（3）子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている



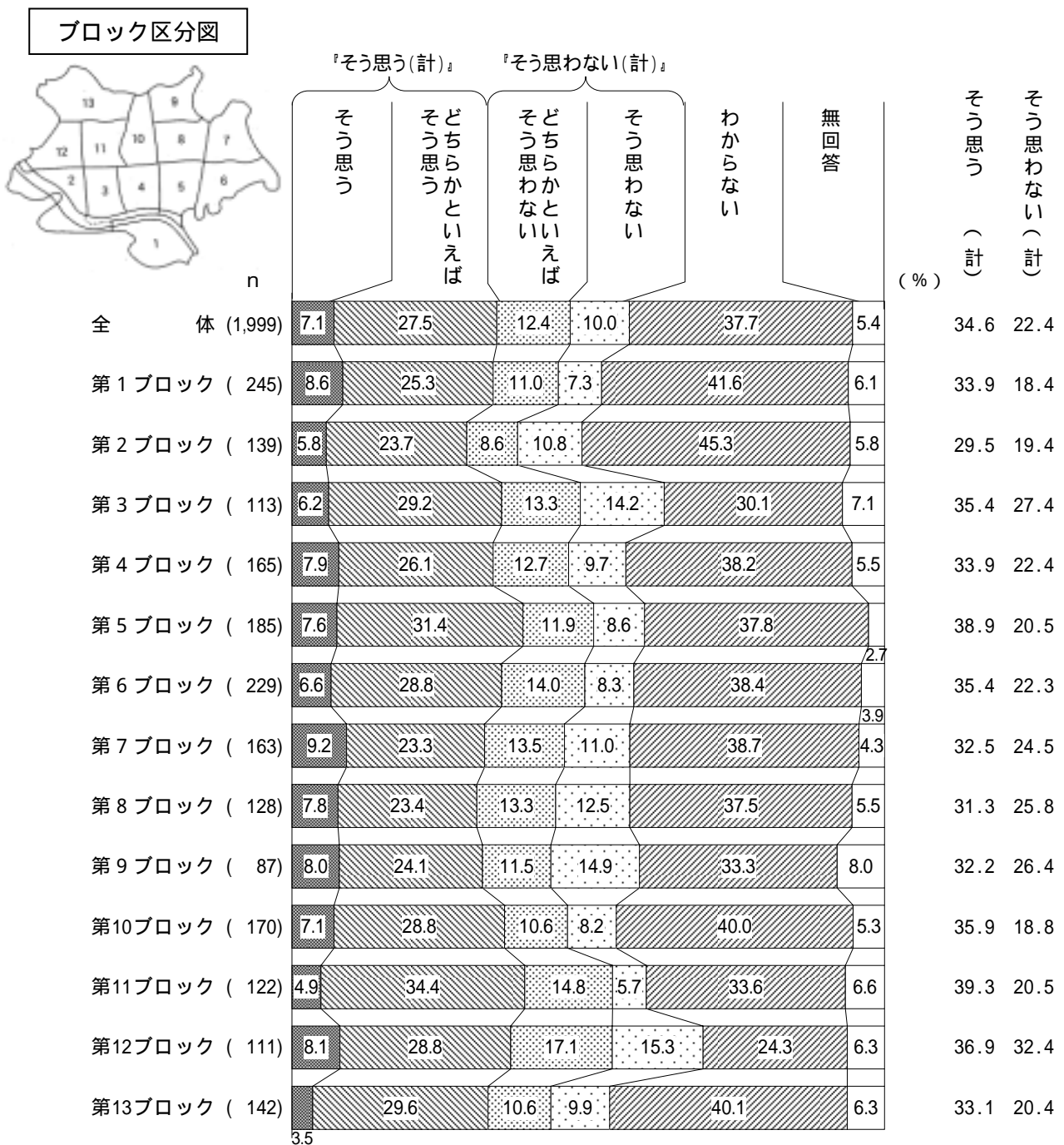
地域ブロック別で見ると、『そう思う(計)』は第11ブロック(39.3%)でほぼ4割で最も高く、次いで第5ブロック(38.9%)と第12ブロック(36.9%)の順で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は第12ブロック(32.4%)で3割を超え最も高くなっている。

(図1-1-5)

図1-1-5 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(4)

(4) 小・中学校では子どもの教育が良好に行われている



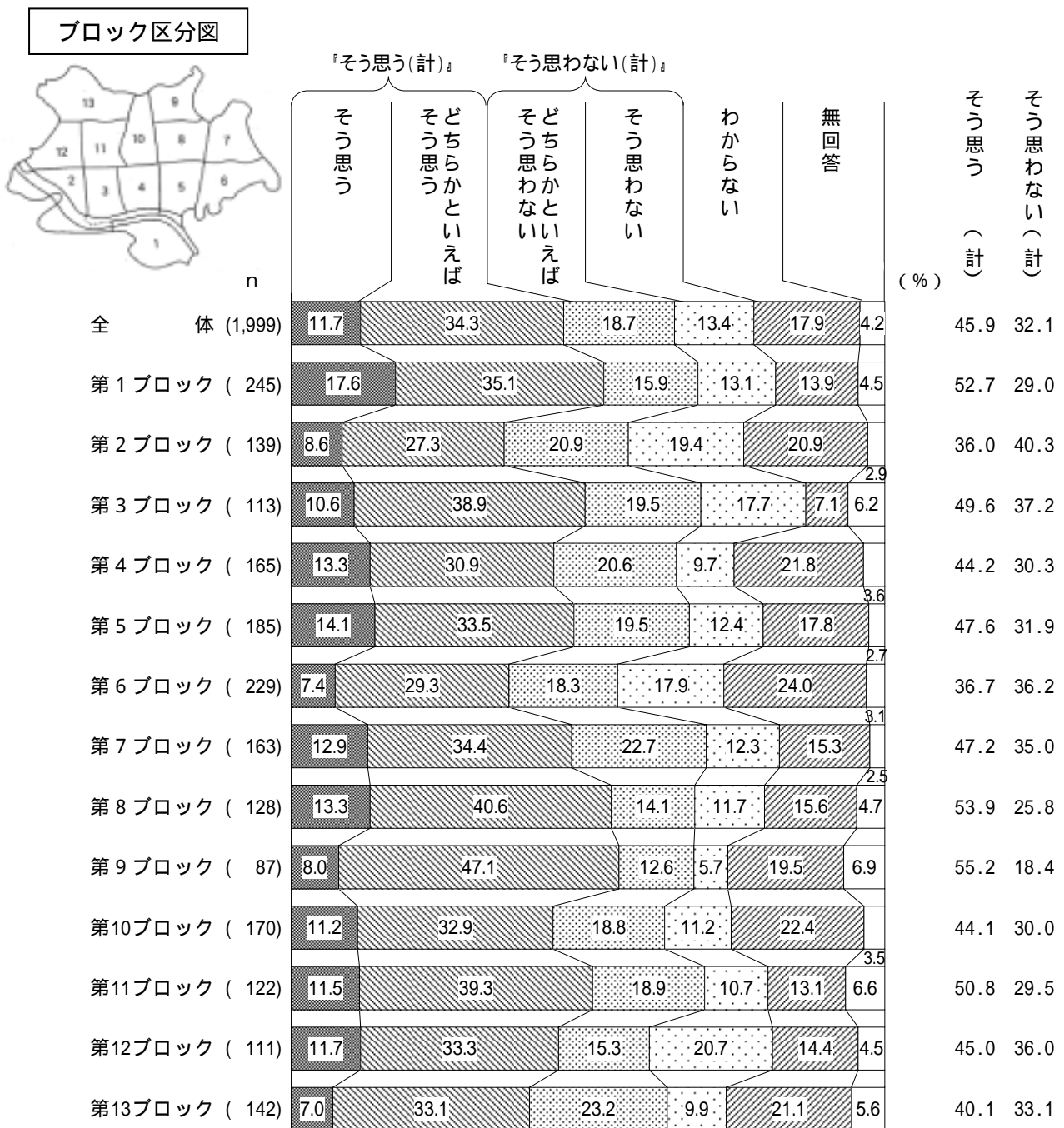
地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第9ブロック(55.2%)で5割半ばで最も高く、次いで第8ブロック(53.9%)と第1ブロック(52.7%)と第11ブロック(50.8%)で5割を超え高くなっている。

一方、「そう思わない」は第12ブロック(20.7%)と第2ブロック(19.4%)で高くなっている。また、『そう思わない(計)』では第2ブロック(40.3%)で4割と高くなっている。

(図1-1-6)

図1-1-6 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(5)

(5) 図書館など地域の施設が使いやすく、充実した時間を過ごすことができる

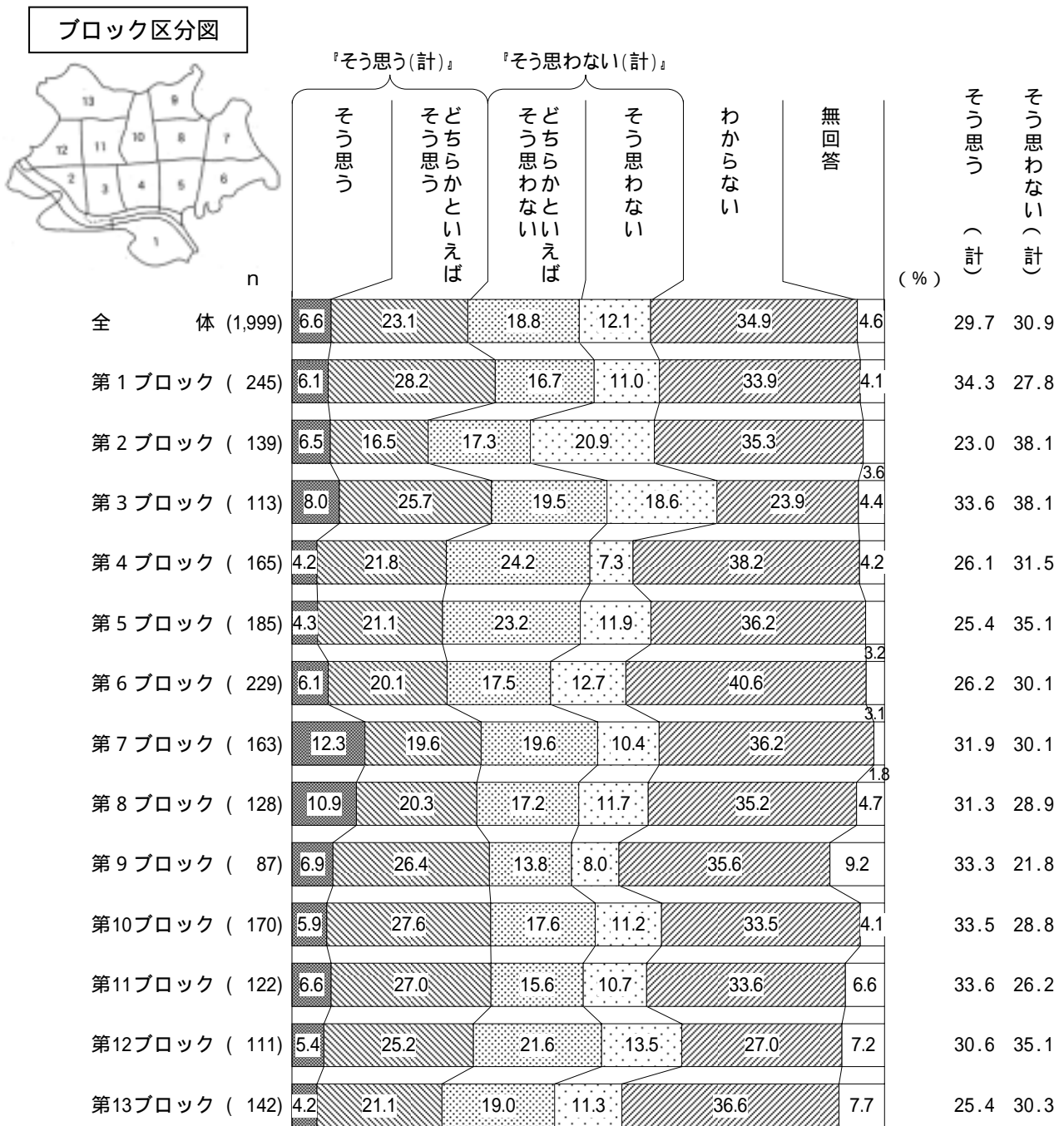


地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第1ブロック(34.3%)で最も高くなっている。一方、「そう思わない」は第2ブロック(20.9%)で最も高くなっている。また、『そう思わない(計)』では第2ブロックと第3ブロック(ともに38.1%)で4割近くと高くなっている。

(図1-1-7)

図1-1-7 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(6)

(6) 高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい

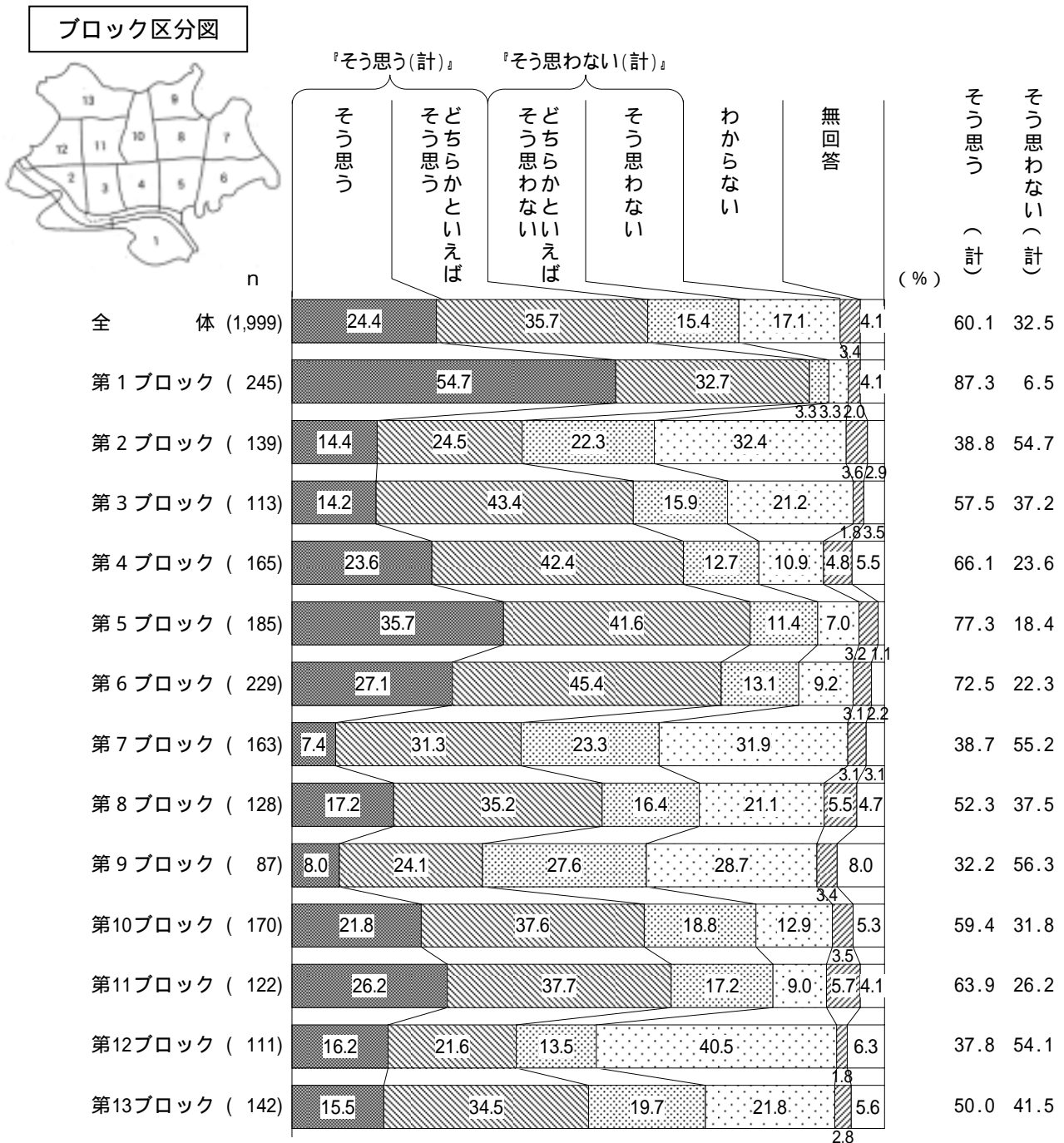


地域ブロック別でみると、「そう思う」は第1ブロック（54.7%）で5割半ばと最も高く、『そう思う（計）』でも第1ブロック（87.3%）で9割近くと最も高くなっている。

一方、「そう思わない」は第12ブロック（40.5%）で最も高くなっている。また、『そう思わない（計）』では第9ブロック（56.3%）と第7ブロック（55.2%）と第2ブロック（54.7%）と第12ブロック（54.1%）で5割半ばと高くなっている。（図1-1-8）

図1-1-8 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別（7）

（7）通勤や通学などの交通の便がよい

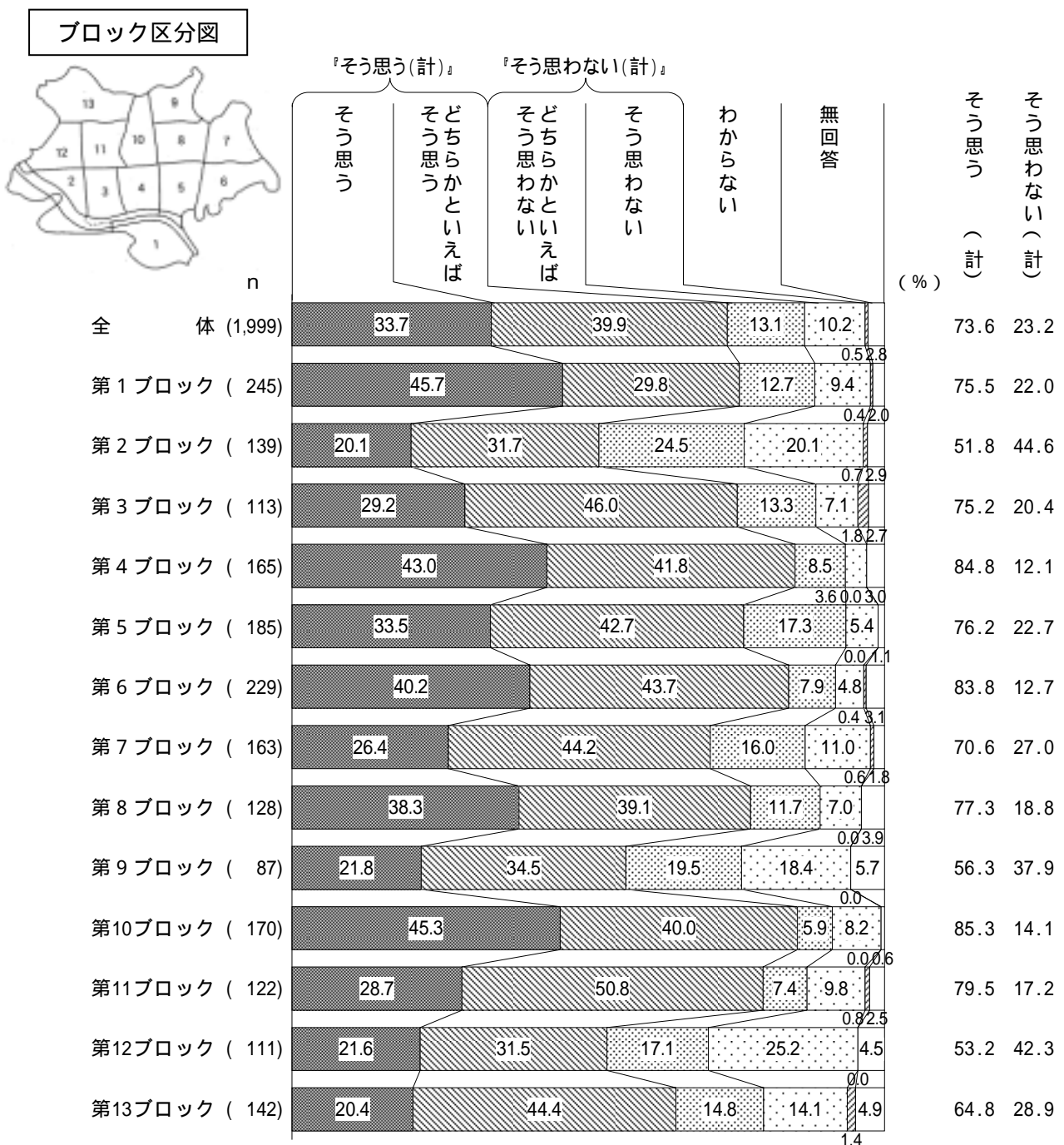


地域ブロック別でみると、「そう思う」は第1ブロック(45.7%)と第10ブロック(45.3%)で4割半ばと高くなっている。また、『そう思う(計)』では第10ブロック(85.3%)と第4ブロック(84.8%)で8割半ばと高くなっている。

一方、「そう思わない」は第12ブロック(25.2%)と第2ブロック(20.1%)で2割を超え高くなっている。また、『そう思わない(計)』では第2ブロック(44.6%)で4割半ば、第12ブロック(42.3%)で4割を超え高くなっている。(図1-1-9)

図1-1-9 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(8)

(8) 普段の買い物が便利である

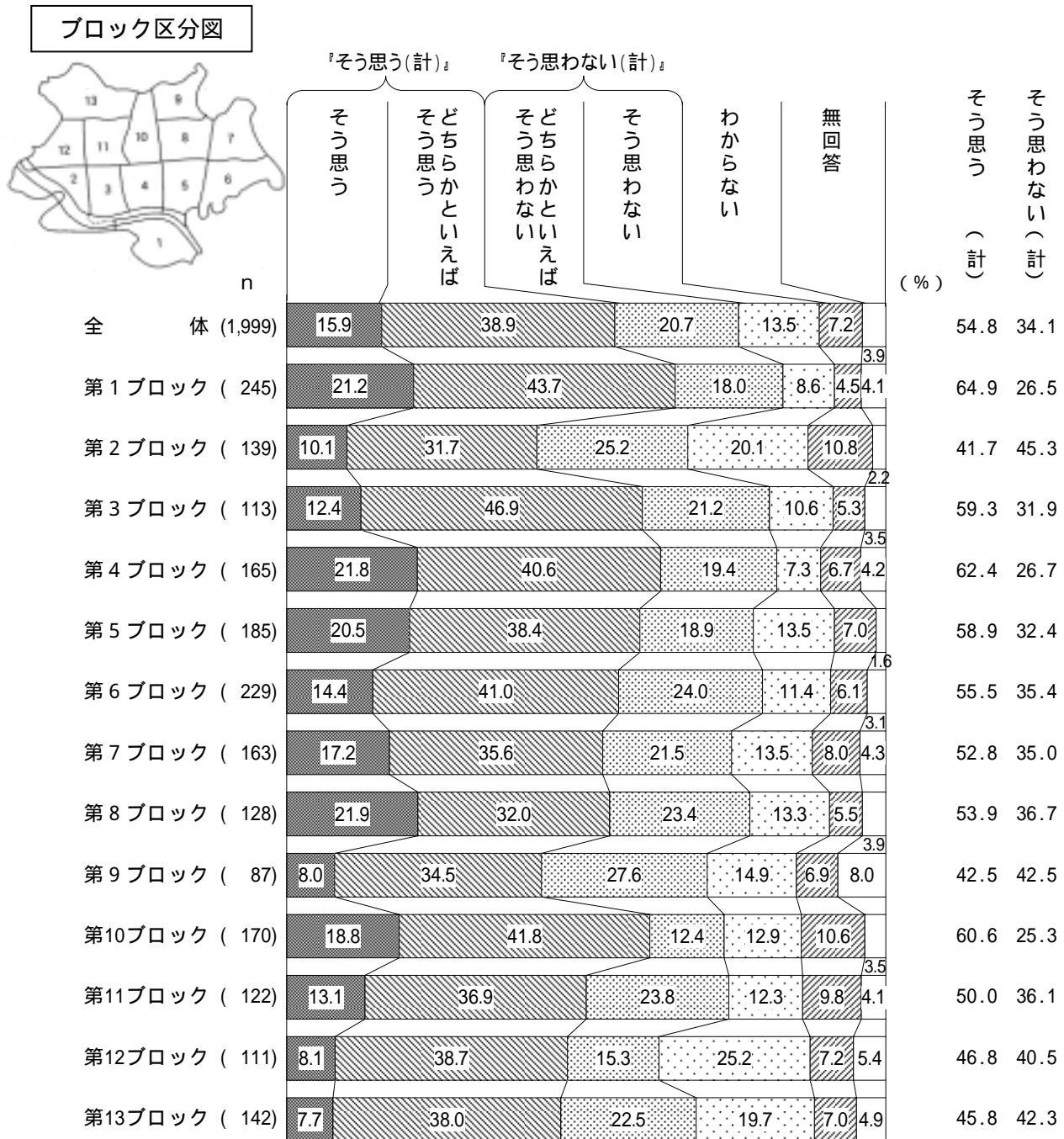


地域ブロック別でみると、「そう思う」は第8ブロック（21.9%）と第4ブロック（21.8%）と第1ブロック（21.2%）と第5ブロック（20.5%）で2割を超え高くなっている。また、『そう思う（計）』では第1ブロック（64.9%）で6割半ば、第4ブロック（62.4%）と第10ブロック（60.6%）で6割を超え高くなっている。

一方、「そう思わない」は第12ブロック（25.2%）で2割半ばと高くなっている。また、『そう思わない（計）』では第2ブロック（45.3%）で4割半ば、第9ブロック（42.5%）と第13ブロック（42.3%）と第12ブロック（40.5%）で4割を超え高くなっている。（図1-1-10）

図1-1-10 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別（9）

（9）物価が安い

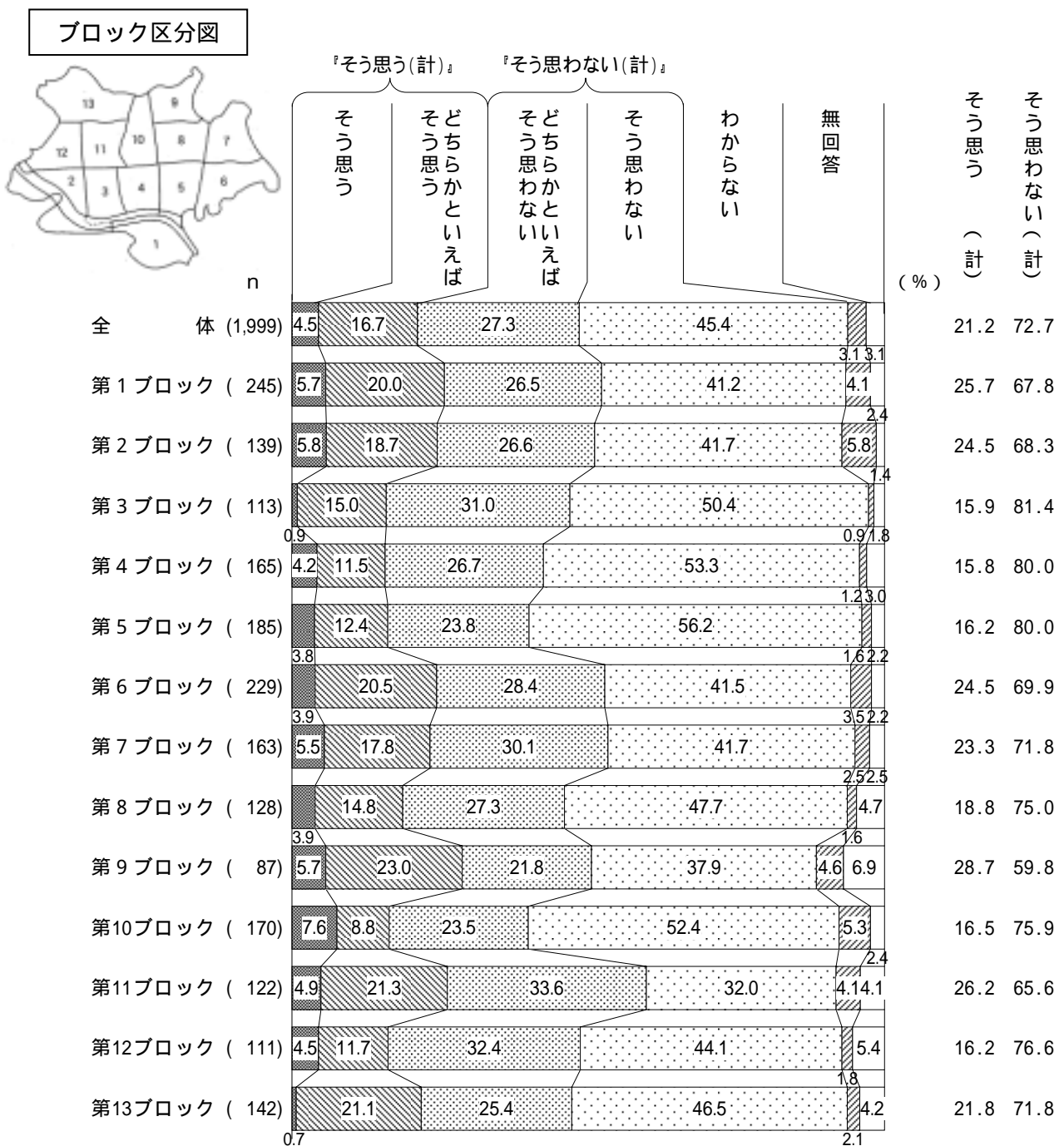


地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第9ブロック(28.7%)で3割近くと最も高くなっている。

一方、「そう思わない」は第5ブロック(56.2%)で5割半ば、第4ブロック(53.3%)と第10ブロック(52.4%)と第3ブロック(50.4%)で5割を超え高くなっている。また、『そう思わない(計)』では第3ブロック(81.4%)で8割を超え、第4ブロックと第5ブロック(ともに80.0%)で8割と高くなっている。(図1-1-11)

図1-1-11 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(10)

(10) 自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている



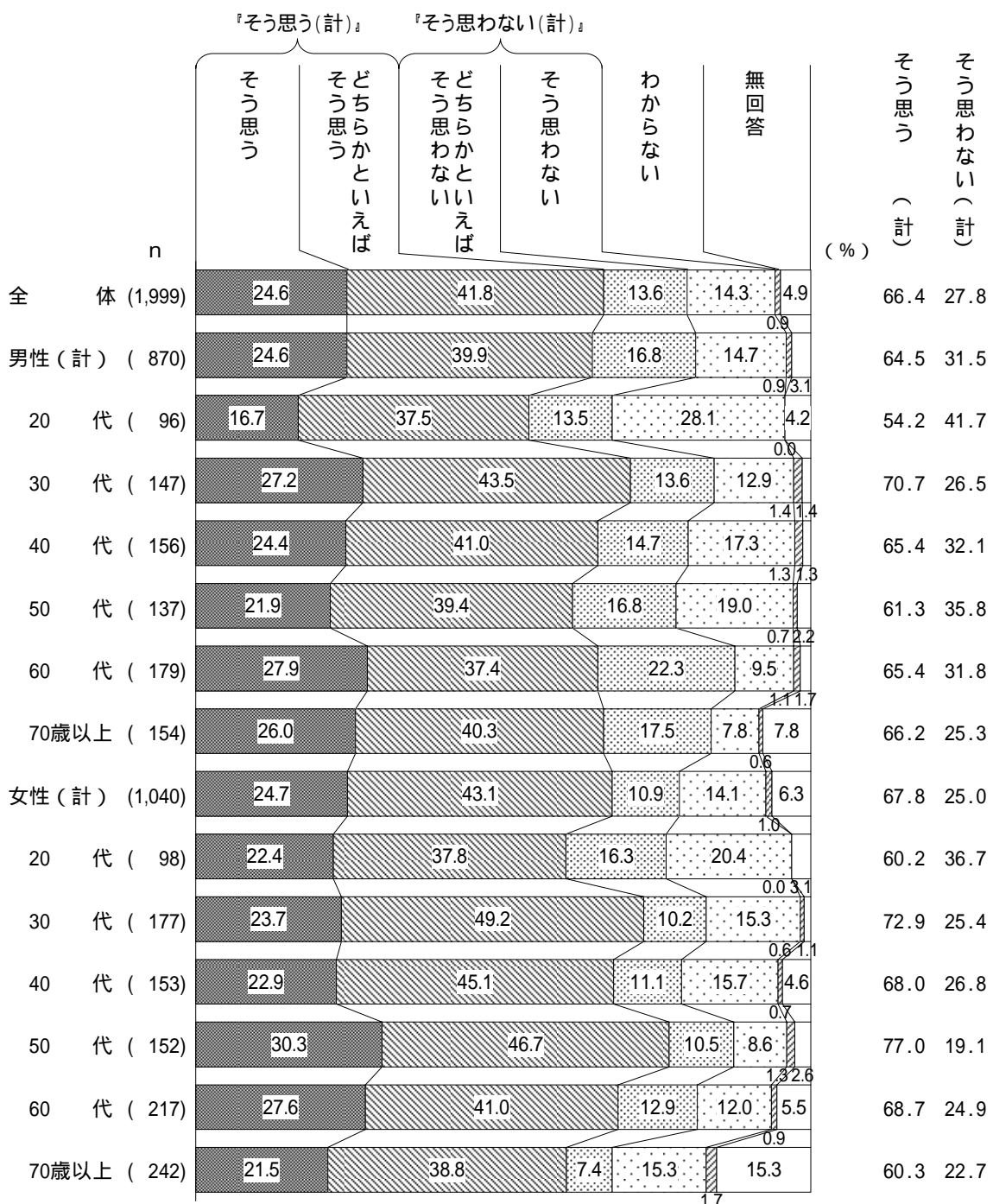
性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(31.5%)が女性(25.0%)より6.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は女性50代(77.0%)で8割近くと最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性20代(41.7%)で4割を超え高くなっている。

(図1-1-12)

図1-1-12 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(1)

(1) 街路樹や家々の植栽、公園などの緑が多い



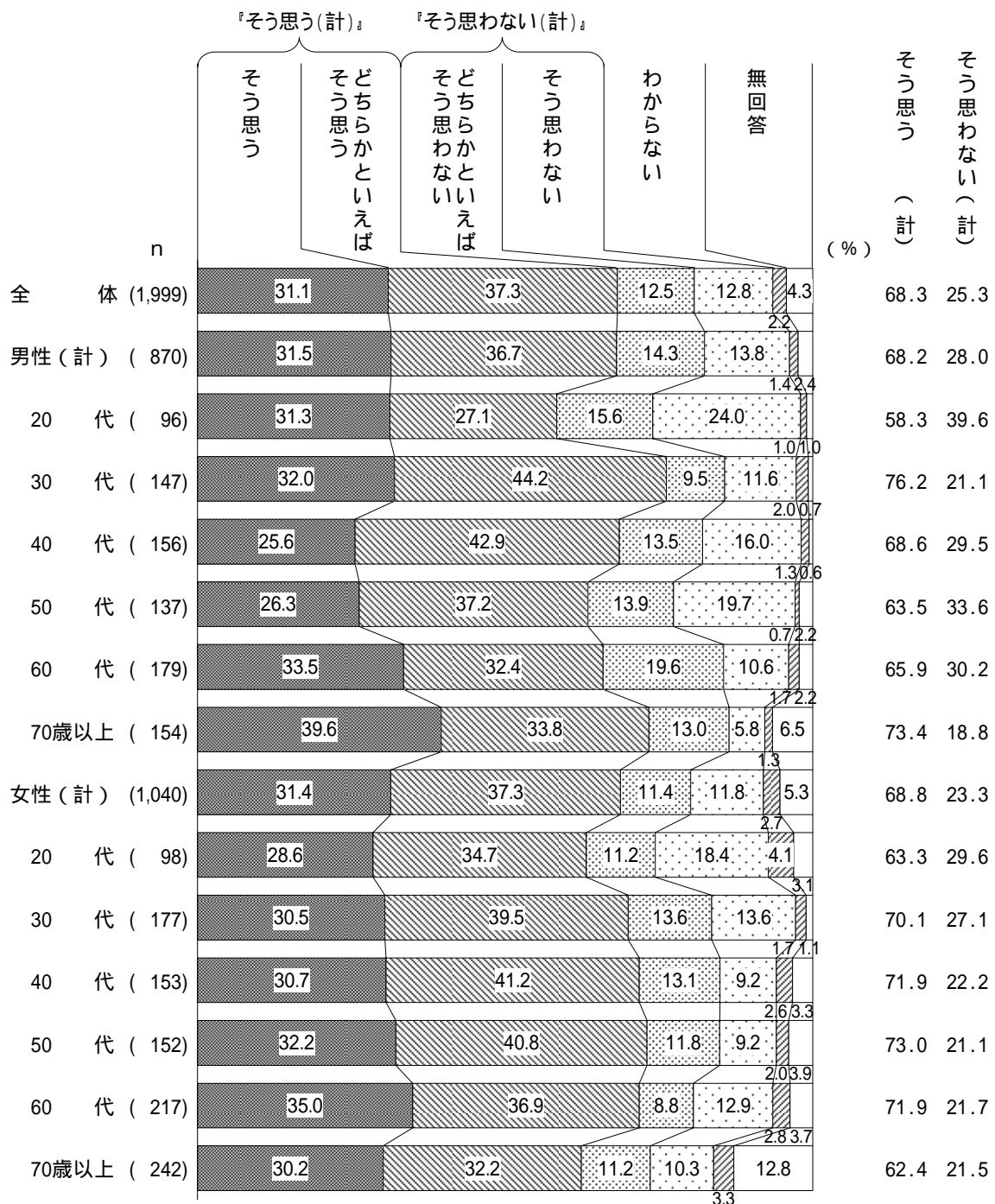
性別でみると、男性で『そう思わない(計)』(28.0%)が女性(23.3%)より4.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『そう思う(計)』は男性30代(76.2%)で7割半ばと最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性20代(39.6%)でほぼ4割と高くなっている。

(図1-1-13)

図1-1-13 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(2)

(2) 誰もが利用しやすい公園がある



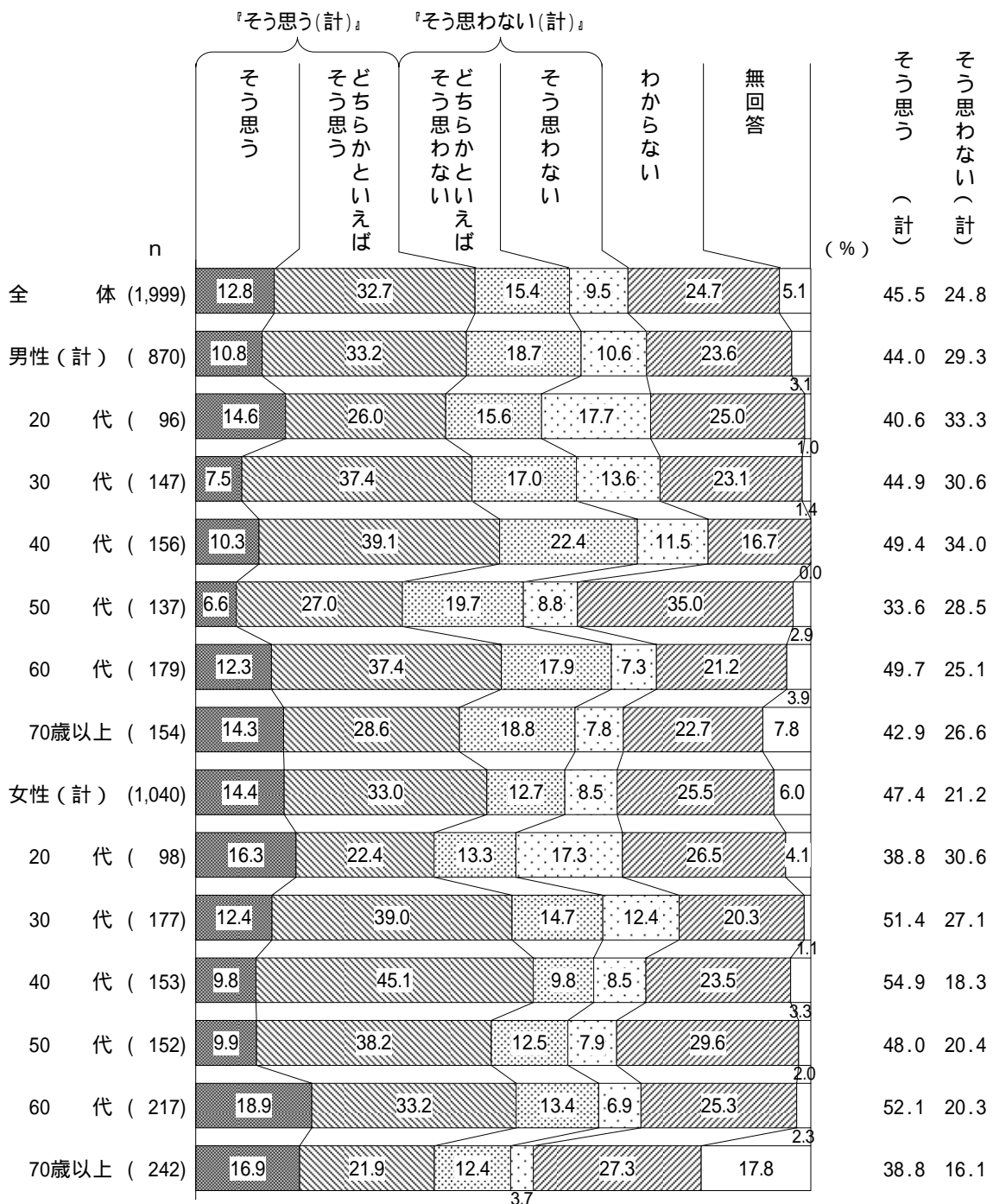
性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(29.3%)が女性(21.2%)より8.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は女性40代(54.9%)で5割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性40代(34.0%)で3割半ばと高くなっている。

(図1-1-14)

図1-1-14 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(3)

(3) 子育て環境(保育所、学童クラブなど)が整っている

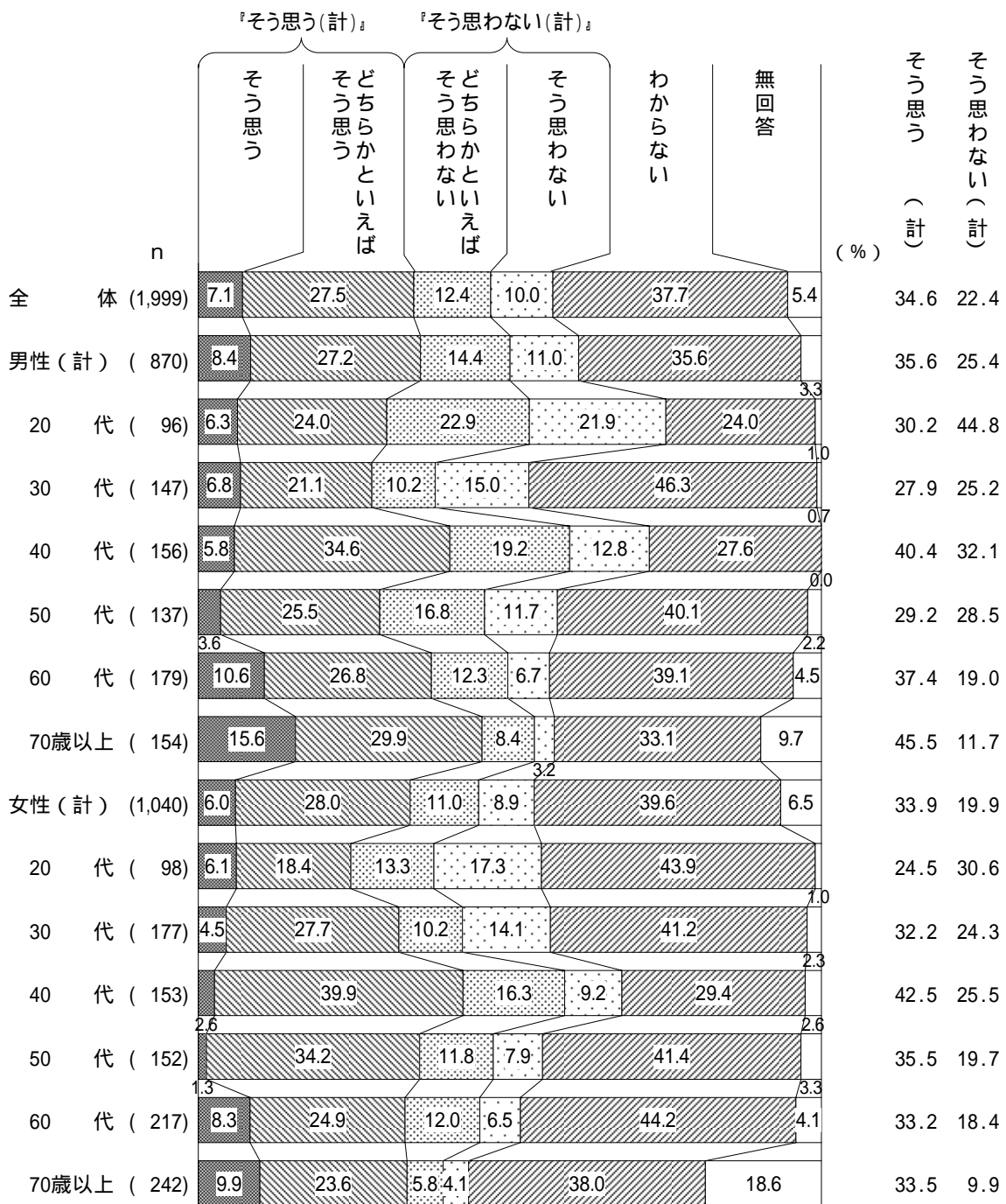


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(25.4%)が女性(19.9%)より5.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性70歳以上(45.5%)で4割半ばと最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性20代(44.8%)で4割半ばと高くなっている。(図1-1-15)

図1-1-15 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(4)

(4) 小・中学校では子どもの教育が良好に行われている

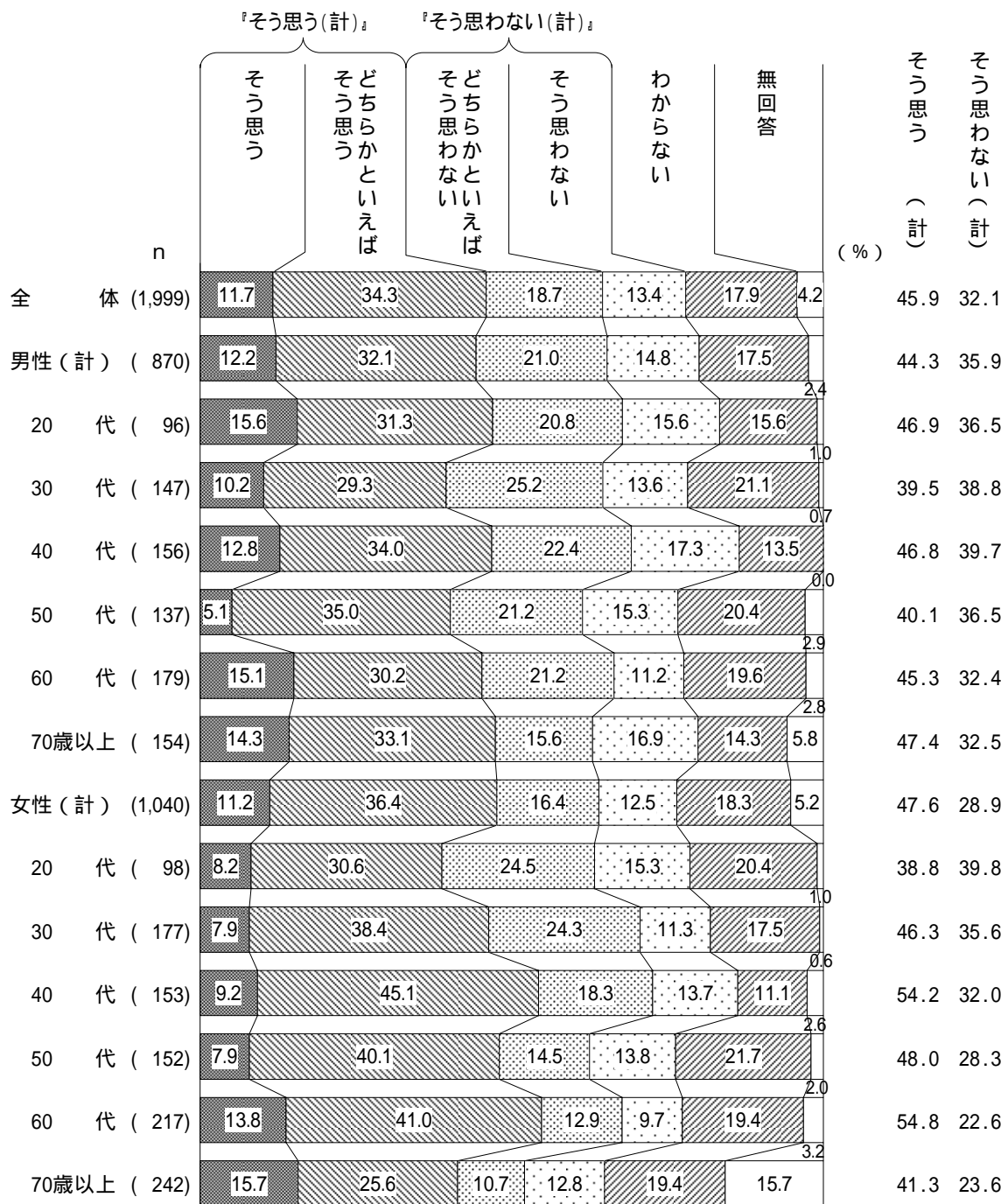


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(35.9%)が女性(28.9%)より7.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は女性60代(54.8%)、40代(54.2%)で5割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は女性20代(39.8%)と男性40代(39.7%)でほぼ4割と高くなっている。(図1-1-16)

図1-1-16 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(5)

(5) 図書館など地域の施設が使いやすく、充実した時間を過ごすことができる



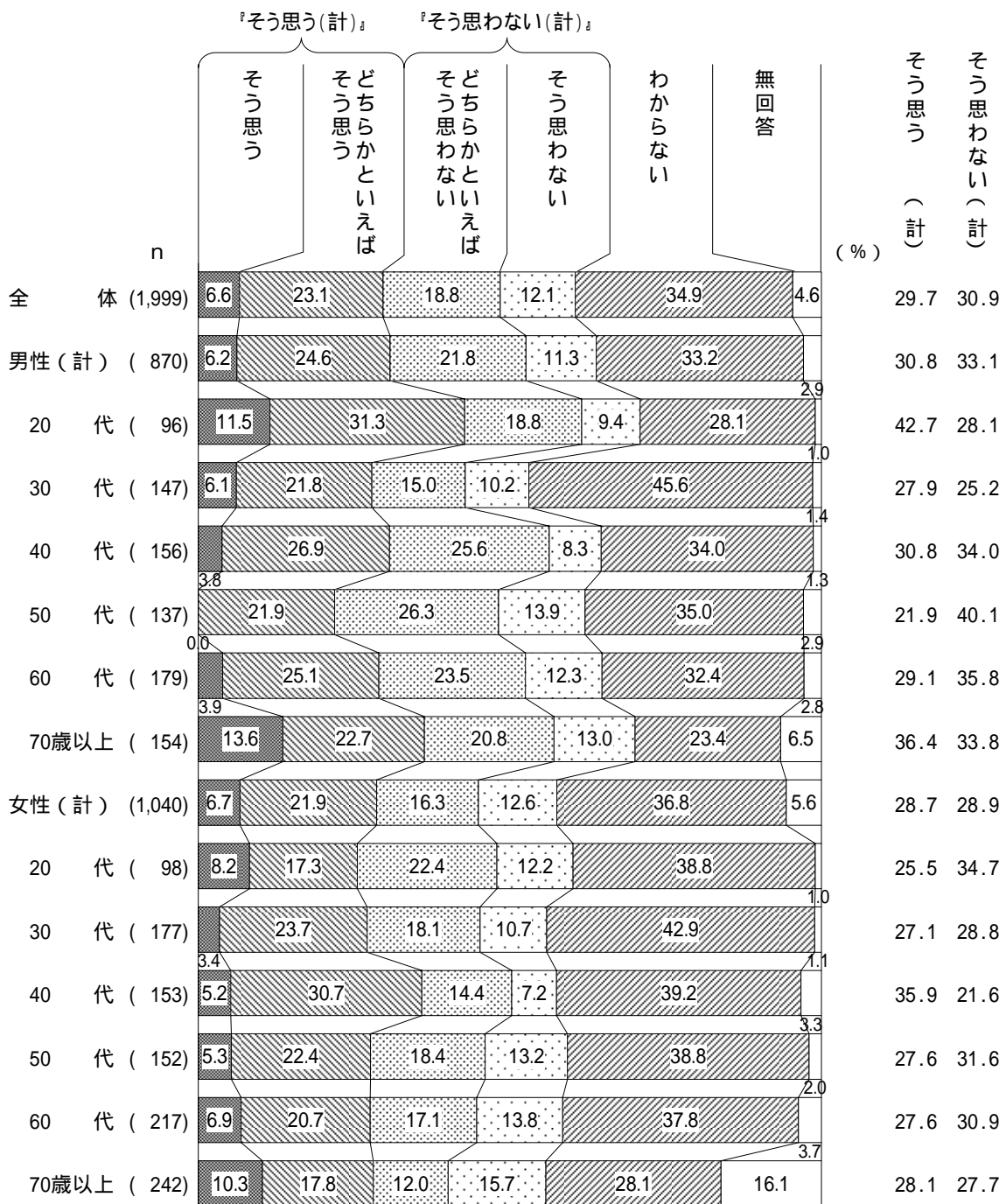
性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(33.1%)が女性(28.9%)より4.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性20代(42.7%)で4割を超え最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性50代(40.1%)で4割と高くなっている。

(図1-1-17)

図1-1-17 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(6)

(6) 高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい

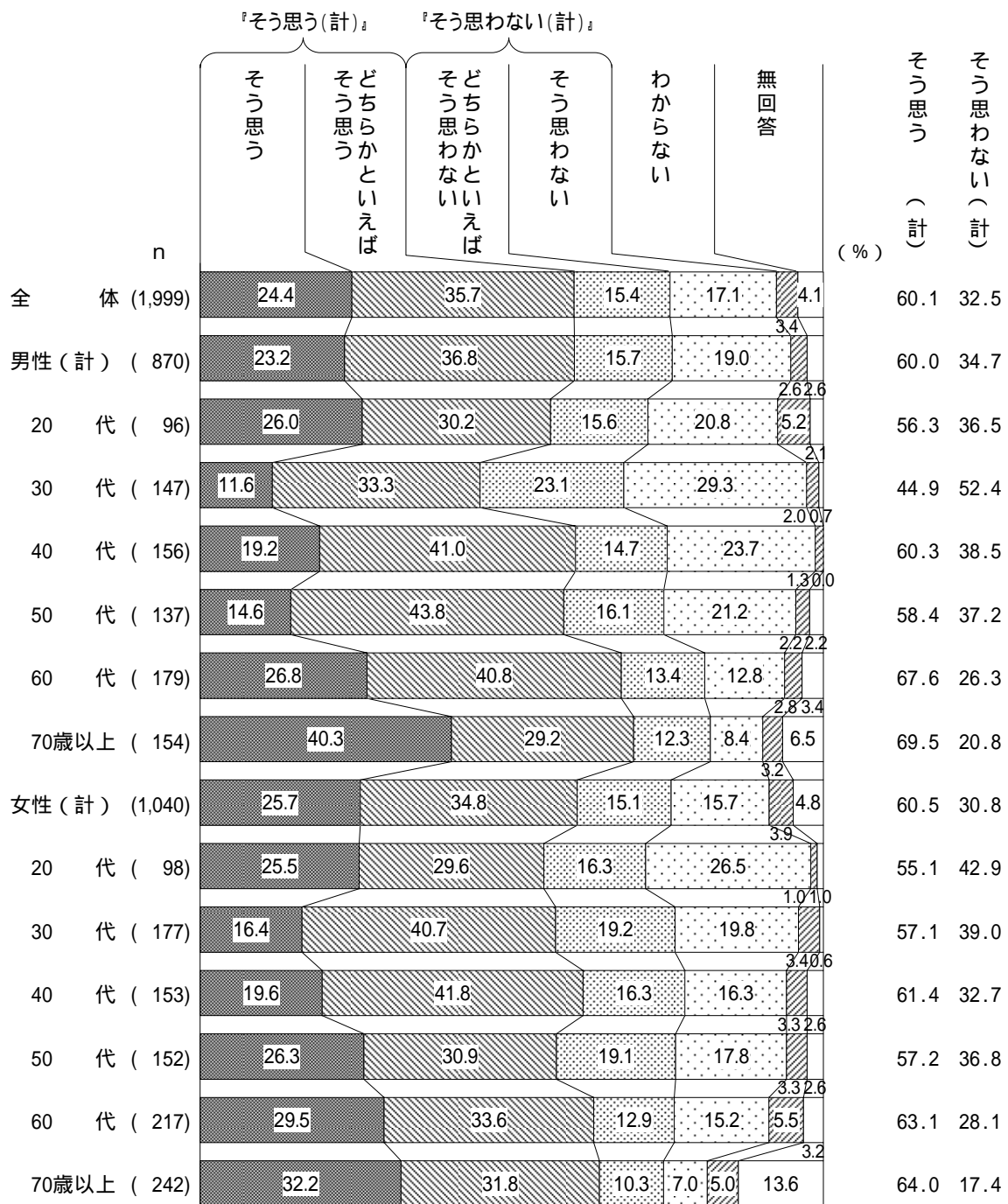


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(34.7%)が女性(30.8%)より3.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性70歳以上(69.5%)でほぼ7割と最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性30代(52.4%)で5割を超え最も高くなっている。(図1-1-18)

図1-1-18 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(7)

(7) 通勤や通学などの交通の便がよい

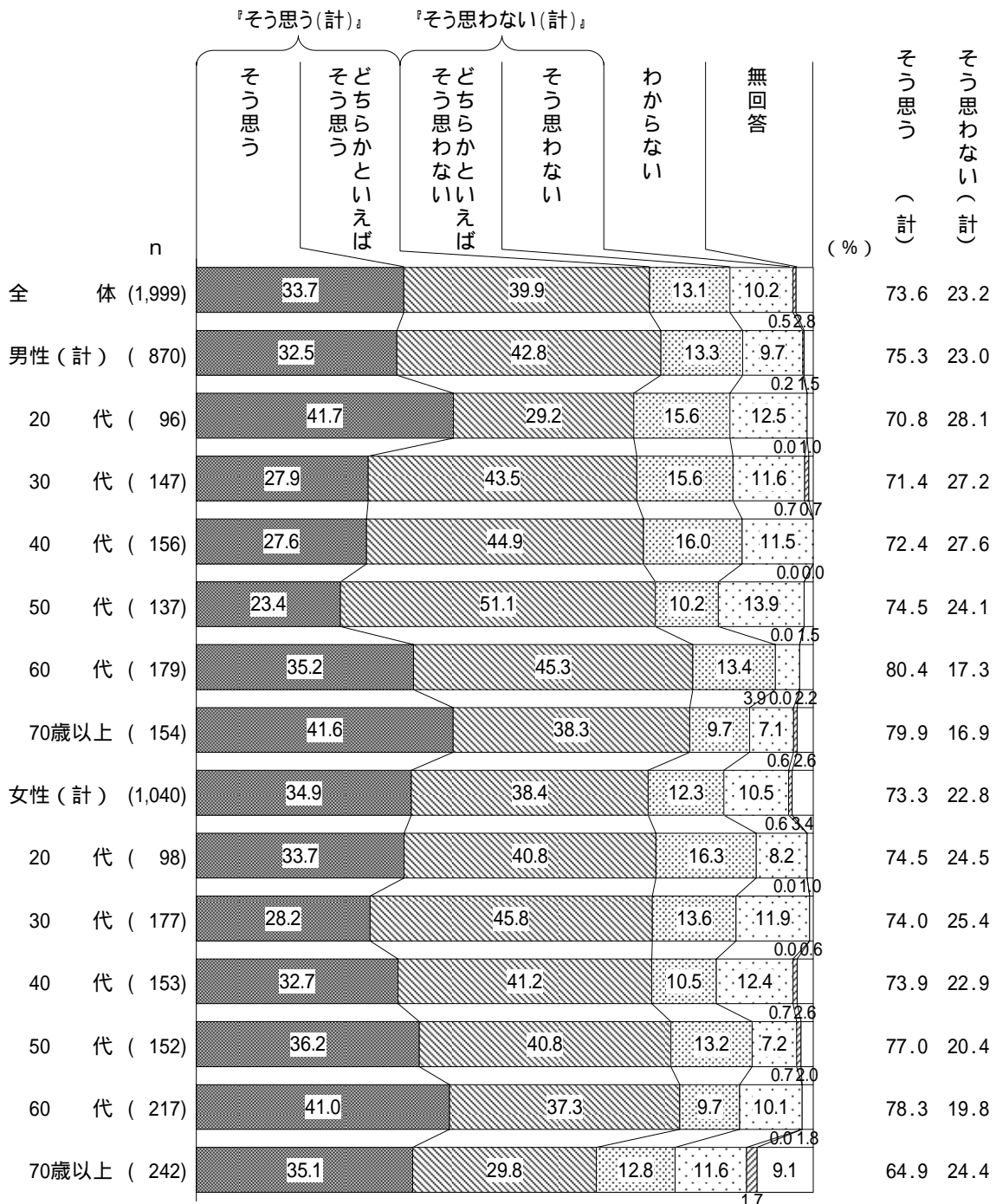


性別で見ると、男女とも『そう思う(計)』は7割を超え、ほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性60代(80.4%)で8割と最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性20代(28.1%)、40代(27.6%)、30代(27.2%)の順で高くなっている。(図1-1-19)

図1-1-19 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(8)

(8) 普段の買い物が便利である

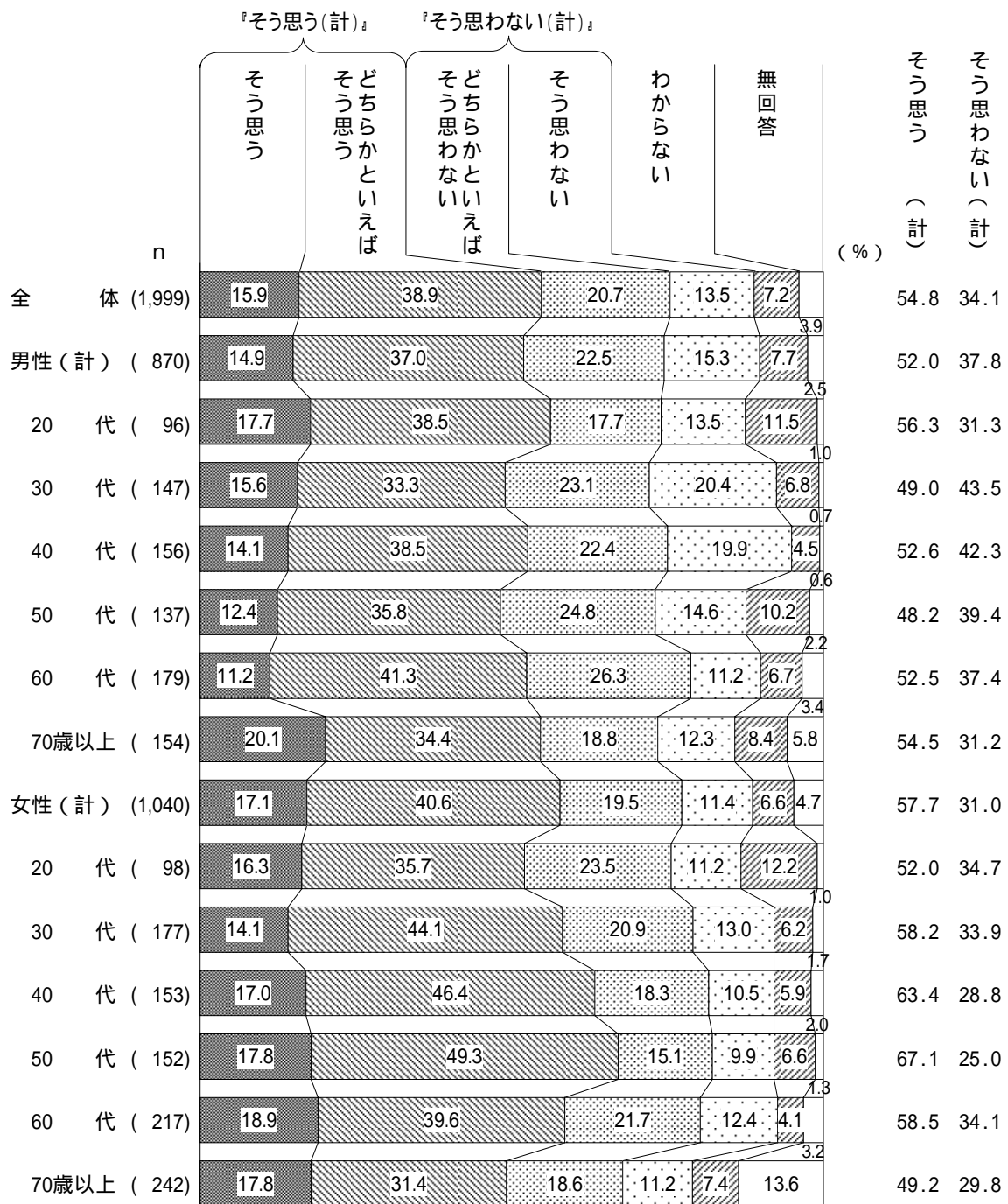


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(37.8%)が女性(31.0%)より6.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は女性50代(67.1%)で7割近く、女性40代(63.4%)で6割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性30代(43.5%)、40代(42.3%)で4割を超え高くなっている。(図1-1-20)

図1-1-20 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(9)

(9) 物価が安い

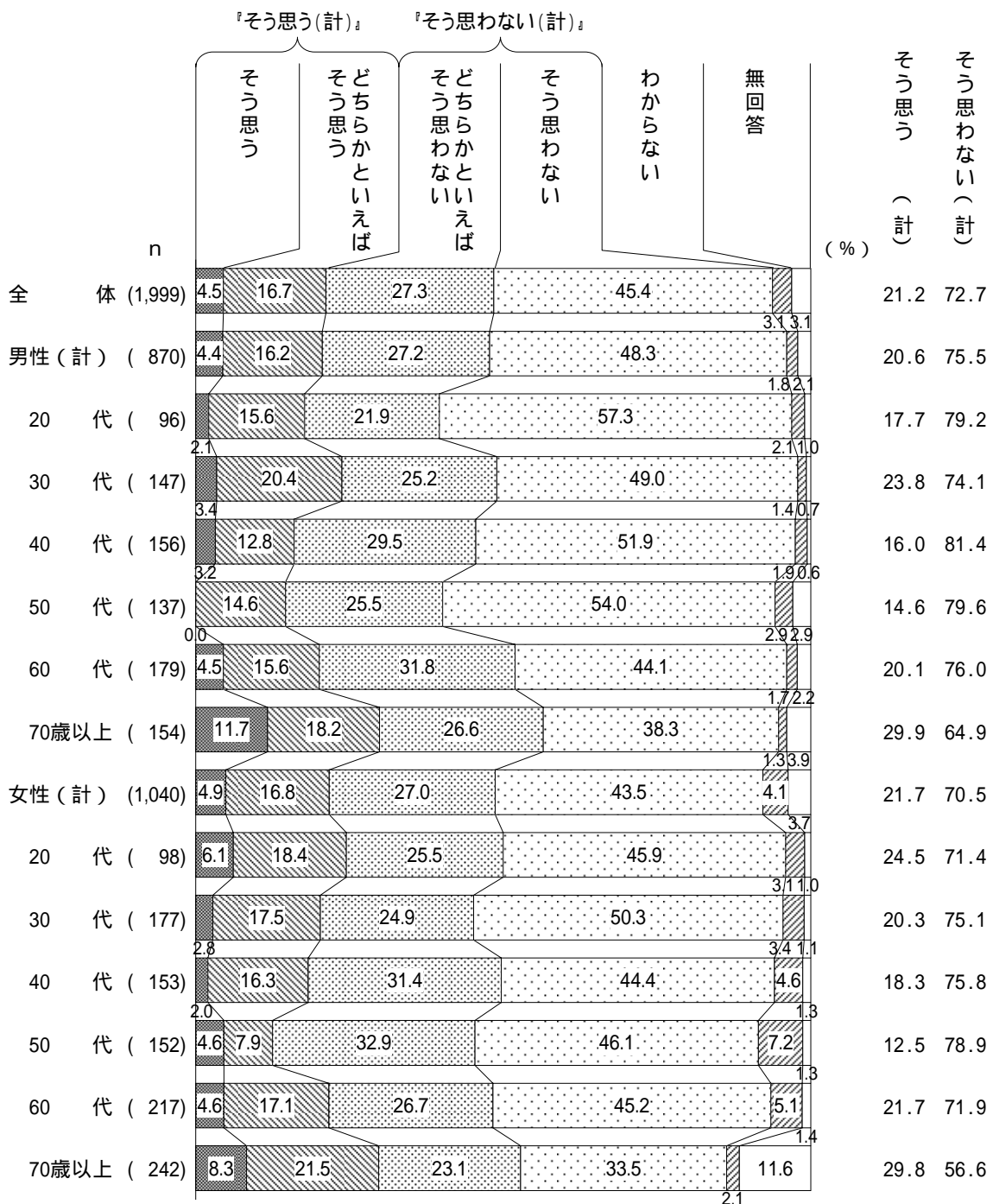


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(75.5%)が女性(70.5%)より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男女とも70歳以上(男性29.9%・女性29.8%)でほぼ3割と高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性40代(81.4%)で8割を超え高くなっている。(図1-1-21)

図1-1-21 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(10)

(10) 自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている

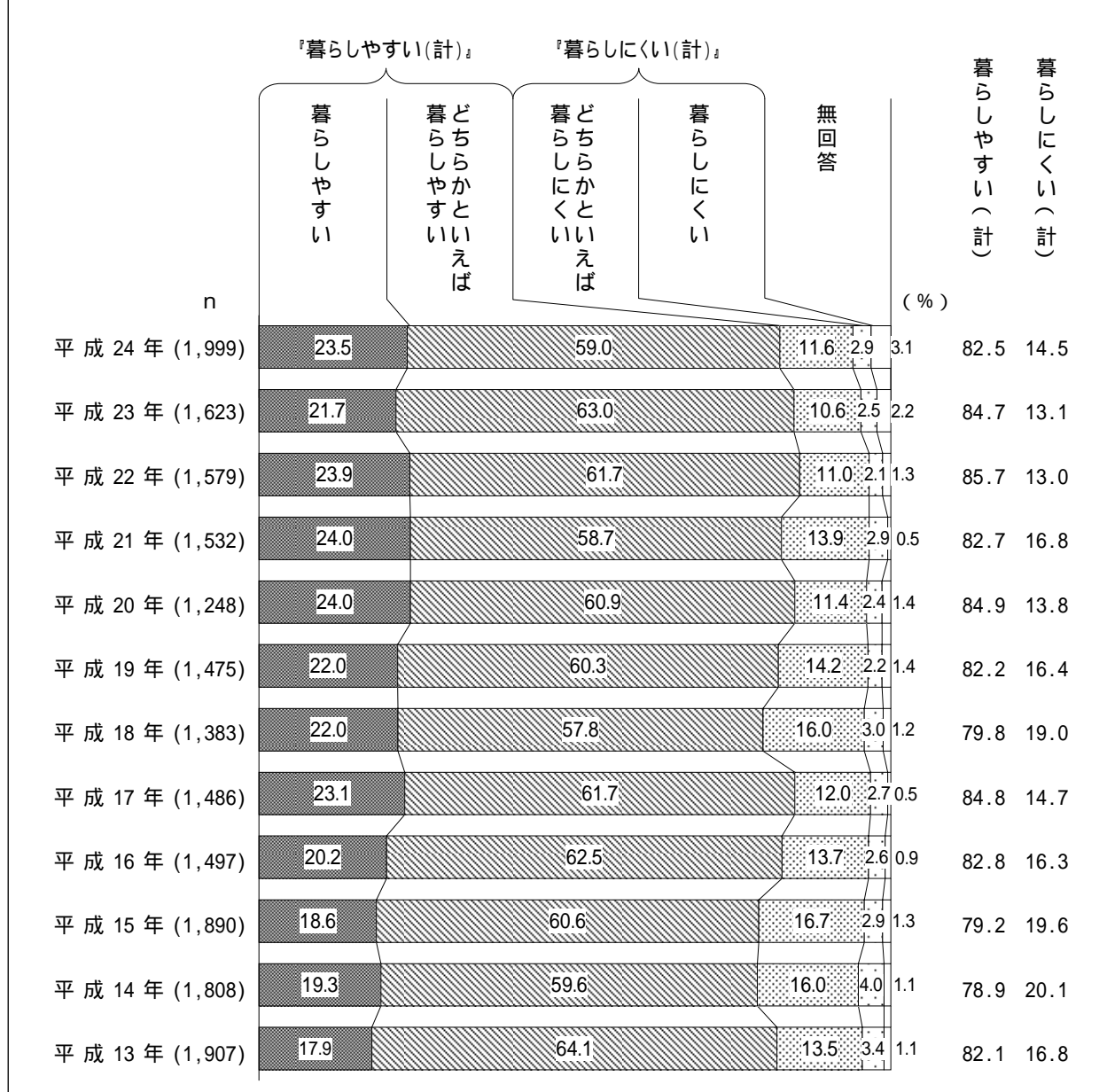


(2) 総合的な暮らしやすさ

『暮らしやすい』と感じている人が8割を超える

問2 【(1) お住まいの地域についての感じ方】を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。(は1つだけ)

図1-2-1 総合的な暮らしやすさ - 過年度比較



住まいの地域について、暮らしやすいと感じているか聞いたところ、「暮らしやすい」(23.5%) が2割を超え、これに「どちらかといえば暮らしやすい」(59.0%)を合わせた『暮らしやすい(計)』(82.5%)は8割を超えている。

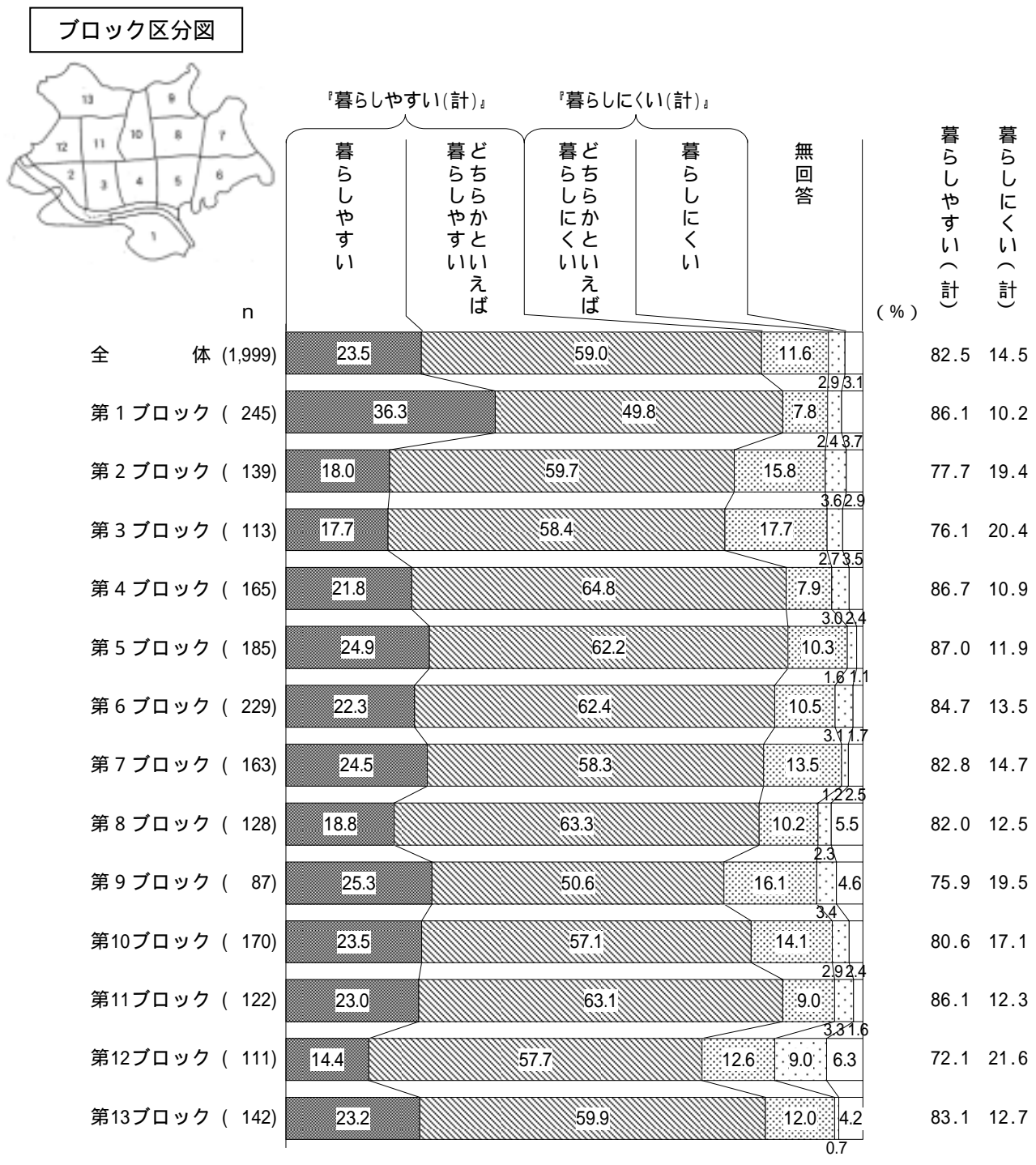
一方、「暮らしにくい」(2.9%)と「どちらかといえば暮らしにくい」(11.6%)を合わせた『暮らしにくい(計)』(14.5%)が1割半ばとなっている。

過去の調査と比較すると、『暮らしやすい(計)』は、ここ数年8割を超える傾向が見られる。

(図1-2-1)

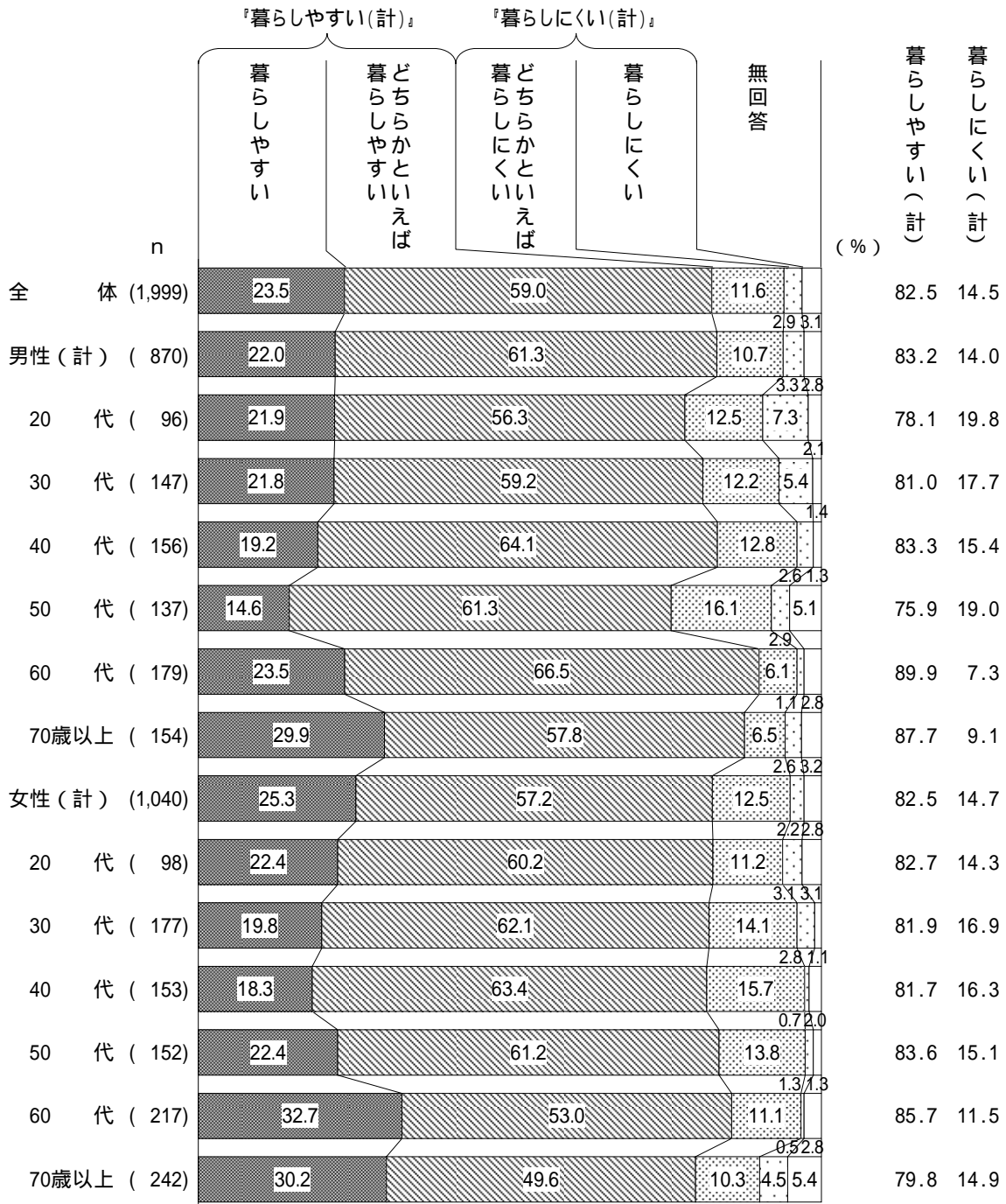
地域ブロック別でみると、「暮らしやすい」は第1ブロック（36.3%）で3割半ばと最も高くなっている。一方、『暮らしにくい（計）』は第12ブロック（21.6%）と第3ブロック（20.4%）で2割を超え高くなっている。（図1-2-2）

図1-2-2 総合的な暮らしやすさ - 地域ブロック別



性別で見ると、男女とも『暮らしやすい(計)』は8割を超え、ほぼ同じ傾向になっている。
 性・年代別で見ると、『暮らしやすい(計)』は男性60代(89.9%)でほぼ9割と最も高くなっている。一方、『暮らしにくい(計)』は男性20代(19.8%)、男性50代(19.0%)でほぼ2割と高くなっている。(図1-2-3)

図1-2-3 総合的な暮らしやすさ - 性別、性・年代別



居住年数別でみると、『暮らしやすい(計)』は10~20年未満(85.1%)と1年未満(84.1%)で8割半ばと高くなっている。一方、『暮らしにくい(計)』は1~5年未満(22.2%)で2割を超え高くなっている。(図1-2-4)

就労(就学)場所別でみると、『暮らしやすい(計)』は就労(就学)場所に関わらず8割以上を占めている。(図1-2-5)

図1-2-4 総合的な暮らしやすさ - 居住年数別

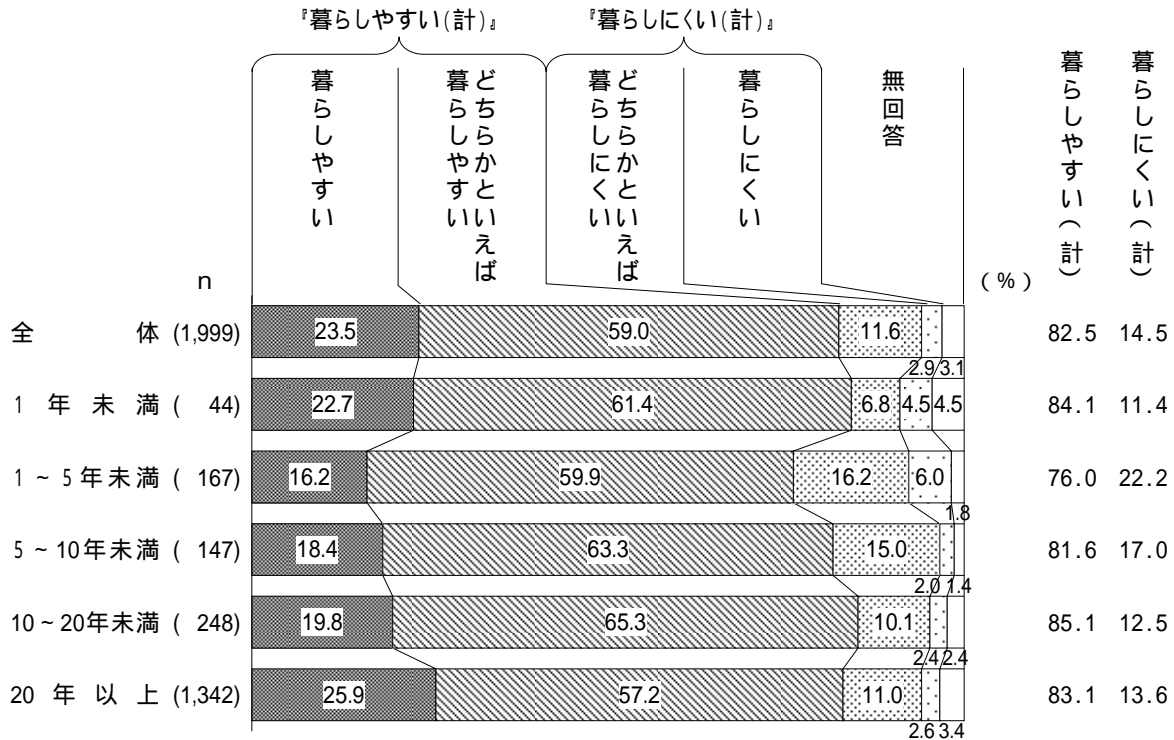
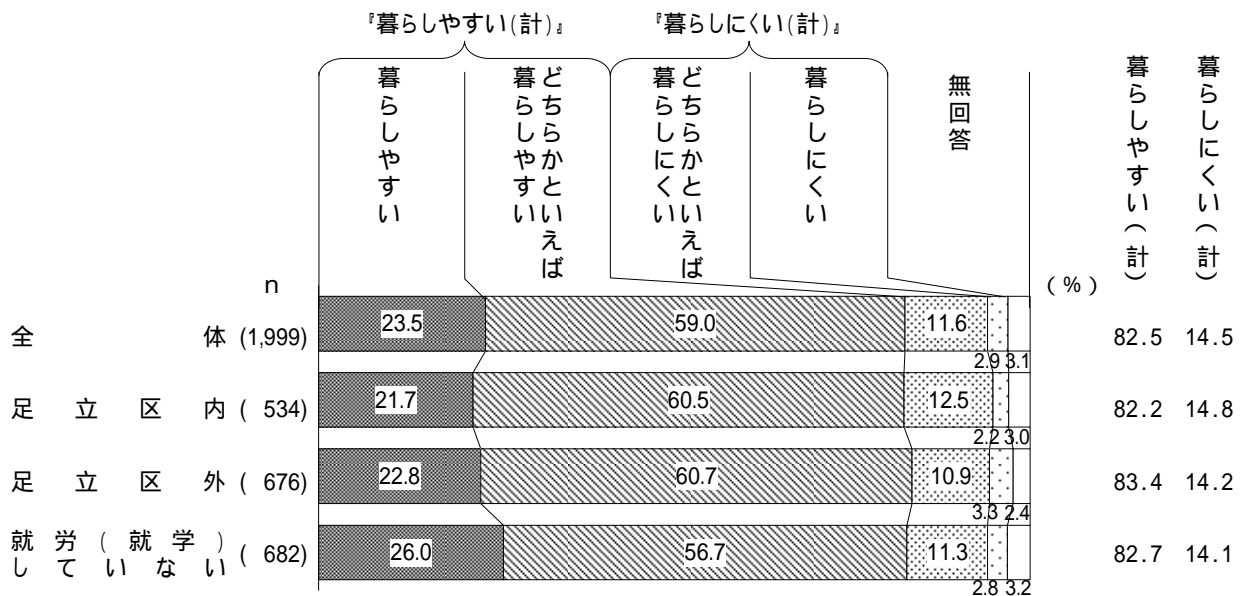
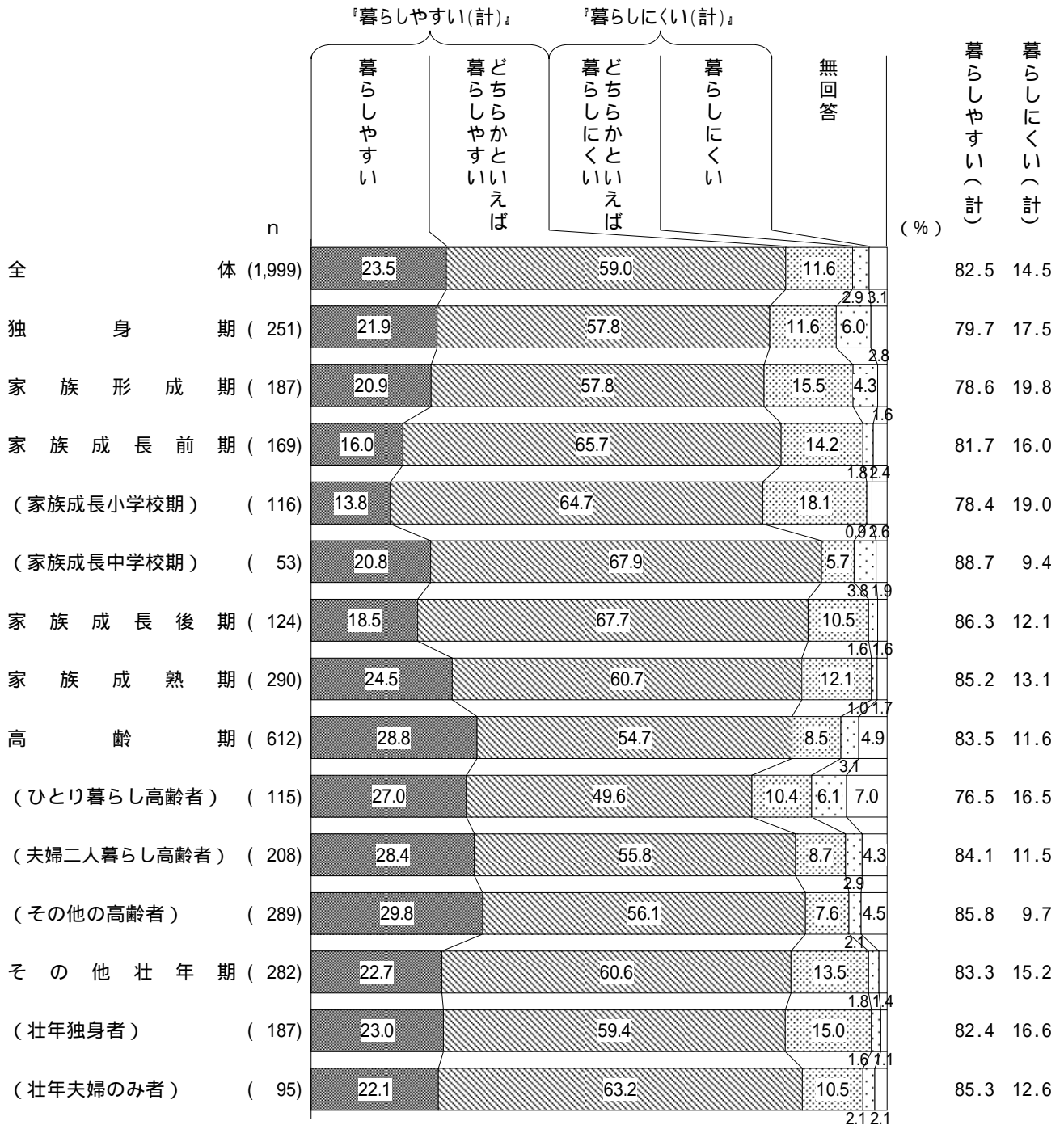


図1-2-5 総合的な暮らしやすさ - 就労(就学)場所別



ライフステージ別でみると、「暮らしやすい」は高齢期（28.8%）で3割近くと最も高くなっている。また、『暮らしやすい(計)』はいずれのライフステージでも7割半ば以上を占めており、家族成長中学校期（88.7%）では9割近くと高くなっている。（図1-2-6）

図1-2-6 総合的な暮らしやすさ - ライフステージ別



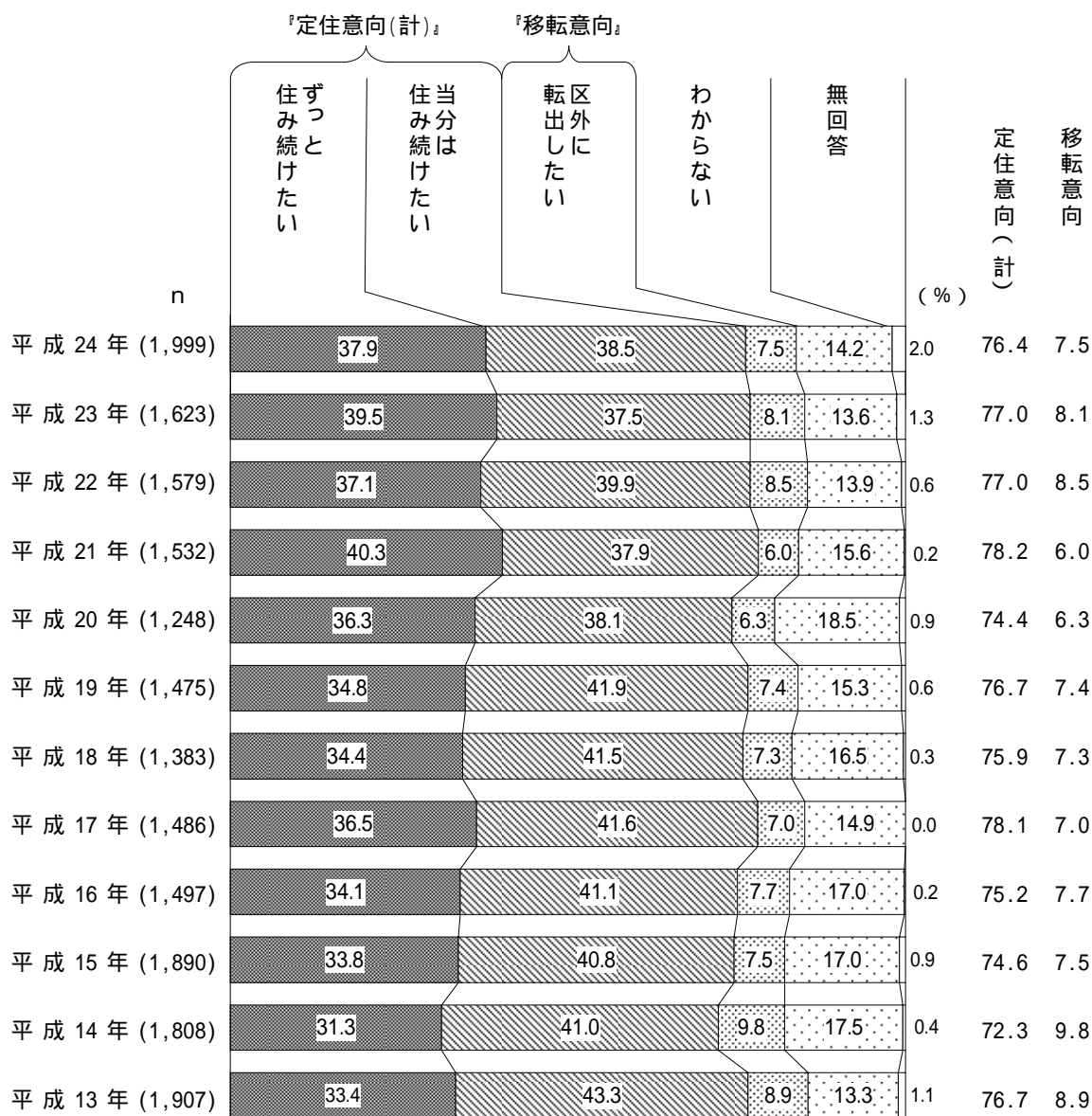
(3) 定住・移転意向

7割半ばの人が『定住意向』をもっている

問3 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。(は1つだけ)

図1-3-1 定住・移転意向 - 過年度比較

(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)



足立区に今後も住み続けたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(37.9%)が4割近くで、これに「当分は住み続けたい」(38.5%)を合わせた『定住意向(計)』(76.4%)が7割半ばとなっている。一方、「区外に転出したい」(7.5%)は1割未満となっている。

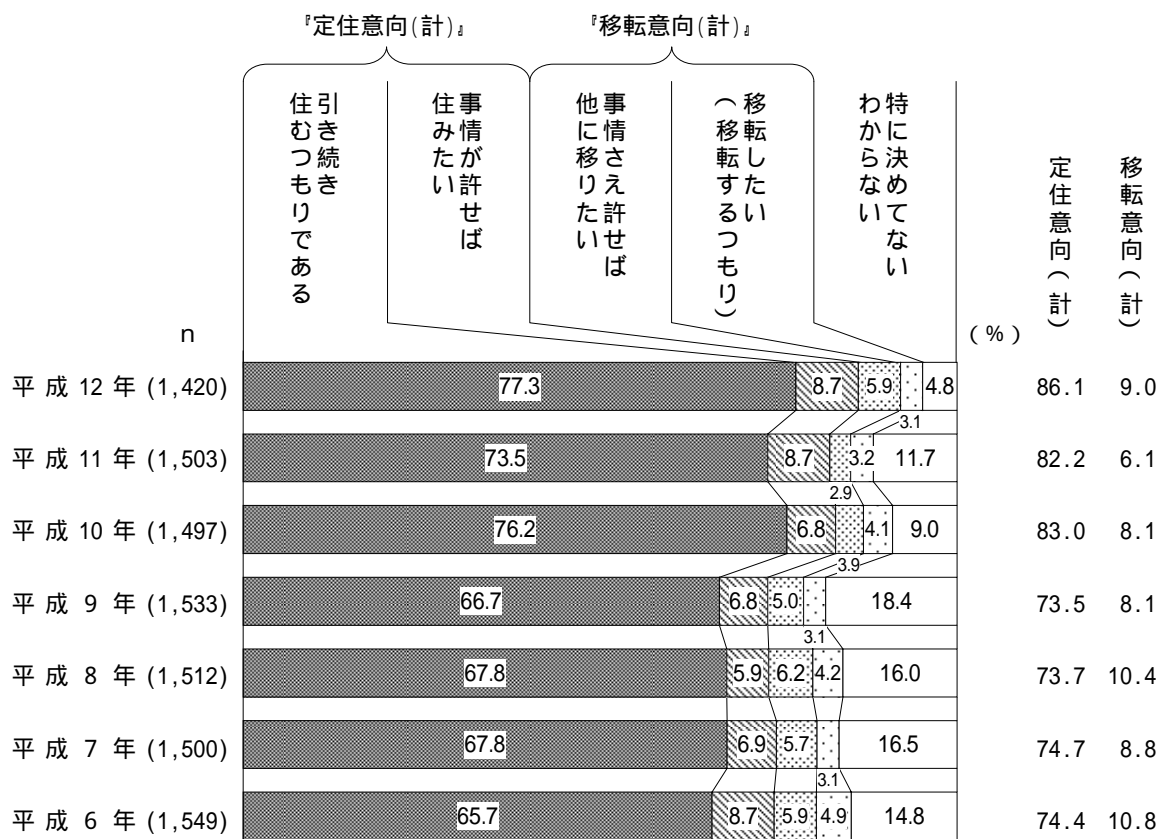
23年調査と比較すると、『移転意向』は0.6ポイント減っている。『定住意向(計)』はここ数年、毎年75%を超え、高い割合を占めている。(図1-3-1)

<参考> 定住・移転意向の推移

問 あなたは、足立区に今後も住みたいと思いますか。この中から1つにお答えください。(は1つ)

図1-3-2 定住・移転意向 - 経年変化

(平成12年まで 訪問面接法)

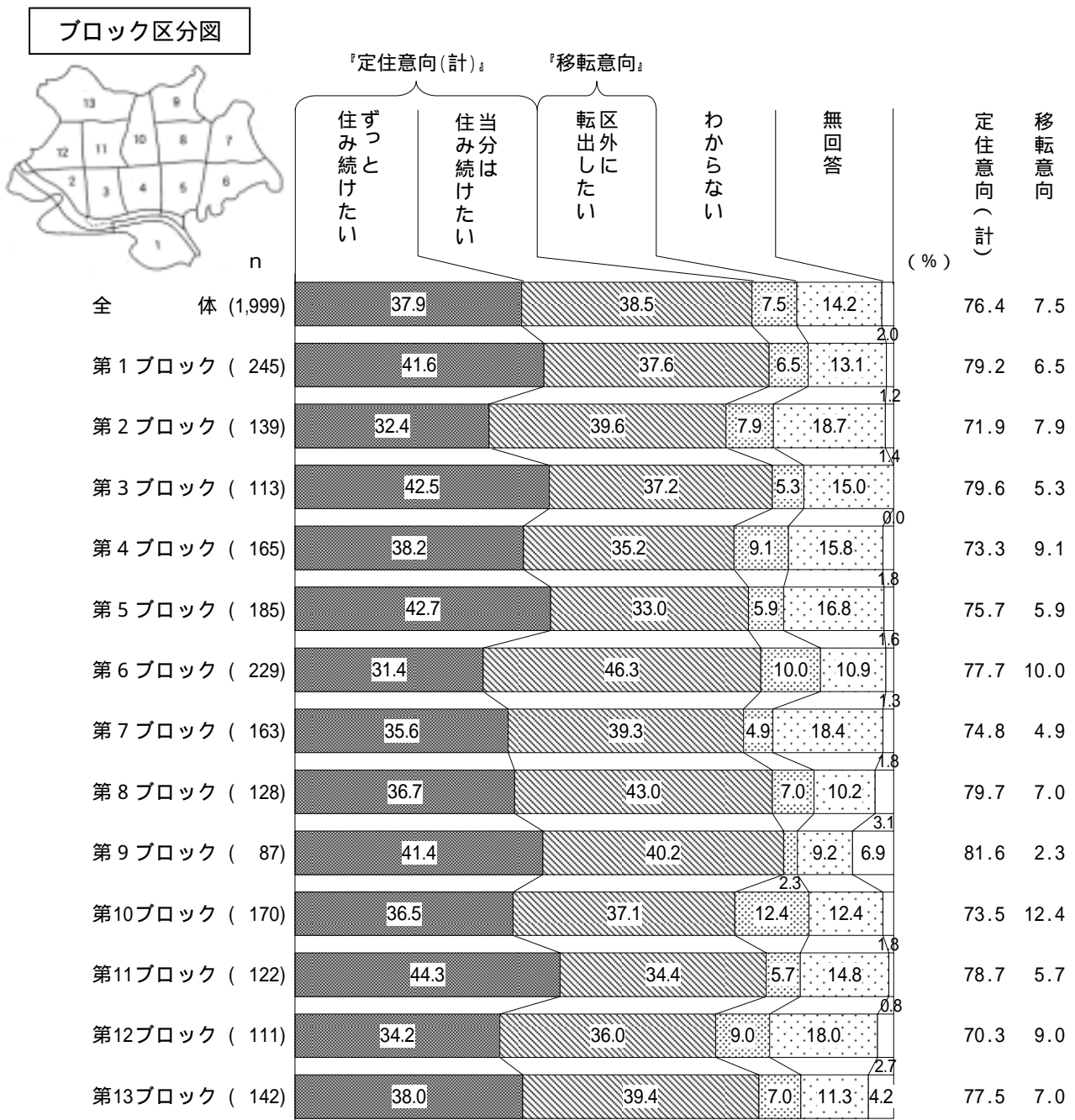


(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、平成13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域ブロック別でみると、「ずっと住み続けたい」は第11ブロック(44.3%)で4割半ばと最も高くなっている。また、『定住意向(計)』では第9ブロック(81.6%)で8割を超え最も高くなっている。

一方、『移転意向』は第10ブロック(12.4%)で最も高く、また、『定住意向(計)』は第12ブロックが70.3%と最も低くなっている。(図1-3-3)

図1-3-3 定住・移転意向 - 地域ブロック別

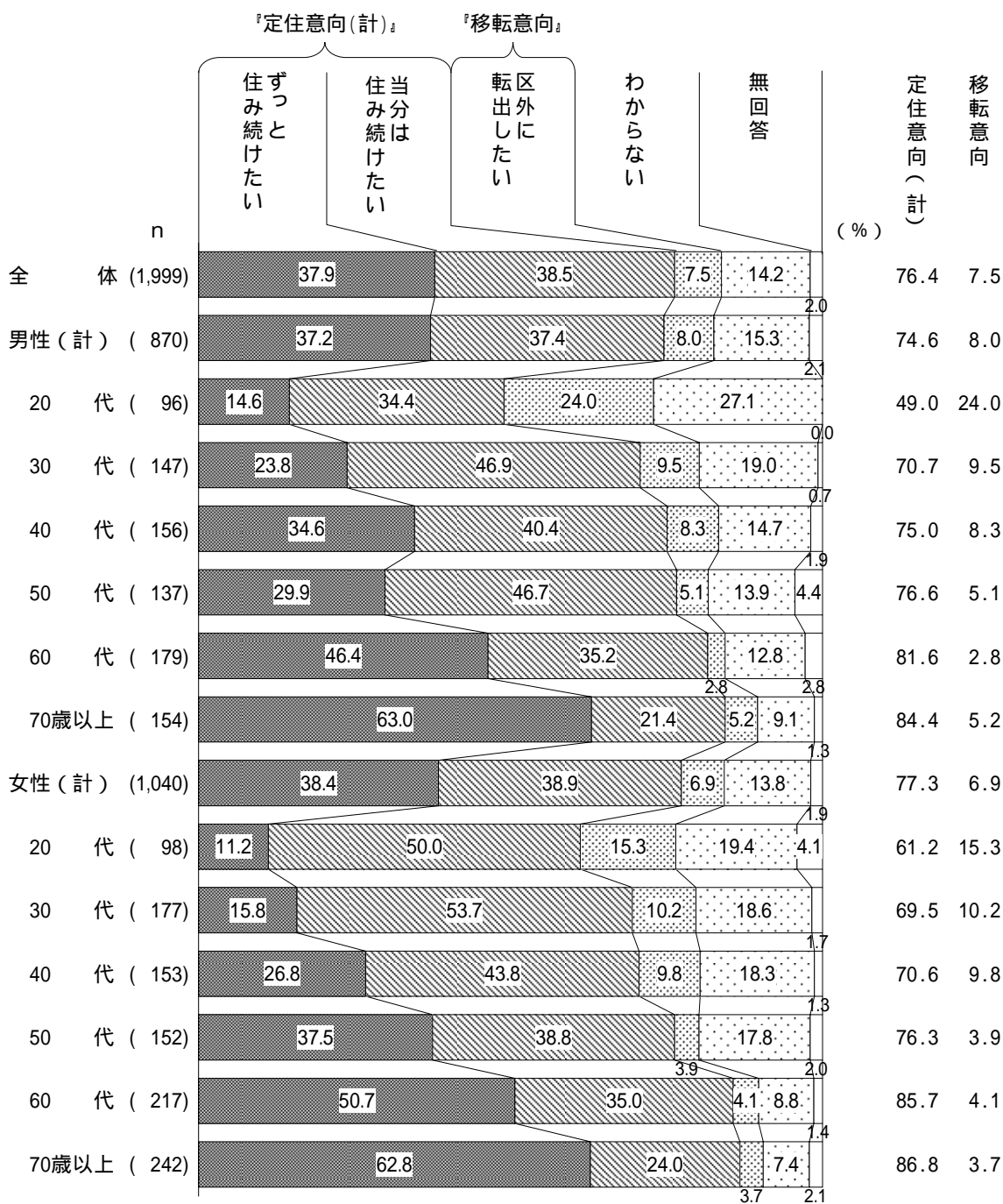


性別で見ると、男女とも『定住意向(計)』は7割を超え、ほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、『定住意向(計)』は男女とも高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、女性70歳以上(86.8%)、女性60代(85.7%)と男性70歳以上(84.4%)で8割半ばと高くなっている。

一方、『移転意向』は男性20代(24.0%)で2割半ばと最も高くなっている。(図1-3-4)

図1-3-4 定住・移転意向 - 性別、性・年代別



居住年数別でみると、「ずっと住み続けたい」は20年以上(46.6%)で4割半ばと最も高く、『定住意向(計)』でも20年以上(79.2%)でほぼ8割と最も高くなっている。(図1-3-5)

区政に対する満足度別では、『定住意向(計)』は区政に満足している人ほど割合が高い傾向にあり、満足している人(91.8%)で9割を超えている。一方、『移転意向』は不満を持っている人(25.6%)で2割半ばとなっている。(図1-3-6)

図1-3-5 定住・移転意向 - 居住年数別

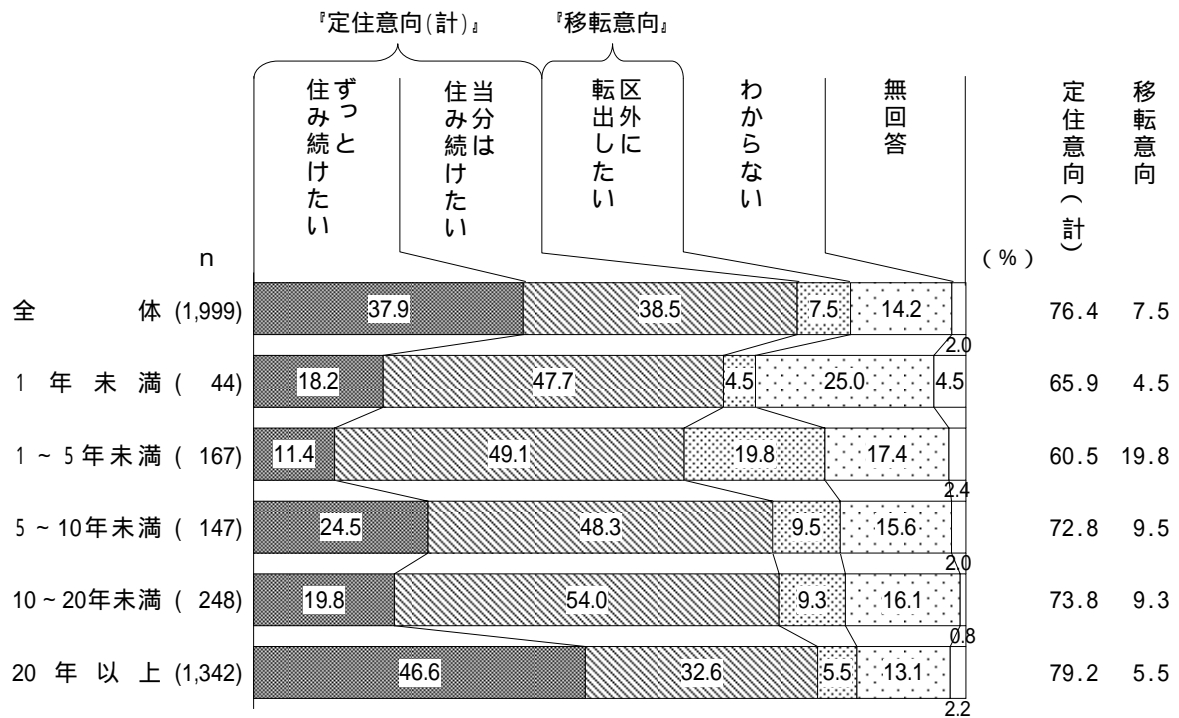
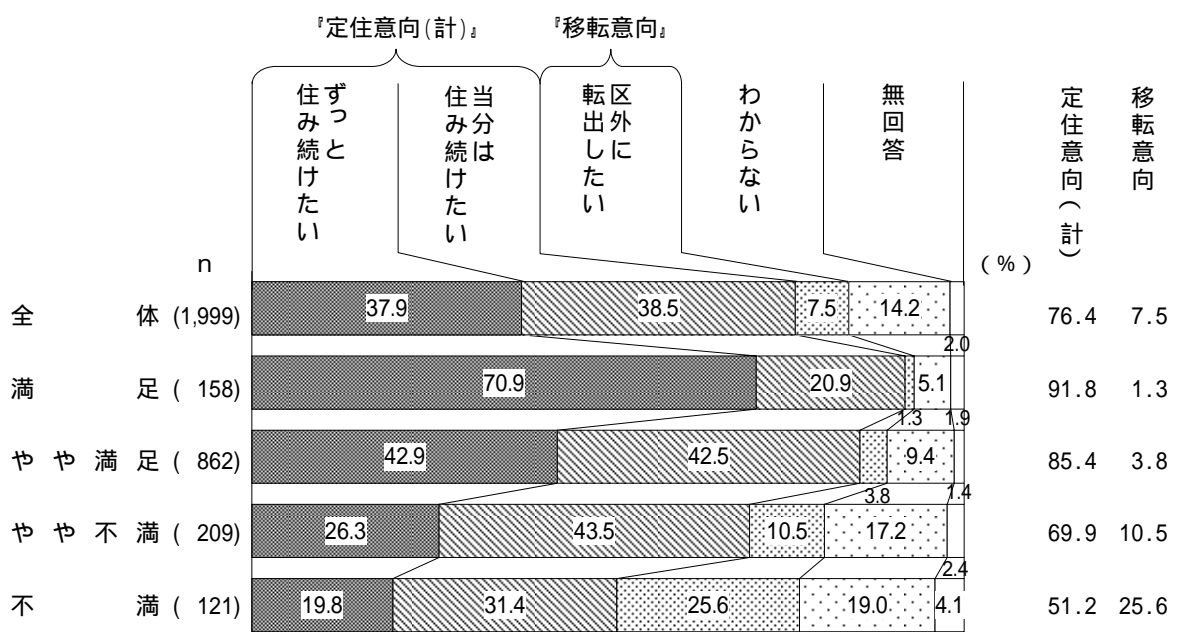
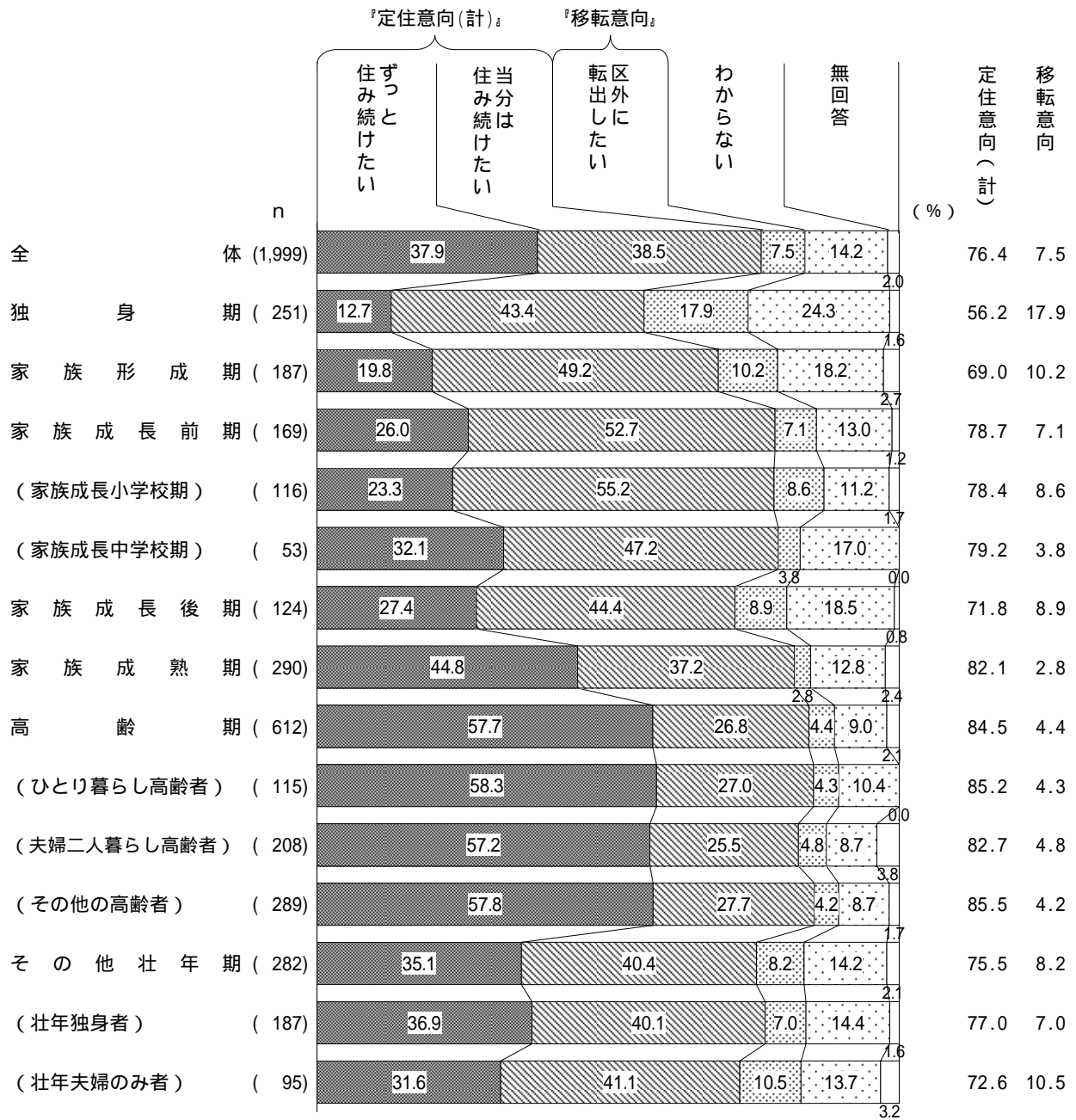


図1-3-6 定住・移転意向 - 区政に対する満足度別



ライフステージ別でみると、「ずっと住み続けたい」は高齢期（57.7%）で6割近くと高くなっている。また、『定住意向（計）』は、高齢期（84.5%）で8割半ば、家族成熟期（82.1%）で8割を超え高くなっている。一方、『移転意向』は独身期（17.9%）で2割近くと高くなっている。（図1-3-7）

図1-3-7 定住・移転意向 - ライフステージ別



2 災 害 対 策

-
- (1) 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度
 - (1 - 1) 避難場所等を確認する方法
 - (2) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2 - 1) 備蓄や防災用具などの用意の開始時期
 - (2 - 2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (2 - 3) 家庭での備蓄の量
 - (3) 町会や自治会の防災訓練への参加状況
 - (3 - 1) 防災訓練へ参加しない理由
 - (4) 災害弱者・災害時要援護者の有無
 - (4 - 1) 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無
 - (5) 大地震が起きたとき不安に思うこと
 - (6) 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと
-

2 災害対策

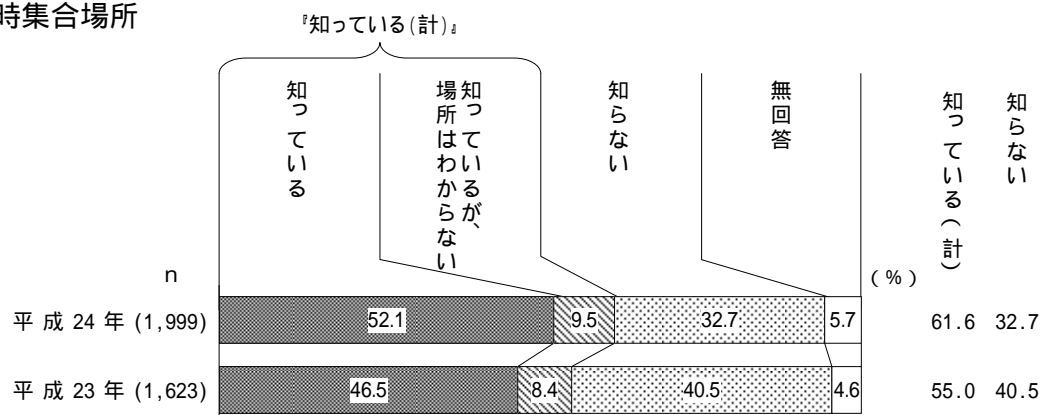
(1) 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度

『知っている』は、【小中学校等の避難所】と【一時集合場所】が6割を超え、【広域避難場所】が5割半ば

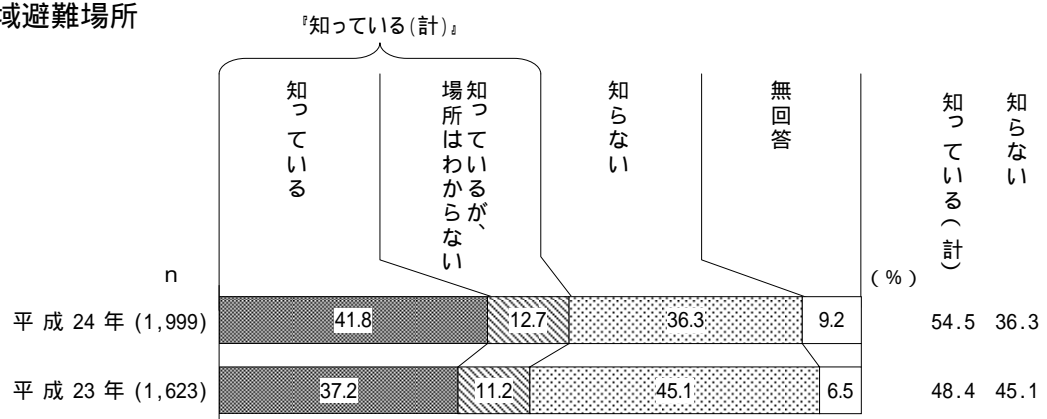
問4 あなたは、一時集合場所（町会・自治会などが指定した避難場所）、広域避難場所（都が指定した避難場所）、小中学校等の避難所（区が指定した避難所）を知っていますか。（は各項目とも1つだけ）

図2-1-1 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 過年度比較

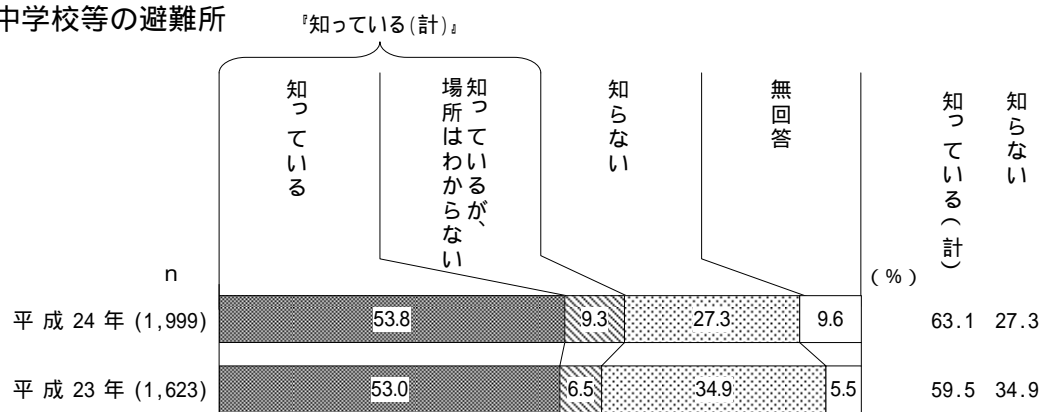
(1) 一時集合場所



(2) 広域避難場所



(3) 小中学校等の避難所



一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所を知っているか聞いたところ、「知っている」は【小中学校等の避難所】(53.8%)と【一時集合場所】(52.1%)が5割を超え、【広域避難場所】(41.8%)が4割を超えている。

これに「知っているが、場所はわからない」を合わせた『知っている(計)』では、【小中学校等の避難所】(63.1%)と【一時集合場所】(61.6%)が6割を超え、【広域避難場所】(54.5%)が5割半ばとなっている。

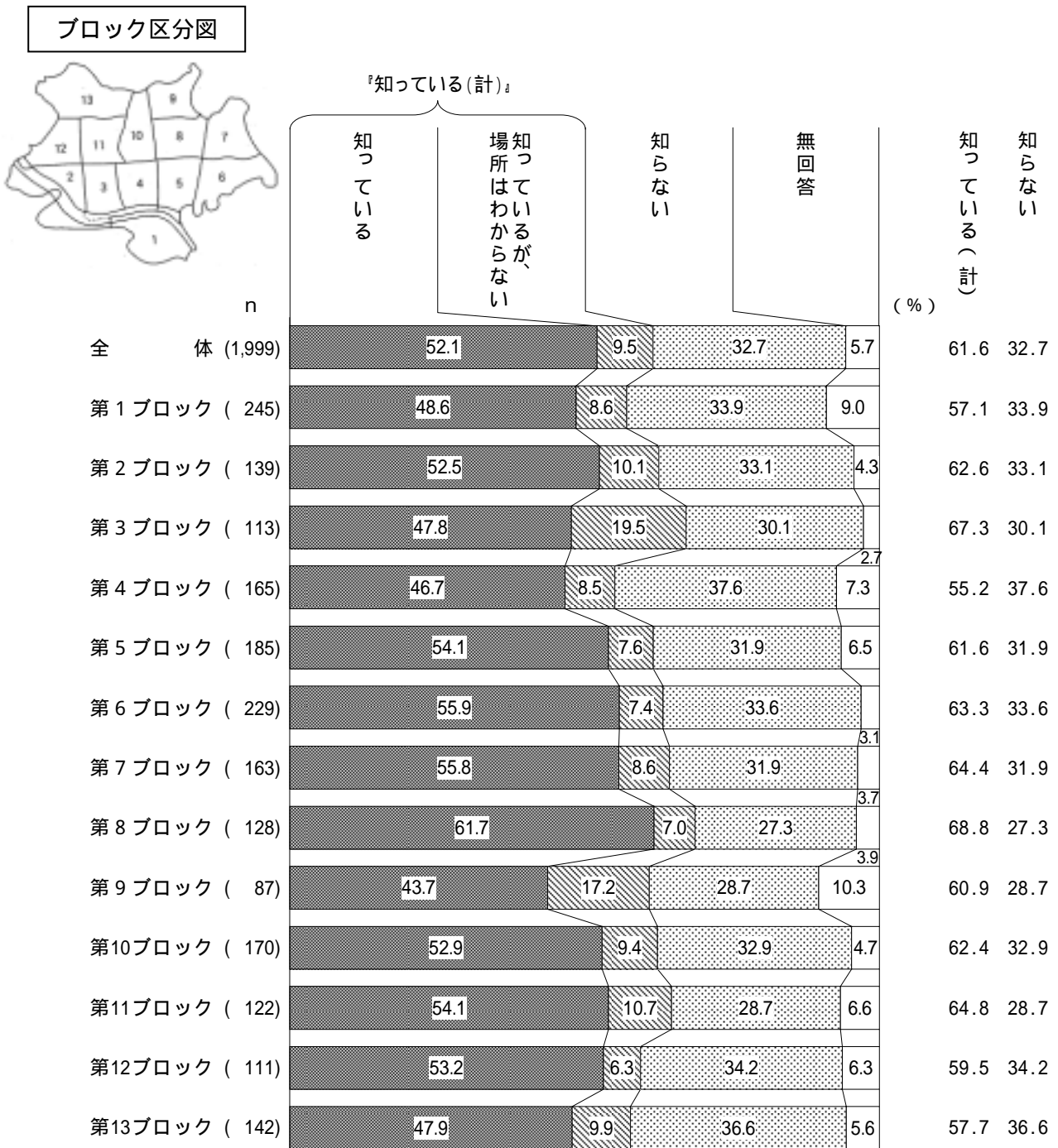
平成23年調査と比較すると、『知っている(計)』は【一時集合場所】は6.6ポイント、【広域避難場所】は6.1ポイント、【小中学校等の避難所】は3.6ポイント、それぞれ高くなっている。

(図2 - 1 - 1)

地域ブロック別で見ると、『知っている(計)』は第8ブロック(68.8%)と第3ブロック(67.3%)で7割近くと高くなっている。一方、「知らない」は第4ブロック(37.6%)と第13ブロック(36.6%)で4割近くと高くなっている。(図2-1-2)

図2-1-2 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 地域ブロック別(1)

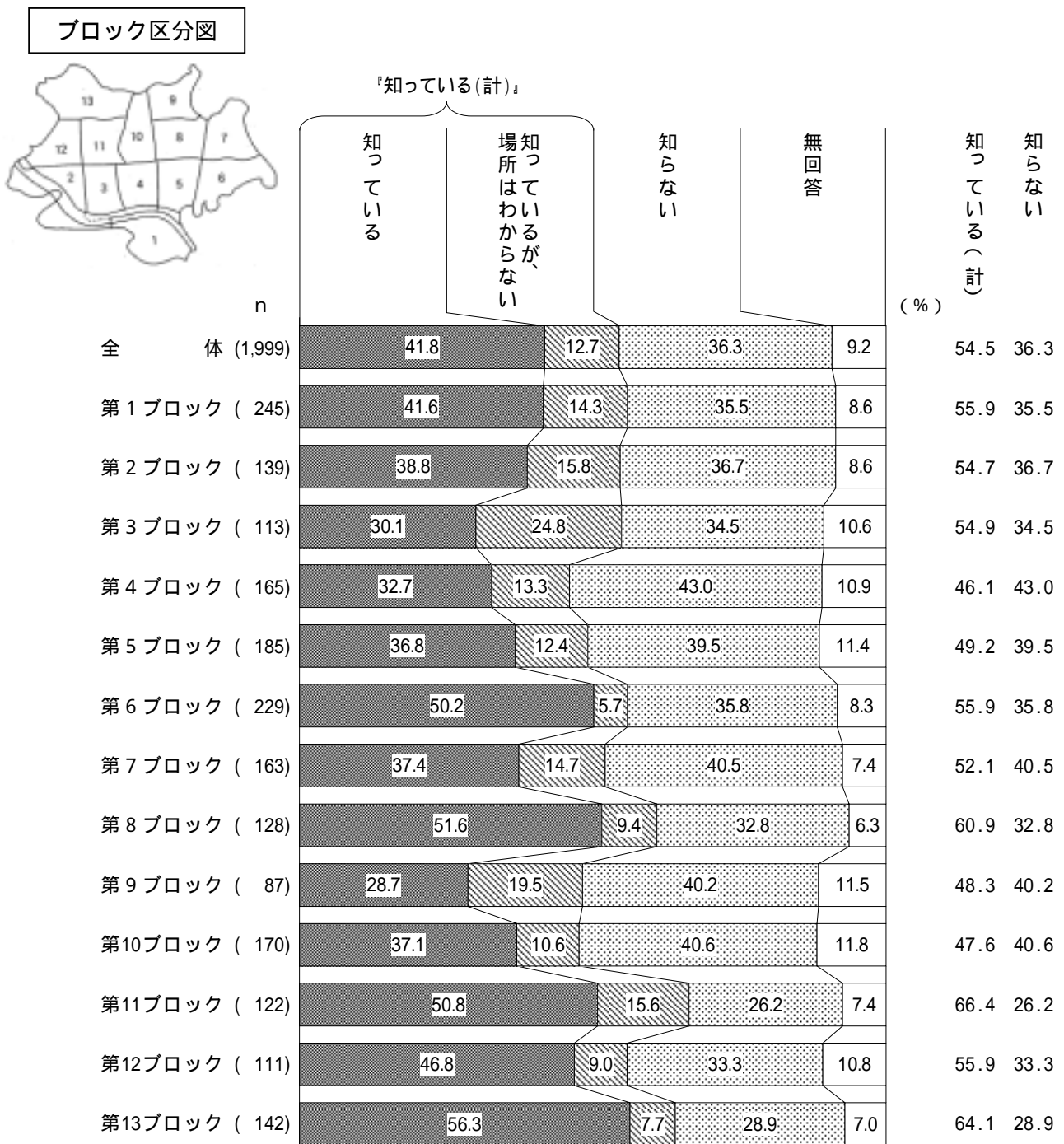
(1) 一時集合場所



地域ブロック別でみると、『知っている(計)』は第11ブロック(66.4%)と第13ブロック(64.1%)で6割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は第4ブロック(43.0%)で最も高くなっている。(図2-1-3)

図2-1-3 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 地域ブロック別(2)

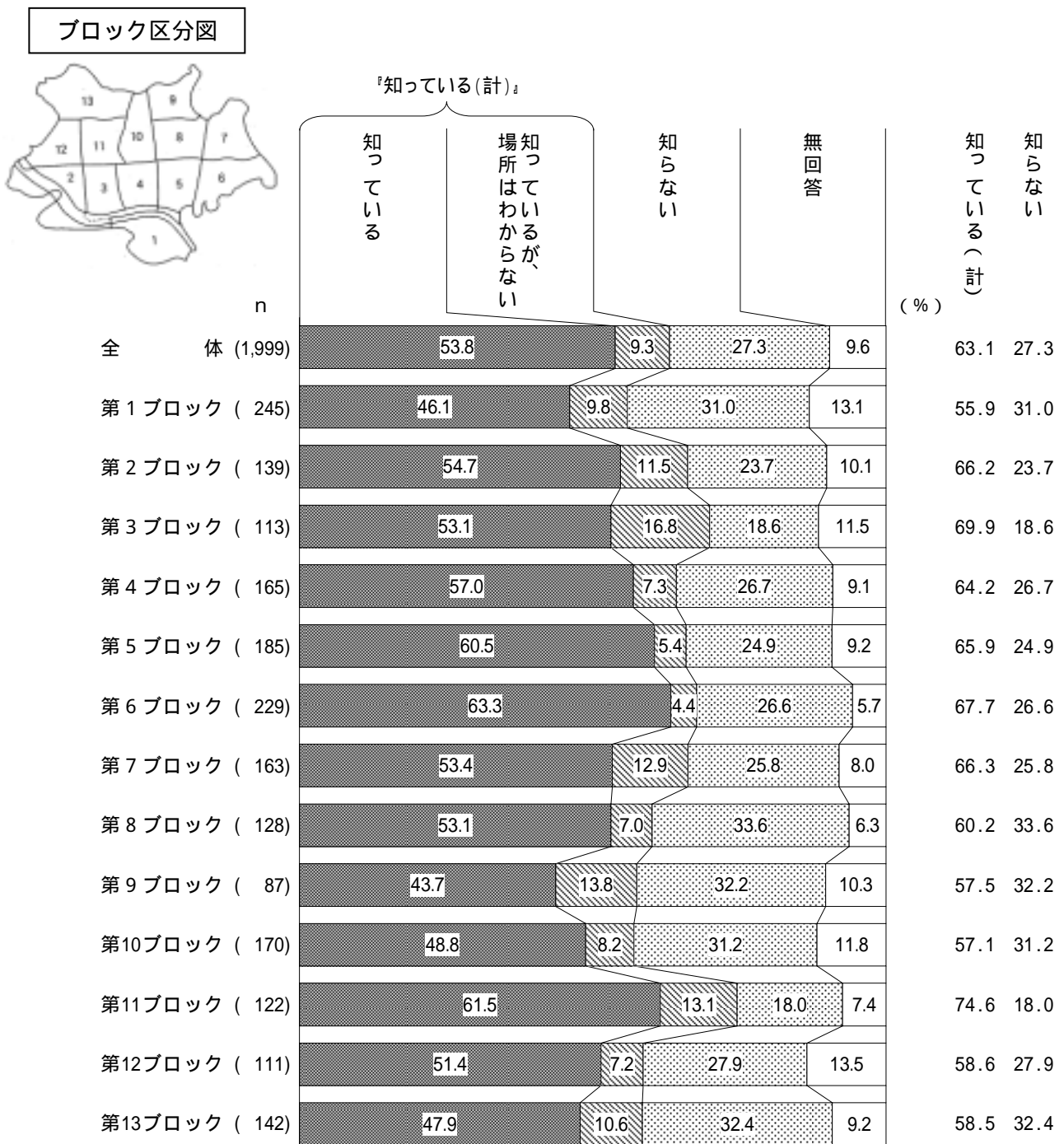
(2) 広域避難場所



地域ブロック別でみると、『知っている(計)』は第11ブロック(74.6%)で7割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は第8ブロック(33.6%)、第13ブロック(32.4%)、第9ブロック(32.2%)、第10ブロック(31.2%)の順で高くなっている。(図2-1-4)

図2-1-4 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 地域ブロック別(3)

(3) 小中学校等の避難所

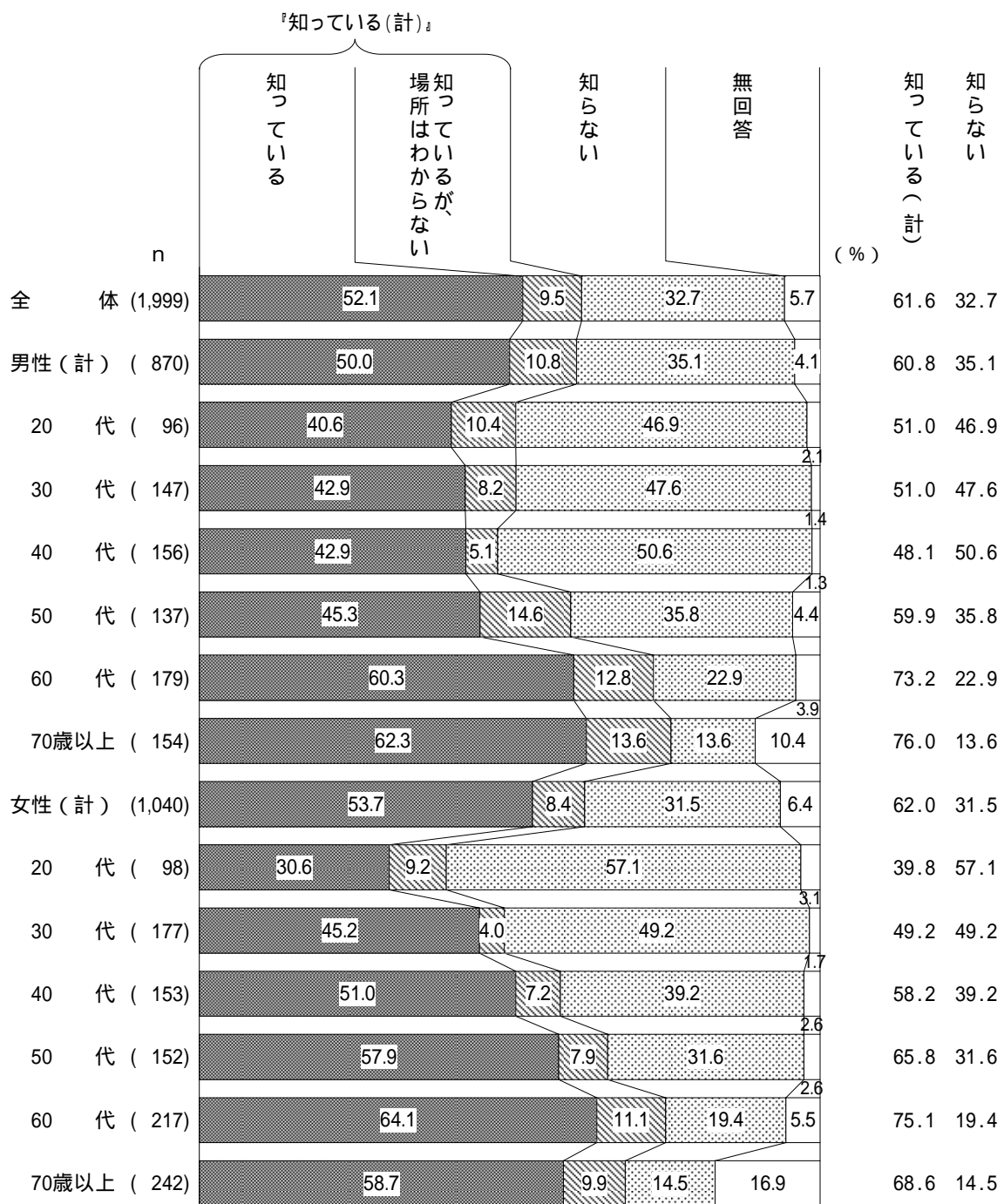


性別で見ると、男性で「知らない」(35.1%)が女性(31.5%)より3.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、女性60代(64.1%)で6割半ば、男性70歳以上(62.3%)、60代(60.3%)で6割を超え高くなっている。また、『知っている(計)』でも男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、男性70歳以上(76.0%)と女性60代(75.1%)で7割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は女性20代(57.1%)で6割近くと高くなっている。(図2-1-5)

図2-1-5 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 性別、性・年代別(1)

(1) 一時集合場所

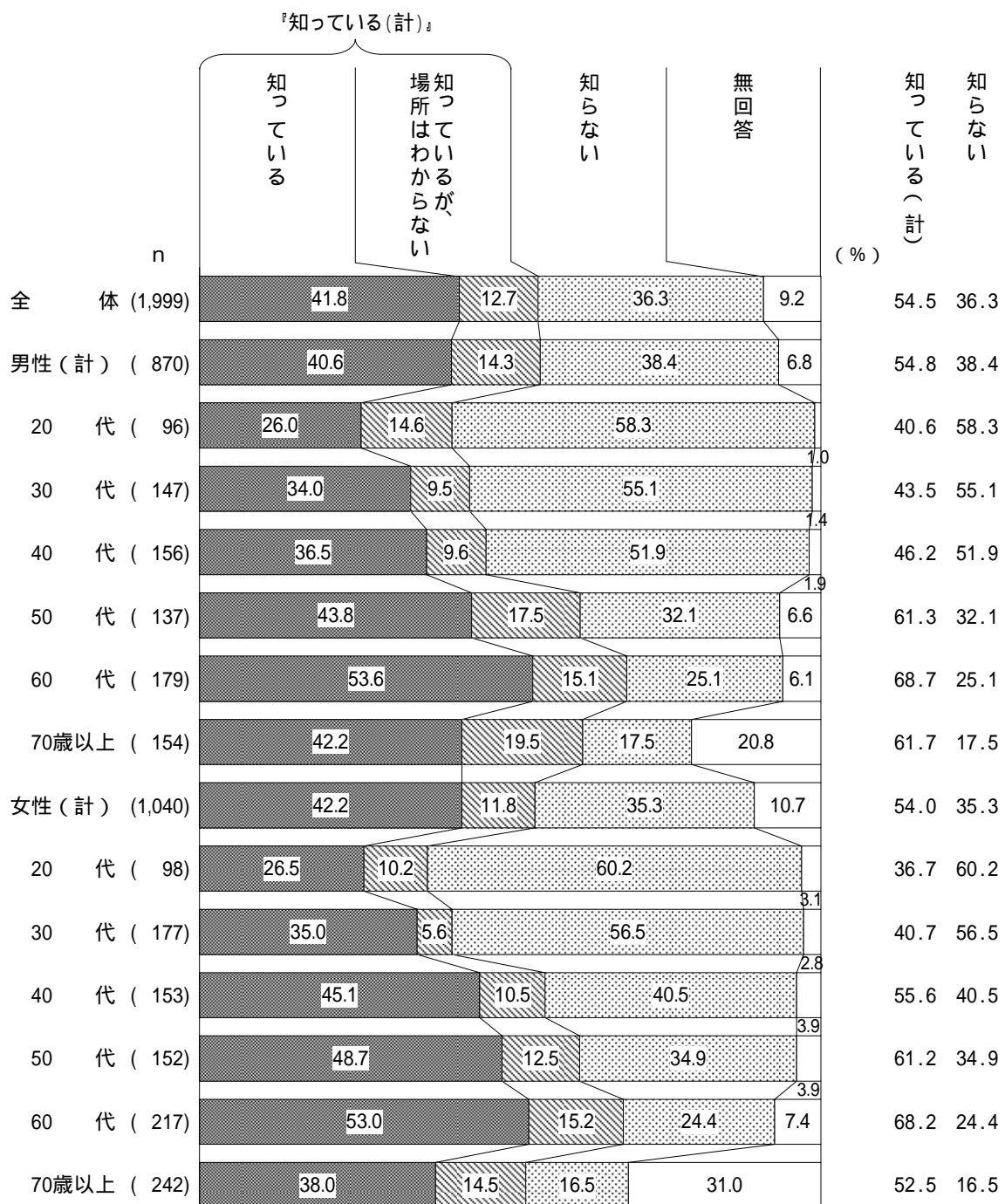


性別で見ると、男性で「知らない」(38.4%)が女性(35.3%)より3.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は男女とも60代(男性53.6%・女性53.0%)で5割を超え高くなっている。また、『知っている(計)』でも男女とも60代(男性68.7%・女性68.2%)が7割近くと高くなっている。一方、「知らない」は男女とも低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、女性20代(60.2%)で6割、男性20代(58.3%)と女性30代(56.5%)の順で高くなっている。(図2-1-6)

図2-1-6 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 性別、性・年代別(2)

(2) 広域避難場所

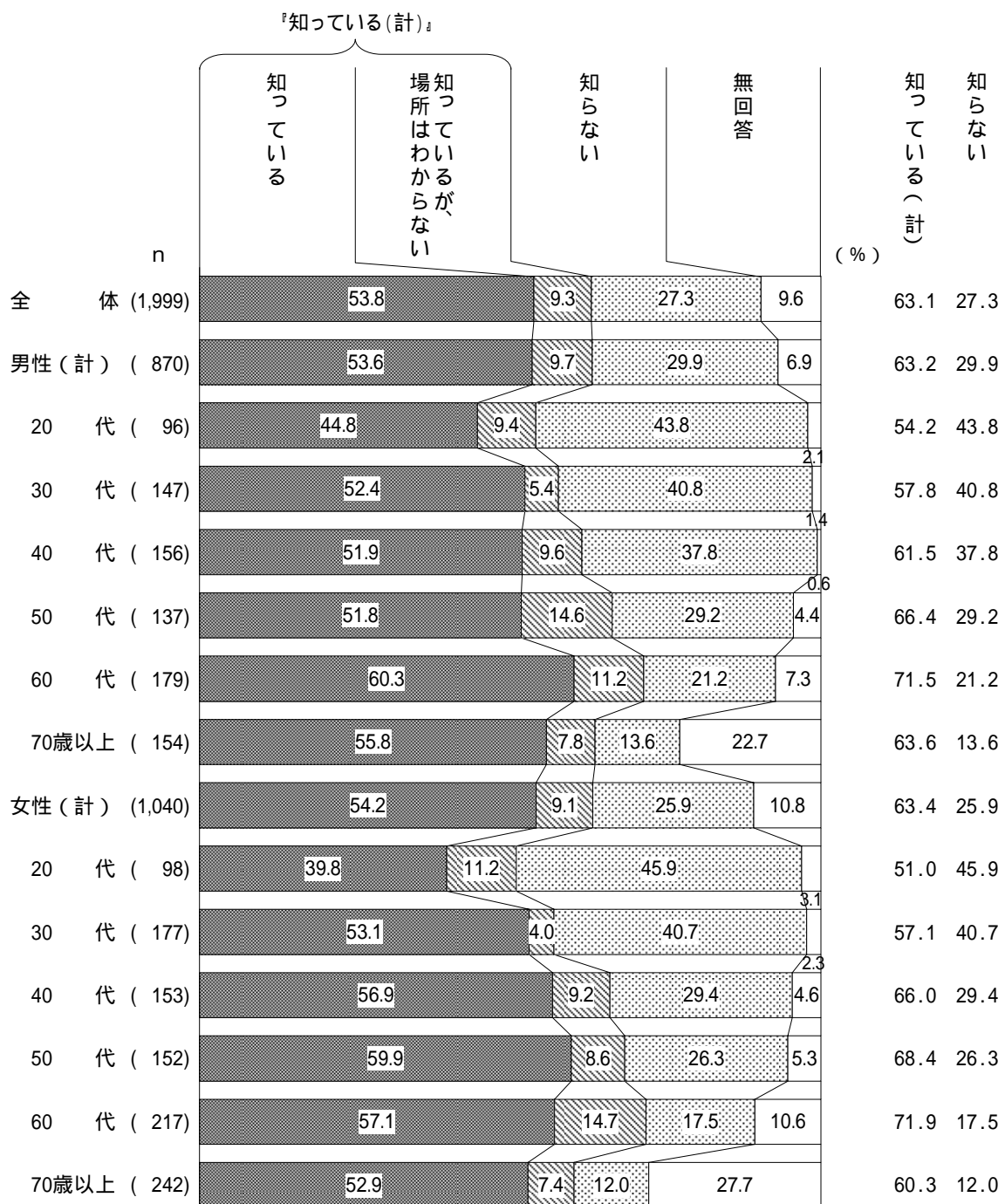


性別で見ると、男性で「知らない」(29.9%)が女性(25.9%)より4.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は男性60代(60.3%)と女性50代(59.9%)で6割と高くなっている。また、『知っている(計)』では女性60代(71.9%)と男性60代(71.5%)で7割を超え高くなっている。一方、「知らない」は男女とも低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、女性20代(45.9%)、男性20代(43.8%)の順で高くなっている。(図2-1-7)

図2-1-7 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 性別、性・年代別(3)

(3) 小中学校等の避難所



(1 - 1) 避難場所等を確認する方法

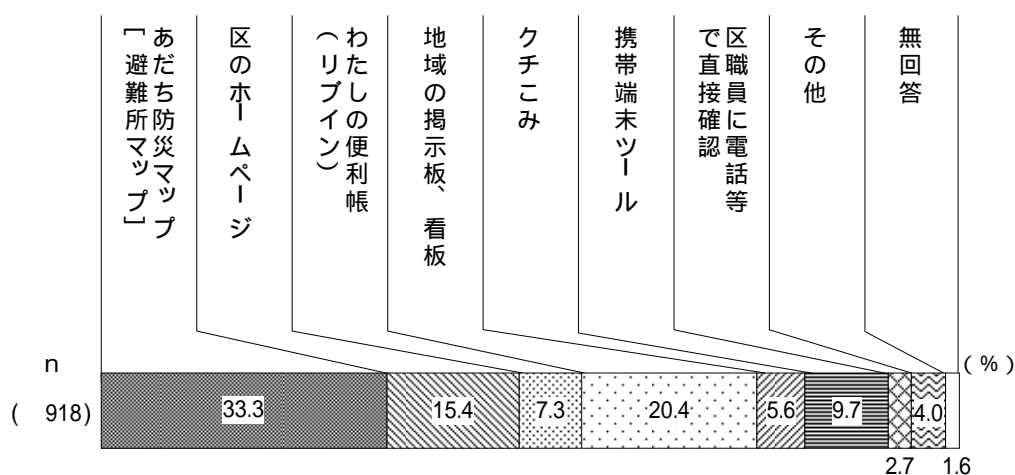
「あだち防災マップ[避難所マップ]」が3割を超える

(問4の「一時集合場所」「広域避難場所」「小中学校等の避難所」のうち、いずれか1つでも「知らない」とお答えの方に)

問4 - 1 避難場所等を確認するために便利な方法は何ですか。

(は最もあてはまるもの1つ)

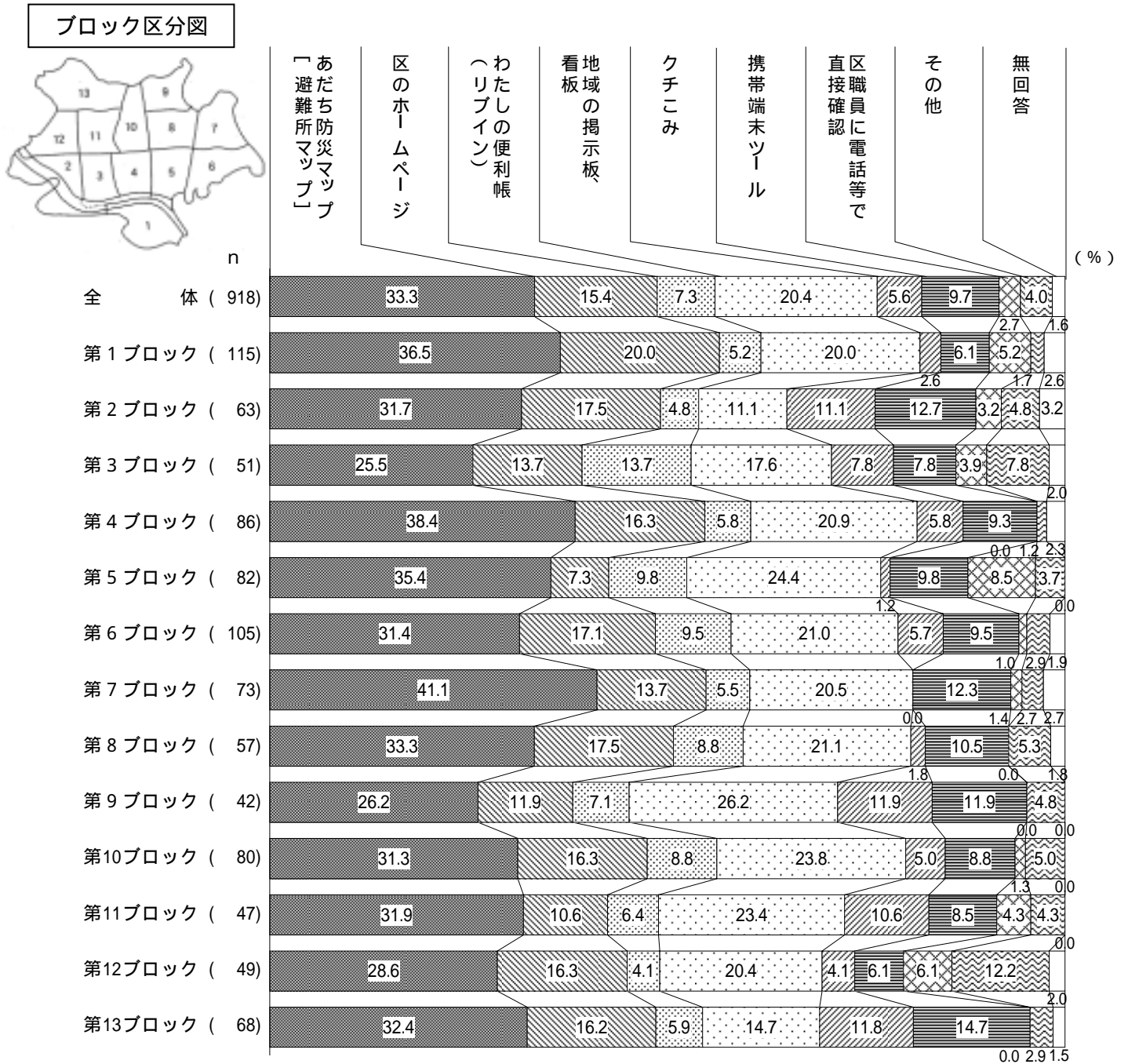
図2 - 2 - 1 避難場所等を確認する方法



避難場所等を確認するために便利な方法を聞いたところ、「あだち防災マップ[避難所マップ]」(33.3%)が3割を超え最も高く、次いで「地域の掲示板、看板」(20.4%)、「区のホームページ」(15.4%)、「携帯端末ツール」(9.7%)の順となっている。(図2 - 2 - 1)

地域ブロック別でみると、「あだち防災マップ[避難所マップ]」は第7ブロック(41.1%)で4割を超え高くなっている。また、「地域の掲示板、看板」は第9ブロック(26.2%)と第5ブロック(24.4%)で2割半ば、「区のホームページ」は第1ブロック(20.0%)と第5ブロック(24.4%)で2割半ば、「区のホームページ」は第1ブロック(20.0%)で2割と高くなっている。(図2-2-2)

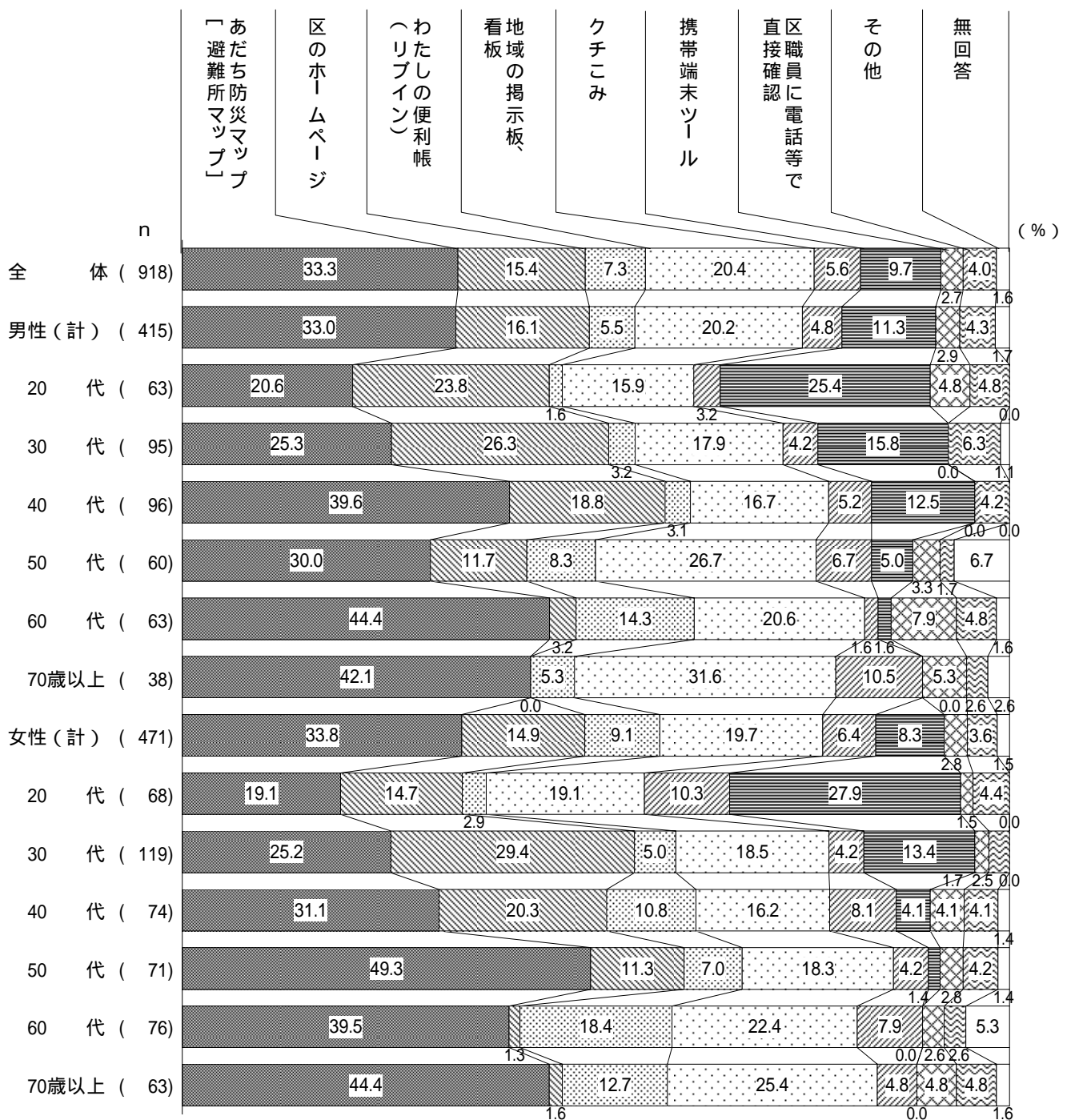
図2-2-2 避難場所等を確認する方法 - 地域ブロック別



性別で見ると、女性で「わたしの便利帳（リブイン）」（9.1%）が男性（5.5%）より3.6ポイント高くなっている。一方、男性で「携帯端末ツール」（11.3%）が女性（8.3%）より3.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「あだち防災マップ〔避難所マップ〕」は女性50代（49.3%）でほぼ5割、「地域の掲示板、看板」は男性70歳以上（31.6%）で3割を超え、「区のホームページ」は女性30代（29.4%）でほぼ3割と高くなっている。（図2-2-3）

図2-2-3 避難場所等を確認する方法 - 性別、性・年代別

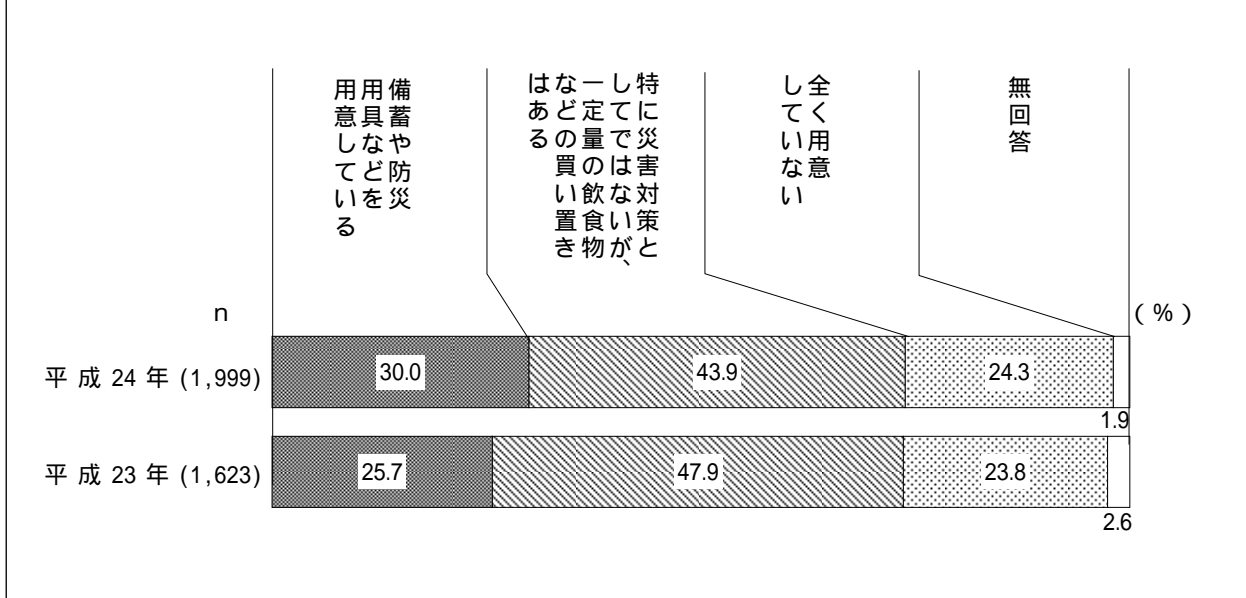


(2) 備蓄や防災用具などの用意

「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が4割を超える

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて非常食などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか。(は1つだけ)

図2-3-1 備蓄や防災用具などの用意 - 過年度比較

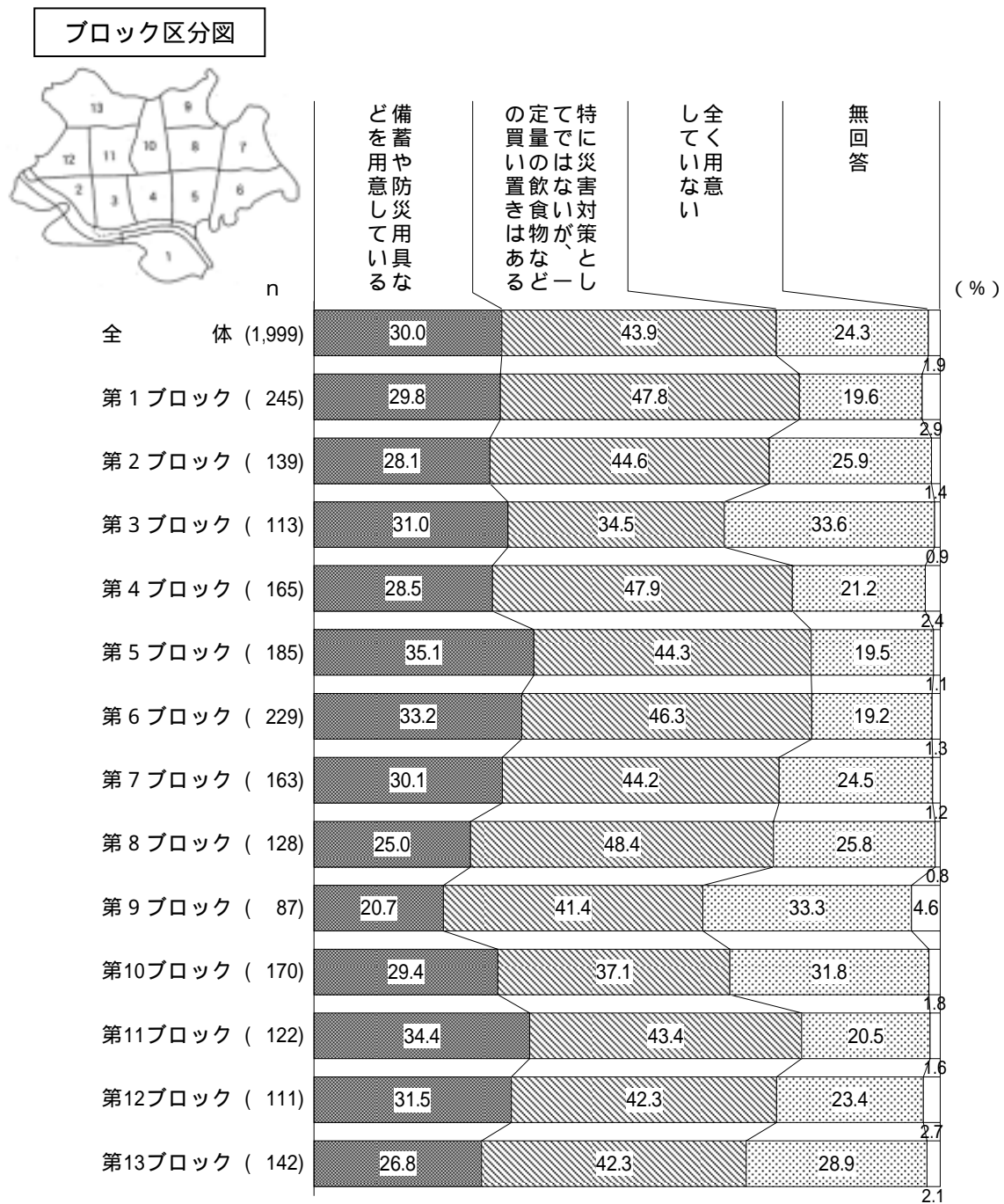


家庭で災害に備えて非常食などの備蓄や防災用具などの用意をしているか聞いたところ、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」(43.9%)が4割を超え、「備蓄や防災用具などを用意している」(30.0%)が3割となっている。また、「全く用意していない」(24.3%)が2割半ばとなっている。

平成23年調査と比較すると、「備蓄や防災用具などを用意している」は4.3ポイント増加している。(図2-3-1)

地域ブロック別でみると、すべてのブロックで「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が最も割合が高く、第8ブロック(48.4%)と第4ブロック(47.9%)と第1ブロック(47.8%)で5割近くと高くなっている。一方、「全く用意していない」は第3ブロック(33.6%)と第9ブロック(33.3%)と第10ブロック(31.8%)で3割を超え高くなっている。(図2-3-2)

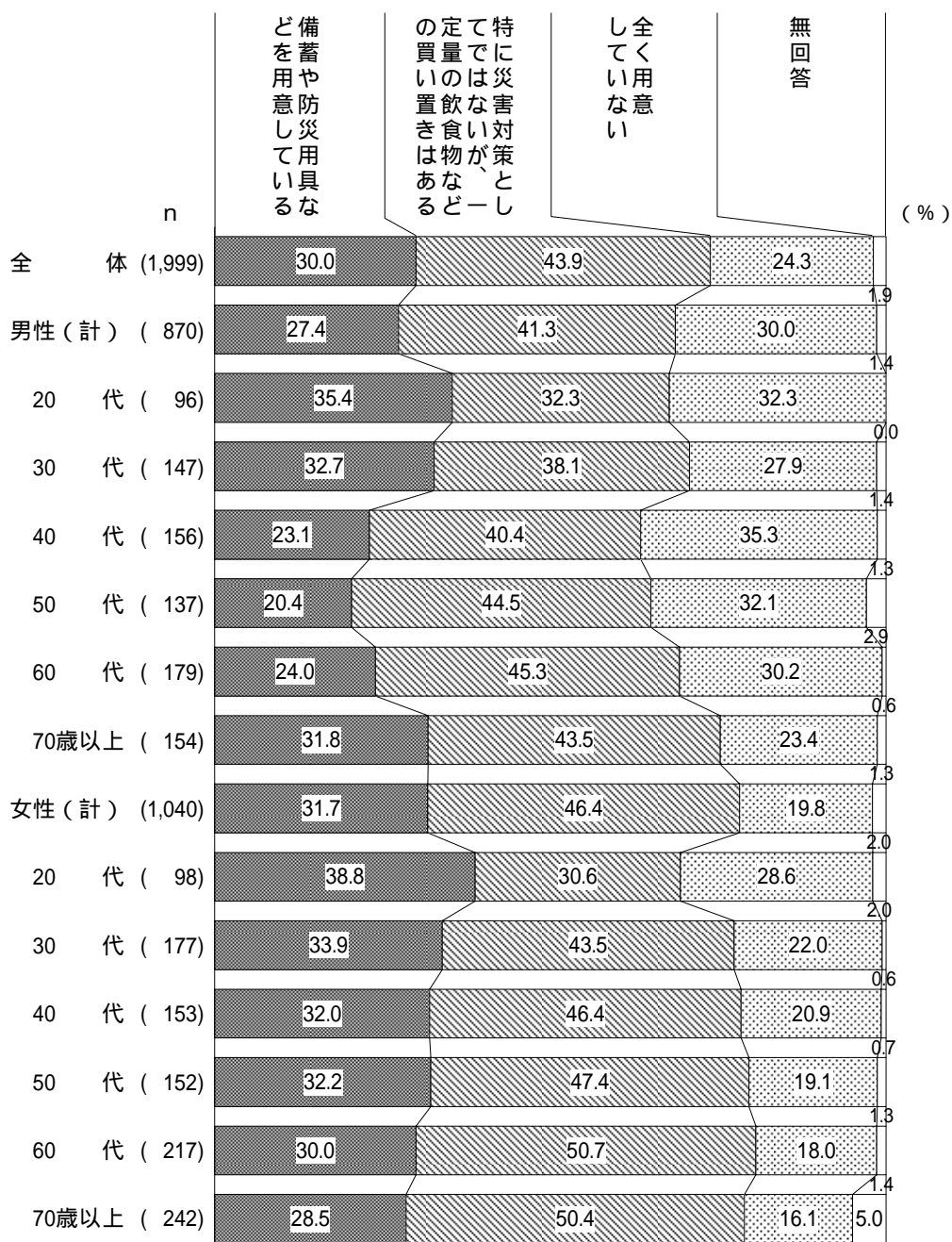
図2-3-2 備蓄や防災用具などの用意 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で「全く用意していない」(30.0%)が女性(19.8%)より10.2ポイント高くなっている。一方、女性で「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」(46.4%)が男性(41.3%)より5.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「備蓄や防災用具などを用意している」は女性20代(38.8%)で4割近くと高く、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は女性60代(50.7%)、70歳以上(50.4%)で5割と高くなっている。一方、「全く用意していない」は男性40代(35.3%)で3割半ばと高くなっている。(図2-3-3)

図2-3-3 備蓄や防災用具などの用意 - 性別、性・年代別



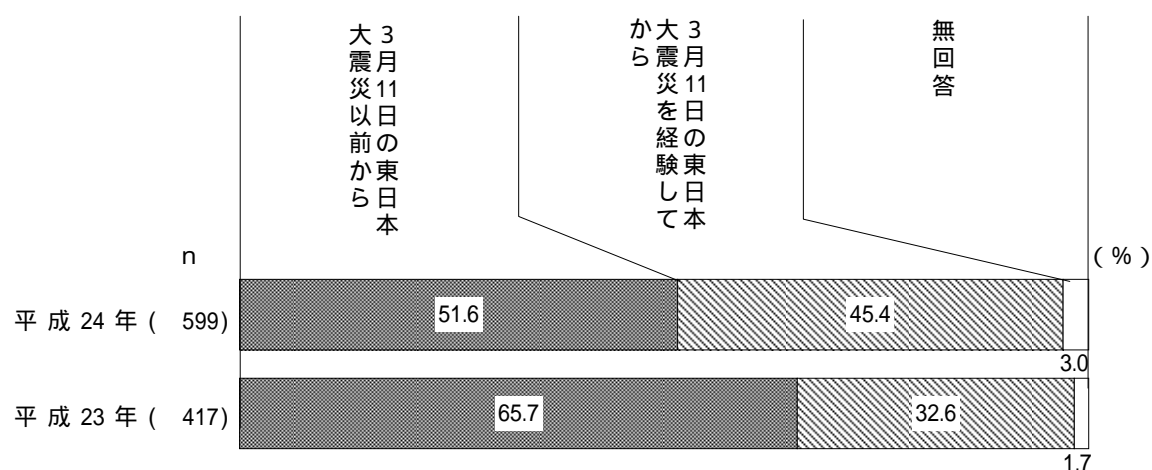
(2 - 1) 備蓄や防災用具などの用意の開始時期

「 3月11日の東日本大震災以前から」が 5 割を超え、「 3月11日の東日本大震災を経験してから」が 4 割半ば

(問 5 で「 備蓄や防災用具などを用意している」とお答えの方に)

問 5 - 1 備蓄や防災用具などの用意はいつから始めましたか。(は 1 つだけ)

図 2 - 4 - 1 備蓄や防災用具などの用意の開始時期 - 過年度比較



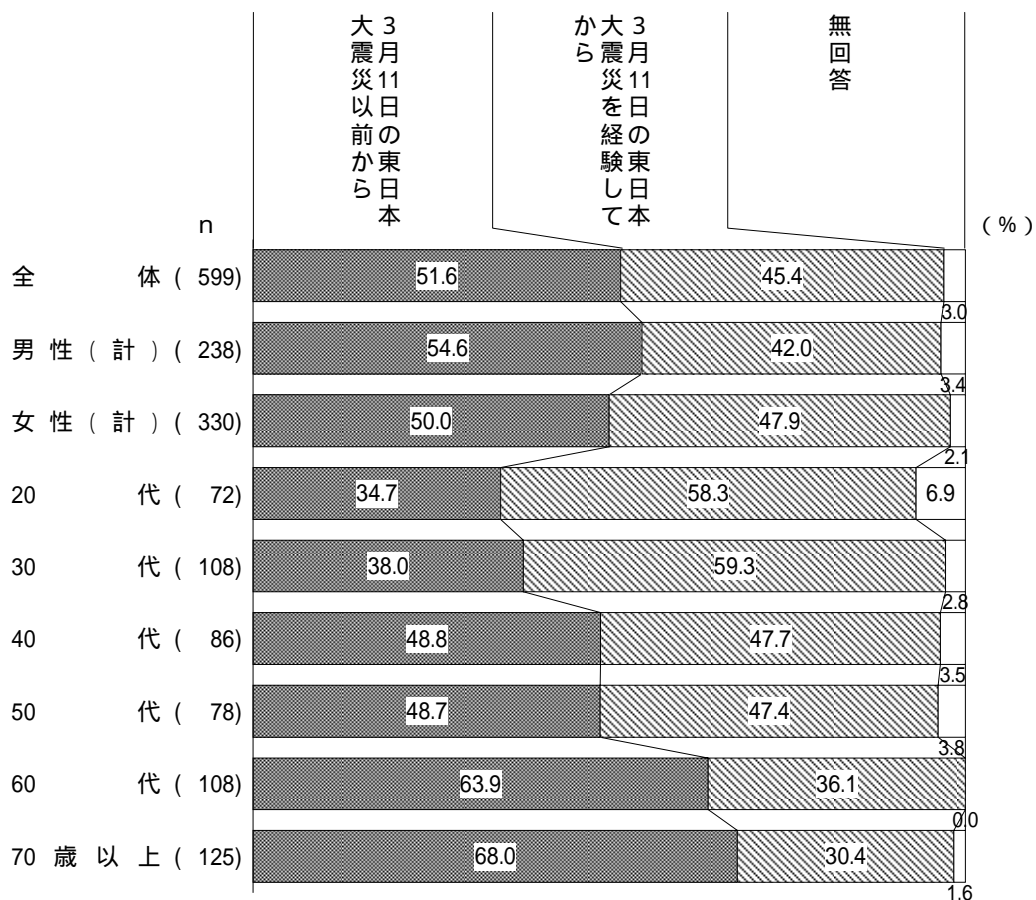
家庭で災害に備えて非常食などの「備蓄や防災用具などを用意している」人(599人)に、備蓄や防災用具などの用意をいつから始めたか聞いたところ、「3月11日の東日本大震災以前から」(51.6%)が5割を超え、「3月11日の東日本大震災を経験してから」(45.4%)が4割半ばとなっている。

平成23年調査と比較すると、「3月11日の東日本大震災以前から」は14.1ポイント減少、「3月11日の東日本大震災を経験してから」は12.8ポイント増加している。(図 2 - 4 - 1)

性別で見ると、女性で「3月11日の東日本大震災を経験してから」(47.9%)が男性(42.0%)より5.9ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「3月11日の東日本大震災以前から」はおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、70歳以上(68.0%)で7割近く、60代(63.9%)で6割を超え高くなっている。一方、「3月11日の東日本大震災を経験してから」は30代(59.3%)、20代(58.3%)で6割近くと高くなっており、若い世代で大震災後に新たに備蓄を開始したことがわかる。(図2-4-2)

図2-4-2 備蓄や防災用具などの用意の開始時期 - 性別、年代別



(注)「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「全体」の数とは一致しない。

(2 - 2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

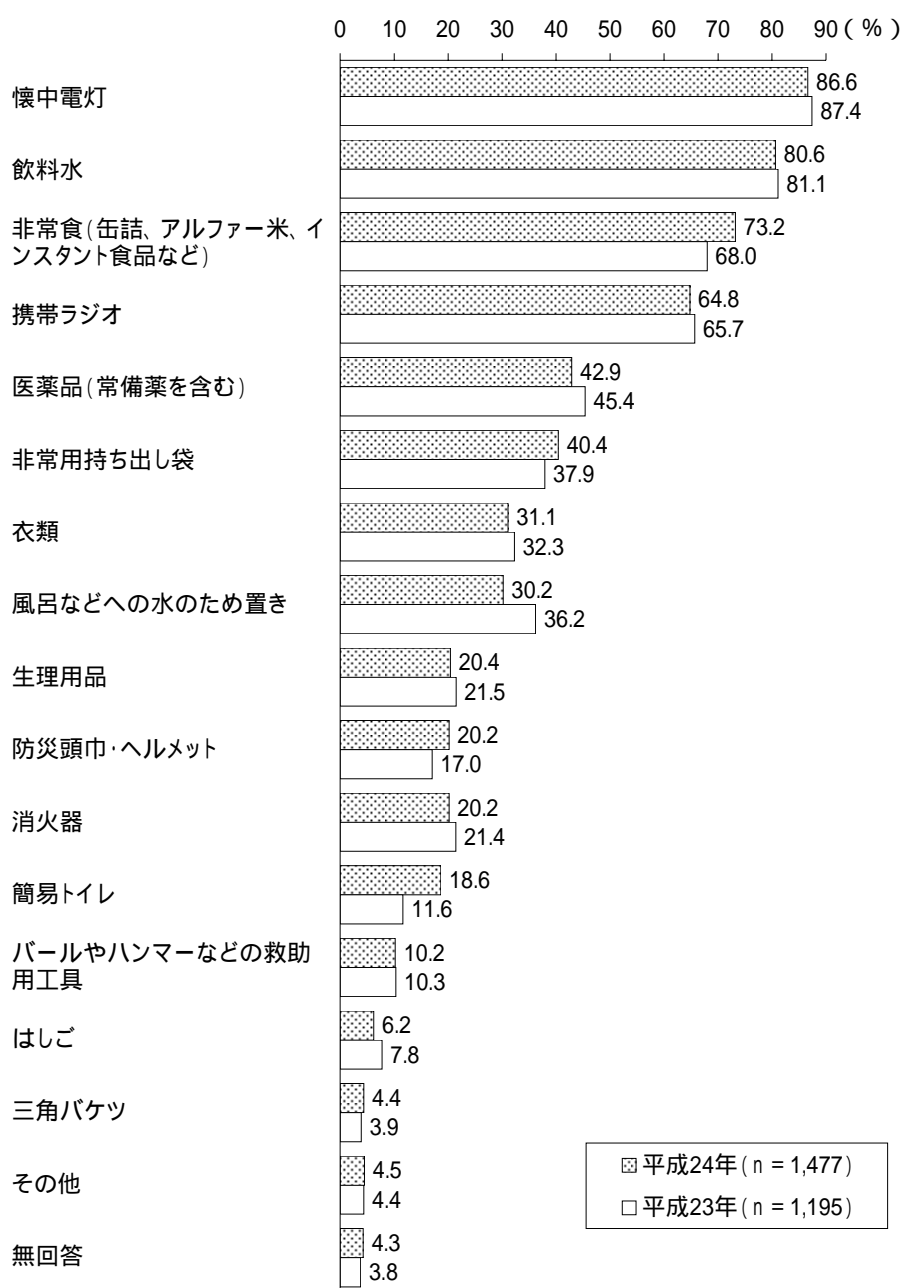
「懐中電灯」が9割近く、「飲料水」が8割

(問5で「備蓄や防災用具などを用意している」又は「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」とお答えの方に)

問5 - 2 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

(はあてはまるものすべて)

図2 - 5 - 1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容 - 過年度比較



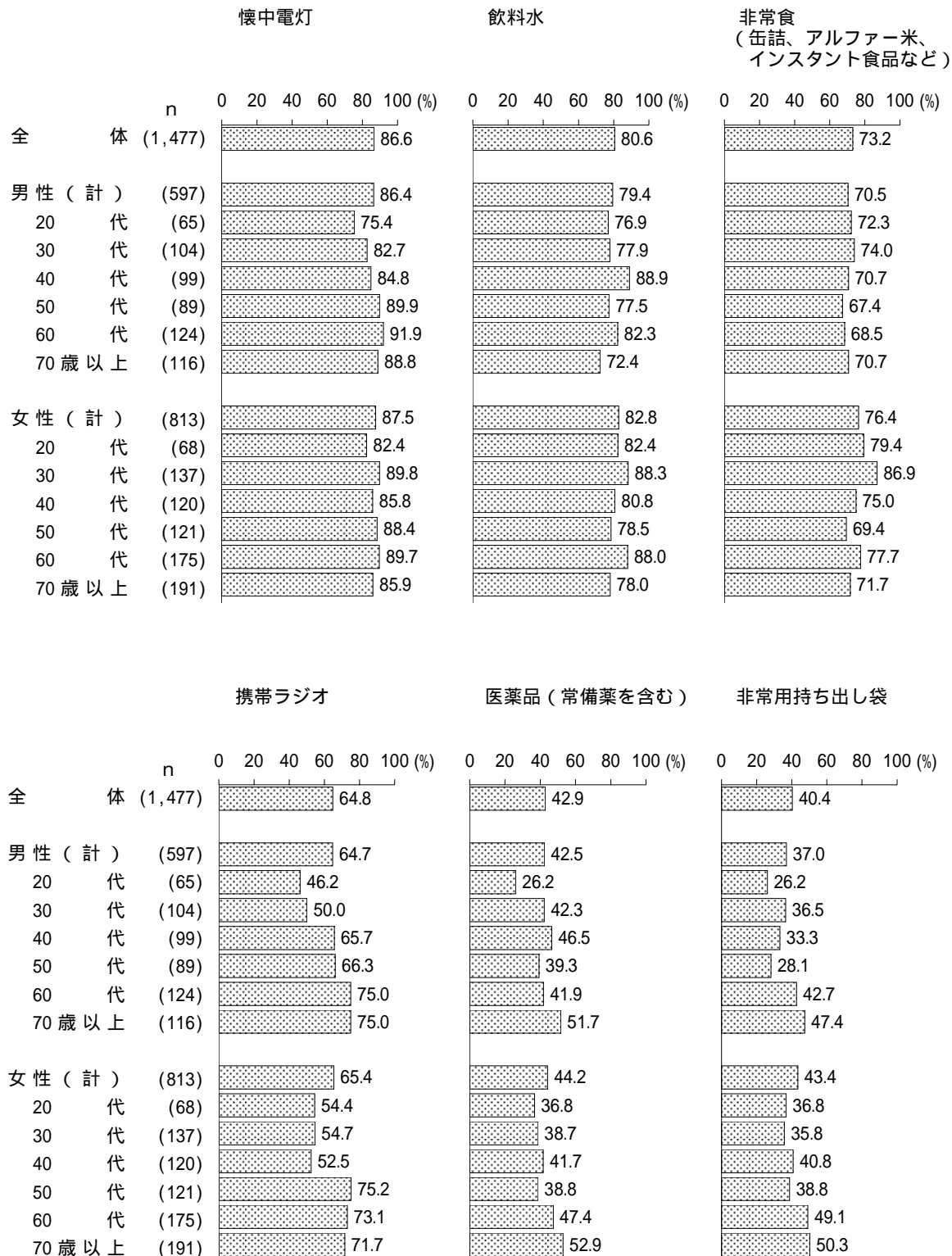
家庭で災害に備えて非常食などの「備蓄や防災用具などを用意している」人と、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」人（1,477人）に、備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を聞いたところ、「懐中電灯」（86.6%）が9割近くで最も高く、次いで「飲料水」（80.6%）、「非常食（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（73.2%）、「携帯ラジオ」（64.8%）、「医薬品（常備薬を含む）」（42.9%）の順になっている。

平成23年調査と比較すると、「簡易トイレ」は7.0ポイント、「非常食（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は5.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「風呂などへの水のため置き」は6.0ポイント減少している。（図2-5-1）

性別で見ると、女性で「非常用持ち出し袋」(43.4%)が男性(37.0%)より6.4ポイント高く、「非常食(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」(76.4%)で男性(70.5%)より5.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「懐中電灯」は男性60代(91.9%)で9割を超え高くなっている。また、「携帯ラジオ」は女性50代(75.2%)、60代(73.1%)、70歳以上(71.7%)と男性60代と70歳以上(ともに75.0%)で7割台と高くなっている。(図2-5-2)

図2-5-2 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容 - 性別、性・年代別(上位6位)



(2 - 3) 家庭での備蓄の量

【飲料水】は「1人あたり3日分以上」と「1人あたり2日分」がともに3割を超えている
 【非常食】は「1人あたり2日分」が3割を超えている

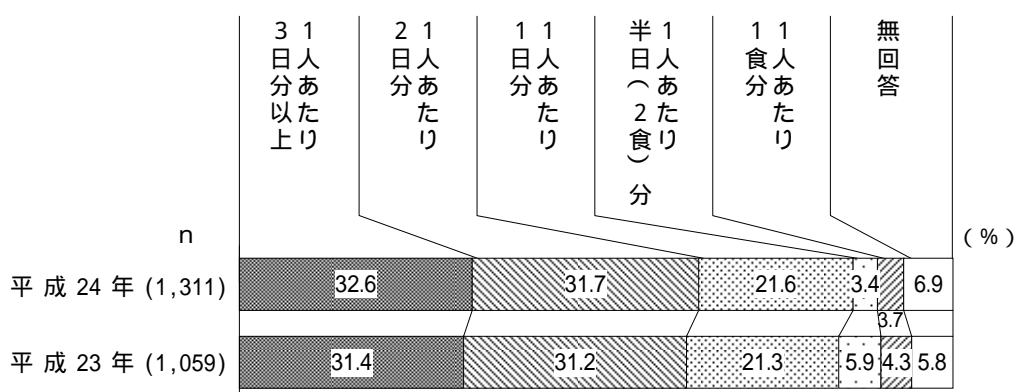
(問5 - 2で「飲料水」又は「非常食」とお答えの方に)

問5 - 3 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

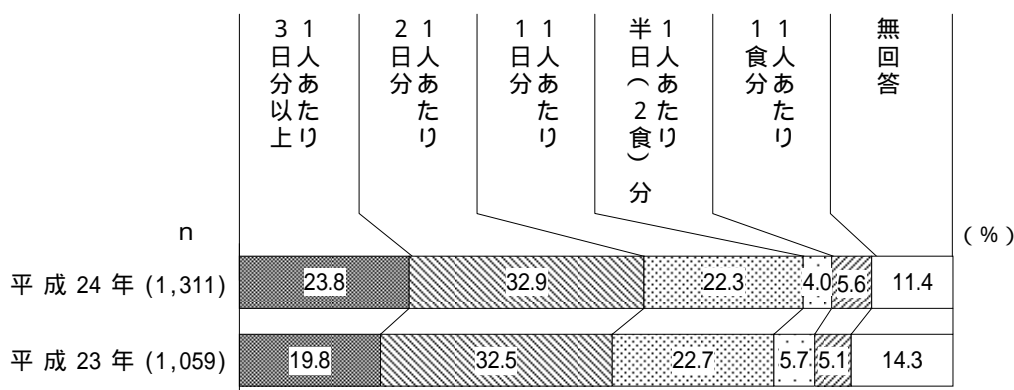
(は各項目とも1つだけ)

図2 - 6 - 1 家庭での備蓄の量 - 過年度比較

(1) 飲料水



(2) 非常食



飲料水は大人1人1日3リットルで計算。飲料水、非常食には日常の買い置きがあるため災害時に活用できるものを含む。

家庭で「飲料水」又は「非常食」を買い置きしている人(1,311人)に、家庭での備蓄の量を聞いたところ、【飲料水】は「1人あたり3日以上」(32.6%)と「1人あたり2日分」(31.7%)がともに3割を超え、「1人あたり1日分」(21.6%)が2割を超えている。

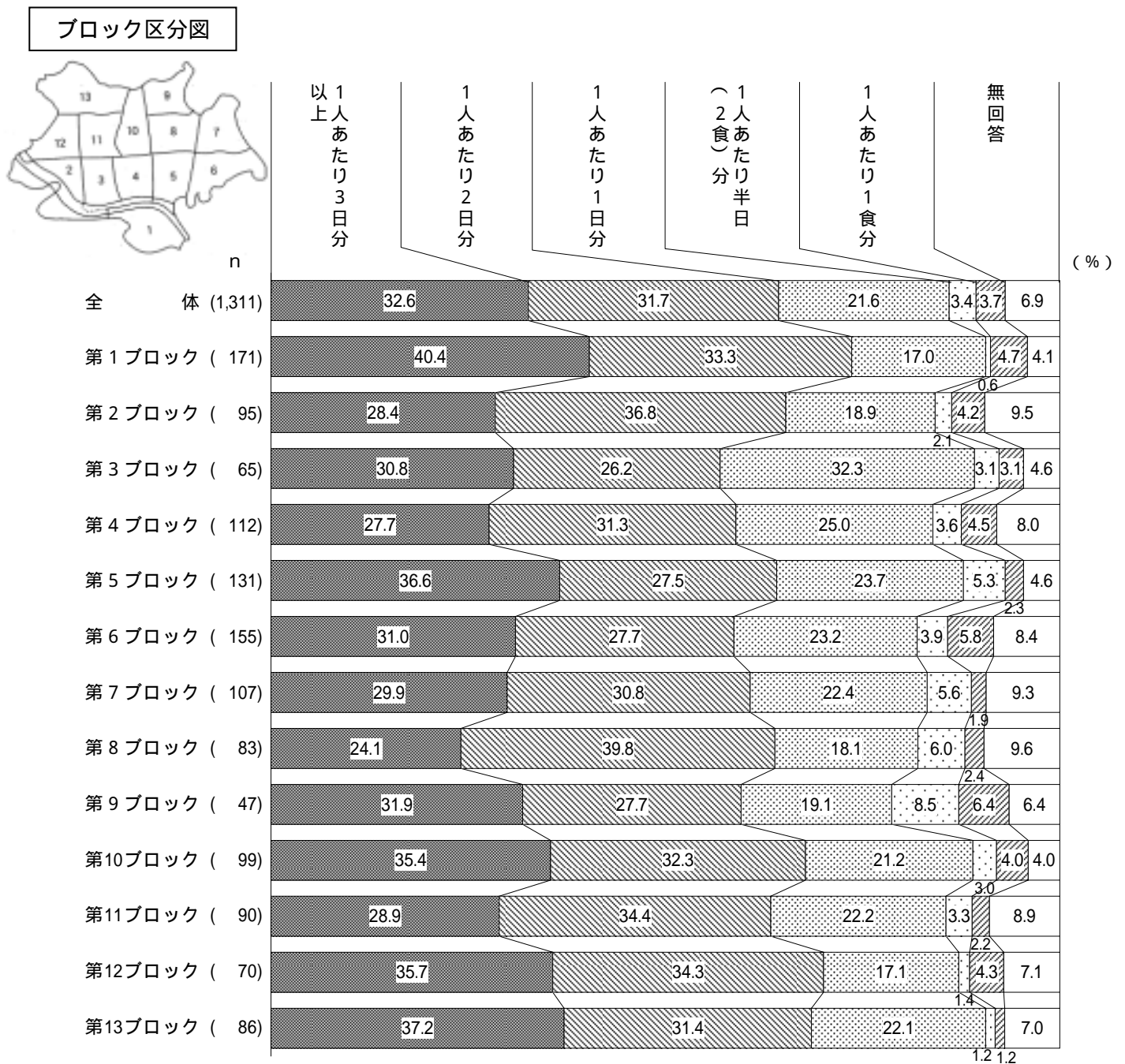
【非常食】は「1人あたり2日分」(32.9%)が3割を超え、「1人あたり3日以上」(23.8%)と「1人あたり1日分」(22.3%)がともに2割を超えている。また、「1人あたり3日以上」では、【飲料水】の方が【非常食】より8.8ポイント高く、【飲料水】の方が備蓄の量が多くなっている。

平成23年調査と比較すると、【飲料水】はほぼ同じ傾向になっているが、【非常食】では「1人あたり3日以上」が4.0ポイント増加している。(図2-6-1)

地域ブロック別でみると、「1人あたり3日以上」は第1ブロック(40.4%)で4割と高くなっている。また、「1人あたり2日分」は第8ブロック(39.8%)でほぼ4割、「1人あたり1日分」は第3ブロック(32.3%)で3割を超え高くなっている。(図2-6-2)

図2-6-2 家庭での備蓄の量 - 地域ブロック別(1)

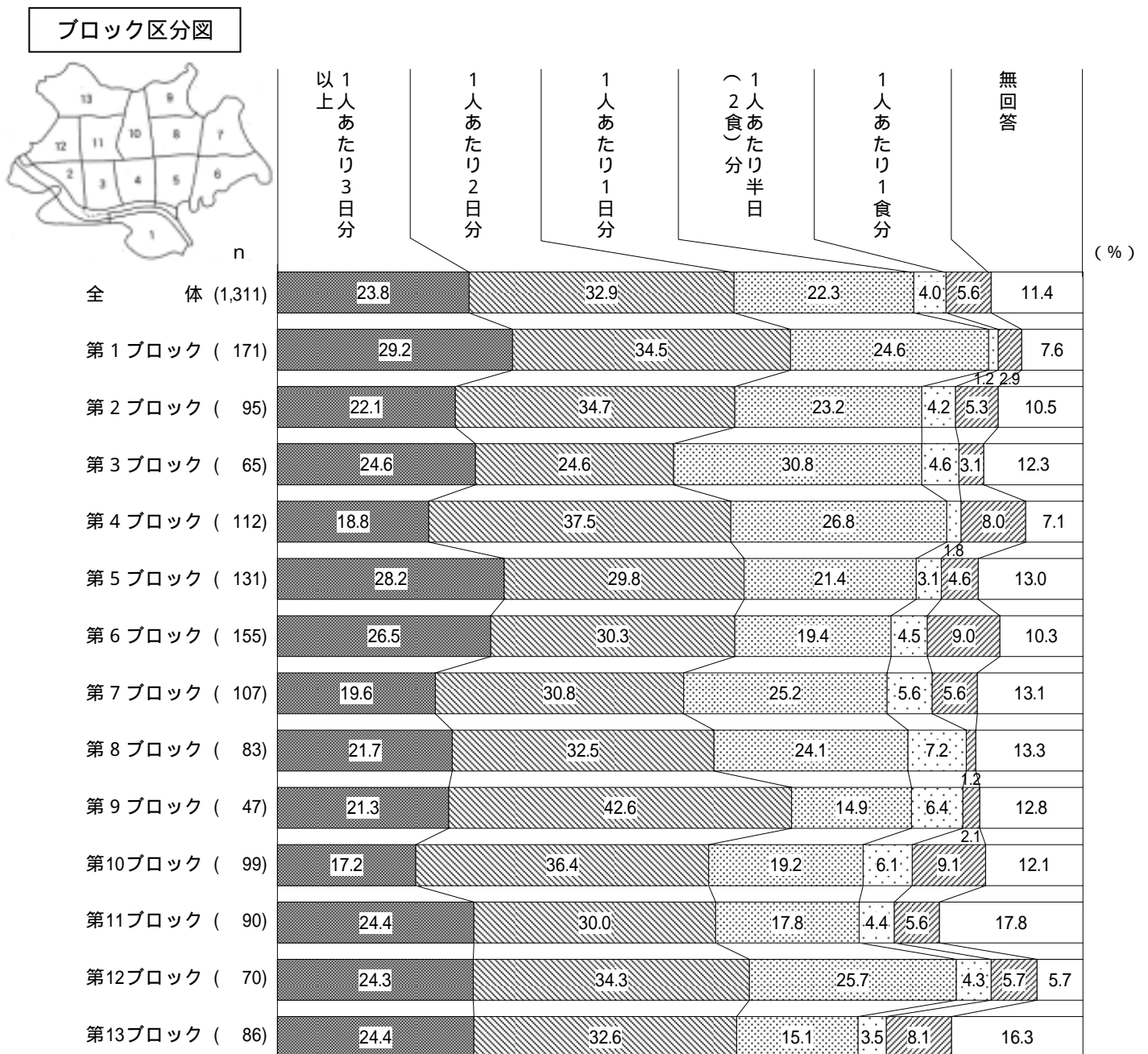
(1) 飲料水



地域ブロック別でみると、「1人あたり3日以上」は第1ブロック(29.2%)でほぼ3割と最も高くなっている。また、「1人あたり2日分」は第9ブロック(42.6%)で4割を超え、「1人あたり1日分」は第3ブロック(30.8%)で3割と高くなっている。(図2-6-3)

図2-6-3 家庭での備蓄の量 - 地域ブロック別(2)

(2) 非常食

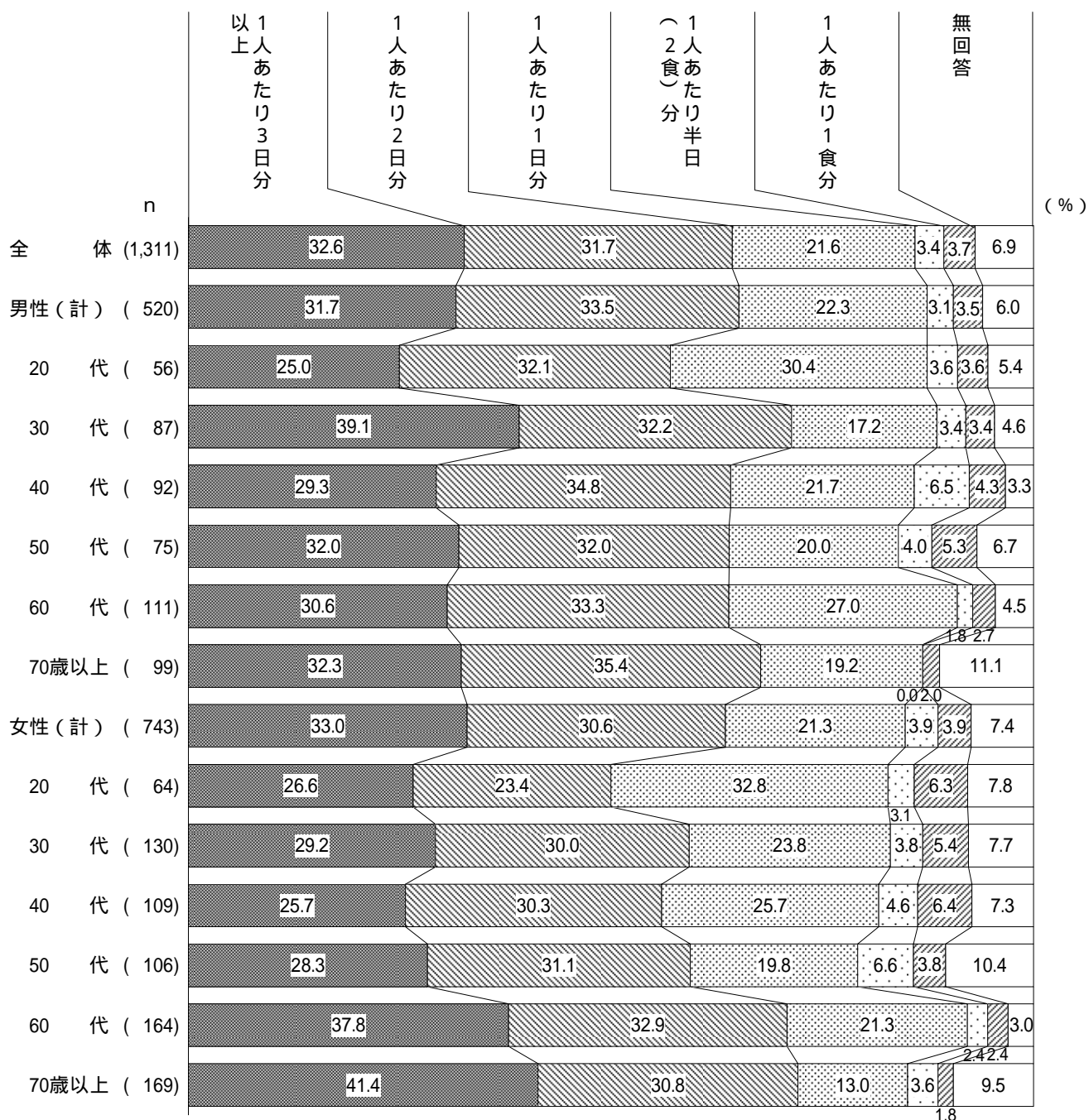


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「1人あたり3日分以上」は女性70歳以上（41.4%）で4割を超え高くなっている。また、「1人あたり2日分」は男性70歳以上（35.4%）と40代（34.8%）で3割半ば、「1人あたり1日分」は女性20代（32.8%）、男性20代（30.4%）で3割を超え高くなっている。（図2-6-4）

図2-6-4 家庭での備蓄の量 - 性別、性・年代別（1）

（1）飲料水

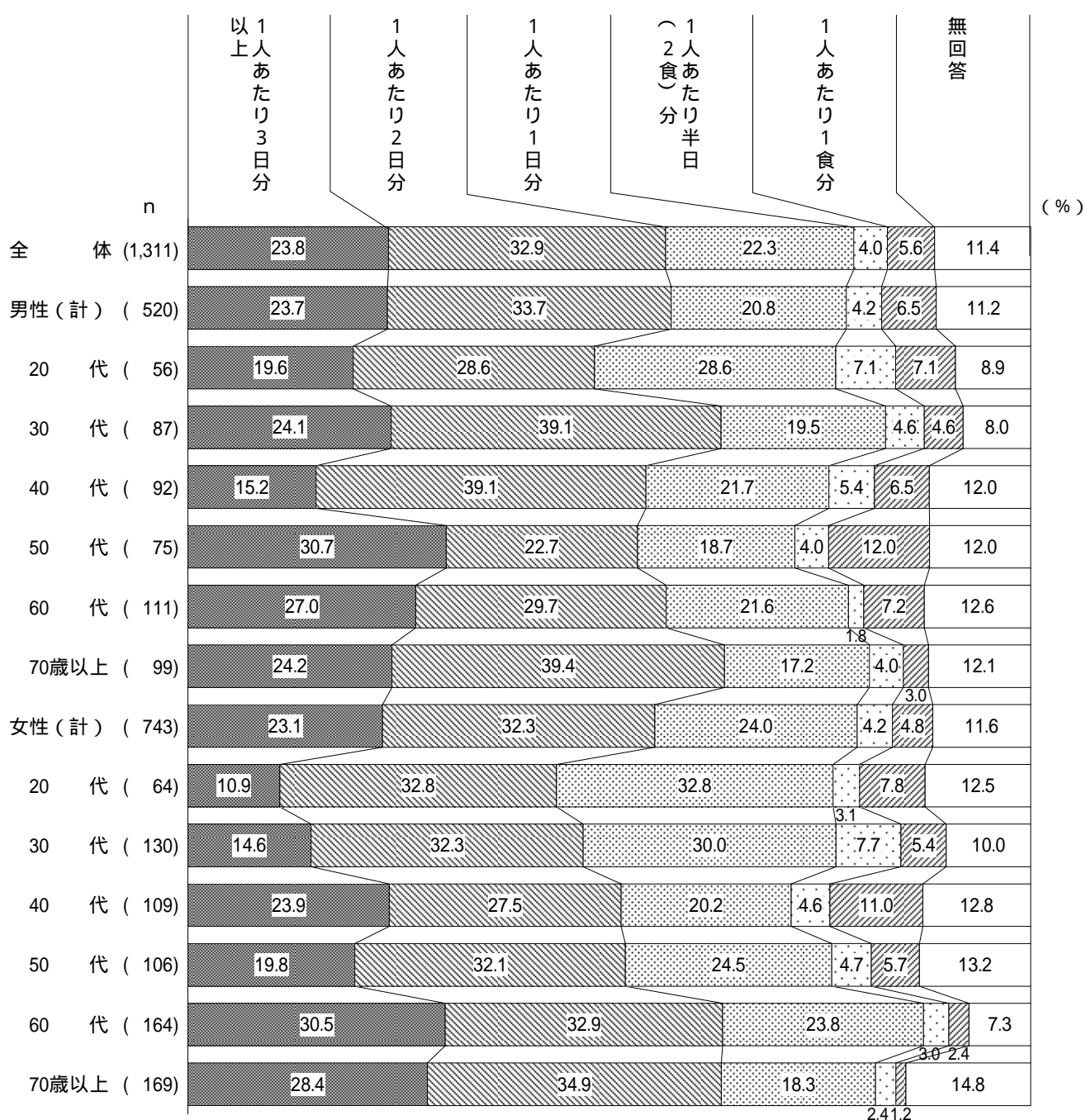


性別で見ると、女性で「1人あたり1日分」(24.0%)が男性(20.8%)より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「1人あたり3日分以上」は男性50代(30.7%)と女性60代(30.5%)で3割を超え高くなっている。また、「1人あたり2日分」は男性70歳以上(39.4%)、30代と40代(ともに39.1%)ではほぼ4割と高くなっている。(図2-6-5)

図2-6-5 家庭での備蓄の量 - 性別、性・年代別(2)

(2) 非常食

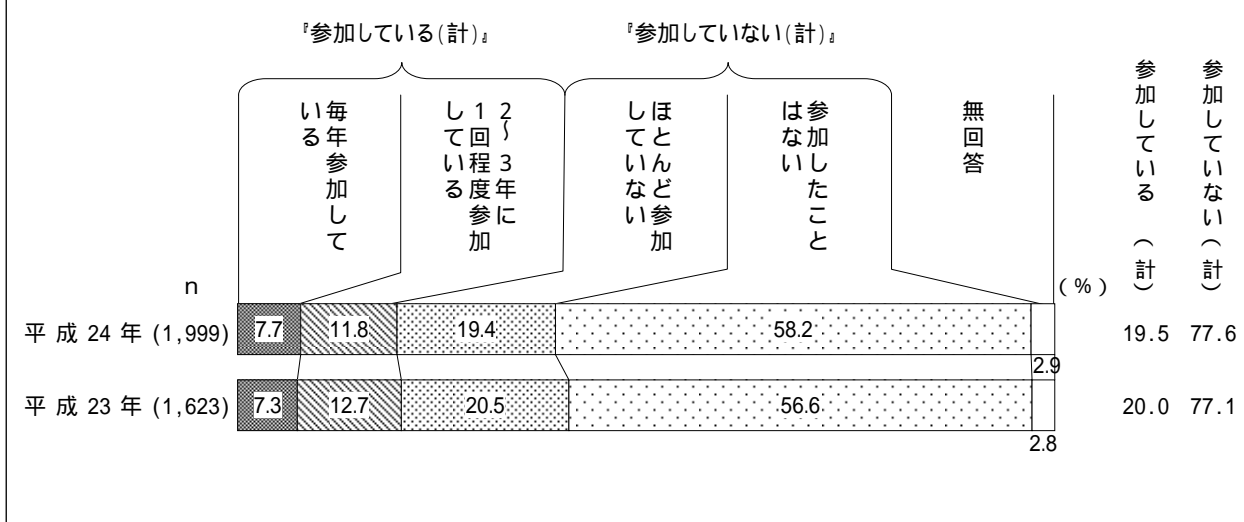


(3) 町会や自治会の防災訓練への参加状況

『参加している』人は2割にとどまる

問6 あなたは、町会や自治会の防災訓練に参加していますか。(は1つだけ)

図2-7-1 町会や自治会の防災訓練への参加状況 - 過年度比較

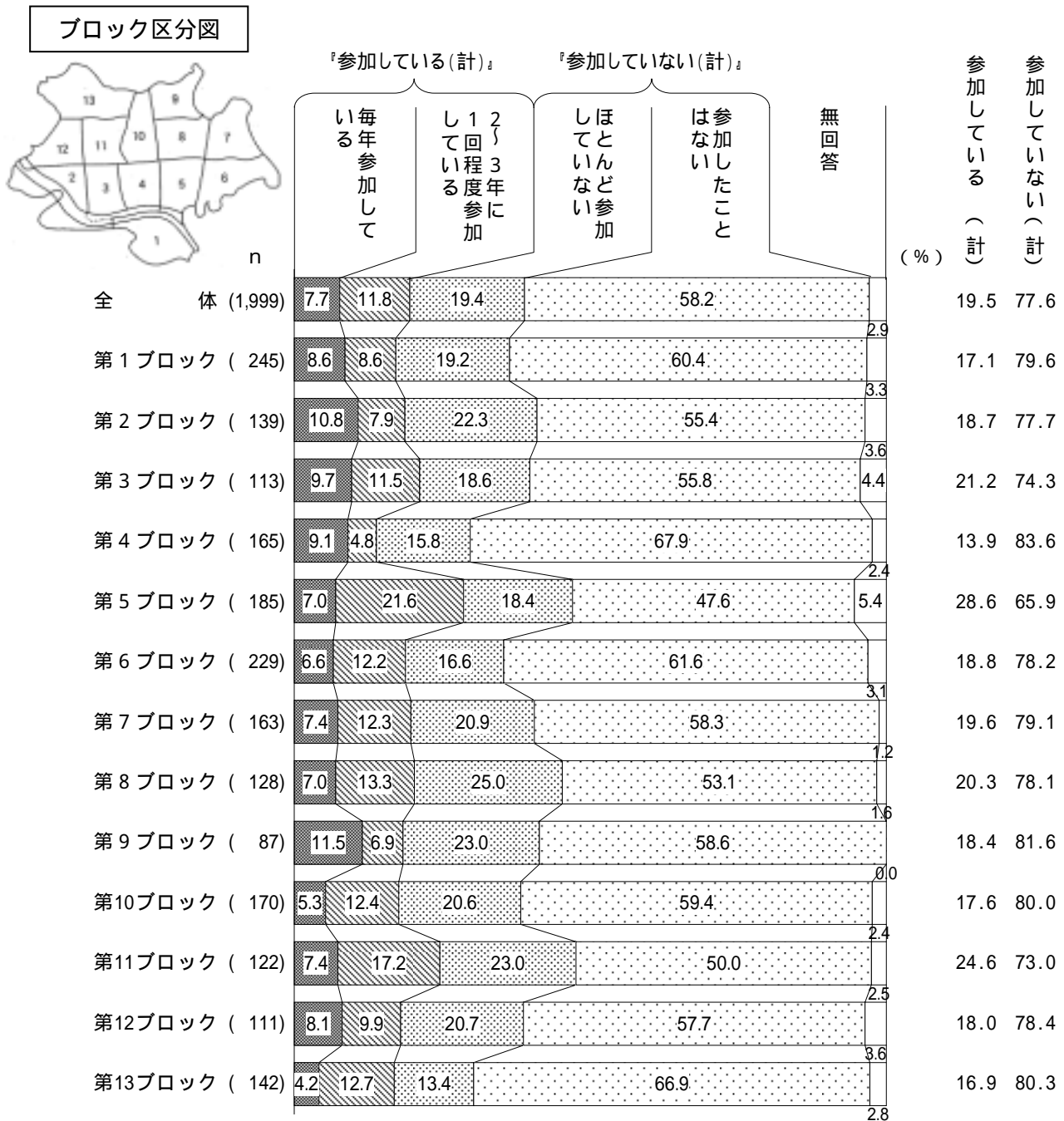


町会や自治会の防災訓練に参加しているか聞いたところ、「毎年参加している」(7.7%)と「2~3年に1回程度参加している」(11.8%)を合わせた『参加している(計)』(19.5%)がほぼ2割となっている。一方、「参加したことはない」(58.2%)が6割近くとなっており、これに「ほとんど参加していない」(19.4%)を合わせた『参加していない(計)』(77.6%)が8割近くとなっている。

平成23年調査と比較すると、ほぼ同じ傾向になっている。(図2-7-1)

地域ブロック別でみると、「毎年参加している」は第9ブロック（11.5%）、第2ブロック（10.8%）で1割を超え高く、『参加している（計）』では第5ブロック（28.6%）が3割近くと最も高くなっている。一方、『参加していない（計）』は第4ブロック（83.6%）と第9ブロック（81.6%）、第13ブロック（80.3%）で8割を超え高くなっている。（図2 - 7 - 2）

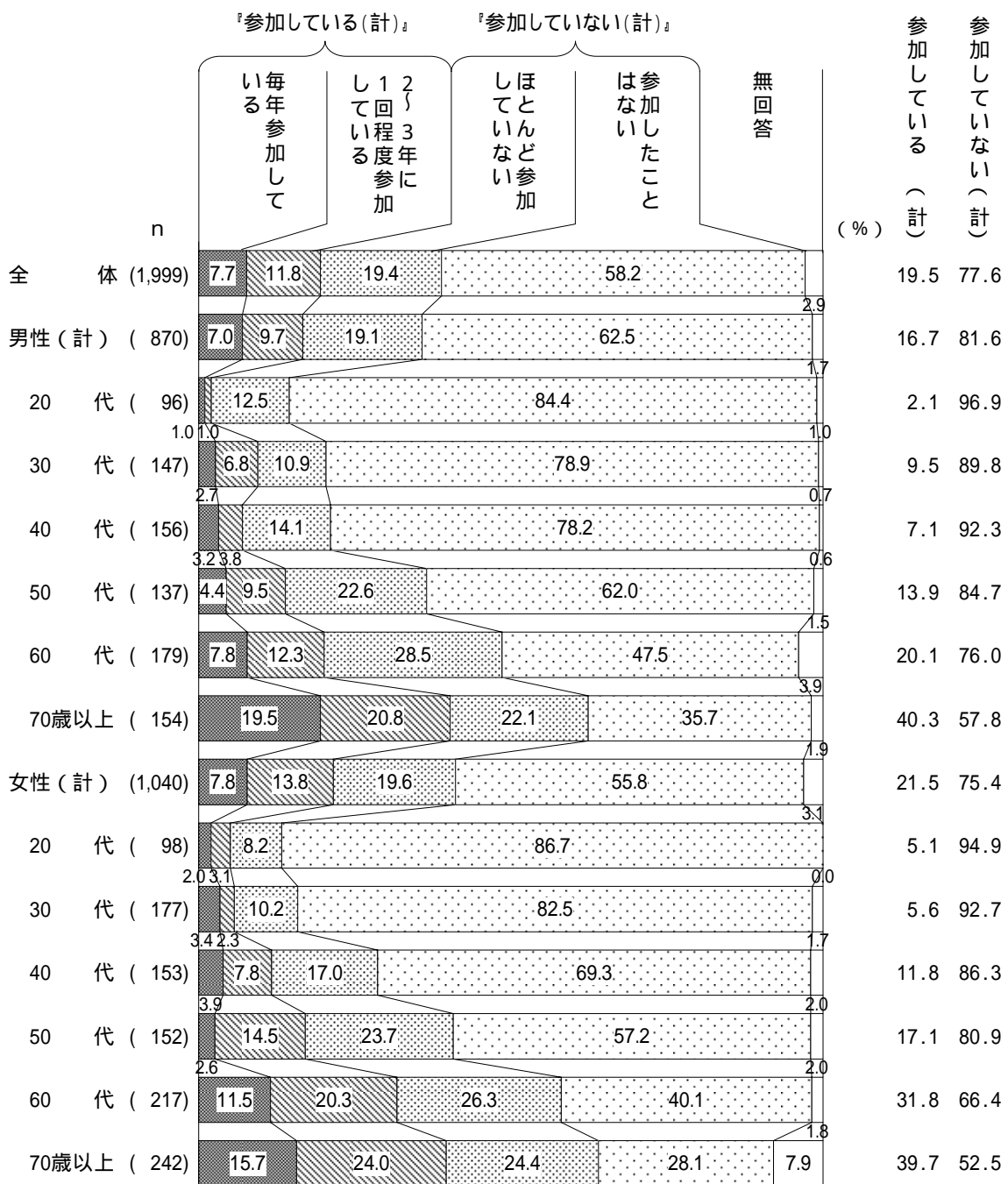
図2 - 7 - 2 町会や自治会の防災訓練への参加状況 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で『参加していない(計)』(81.6%)が女性(75.4%)より6.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「毎年参加している」は男性70歳以上(19.5%)でほぼ2割と高く、「2~3年に1回程度参加している」は女性70歳以上(24.0%)で2割半ばと高くなっている。また、『参加している(計)』は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に70歳以上(男性40.3%・女性39.7%)で4割と高くなっている。一方、『参加していない(計)』は男性20代(96.9%)と40代(92.3%)、女性20代(94.9%)と30代(92.7%)で9割台と高くなっている。(図2-7-3)

図2-7-3 町会や自治会の防災訓練への参加状況 - 性別、性・年代別



(3 - 1) 防災訓練へ参加しない理由

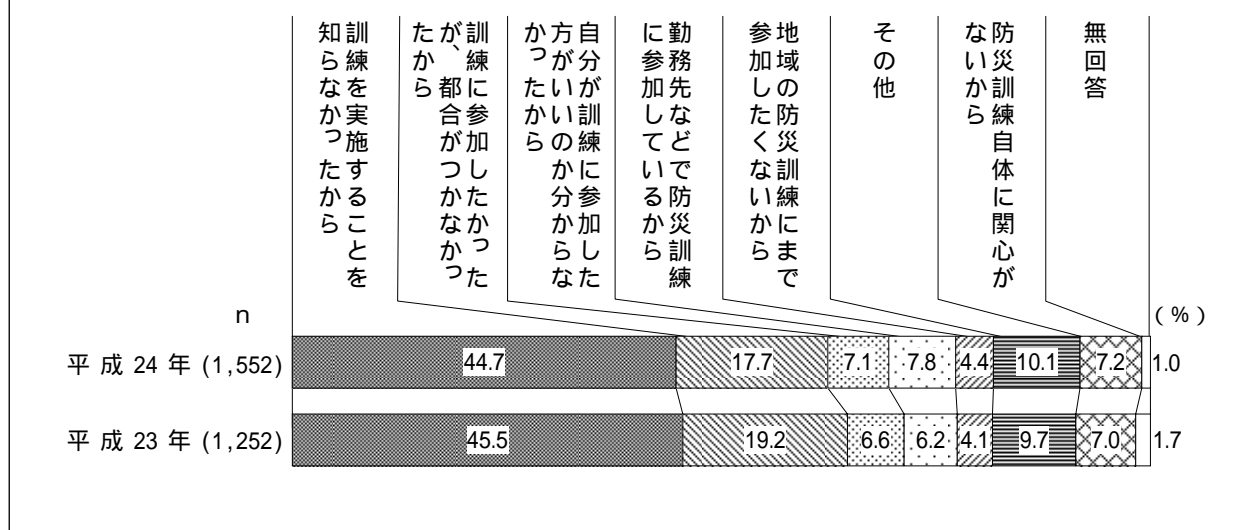
「訓練を実施することを知らなかったから」が4割半ばで最も高い

(問6で「ほとんど参加していない」又は「参加したことはない」とお答えの方に)

問6 - 1 町会や自治会の防災訓練に参加しない理由をお答えください。

(は最もあてはまるもの1つ)

図2 - 8 - 1 防災訓練へ参加しない理由 - 過年度比較



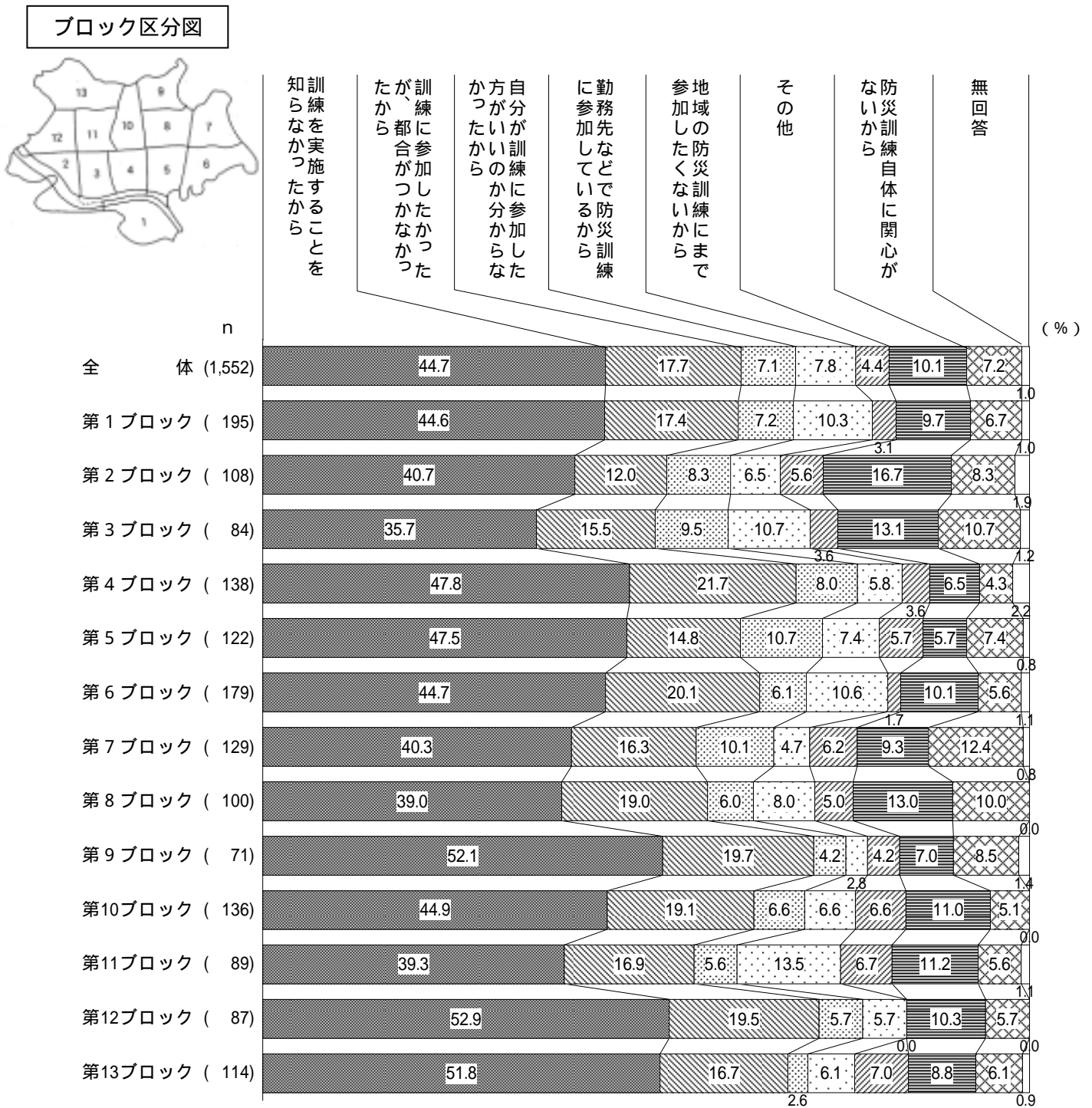
町会や自治会の防災訓練に「ほとんど参加していない」又は「参加したことはない」人(1,552人)に、理由を聞いたところ、「訓練を実施することを知らなかったから」(44.7%)が4割半ばで最も高く、次いで「訓練に参加したかったが、都合がつかかつたから」(17.7%)が2割近くとなっている。一方、「防災訓練自体に関心がないから」(7.2%)は1割未満となっている。

平成 23 年調査と比較すると、ほぼ同じ傾向になっている。(図2 - 8 - 1)

地域ブロック別でみると、「訓練を実施することを知らなかったから」は第12ブロック(52.9%)と第9ブロック(52.1%)と第13ブロック(51.8%)で5割を超え高くなっている。

(図2-8-2)

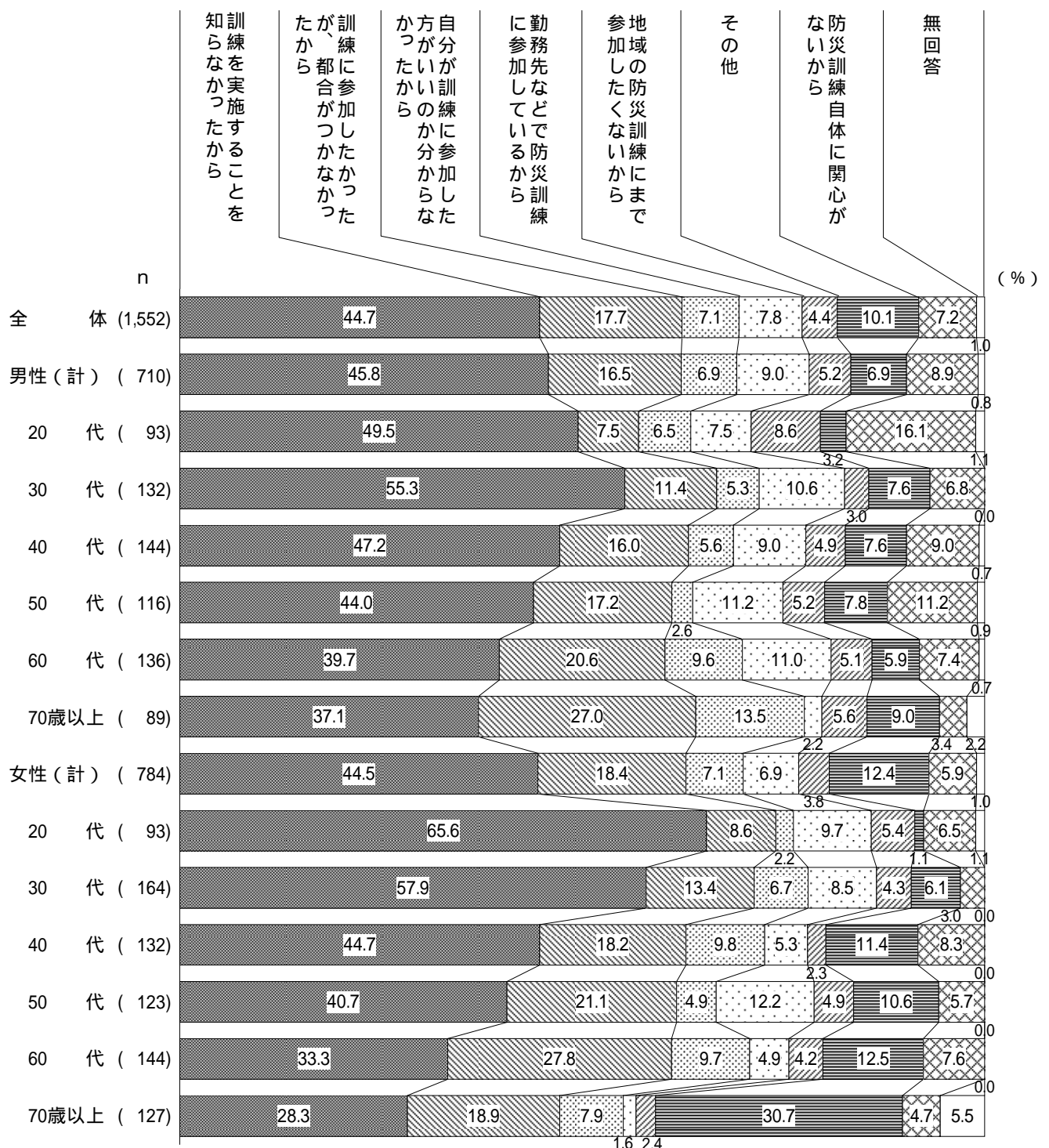
図2-8-2 防災訓練へ参加しない理由 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で「防災訓練自体に関心がないから」（8.9%）が女性（5.9%）より3.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「訓練を実施することを知らなかったから」は男女ともおおむね低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に女性20代（65.6%）で6割半ばと高くなっている。また、「訓練に参加したかったが、都合がつかなかったから」は女性60代（27.8%）と男性70歳以上（27.0%）で3割近くと高くなっている。（図2-8-3）

図2-8-3 防災訓練へ参加しない理由 - 性別、性・年代別

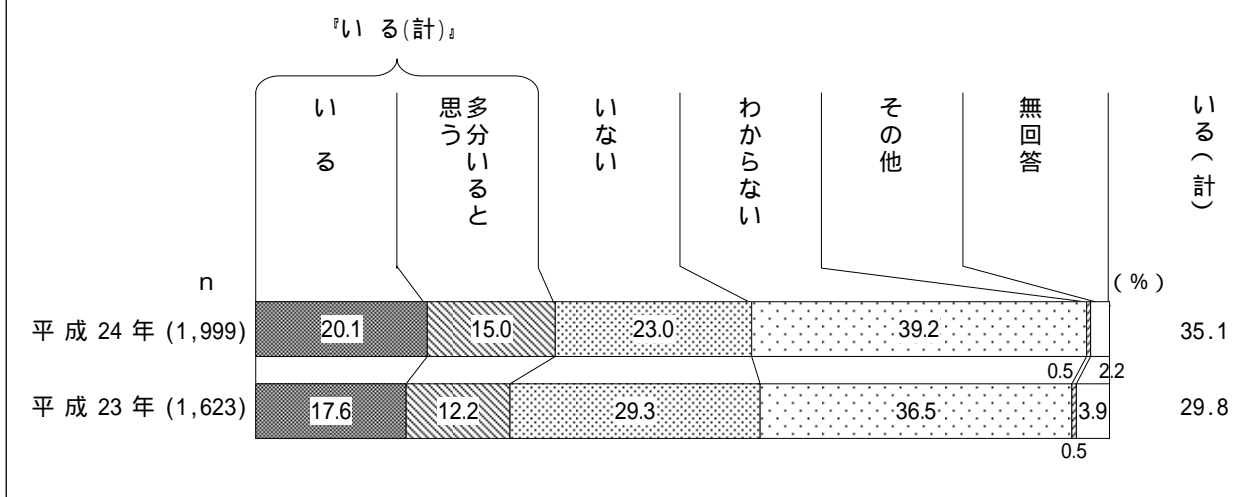


(4) 災害弱者・災害時要援護者の有無

3割半ばの人が『いる』と回答

問7 あなたの近隣に高齢者のみの世帯、一人暮らしの高齢者、障がい者など災害発生時に自力あるいは家族等の支援を受けても避難することが困難と思われる災害弱者・災害時要援護者といわれる方はいますか。(は1つだけ)

図2-9-1 災害弱者・災害時要援護者の有無 - 過年度比較

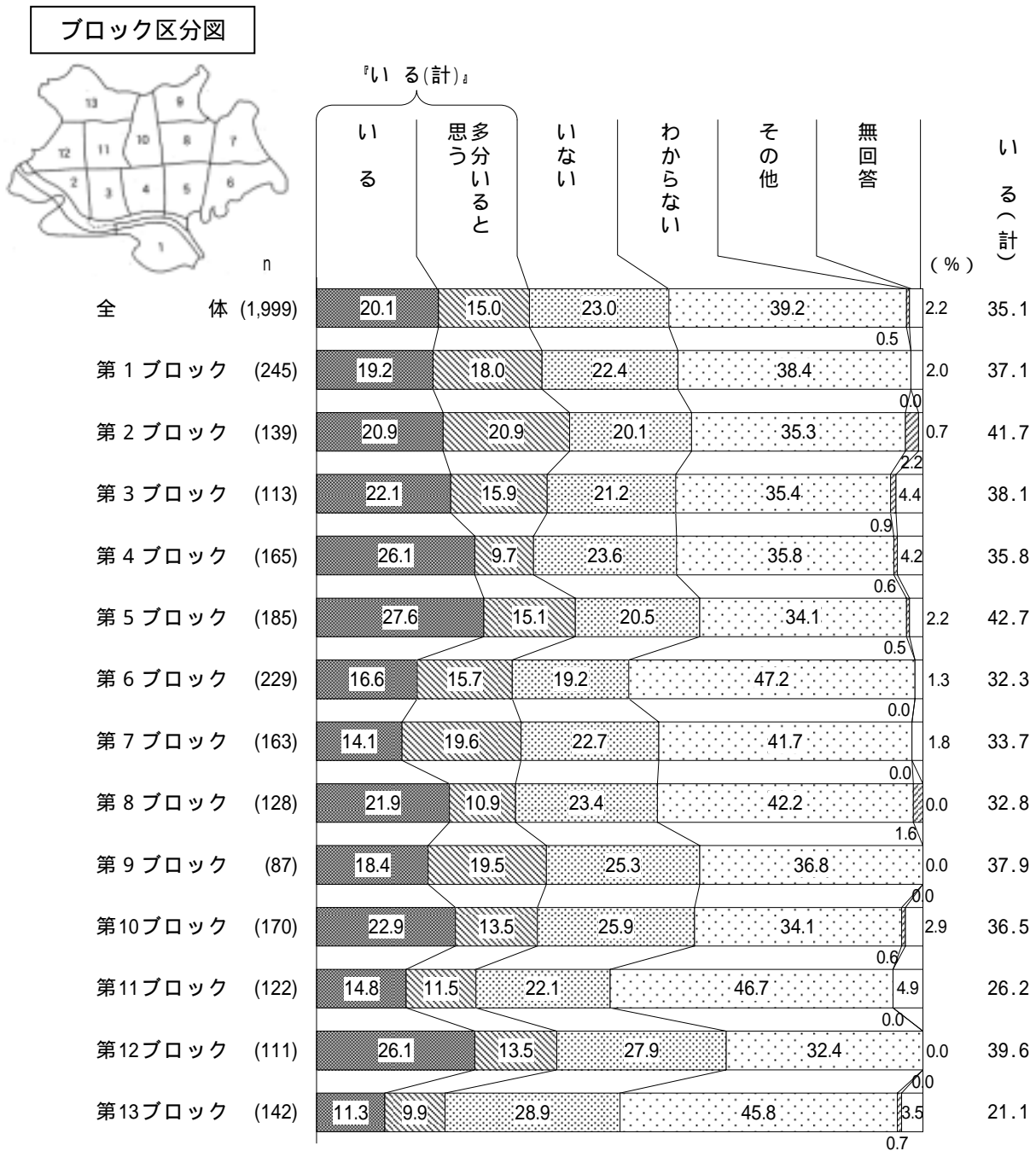


近隣に災害弱者・災害時要援護者がいるか聞いたところ、「いる」(20.1%)が2割で、これに「多分いると思う」(15.0%)を合わせた『いる(計)』(35.1%)が3割半ばとなっている。また、「いない」(23.0%)が2割を超え、「わからない」(39.2%)がほぼ4割となっている。

平成23年調査と比較すると、『いる(計)』は5.3ポイント増加し、「いない」は6.3ポイント減少している。(図2-9-1)

地域ブロック別でみると、『いる(計)』は第5ブロック(42.7%)と第2ブロック(41.7%)で4割を超え高くなっている。一方、『いない』は第13ブロック(28.9%)と第12ブロック(27.9%)で3割近くと高くなっている。(図2-9-2)

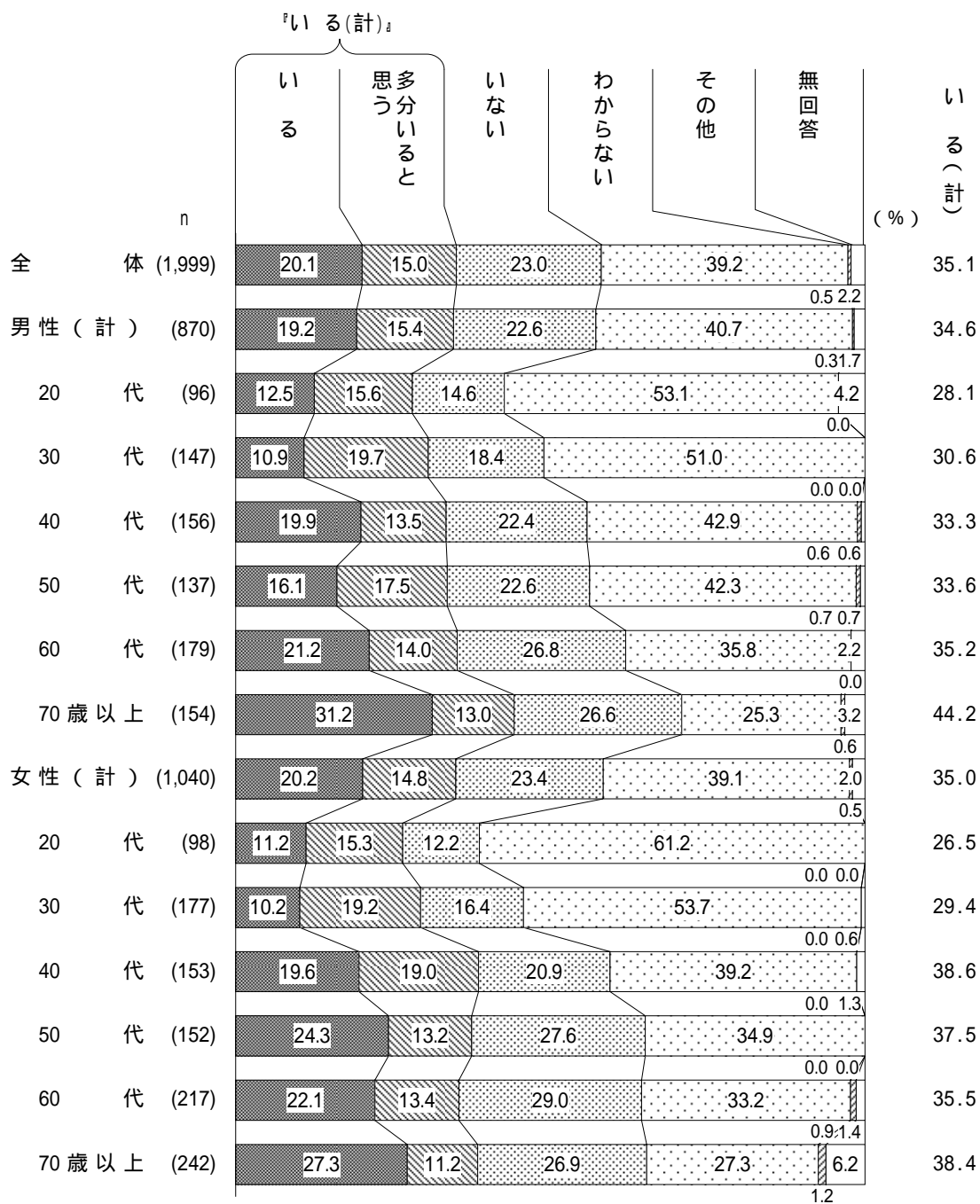
図2-9-2 災害弱者・災害時要援護者の有無 - 地域ブロック別



性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「いる」は男性70歳以上(31.2%)で3割を超え最も高く、『いる(計)』でも男性70歳以上(44.2%)で4割半ばと最も高くなっている。また、「わからない」は男女とも低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に女性20代(61.2%)で6割を超え高くなっている。(図2-9-3)

図2-9-3 災害弱者・災害時要援護者の有無 - 性別、性・年代別



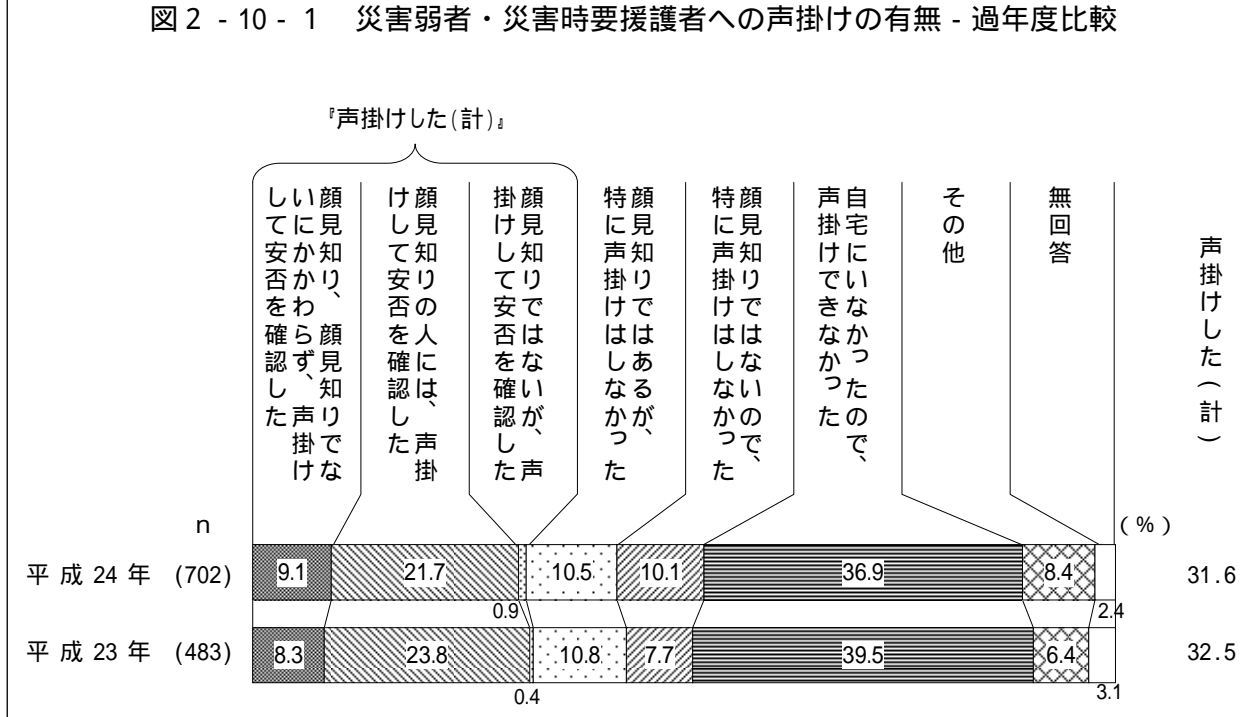
(4 - 1) 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無

『声掛けした』人が3割を超えている。また、「自宅にいなかったので、声掛けできなかった」人が4割近く

(問7で「いる」又は「多分いると思う」とお答えの方に)

問7 - 1 東日本大震災が発生した際に災害弱者・災害時要援護者といわれる方に声掛けをしましたか。(は1つだけ)

図2 - 10 - 1 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無 - 過年度比較

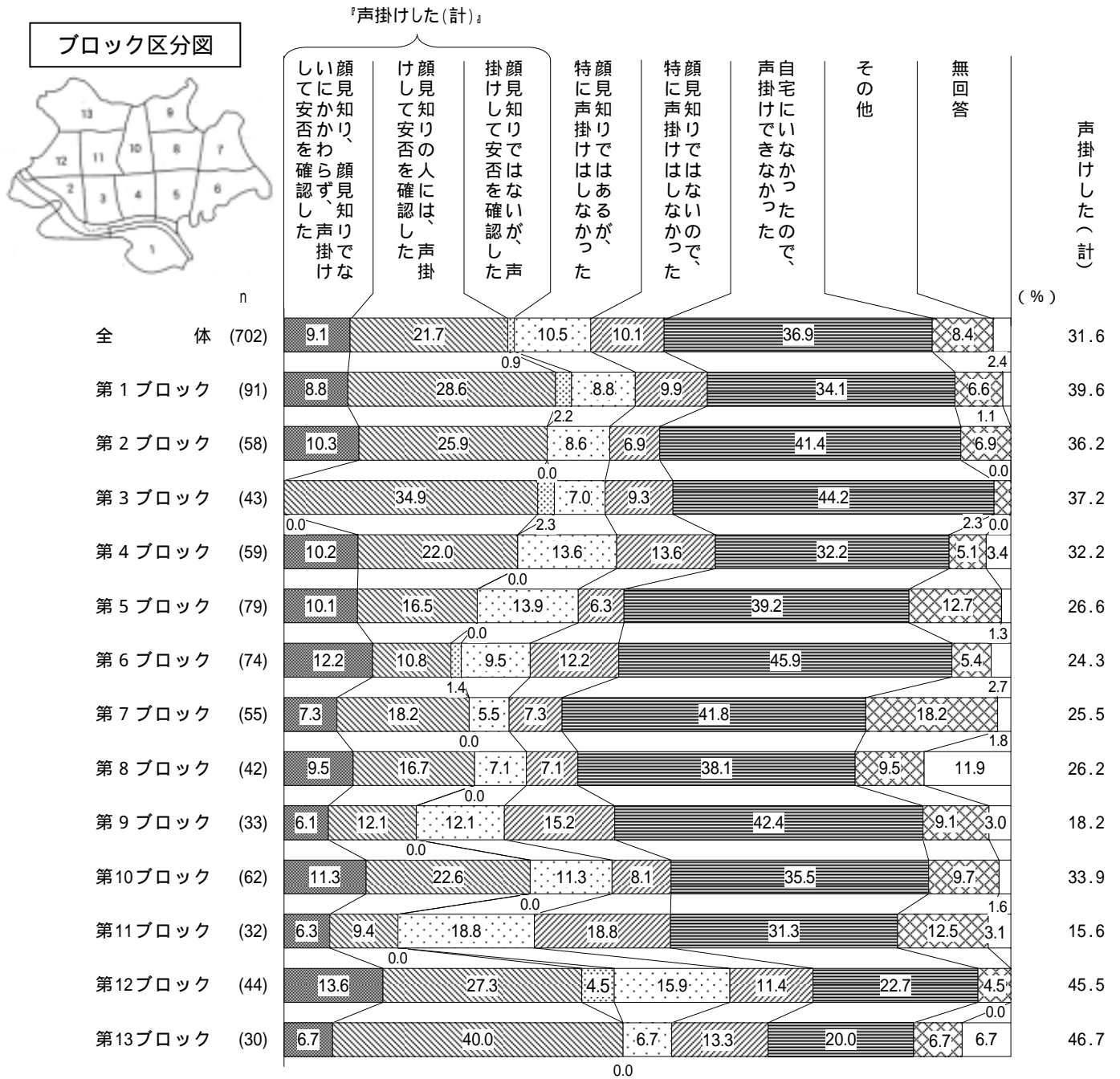


近隣に災害弱者・災害時要援護者が「いる」又は「多分いると思う」人(702人)に、震災が発生した際にその方々へ声掛けをしたか聞いたところ、「顔見知りの人には、声掛けして安否を確認した」(21.7%)が2割を超え、これに「顔見知り、顔見知りでないにかかわらず、声掛けして安否を確認した」(9.1%)と「顔見知りではないが、声掛けして安否を確認した」(0.9%)を合わせた『声掛けした(計)』(31.6%)が3割を超えている。また、「自宅にいなかったので、声掛けできなかった」(36.9%)が4割近くとなっている。

平成23年調査と比較すると、ほぼ同じ回答割合になっている。(図2 - 10 - 1)

地域ブロック別でみると、「顔見知りの人には、声掛けして安否を確認した」は第13ブロック(40.0%)で4割と高くなっている。また、『声掛けした(計)』でも第13ブロック(46.7%)、第12ブロック(45.5%)で4割半ばと高くなっている。一方、「自宅にいなかったため、声掛けできなかった」は第6ブロック(45.9%)と第3ブロック(44.2%)で4割半ばと高くなっている。(図2-10-2)

図2-10-2 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無 - 地域ブロック別



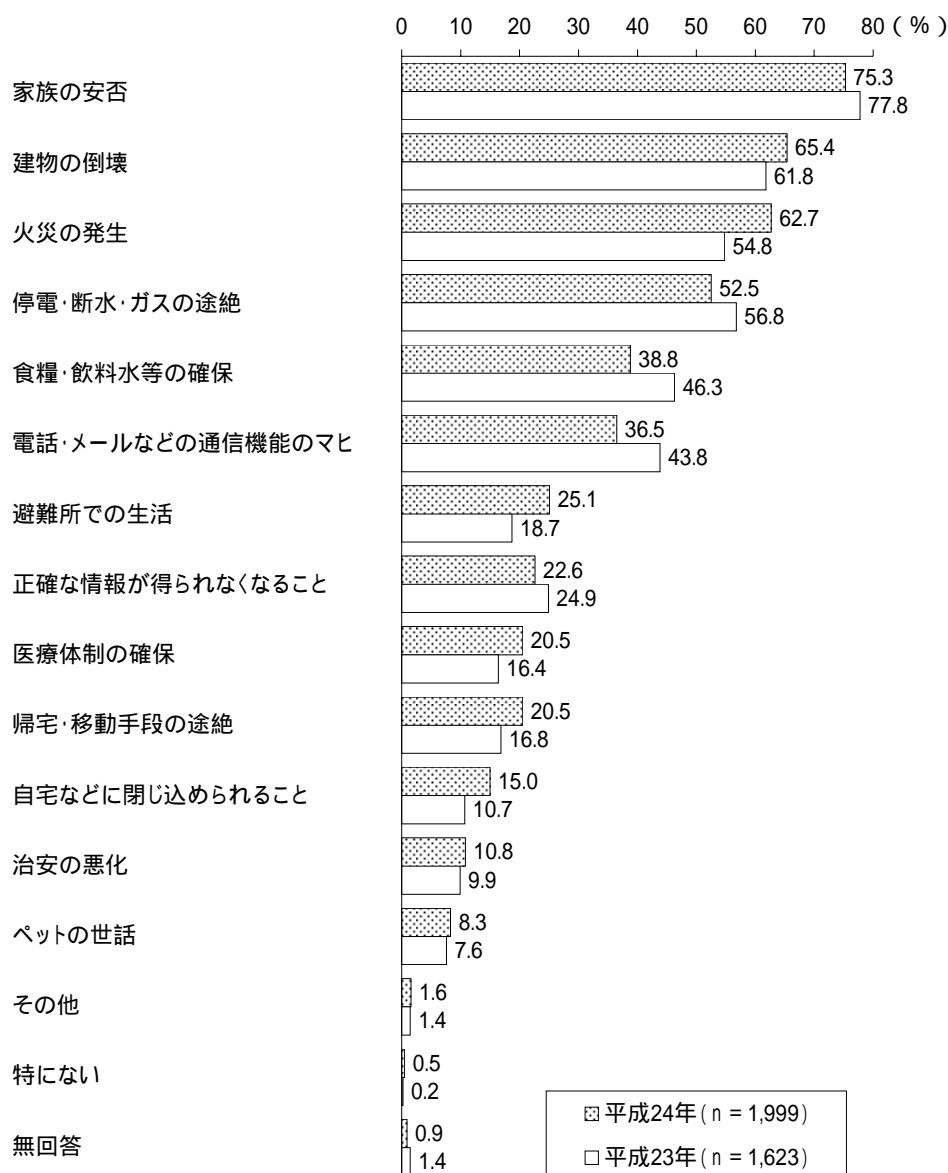
(5) 大地震が起きたとき不安に思うこと

「家族の安否」が7割半ばで最も高い

問 8 身近に大地震が起きた場合に、あなたが特に不安に思うことは何ですか。

(は最大5つまで)

図 2 - 11 - 1 大地震が起きたとき不安に思うこと - 過年度比較



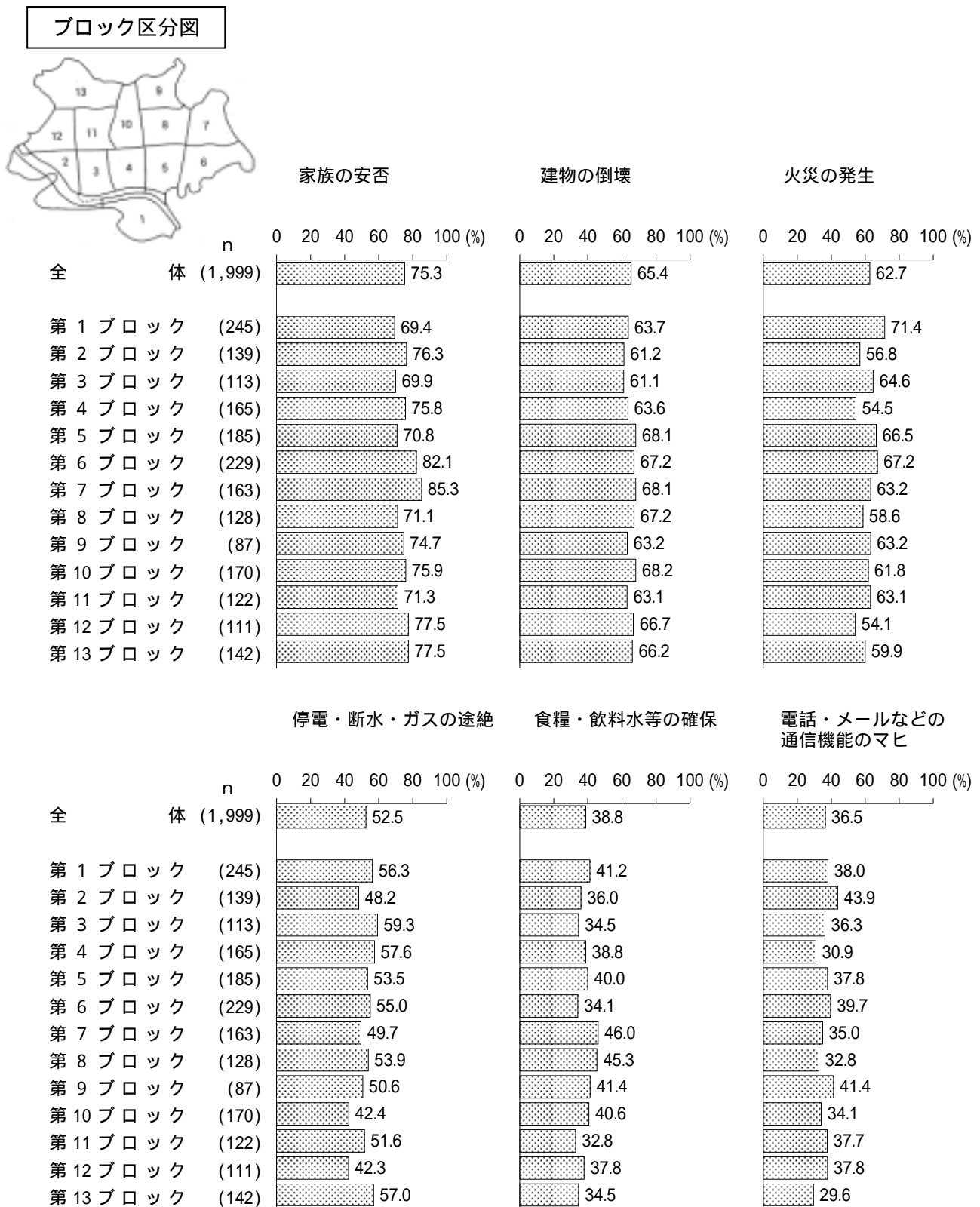
身近に大地震が起きたとした場合に、特に不安に思うことを聞いたところ、「家族の安否」(75.3%)が7割半ばで最も高く、次いで「建物の倒壊」(65.4%)、「火災の発生」(62.7%)、「停電・断水・ガスの途絶」(52.5%)、「食糧・飲料水等の確保」(38.8%)の順となっている。

平成23年調査と比較すると、「火災の発生」は7.9ポイント、「避難所での生活」は6.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「食糧・飲料水等の確保」は7.5ポイント、「電話・メールなどの通信機能のマヒ」は7.3ポイント、それぞれ減少している。(図2-11-1)

地域ブロック別でみると、「家族の安否」は第7ブロック（85.3%）で8割半ばと高くなっている。また、「火災の発生」は第1ブロック（71.4%）で7割を超え高くなっている。

（図2 - 11 - 2）

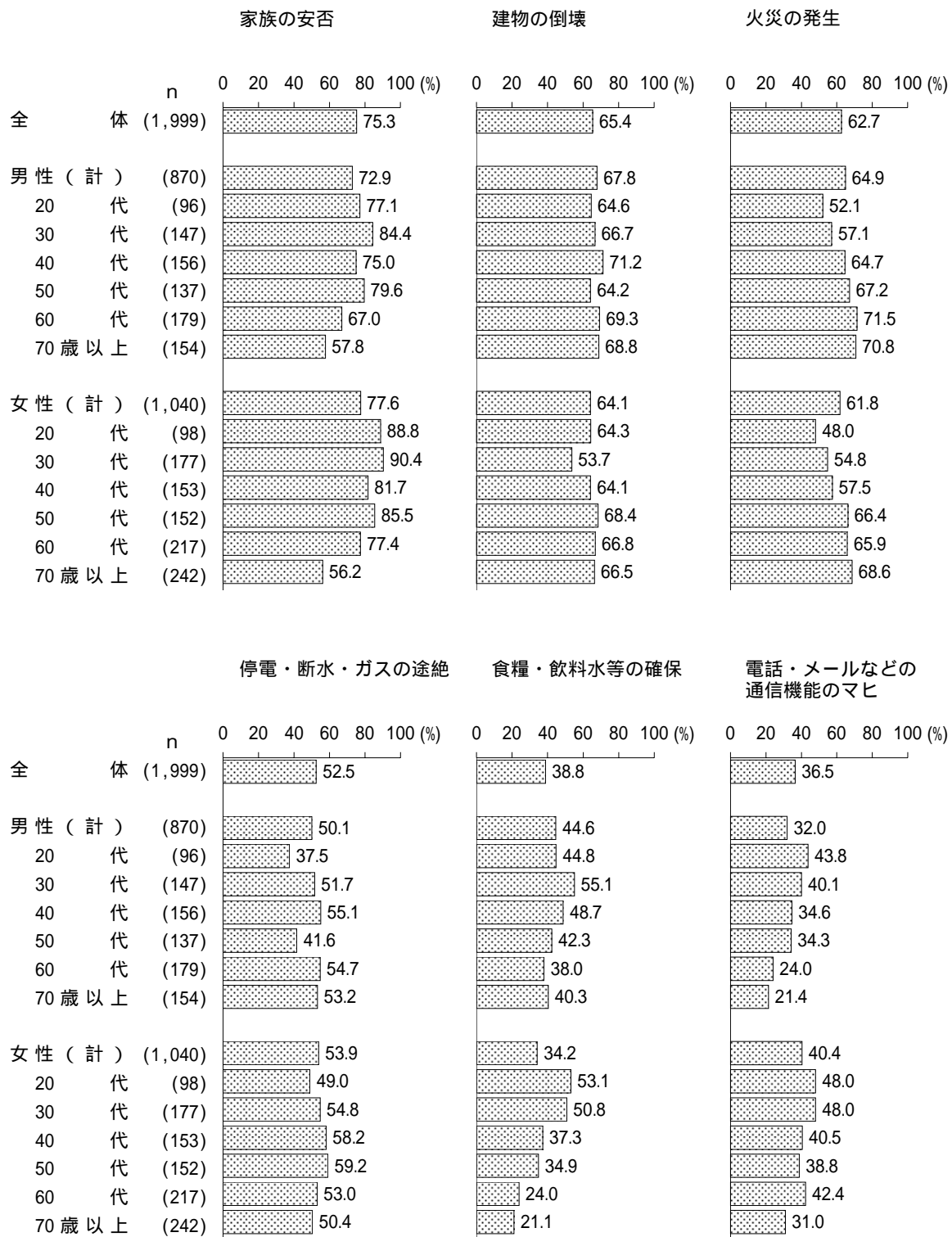
図2 - 11 - 2 大地震が起きたとき不安に思うこと - 地域ブロック別（上位6位）



性別で見ると、男性で「食糧・飲料水等の確保」(44.6%)が女性(34.2%)より10.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「家族の安否」は女性30代(90.4%)で9割と最も高くなっている。また、「火災の発生」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、「食糧・飲料水等の確保」は男女ともおおむね低い年代ほど割合が高くなる傾向にある。(図2-11-3)

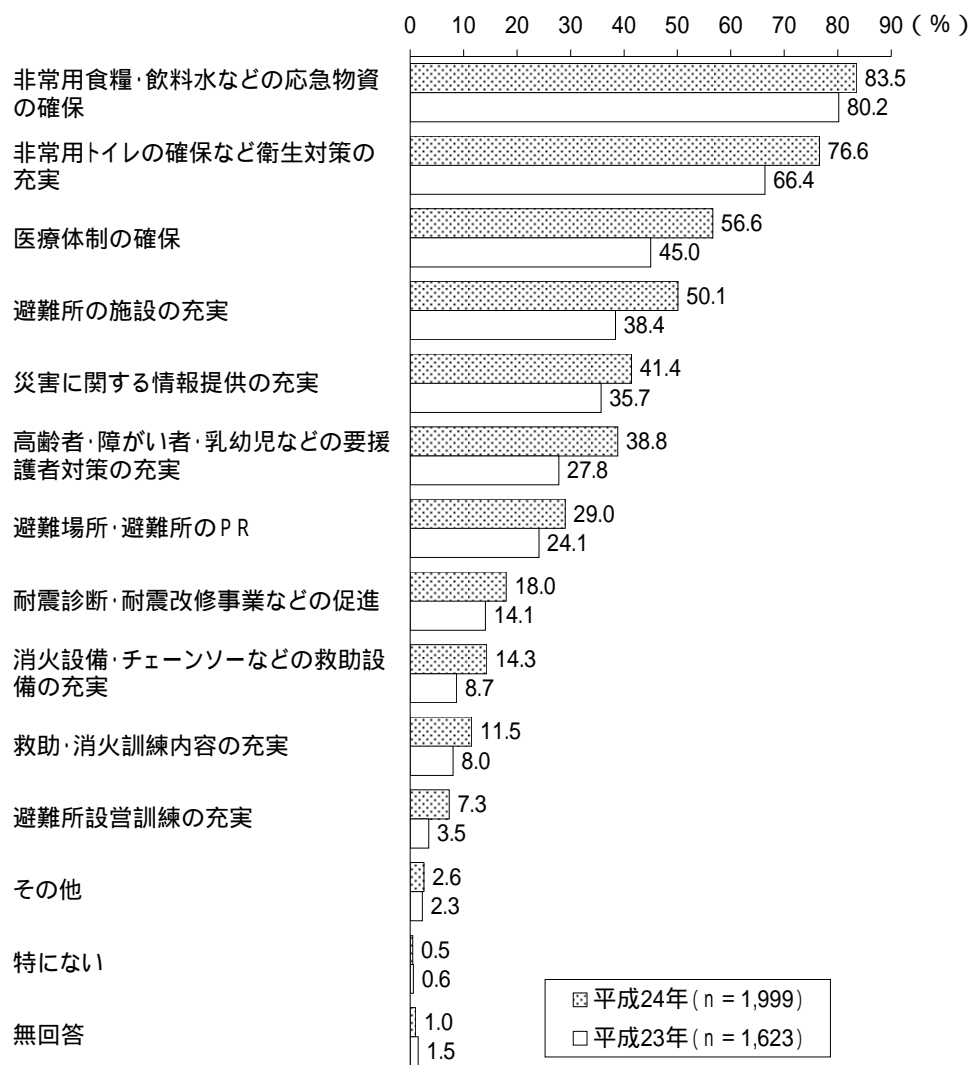
図2-11-3 大地震が起きたとき不安に思うこと - 性別、性・年代別(上位6位)



(6) 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと
 「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」が8割を超え最も高い

問9 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。(は最大5つまで)

図2-12-1 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと - 過年度比較



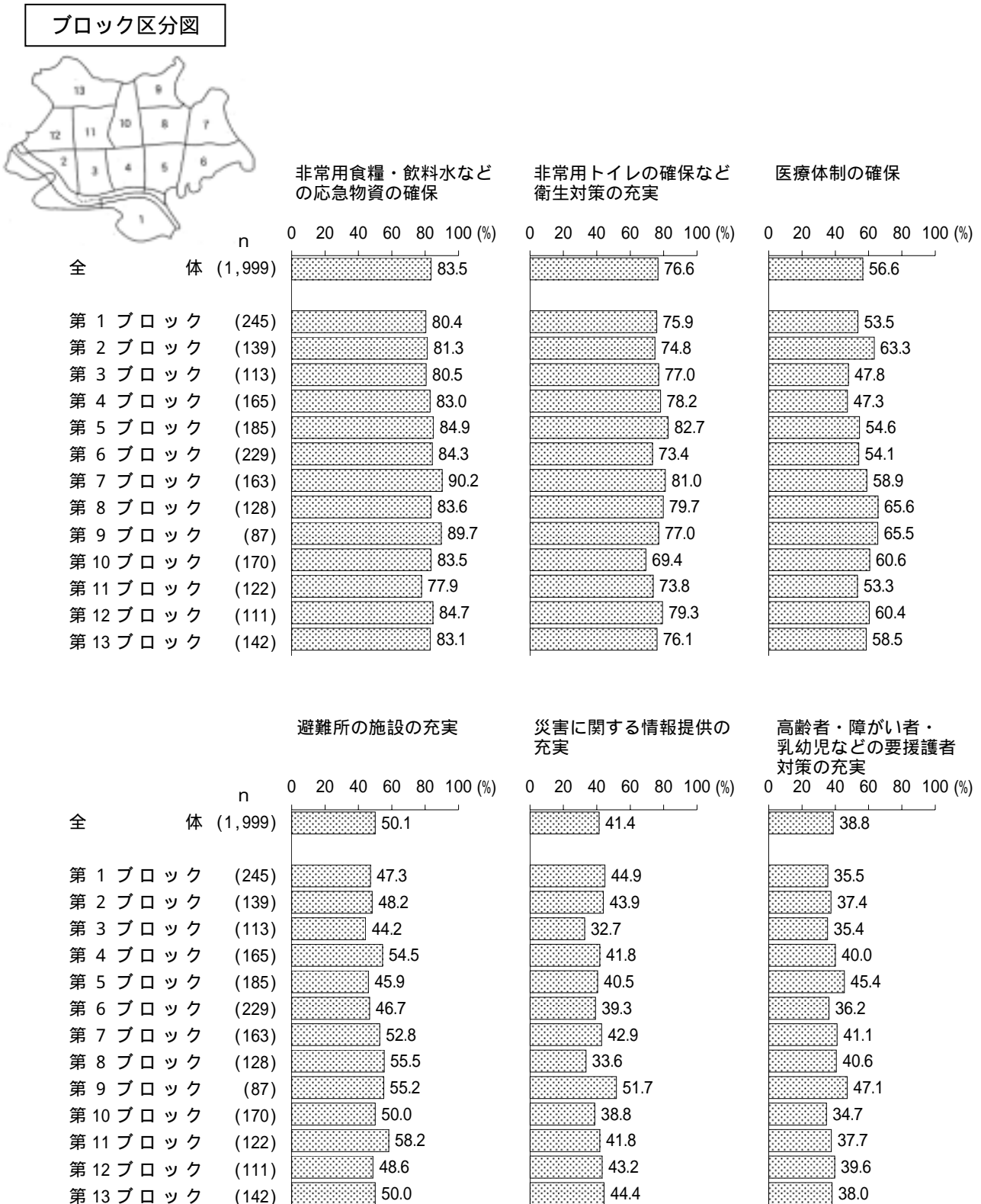
(注) 平成23年調査では選択個数制限が4つまでであったが、今回調査では5つまでに変更になったため、結果を単純に比較することはできない。

大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいと考えていることを聞いたところ、「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」(83.5%)が8割を超え最も高く、次いで「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(76.6%)、「医療体制の確保」(56.6%)、「避難所の施設の充実」(50.1%)、「災害に関する情報提供の充実」(41.4%)の順となっている。

(図2-12-1)

地域ブロック別でみると、「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」は第7ブロック（90.2%）で9割と最も高くなっている。また、「災害に関する情報提供の充実」は第9ブロック（51.7%）で5割を超え高くなっている。（図2-12-2）

図2-12-2 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと
- 地域ブロック別（上位6位）

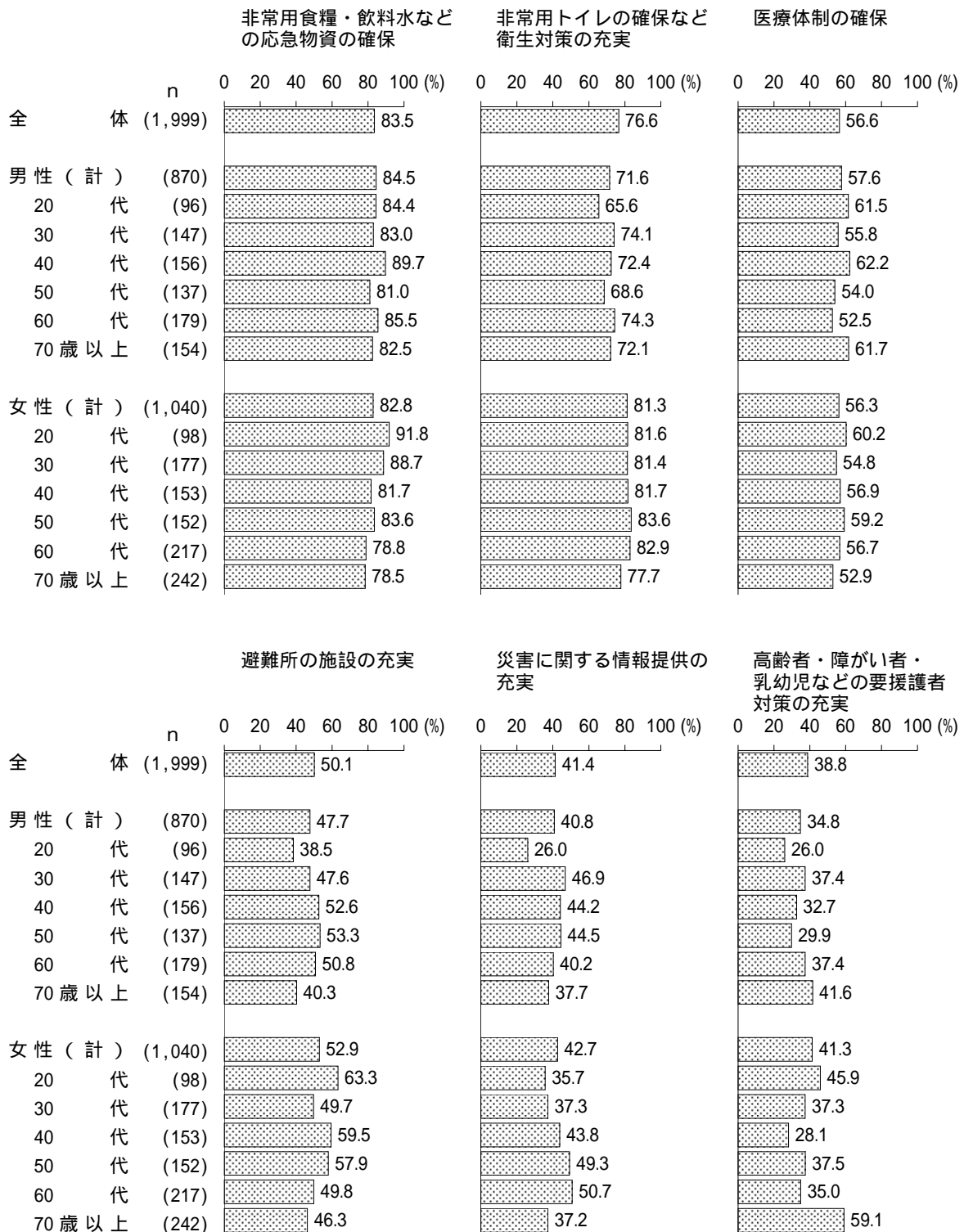


性別で見ると、女性で「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」（81.3%）が男性（71.6%）より9.7ポイント高く、「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」（41.3%）で男性（34.8%）より6.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」は女性20代（91.8%）で9割を超え、「避難所の施設の充実」は女性20代（63.3%）で6割を超え高くなっている。

（図2 - 12 - 3）

図2 - 12 - 3 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと
- 性別、性・年代別（上位6位）



3 環境・エネルギーに 対する意識

-
- (1) 環境のために心がけていること
 - (2) 震災前のエネルギーに対する意識
 - (3) 震災後のエネルギーに対する意識
 - (4) エネルギーに対する考え
 - (5) エネルギー使用についての現在の状況
-

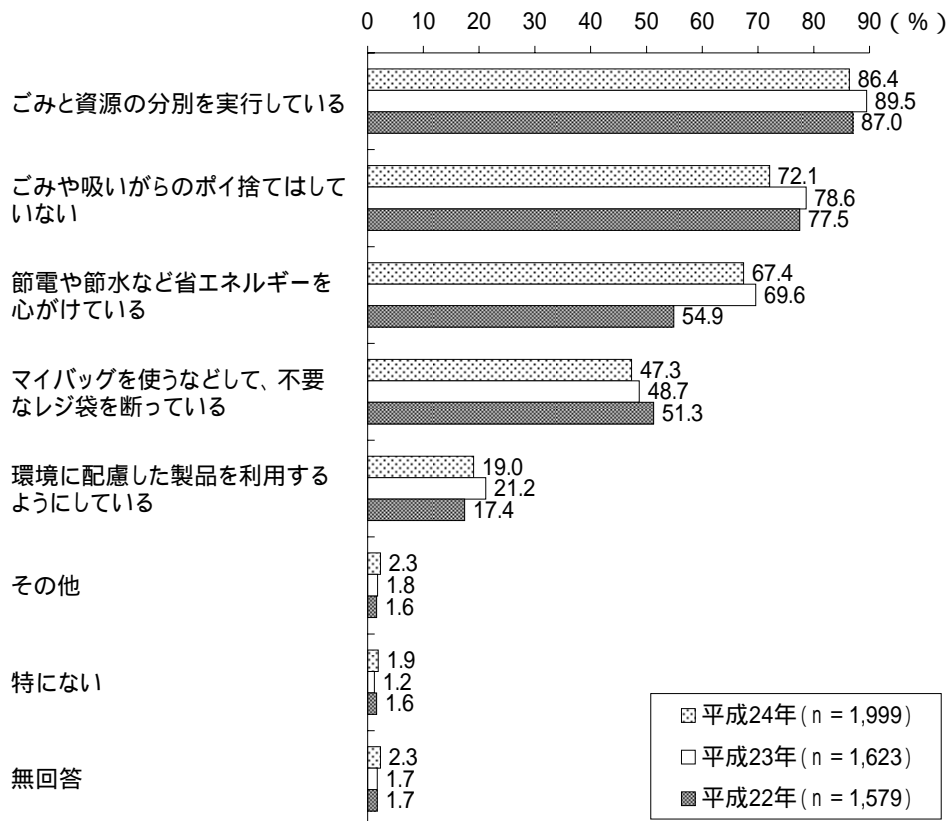
3 環境・エネルギーに対する意識

(1) 環境のために心がけていること

「ごみと資源の分別を実行している」人が8割半ば

問10 あなたが環境のために心がけていることは何ですか。(はあてはまるものすべて)

図3 - 1 - 1 環境のために心がけていること - 過年度比較



環境のために心がけていることを聞いたところ、「ごみと資源の分別を実行している」(86.4%)が8割半ばで最も高く、次いで「ごみや吸いがらのポイ捨てはしていない」(72.1%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(67.4%)、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(47.3%)、「環境に配慮した製品を利用するようにしている」(19.0%)の順となっている。

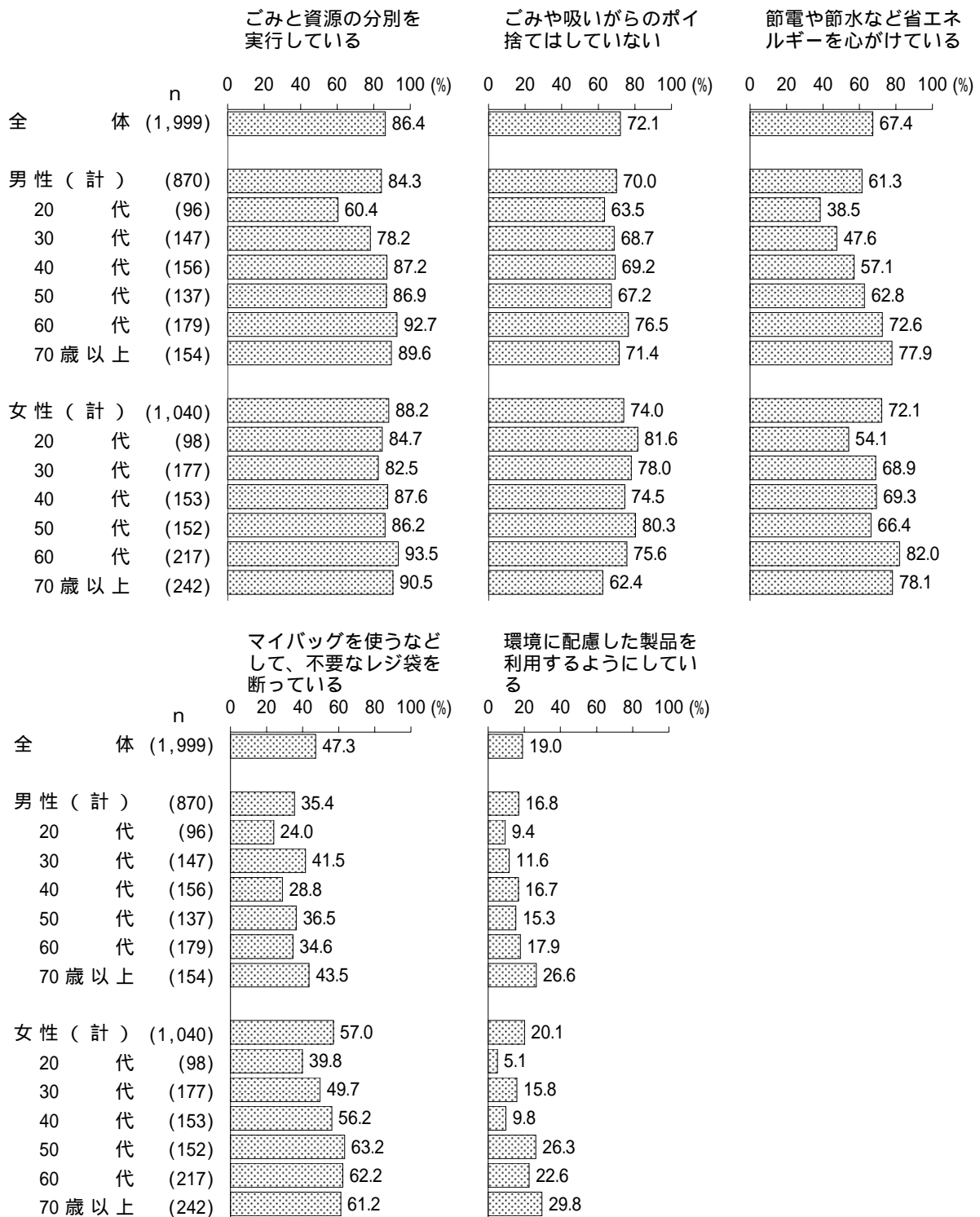
過去の調査と比較すると、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は平成22年以降減少傾向となっている。また、「ごみや吸いがらのポイ捨てはしていない」は平成23年より6.5ポイント減少している。(図3 - 1 - 1)

性別で見ると、いずれにおいても女性が男性を上回っており、特に「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（57.0%）が男性（35.4%）より 21.6 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「ごみと資源の分別を実行している」は男女とも60代（女性93.5%・男性92.7%）と女性70歳以上（90.5%）で9割を超え高くなっている。また、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は男性では高い年代ほど割合が高くなる傾向にある。

（図3 - 1 - 2）

図3 - 1 - 2 環境のために心がけていること - 性別、性・年代別（上位5位）

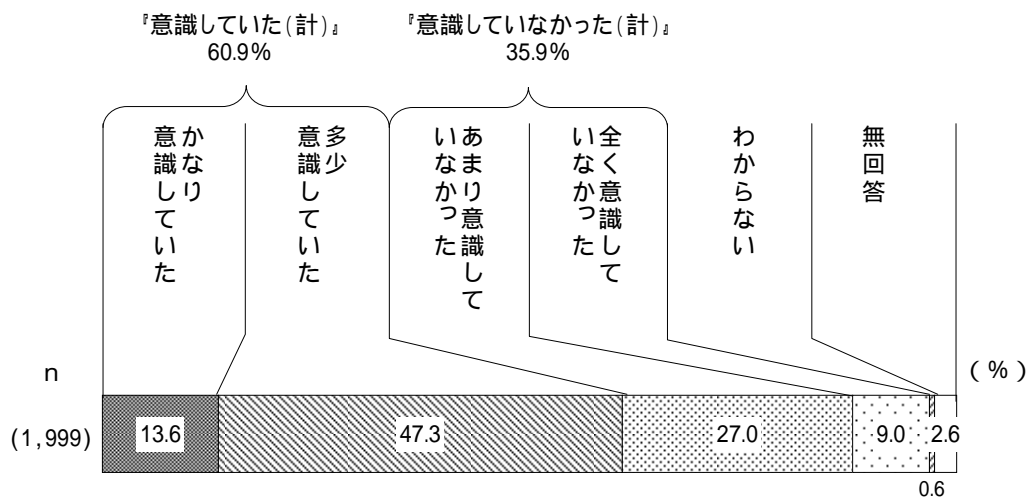


(2) 震災前のエネルギーに対する意識

『意識していた』人が6割

問11 あなたは東日本大震災が発生する前に、省エネや節電などエネルギーについて意識していましたか。(は1つだけ)

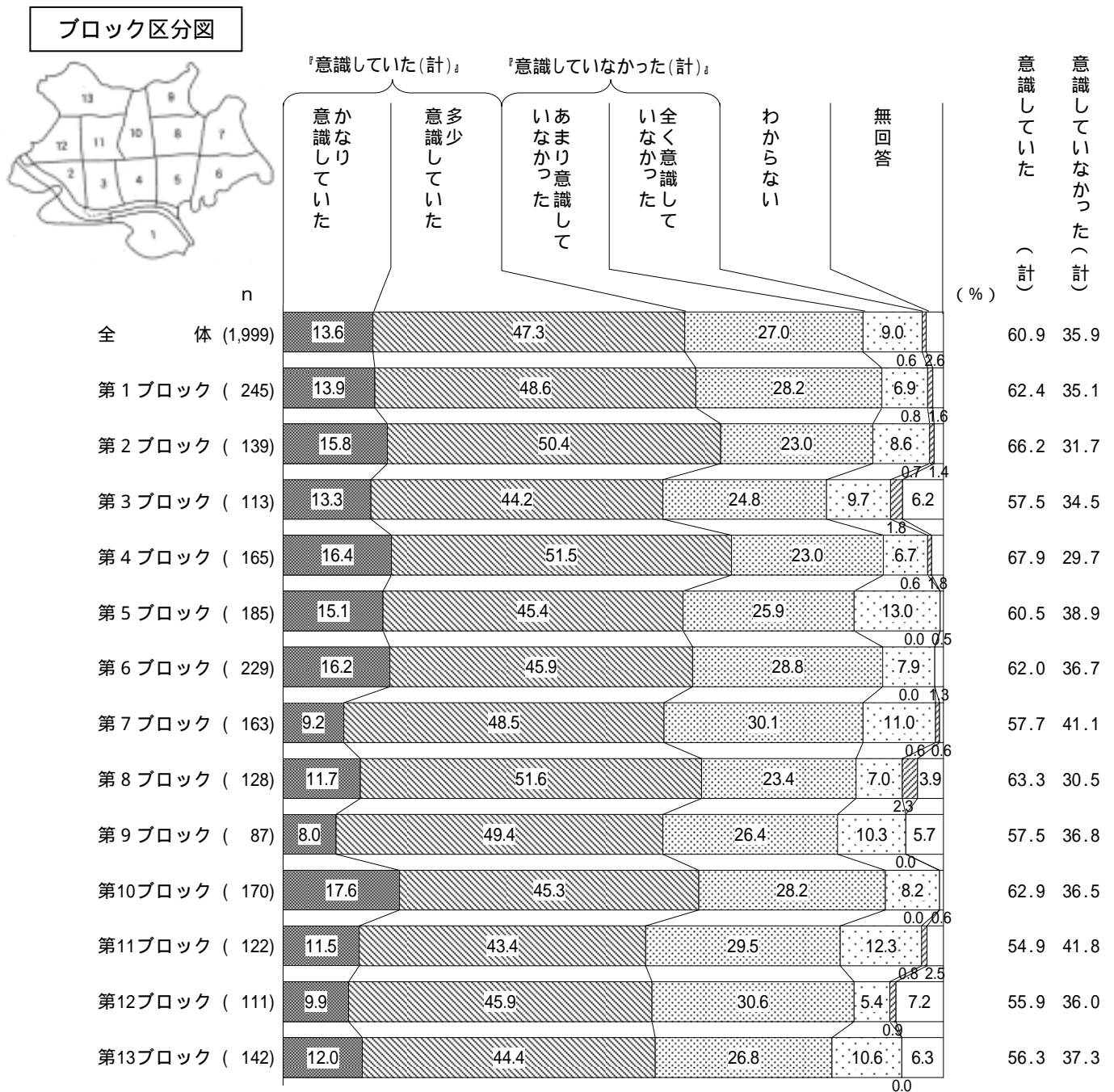
図3 - 2 - 1 震災前のエネルギーに対する意識



東日本大震災が発生する前に、省エネや節電などエネルギーについて意識していたか聞いたところ、「かなり意識していた」(13.6%)が1割を超え、これに「多少意識していた」(47.3%)を合わせた『意識していた(計)』(60.9%)が6割となっている。一方、「全く意識していなかった」(9.0%)と「あまり意識していなかった」(27.0%)を合わせた『意識していなかった(計)』(35.9%)が3割半ばとなっている。(図3 - 2 - 1)

地域ブロック別でみると、『意識していた(計)』は第4ブロック(67.9%)で7割近くと高くなっている。一方、『意識していなかった(計)』は第11ブロック(41.8%)と第7ブロック(41.1%)で4割を超え高くなっている。(図3-2-2)

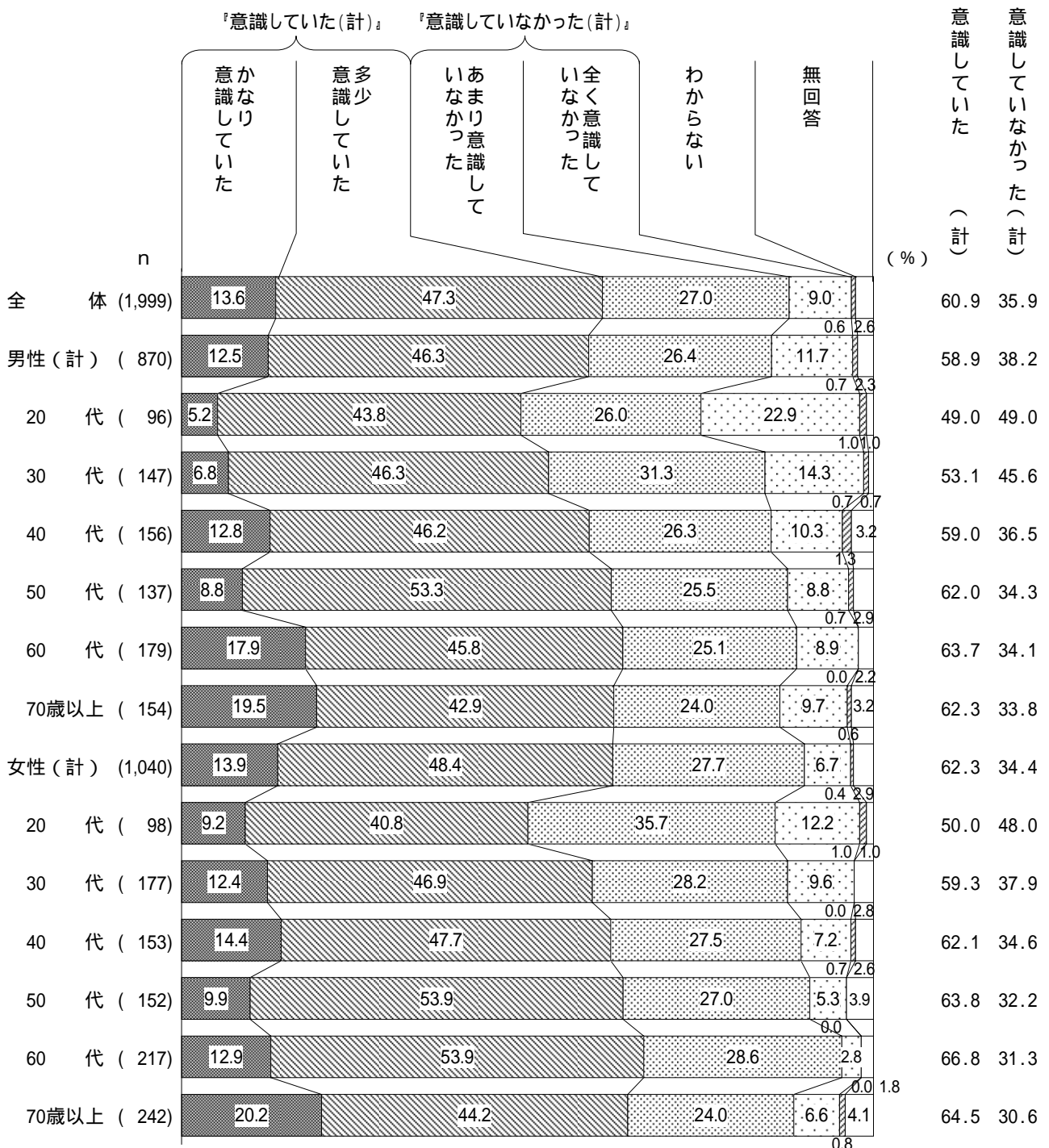
図3-2-2 震災前のエネルギーに対する意識 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で『意識していなかった(計)』(38.2%)が女性(34.4%)より3.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「かなり意識していた」は男女とも70歳以上(女性20.2%・男性19.5%)で2割と高く、『意識していた(計)』は女性60代(66.8%)で最も高くなっている。一方、『意識していなかった(計)』は男性20代(49.0%)でほぼ5割と高くなっている。(図3-2-3)

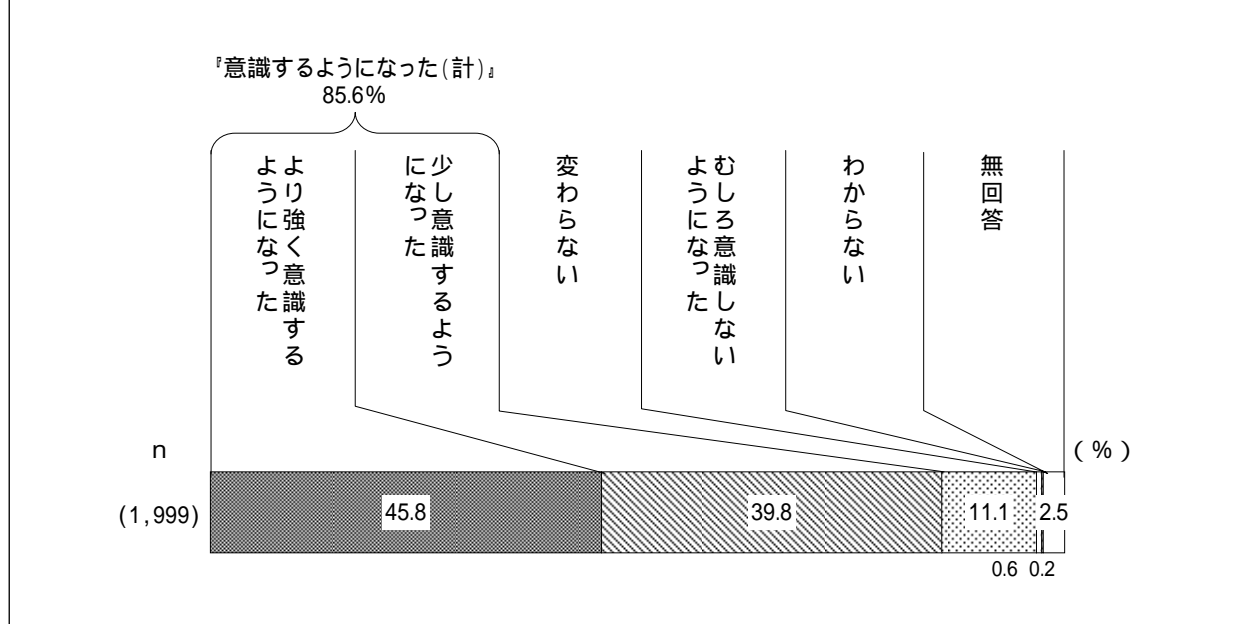
図3-2-3 震災前のエネルギーに対する意識 - 性別、性・年代別



(3) 震災後のエネルギーに対する意識
『意識するようになった』人が8割半ば

問12 あなたは東日本大震災が発生した後、省エネや節電などエネルギーに対する意識が変化しましたか。(は1つだけ)

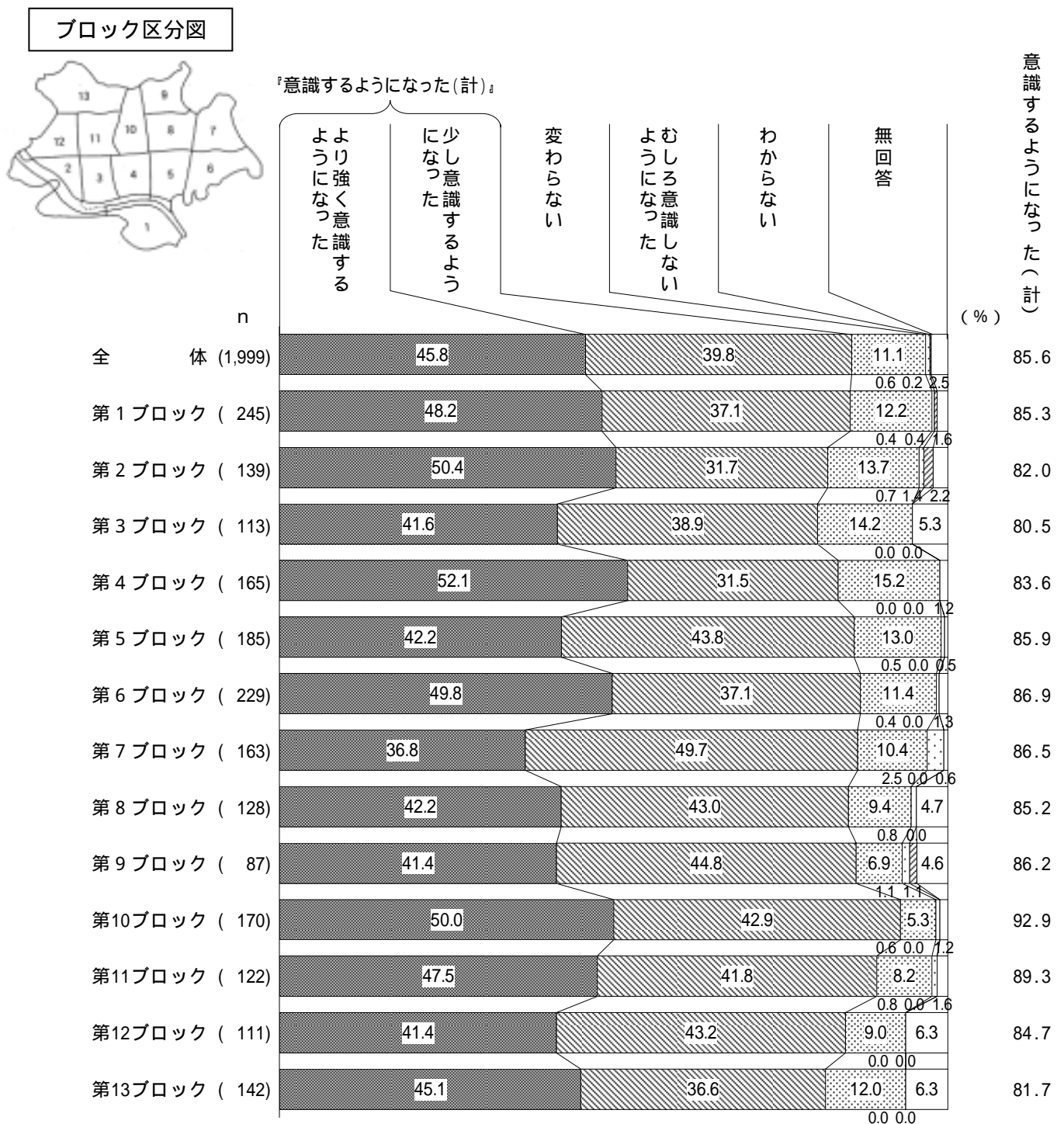
図3-3-1 震災後のエネルギーに対する意識



東日本大震災が発生した後、省エネや節電などエネルギーに対する意識が変わったか聞いたところ、「より強く意識するようになった」(45.8%)が4割半ば、これに「少し意識するようになった」(39.8%)を合わせた『意識するようになった(計)』(85.6%)が8割半ばとなっている。また、「変わらない」(11.1%)が1割を超え、「むしろ意識しないようになった」(0.6%)はわずかとなっている。(図3-3-1)

地域ブロック別でみると、「より強く意識するようになった」は第4ブロック（52.1%）で最も高くなっている。また、『意識するようになった（計）』では第10ブロック（92.9%）で9割を超え高くなっている。（図3-3-2）

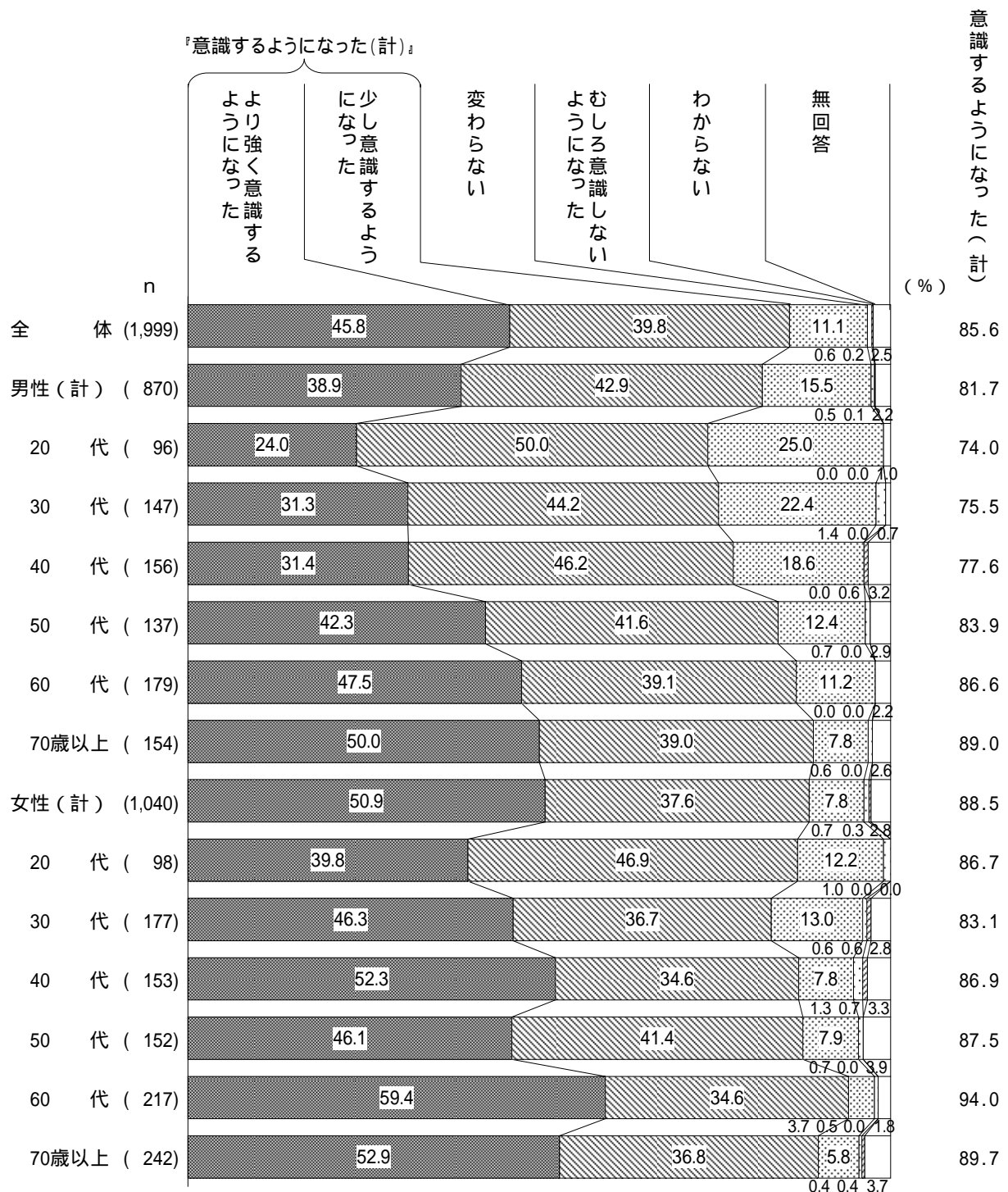
図3-3-2 震災後のエネルギーに対する意識 - 地域ブロック別



性別でみると、女性で『意識するようになった(計)』(88.5%)が男性(81.7%)より6.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「より強く意識するようになった」は女性60代(59.4%)でほぼ6割と高く、『意識するようになった(計)』でも女性60代(94.0%)で9割半ばと高くなっている。また、「変わらない」は男性では低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、男性20代(25.0%)で2割半ばと高くなっている。(図3-3-3)

図3-3-3 震災後のエネルギーに対する意識 - 性別、性・年代別



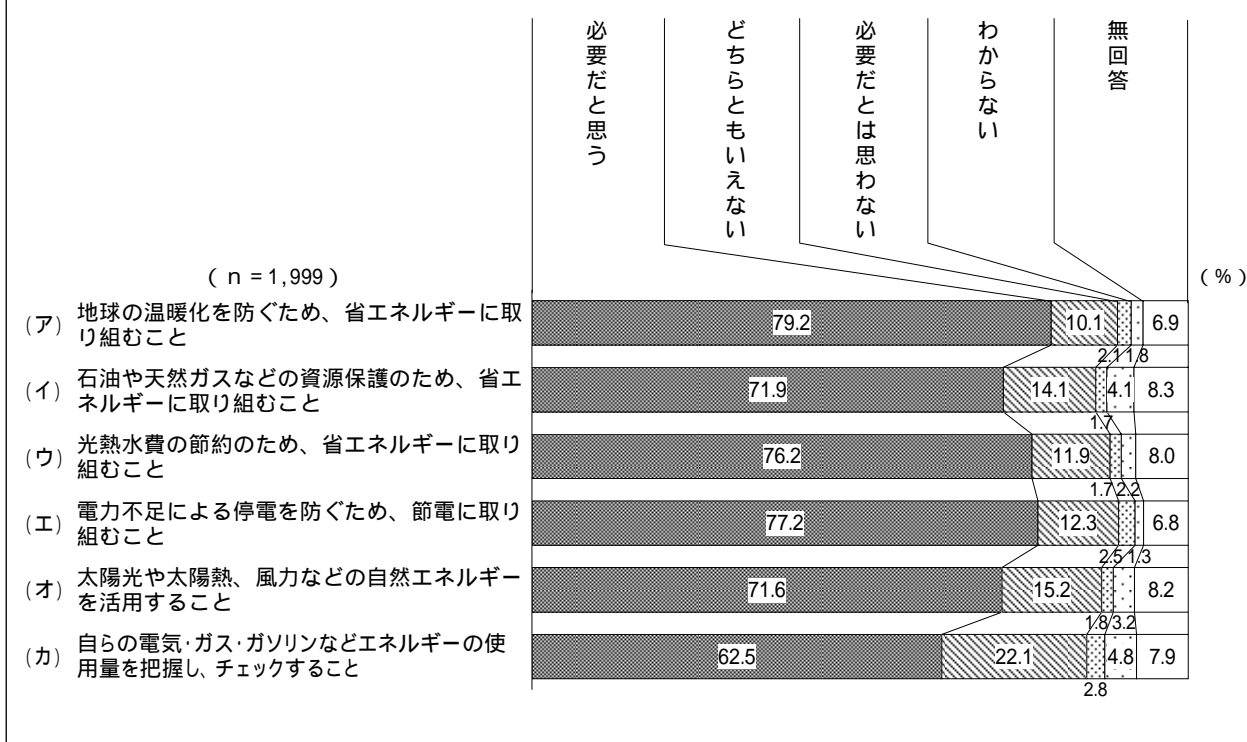
(4) エネルギーに対する考え

【地球の温暖化を防ぐため、省エネルギーに取り組むこと】が必要だと思う人がほぼ8割

問13 エネルギーについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。

(は各項目とも1つだけ)

図3-4-1 エネルギーに対する考え



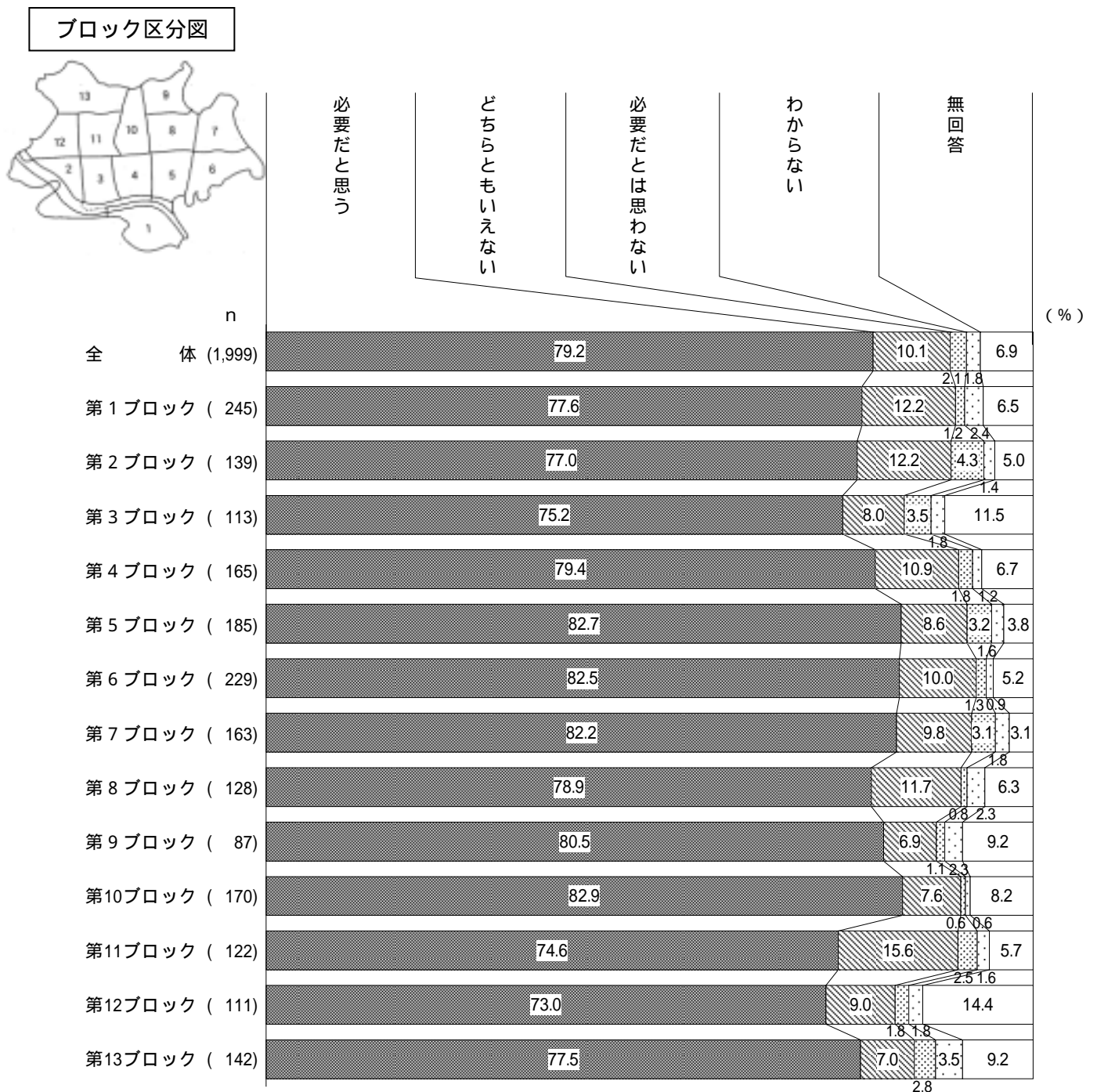
エネルギーに対する考えを聞いたところ、「必要だと思う」は、【地球の温暖化を防ぐため、省エネルギーに取り組むこと】(79.2%) がほぼ8割で最も高く、次いで【電力不足による停電を防ぐため、節電に取り組むこと】(77.2%) と【光熱水費の節約のため、省エネルギーに取り組むこと】(76.2%) の順で高くなっている。

また、「どちらともいえない」は、【自らの電気・ガス・ガソリンなどエネルギーの使用量を把握し、チェックすること】(22.1%) が2割を超え最も高く、次いで【太陽光や太陽熱、風力などの自然エネルギーを活用すること】(15.2%) と【石油や天然ガスなどの資源保護のため、省エネルギーに取り組むこと】(14.1%) が1割半ばと高くなっている。(図3-4-1)

地域ブロック別でみると、「必要だと思う」は第10ブロック(82.9%)と第5ブロック(82.7%)と第6ブロック(82.5%)と第7ブロック(82.2%)と第9ブロック(80.5%)で8割を超え高くなっている。また、「どちらともいえない」は第11ブロック(15.6%)で1割半ばと高くなっている。(図3-4-2)

図3-4-2 エネルギーに対する考え - 地域ブロック別(ア)

(ア) 地球の温暖化を防ぐため、省エネルギーに取り組むこと

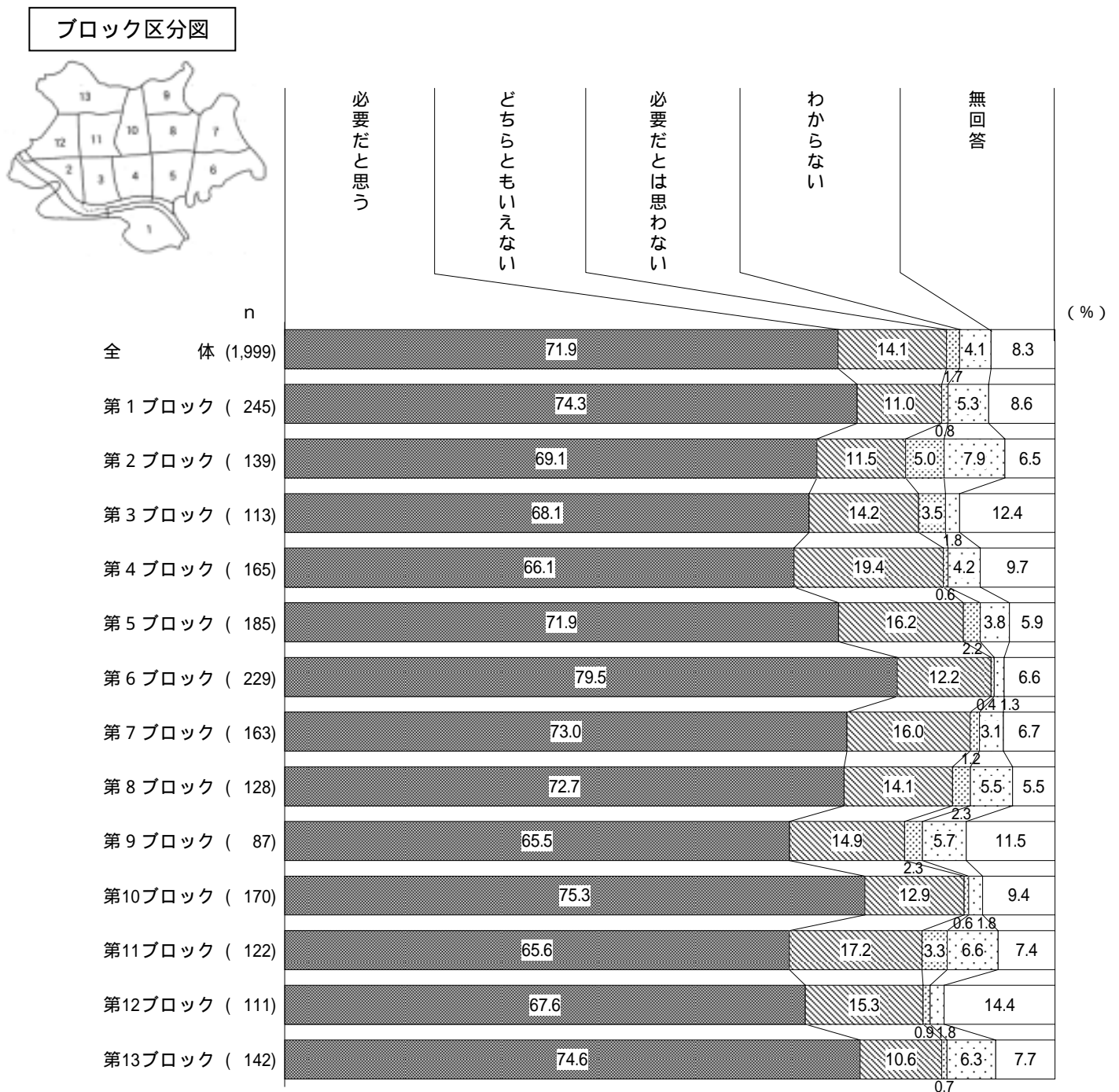


地域ブロック別でみると、「必要だと思う」は第6ブロック(79.5%)でほぼ8割と高くなっている。また、「どちらともいえない」は第4ブロック(19.4%)でほぼ2割と高くなっている。

(図3-4-3)

図3-4-3 エネルギーに対する考え - 地域ブロック別(イ)

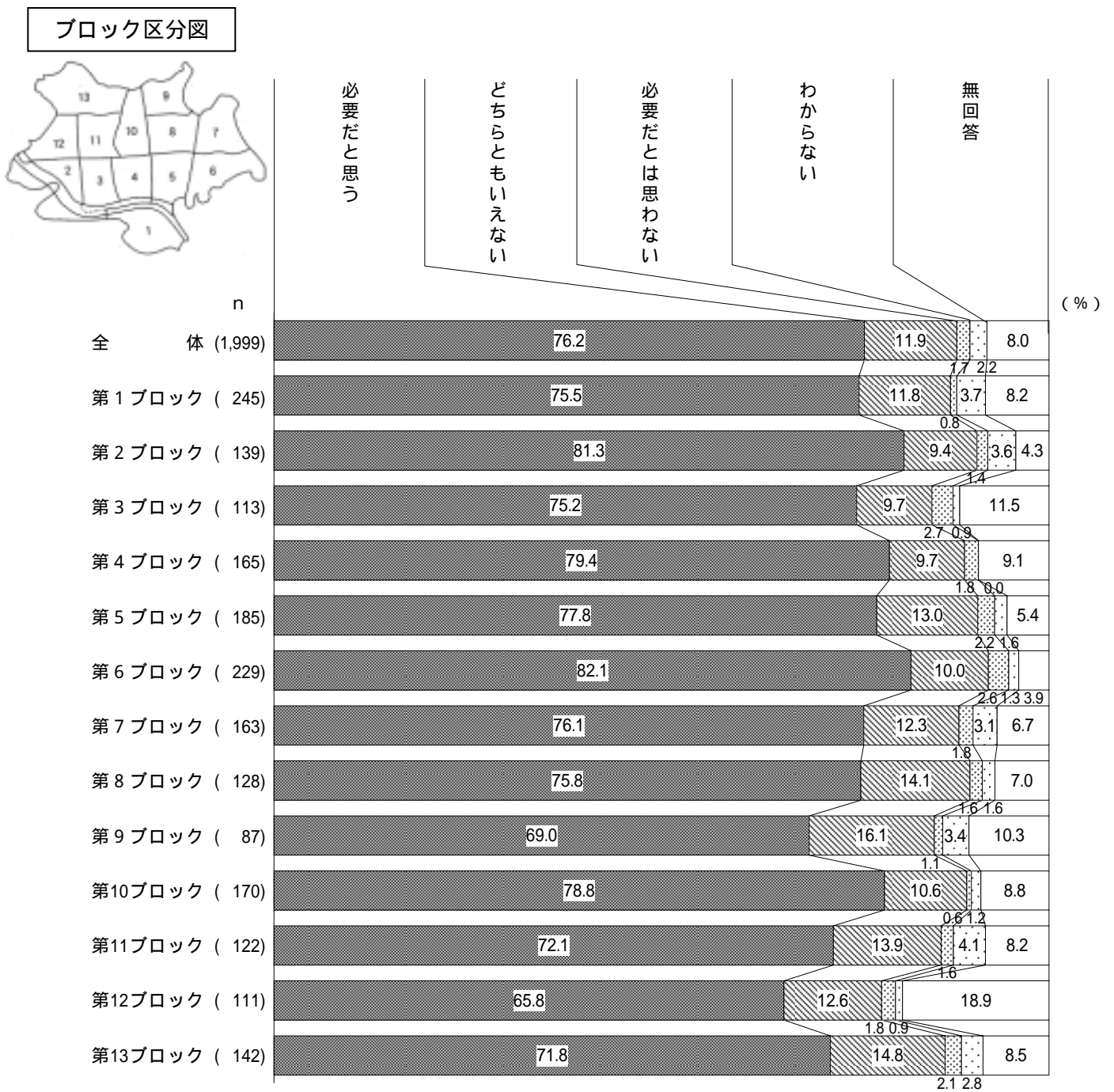
(イ) 石油や天然ガスなどの資源保護のため、省エネルギーに取り組むこと



地域ブロック別でみると、「必要だと思う」は第6ブロック(82.1%)と第2ブロック(81.3%)で8割を超え高くなっている。また、「どちらともいえない」は第9ブロック(16.1%)と第13ブロック(14.8%)で1割半ばと高くなっている。(図3-4-4)

図3-4-4 エネルギーに対する考え - 地域ブロック別(ウ)

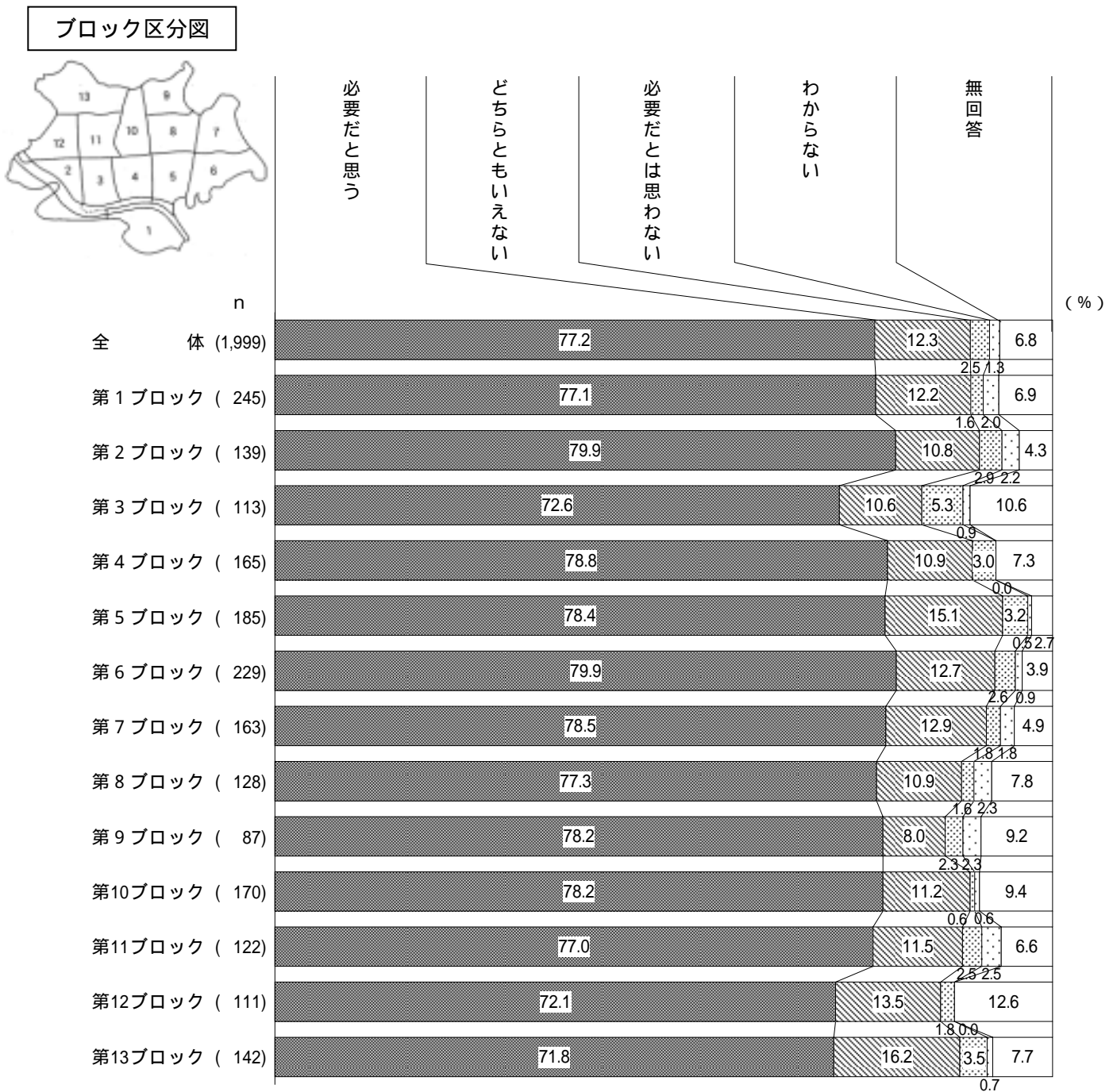
(ウ) 光熱水費の節約のため、省エネルギーに取り組むこと



地域ブロック別でみると、「必要だと思う」は第2ブロックと第6ブロック（ともに79.9%）でほぼ8割と高くなっている。また、「どちらともいえない」は第13ブロック（16.2%）と第5ブロック（15.1%）で1割半ばと高くなっている。（図3-4-5）

図3-4-5 エネルギーに対する考え - 地域ブロック別（エ）

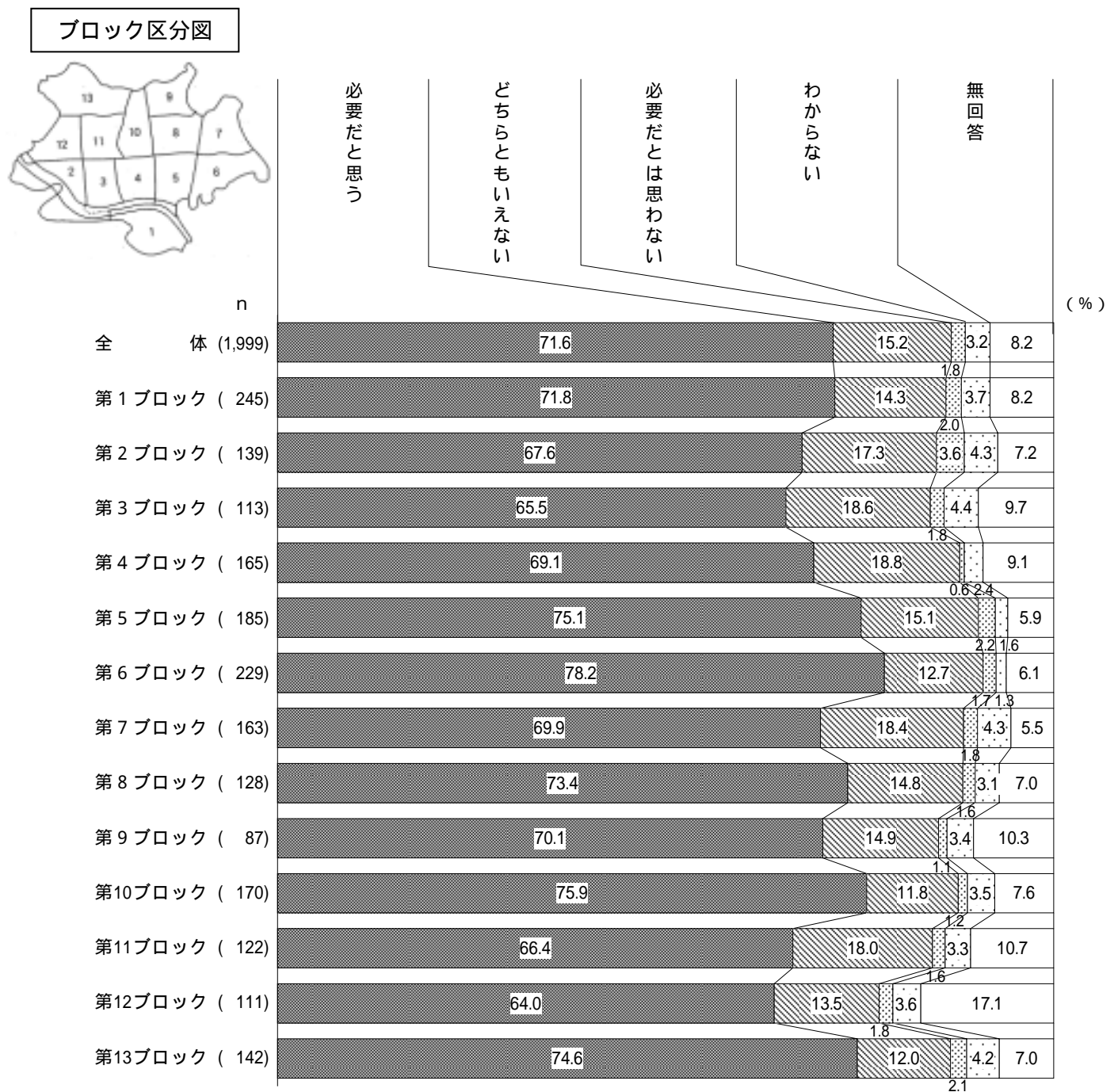
（エ）電力不足による停電を防ぐため、節電に取り組むこと



地域ブロック別でみると、「必要だと思う」は第6ブロック（78.2%）で8割近くと高くなっている。（図3-4-6）

図3-4-6 エネルギーに対する考え - 地域ブロック別（オ）

（オ）太陽光や太陽熱、風力などの自然エネルギーを活用すること

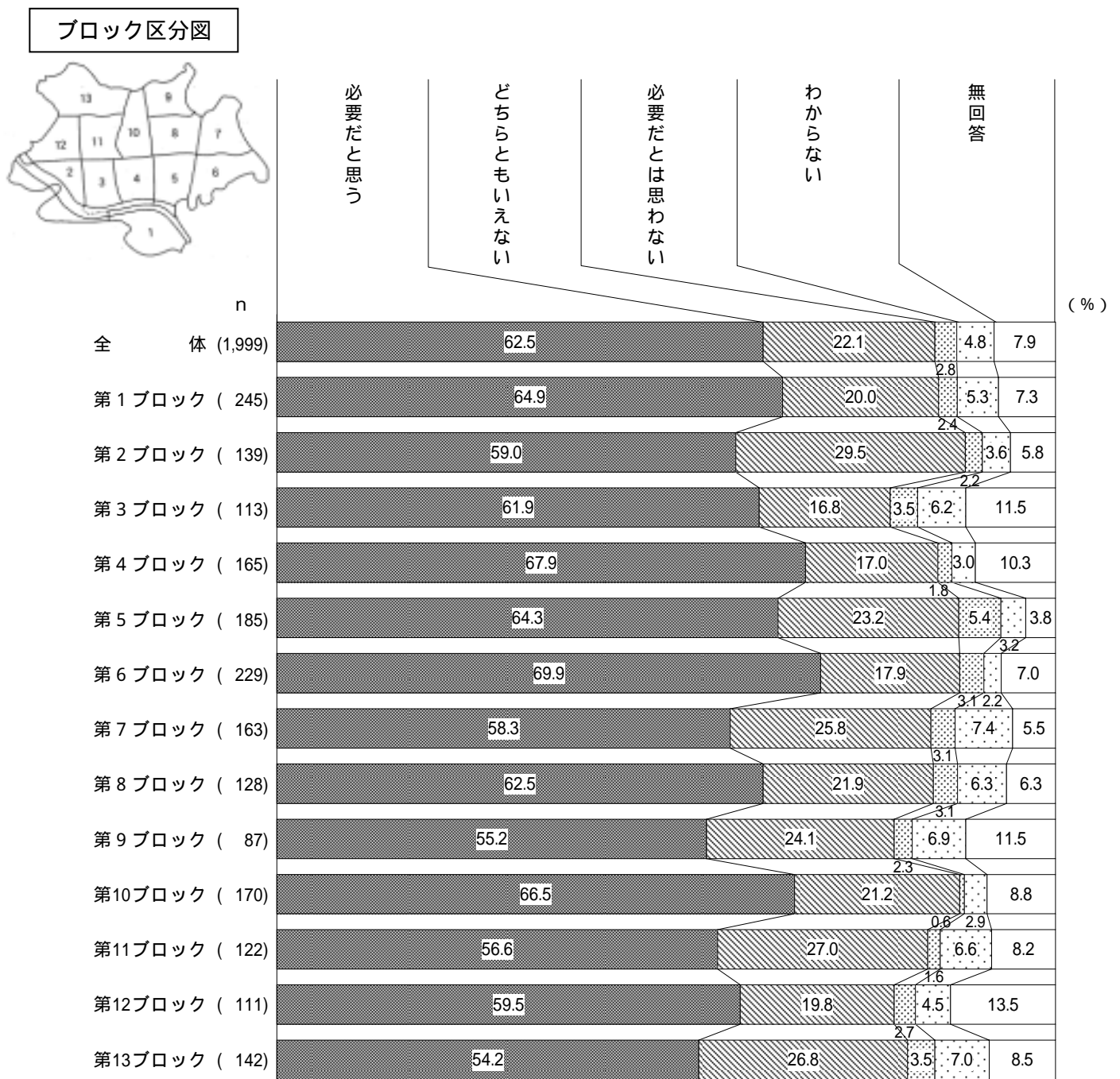


地域ブロック別でみると、「必要だと思う」は第6ブロック（69.9%）でほぼ7割と高くなっている。また、「どちらともいえない」は第2ブロック（29.5%）でほぼ3割と高くなっている。

（図3-4-7）

図3-4-7 エネルギーに対する考え - 地域ブロック別（カ）

（カ）自らの電気・ガス・ガソリンなどエネルギーの使用量を把握し、チェックすること

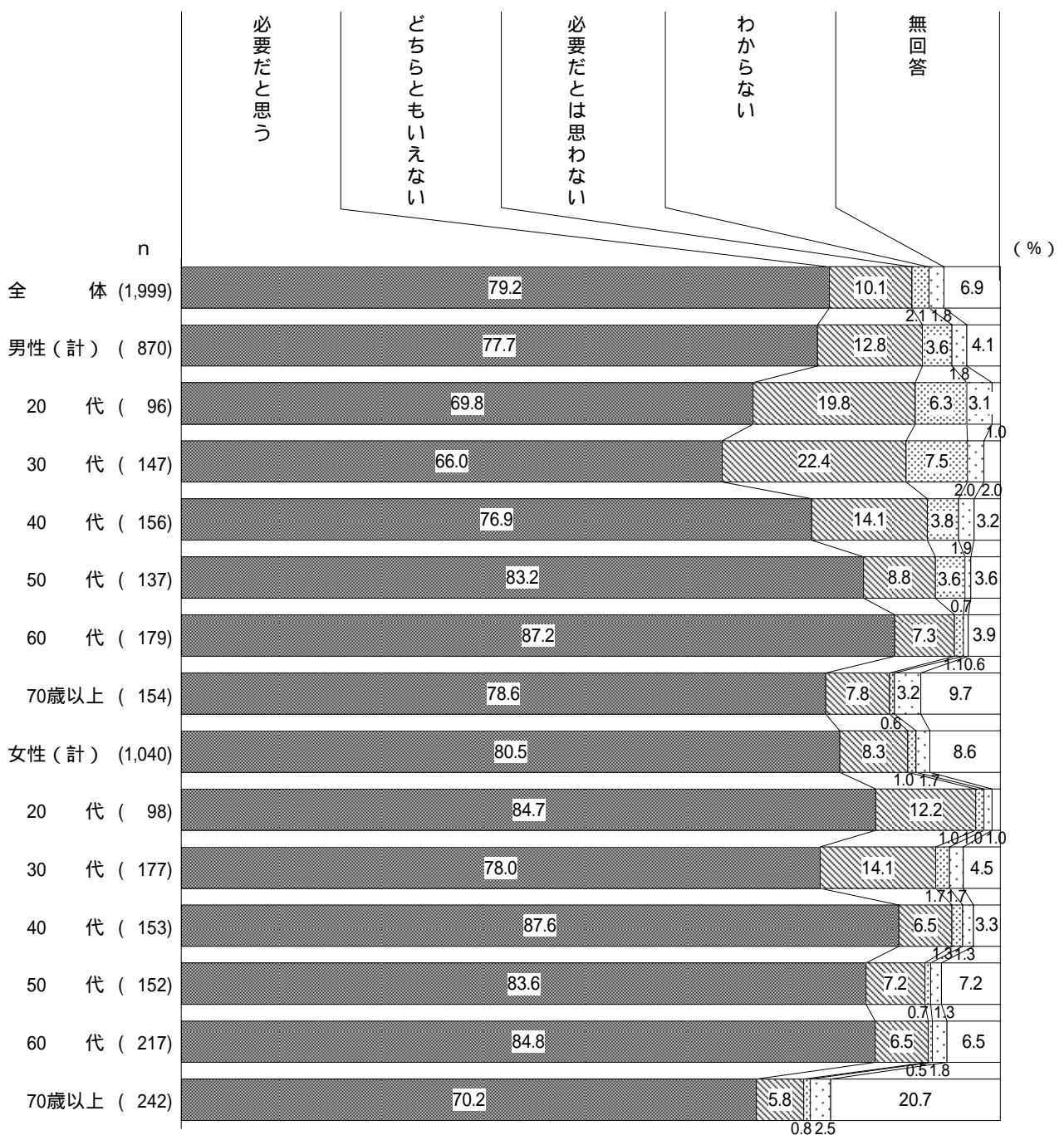


性別で見ると、男性で「どちらともいえない」(12.8%)が女性(8.3%)より4.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「必要だと思う」は女性40代(87.6%)と男性60代(87.2%)で9割近くと高くなっている。また、「どちらともいえない」は男性30代(22.4%)で2割を超え高くなっている。(図3-4-8)

図3-4-8 エネルギーに対する考え - 性別、性・年代別(ア)

(ア) 地球の温暖化を防ぐため、省エネルギーに取り組むこと

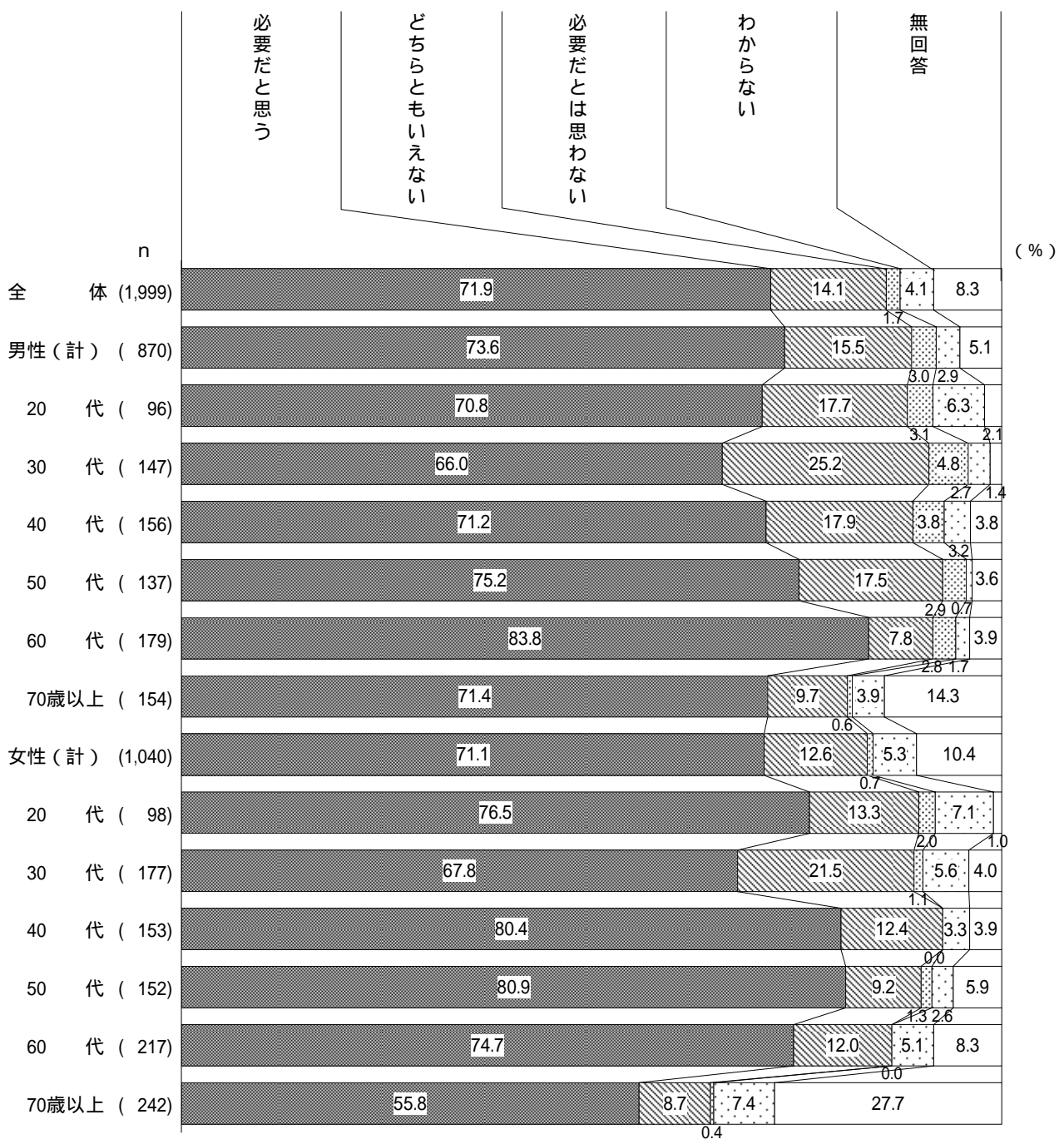


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「必要だと思う」は男性60代（83.8%）、女性50代（80.9%）、女性40代（80.4%）で8割を超え高くなっている。また、「どちらともいえない」は男性30代（25.2%）で2割半ばと高くなっている。（図3 - 4 - 9）

図3 - 4 - 9 エネルギーに対する考え - 性別、性・年代別（イ）

（イ）石油や天然ガスなどの資源保護のため、省エネルギーに取り組むこと



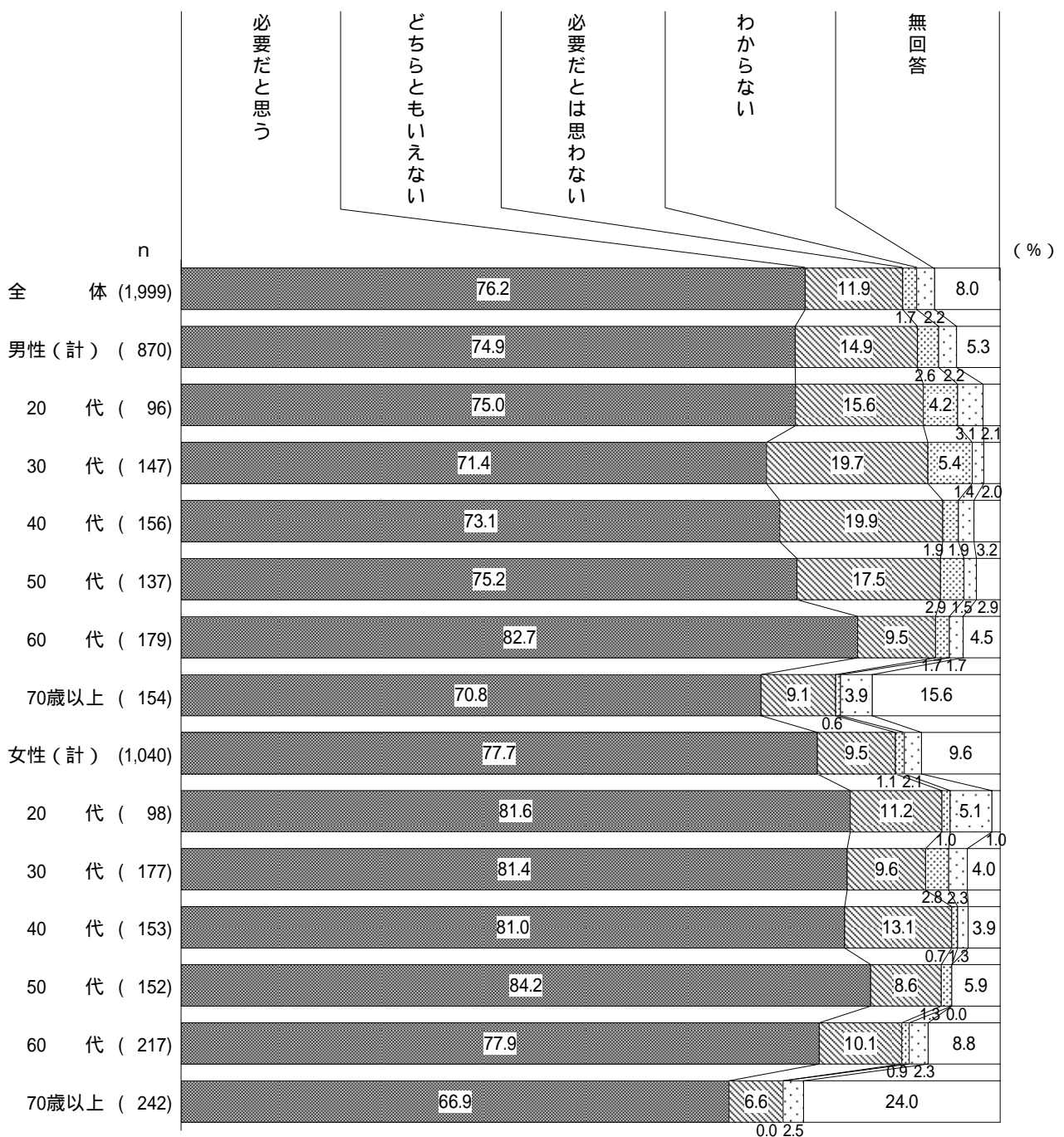
性別で見ると、男性で「どちらともいえない」(14.9%)が女性(9.5%)より5.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「必要だと思う」は女性50代(84.2%)で8割半ばと高くなっている。

また、「どちらともいえない」は男性40代(19.9%)、30代(19.7%)でほぼ2割と高くなっている。(図3-4-10)

図3-4-10 エネルギーに対する考え - 性別、性・年代別(ウ)

(ウ) 光熱水費の節約のため、省エネルギーに取り組むこと



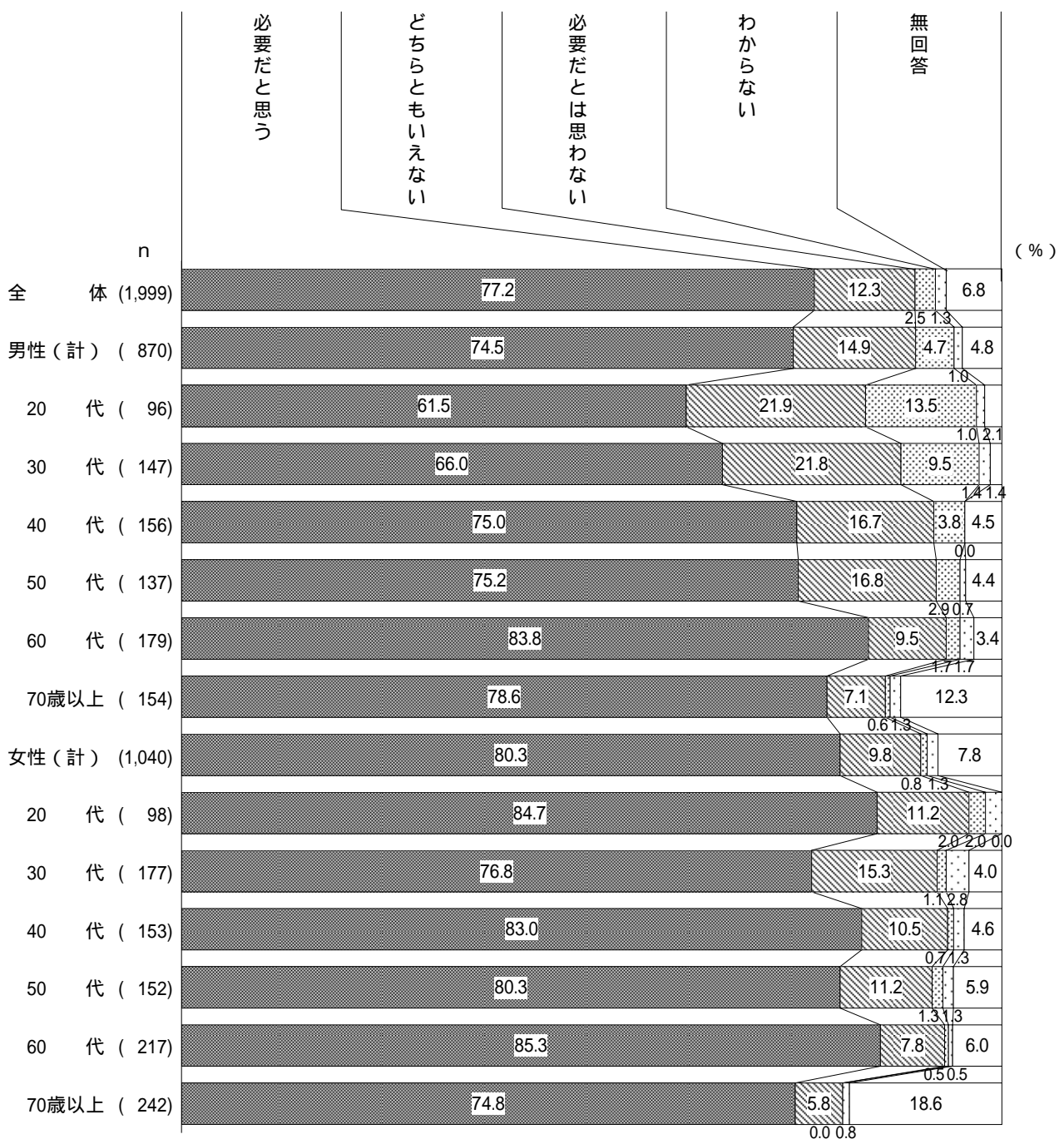
性別で見ると、女性で「必要だと思う」(80.3%)が男性(74.5%)より5.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「必要だと思う」は女性60代(85.3%)、20代(84.7%)で8割半ばと高くなっている。また、「どちらともいえない」は男性20代(21.9%)、30代(21.8%)で2割を超え、「必要だとは思わない」は男性20代(13.5%)で1割を超え高くなっている。

(図3 - 4 - 11)

図3 - 4 - 11 エネルギーに対する考え - 性別、性・年代別(工)

(工) 電力不足による停電を防ぐため、節電に取り組むこと



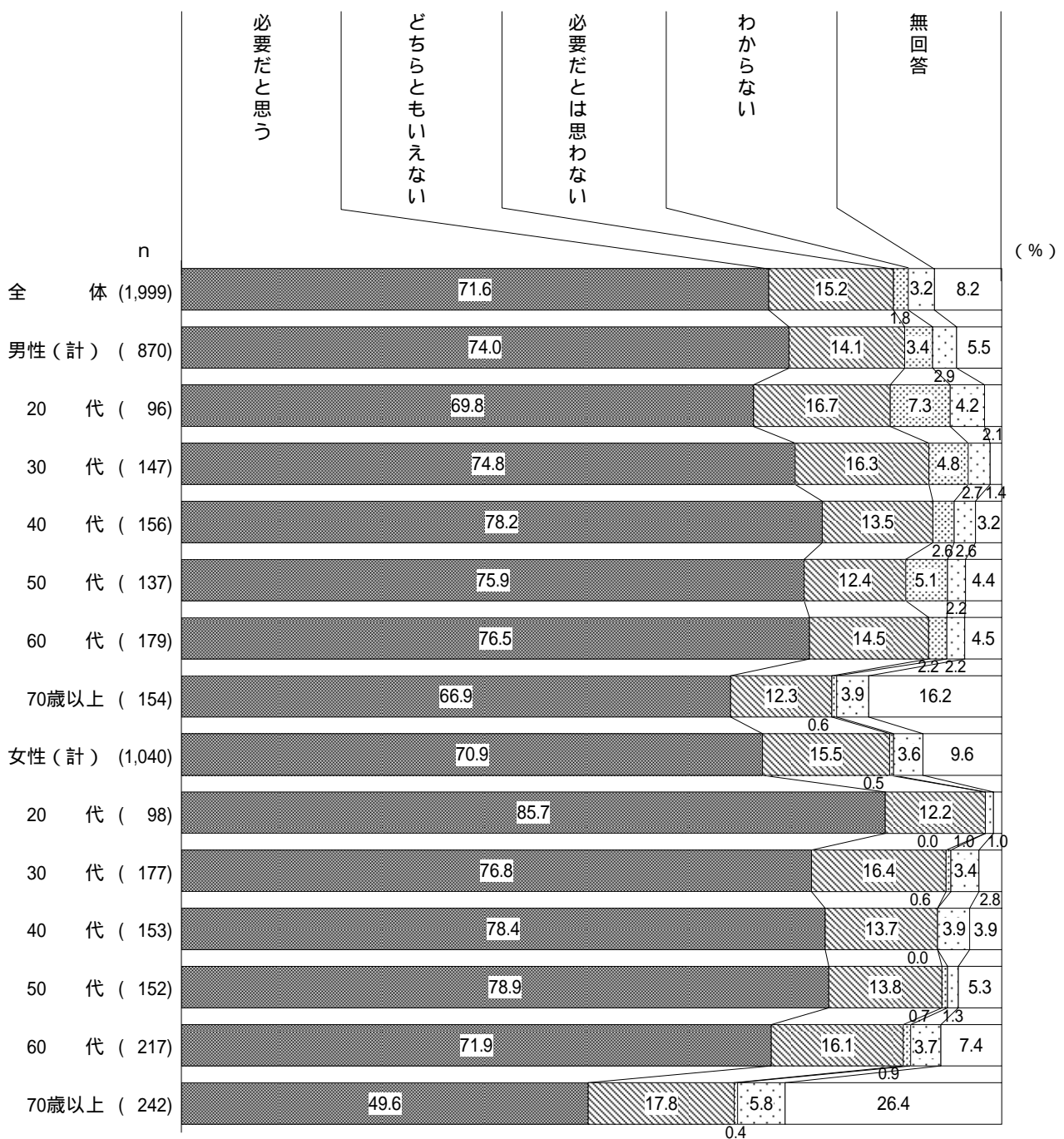
性別で見ると、男性で「必要だと思う」(74.0%)が女性(70.9%)より3.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「必要だと思う」は女性20代(85.7%)で8割半ばと高くなっている。

(図3-4-12)

図3-4-12 エネルギーに対する考え - 性別、性・年代別(オ)

(オ) 太陽光や太陽熱、風力などの自然エネルギーを活用すること



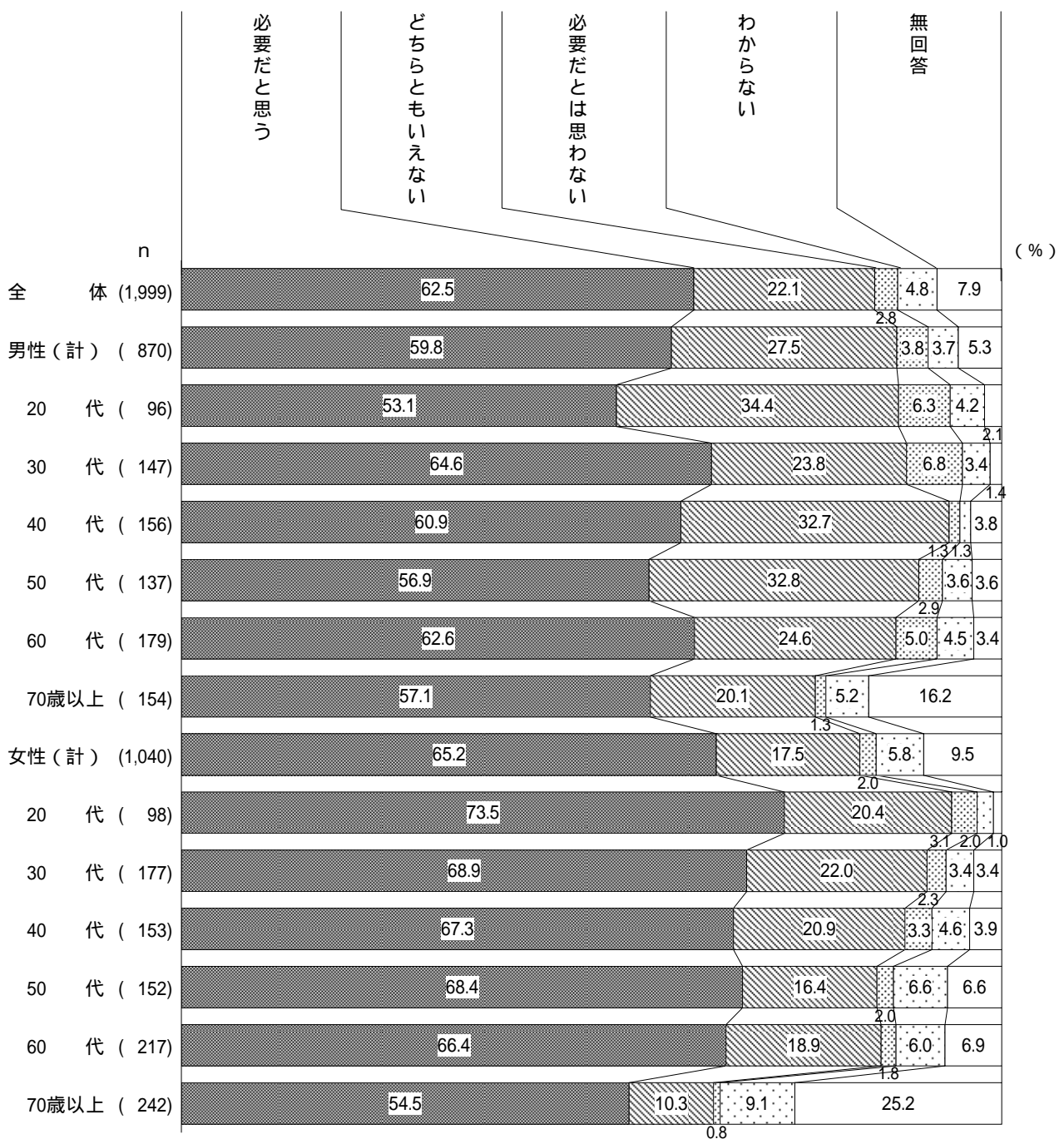
性別で見ると、女性で「必要だと思う」(65.2%)が男性(59.8%)より5.4ポイント高くなっている。一方、男性で「どちらともいえない」(27.5%)が女性(17.5%)より10.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「必要だと思う」は女性20代(73.5%)で7割を超え高くなっている。また、「どちらともいえない」は男性20代(34.4%)で3割半ばと高くなっている。

(図3 - 4 - 13)

図3 - 4 - 13 エネルギーに対する考え - 性別、性・年代別(カ)

(カ) 自らの電気・ガス・ガソリンなどエネルギーの使用量を把握し、チェックすること



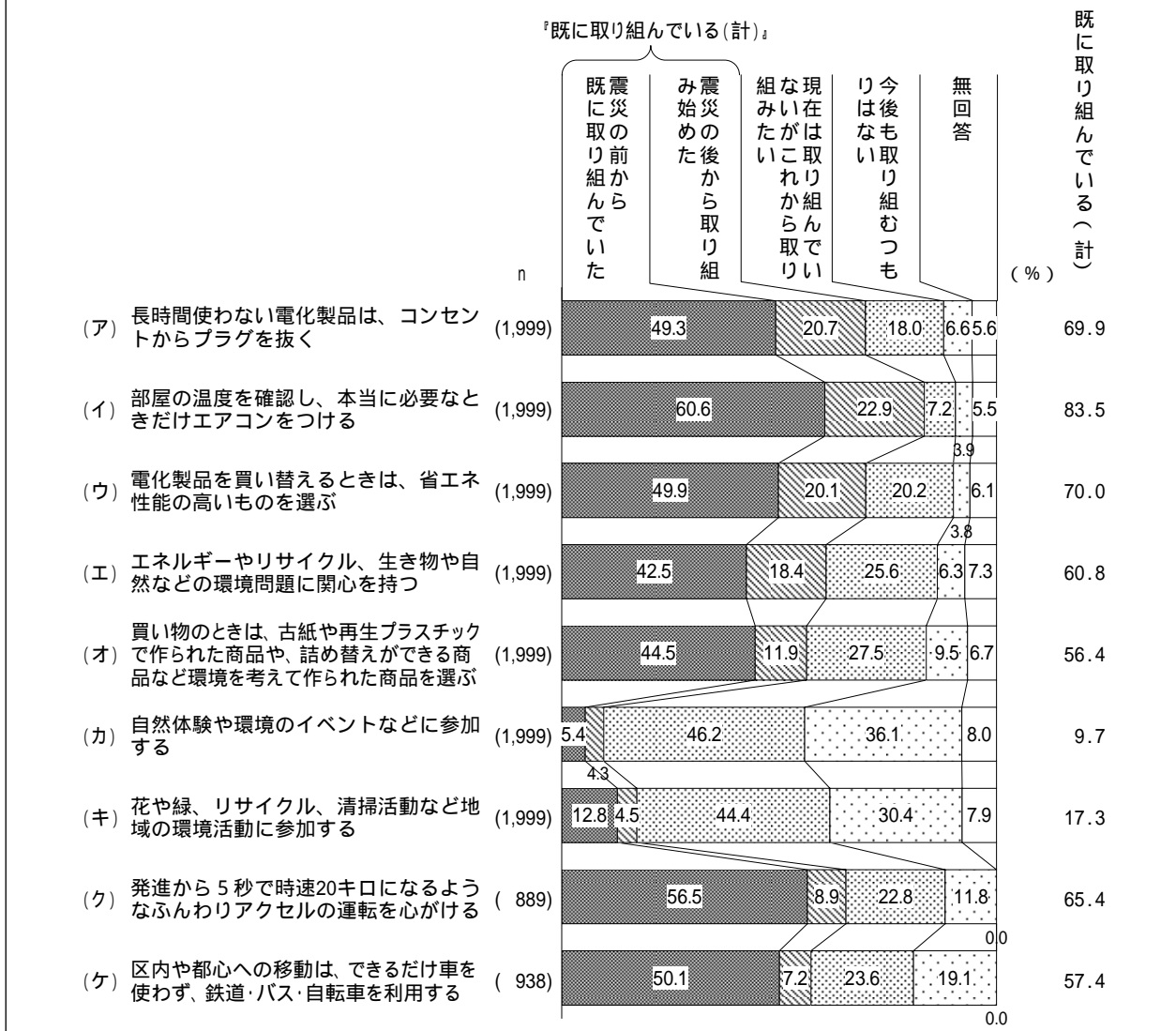
(5) エネルギー使用についての現在の状況

【部屋の温度を確認し、本当に必要なときだけエアコンをつける】を『既に取り組んでいる』人が8割を超える

問14 次のことがらについて、あなたの現在の状況にあてはまるものお選びください。

() は各項目とも1つだけ

図3-5-1 エネルギー使用についての現在の状況



エネルギー使用について、現在の状況を聞いたところ、「震災の前から既に取り組んでいた」と「震災の後から取り組み始めた」を合わせた『既に取り組んでいる(計)』は、【部屋の温度を確認し、本当に必要なときだけエアコンをつける】(83.5%)が8割を超え最も高く、次いで【電化製品を買い替えるときは、省エネ性能の高いものを選ぶ】(70.0%)と【長時間使わない電化製品は、コンセントからプラグを抜く】(69.9%)が7割と高くなっている。

また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は、【自然体験や環境のイベントなどに参加する】(46.2%)と【花や緑、リサイクル、清掃活動など地域の環境活動に参加する】(44.4%)が4割半ばと高く、「今後も取り組むつもりはない」は、【自然体験や環境のイベントなどに参加する】(36.1%)が3割半ばと高くなっている。(図3-5-1)

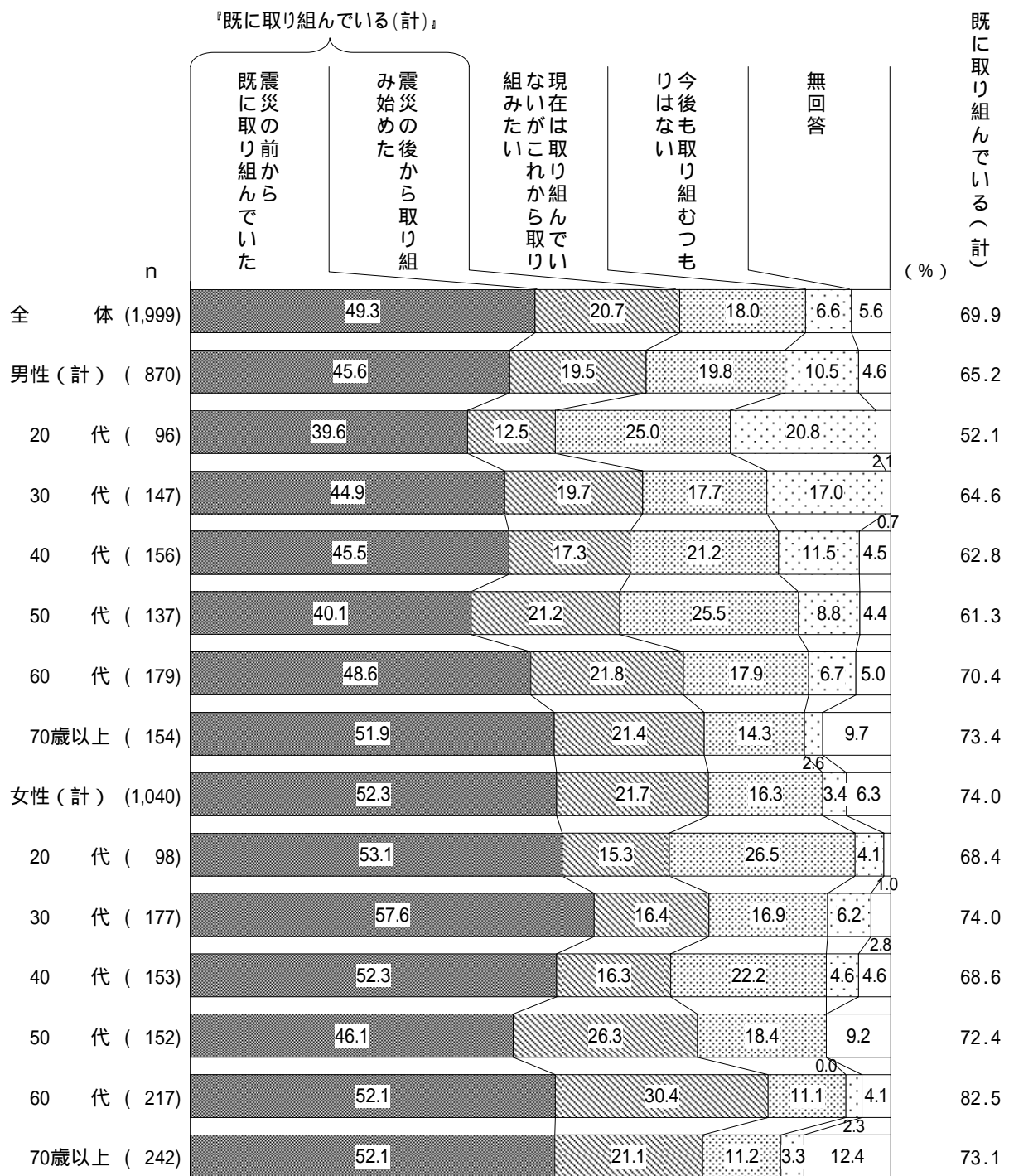
性別で見ると、女性で『既に取り組んでいる（計）』（74.0%）が男性（65.2%）より8.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『既に取り組んでいる（計）』は女性60代（82.5%）で8割を超え高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は女性20代（26.5%）で最も高く、「今後も取り組むつもりはない」は男性20代（20.8%）で2割と高くなっている。

（図3 - 5 - 2）

図3 - 5 - 2 エネルギー使用についての現在の状況 - 性別、性・年代別（ア）

（ア）長時間使わない電化製品は、コンセントからプラグを抜く

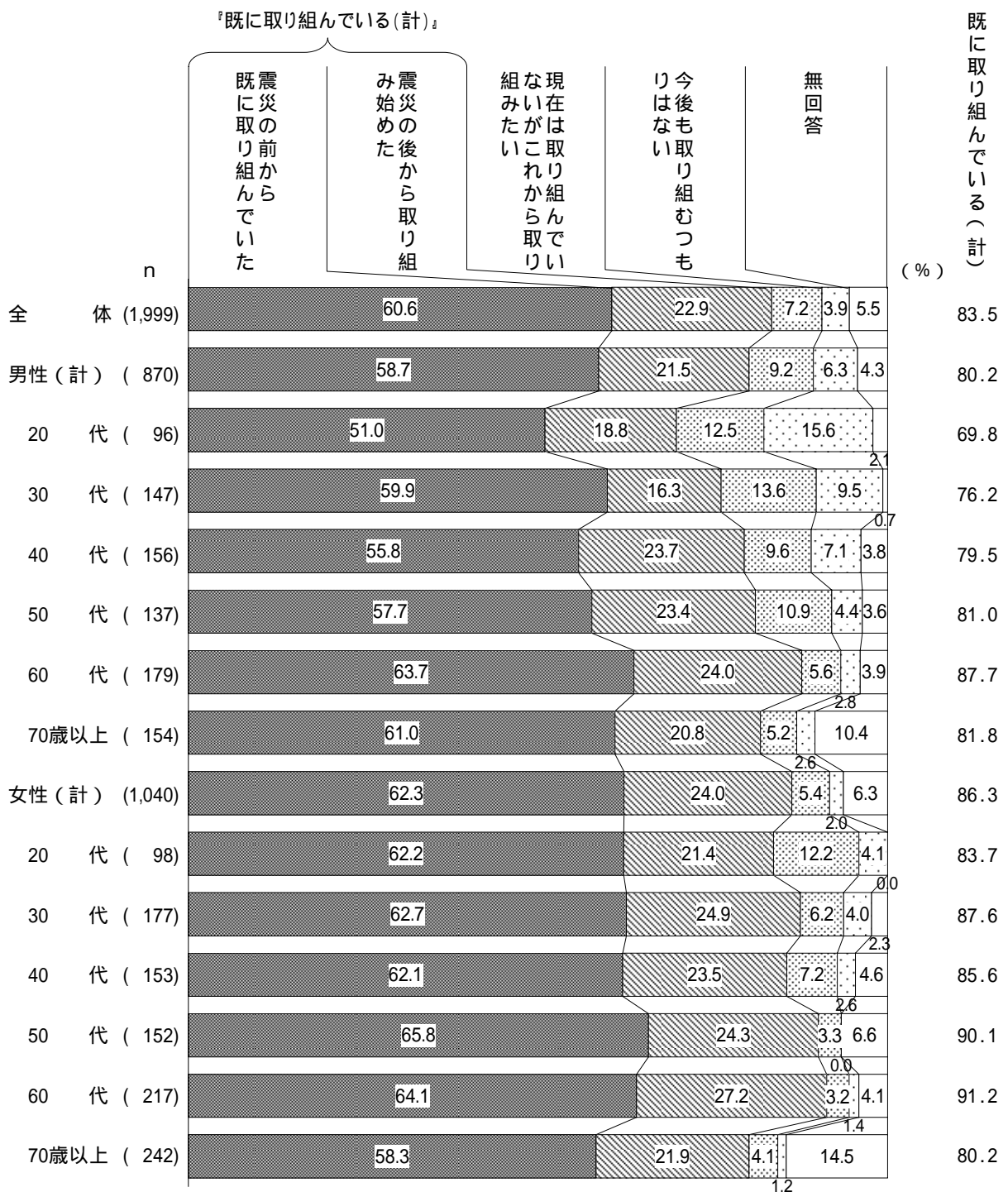


性別で見ると、女性で『既に取り組んでいる（計）』（86.3%）が男性（80.2%）より 6.1 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『既に取り組んでいる（計）』は女性60代（91.2%）、50代（90.1%）で9割を超え高くなっている。また、「今後も取り組むつもりはない」は男性20代（15.6%）で1割半ばと高くなっている。（図3-5-3）

図3-5-3 エネルギー使用についての現在の状況 - 性別、性・年代別（イ）

（イ）部屋の温度を確認し、本当に必要なときだけエアコンをつける



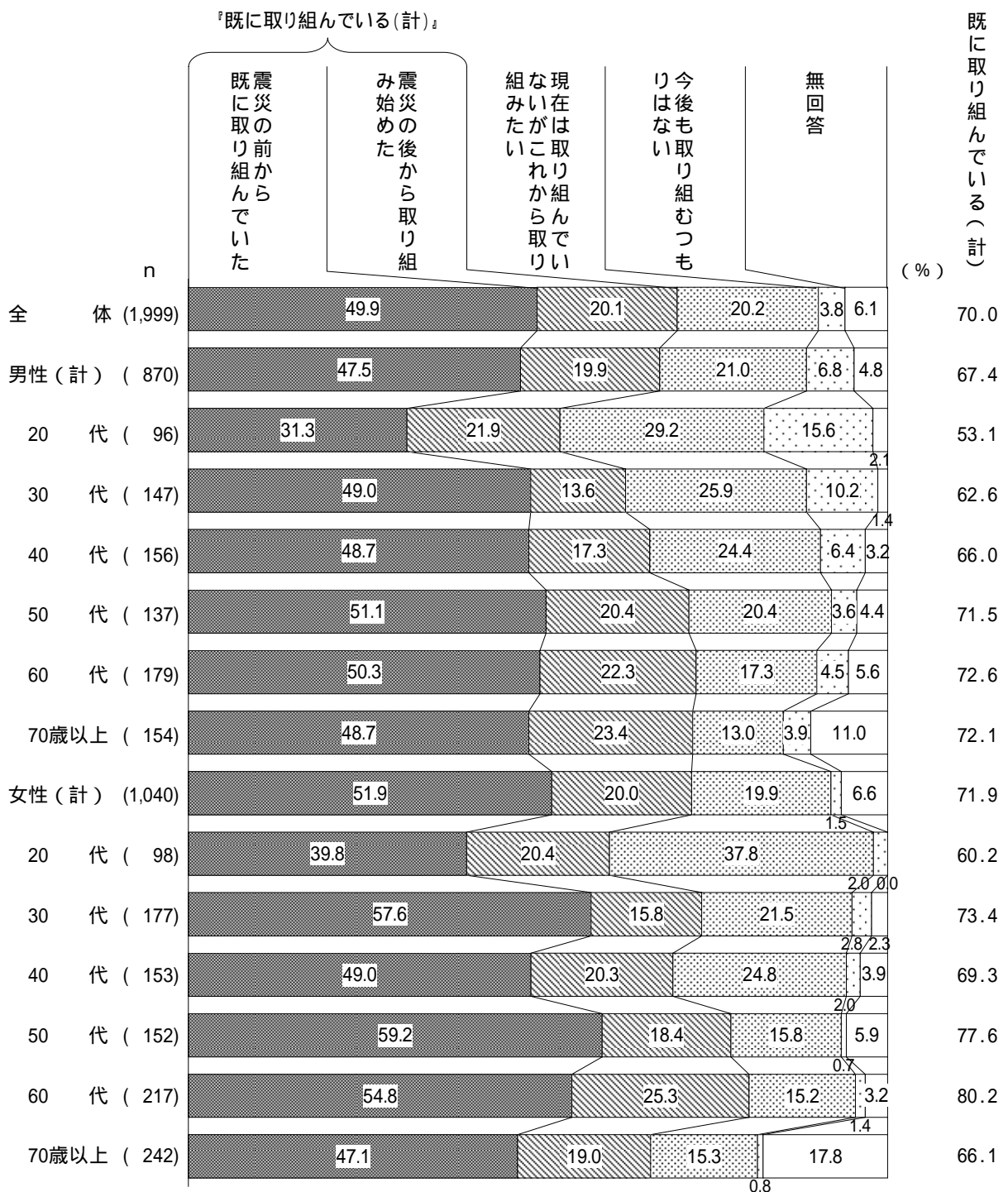
性別で見ると、女性で『既に取り組んでいる（計）』（71.9%）が男性（67.4%）より4.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『既に取り組んでいる（計）』は女性60代（80.2%）で8割と高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は女性20代（37.8%）で4割近く、「今後も取り組むつもりはない」は男性20代（15.6%）で1割半ばと高くなっている。

（図3 - 5 - 4）

図3 - 5 - 4 エネルギー使用についての現在の状況 - 性別、性・年代別（ウ）

（ウ）電化製品を買い替えるときは、省エネ性能の高いものを選ぶ

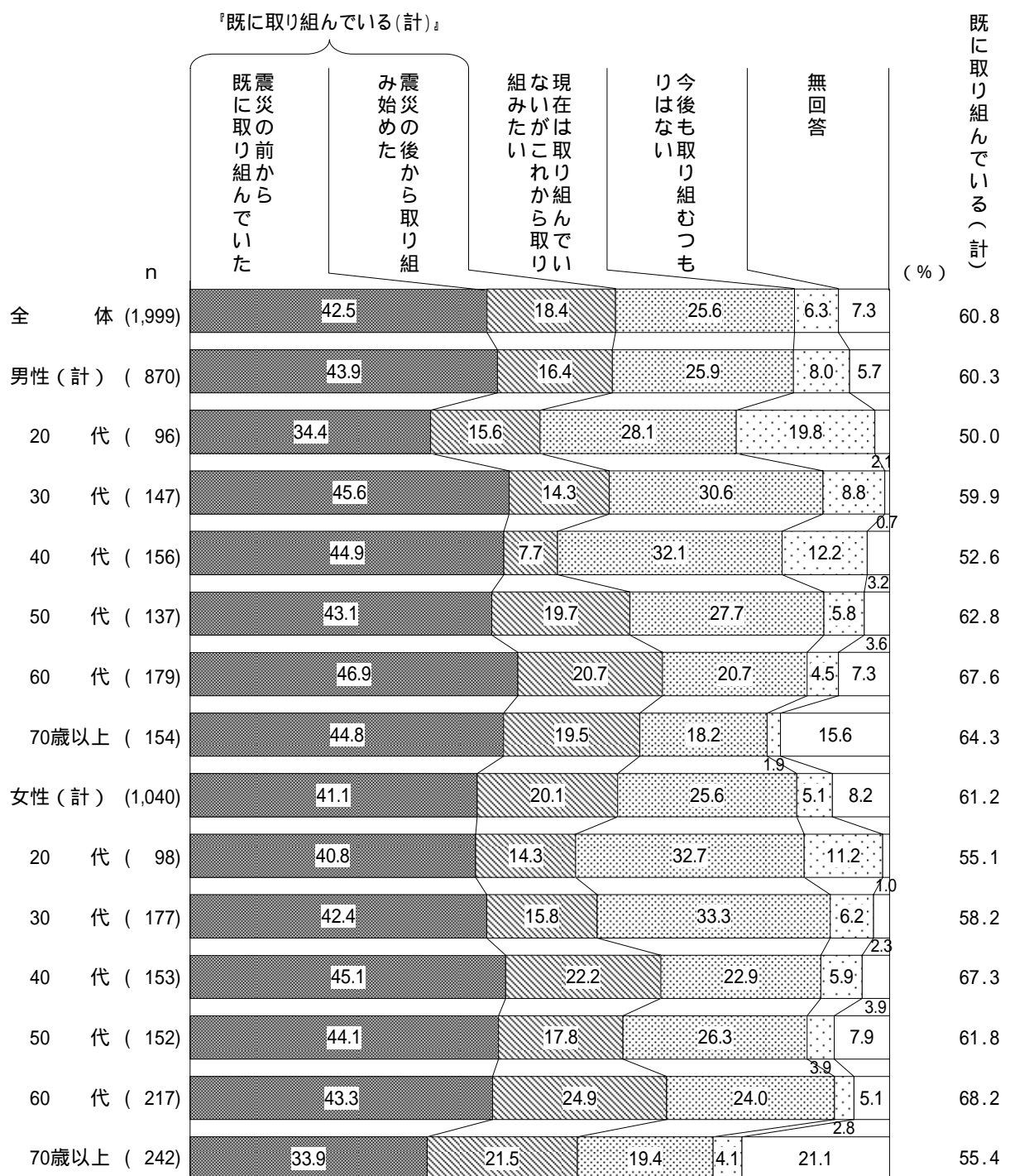


性別で見ると、女性で「震災の後から取り組み始めた」（20.1%）が男性（16.4%）より3.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『既に取り組んでいる（計）』は女性60代（68.2%）と40代（67.3%）、男性60代（67.6%）で7割近くと高くなっている。また、「今後も取り組むつもりはない」は男性20代（19.8%）でほぼ2割と高くなっている。（図3-5-5）

図3-5-5 エネルギー使用についての現在の状況 - 性別、性・年代別（エ）

（エ）エネルギーやリサイクル、生き物や自然などの環境問題に関心を持つ

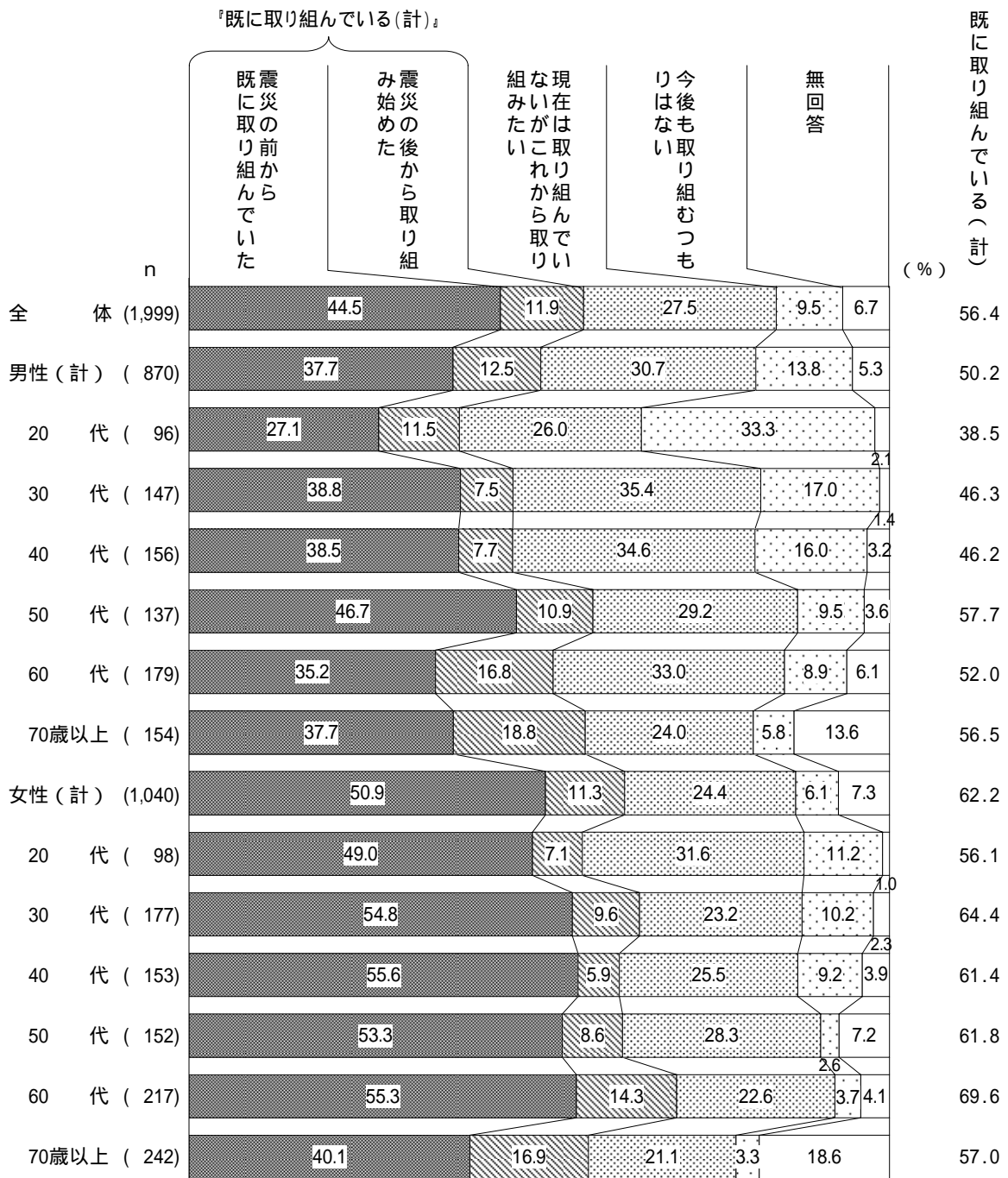


性別で見ると、女性で『既に取り組んでいる（計）』（62.2%）が男性（50.2%）より12.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『既に取り組んでいる（計）』は女性60代（69.6%）でほぼ7割と高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は男性30代（35.4%）、40代（34.6%）で3割半ば、「今後も取り組むつもりはない」は男性20代（33.3%）で3割を超え高くなっている。（図3 - 5 - 6）

図3 - 5 - 6 エネルギー使用についての現在の状況 - 性別、性・年代別（オ）

（オ）買い物のときは、古紙や再生プラスチックで作られた商品や、詰め替えができる商品など環境を考えて作られた商品を選ぶ



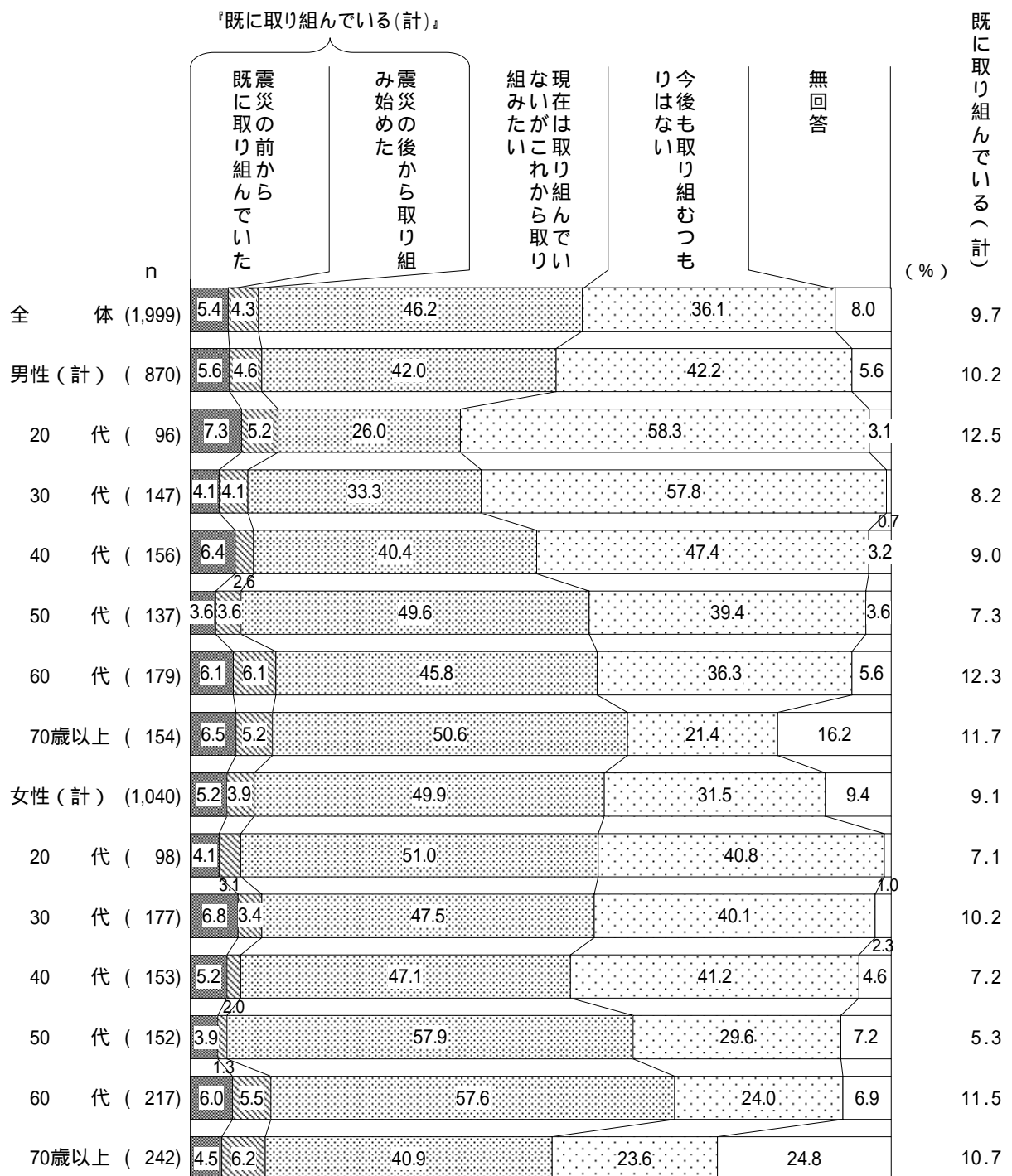
性別で見ると、女性で「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」（49.9%）が男性（42.0%）より7.9ポイント高くなっている。

性年代別で見ると、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は女性50代(57.9%)、60代(57.6%)で6割近く、「今後も取り組むつもりはない」は男性では低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、男性20代(58.3%)、30代(57.8%)で6割近くと高くなっている。

(図3 - 5 - 7)

図3 - 5 - 7 エネルギー使用についての現在の状況 - 性別、性・年代別(カ)

(カ) 自然体験や環境のイベントなどに参加する

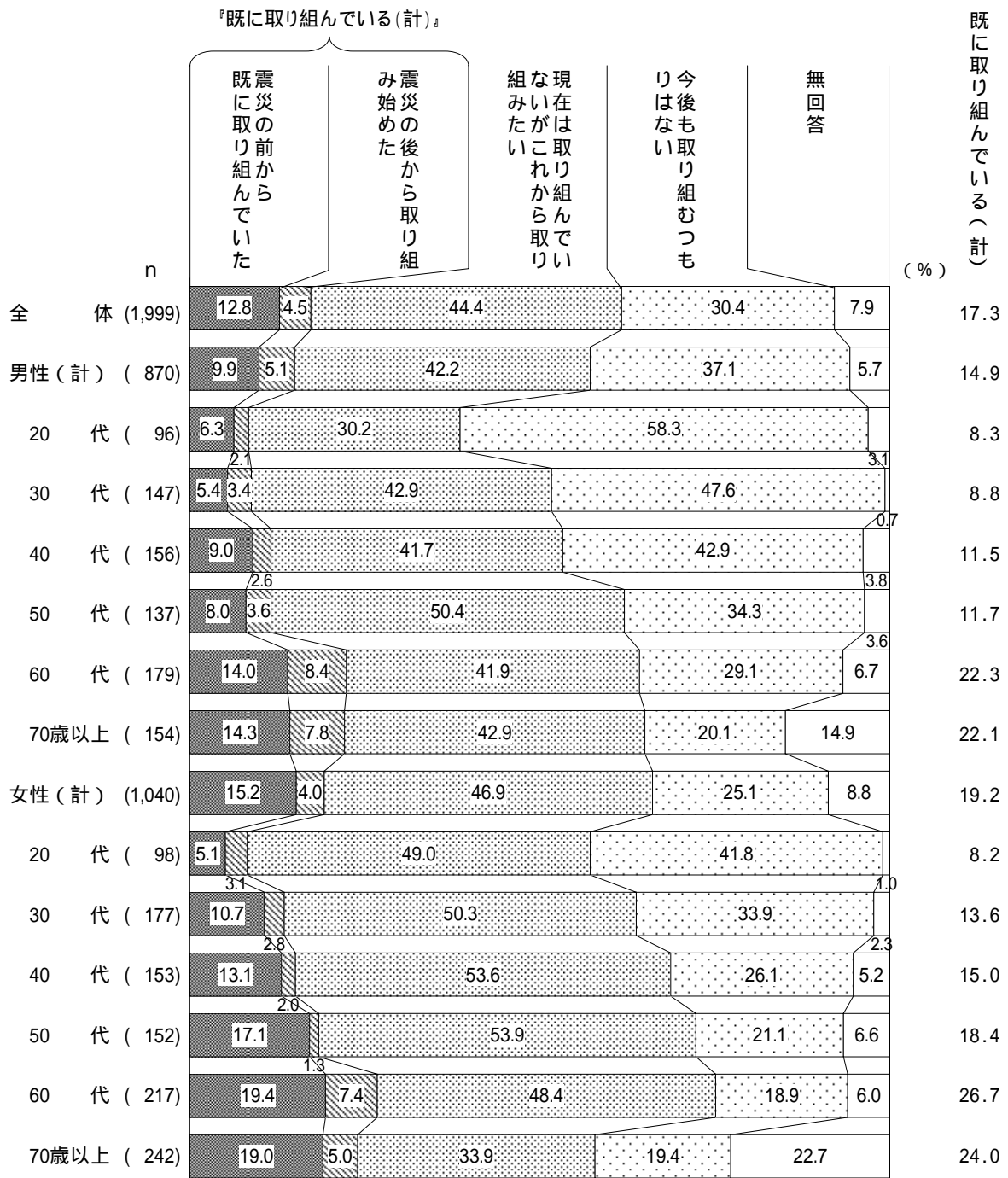


性別で見ると、女性で『既に取り組んでいる（計）』（19.2%）が男性（14.9%）より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『既に取り組んでいる（計）』は女性60代（26.7%）で2割半ばと高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は女性50代（53.9%）、40代（53.6%）、30代（50.3%）、男性50代（50.4%）で5割を超え、「今後も取り組むつもりはない」は男性では低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に男性20代（58.3%）で6割近くと高くなっている。（図3-5-8）

図3-5-8 エネルギー使用についての現在の状況 - 性別、性・年代別（キ）

（キ）花や緑、リサイクル、清掃活動など地域の環境活動に参加する

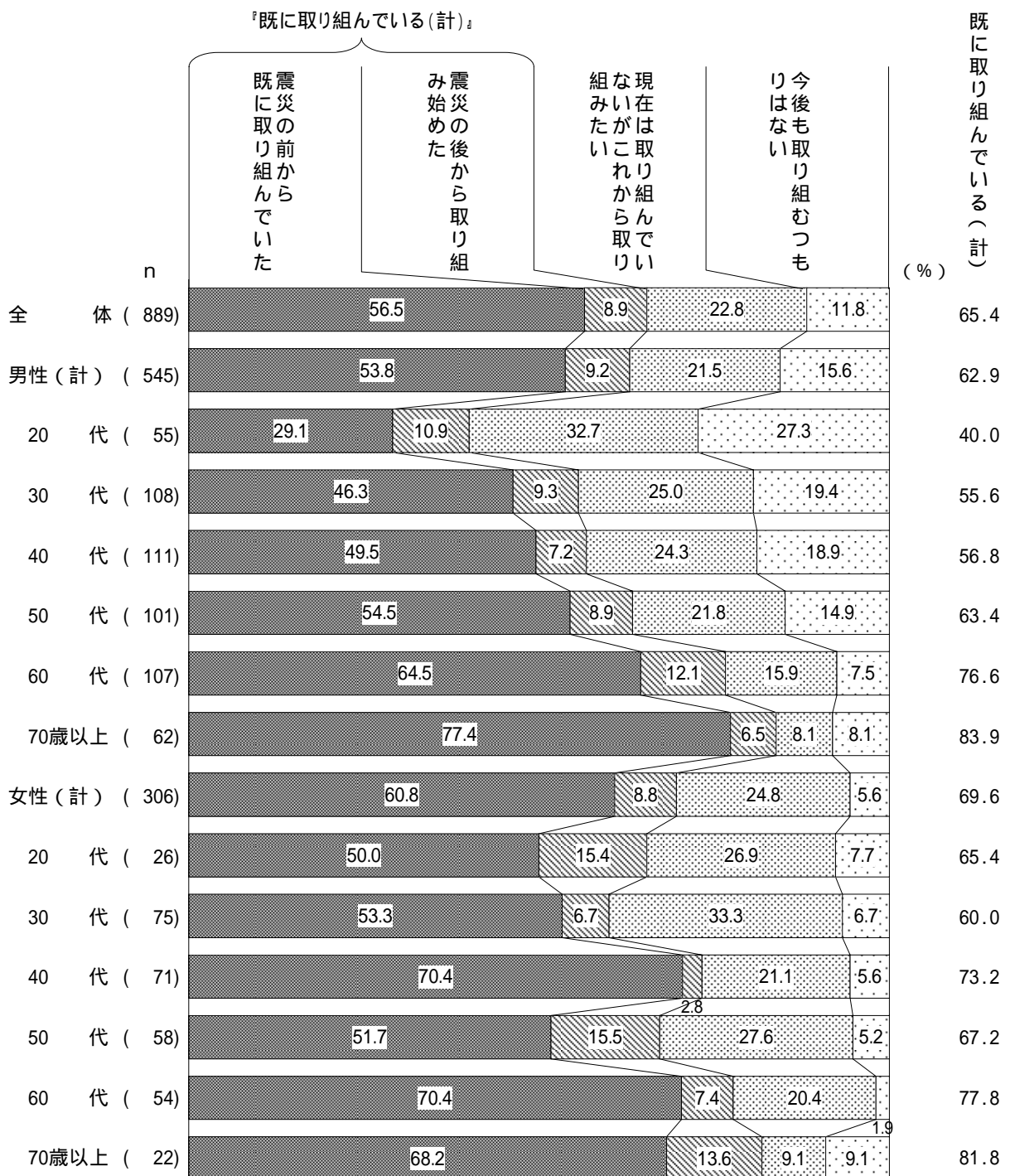


性別で見ると、女性で『既に取り組んでいる（計）』（69.6%）が男性（62.9%）より 6.7 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『既に取り組んでいる（計）』は男女とも70歳以上（男性83.9%・女性81.8%）で8割を超え高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから組みたい」は女性30代（33.3%）と男性20代（32.7%）で3割を超え、「今後も取り組むつもりはない」は男性20代（27.3%）で3割近くと高くなっている。（図3 - 5 - 9）

図3 - 5 - 9 エネルギー使用についての現在の状況 - 性別、性・年代別（ク）

（ク）発進から5秒で時速20キロになるようなふんわりアクセルの運転を心がける

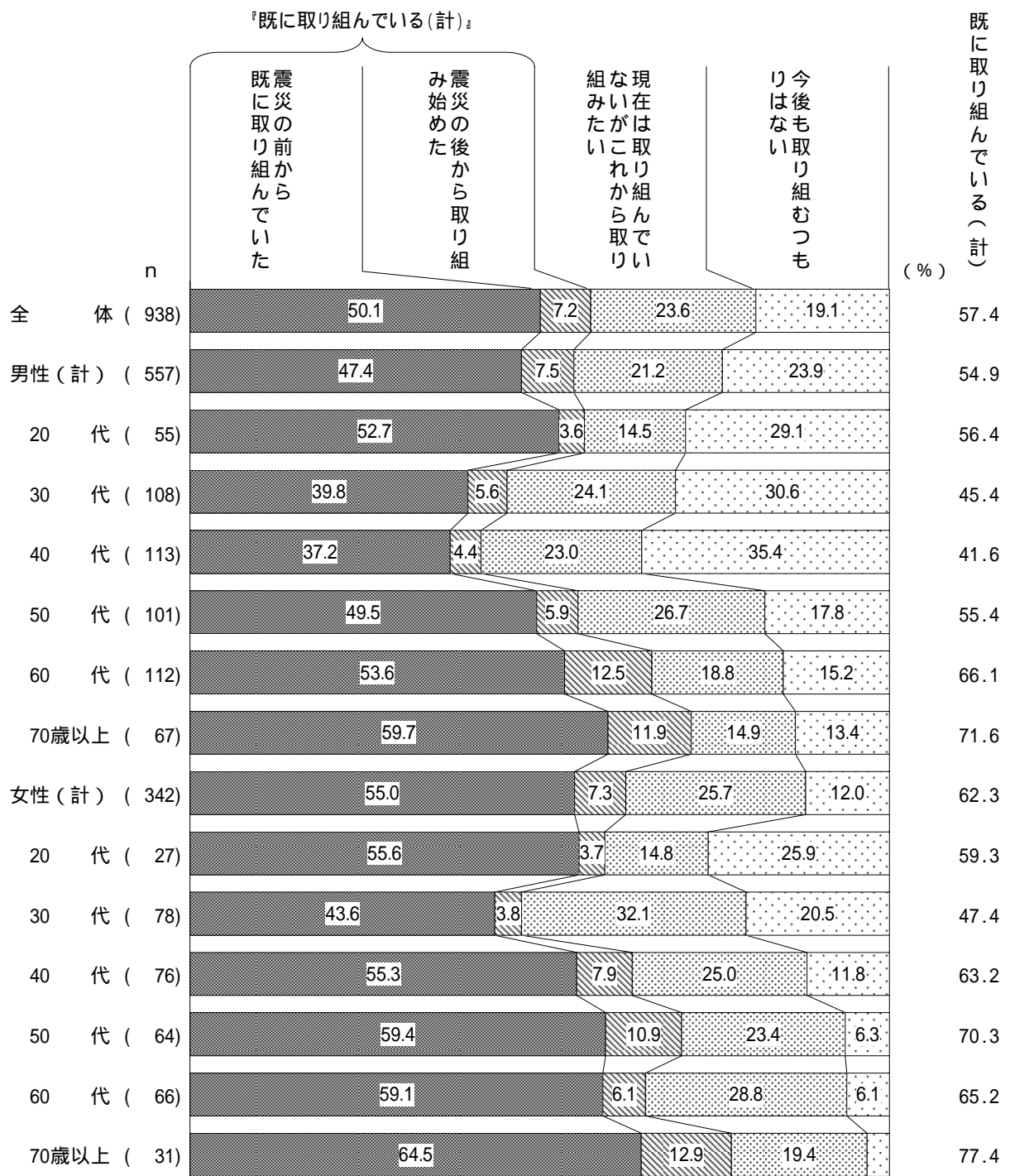


性別で見ると、女性で『既に取り組んでいる（計）』（62.3%）が男性（54.9%）より7.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『既に取り組んでいる（計）』は女性70歳以上（77.4%）で8割近くと高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は女性30代（32.1%）で3割を超え、「今後も取り組むつもりはない」は男性40代（35.4%）で3割半ばと高くなっている。（図3 - 5 - 10）

図3 - 5 - 10 エネルギー使用についての現在の状況 - 性別、性・年代別（ケ）

（ケ）区内や都心への移動は、できるだけ車を使わず、鉄道・バス・自転車を利用する

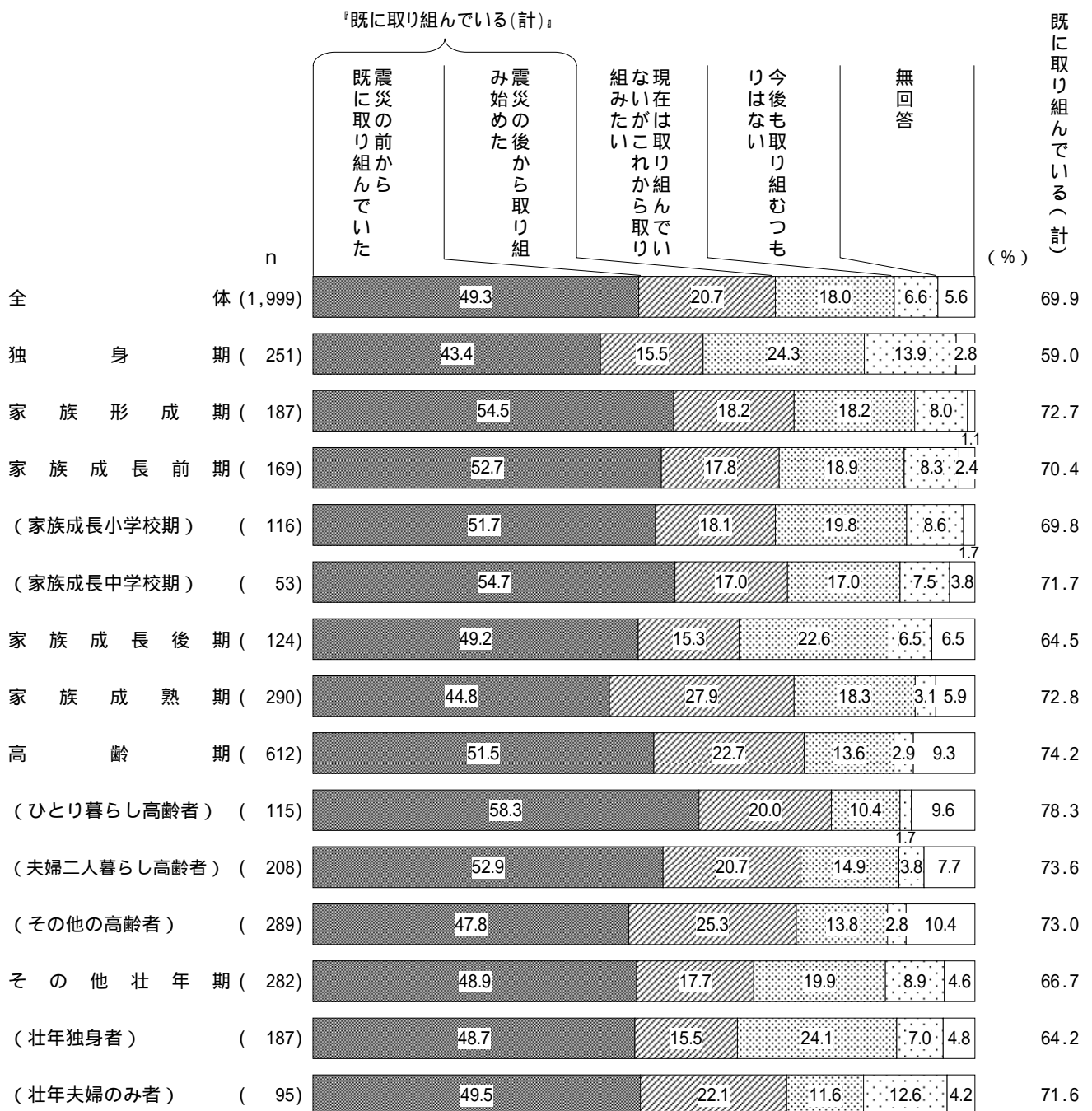


ライフステージ別でみると、『既に取り組んでいる(計)』は高齢期(74.2%)で7割半ばと高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は独身期(24.3%)で2割半ば、「今後も取り組むつもりはない」は独身期(13.9%)で1割を超え高くなっている。

(図3-5-11)

図3-5-11 エネルギー使用についての現在の状況 - ライフステージ別(ア)

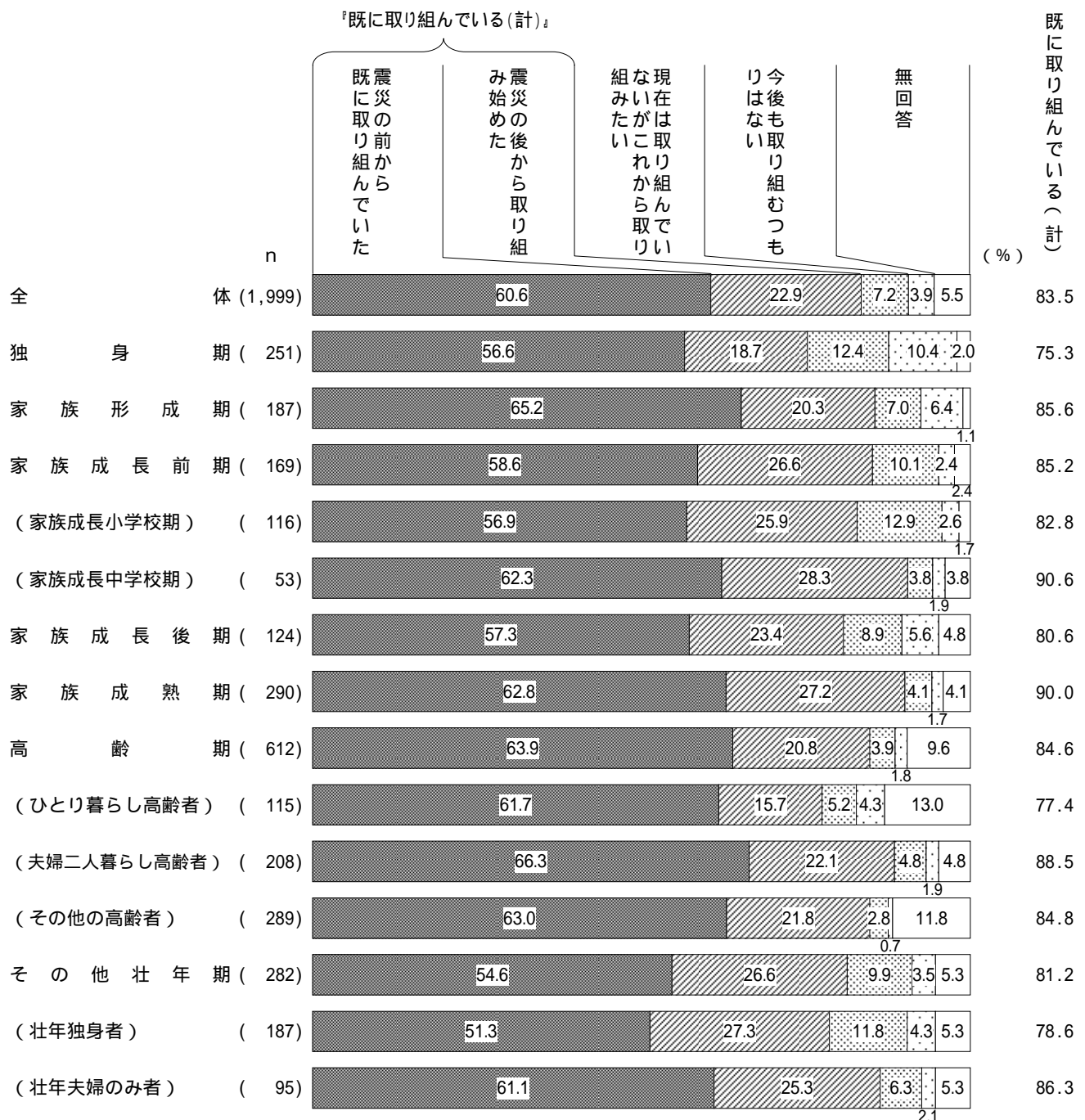
(ア) 長時間使わない電化製品は、コンセントからプラグを抜く



ライフステージ別でみると、『既に取り組んでいる(計)』は家族成熟期(90.0%)で9割と高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は独身期(12.4%)、家族成長前期(10.1%)で1割を超え高く、「今後も取り組むつもりはない」は独身期(10.4%)で1割と高くなっている。(図3-5-12)

図3-5-12 エネルギー使用についての現在の状況 - ライフステージ別(イ)

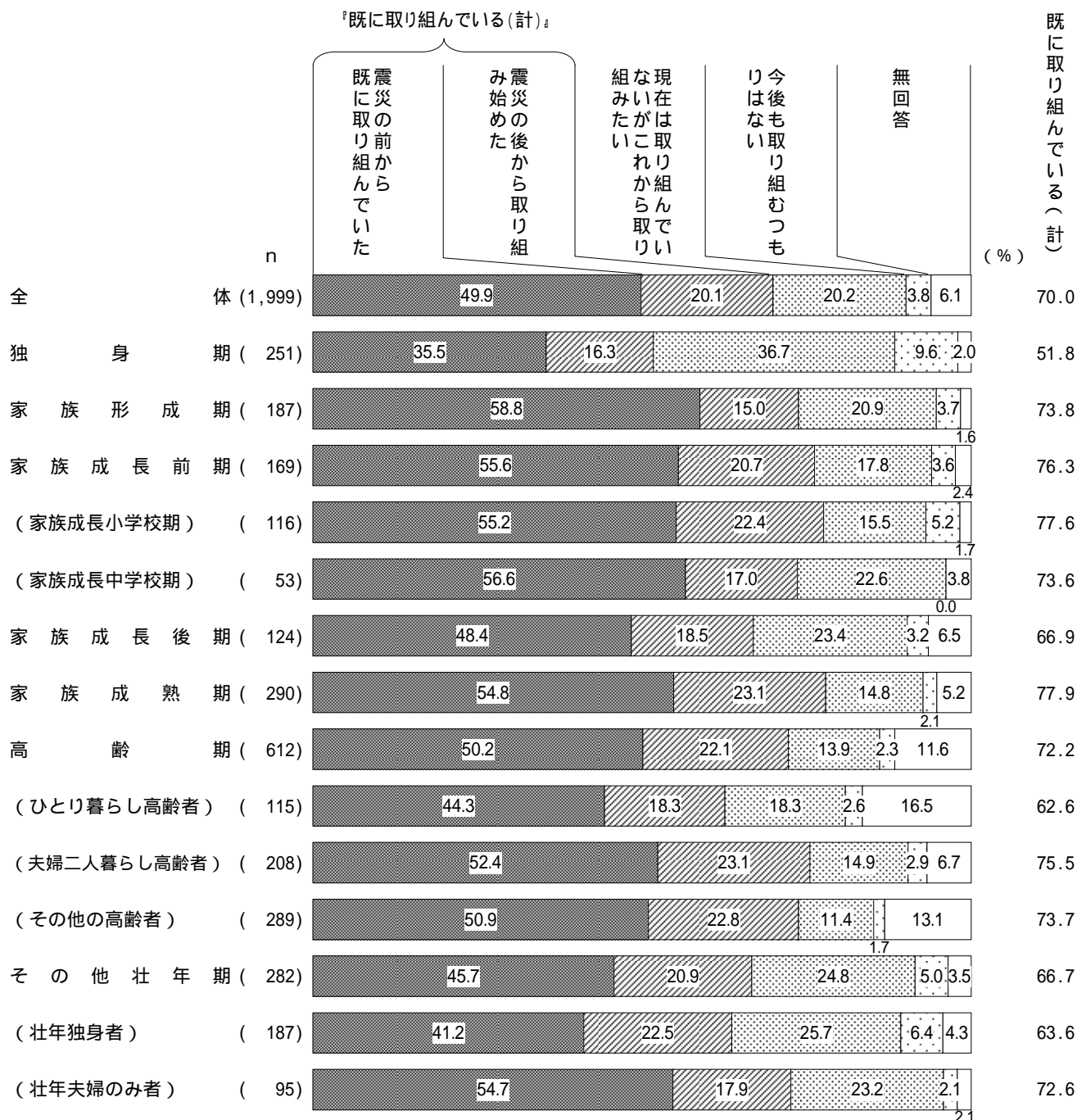
(イ) 部屋の温度を確認し、本当に必要なときだけエアコンをつける



ライフステージ別で見ると、『既に取り組んでいる(計)』は家族成熟期(77.9%)で8割近くと高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は独身期(36.7%)で3割半ば、「今後も取り組むつもりはない」は独身期(9.6%)でほぼ1割と高くなっている。(図3-5-13)

図3-5-13 エネルギー使用についての現在の状況 - ライフステージ別(ウ)

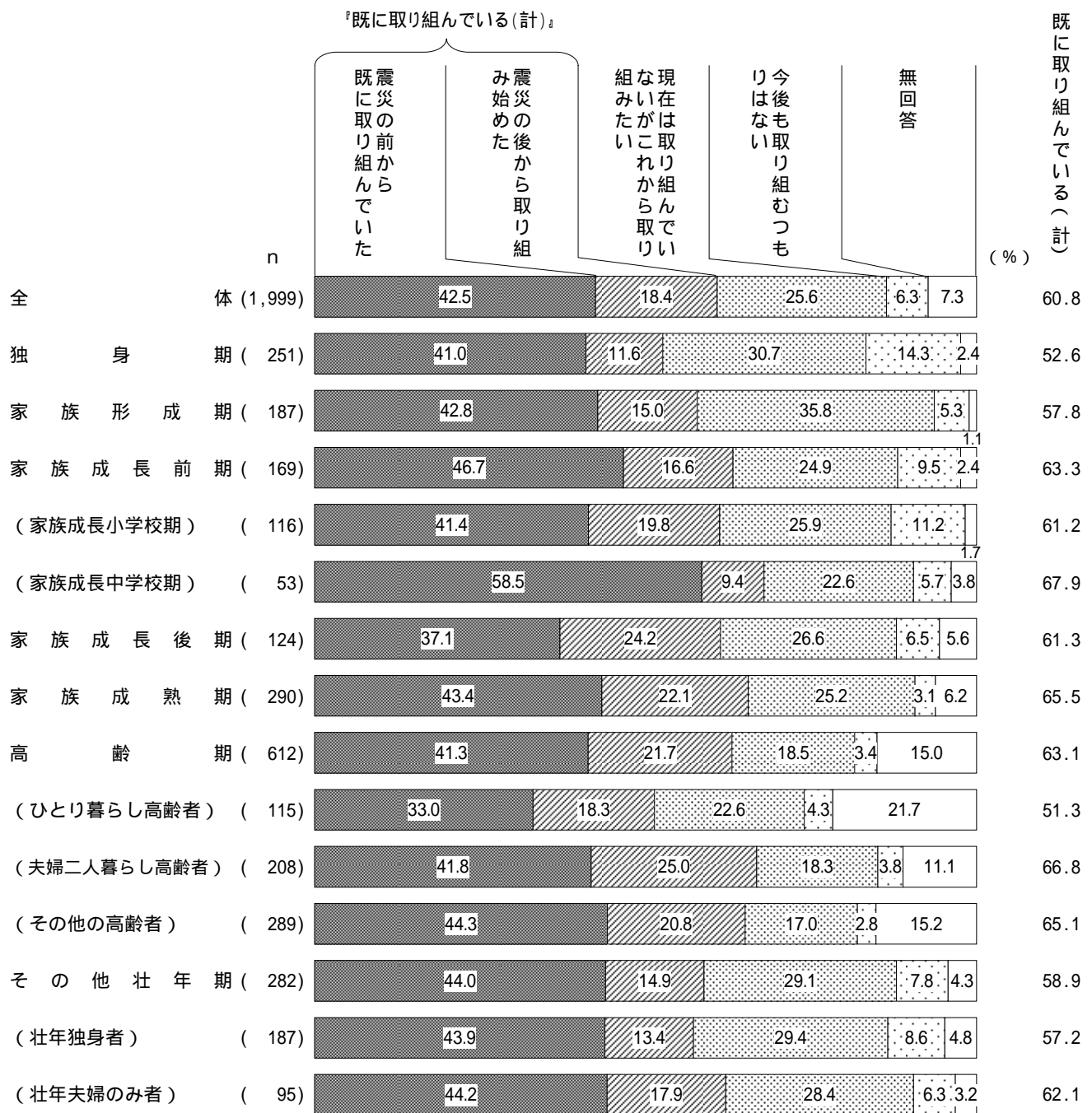
(ウ) 電化製品を買い替えるときは、省エネ性能の高いものを選ぶ



ライフステージ別で見ると、『既に取り組んでいる(計)』は家族成熟期(65.5%)で6割半ばと高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は家族形成期(35.8%)で3割半ば、「今後も取り組むつもりはない」は独身期(14.3%)で1割半ばと高くなっている。(図3-5-14)

図3-5-14 エネルギー使用についての現在の状況 - ライフステージ別(エ)

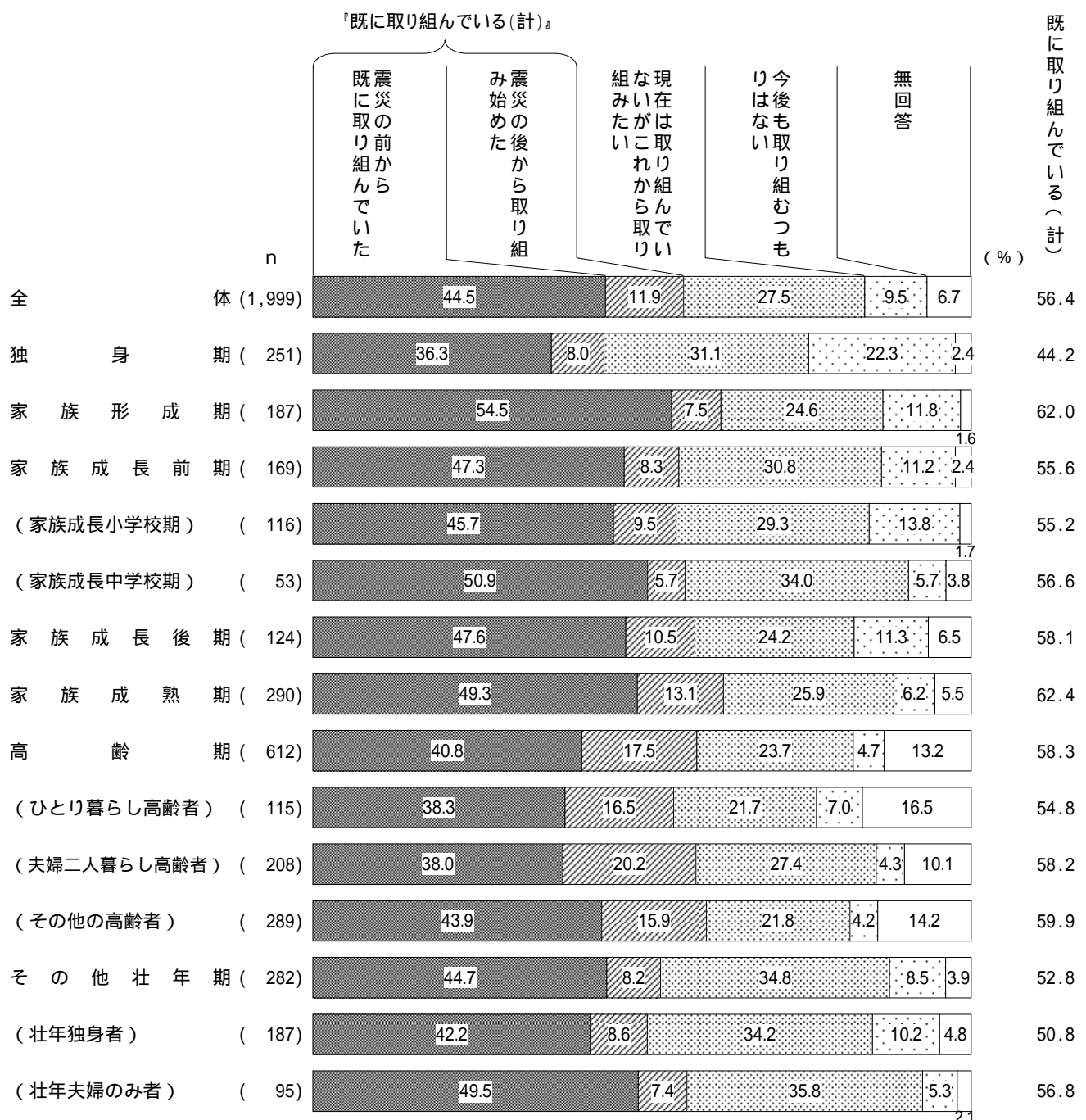
(エ) エネルギーやリサイクル、生き物や自然などの環境問題に関心を持つ



ライフステージ別でみると、『既に取り組んでいる(計)』は家族成熟期(62.4%)と家族形成期(62.0%)で6割を超え高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」はその他壮年期(34.8%)で3割半ば、「今後も取り組むつもりはない」は独身期(22.3%)で2割を超え高くなっている。(図3-5-15)

図3-5-15 エネルギー使用についての現在の状況 - ライフステージ別(オ)

(オ) 買い物のときは、古紙や再生プラスチックで作られた商品や、詰め替えができる商品など環境を考えて作られた商品を選ぶ

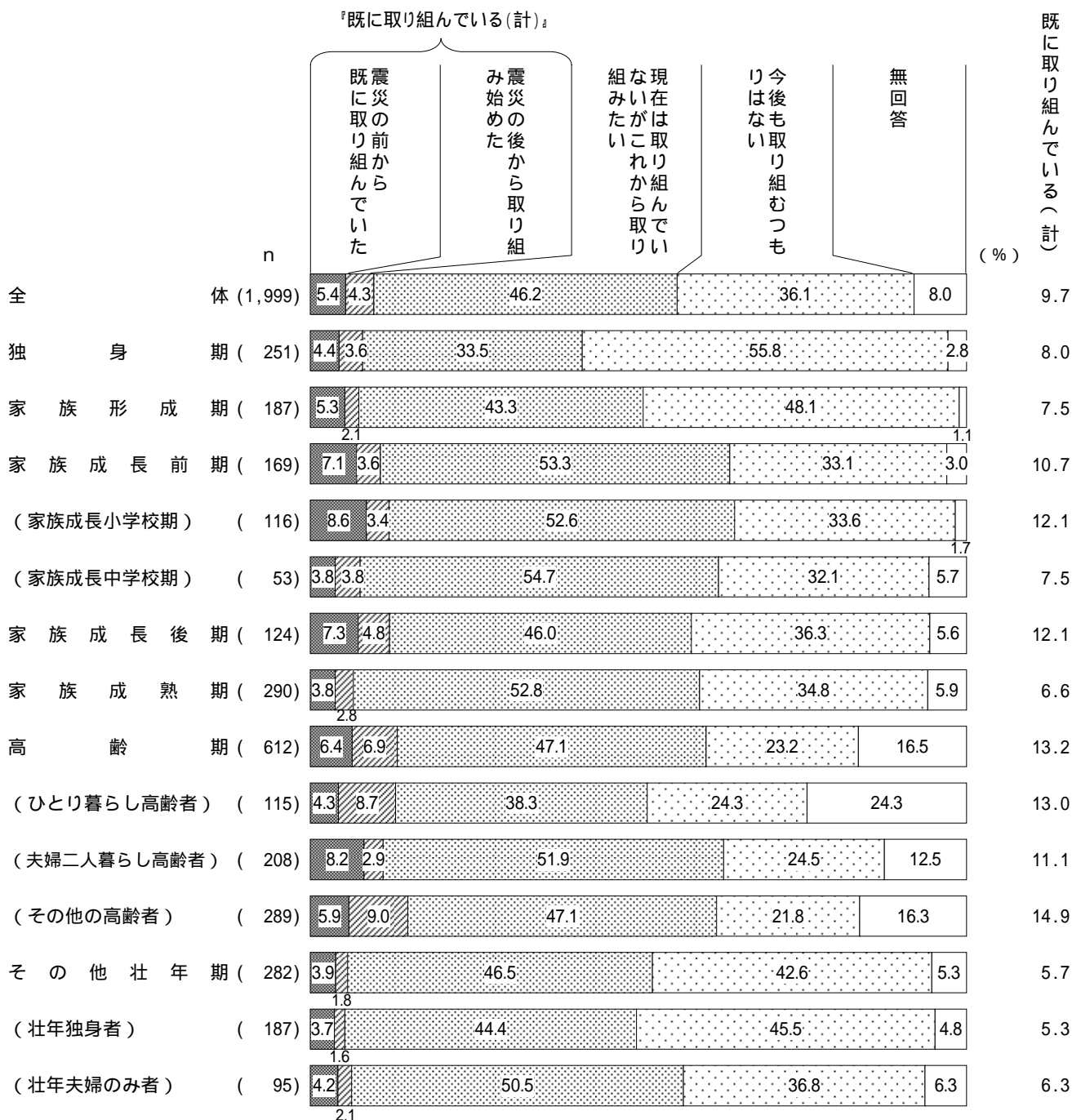


ライフステージ別でみると、『既に取り組んでいる(計)』は高齢期(13.2%)、家族成長後期(12.1%)、家族成長前期(10.7%)で1割を超え高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は家族成長前期(53.3%)と家族成熟期(52.8%)で5割を超え、「今後も取り組むつもりはない」は独身期(55.8%)で5割半ばと高くなっている。

(図3-5-16)

図3-5-16 エネルギー使用についての現在の状況 - ライフステージ別(カ)

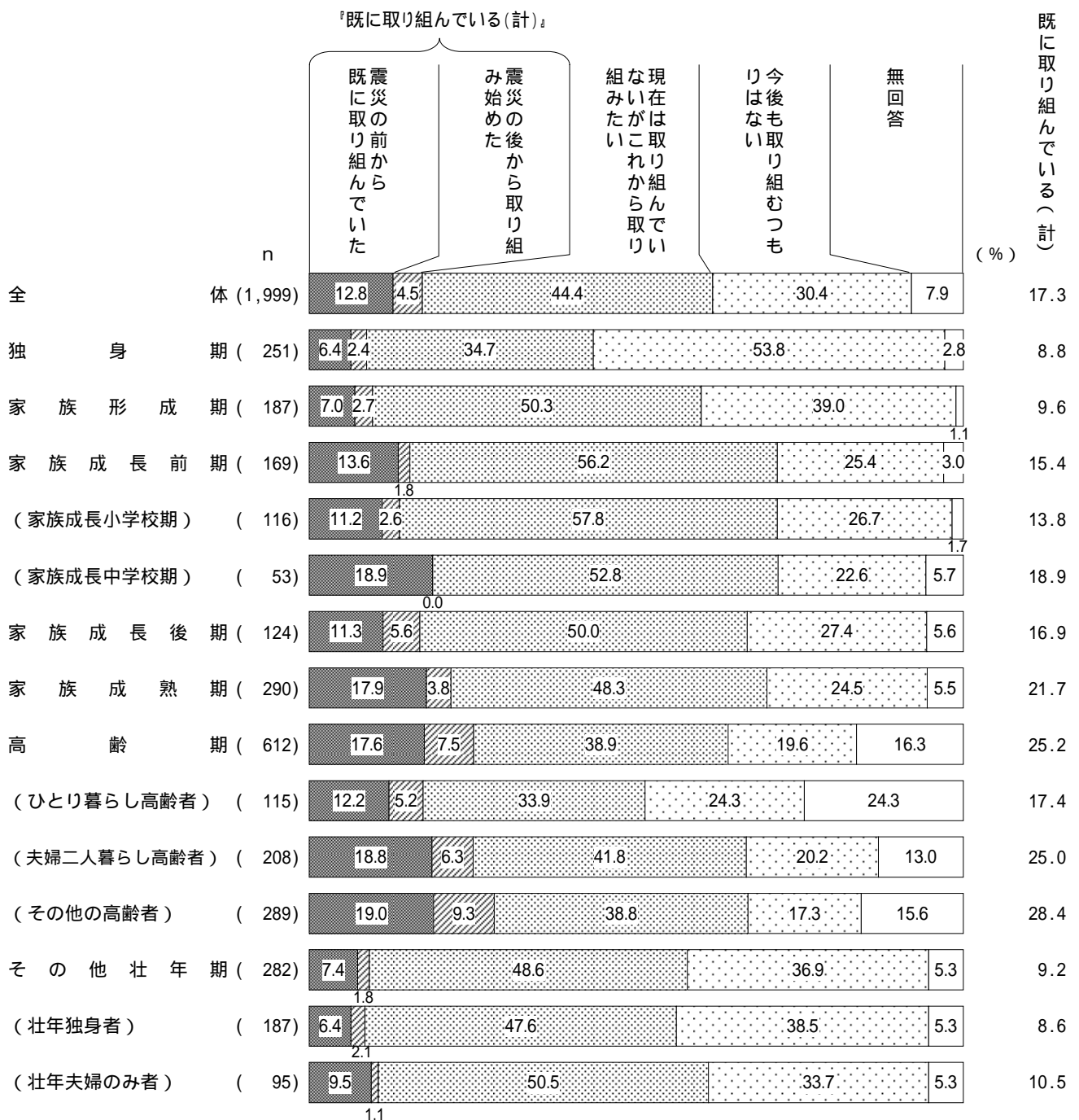
(カ) 自然体験や環境のイベントなどに参加する



ライフステージ別で見ると、『既に取り組んでいる(計)』は高齢期(25.2%)で2割半ばと高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は家族成長前期(56.2%)で5割半ば、「今後も取り組むつもりはない」は独身期(53.8%)で5割を超え高くなっている。(図3-5-17)

図3-5-17 エネルギー使用についての現在の状況 - ライフステージ別(キ)

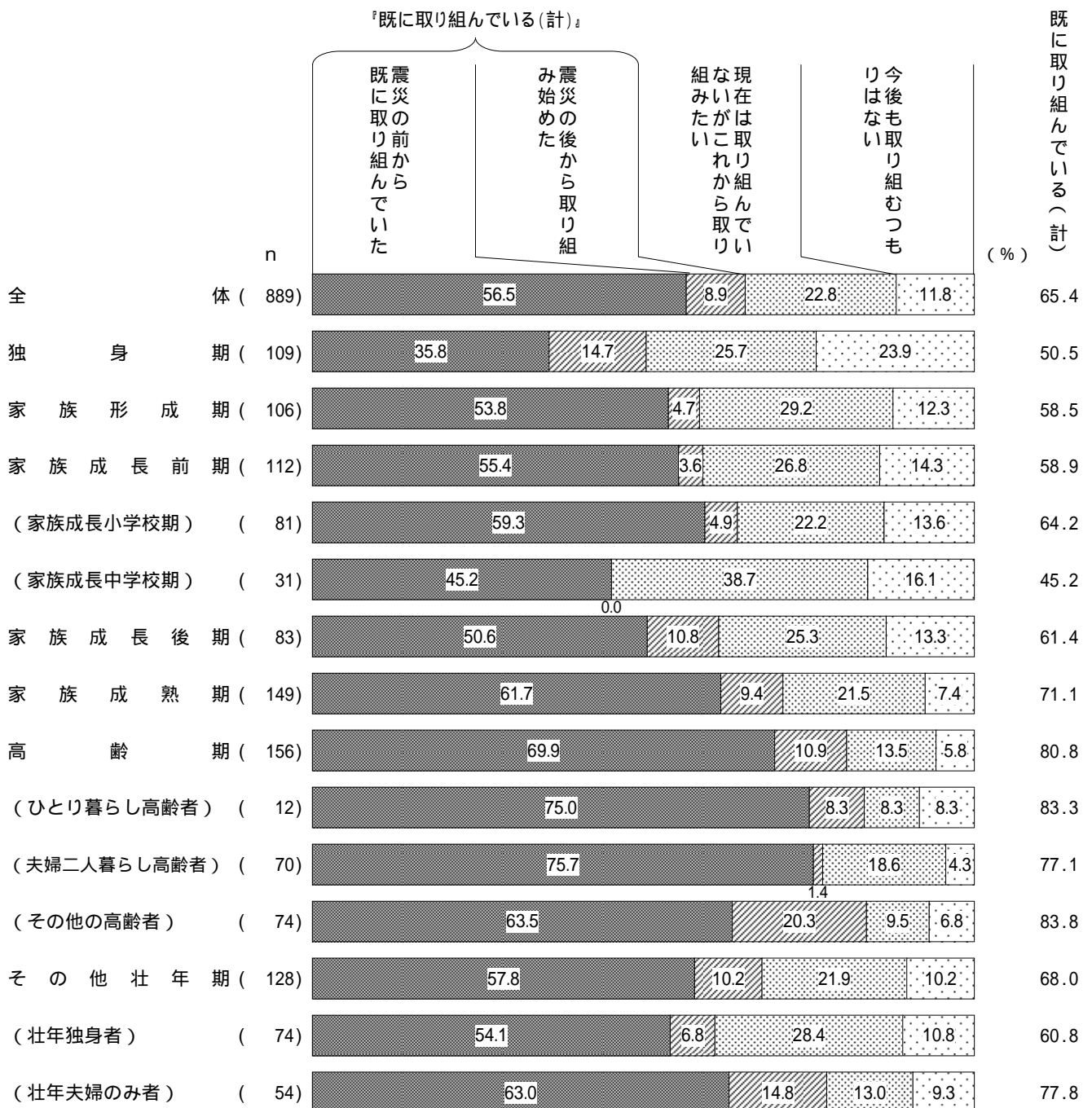
(キ) 花や緑、リサイクル、清掃活動など地域の環境活動に参加する



ライフステージ別でみると、『既に取り組んでいる(計)』は高齢期(80.8%)で8割を超え高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は家族形成期(29.2%)でほぼ3割、「今後も取り組むつもりはない」は独身期(23.9%)で2割を超え高くなっている。(図3-5-18)

図3-5-18 エネルギー使用についての現在の状況 - ライフステージ別(ク)

(ク) 発進から5秒で時速20キロになるようなふんわりアクセルの運転を心がける

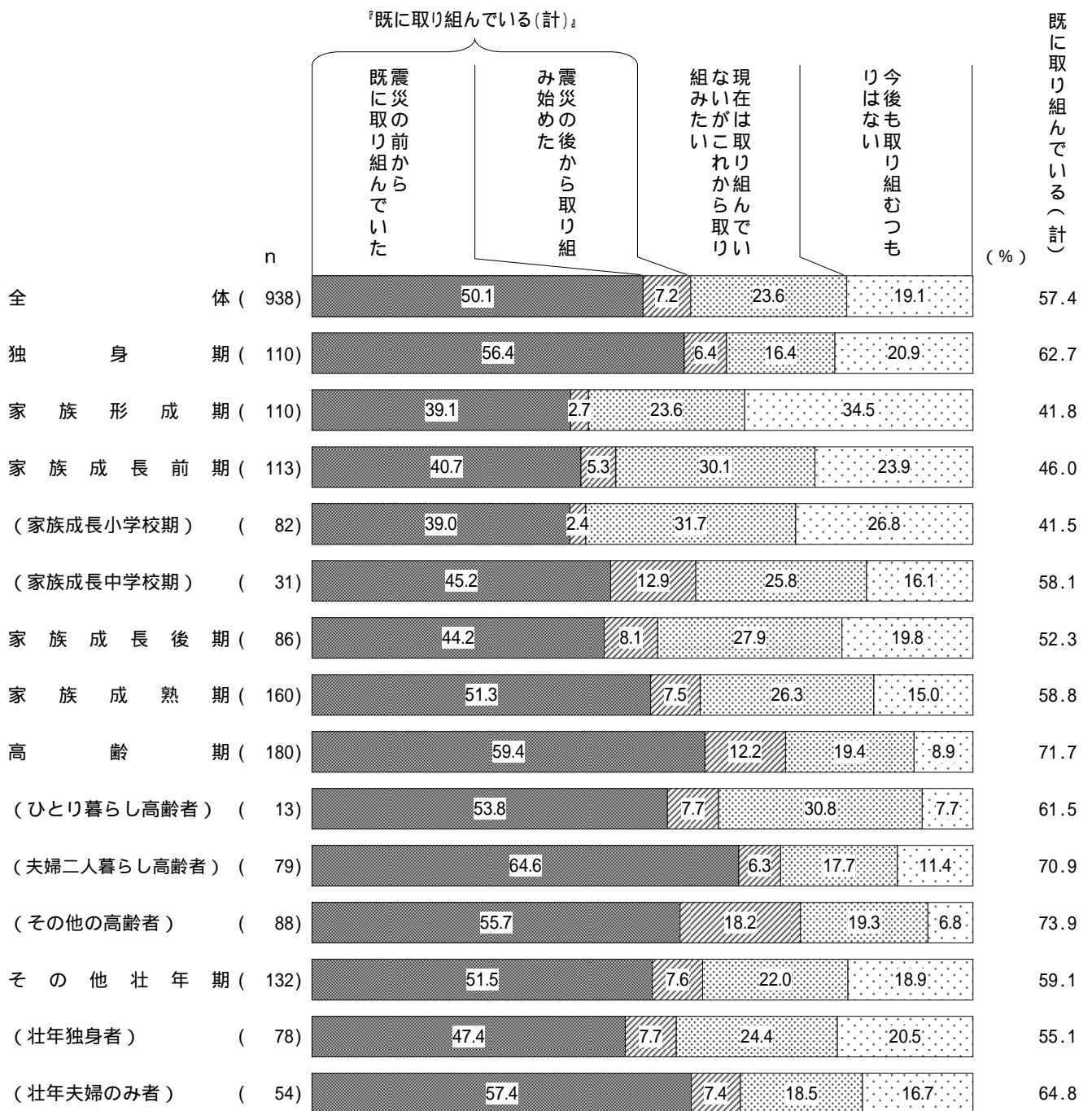


ライフステージ別でみると、『既に取り組んでいる(計)』は高齢期(71.7%)で7割を超え高くなっている。また、「現在は取り組んでいないがこれから取り組みたい」は家族成長前期(30.1%)で3割、「今後も取り組むつもりはない」は家族形成期(34.5%)で3割半ばと高くなっている。

(図3-5-19)

図3-5-19 エネルギー使用についての現在の状況 - ライフステージ別(ケ)

(ケ) 区内や都心への移動は、できるだけ車を使わず、鉄道・バス・自転車を利用する



4 「あだち広報」、 「わたしの便利帳」

-
- (1) 足立区に関する情報入手の手段
 - (2) 「あだち広報」を読む程度
 - (2 - 1) 「あだち広報」で読む内容
 - (2 - 2) 記事をよく読む理由
 - (3) 「あだち広報」の読みやすさ
 - (3 - 1) 「あだち広報」が読みやすい理由
 - (3 - 2) 「あだち広報」が読みにくい理由
 - (4) 「わたしの便利帳」の利用頻度
 - (5) 「わたしの便利帳」の利用内容
 - (6) 「あだちマップ」の利用頻度
 - (7) 「あだちマップ」の利用内容
-

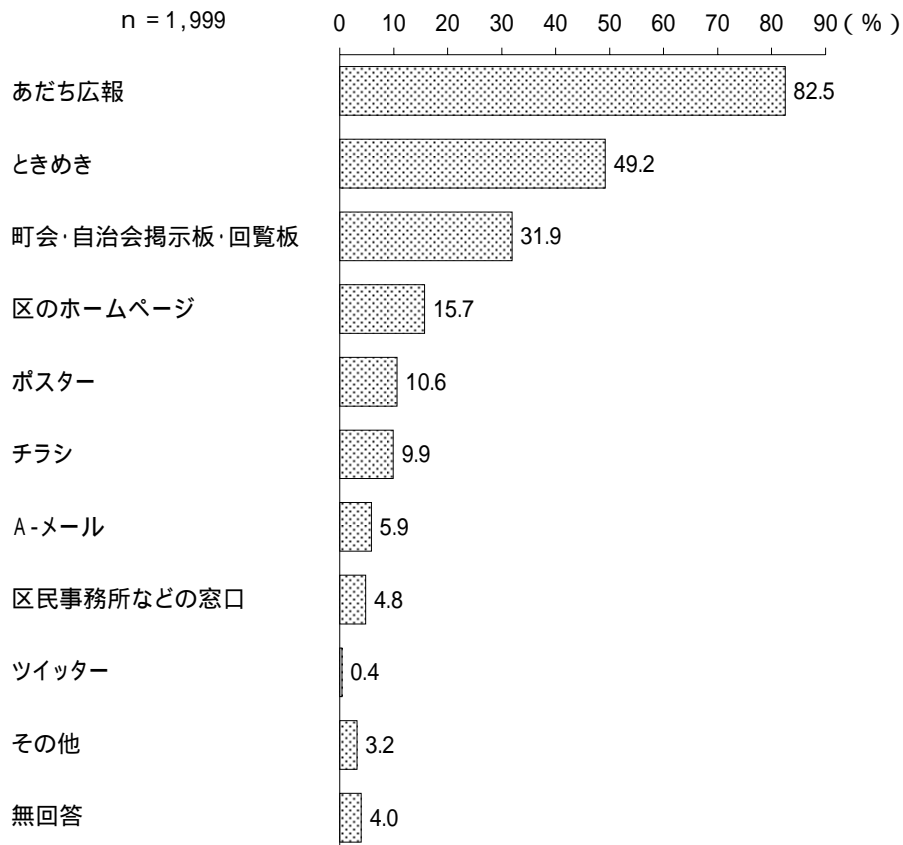
4 「あだち広報」、「わたしの便利帳」

(1) 足立区に関する情報入手の手段

「あだち広報」が8割を超え最も高い

問15 足立区に関する情報はどのような手段でご覧になっていますか。(は3つまで)

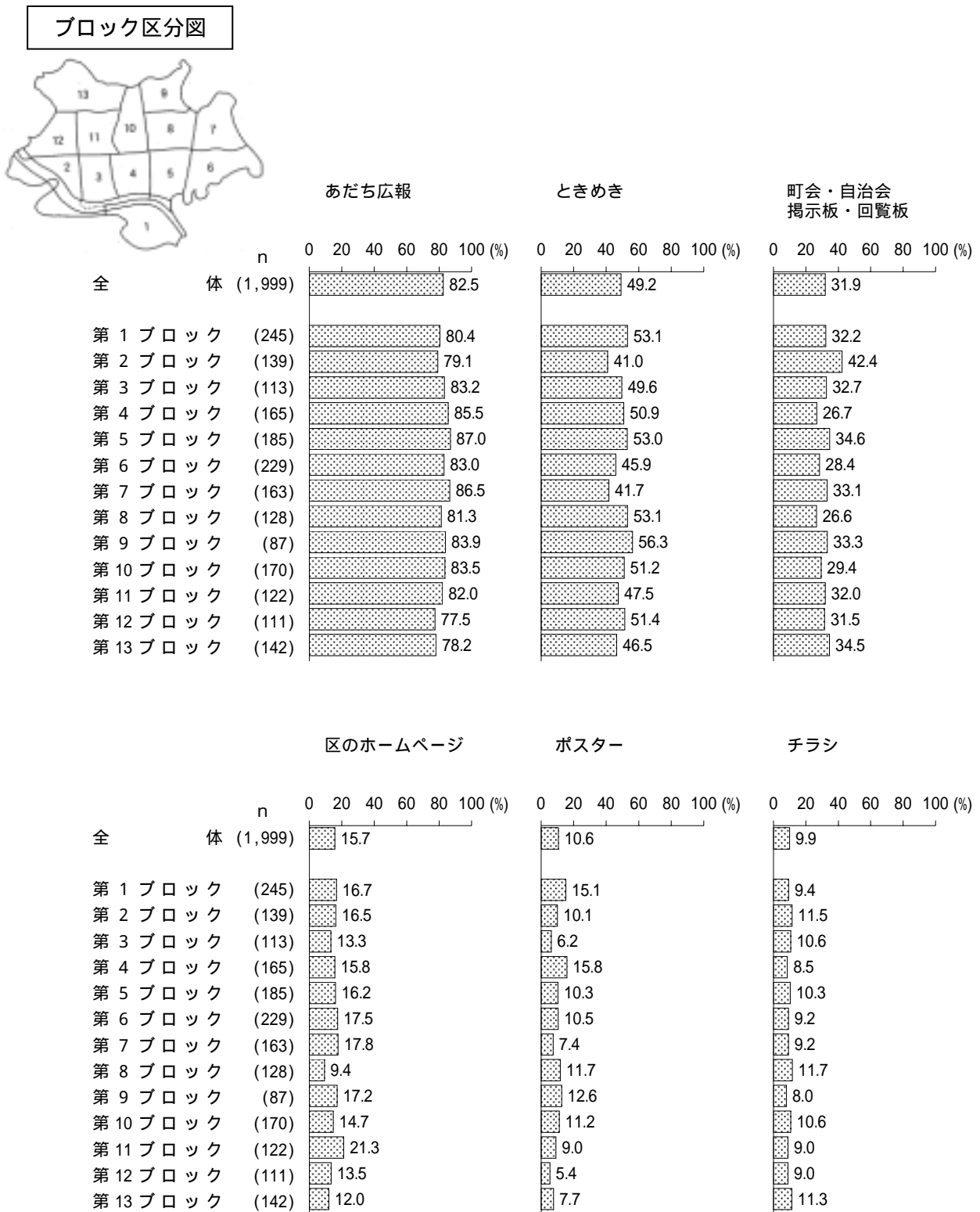
図4 - 1 - 1 足立区に関する情報入手の手段



足立区に関する情報はどのような手段でご覧になっているか聞いたところ、「あだち広報」(82.5%)が8割を超え最も高く、次いで「ときめき」(49.2%)、「町会・自治会掲示板・回覧板」(31.9%)、「区のホームページ」(15.7%)、「ポスター」(10.6%)の順になっている。(図4 - 1 - 1)

地域ブロック別でみると、「ときめき」は第9ブロック（56.3%）で5割半ばと最も高くなっている。また、「町会・自治会掲示板・回覧板」は第2ブロック（42.4%）で4割を超え、「区のホームページ」は第11ブロック（21.3%）で2割を超え高くなっている。（図4-1-2）

図4-1-2 足立区に関する情報入手の手段 - 地域ブロック別（上位6位）

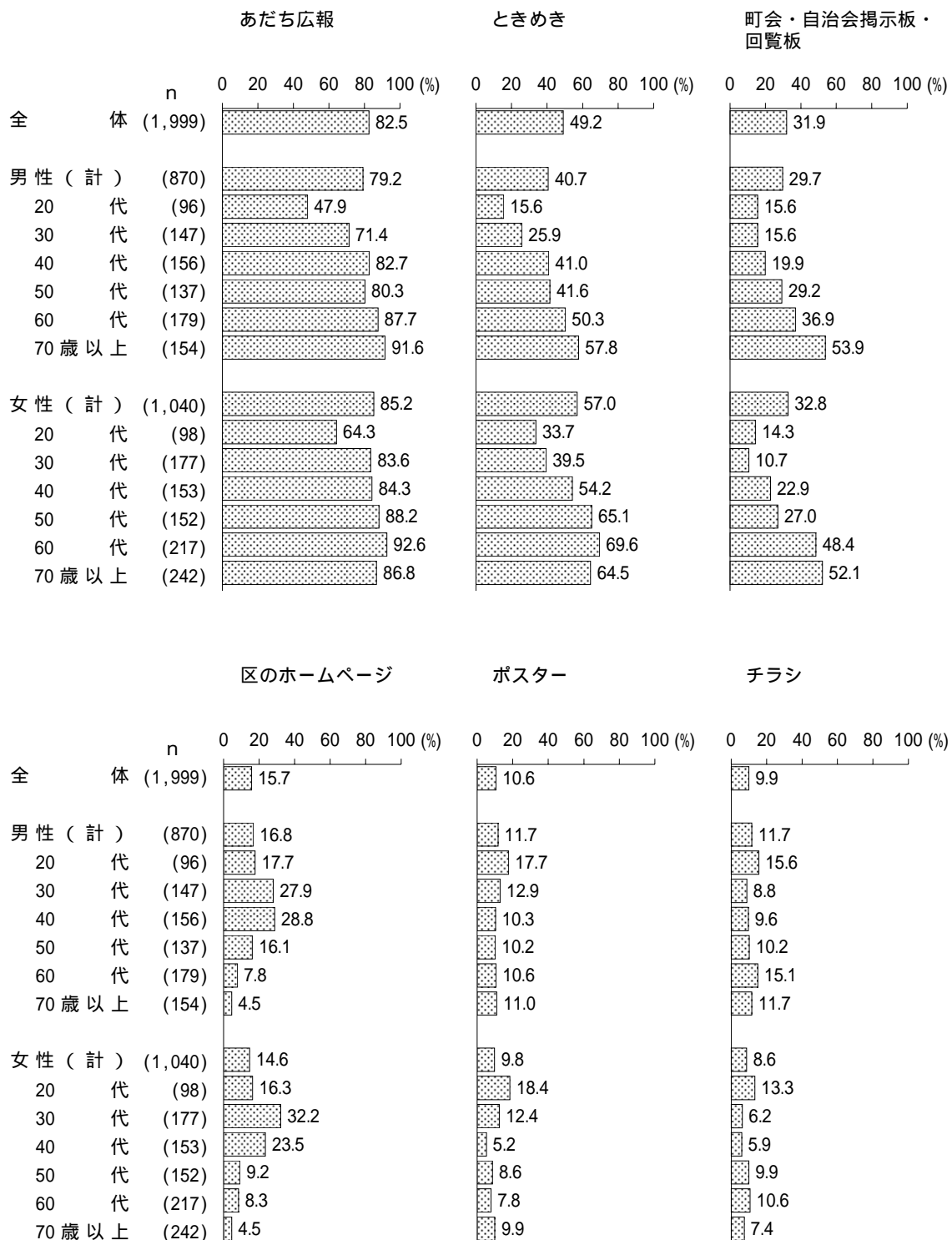


性別で見ると、女性で「ときめき」(57.0%)が男性(40.7%)より16.3ポイント高く、「あだち広報」(85.2%)が男性(79.2%)より6.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「あだち広報」は女性60代(92.6%)と男性70歳以上(91.6%)で9割を超え、「区のホームページ」は女性30代(32.2%)で3割を超え高くなっている。また、「ときめき」と「町会・自治会掲示板・回覧板」は男性では高い年代ほど割合が高くなる傾向にある。

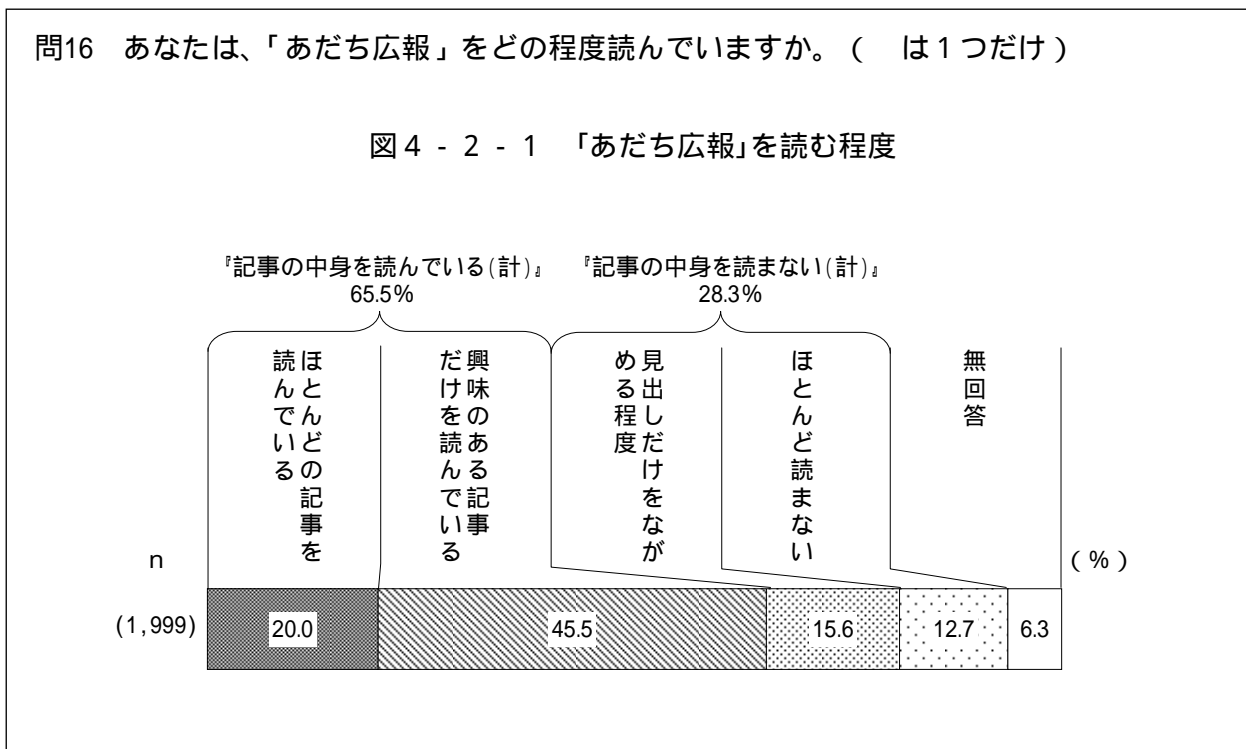
(図4-1-3)

図4-1-3 足立区に関する情報入手の手段 - 性別、性・年代別(上位6位)



(2) 「あだち広報」を読む程度

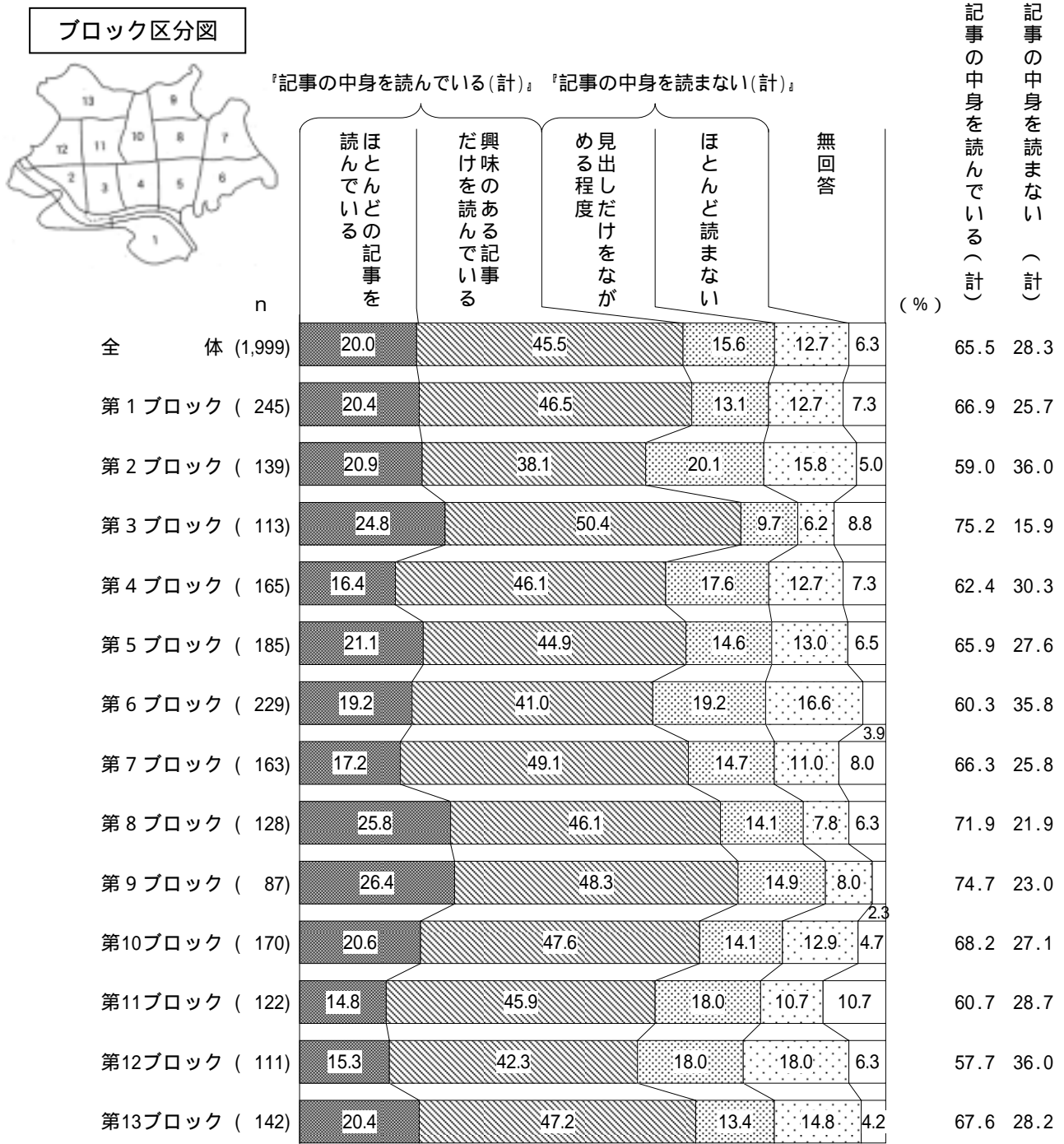
『記事の中身を読んでいる』人が6割半ば



「あだち広報」をどの程度読んでいるか聞いたところ、「ほとんどの記事を読んでいる」(20.0%)が2割、これに「興味のある記事だけを読んでいる」(45.5%)を合わせた『記事の中身を読んでいる(計)』(65.5%)が6割半ばとなっている。一方、「ほとんど読まない」(12.7%)と「見出しだけをながめる程度」(15.6%)を合わせた『記事の中身を読まない(計)』(28.3%)が3割近くとなっている。(図4 - 2 - 1)

地域ブロック別でみると、『記事の中身を読んでいる(計)』は第3ブロック(75.2%)と第9ブロック(74.7%)で7割半ばと高くなっている。一方、『記事の中身を読まない(計)』は第2ブロックと第12ブロック(ともに36.0%)、第6ブロック(35.8%)で3割半ばと高くなっている。(図4-2-2)

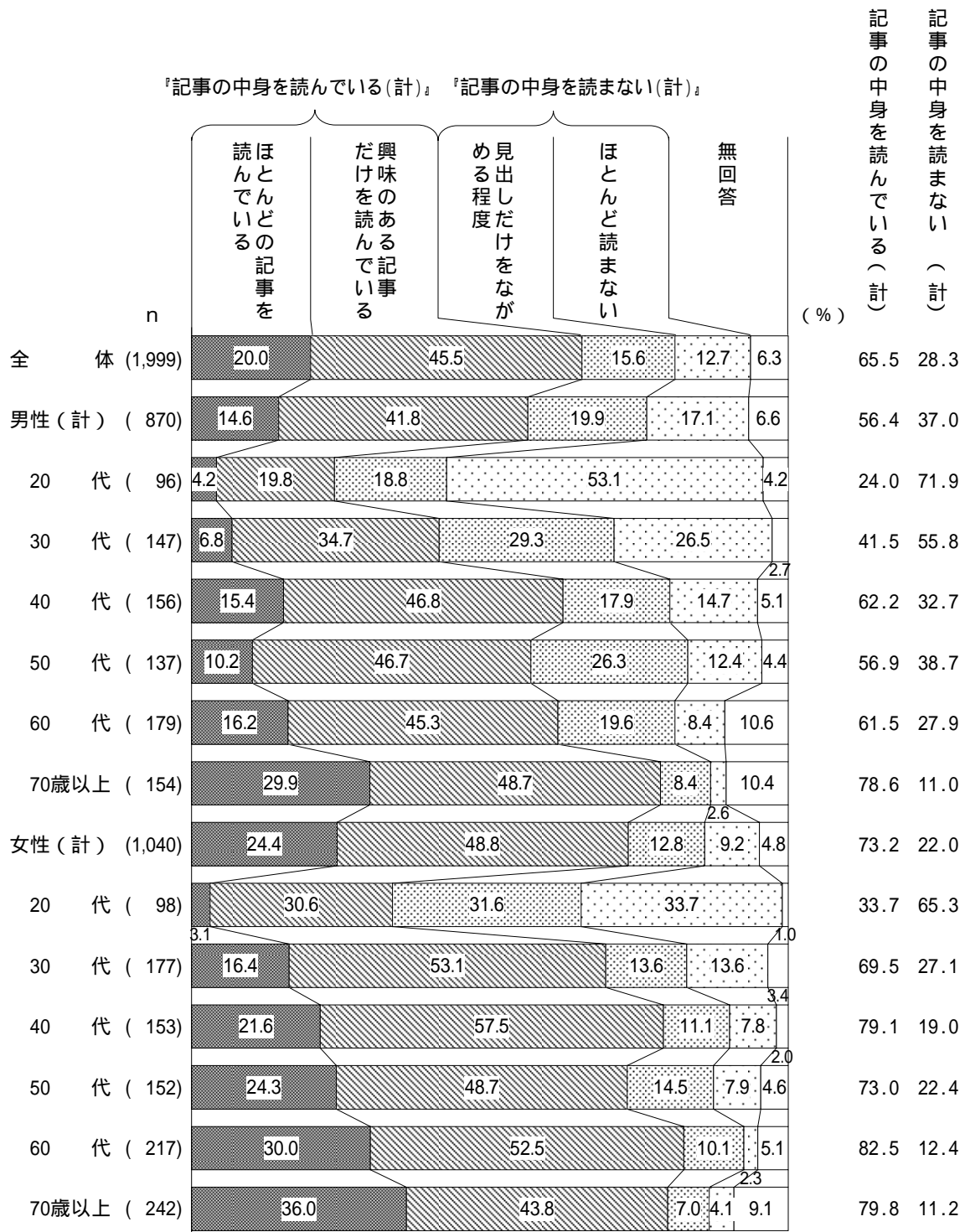
図4-2-2 「あだち広報」を読む程度 - 地域ブロック別



性別で見ると、女性で『記事の中身を読んでいる(計)』(73.2%)が男性(56.4%)より16.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『記事の中身を読んでいる(計)』は女性60代(82.5%)で8割を超え高くなっている。一方、『記事の中身を読まない(計)』は男女とも20代(男性71.9%・女性65.3%)で7割前後と高くなっている。(図4-2-3)

図4-2-3 「あだち広報」を読む程度 - 性別、性・年代別



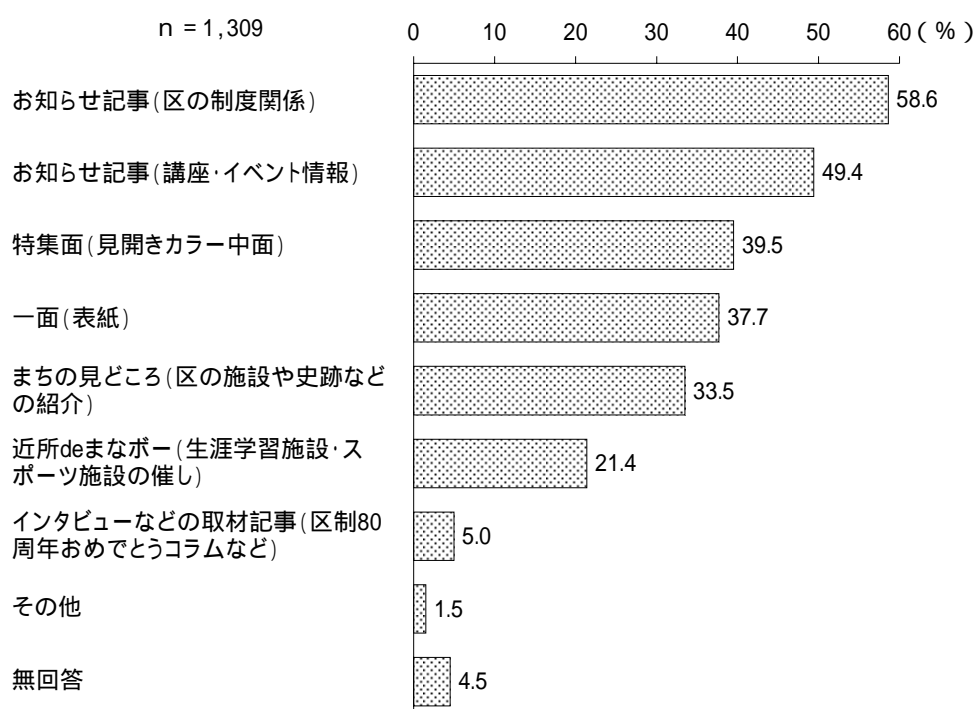
(2 - 1) 「あだち広報」で読む内容

「お知らせ記事(区の制度関係)」が6割近くで最も高い

(問16で「ほとんどの記事を読んでいる」又は「興味のある記事だけを読んでいる」とお答えの方に)

問16 - 1 「あだち広報」でよく読む内容はどのようなものですか。(は3つまで)

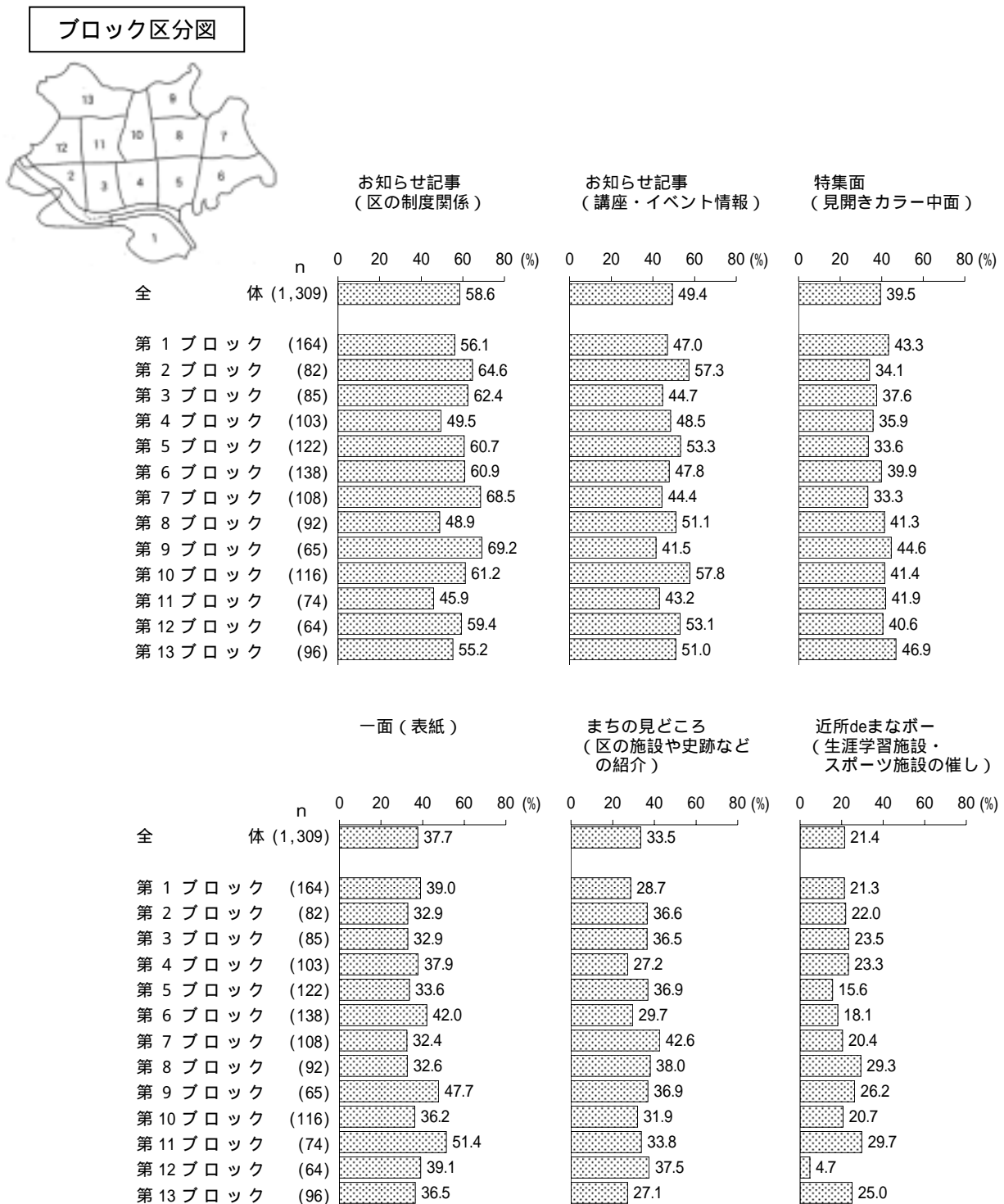
図 4 - 3 - 1 「あだち広報」で読む内容



「あだち広報」の「ほとんどの記事を読んでいる」又は「興味のある記事だけを読んでいる」人(1,309人)に、よく読む内容を聞いたところ、「お知らせ記事(区の制度関係)」(58.6%)が6割近くで最も高く、次いで「お知らせ記事(講座・イベント情報)」(49.4%)、「特集面(見開きカラー中面)」(39.5%)、「一面(表紙)」(37.7%)、「まちの見どころ(区の施設や史跡などの紹介)」(33.5%)の順になっている。(図4-3-1)

地域ブロック別でみると、「お知らせ記事（区の制度関係）」は第9ブロック（69.2%）でほぼ7割、「お知らせ記事（講座・イベント情報）」は第10ブロック（57.8%）と第2ブロック（57.3%）で6割近くと高くなっている。また、「一面（表紙）」は第11ブロック（51.4%）で5割を超え、「まちの見どころ（区の施設や史跡などの紹介）」は第7ブロック（42.6%）で4割を超え高くなっている。（図4-3-2）

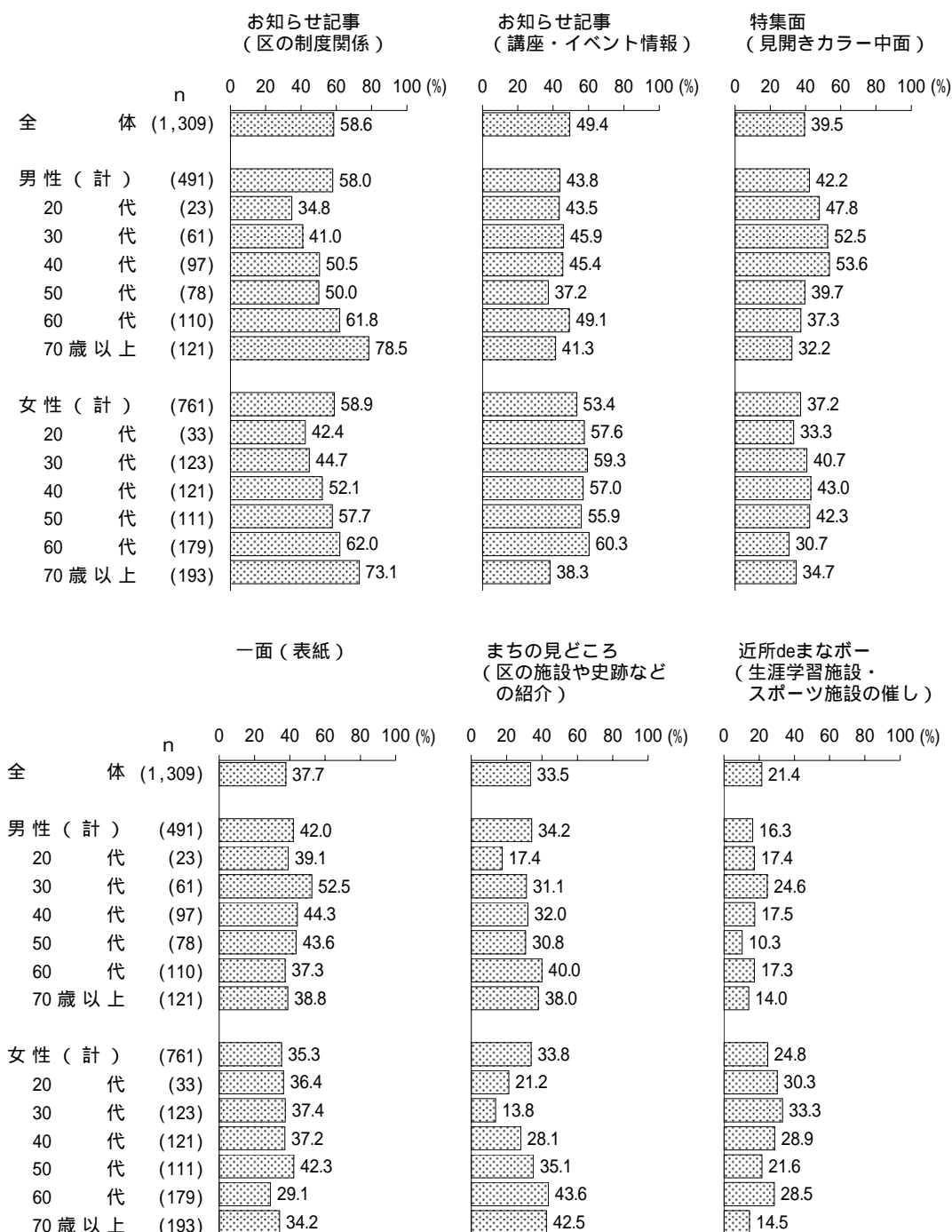
図4-3-2 「あだち広報」で読む内容 - 地域ブロック別（上位6位）



性別でみると、女性で「お知らせ記事（講座・イベント情報）」（53.4%）が男性（43.8%）より9.6ポイント高く、「近所deまなボー（生涯学習施設・スポーツ施設の催し）」（24.8%）が男性（16.3%）より8.5ポイント高くなっている。一方、男性で「一面（表紙）」（42.0%）が女性（35.3%）より6.7ポイント高く、「特集面（見開きカラー中面）」（42.2%）が女性（37.2%）より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「お知らせ記事（区の制度関係）」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に男性70歳以上（78.5%）で8割近くと高くなっている。また、「一面（表紙）」は男性30代（52.5%）で5割を超え高くなっている。（図4-3-3）

図4-3-3 「あだち広報」で読む内容 - 性別、性・年代別（上位6位）



(2 - 2) 記事をよく読む理由

(問 16 で「ほとんどの記事を読んでいる」又は「興味のある記事だけを読んでいる」とお答えの方に)

問 16 - 2 お選びになった記事をよく読まれる理由について、どのようなことでも結構ですので、ご自由にご記入ください。

【768 件 (772 人) のうち、主な理由】

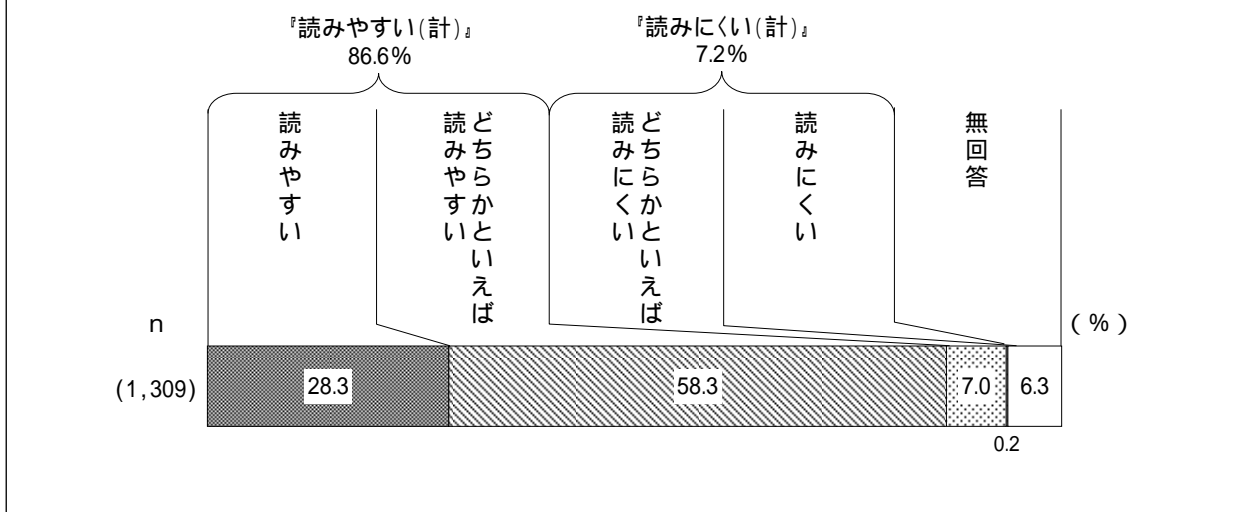
- ・ 講座・イベント情報を知りたい、又は参加できるものはないかを探するため …… 206 件
- ・ 区の情報を知るのに便利だから …… 92 件
- ・ 色々な情報を得るため …… 57 件
- ・ 区の制度関係を知るため …… 46 件
- ・ 子育てや子どもに関する情報を得るため …… 41 件
- ・ 写真がきれいだから …… 28 件
- ・ 興味・関心があるから …… 27 件

(3) 「あだち広報」の読みやすさ
『読みやすい』人が9割近く

(問16で「ほとんどの記事を読んでいる」又は「興味のある記事だけを読んでいる」とお答えの方に)

問17 「あだち広報」は、読みやすいですか。(は1つだけ)

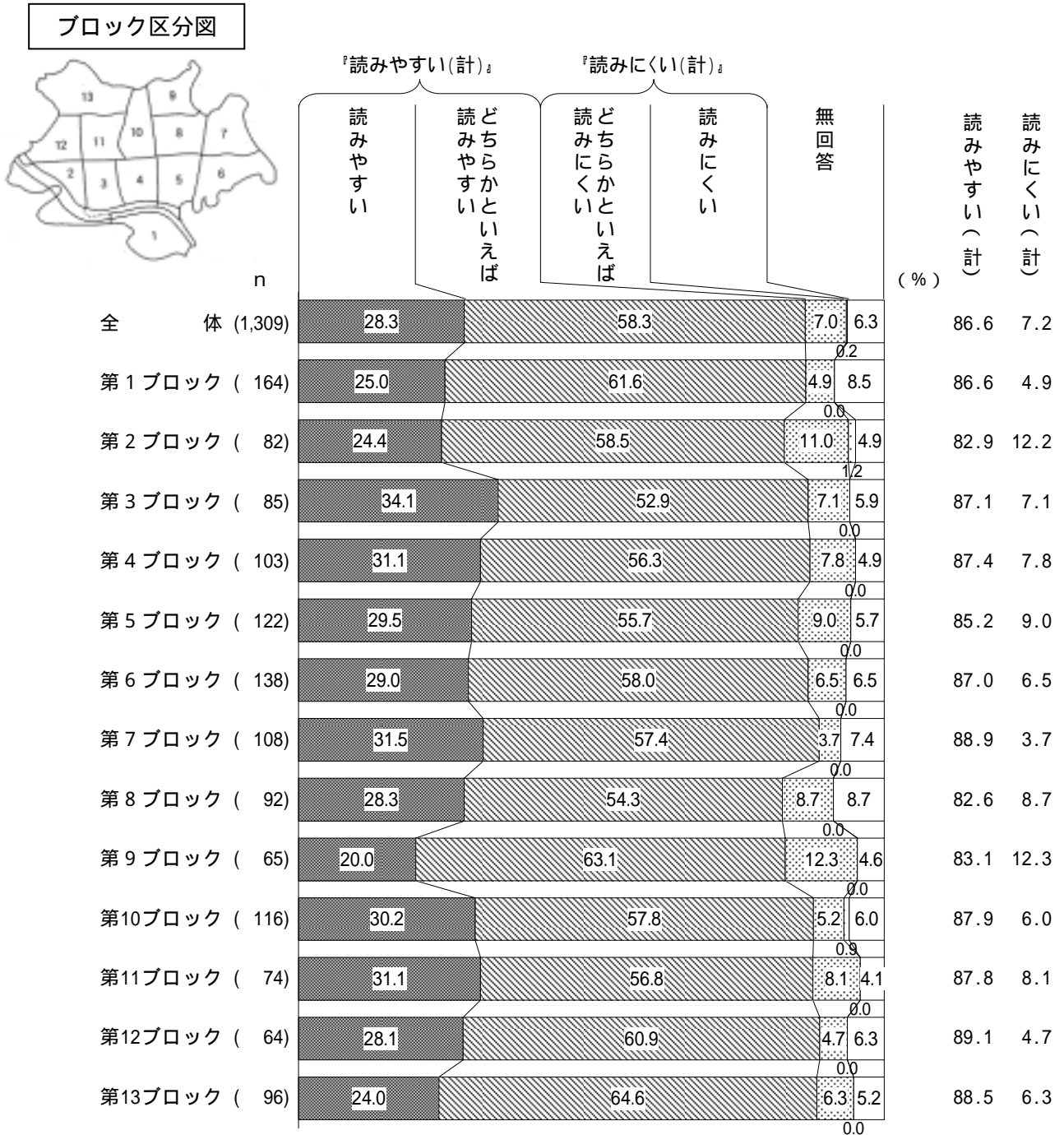
図4 - 4 - 1 「あだち広報」の読みやすさ



「あだち広報」の「ほとんどの記事を読んでいる」又は「興味のある記事だけを読んでいる」人(1,309人)に、読みやすさを聞いたところ、「読みやすい」(28.3%)が3割近く、これに「どちらかといえば読みやすい」(58.3%)を合わせた『読みやすい(計)』(86.6%)が9割近くとなっている。一方、「読みにくい」(0.2%)と「どちらかといえば読みにくい」(7.0%)を合わせた『読みにくい(計)』(7.2%)が1割未満となっている。(図4 - 4 - 1)

地域ブロック別でみると、「読みやすい」は第3ブロック（34.1%）で3割半ばと高く、「どちらかといえば読みやすい」は第13ブロック（64.6%）で6割半ばと高くなっている。一方、『読みにくい（計）』は第9ブロック（12.3%）と第2ブロック（12.2%）で1割を超え高くなっている。（図4-4-2）

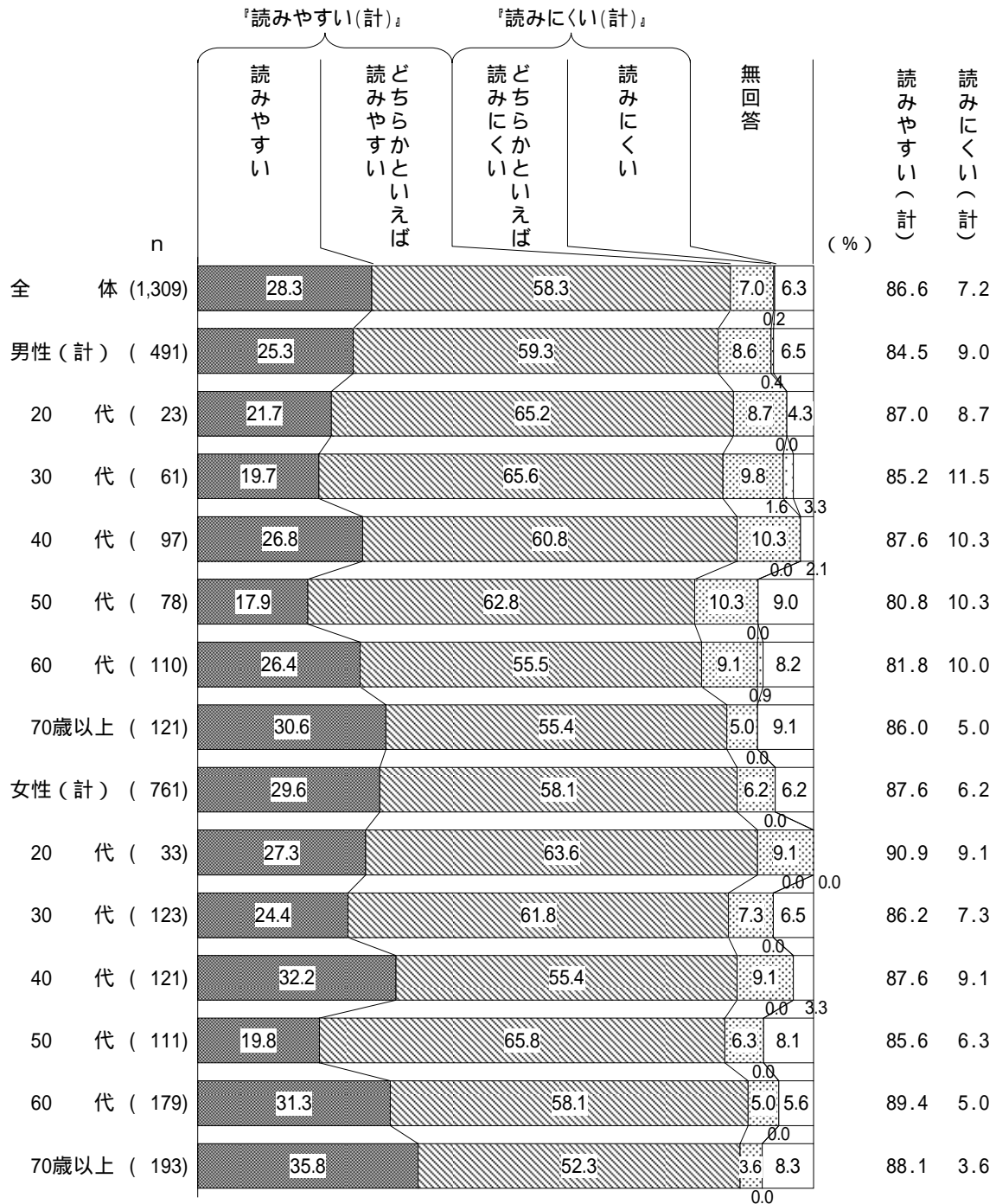
図4-4-2 「あだち広報」の読みやすさ - 地域ブロック別



性別で見ると、女性で「読みやすい」(29.6%)が男性(25.3%)より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「読みやすい」は女性70歳以上(35.8%)で3割半ばと高く、『読みやすい(計)』はすべての年代で8割以上となっている。(図4-4-3)

図4-4-3 「あだち広報」の読みやすさ - 性別、性・年代別



(3 - 1) 「あだち広報」が読みやすい理由

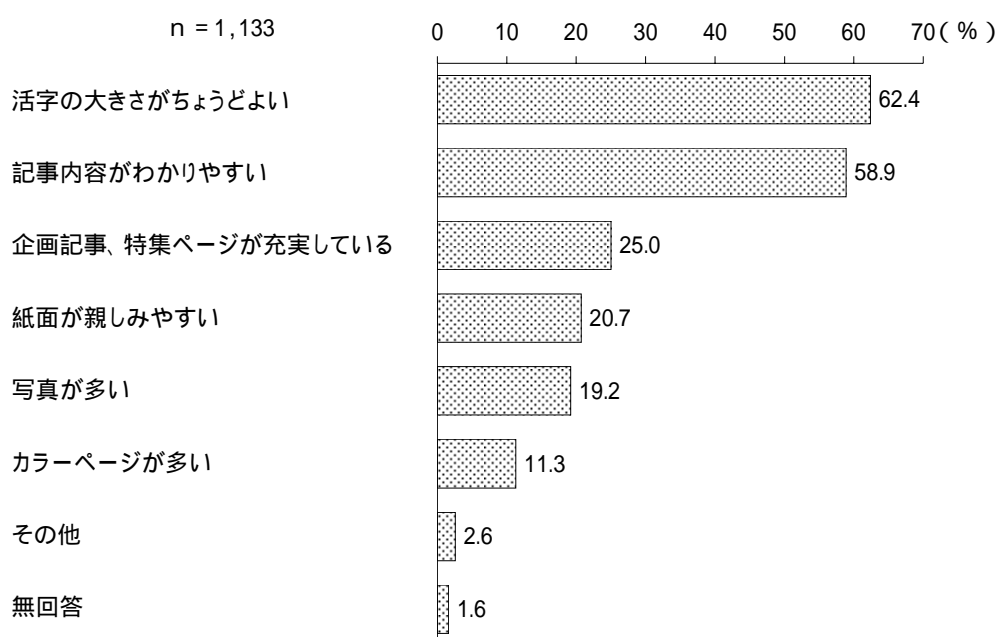
「活字の大きさがちょうどよい」が6割を超え最も高い

(問17で「読みやすい」又は「どちらかといえば読みやすい」とお答えの方に)

問17 - 1 「あだち広報」を“読みやすい”と思われるのは、どのような点ですか。

(あてはまるものすべてに)

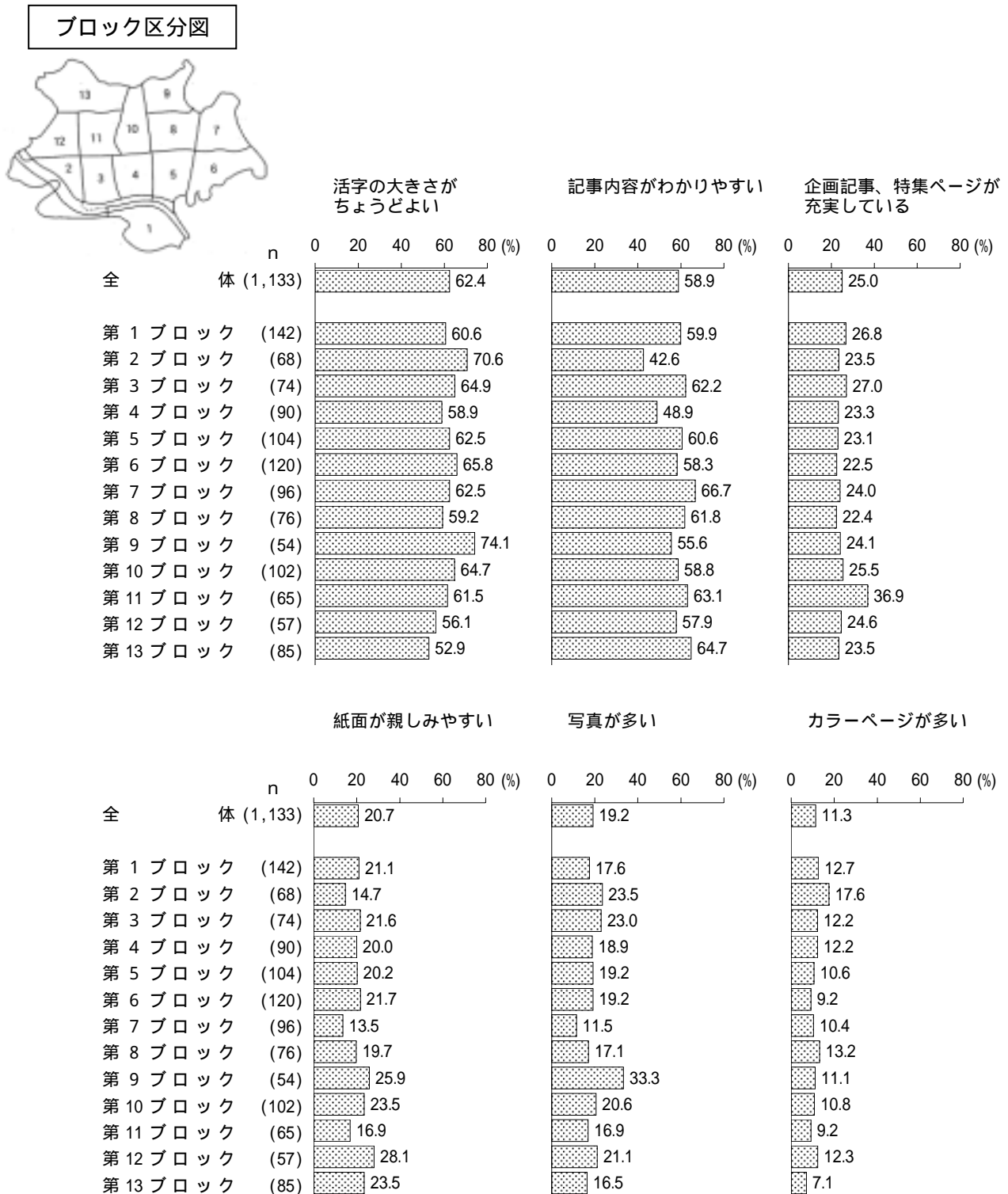
図 4 - 5 - 1 「あだち広報」が読みやすい理由



「あだち広報」は「読みやすい」又は「どちらかといえば読みやすい」と答えた人(1,133人)に、読みやすいと思われる点を聞いたところ、「活字の大きさがちょうどよい」(62.4%)が6割を超え最も高く、次いで「記事内容がわかりやすい」(58.9%)、「企画記事、特集ページが充実している」(25.0%)、「紙面が親しみやすい」(20.7%)、「写真が多い」(19.2%)の順になっている。(図4-5-1)

地域ブロック別でみると、「活字の大きさがちょうどよい」は第9ブロック(74.1%)で7割半ば、「記事内容がわかりやすい」は第7ブロック(66.7%)で6割半ばと高くなっている。また、「企画記事、特集ページが充実している」は第11ブロック(36.9%)で3割半ば、「写真が多い」は第9ブロック(33.3%)で3割を超え高くなっている。(図4-5-2)

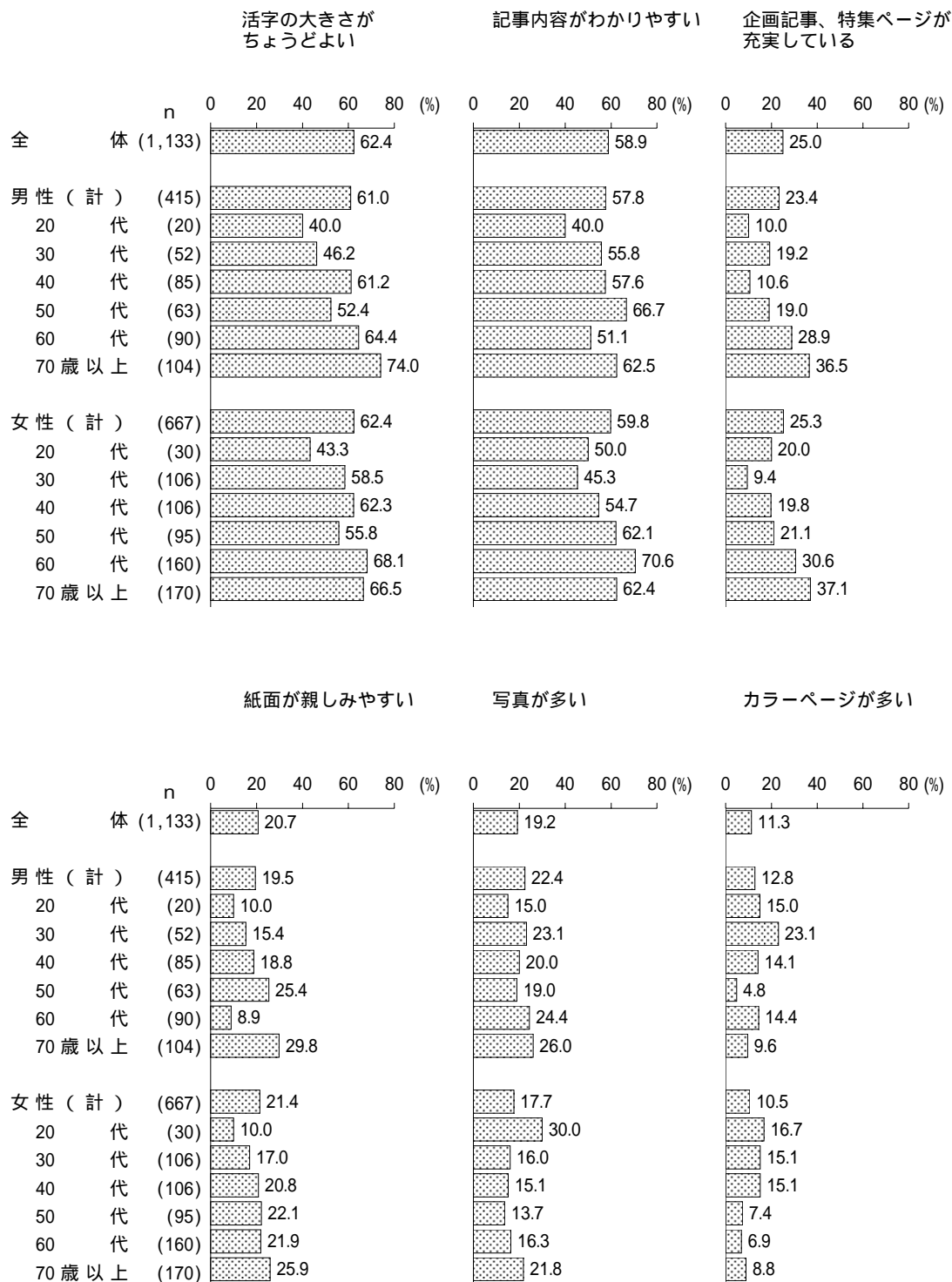
図4-5-2 「あだち広報」が読みやすい理由 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で「写真が多い」(22.4%)が女性(17.7%)より4.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「活字の大きさがちょうどよい」は男性70歳以上(74.0%)で7割半ば、「記事内容がわかりやすい」は女性60代(70.6%)で7割と高くなっている。また、「企画記事、特集ページが充実している」は男女ともに70歳以上(女性37.1%・男性36.5%)で4割近くと高くなっている。(図4-5-3)

図4-5-3 「あだち広報」が読みやすい理由 - 性別、性・年代別



(3 - 2) 「あだち広報」が読みにくい理由

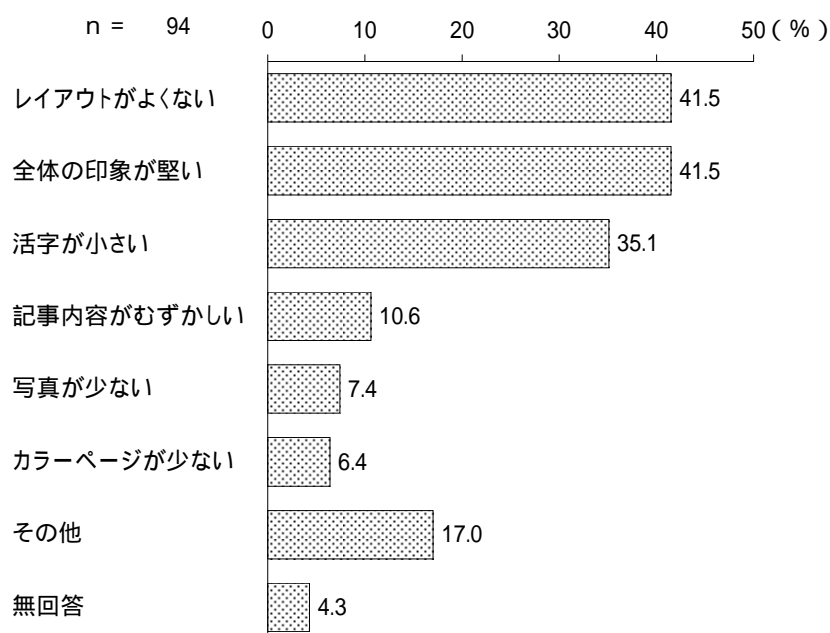
「レイアウトがよくない」と「全体の印象が堅い」がともに4割を超え最も高い

(問17で「どちらかといえば読みにくい」又は「読みにくい」とお答えの方に)

問17 - 2 「あだち広報」を“読みにくい”と思われるのは、どのような点ですか。

(あてはまるものすべてに)

図 4 - 6 - 1 「あだち広報」が読みにくい理由



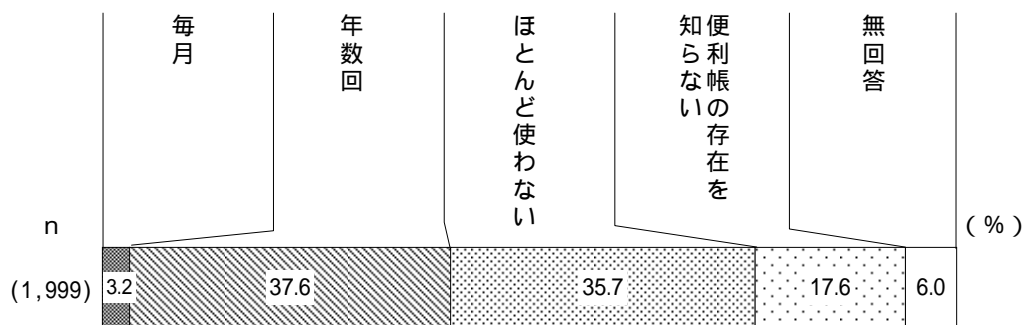
「あだち広報」は「どちらかといえば読みにくい」又は「読みにくい」と答えた人(94人)に、読みにくいと思われる点を聞いたところ、「レイアウトがよくない」と「全体の印象が堅い」(ともに41.5%)が4割を超え最も高く、次いで「活字が小さい」(35.1%)、「記事内容がむずかしい」(10.6%)、「写真が少ない」(7.4%)、「カラーページが少ない」(6.4%)の順になっている。(図4-6-1)

(4) 「わたしの便利帳」の利用頻度

「年数回」が4割近く、「ほとんど使わない」が3割半ば

問18 足立区では区の施設やサービス等の概要をまとめた冊子「わたしの便利帳2010-2012版」・「別冊わたしの便利帳」の全戸配布を行いました。「わたしの便利帳(リブイン)」を普段どの程度使っていますか。(は1つだけ)

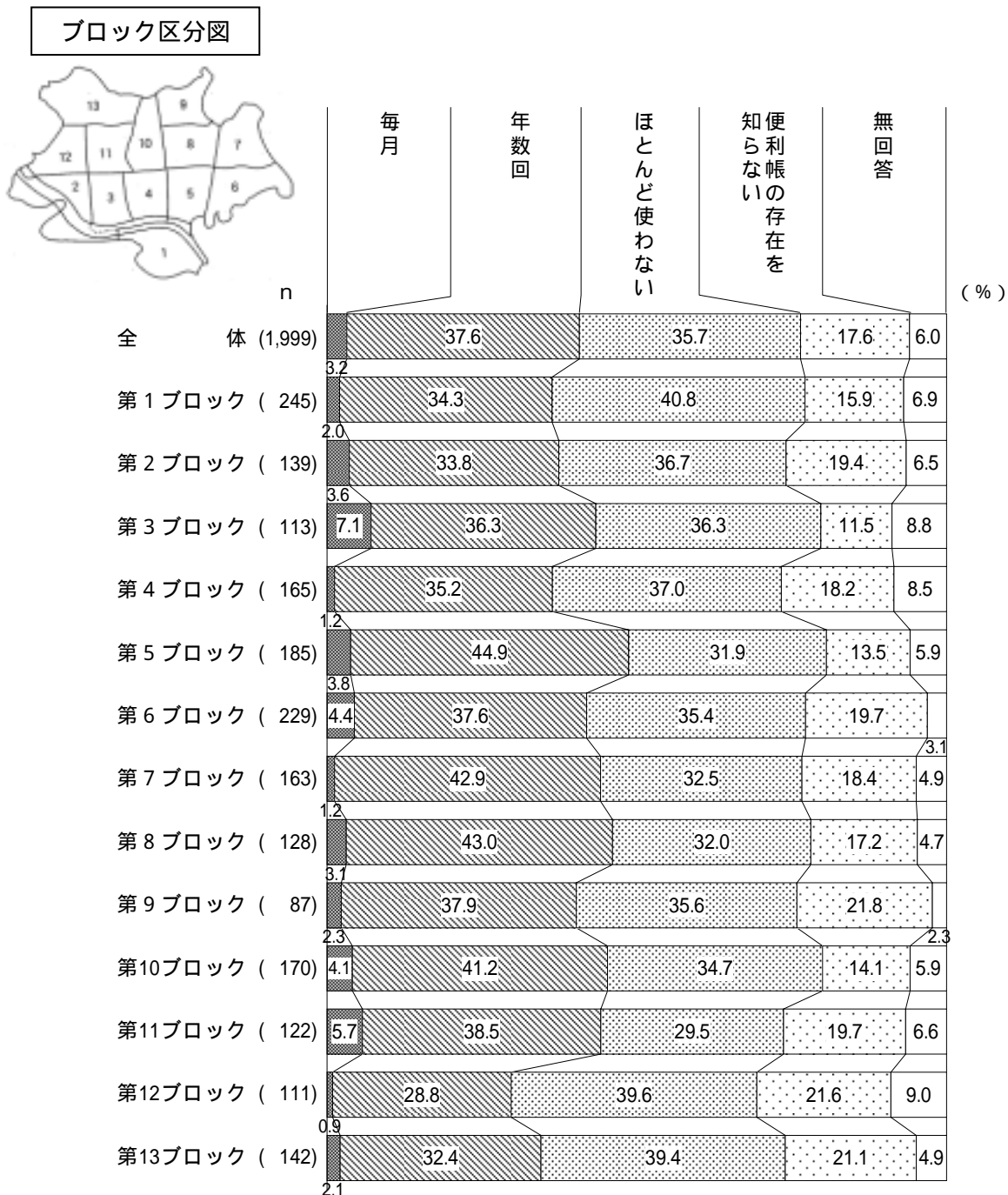
図4-7-1 「わたしの便利帳」の利用頻度



「わたしの便利帳(リブイン)」を普段どの程度使っているか聞いたところ、「年数回」(37.6%)が4割近く、「毎月」(3.2%)が1割未満となっている。一方、「ほとんど使わない」(35.7%)が3割半ば、「便利帳の存在を知らない」(17.6%)が2割近くとなっている。(図4-7-1)

地域ブロック別でみると、「年数回」は第5ブロック(44.9%)で4割半ばと高くなっている。一方、「ほとんど使わない」は第1ブロック(40.8%)と第12ブロック(39.6%)と第13ブロック(39.4%)で4割前後と高くなっている。また、「便利帳の存在を知らない」は第9ブロック(21.8%)と第12ブロック(21.6%)と第13ブロック(21.1%)で2割を超え高くなっている。(図4-7-2)

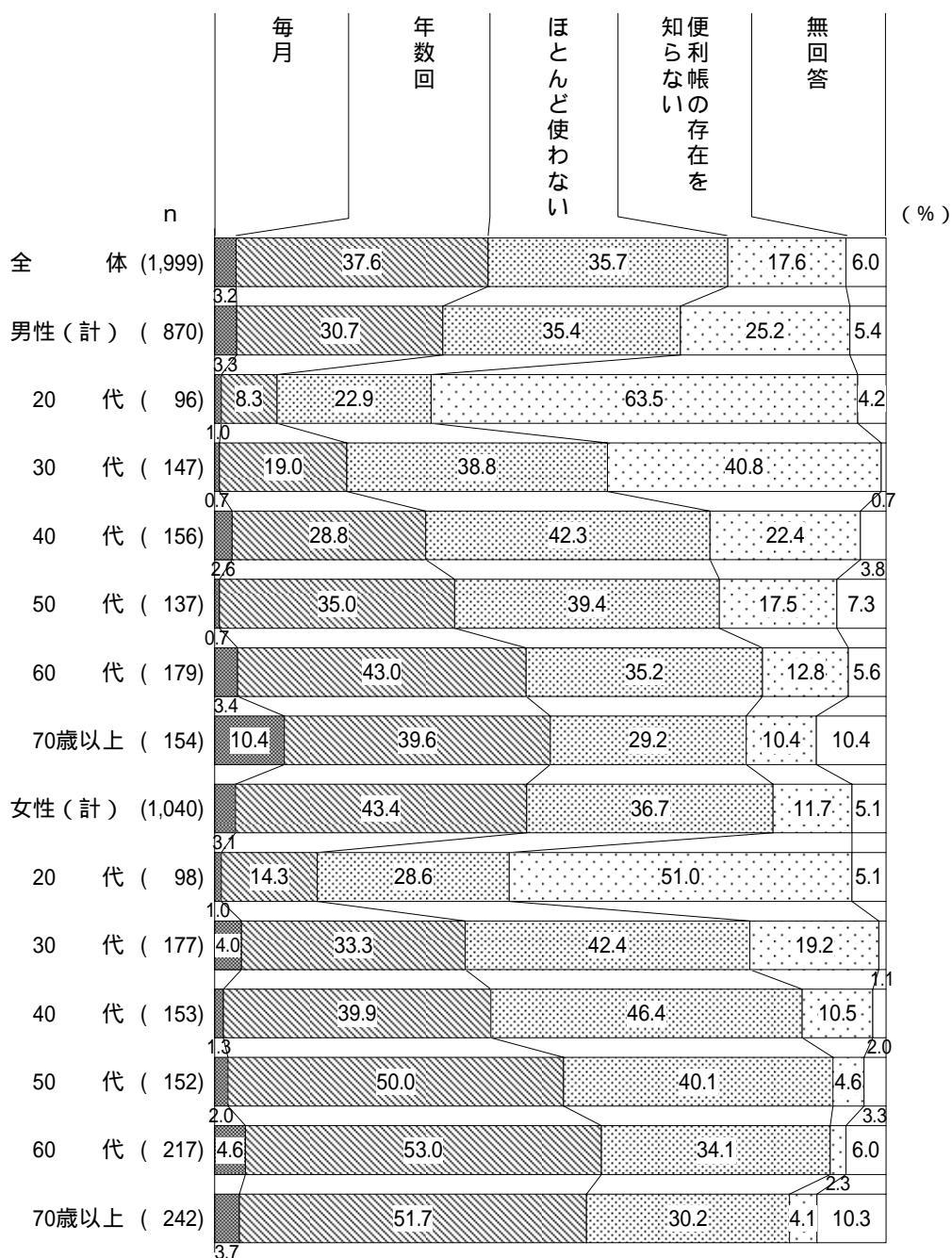
図4-7-2 「わたしの便利帳」の利用頻度 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で「便利帳の存在を知らない」(25.2%)が女性(11.7%)より13.5ポイント高くなっている。一方、女性で「年数回」(43.4%)が男性(30.7%)より12.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「年数回」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、女性60代(53.0%)、70歳以上(51.7%)で5割を超え高くなっている。一方、「ほとんど使わない」は女性40代(46.4%)で4割半ばと高くなっている。また、「便利帳の存在を知らない」は男女とも20代(男性63.5%・女性51.0%)で5割以上と高くなっている。(図4-7-3)

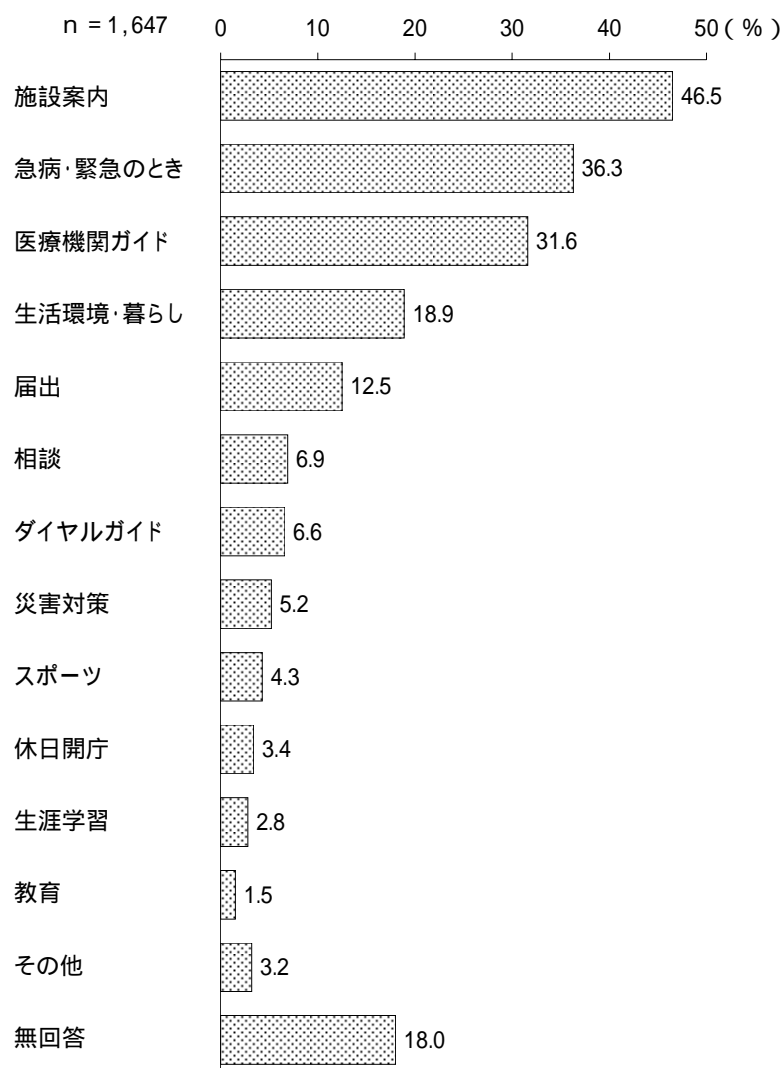
図4-7-3 「わたしの便利帳」の利用頻度 - 性別、性・年代別



(5) 「わたしの便利帳」の利用内容
 「施設案内」が4割半ばで最も高い

問19 「わたしの便利帳」を利用するとき、主にどこをご覧になりますか。(は3つまで)

図4 - 8 - 1 「わたしの便利帳」の利用内容

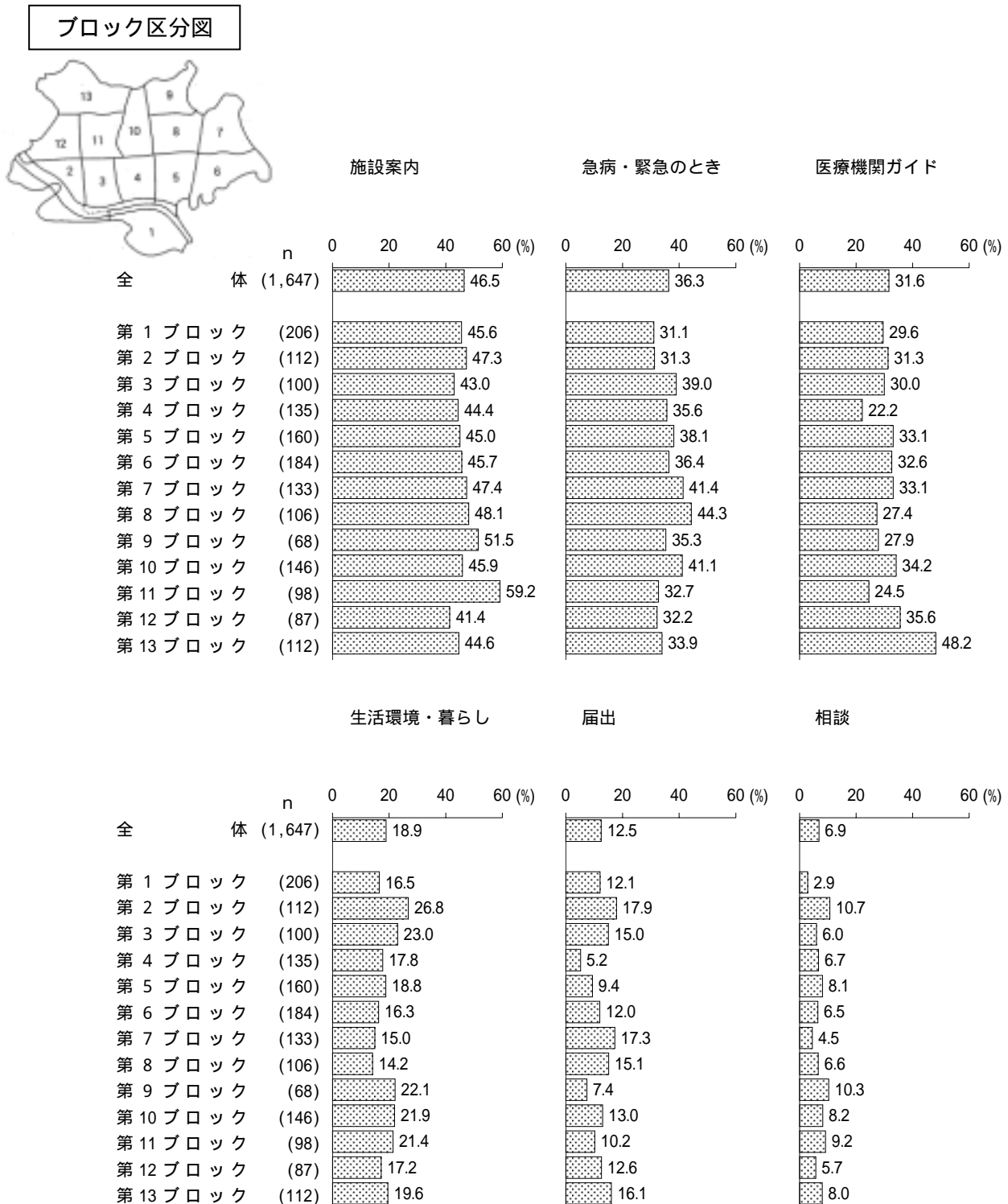


「わたしの便利帳」を利用するとき、主にどこをご覧になるか聞いたところ、「施設案内」(46.5%)が4割半ばで最も高く、次いで「急病・緊急のとき」(36.3%)、「医療機関ガイド」(31.6%)、「生活環境・暮らし」(18.9%)、「届出」(12.5%)の順になっている。

(図4 - 8 - 1)

地域ブロック別でみると、「施設案内」は第 11 ブロック (59.2%) でほぼ 6 割、「医療機関ガイド」は第 13 ブロック (48.2%) で 5 割近くと高くなっている。また、「急病・緊急のとき」は第 8 ブロック (44.3%) で 4 割半ば、「生活環境・暮らし」は第 2 ブロック (26.8%) で 2 割半ばと高くなっている。(図 4 - 8 - 2)

図 4 - 8 - 2 「わたしの便利帳」の利用内容 - 地域ブロック別 (上位 6 位)

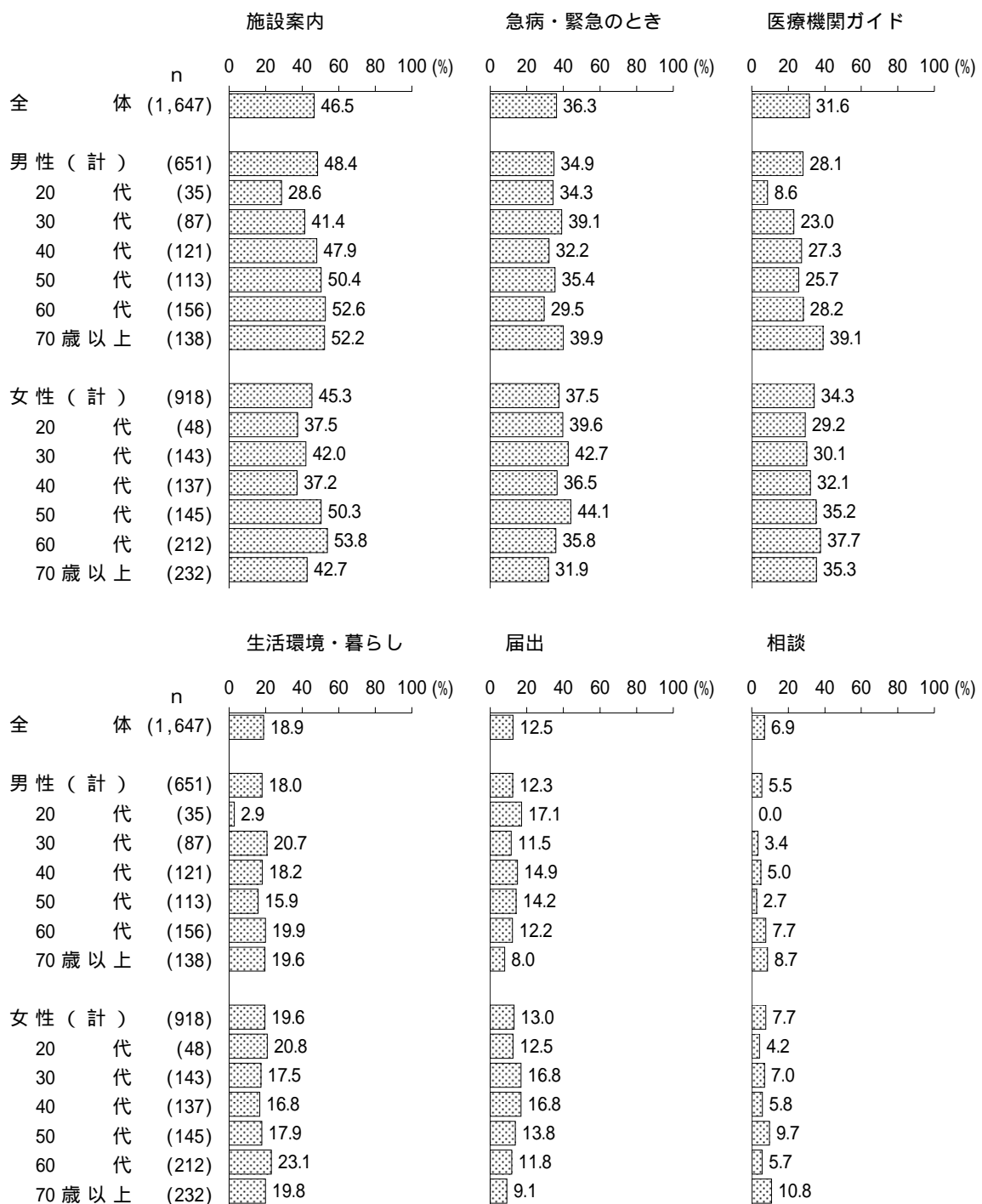


性別で見ると、女性で「医療機関ガイド」(34.3%)が男性(28.1%)より6.2ポイント高くなっている。一方、男性で「施設案内」(48.4%)が女性(45.3%)より3.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「急病・緊急のとき」は女性50代(44.1%)で4割半ばと高くなっている。また、「医療機関ガイド」は男性70歳以上(39.1%)でほぼ4割と高くなっている。

(図4-8-3)

図4-8-3 「わたしの便利帳」の利用内容 - 性別、性・年代別(上位6位)



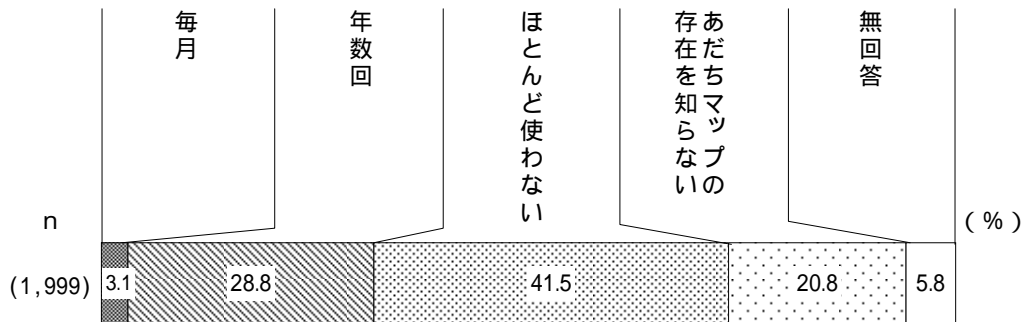
(6) 「あだちマップ」の利用頻度

「年数回」が3割近く、「ほとんど使わない」が4割を超える

問20 あだちマップ(主要施設案内図・交通案内図)は、ご利用になった事がありますか。

(は1つだけ)

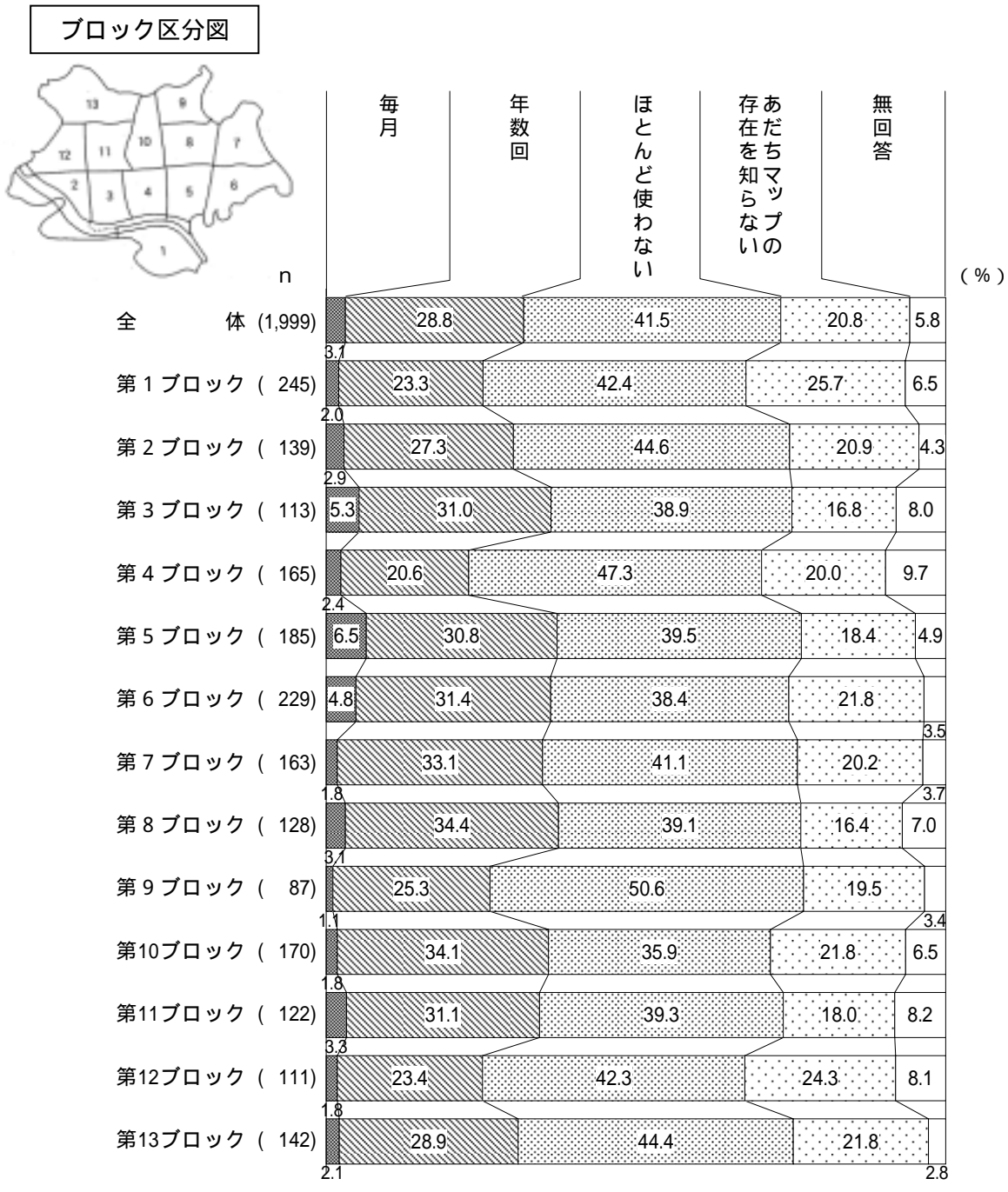
図4 - 9 - 1 「あだちマップ」の利用頻度



「あだちマップ」を利用したことがあるか聞いたところ、「年数回」(28.8%)が3割近く、「毎月」(3.1%)が1割未満となっている。一方、「ほとんど使わない」(41.5%)が4割を超え、「あだちマップの存在を知らない」(20.8%)が2割となっている。(図4 - 9 - 1)

地域ブロック別でみると、「年数回」は第8ブロック（34.4%）と第10ブロック（34.1%）で3割半ばと高くなっている。一方、「ほとんど使わない」は第9ブロック（50.6%）で5割と高くなっている。また、「あだちマップの存在を知らない」は第1ブロック（25.7%）と第12ブロック（24.3%）で2割半ばと高くなっている。（図4-9-2）

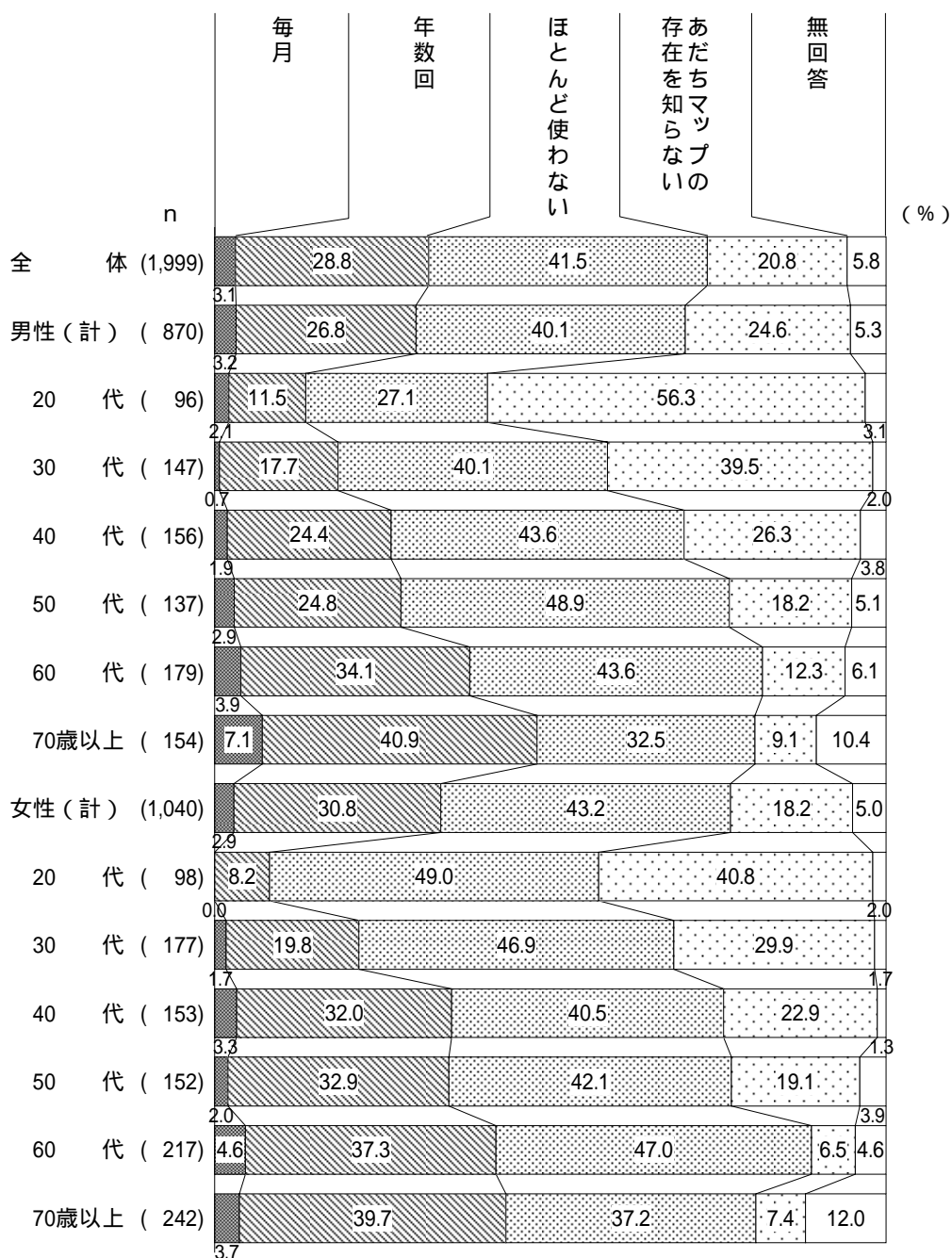
図4-9-2 「あだちマップ」の利用頻度 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で「あだちマップの存在を知らない」(24.6%)が女性(18.2%)より6.4ポイント高くなっている。一方、女性で「年数回」(30.8%)が男性(26.8%)より4.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「年数回」は男女とも高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、男女とも70歳以上(男性40.9%・女性39.7%)で4割前後と高くなっている。一方、「ほとんど使わない」は女性20代(49.0%)、男性50代(48.9%)でほぼ5割と高くなっている。また、「あだちマップの存在を知らない」は男女とも20代(男性56.3%・女性40.8%)で4割以上と高くなっている。(図4-9-3)

図4-9-3 「あだちマップ」の利用頻度 - 性別、性・年代別

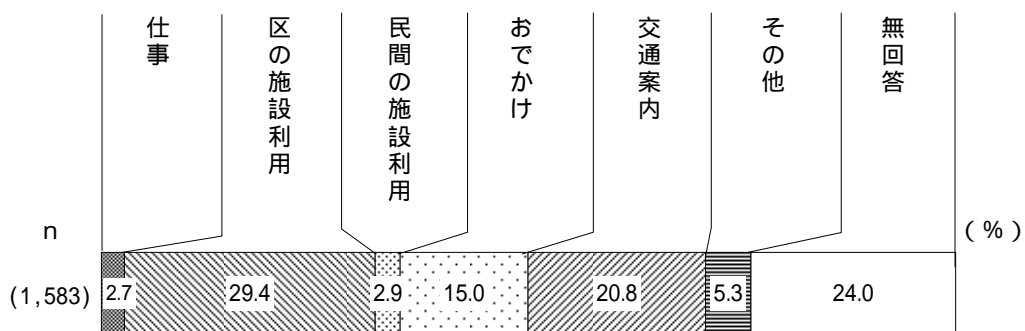


(7)「あだちマップ」の利用内容

「区の施設利用」がほぼ3割

問21 あだちマップは主にどのようなご利用ですか。(は1つだけ)

図4 - 10 - 1 「あだちマップ」の利用内容



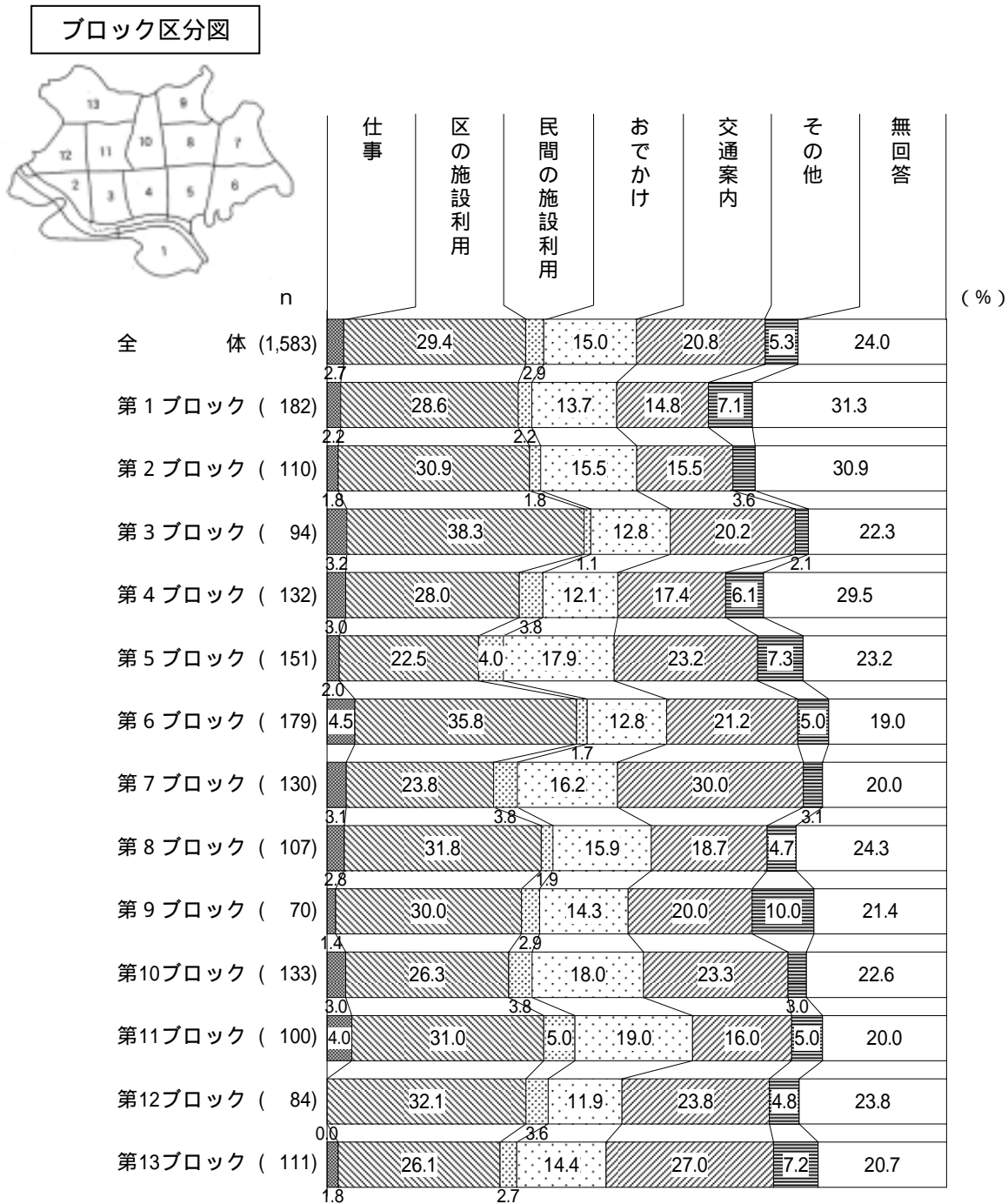
「あだちマップ」を主にどのように利用しているか聞いたところ、「区の施設利用」(29.4%)がほぼ3割で最も高く、次いで「交通案内」(20.8%)、「おでかけ」(15.0%)の順となっている。

(図4 - 10 - 1)

地域ブロック別でみると、「区の施設利用」は第3ブロック（38.3%）で4割近くと高くなっている。また、「交通案内」は第7ブロック（30.0%）で3割と高くなっている。

（図4 - 10 - 2）

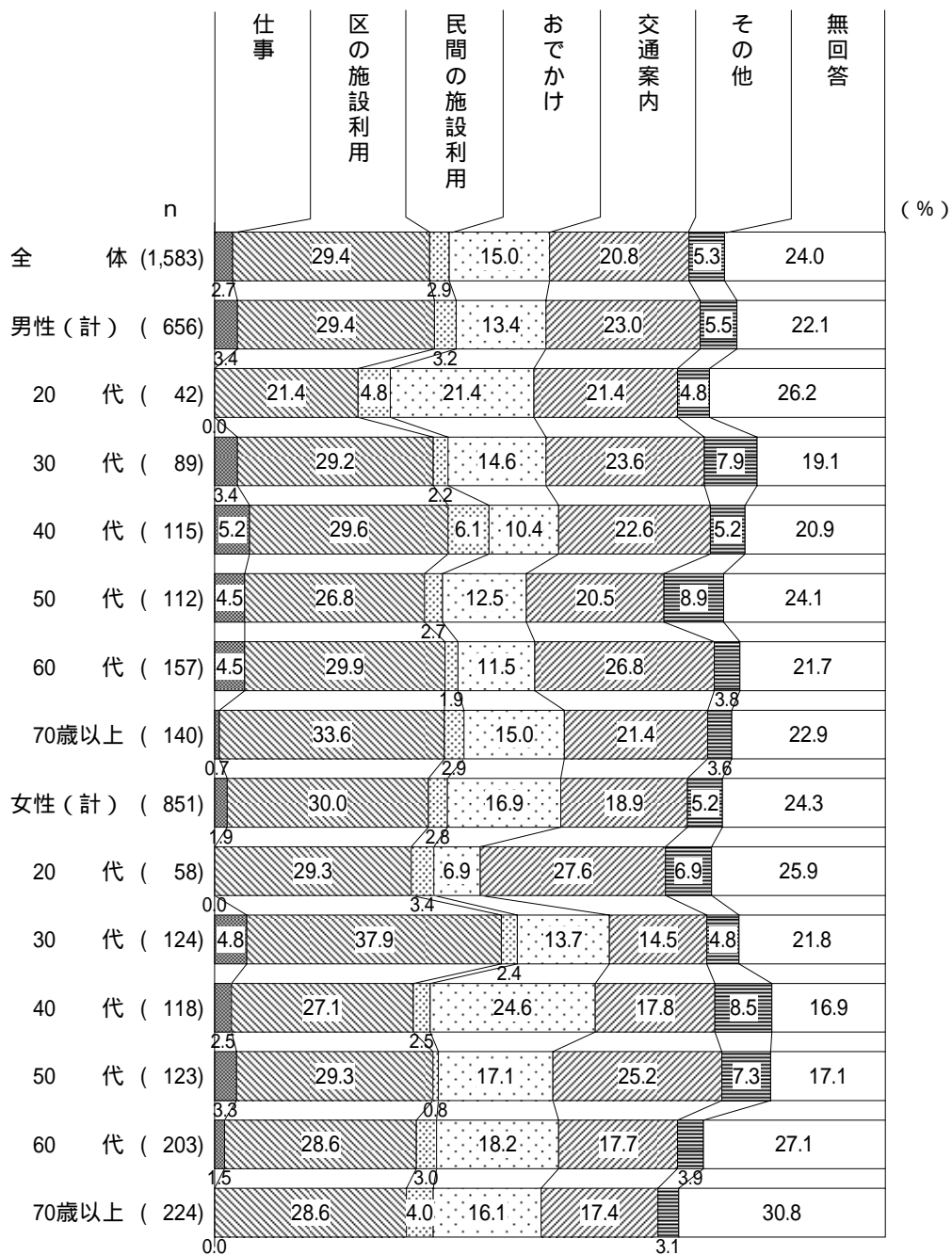
図4 - 10 - 2 「あだちマップ」の利用内容 - 地域ブロック別



性別でみると、男性で「交通案内」(23.0%)が女性(18.9%)より4.1ポイント高くなっている。一方、女性で「おでかけ」(16.9%)が男性(13.4%)より3.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「区の施設利用」は女性30代(37.9%)で4割近く、「おでかけ」は女性40代(24.6%)で2割半ばと高くなっている。また、「交通案内」は女性20代(27.6%)と男性60代(26.8%)で3割近くと高くなっている。(図4-10-3)

図4-10-3 「あだちマップ」の利用内容 - 性別、性・年代別



5 保健・医療や福祉

(1) 保健と医療について

(2) 「成年後見制度」の認知度

(2 - 1) 「成年後見制度」に関する取組みの認知度

5 保健・医療や福祉

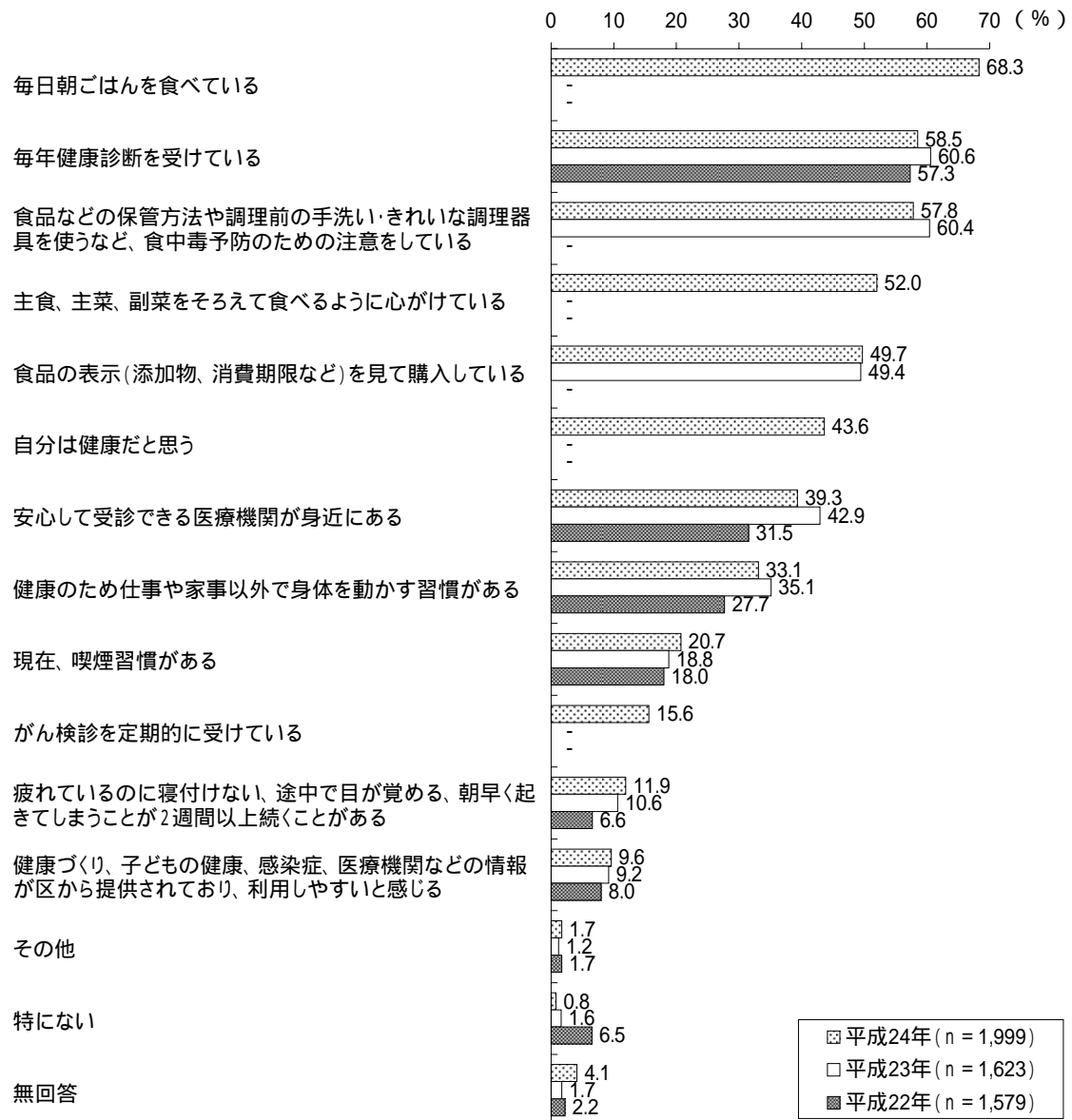
(1) 保健と医療について

「毎日朝ごはんを食べている」が7割近く、「毎年健康診断を受けている」が6割近く

問22 保健と医療などについて、あなた自身にあてはまるものをすべてお答えください。

(はあてはまるものすべて)

図5-1-1 保健と医療について - 過年度比較



(注) 平成23年調査から、「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」と「食品の表示(添加物、消費期限など)を見て購入している」が選択肢に追加されている。平成24年調査から、「毎日朝ごはんを食べている」と「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」と「自分は健康だと思う」と「がん検診を定期的に受けている」が選択肢に追加されている

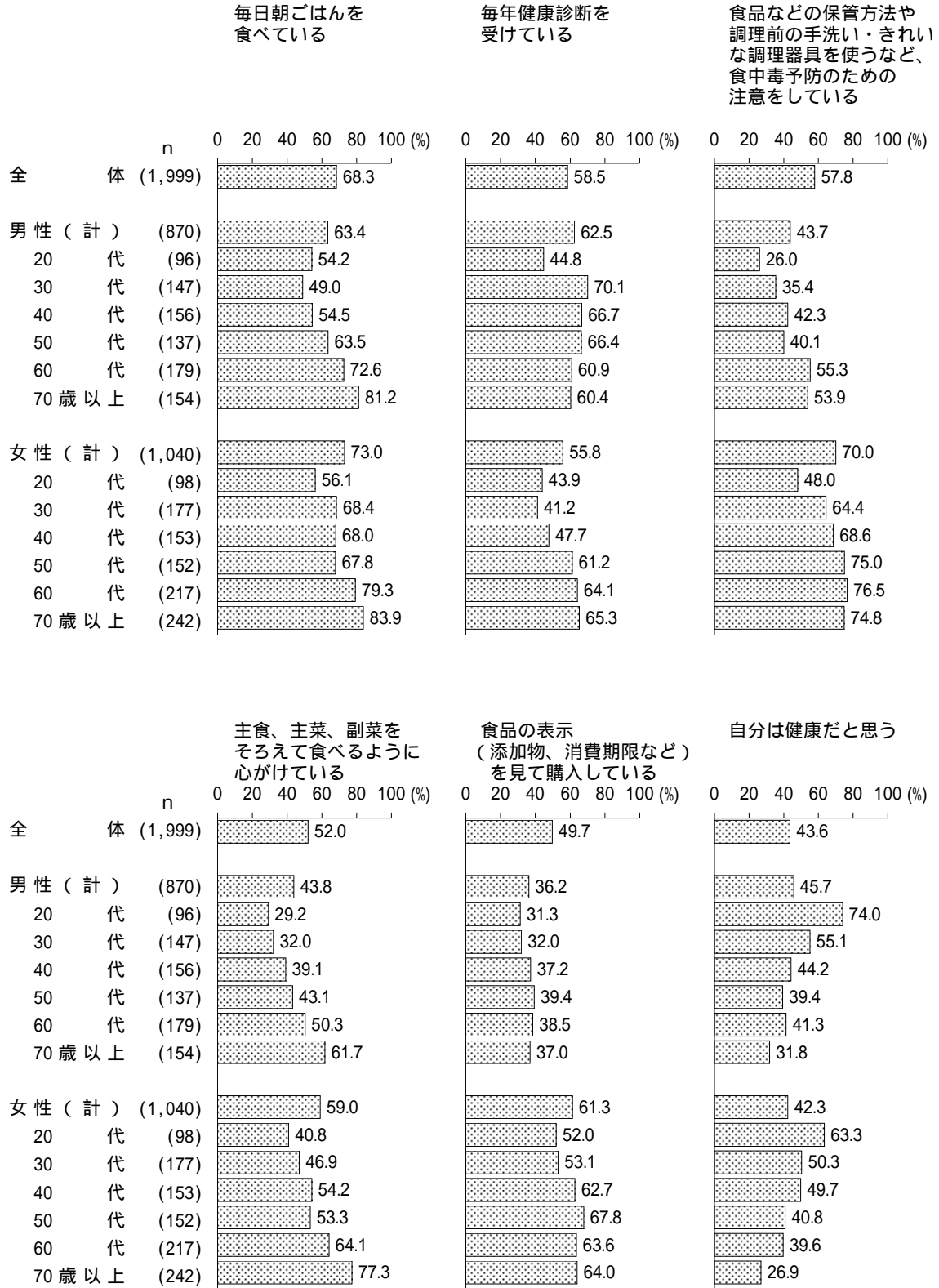
保健と医療などについて、あてはまるものを聞いたところ、「毎日朝ごはんを食べている」(68.3%)が7割近くで最も高く、次いで「毎年健康診断を受けている」(58.5%)、「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」(57.8%)、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」(52.0%)、「食品の表示(添加物、消費期限など)を見て購入している」(49.7%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「現在、喫煙習慣がある」と「疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある」と「健康づくり、子どもの健康、感染症、医療機関などの情報が区から提供されており、利用しやすいと感じる」は平成22年調査以降微増傾向にある。また、「安心して受診できる医療機関が身近にある」は平成23年より3.6ポイント減少している。(図5-1-1)

性別で見ると、女性で「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」(70.0%)が男性(43.7%)より26.3ポイント高く、「食品の表示(添加物、消費期限など)を見て購入している」(61.3%)が男性(36.2%)より25.1ポイント高くなっている。一方、男性で「毎年健康診断を受けている」(62.5%)が女性(55.8%)より6.7ポイント高く、「自分は健康だと思う」(45.7%)が女性(42.3%)より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「毎日朝ごはんを食べている」は男女とも70歳以上(女性83.9%・男性81.2%)で8割を超え、「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は女性の50代以上(50代75.0%・60代76.5%・70歳以上74.8%)で7割台と高くなっている。また、「自分は健康だと思う」は男女ともおおむね低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に20代(男性74.0%・女性63.3%)で6割以上と高くなっている。(図5-1-2)

図5 - 1 - 2 保健と医療について - 性別、性・年代別（上位6位）

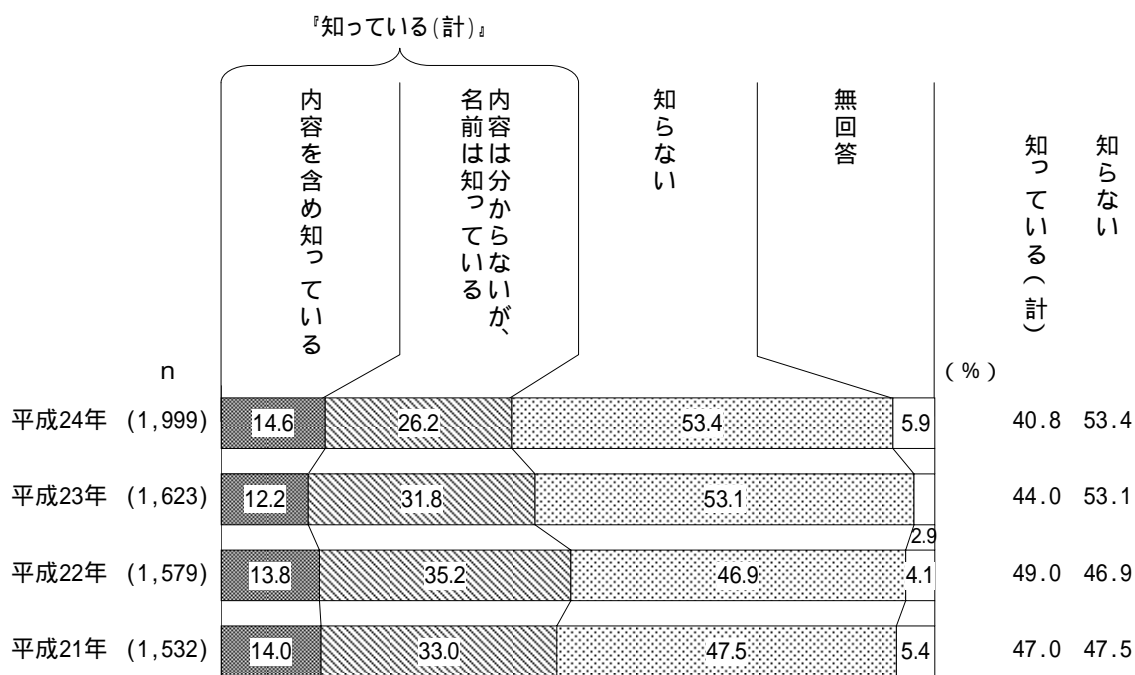


(2) 「成年後見制度」の認知度

『知っている』人が4割

問23 あなたは、高齢者等の権利を守るしくみとして、「成年後見制度」をご存知ですか。
(は1つだけ)

図5 - 2 - 1 「成年後見制度」の認知度 - 過年度比較



高齢者等の権利擁護に係る、「成年後見制度」について知っているか聞いたところ、「内容は分からないが、名前は知っている」(26.2%)が2割半ば、これに「内容を含め知っている」(14.6%)を合わせた『知っている(計)』(40.8%)が4割となっている。一方、「知らない」(53.4%)は5割を超えている。

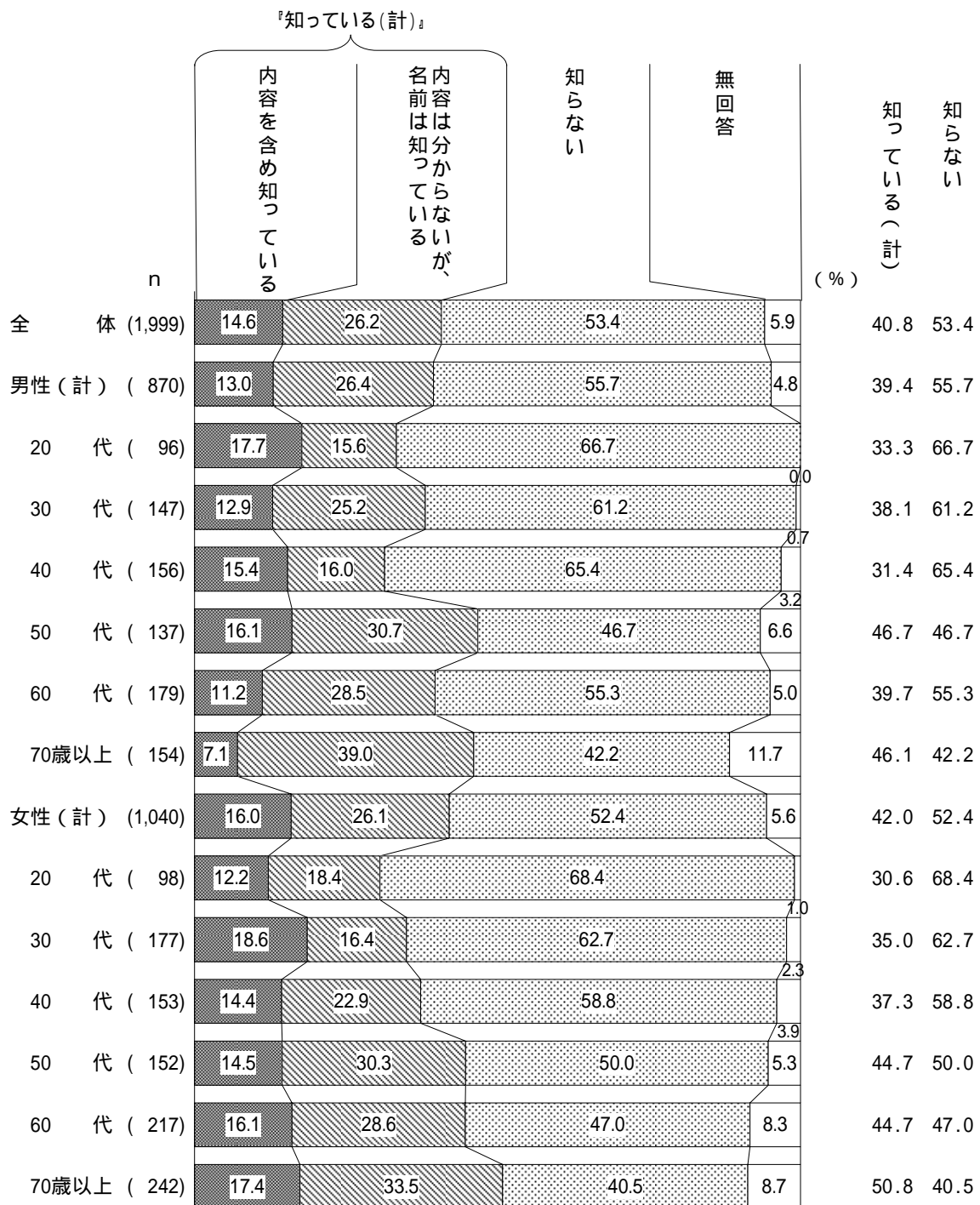
『知っている(計)』は平成23年より3.2ポイント減少している。(図5 - 2 - 1)

性別で見ると、男性で「知らない」(55.7%)が女性(52.4%)より3.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『知っている(計)』は女性70歳以上(50.8%)で最も高くなっている。一方、「知らない」は男女とも20代(女性68.4%・男性66.7%)で7割近くと高くなっている。

(図5-2-2)

図5-2-2 「成年後見制度」の認知度 - 性別、性・年代別



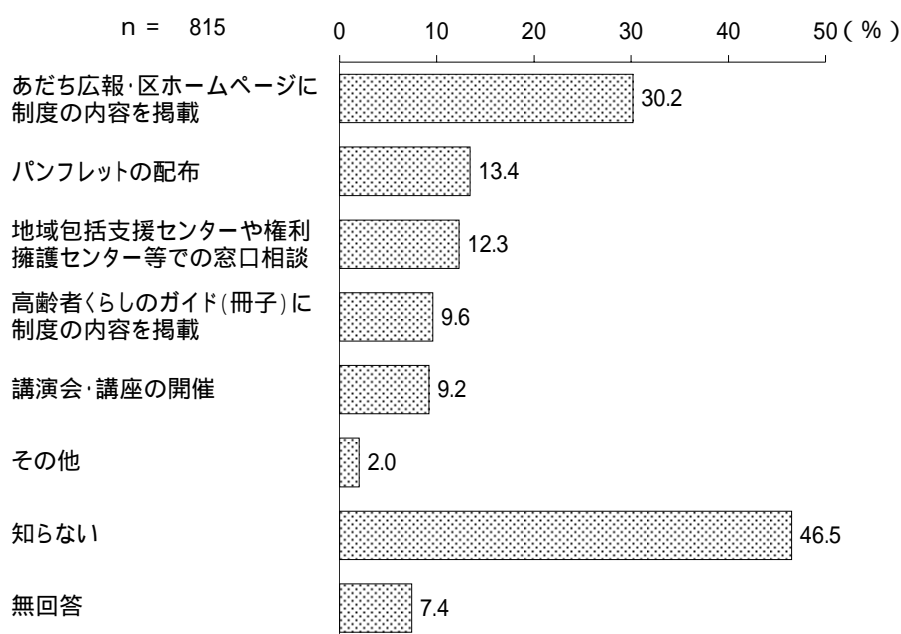
(2 - 1) 「成年後見制度」に関する取組みの認知度

「あだち広報・区ホームページに制度の内容を掲載」が3割で最も高い

(問23で「内容を含め知っている」又は「内容は分からないが、名前は知っている」とお答えの方に)

問23 - 1 区では成年後見制度の周知や利用促進のために、次のような取組みをしていますがご存知ですか。(はあてはまるものすべて)

図5 - 3 - 1 「成年後見制度」に関する取組みの認知度

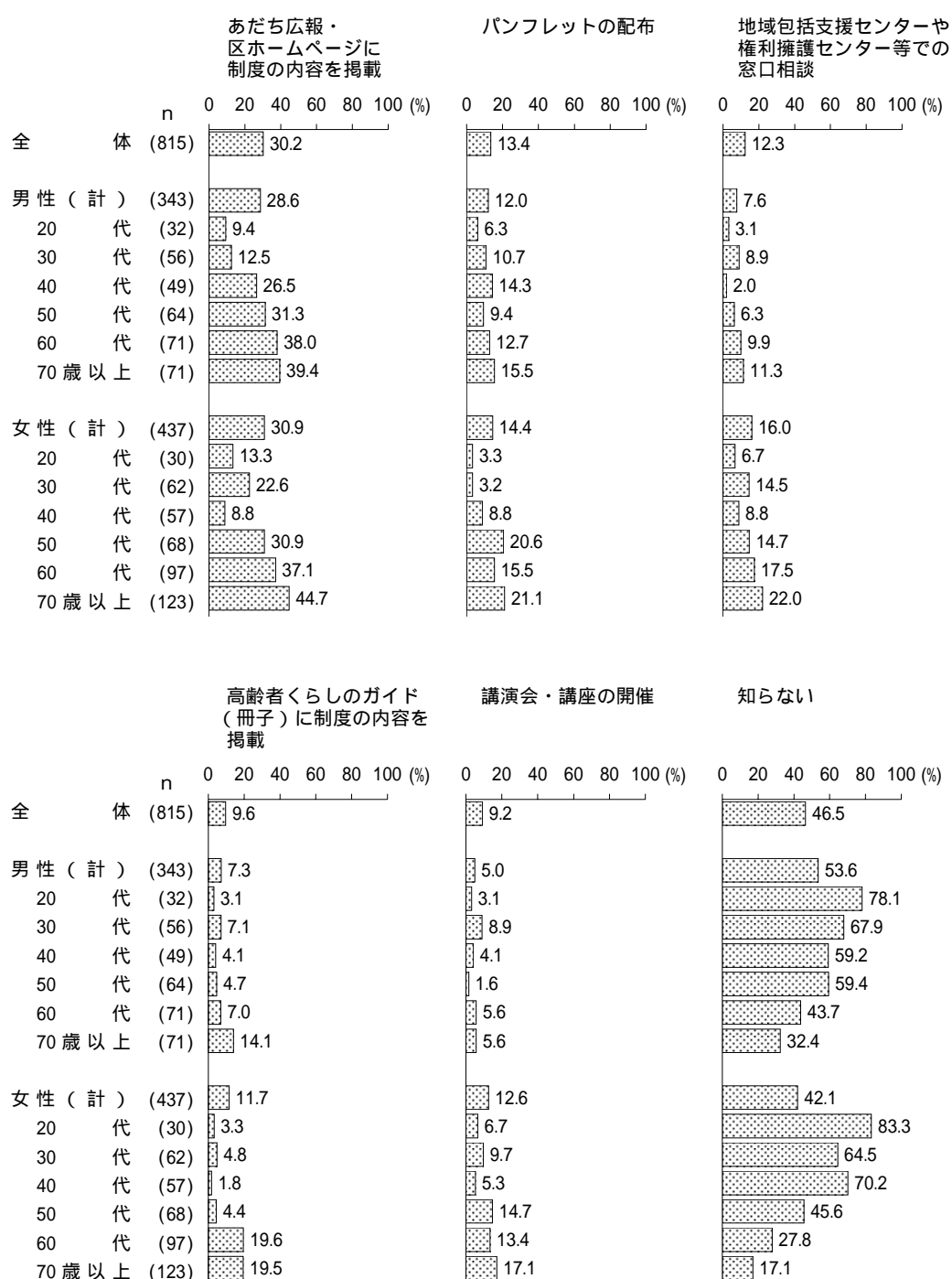


「成年後見制度」について「内容を含め知っている」又は「内容は分からないが、名前は知っている」人(815人)に、周知や利用促進のための取組みを知っているか聞いたところ、「あだち広報・区ホームページに制度の内容を掲載」(30.2%)が3割で最も高く、次いで「パンフレットの配布」(13.4%)、「地域包括支援センターや権利擁護センター等での窓口相談」(12.3%)、「高齢者くらしのガイド(冊子)に制度の内容を掲載」(9.6%)、「講演会・講座の開催」(9.2%)の順になっている。一方、「知らない」(46.5%)は4割半ばとなっている。(図5 - 3 - 1)

性別で見ると、男性で「知らない」(53.6%)が女性(42.1%)より11.5ポイント高くなっている。一方、女性で「地域包括支援センターや権利擁護センター等での窓口相談」(16.0%)が男性(7.6%)より8.4ポイント高く、「講演会・講座の開催」(12.6%)が男性(5.0%)より7.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「あだち広報・区ホームページに制度の内容を掲載」は女性70歳以上(44.7%)で4割半ば、「高齢者くらしのガイド(冊子)に制度の内容を掲載」は女性60代(19.6%)・70歳以上(19.5%)で2割近くと高くなっている。一方、「知らない」は男女とも20代(女性83.3%・男性78.1%)と女性40代(70.2%)で7割以上と高くなっている。(図5-3-2)

図5-3-2 「成年後見制度」に関する取組みの認知度 - 性別、性・年代別



6 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」

-
- (1) イメージキャラクターの認知度
 - (2) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度
 - (3) 刑法犯認知件数減少の認知度
 - (4) 地域の治安
 - (5) 自転車に鍵をかけているか
 - (6) 地域の変化についての評価
 - (7) この1年間に参加された活動
 - (7 - 1) 引き続き、または今後参加したいと思う活動
 - (7 - 2) 参加してみたい活動
-

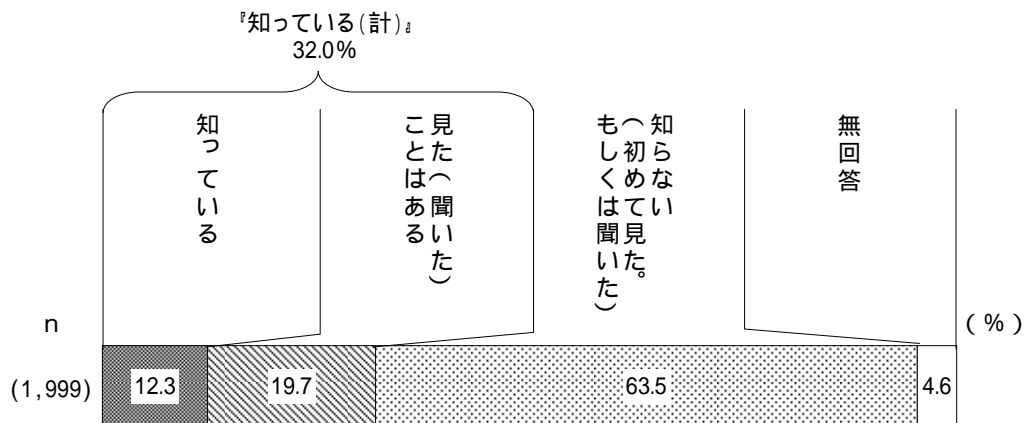
6 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」

(1) イメージキャラクターの認知度

『知っている』人が3割を超えている

問24 イメージキャラクター「ビュー坊」を知っていますか。(は1つだけ)

図6 - 1 - 1 イメージキャラクターの認知度

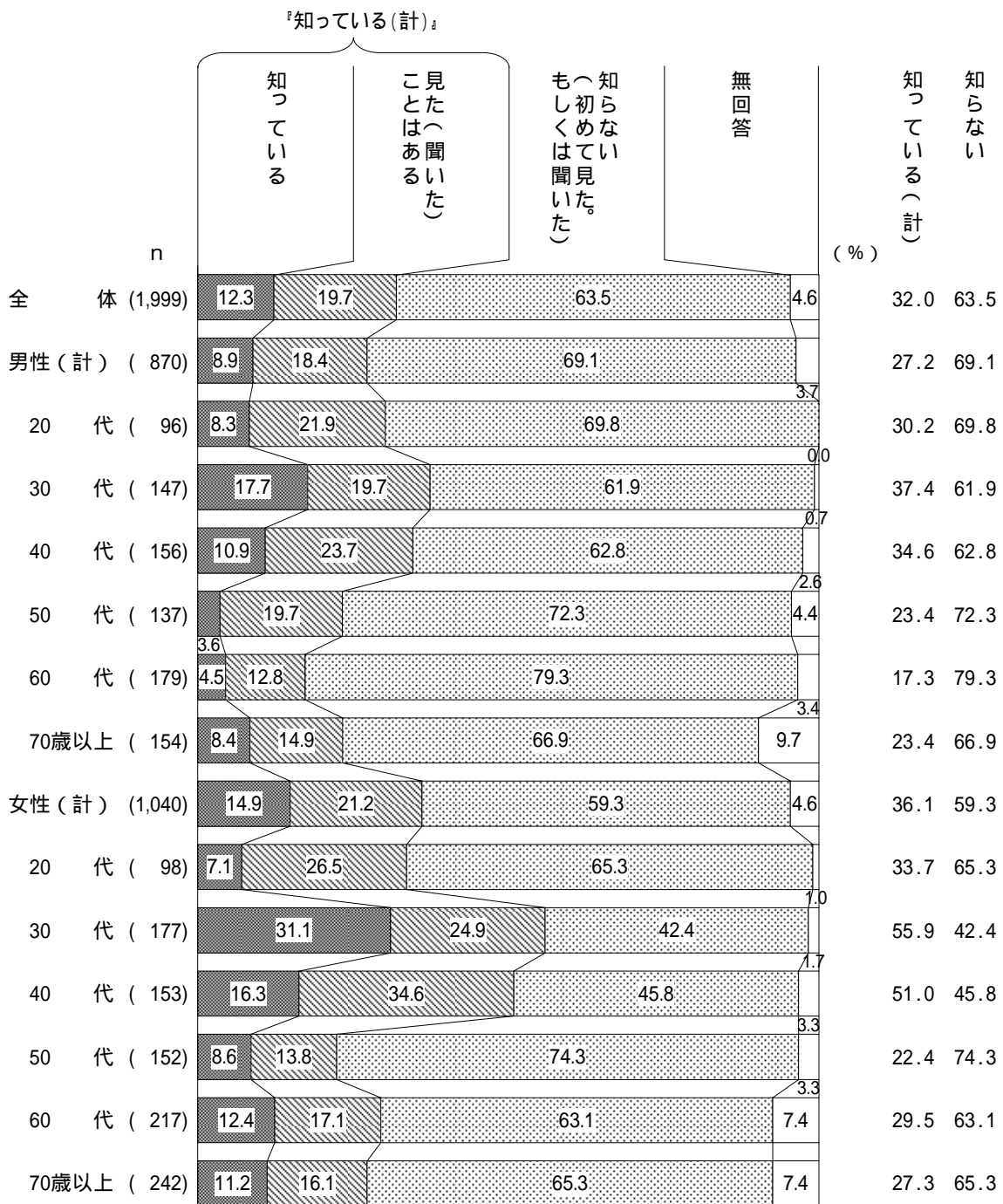


イメージキャラクター「ビュー坊」を知っているか聞いたところ、「知っている」(12.3%)が1割を超え、これに「見た(聞いた)ことはある」(19.7%)を合わせた『知っている(計)』(32.0%)は3割を超えている。一方、「知らない(初めて見た。もしくは聞いた)」(63.5%)は6割を超えている。(図6 - 1 - 1)

性別で見ると、女性で『知っている（計）』（36.1%）が男性（27.2%）より8.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は女性30代（31.1%）で3割を超え、「見た（聞いた）ことはある」は女性40代（34.6%）で3割半ばと高くなっている。また、『知っている（計）』は女性30代（55.9%）で5割半ばと高くなっている。一方、「知らない（初めて見た。もしくは聞いた）」は男性60代（79.3%）でほぼ8割と高くなっている。（図6 - 1 - 2）

図6 - 1 - 2 イメージキャラクターの認知度 - 性別、性・年代別

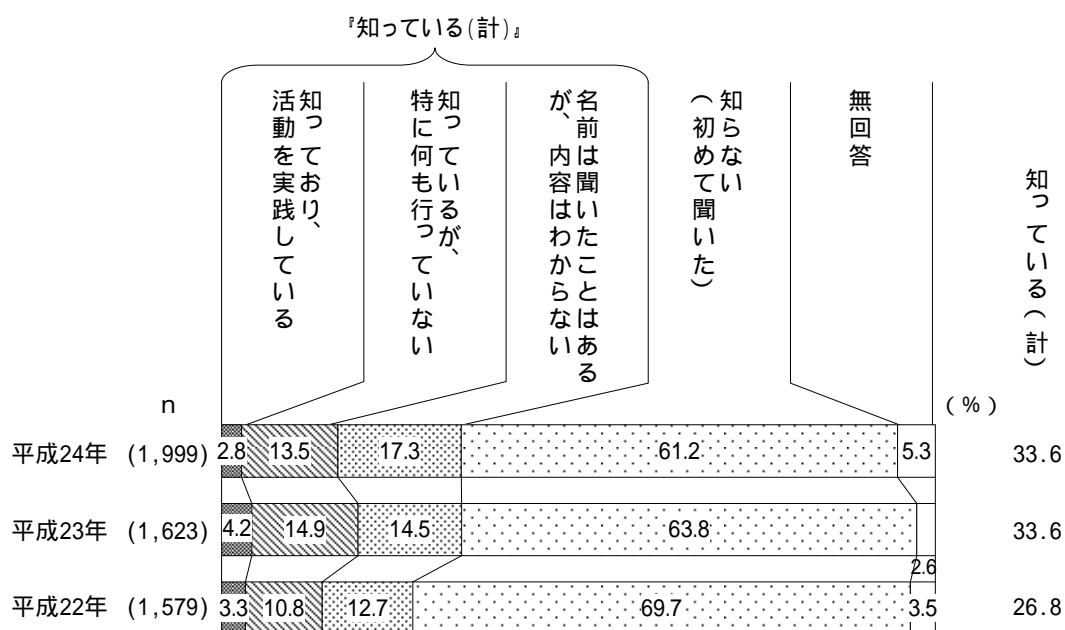


(2) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度

『知っている』人が3割を超えている

問25 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動()」
という取り組みを知っていますか。(は1つだけ)

図6-2-1 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度 - 過年度比較



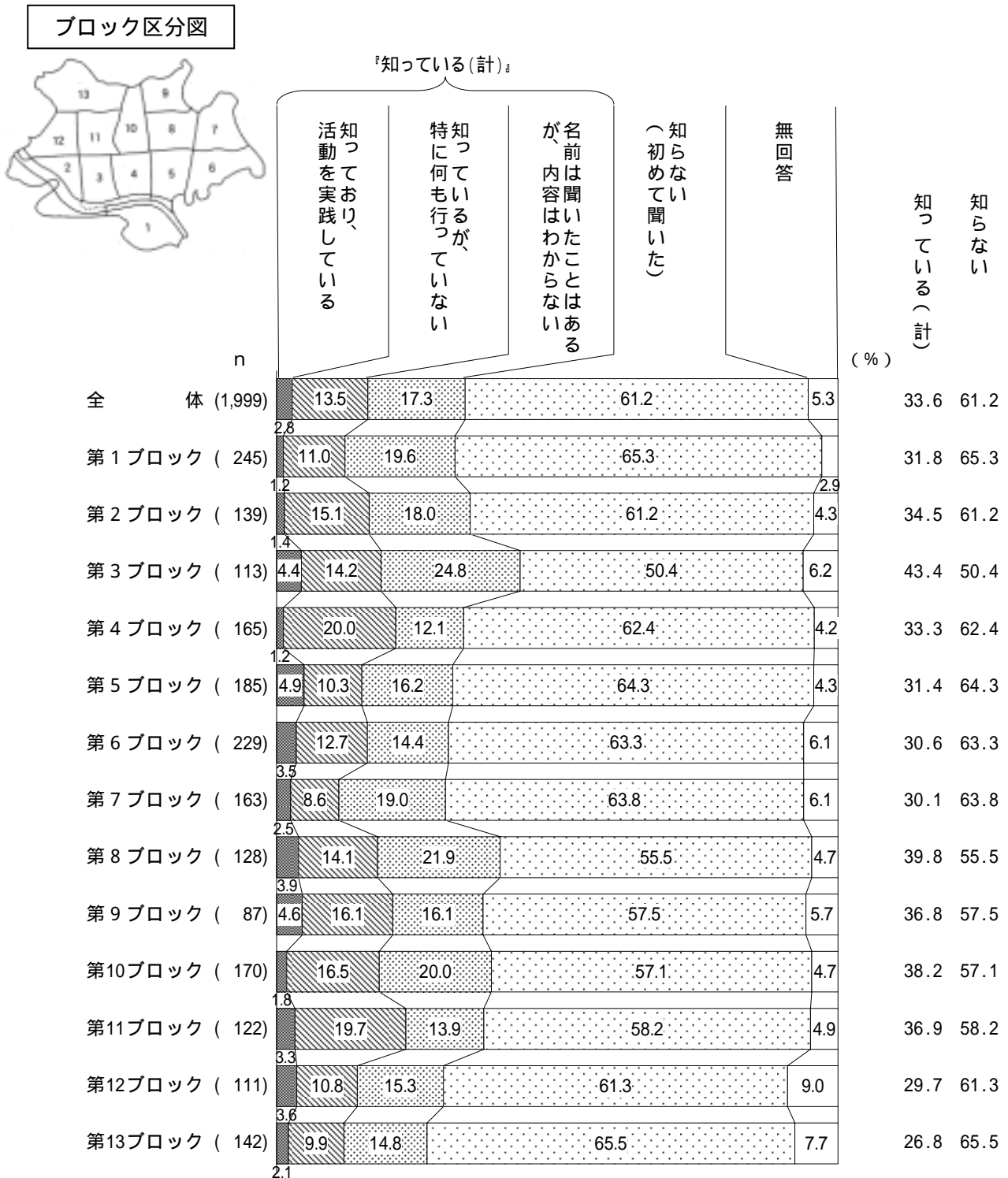
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

足立区が取り組んでいる「ビューティフルウィンドウズ運動」を知っているか聞いたところ、「名前や内容は聞いたが、内容はわからない」(17.3%)が2割近く、これに「知っているが、特に何も行ってない」(13.5%)と「知っており、活動を実践している」(2.8%)を合わせた『知っている(計)』(33.6%)が3割を超えている。一方、「知らない(初めて聞いた)」(61.2%)が6割を超えている。

過去の調査と比較すると、平成23年とほぼ同じ傾向になっている。(図6-2-1)

地域ブロック別でみると、『知っている(計)』は第3ブロック(43.4%)で4割を超え高くなっている。一方、「知らない(初めて聞いた)」は第13ブロック(65.5%)と第1ブロック(65.3%)と第5ブロック(64.3%)で6割半ばと高くなっている。(図6-2-2)

図6-2-2 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度 - 地域ブロック別

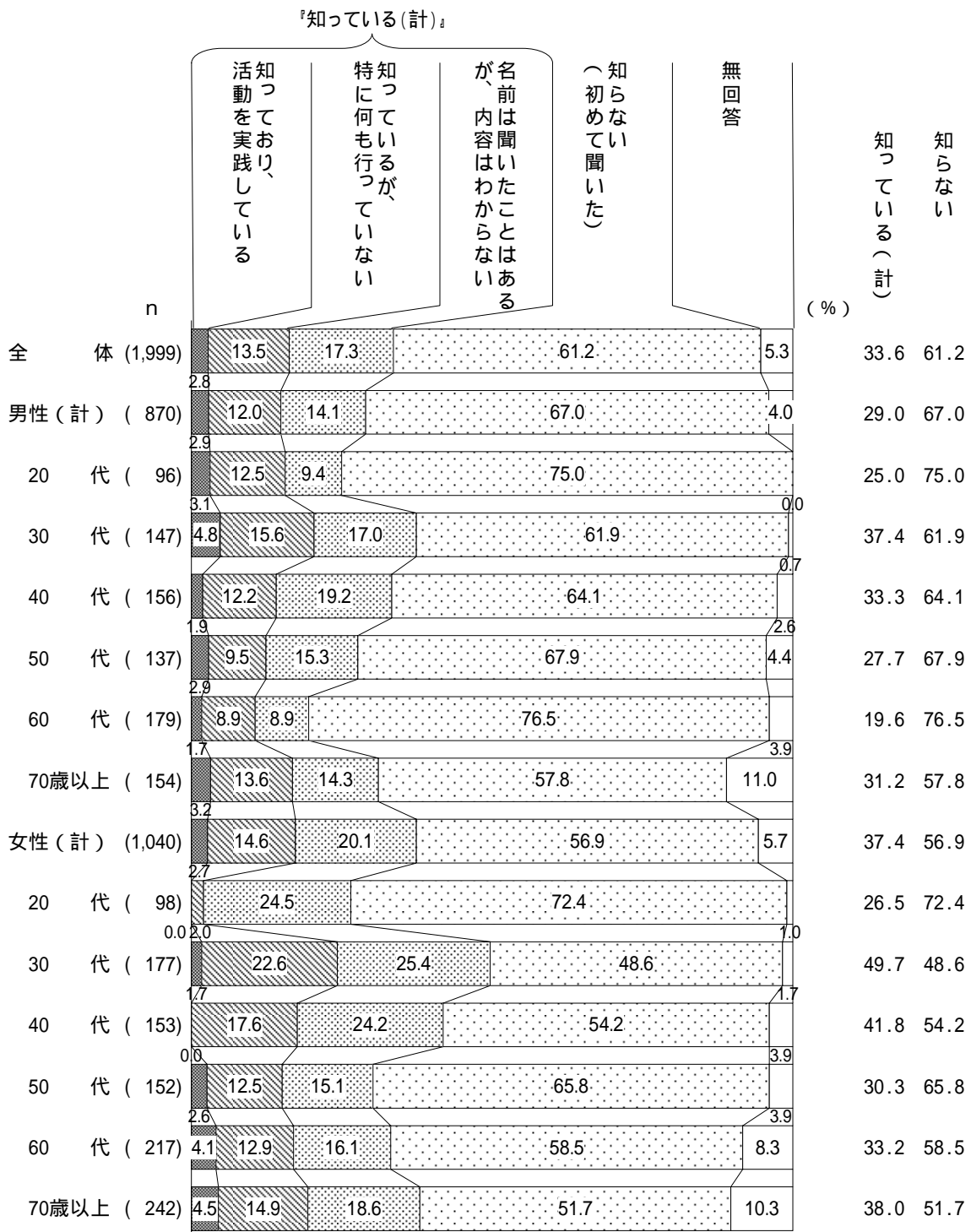


性別で見ると、女性で『知っている(計)』(37.4%)が男性(29.0%)より8.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『知っている(計)』は女性30代(49.7%)でほぼ5割と高くなっている。一方、「知らない(初めて聞いた)」は男性60代(76.5%)で最も高くなっている。

(図6-2-3)

図6-2-3 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度 - 性別、性・年代別

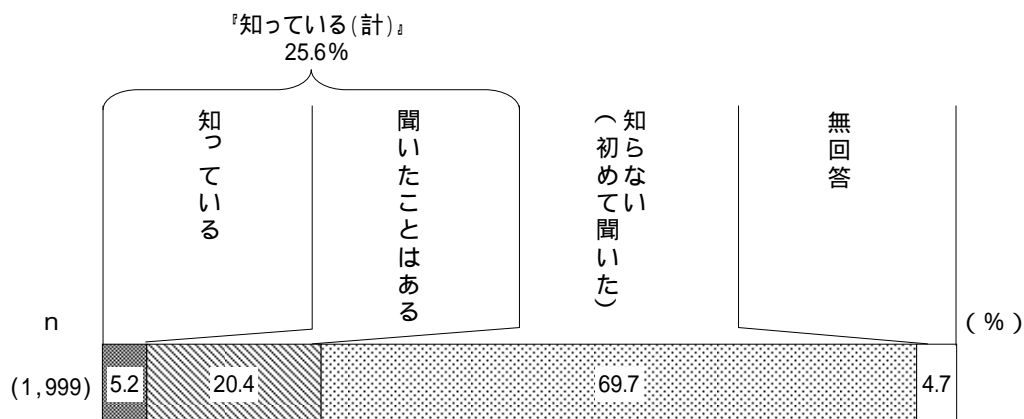


(3) 刑法犯認知件数減少の認知度

『知っている』人が2割半ば

問26 あなたは、足立区の刑法犯認知件数()が、ピーク時の平成13年と比較し、10年間で約4割程度減少していることを知っていますか。()は1つだけ)

図6-3-1 刑法犯認知件数減少の認知度



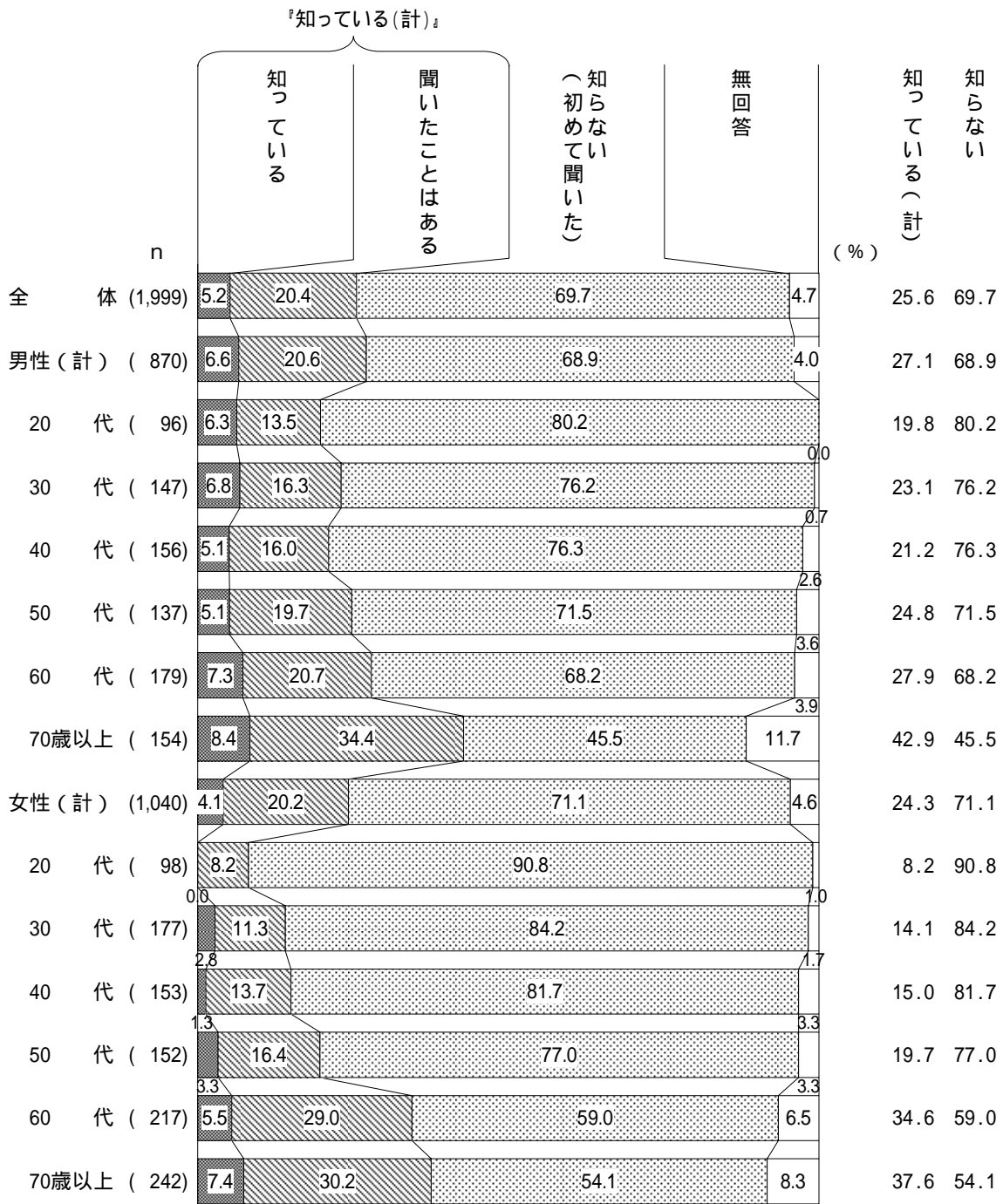
警察が犯罪について、被害の届出等によりその発生を確認した件数。ただし、交通違反等を除く。

足立区の刑法犯認知件数が10年間で約4割程度減少していることを知っているか聞いたところ、「聞いたことはある」(20.4%)が2割、これに「知っている」(5.2%)を合わせた『知っている(計)』(25.6%)が2割半ばとなっている。一方、「知らない(初めて聞いた)」(69.7%)はほぼ7割となっている。(図6-3-1)

性別で見ると、男女とも『知っている（計）』は2割半ばとほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「聞いたことはある」は男性70歳以上（34.4%）で3割半ば、『知っている（計）』でも男性70歳以上（42.9%）で4割を超え高くなっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男女ともおおむね低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に女性20代（90.8%）で9割と高くなっている。（図6-3-2）

図6-3-2 刑法犯認知件数減少の認知度 - 性別、性・年代別



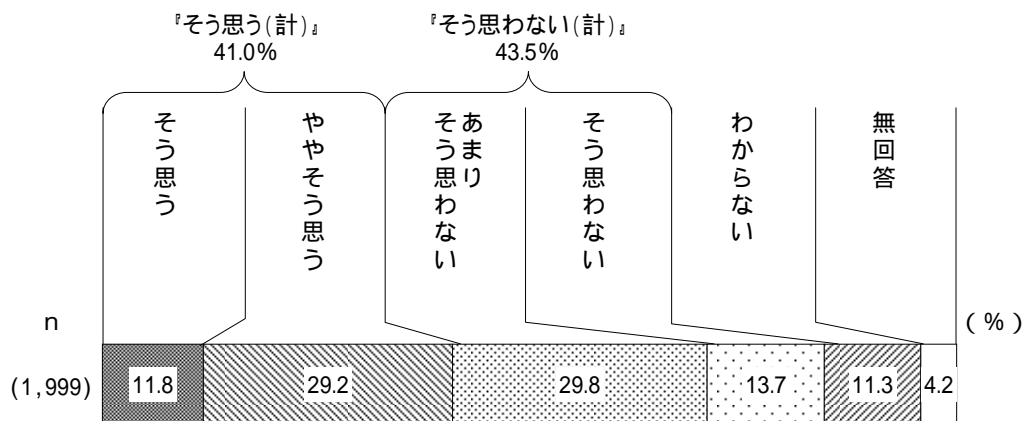
(4) 地域の治安

治安がよいと感じる人が4割を超えている

問27 あなたは、お住まいの地域の治安()について、よいと感じますか。

(は1つだけ)

図6 - 4 - 1 地域の治安



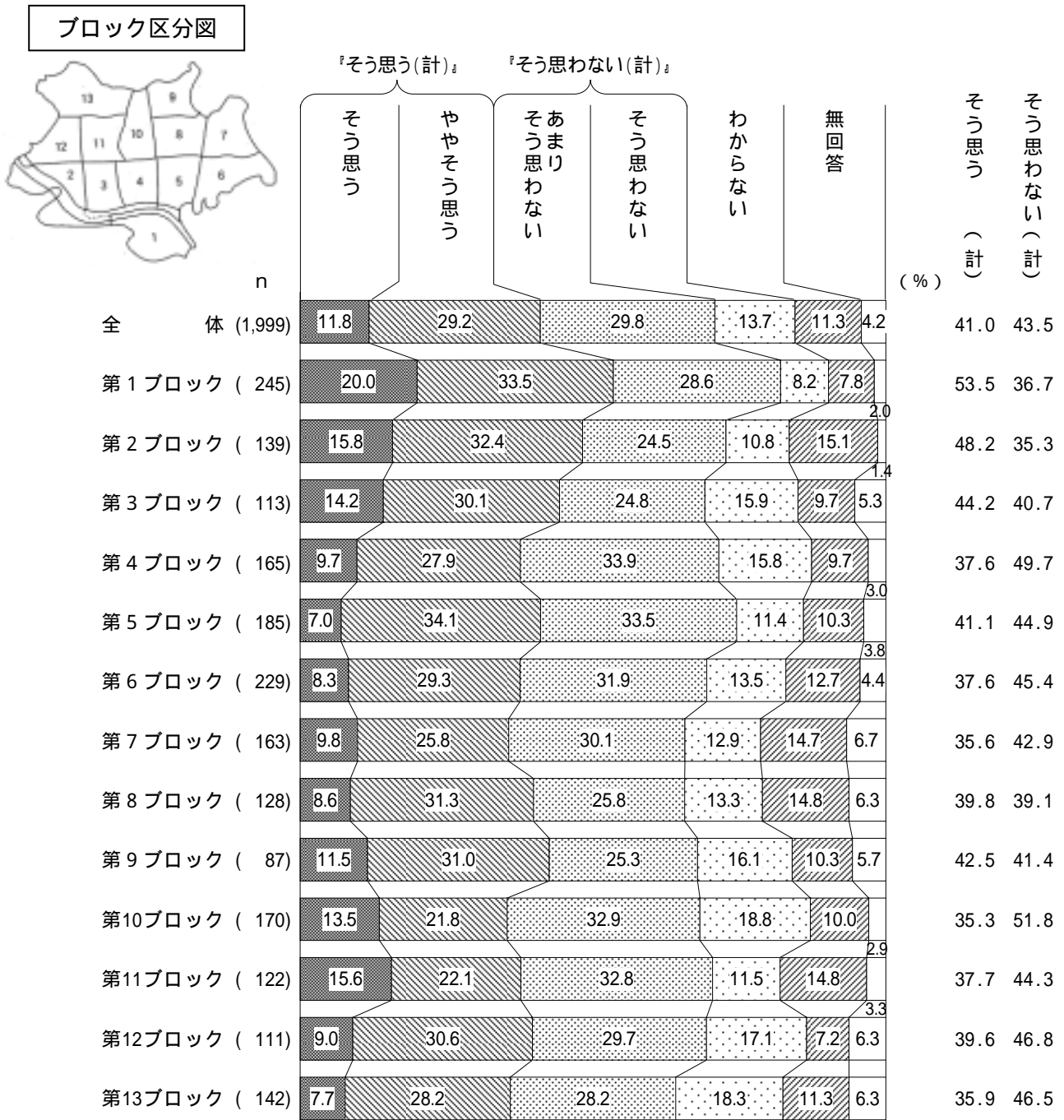
犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれていること。

地域の治安について、よいと感じるか聞いたところ、「そう思う」(11.8%)と「ややそう思う」(29.2%)を合わせた『そう思う(計)』(41.0%)が4割を超えている。一方、「そう思わない」(13.7%)と「あまりそう思わない」(29.8%)を合わせた『そう思わない(計)』(43.5%)も4割を超えている。(図6 - 4 - 1)

地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第1ブロック(53.5%)で5割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第10ブロック(51.8%)で5割を超え高くなっている。

(図6-4-2)

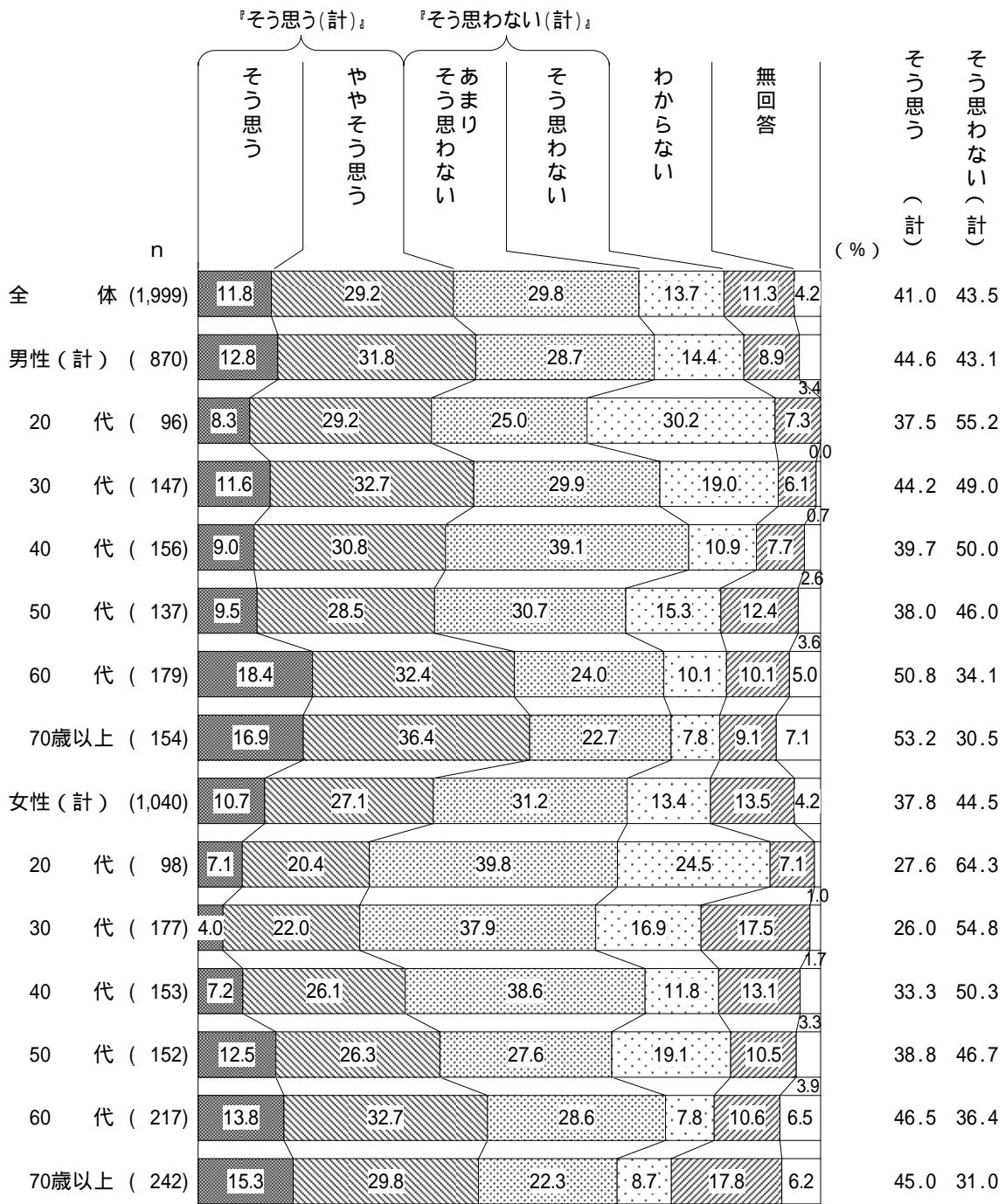
図6-4-2 地域の治安 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で『そう思う(計)』(44.6%)が女性(37.8%)より6.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性70歳以上(53.2%)、60代(50.8%)で5割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は女性20代(64.3%)で6割半ばと高くなっている。(図6-4-3)

図6-4-3 地域の治安 - 性別、性・年代別

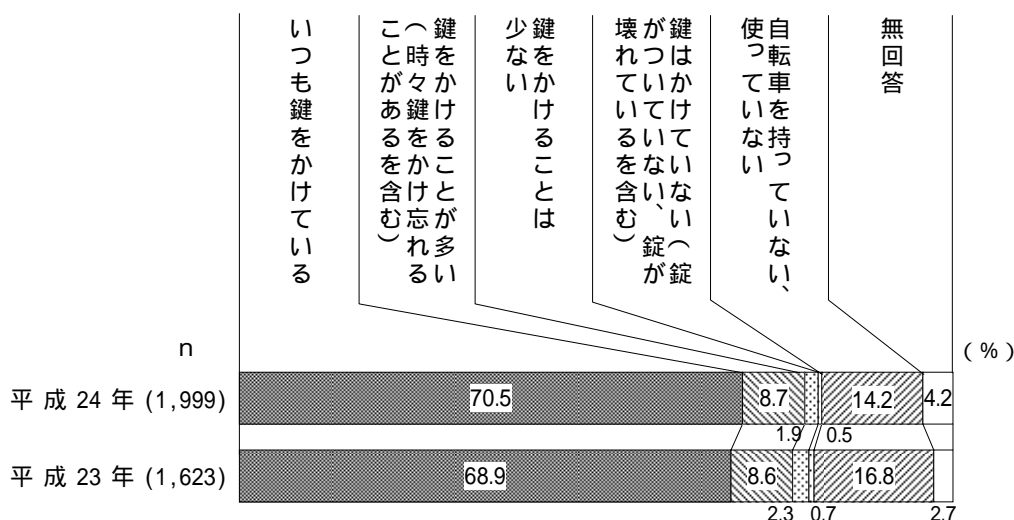


(5) 自転車に鍵をかけているか
 「いつも鍵をかけている」人が7割

問28 あなたは、自転車を駐車したときには、自転車に鍵をかけていますか。

(は1つだけ)

図6-5-1 自転車に鍵をかけているか - 過年度比較

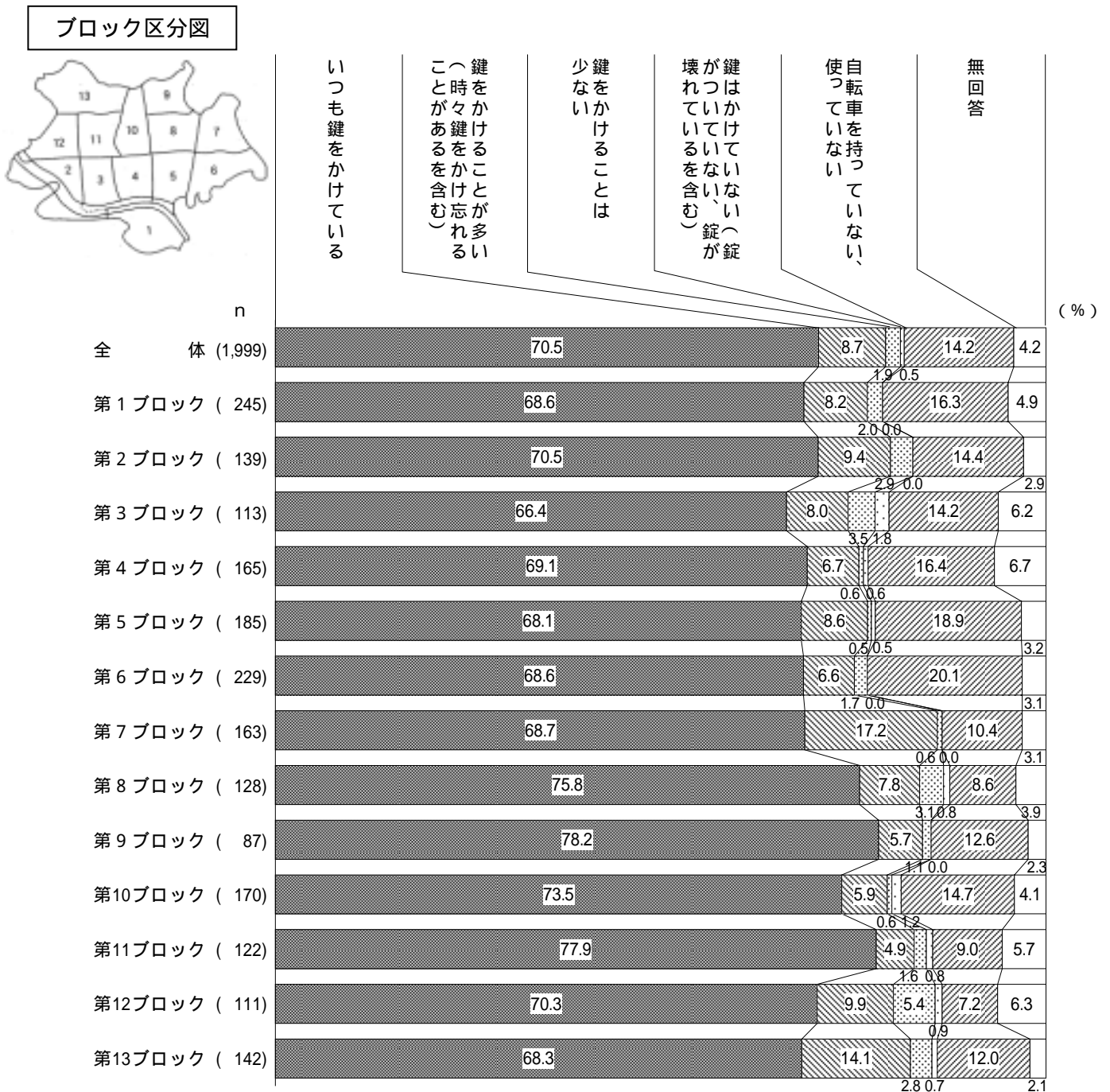


自転車を駐車したときに鍵をかけているか聞いたところ、「いつも鍵をかけている」(70.5%)が7割となっている。また、「鍵をかけることが多い(時々鍵をかけることがあるを含む)」(8.7%)、「鍵をかけることは少ない」(1.9%)、「鍵はかけていない(錠がついていない、錠が壊れているを含む)」(0.5%)はいずれも1割未満となっている。

平成23年調査と比較すると、やや増加傾向にある。(図6-5-1)

地域ブロック別でみると、「いつも鍵をかけている」は第9ブロック(78.2%)と第11ブロック(77.9%)で8割近くと高くなっている。また、「自転車を持っていない、使っていない」は第6ブロック(20.1%)で2割と高くなっている。(図6-5-2)

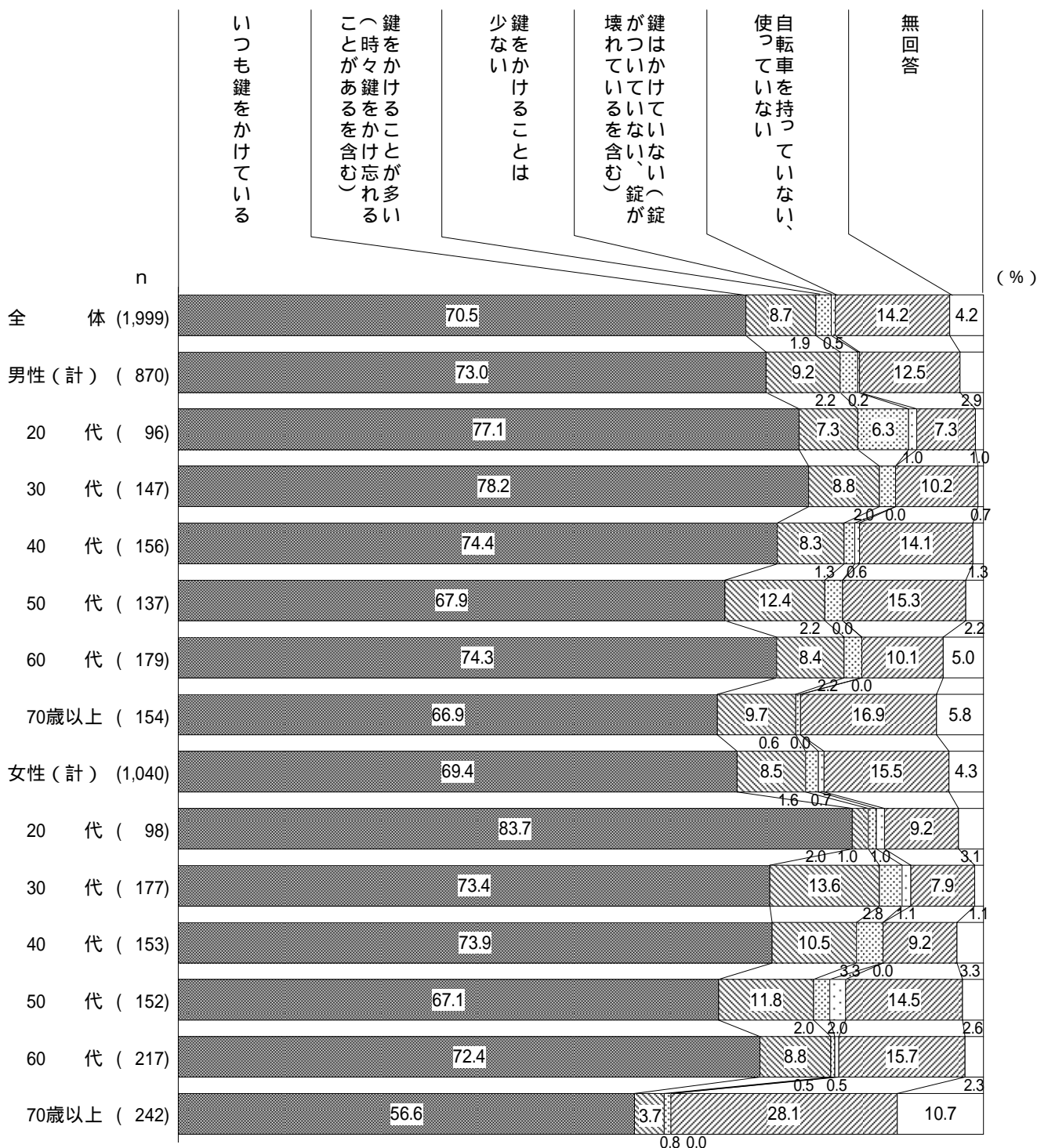
図6-5-2 自転車に鍵をかけているか - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で「いつも鍵をかけている」(73.0%)が女性(69.4%)より3.6ポイント高くなっている。一方、女性で「自転車を持っていない、使っていない」(15.5%)が男性(12.5%)より3.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「いつも鍵をかけている」は女性20代(83.7%)で8割を超え高くなっている。また、「自転車を持っていない、使っていない」は女性70歳以上(28.1%)で3割近くと高くなっている。(図6-5-3)

図6-5-3 自転車に鍵をかけているか - 性別、性・年代別

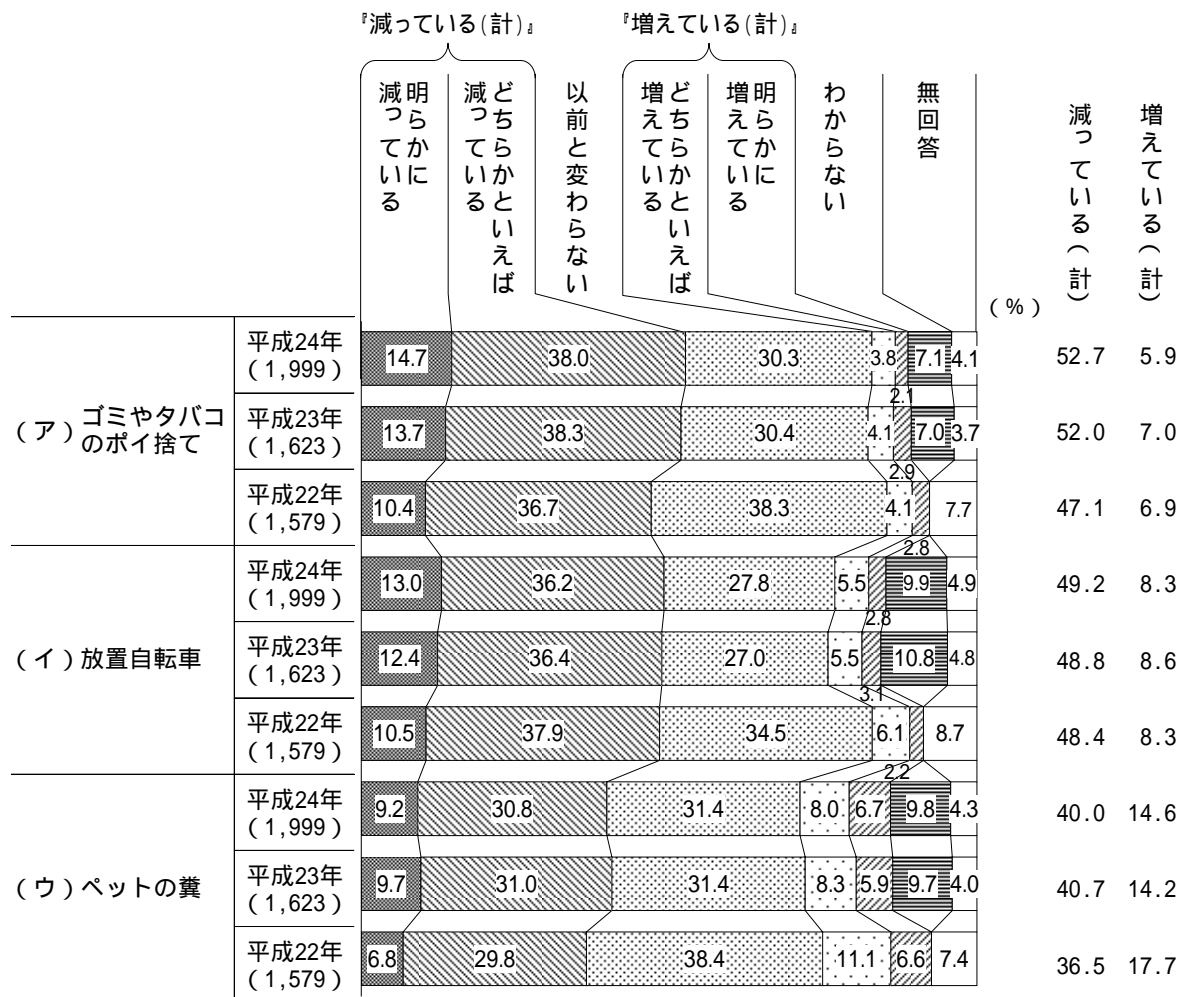


(6) 地域の変化についての評価

『減っている』と感じているのは、【ゴミやタバコのポイ捨て】が5割を超え、【放置自転車】がほぼ5割

問29 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下の項目について、現在は以前と比べてどのようにお感じになっていますか。(は各項目とも1つだけ)

図6-6-1 地域の変化についての評価 - 過年度比較



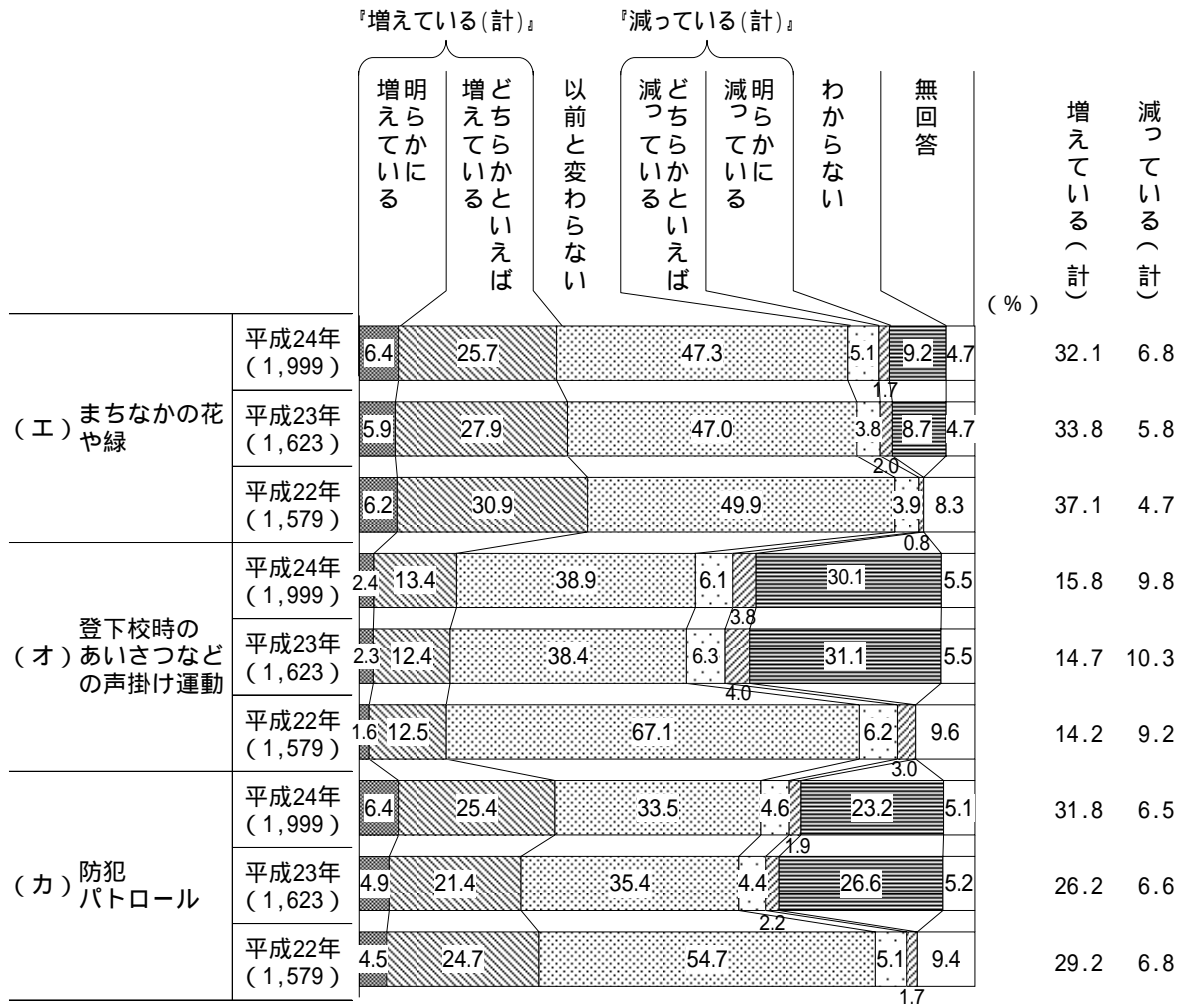
(注) 平成23年調査から、「わからない」が選択肢に追加されている。

住まいの地域が以前と比べてどのように変化しているか聞いたところ、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」を合わせた『減っている(計)』は、【ゴミやタバコのポイ捨て】(52.7%)が5割を超え、【放置自転車】(49.2%)がほぼ5割、【ペットの糞】(40.0%)が4割となっている。

過去の調査と比較すると、『減っている(計)』は【ゴミやタバコのポイ捨て】と【放置自転車】で平成22年以降増加傾向が続いている。(図6-6-1)

『増えている』と感じているのは、【まちなかの花や緑】と【防犯パトロール】がともに3割を超える

図6-6-2 地域の変化についての評価 - 過年度比較



(注) 平成23年調査から、「わからない」が選択肢に追加されている。

住まいの地域が以前と比べてどのように変化しているか聞いたところ、「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」を合わせた『増えている(計)』は、【まちなかの花や緑】(32.1%)と【防犯パトロール】(31.8%)で3割を超え、【登下校時のあいさつなどの声掛け運動】(15.8%)が1割半ばとなっている。

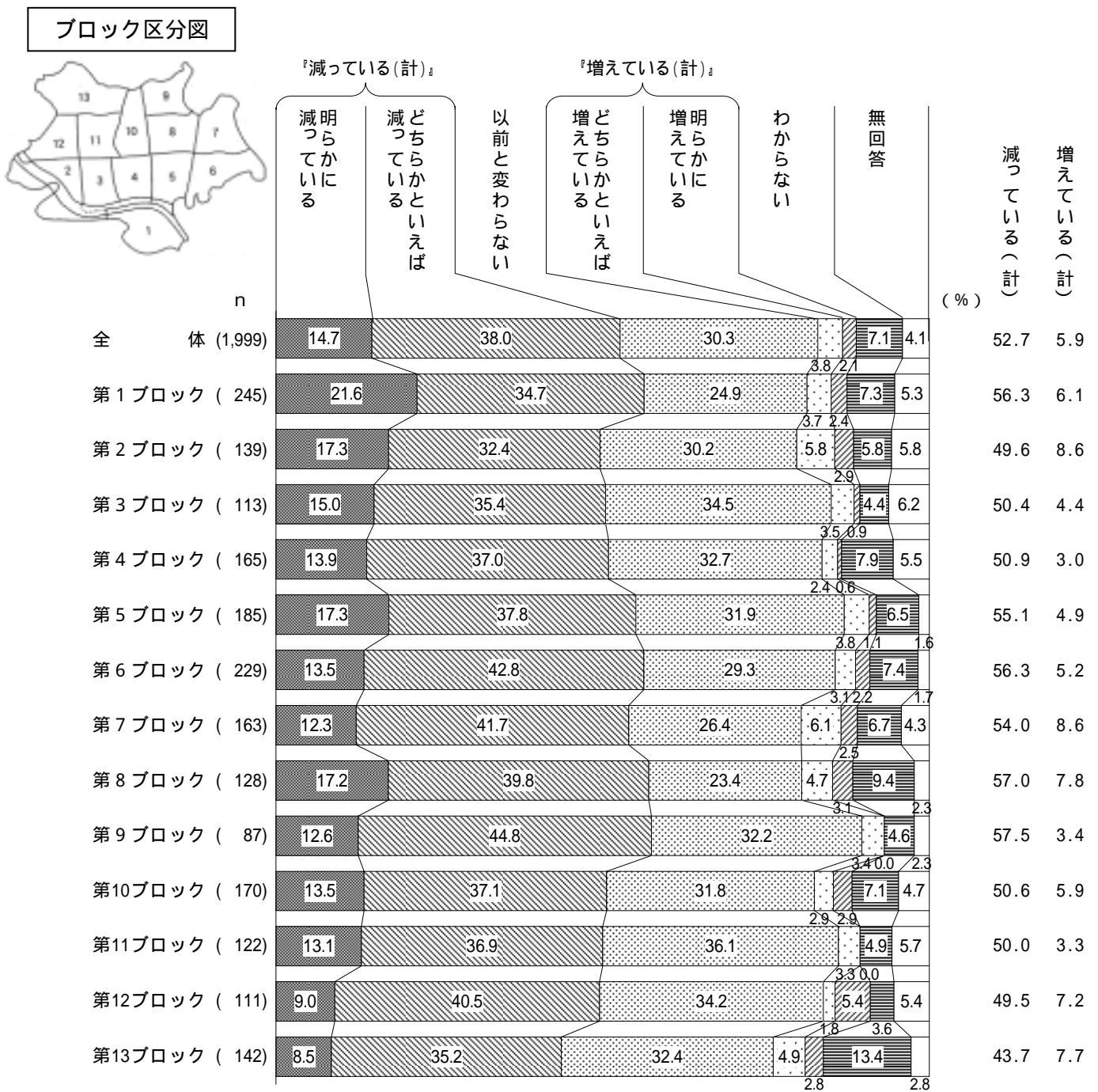
過去の調査と比較すると、平成23年より『増えている(計)』は【防犯パトロール】で5.6ポイント、【登下校時のあいさつなどの声掛け運動】で1.1ポイント増加している。

(図6-6-2)

地域ブロック別でみると、『減っている(計)』は第9ブロック(57.5%)と第8ブロック(57.0%)で6割近くと高くなっている。また、『以前と変わらない』は第11ブロック(36.1%)と第3ブロック(34.5%)と第12ブロック(34.2%)で3割半ばと高くなっている。(図6-6-3)

図6-6-3 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(ア)

(ア) ゴミやタバコのポイ捨て

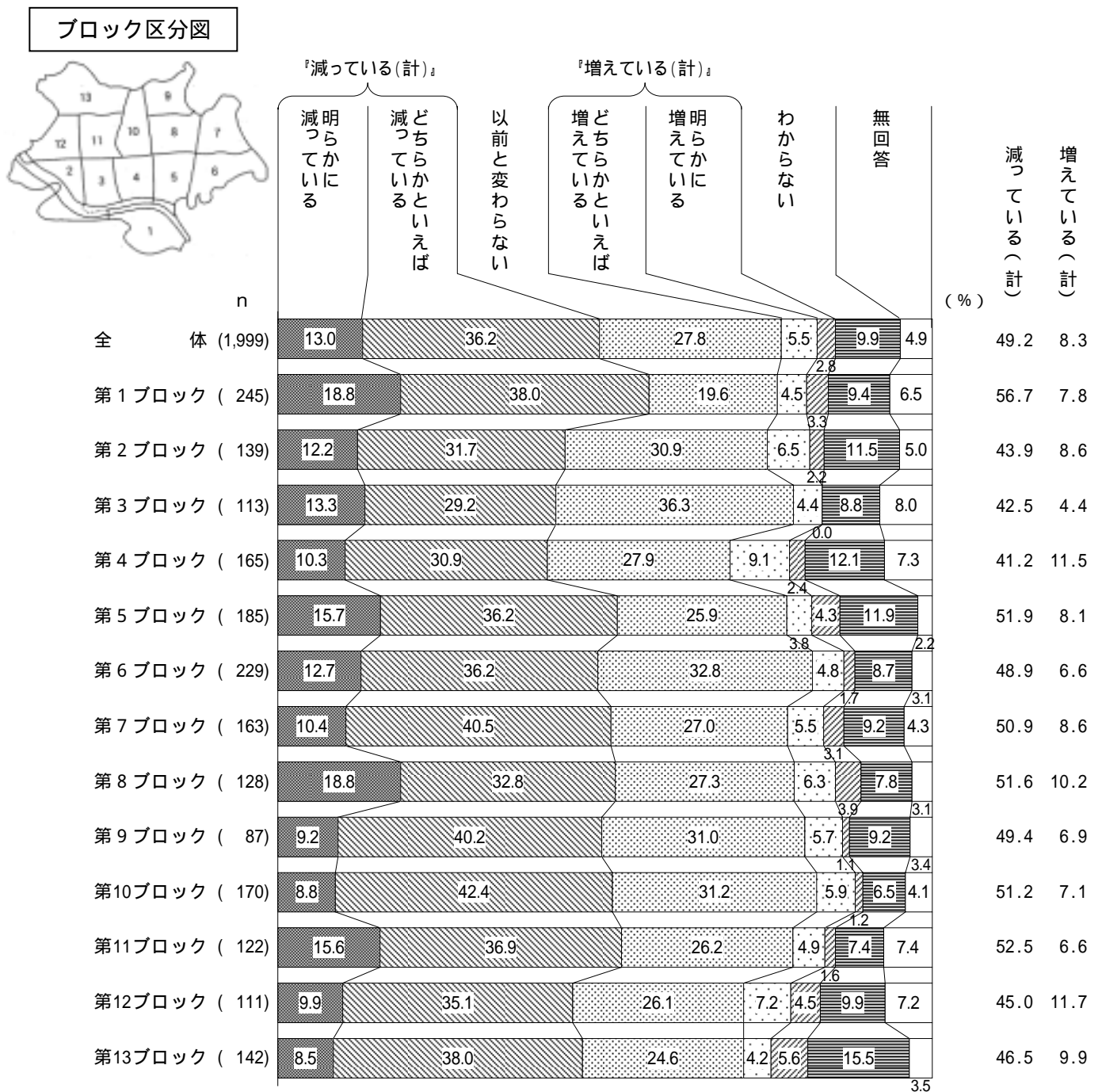


地域ブロック別でみると、『減っている(計)』は第1ブロック(56.7%)で5割半ばと高くなっている。また、「以前と変わらない」は第3ブロック(36.3%)で3割半ばと高くなっている。

(図6-6-4)

図6-6-4 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(イ)

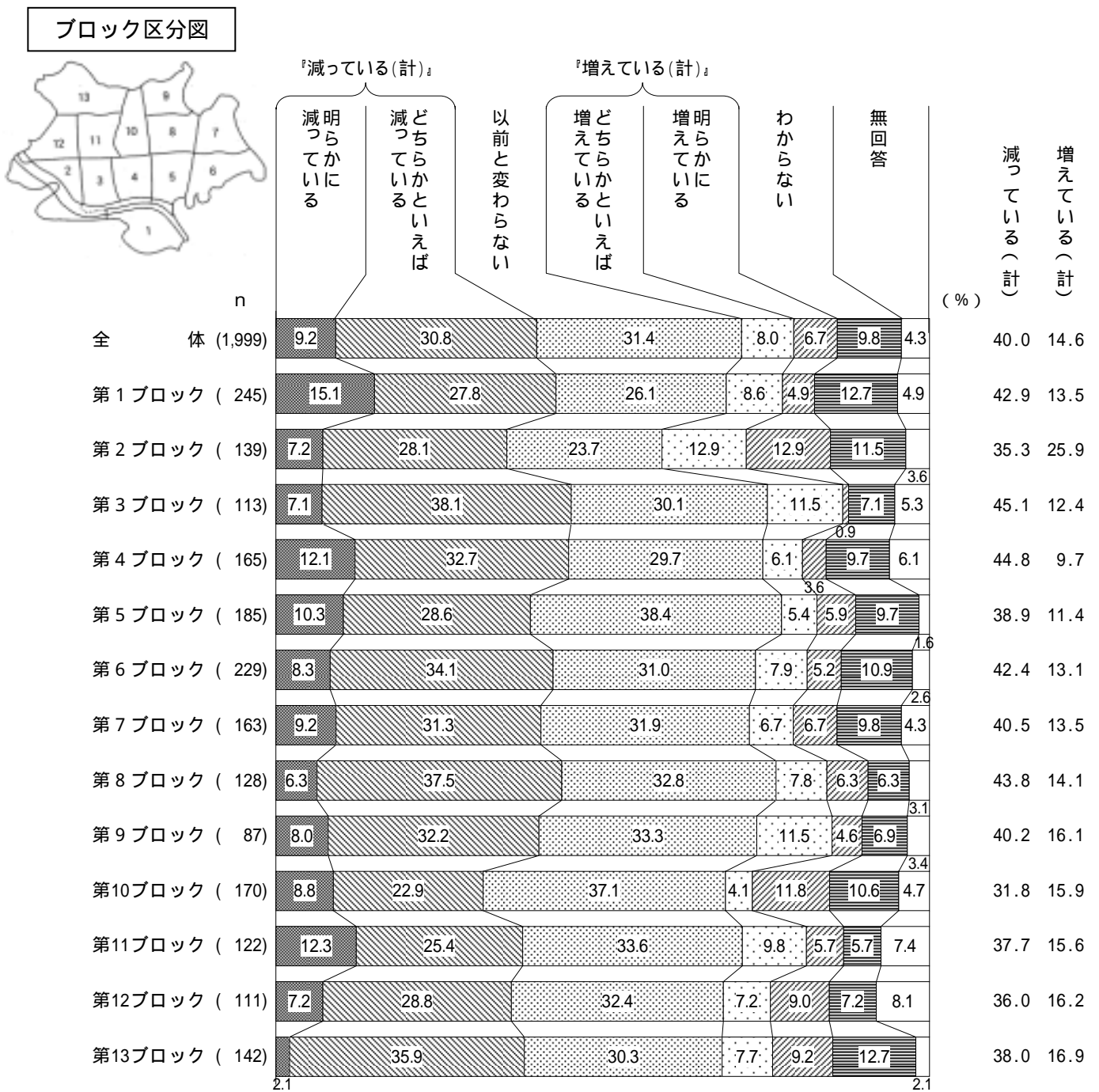
(イ) 放置自転車



地域ブロック別でみると、『減っている(計)』は第3ブロック(45.1%)と第4ブロック(44.8%)で4割半ばと高くなっている。一方、『増えている(計)』は第2ブロック(25.9%)で2割半ばと高くなっている。(図6-6-5)

図6-6-5 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(ウ)

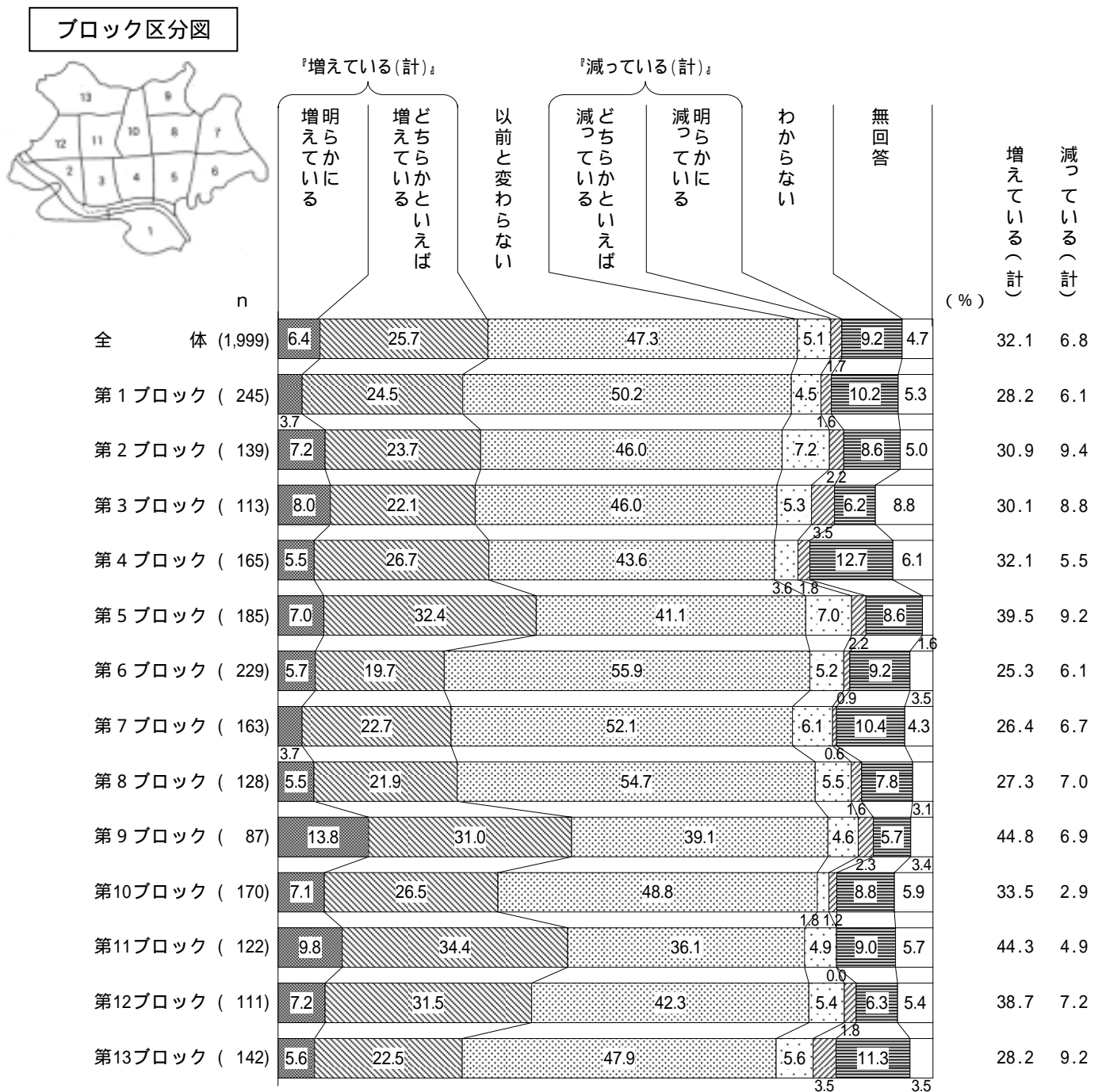
(ウ) ペットの糞



地域ブロック別でみると、『増えている(計)』は第9ブロック(44.8%)と第11ブロック(44.3%)で4割半ばと高くなっている。また、『以前と変わらない』は第6ブロック(55.9%)と第8ブロック(54.7%)で5割半ばと高くなっている。(図6-6-6)

図6-6-6 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(エ)

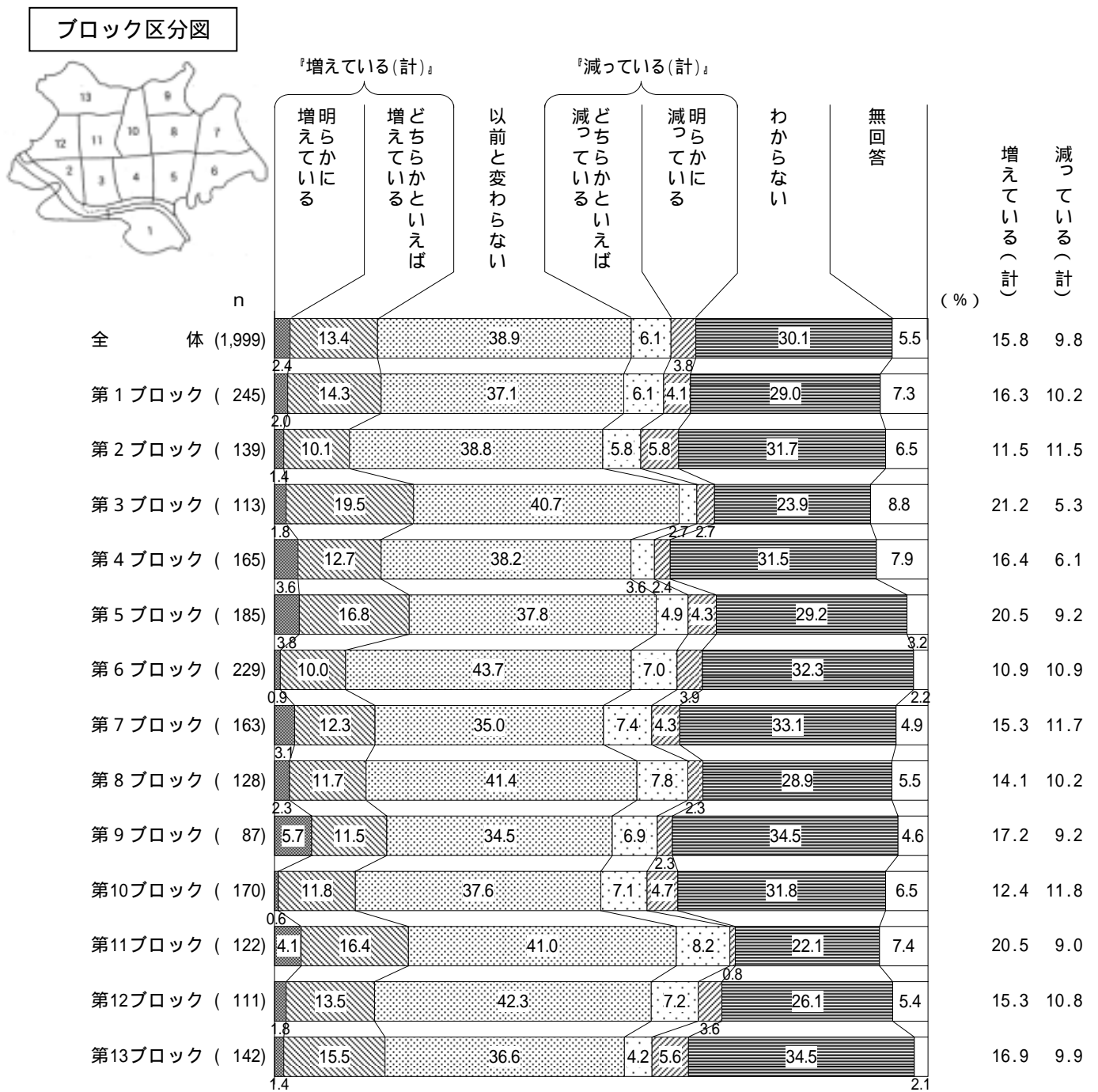
(エ) まちなかの花や緑



地域ブロック別でみると、『増えている(計)』は第3ブロック(21.2%)、第5ブロックと第11ブロック(ともに20.5%)で2割を超え高くなっている。(図6-6-7)

図6-6-7 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(オ)

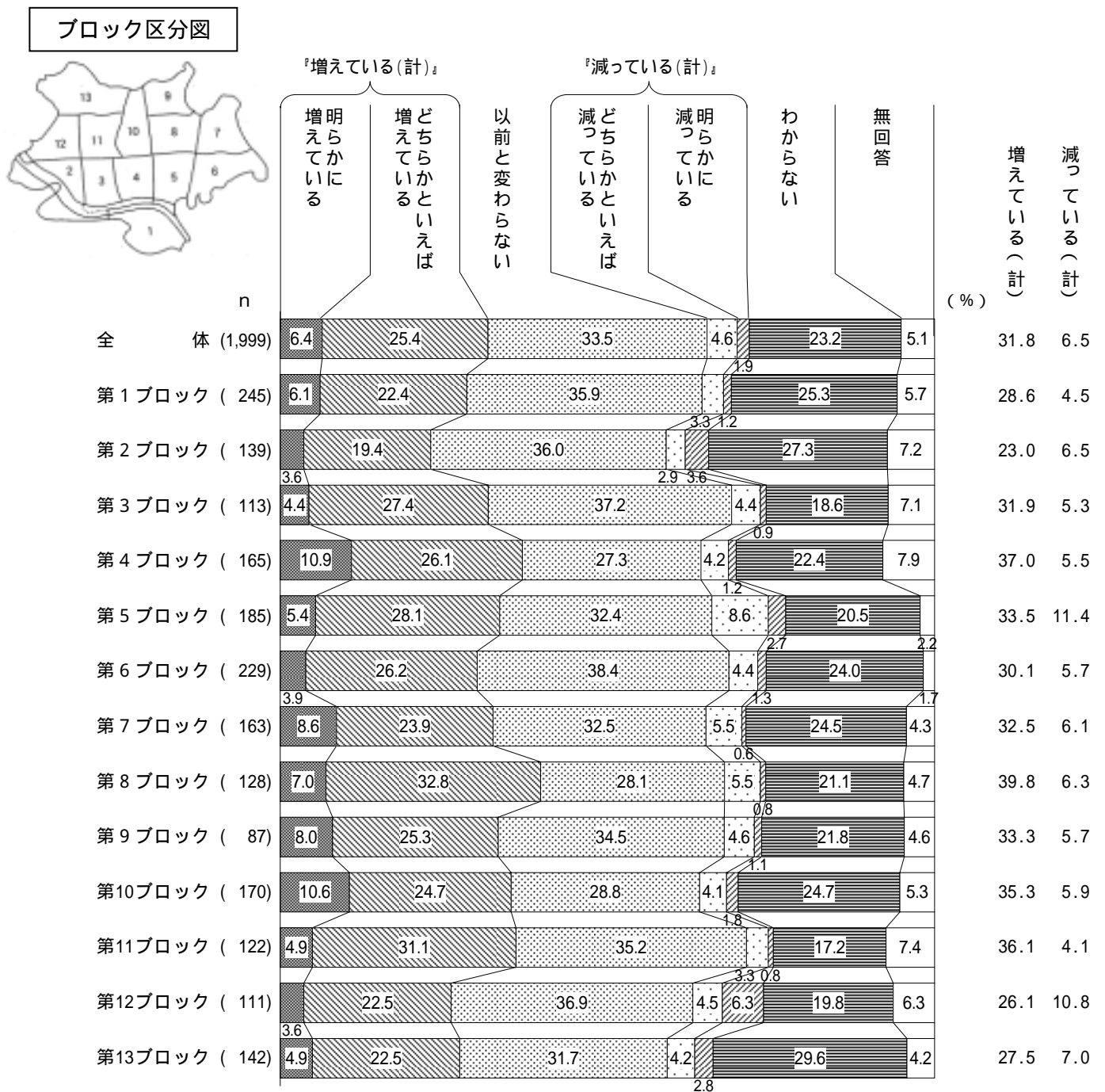
(オ) 登下校時のあいさつなどの声掛け運動



地域ブロック別でみると、『増えている(計)』は第8ブロック(39.8%)でほぼ4割と高くなっている。一方、『減っている(計)』は第5ブロック(11.4%)と第12ブロック(10.8%)で1割を超え高くなっている。(図6-6-8)

図6-6-8 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(カ)

(カ) 防犯パトロール



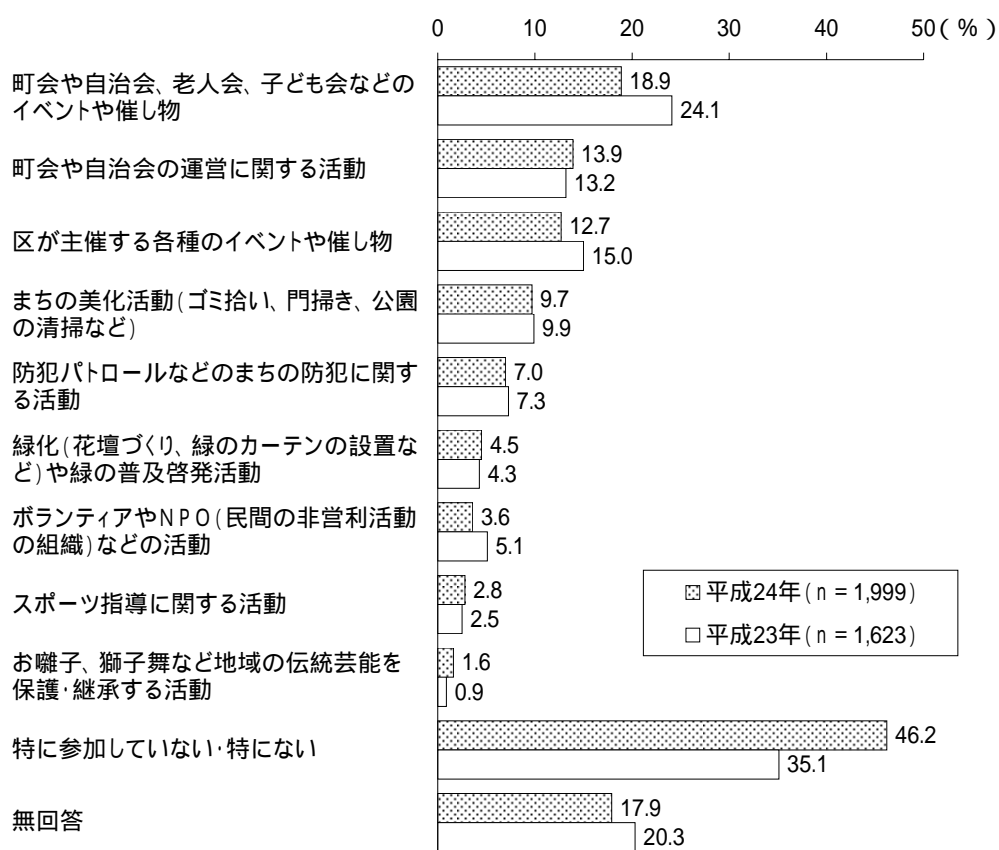
(7) この1年間に参加された活動

「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」が2割近くで最も高い

問30(1) あなたがこの1年間に参加された活動はどれですか。

(はあてはまるものすべて)

図6-7-1 この1年間に参加された活動 - 過年度比較



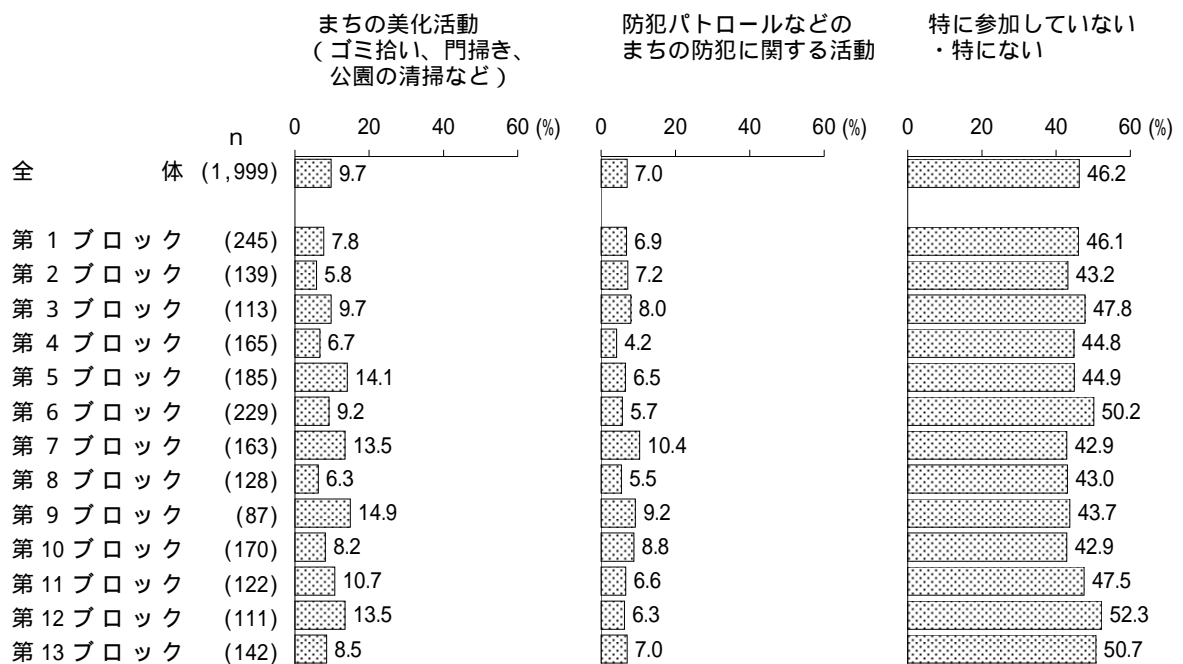
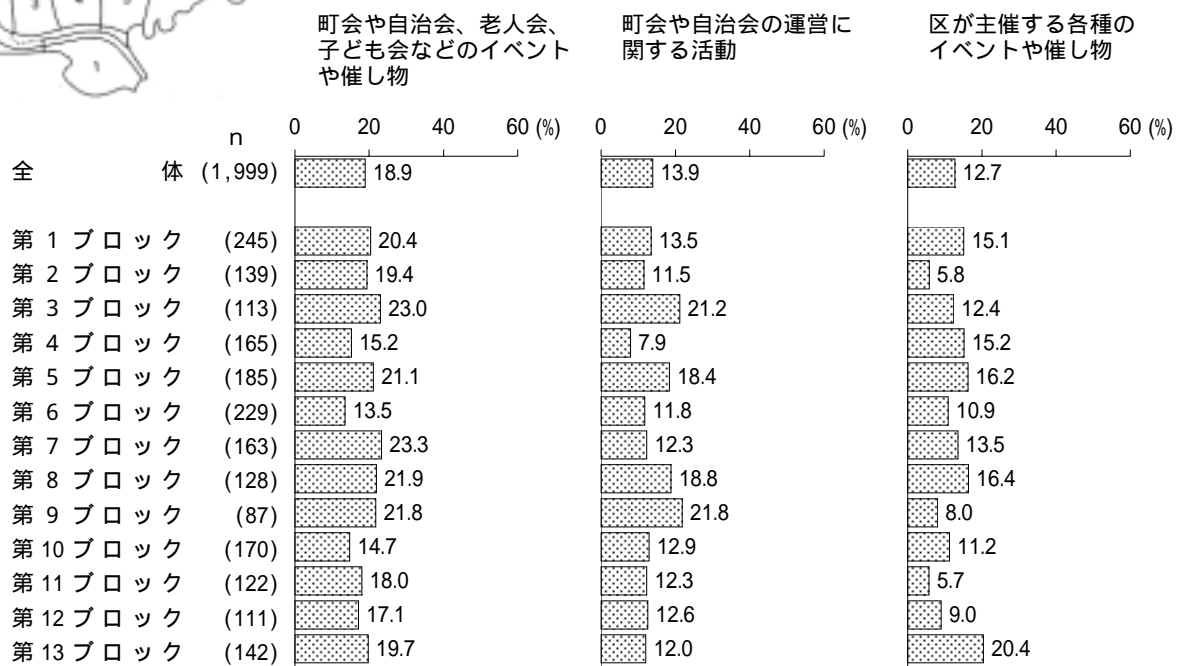
この1年間に参加された活動を聞いたところ、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(18.9%)が2割近くで最も高く、次いで「町会や自治会の運営に関する活動」(13.9%)、「区が主催する各種のイベントや催し物」(12.7%)、「まちの美化活動(ゴミ拾い、門掃き、公園の清掃など)」(9.7%)の順となっている。また、「特に参加していない・特になし」(46.2%)が4割半ばとなっている。

平成23年調査と比較すると、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は5.2ポイント減少している。(図6-7-1)

地域ブロック別でみると、「町会や自治会の運営に関する活動」は第9ブロック（21.8%）と第3ブロック（21.2%）で2割を超え高くなっている。また、「区が主催する各種のイベントや催し物」は第13ブロック（20.4%）で2割と高くなっている。（図6-7-2）

図6-7-2 この1年間に参加された活動 - 地域ブロック別
（上位5位+「特に参加していない・特にない」）

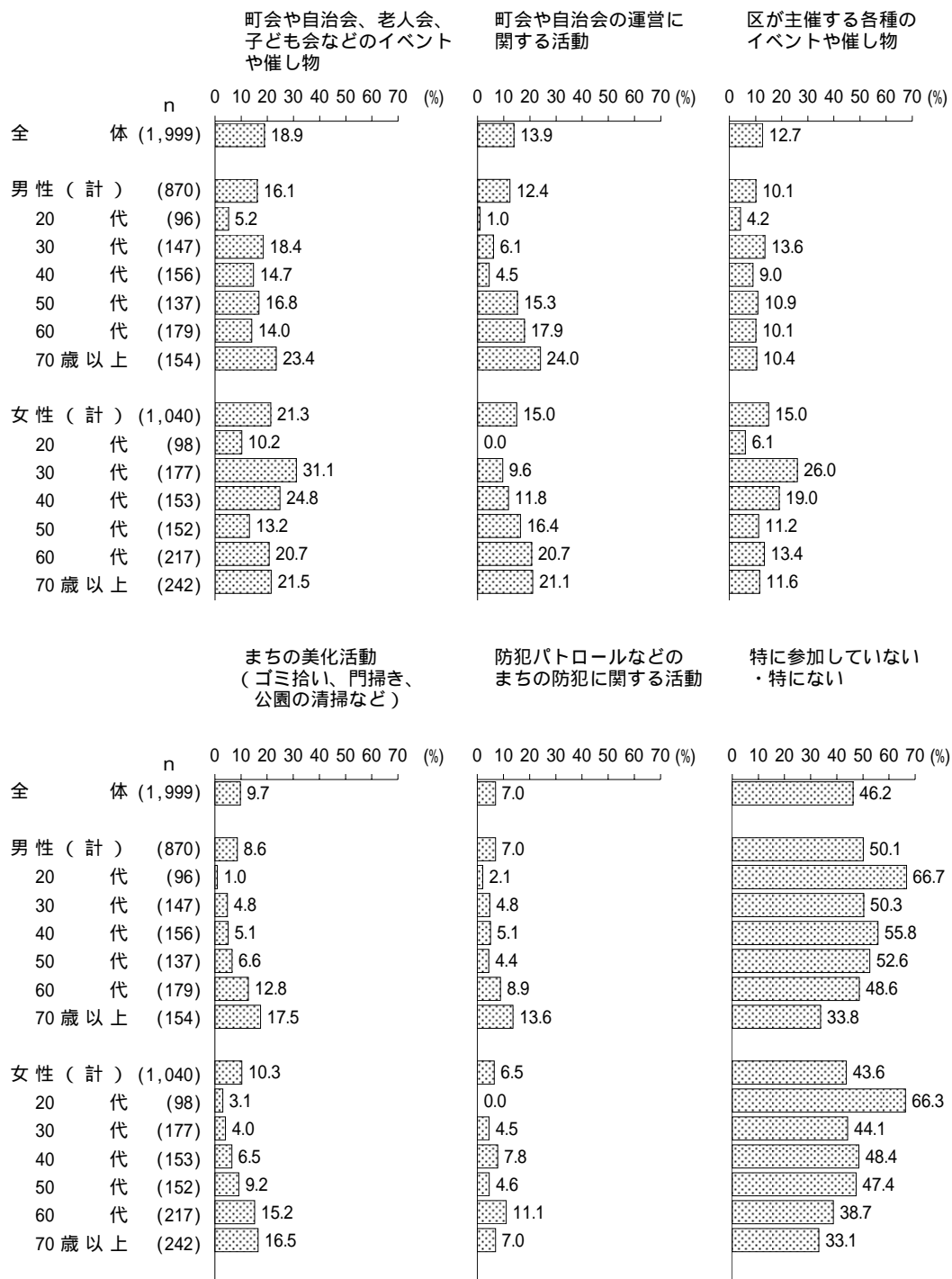
ブロック区分図



性別で見ると、女性で「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(21.3%)が男性(16.1%)より5.2ポイント高く、「区が主催する各種のイベントや催し物」(15.0%)が男性(10.1%)より4.9ポイント高くなっている。一方、男性で「特に参加していない・特にない」(50.1%)が女性(43.6%)より6.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は女性30代(31.1%)で3割を超え高くなっている。また、「特に参加していない・特にない」は男女とも20代(男性66.7%・女性66.3%)で6割半ばを超え高くなっている。(図6-7-3)

図6-7-3 この1年間に参加された活動 - 性別、性・年代別
(上位5位+「特に参加していない・特にない」)

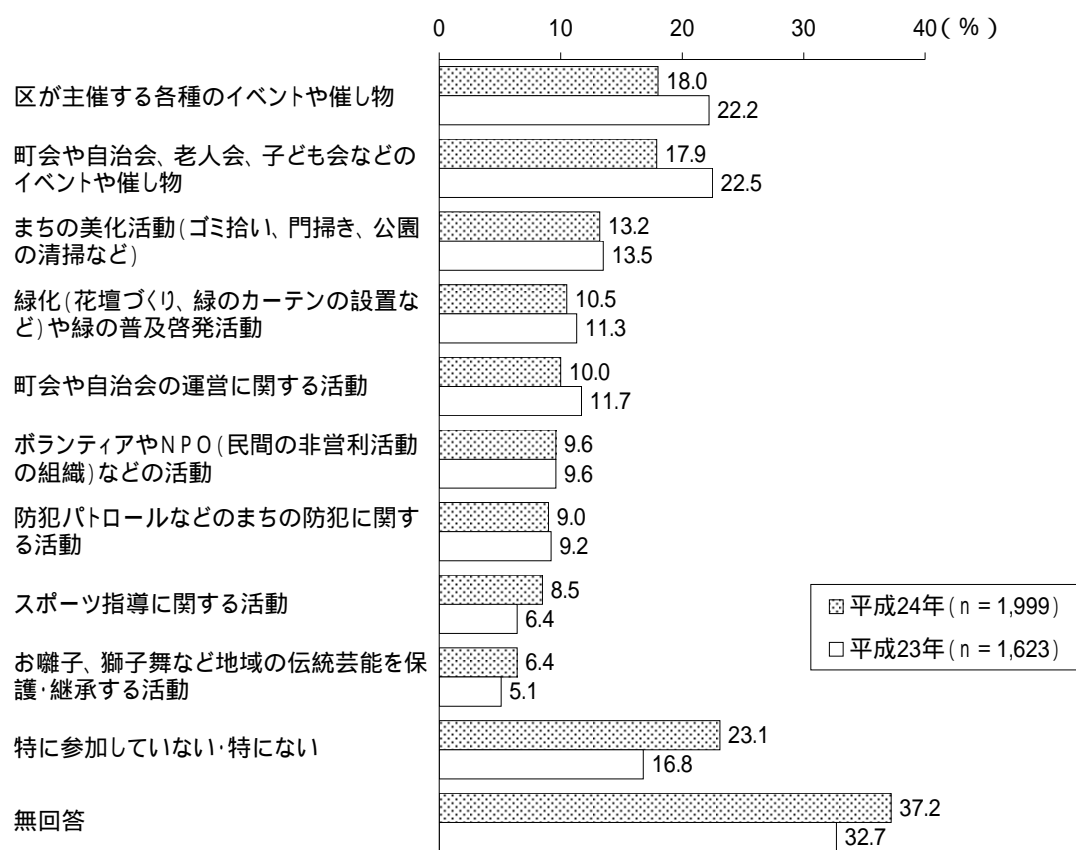


(7-1) 引き続き、または今後参加したいと思う活動

「区が主催する各種のイベントや催し物」と「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」がともに2割近く

問30(2) あなたがこの1年間に参加されて引き続き参加したい、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか。(はあてはまるものすべて)

図6-8-1 引き続き、または今後参加したいと思う活動 - 過年度比較



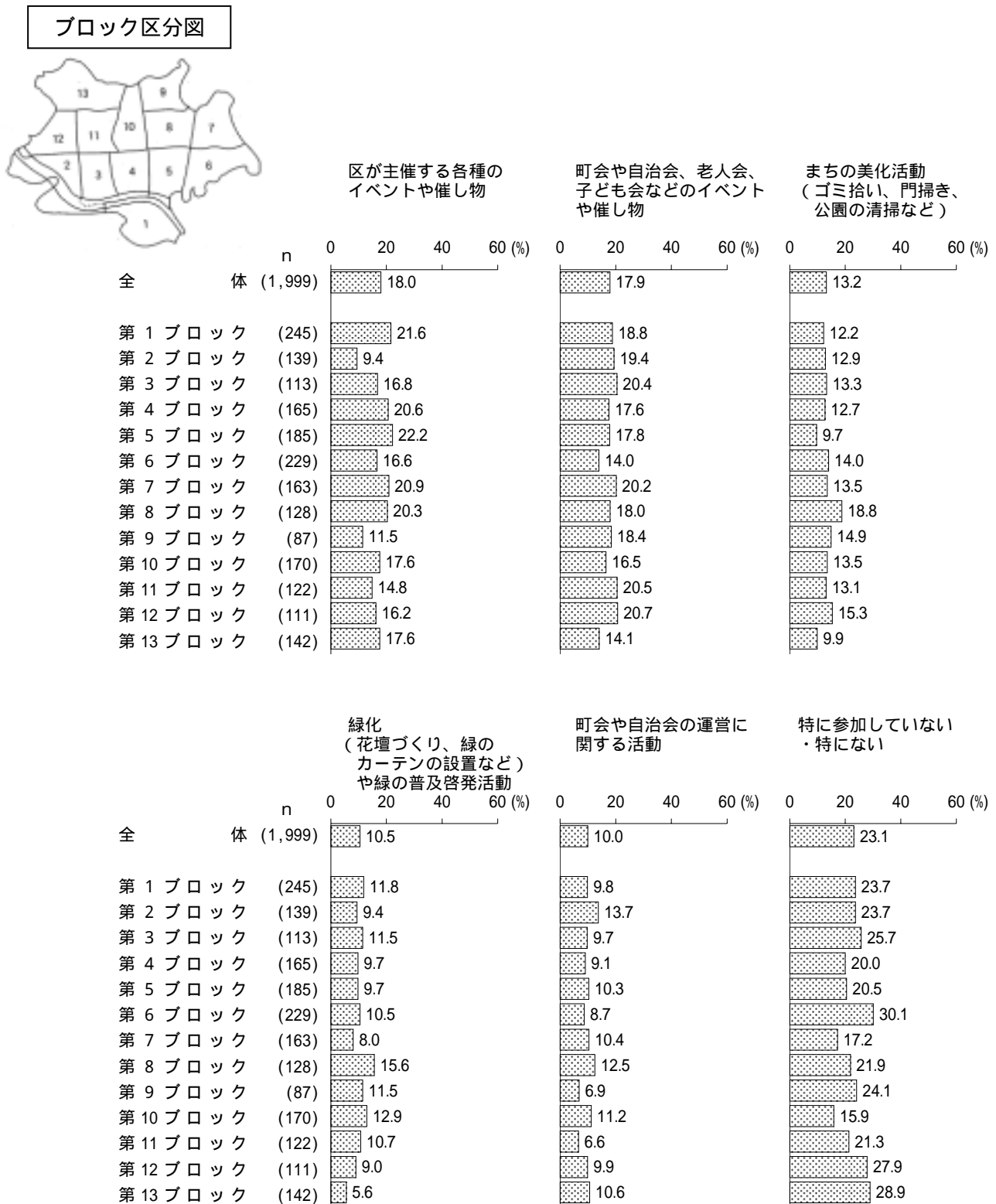
この1年間に参加されて引き続き参加したい、または今後参加したいと思う活動を聞いたところ、「区が主催する各種のイベントや催し物」(18.0%)と「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(17.9%)がともに2割近くとなっている。次いで「まちの美化活動(ゴミ拾い、門掃き、公園の清掃など)」(13.2%)、「緑化(花壇づくり、緑のカーテンの設置など)や緑の普及啓発活動」(10.5%)の順となっている。

平成23年調査と比較すると、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は4.6ポイント、「区が主催する各種のイベントや催し物」は4.2ポイント、それぞれ減少している。一方、「特に参加していない・特にない」は6.3ポイント増加している。(図6-8-1)

地域ブロック別でみると、「まちの美化活動（ゴミ拾い、門掃き、公園の清掃など）」は第8ブロック（18.8%）で2割近くと高くなっている。また、「緑化（花壇づくり、緑のカーテンの設置など）や緑の普及啓発活動」は第8ブロック（15.6%）で1割半ばと高くなっている。

（図6-8-2）

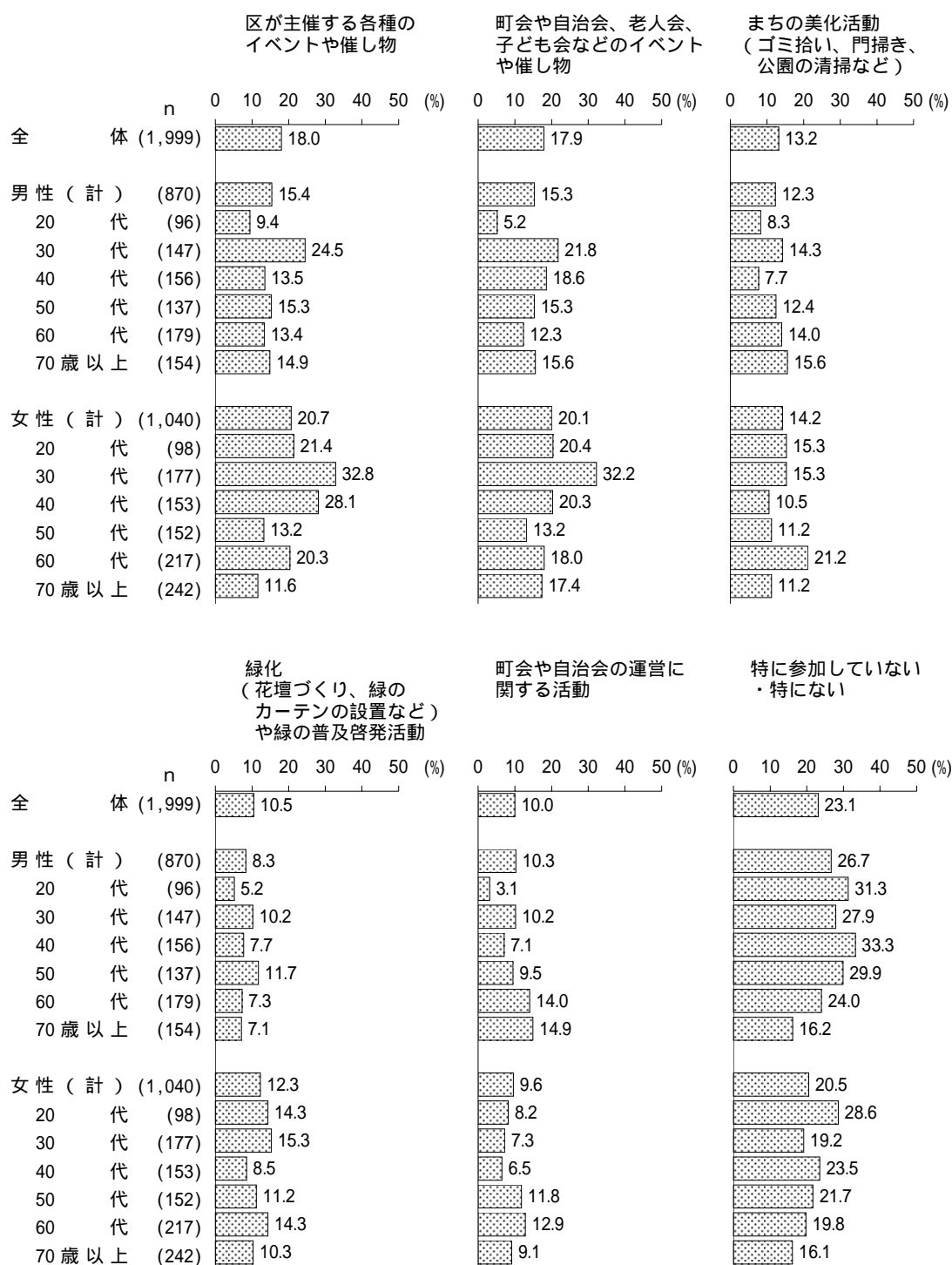
図6-8-2 引き続き、または今後参加したいと思う活動 - 地域ブロック別
（上位5位+「特に参加していない・特にない」）



性別で見ると、女性で「区が主催する各種のイベントや催し物」(20.7%)が男性(15.4%)より5.3ポイント高く、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(20.1%)が男性(15.3%)より4.8ポイント高くなっている。一方、男性で「特に参加していない・特にない」(26.7%)が女性(20.5%)より6.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「区が主催する各種のイベントや催し物」は女性30代(32.8%)で3割を超え、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」でも女性30代(32.2%)で3割を超え高くなっている。(図6-8-3)

図6-8-3 引き続き、または今後参加したいと思う活動 - 性別、性・年代別
(上位5位+「特に参加していない・特にない」)



(7 - 2) 参加してみたい活動

問30 - 1 こんな活動があったら参加してみたいと思う内容がありましたらお書きください。

【111件(108人)のうち、主な内容】

- ・ 芸術や歴史などの文化活動 …………… 12件
- ・ 体操やウォーキングなどのスポーツ活動 …………… 11件
- ・ 避難訓練などの防災に関する活動 …………… 11件
- ・ 介護などのボランティア活動 …………… 9件
- ・ 街コンや外国人との交流などの地域交流活動 …………… 9件

7 区 政

-
- (1) 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み
 - (1 - 1) 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み
 - (2) 区の取り組みについての評価・印象
 - (3) 区政に対する満足度
 - (3 - 1) 不満だと思ふ理由
 - (4) 区に対する気持ち
 - (5) 区政についてのご意見、ご要望 (自由回答)
 - (6) アンケートの有効性
-

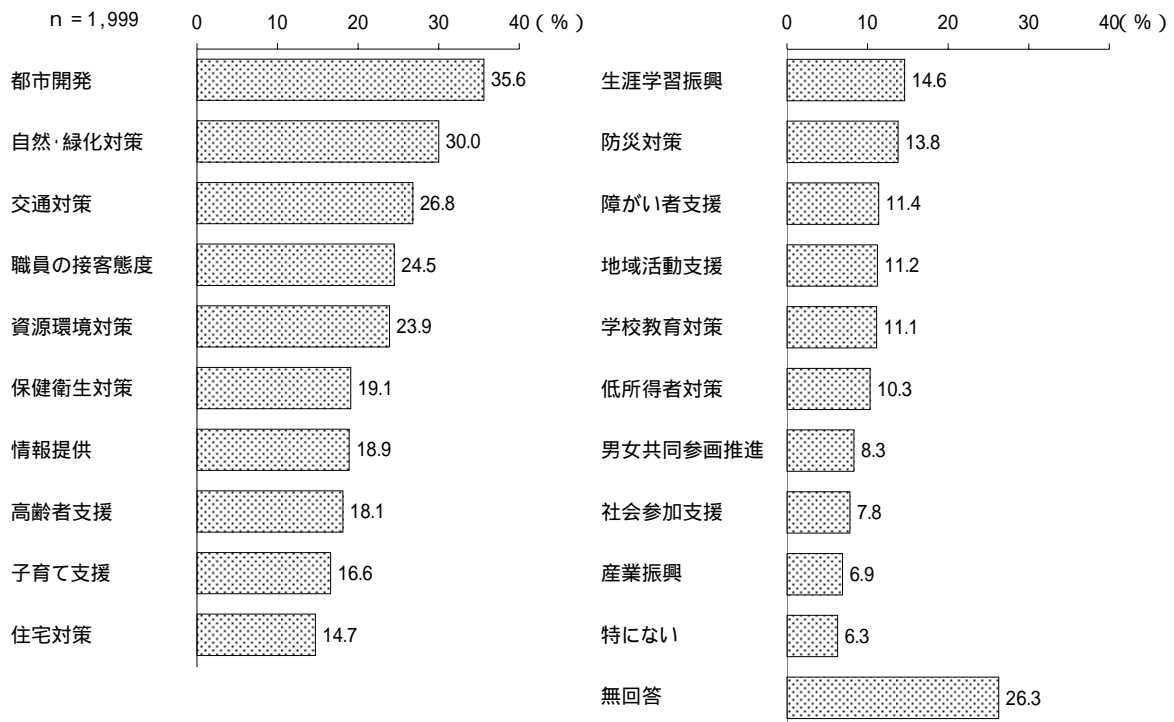
7 区 政

(1) 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み

「都市開発」が3割半ばで最も高い

問31(1) あなたが以前と比べてよくなったと思う区の取り組みを、下の表からお選びください。(はあてはまるものすべて)

図7-1-1 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み



区 の 取 り 組 み	内 容	区 の 取 り 組 み	内 容
都 市 開 発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	生 涯 学 習 振 興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
自 然 ・ 緑 化 対 策	公園や緑地、河川の整備など	防 災 対 策	防災活動の充実、都市の不燃化など
交 通 対 策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	障 が い 者 支 援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
職 員 の 接 客 態 度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	地 域 活 動 支 援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
資 源 環 境 対 策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	学 校 教 育 対 策	教育内容の充実、施設の改修など
保 健 衛 生 対 策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	低 所 得 者 対 策	生活の援助や自立支援など
情 報 提 供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	男 女 共 同 参 画 推 進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど
高 齢 者 支 援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	社 会 参 加 支 援	NPOやボランティアの育成や支援など
子 育 て 支 援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	産 業 振 興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
住 宅 対 策	良質な住宅の供給支援など		

以前と比べてよくなったと思う区の取り組みを聞いたところ、「都市開発」(35.6%)が3割半ばで最も高く、次いで「自然・緑化対策」(30.0%)、「交通対策」(26.8%)、「職員の接客態度」(24.5%)、「資源環境対策」(23.9%)の順となっている。(図7-1-1)

地域ブロック別でみると、「都市開発」は13ブロック中9ブロックで第1位を占めている。また、残りの4ブロックでは「自然・緑化対策」が第1位となっている。（表7-1-2）

ブロック区分図



表7-1-2 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み - 地域ブロック別（上位5位）

(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,999	都 市 開 発 (35.6)	自 然・緑化対策 (30.0)	交 通 対 策 (26.8)	職員の接客態度 (24.5)	資 源 環 境 対 策 (23.9)
第1ブロック	245	都 市 開 発 (38.4)	交 通 対 策 (30.2)	職員の接客態度 (29.4)	自 然・緑化対策 (25.7)	保 健 衛 生 対 策 (24.9)
第2ブロック	139	自 然・緑化対策 (43.9)	都 市 開 発 (41.0)	交 通 対 策 (31.7)	資 源 環 境 対 策 (23.7)	住 宅 対 策 (23.0)
第3ブロック	113	都 市 開 発 (42.5)	交 通 対 策 (32.7)	自 然・緑化対策 (30.1)	資 源 環 境 対 策 (28.3)	職員の接客態度 (27.4)
第4ブロック	165	都 市 開 発 (46.1)	自 然・緑化対策 (29.7)	職員の接客態度 (24.2)	交 通 対 策 (23.0)	子 育 て 支 援 (18.8)
第5ブロック	185	自 然・緑化対策 (35.1)	都 市 開 発 (31.9)	職員の接客態度 (30.8)	交 通 対 策 (26.5)	情 報 提 供 (23.8)
第6ブロック	229	自 然・緑化対策 (27.9)	都 市 開 発 (26.2)	交 通 対 策 (24.5)	職員の接客態度/資源環境対策 (21.4)	
第7ブロック	163	都 市 開 発 (34.4)	自 然・緑化対策 (28.2)	職員の接客態度 (25.2)	資 源 環 境 対 策 (24.5)	交 通 対 策 (23.3)
第8ブロック	128	都 市 開 発 (35.2)	資 源 環 境 対 策 (32.0)	交 通 対 策 (30.5)	自 然・緑化対策 (28.1)	職員の接客態度 (27.3)
第9ブロック	87	都 市 開 発 (40.2)	自 然・緑化対策 (37.9)	交 通 対 策 (29.9)	資 源 環 境 対 策 (26.4)	職員の接客態度 (23.0)
第10ブロック	170	都 市 開 発 (35.3)	自 然・緑化対策 (26.5)	資 源 環 境 対 策 (25.9)	交 通 対 策 (23.5)	職員の接客態度 /住宅対策 (21.8)
第11ブロック	122	都 市 開 発 (37.7)	自 然・緑化対策 (31.1)	職員の接客態度 (26.2)	交 通 対 策 (25.4)	情 報 提 供 (24.6)
第12ブロック	111	都 市 開 発 (32.4)	資 源 環 境 対 策 (26.1)	情 報 提 供 (23.4)	自 然・緑化対策/交通対策 /職員の接客態度 (21.6)	
第13ブロック	142	自 然・緑化対策 (29.6)	都 市 開 発/交通対策 (27.5)		資 源 環 境 対 策 (20.4)	情 報 提 供 (18.3)

性別でみると、男女とも「都市開発」が第1位、「自然・緑化対策」が第2位となっている。また、第3位は男性では「交通対策」、女性では「職員の接客態度」と差異が生じている。

性・年代別でみると、女性70歳以上では「職員の接客態度」が第1位、「都市開発」が第2位となっているが、それ以外の全ての年代で「都市開発」は第1位となっている。(表7-1-3)

表7-1-3 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み - 性別、性・年代別(上位5位)

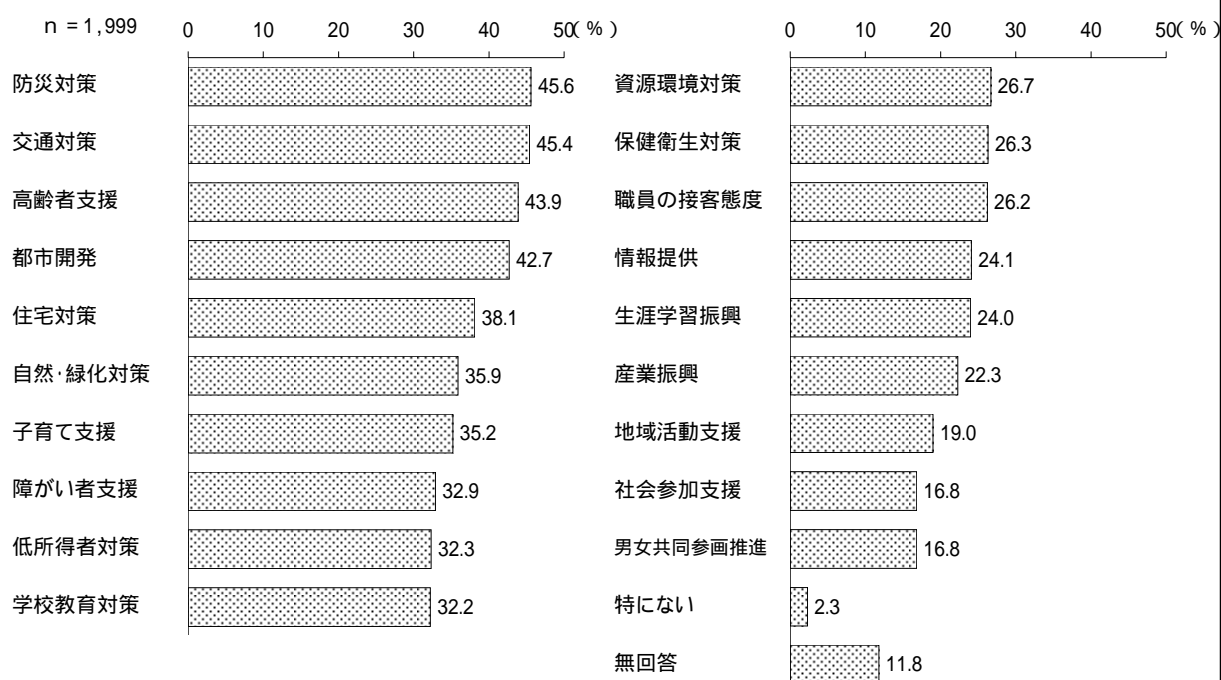
(%)						
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体	1,999	都市開発 (35.6)	自然・緑化対策 (30.0)	交通対策 (26.8)	職員の接客態度 (24.5)	資源環境対策 (23.9)
男性(計)	870	都市開発 (35.2)	自然・緑化対策 (29.1)	交通対策 (27.5)	職員の接客態度 (21.4)	資源環境対策 (21.0)
20代	96	都市開発/自然・緑化対策 (17.7)		防災対策 (15.6)	交通対策/職員の接客態度 (14.6)	
30代	147	都市開発/自然・緑化対策 (28.6)		交通対策 (22.4)	子育て支援 (17.7)	資源環境対策 (14.3)
40代	156	都市開発 (39.7)	自然・緑化対策 (25.0)	交通対策 (23.1)	子育て支援 (18.6)	職員の接客態度/住宅 対策/資源環境対策 (16.7)
50代	137	都市開発 (36.5)	交通対策 (29.9)	自然・緑化対策 (27.0)	資源環境対策 (21.2)	職員の接客態度 (19.0)
60代	179	都市開発 (35.8)	自然・緑化対策 (32.4)	交通対策 (30.7)	資源環境対策 (27.4)	職員の接客態度 (26.3)
70歳以上	154	都市開発 (45.5)	自然・緑化対策/交通対策 (38.3)		職員の接客態度 (35.1)	高齢者支援 (33.8)
女性(計)	1,040	都市開発 (35.9)	自然・緑化対策 (30.3)	職員の接客態度 (26.5)	資源環境対策 (26.2)	交通対策 (25.7)
20代	98	都市開発 (29.6)	自然・緑化対策 (26.5)	交通対策/子育て支援 (18.4)		資源環境対策 (16.3)
30代	177	都市開発 (33.3)	自然・緑化対策/子育て支援 (20.3)		交通対策 (19.2)	資源環境対策 (17.5)
40代	153	都市開発 (34.0)	自然・緑化対策 (28.8)	交通対策 (21.6)	資源環境対策/情報提供 (20.3)	
50代	152	都市開発 (39.5)	自然・緑化対策 (32.9)	交通対策/資源環境対策 (26.3)		職員の接客態度 (19.7)
60代	217	都市開発 (39.6)	職員の接客態度 (36.9)	資源環境対策 (35.9)	自然・緑化対策 (34.6)	交通対策 (32.3)
70歳以上	242	職員の接客態度 (40.5)	都市開発 (36.0)	自然・緑化対策 (34.3)	資源環境対策/保健衛生対策 (31.4)	

(1 - 1) 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み

世論調査実施上、初めて「防災対策」が1位

問31(2) あなたが今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを、下の表からお選びください。(はあてはまるものすべて)

図7-2-1 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み



区の取り組み	内 容	区の取り組み	内 容
防 災 対 策	防災活動の充実、都市の不燃化など	資 源 環 境 対 策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど
交 通 対 策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	保 健 衛 生 対 策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
高 齢 者 支 援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	職 員 の 接 客 態 度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など
都 市 開 発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	情 報 提 供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
住 宅 対 策	良質な住宅の供給支援など	生 涯 学 習 振 興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
自 然 ・ 緑 化 対 策	公園や緑地、河川の整備など	産 業 振 興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
子 育 て 支 援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	地 域 活 動 支 援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
障 がい 者 支 援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	社 会 参 加 支 援	NPOやボランティアの育成や支援など
低 所 得 者 対 策	生活の援助や自立支援など	男 女 共 同 参 画 推 進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど
学 校 教 育 対 策	教育内容の充実、施設の改修など		

今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを聞いたところ、「防災対策」(45.6%)と「交通対策」(45.4%)が4割半ばと高く、次いで「高齢者支援」(43.9%)、「都市開発」(42.7%)、「住宅対策」(38.1%)、「自然・緑化対策」(35.9%)の順となっている。(図7-2-1)

平成 23 年調査と比べると、前回第 3 位の「防災対策」が第 1 位となっている。また、前回第 1 位だった「交通対策」が第 2 位に、前回第 2 位の「高齢者支援」が第 3 位、前回第 7 位の「住宅対策」が第 5 位となっている。(表 7 - 2 - 2)

「防災対策」が第 1 位となったのは、世論調査実施上、初めてである。

表 7 - 2 - 2 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み - 上位 5 位の推移 (対前年調査)

区の取り組み	平成24年の上位 5 位		平成23年の順位	
	順位	(%)	順位	(%)
防 災 対 策	第 1 位	45.6	第 3 位	28.8
交 通 対 策	第 2 位	45.4	第 1 位	33.6
高 齢 者 支 援	第 3 位	43.9	第 2 位	33.1
都 市 開 発	第 4 位	42.7	第 4 位	23.1
住 宅 対 策	第 5 位	38.1	第 7 位	14.2

(注)平成 23 年調査までは選択個数制限が 3 つまでであったが、今回調査ではあてはまるものすべてを選択に変更になったため、結果を単純に比較することはできない。

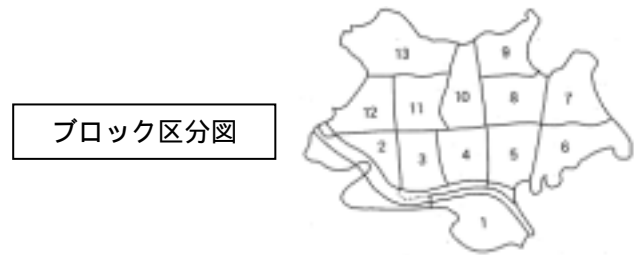
調査が始まった平成 13 年調査と比べると、平成 13 年に第 7 位の「防災対策」が第 1 位、平成 13 年に第 1 位だった「高齢者支援」が第 3 位、平成 13 年に第 3 位の「都市開発」が第 4 位となっている。(表 7 - 2 - 3)

表 7 - 2 - 3 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み - 上位 5 位の推移 (対平成13年調査)

区の取り組み	平成24年の上位 5 位		平成13年の順位	
	順位	(%)	順位	(%)
防 災 対 策	第 1 位	45.6	第 7 位	14.9
交 通 対 策	第 2 位	45.4	第 2 位	29.1
高 齢 者 支 援	第 3 位	43.9	第 1 位	35.9
都 市 開 発	第 4 位	42.7	第 3 位	16.9
住 宅 対 策	第 5 位	38.1	第 5 位	16.7

(注)平成 13 年調査では選択個数制限が 3 つまでであったが、今回調査ではあてはまるものすべてを選択に変更になったため、結果を単純に比較することはできない。

地域ブロック別でみると、「交通対策」は13ブロック中8ブロックで第1位を占めている。また、「防災対策」は4ブロックで第1位を占め、「高齢者支援」は第9ブロックで第1位となっている。(表7-2-4)



ブロック区分図

表7-2-4 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み - 地域ブロック別(上位5位)

(%)						
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,999	防 災 対 策 (45.6)	交 通 対 策 (45.4)	高 齢 者 支 援 (43.9)	都 市 開 発 (42.7)	住 宅 対 策 (38.1)
第1ブロック	245	防 災 対 策 (49.8)	高 齢 者 支 援 (44.1)	自 然・緑化対策 (43.7)	都 市 開 発 (42.4)	住 宅 対 策 (39.6)
第2ブロック	139	交 通 対 策 (49.6)	防 災 対 策 (48.2)	高 齢 者 支 援 (40.3)	都 市 開 発 (36.7)	自 然・緑化対策 /障がい者支援 (34.5)
第3ブロック	113	交 通 対 策 / 都 市 開 発 (42.5)		防 災 対 策 / 高 齢 者 支 援 (38.1)		住 宅 対 策 (37.2)
第4ブロック	165	防 災 対 策 (49.7)	交 通 対 策 (47.9)	高 齢 者 支 援 (43.0)	住 宅 対 策 (38.8)	都 市 開 発 (36.4)
第5ブロック	185	交 通 対 策 (51.9)	高 齢 者 支 援 (50.3)	防 災 対 策 (47.0)	都 市 開 発 (45.9)	住 宅 対 策 (41.6)
第6ブロック	229	防 災 対 策 (47.6)	高 齢 者 支 援 (43.7)	交 通 対 策 (42.8)	都 市 開 発 (40.2)	学 校 教 育 対 策 (34.5)
第7ブロック	163	交 通 対 策 (43.6)	防 災 対 策 (42.9)	高 齢 者 支 援 (40.5)	住 宅 対 策 (38.7)	子 育 て 支 援 (36.2)
第8ブロック	128	交 通 対 策 (50.8)	都 市 開 発 (46.1)	高 齢 者 支 援 (45.3)	防 災 対 策 (43.8)	自 然・緑化対策 (39.8)
第9ブロック	87	高 齢 者 支 援 (50.6)	住 宅 対 策 / 障 がい 者 支 援 (41.4)		都 市 開 発 (40.2)	交 通 対 策 /低所得者対策 (39.1)
第10ブロック	170	防 災 対 策 (48.8)	都 市 開 発 (46.5)	交 通 対 策 (42.4)	高 齢 者 支 援 / 住 宅 対 策 (41.8)	
第11ブロック	122	交 通 対 策 (47.5)	都 市 開 発 (46.7)	防 災 対 策 (43.4)	子 育 て 支 援 (42.6)	高 齢 者 支 援 (41.8)
第12ブロック	111	交 通 対 策 / 住 宅 対 策 (49.5)		都 市 開 発 (47.7)	子 育 て 支 援 (43.2)	防 災 対 策 (41.4)
第13ブロック	142	交 通 対 策 (52.8)	高 齢 者 支 援 (52.1)	都 市 開 発 (51.4)	防 災 対 策 (47.2)	低 所 得 者 対 策 /学 校 教 育 対 策 (38.7)

性別で見ると、「防災対策」は女性で第1位、男性で第2位となっている。

性・年代別で見ると、男性では「交通対策」が20代から50代で第1位、女性では「防災対策」が20代、50代で第1位となっている。また、「高齢者支援」は男女とも60代、70歳以上で第1位となっている。（表7-2-5）

表7-2-5 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み - 性別、性・年代別（上位5位）

		(%)				
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,999	防 災 対 策 (45.6)	交 通 対 策 (45.4)	高 齢 者 支 援 (43.9)	都 市 開 発 (42.7)	住 宅 対 策 (38.1)
男 性 (計)	870	交 通 対 策 (46.2)	防 災 対 策 (44.9)	都 市 開 発 (43.8)	高 齢 者 支 援 (42.1)	住 宅 対 策 (37.8)
20 代	96	交 通 対 策 (44.8)	防 災 対 策 (40.6)	都 市 開 発 (39.6)	子 育 て 支 援 (38.5)	学 校 教 育 対 策 (37.5)
30 代	147	交 通 対 策 (57.1)	都 市 開 発 (53.7)	子 育 て 支 援 (53.1)	防 災 対 策 (49.7)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (46.9)
40 代	156	交 通 対 策 (53.8)	都 市 開 発 (52.6)	防 災 対 策 (50.0)	高 齢 者 支 援 (46.8)	子 育 て 支 援 (45.5)
50 代	137	交 通 対 策 / 都 市 開 発 (43.1)		防 災 対 策 / 高 齢 者 支 援 (42.3)		住 宅 対 策 (40.1)
60 代	179	高 齢 者 支 援 (52.0)	防 災 対 策 (48.0)	交 通 対 策 (39.7)	都 市 開 発 / 住 宅 対 策 (38.0)	
70 歳 以 上	154	高 齢 者 支 援 (49.4)	交 通 対 策 (39.6)	防 災 対 策 (37.0)	都 市 開 発 (35.7)	低 所 得 者 対 策 (35.1)
女 性 (計)	1,040	防 災 対 策 (46.9)	高 齢 者 支 援 (46.6)	交 通 対 策 (45.7)	都 市 開 発 (42.8)	住 宅 対 策 (38.9)
20 代	98	防 災 対 策 / 交 通 対 策 (54.1)		子 育 て 支 援 (53.1)	住 宅 対 策 (51.0)	都 市 開 発 (50.0)
30 代	177	子 育 て 支 援 (58.8)	交 通 対 策 (54.8)	都 市 開 発 (49.2)	防 災 対 策 (48.6)	学 校 教 育 対 策 (48.0)
40 代	153	都 市 開 発 (51.6)	交 通 対 策 (50.3)	防 災 対 策 (49.0)	高 齢 者 支 援 (43.8)	住 宅 対 策 (42.5)
50 代	152	防 災 対 策 (51.3)	高 齢 者 支 援 (50.0)	交 通 対 策 (45.4)	都 市 開 発 / 障 が い 者 支 援 (39.5)	
60 代	217	高 齢 者 支 援 (58.5)	防 災 対 策 (48.4)	交 通 対 策 (44.2)	障 が い 者 支 援 (41.9)	低 所 得 者 対 策 (41.5)
70 歳 以 上	242	高 齢 者 支 援 (48.8)	防 災 対 策 (37.2)	都 市 開 発 (34.7)	交 通 対 策 / 住 宅 対 策 (33.9)	

ライフステージ別でみると、「交通対策」は独身期と家族成長後期で第1位、「高齢者支援」は家族成熟期と高齢期とその他壮年期で第1位、「子育て支援」は家族形成期と家族成長前期で第1位となっている。(表7-2-6)

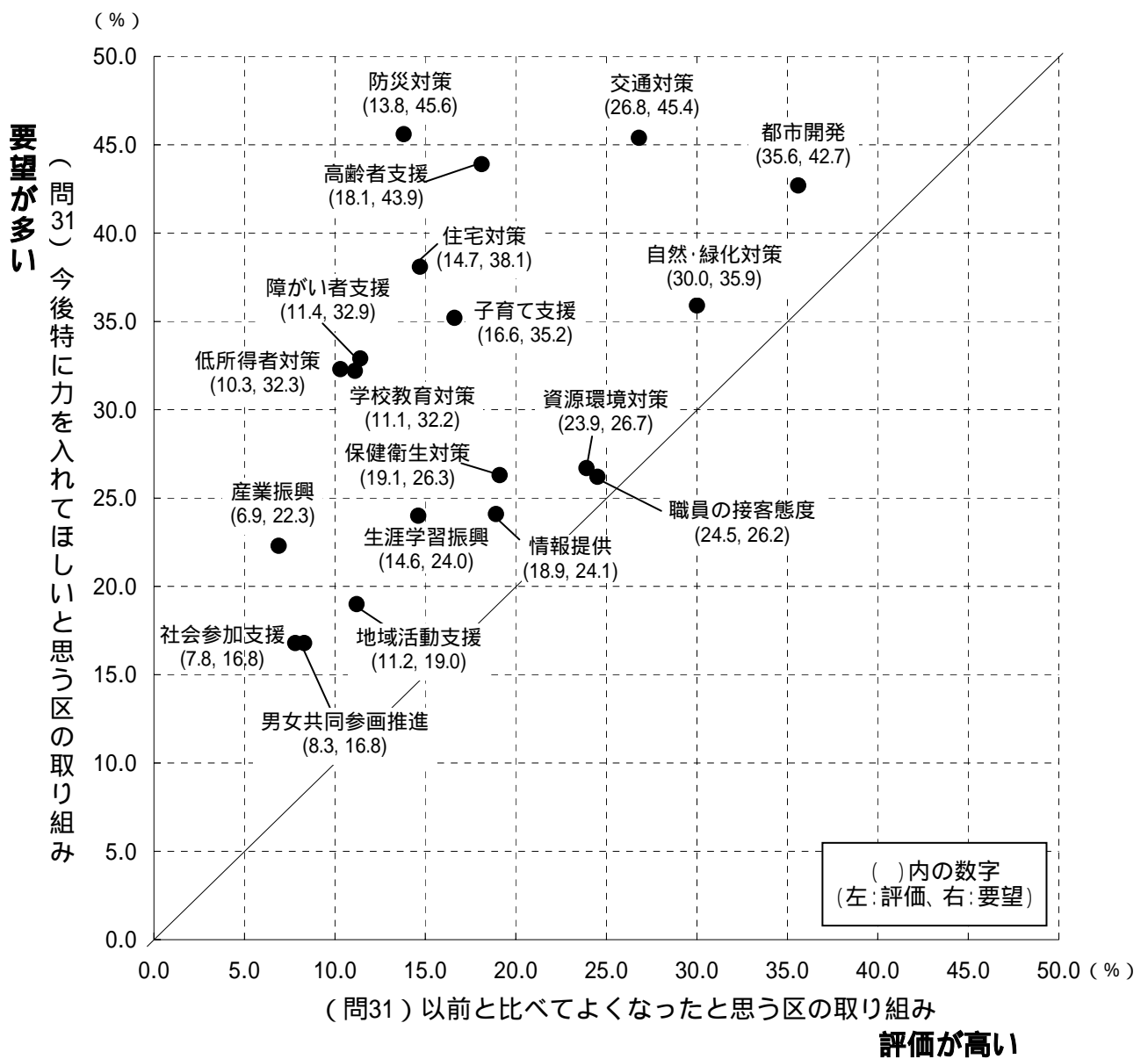
表7-2-6 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み - ライフステージ別(上位5位)

(%)						
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,999	防 災 対 策 (45.6)	交 通 対 策 (45.4)	高 齢 者 支 援 (43.9)	都 市 開 発 (42.7)	住 宅 対 策 (38.1)
独身期	251	交 通 対 策 (50.2)	防 災 対 策 (49.4)	都 市 開 発 (45.4)	住 宅 対 策 (41.0)	自然・緑化対策 (38.6)
家族形成期	187	子 育 て 支 援 (67.9)	交 通 対 策 (57.2)	都 市 開 発 (52.9)	防 災 対 策 (50.8)	自然・緑化対策 (48.7)
家族成長前期	169	子 育 て 支 援 (67.5)	学 校 教 育 対 策 (60.9)	交 通 対 策 (60.4)	都 市 開 発 (55.0)	防 災 対 策 (52.7)
(家族成長小学校期)	116	子 育 て 支 援 (64.7)	学 校 教 育 対 策 (60.3)	交 通 対 策 (57.8)	都 市 開 発 (49.1)	防 災 対 策 (48.3)
(家族成長中学校期)	53	子 育 て 支 援 (73.6)	都 市 開 発 (67.9)	交 通 対 策 (66.0)	防 災 対 策 / 学 校 教 育 対 策 (62.3)	
家族成長後期	124	交 通 対 策 (53.2)	都 市 開 発 (51.6)	防 災 対 策 (50.0)	高 齢 者 支 援 (46.0)	学 校 教 育 対 策 (39.5)
家族成熟期	290	高 齢 者 支 援 (49.0)	防 災 対 策 (45.5)	住 宅 対 策 (41.4)	交 通 対 策 (41.0)	都 市 開 発 (39.3)
高齢期	612	高 齢 者 支 援 (48.9)	防 災 対 策 (39.4)	交 通 対 策 (37.3)	都 市 開 発 (36.4)	住 宅 対 策 (35.0)
(ひとり暮らし高齢者)	115	高 齢 者 支 援 (44.3)	住 宅 対 策 (40.9)	交 通 対 策 / 都 市 開 発 (33.0)		障 がい 者 支 援 (31.3)
(夫婦二人暮らし高齢者)	208	高 齢 者 支 援 (54.8)	防 災 対 策 (38.5)	交 通 対 策 (37.5)	住 宅 対 策 (35.6)	都 市 開 発 (34.6)
(その他の高齢者)	289	高 齢 者 支 援 (46.4)	防 災 対 策 (43.9)	都 市 開 発 (39.1)	交 通 対 策 (38.8)	低 所 得 者 対 策 (38.1)
その他壮年期	282	高 齢 者 支 援 (52.5)	防 災 対 策 (46.5)	交 通 対 策 (45.4)	都 市 開 発 (41.1)	住 宅 対 策 (39.4)
(壮年独身者)	187	高 齢 者 支 援 (51.9)	交 通 対 策 (47.1)	防 災 対 策 (46.5)	都 市 開 発 (43.3)	障 がい 者 支 援 / 低 所 得 者 対 策 (39.0)
(壮年夫婦のみ者)	95	高 齢 者 支 援 (53.7)	防 災 対 策 (46.3)	住 宅 対 策 (43.2)	交 通 対 策 (42.1)	自然・緑化対策 (40.0)

問31の「以前と比べてよくなったと思う区の取り組み」と「今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み」の比較を以下の図に示した。

右に位置するほど評価が高く、上に位置するほど要望が多いといえる。要望が多く、評価が低い項目（要望が35%を超え、評価が20%を下回る）は、「防災対策」、「高齢者支援」、「住宅対策」、「子育て支援」となっている。（図7-2-7）

図7-2-7 「以前と比べてよくなったと思う区の取り組み」と「今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み」の比較



< 参考 > 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みの推移

(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)

問 あなたが今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを次の中から3つまで選んでください。(は3つまで)

(%)

調査年度	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成23年	1,623	交通対策 (33.6)	高齢者支援 (33.1)	防災対策 (28.8)	都市開発 (23.1)	子育て支援 (21.9)
平成22年	1,579	高齢者支援 (36.2)	交通対策 (27.8)	子育て支援 (20.3)	低所得者対策 (18.3)	都市開発/ 学校教育対策 (18.1)
平成21年	1,532	高齢者支援 (38.3)	交通対策 (25.7)	低所得者対策 (18.2)	子育て支援 (18.0)	災害対策 (17.7)
平成20年	1,248	高齢者支援 (39.4)	交通対策 (24.5)	災害対策 (21.2)	自然・緑化対策 (18.1)	子育て支援 (17.0)
平成19年	1,475	高齢者支援 (39.1)	交通対策 (29.2)	災害対策 (22.2)	自然・緑化対策 (22.1)	都市開発 (19.9)
平成18年	1,383	高齢者支援 (34.8)	交通対策 (27.6)	災害対策 (20.2)	自然・緑化対策 (18.9)	子育て支援 (17.9)
平成17年	1,486	高齢者支援 (34.1)	交通対策 (30.0)	災害対策 (28.3)	子育て支援 (21.7)	自然・緑化対策 (18.7)
平成16年	1,497	高齢者支援 (38.5)	交通対策 (31.1)	子育て支援 (21.2)	自然・緑化対策 (19.6)	都市開発 (16.8)
平成15年	1,890	交通対策 (33.9)	高齢者支援 (33.1)	自然・緑化対策 (20.6)	都市開発 (20.0)	子育て支援 (19.8)
平成14年	1,808	高齢者支援 (36.6)	交通対策 (33.4)	都市開発 (20.4)	資源環境対策 (19.1)	自然・緑化対策 (18.0)
平成13年	1,907	高齢者支援 (35.9)	交通対策 (29.1)	都市開発 (16.9)	子育て支援 (16.8)	住宅対策 (16.7)

(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、平成13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

(平成12年まで 訪問面接法)

問 区で最も力を入れてやってほしい対策を、この中から2つまでお答えください。

(は2つまで)

(%)

調査年度	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成12年	1,420	高齢者福祉 (37.7)	保健医療の実 充 (16.9)	ごみ・リサイ クル対策 (16.2)	交通網の整備 (10.7)	幼児・児童 福祉 (9.5)
平成11年	1,503	高齢者福祉 (45.4)	保健医療の実 充 (17.2)	ごみ・リサイ クル対策 (15.0)	幼児・児童 福祉 (10.4)	交通網の整備 (9.8)
平成10年	1,497	高齢者福祉 (39.3)	保健医療の実 充 (19.9)	交通網の整備 (12.6)	住宅対策 (10.8)	道路の整備 (9.2)
平成9年	1,533	高齢者福祉 (42.3)	保健医療の実 充 (23.7)	交通網の整備 (12.2)	防災対策 (10.8)	住宅対策 (8.8)
平成8年	1,512	高齢者福祉 (43.9)	保健医療の実 充 (20.0)	ごみ・リサイ クル対策 (16.5)	交通網の整備 (14.1)	住宅対策 (14.0)
平成7年	1,500	高齢者福祉 (36.9)	ごみ・リサイ クル対策 (16.3)	防災対策 (15.1)	交通網の整備 (13.0)	住宅対策 (12.1)
平成6年	1,549	高齢者福祉 (41.8)	ごみ・リサイ クル対策 (17.0)	住宅対策 (15.2)	交通網の整備 (14.3)	保健医療の 実 充 (13.2)

(2) 区の取り組みについての評価・印象

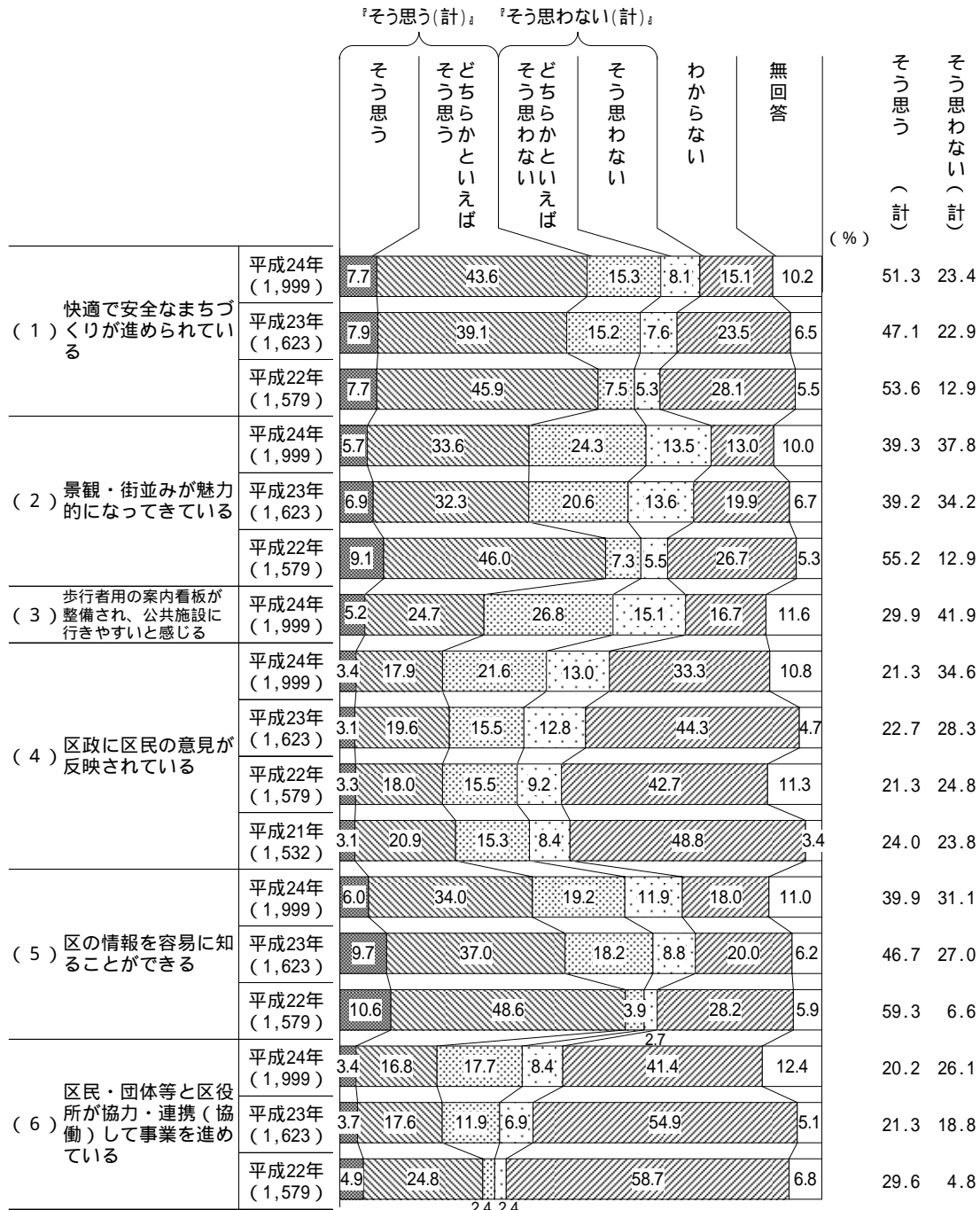
【快適で安全なまちづくりが進められている】と思う人が5割を超える

【歩行者用の案内看板が整備され、公共施設に行きやすいと感じる】と思わない人が4割を超える

問32 次の区の実践について、あなたはどのように感じていますか。

(は各項目とも1つだけ)

図7-3-1 区の実践についての評価・印象 - 過年度比較



(注) 平成24年調査では、「歩行者用の案内看板が整備され、公共施設に行きやすいと感じる」が追加されている。

区の取り組みについての評価・印象を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、【快適で安全なまちづくりが進められている】(51.3%)で5割を超え、【区の情報を容易に知ることができる】(39.9%)、【景観・街並みが魅力的になってきている】(39.3%)がほぼ4割と、いずれの取り組みでも『そう思わない(計)』を上回っている。

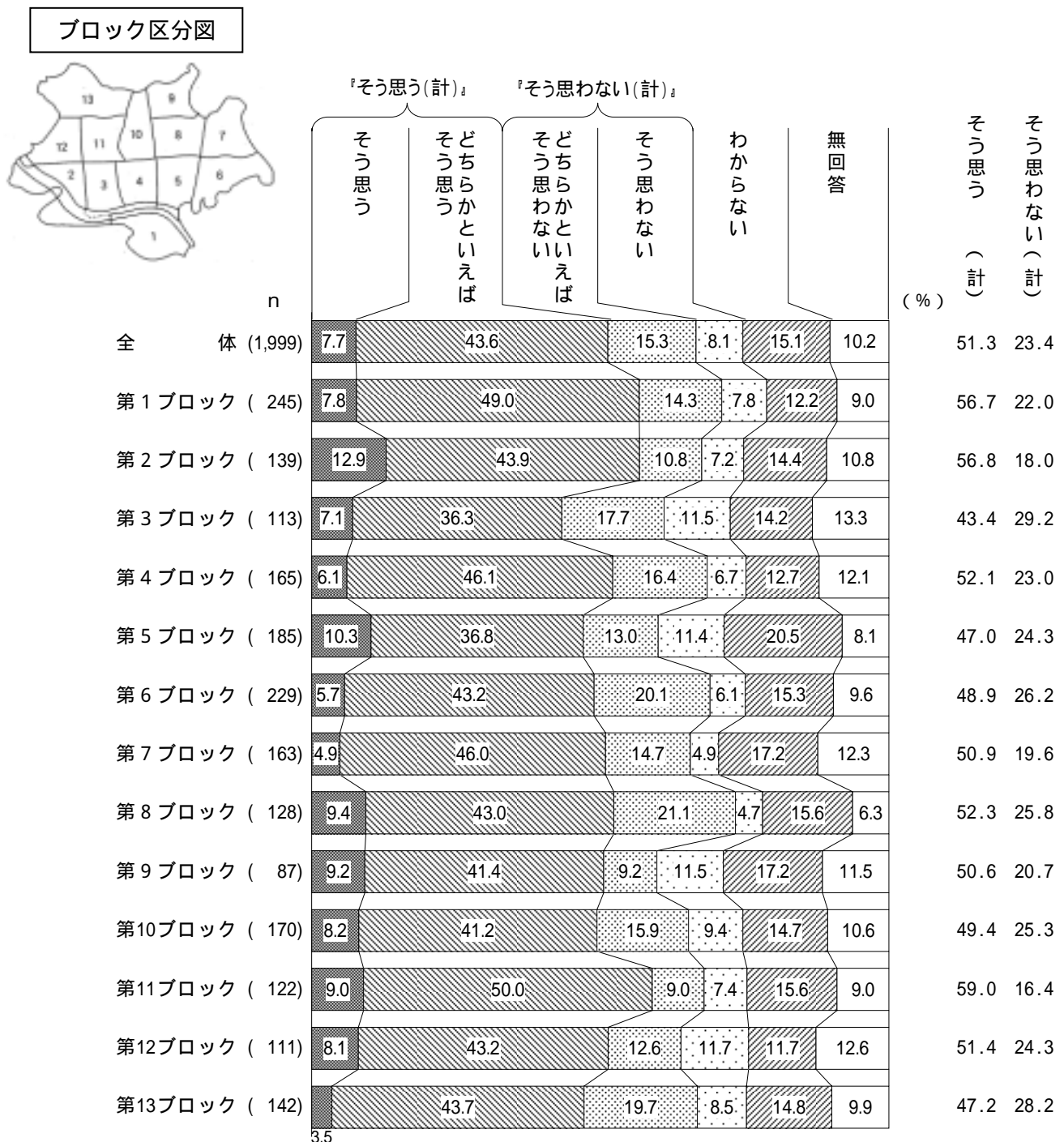
一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、今年度から調査項目に加えた【歩行者用の案内看板が整備され、公共施設に行きやすいと感じる】(41.9%)で4割を超え、【区政に区民の意見が反映されている】(34.6%)が3割半ば、【区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている】(26.1%)が2割半ばと、いずれの取り組みでも『そう思う(計)』を上回っている。

過去の調査と比較すると、平成23年より『そう思う(計)』は【快適で安全なまちづくりが進められている】で4.2ポイント増加し、評価・印象が向上している。また、平成23年より『そう思わない(計)』は【区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている】で7.3ポイント増加、【区政に区民の意見が反映されている】で6.3ポイント増加し、評価・印象が低下している。(図7-3-1)

地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第11ブロック(59.0%)でほぼ6割と最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第3ブロック(29.2%)でほぼ3割と高くなっている。(図7-3-2)

図7-3-2 区の取り組みについての評価・印象 - 地域ブロック別(1)

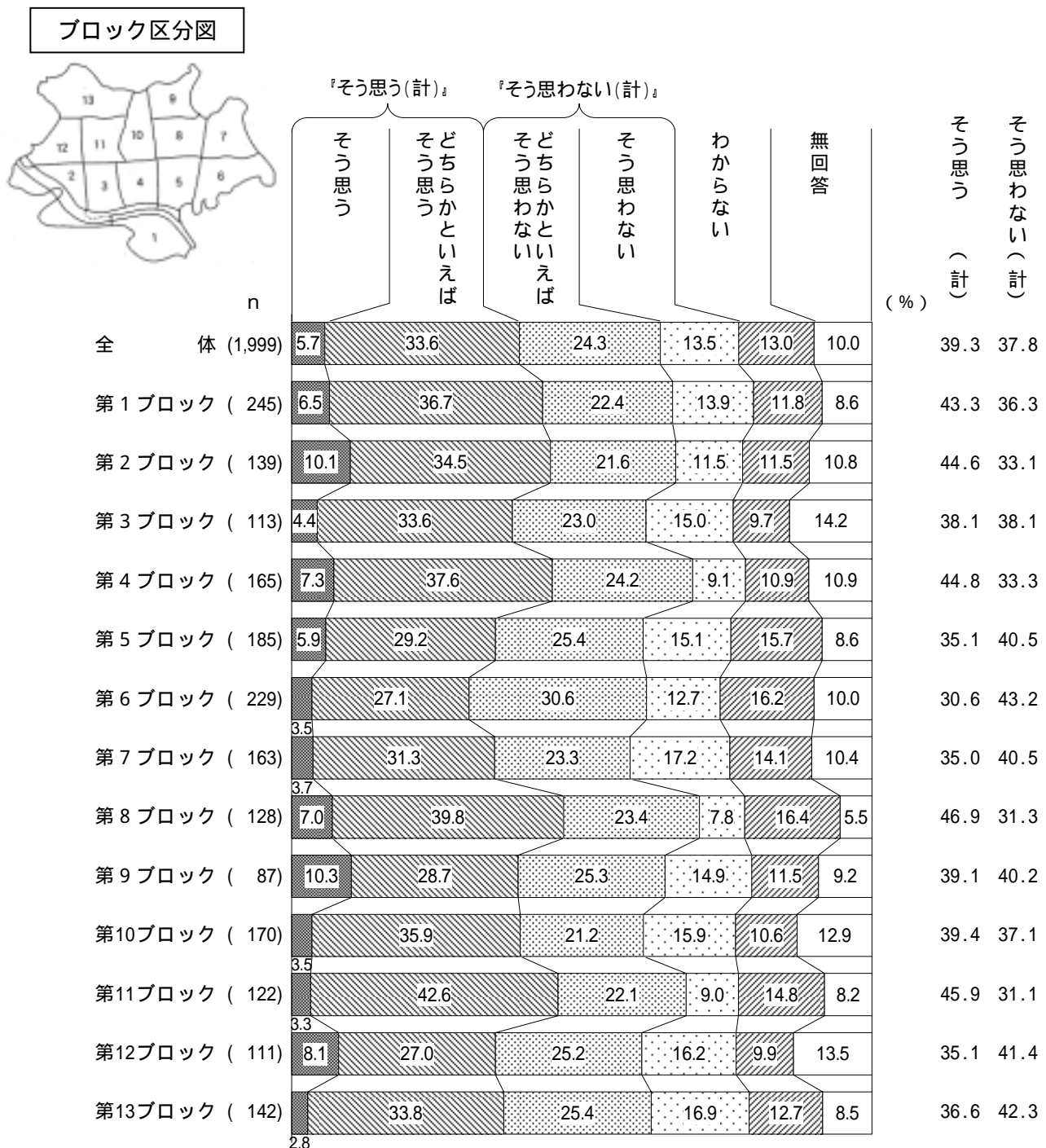
(1) 快適で安全なまちづくりが進められている



地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第8ブロック(46.9%)で最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第6ブロック(43.2%)と第13ブロック(42.3%)と第12ブロック(41.4%)の順で高くなっている。(図7-3-3)

図7-3-3 区の取り組みについての評価・印象 - 地域ブロック別(2)

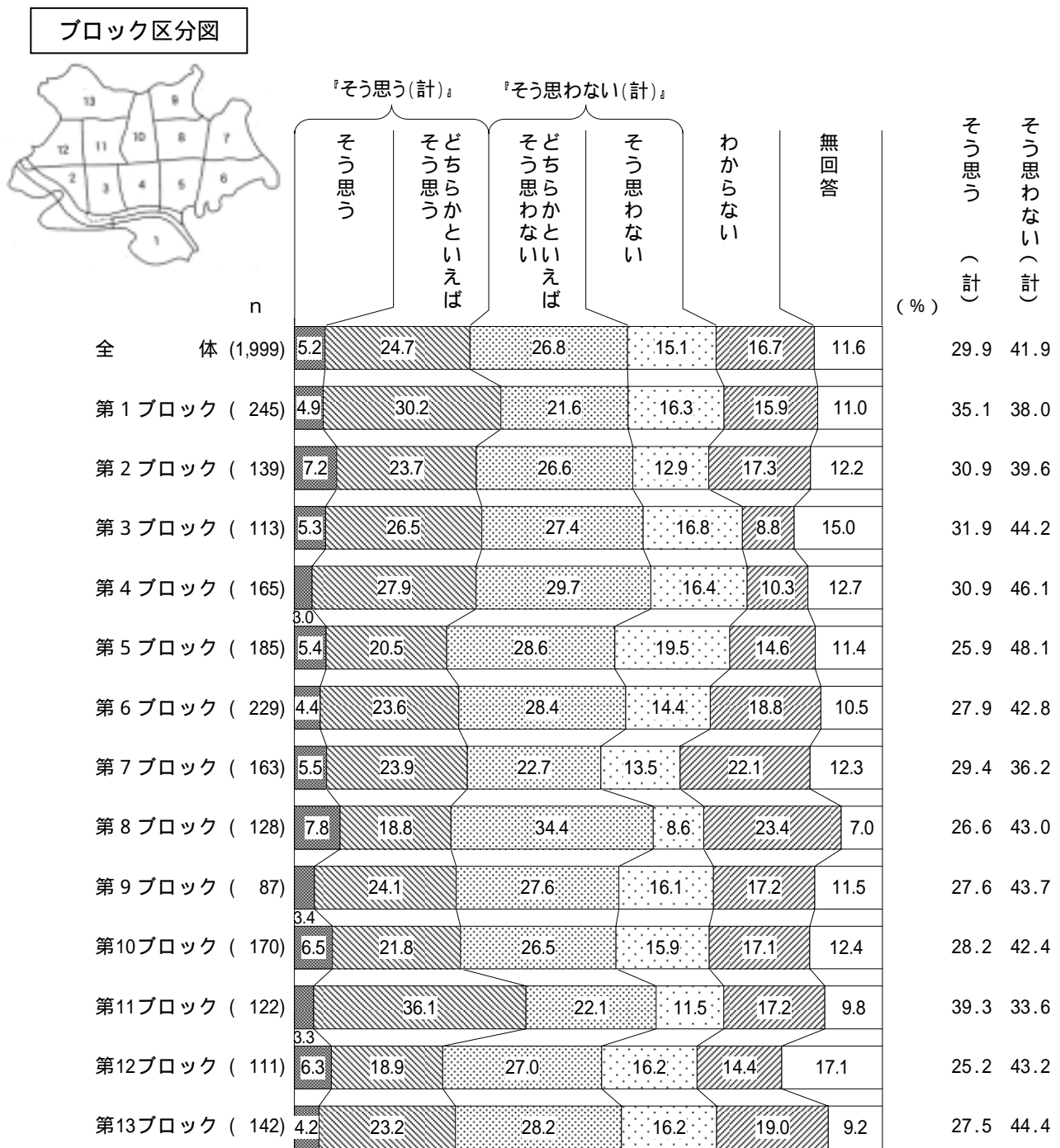
(2) 景観・街並みが魅力的になってきている



地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第11ブロック(39.3%)でほぼ4割、第1ブロック(35.1%)で3割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第5ブロック(48.1%)で5割近くと高くなっている。(図7-3-4)

図7-3-4 区の取り組みについての評価・印象 - 地域ブロック別(3)

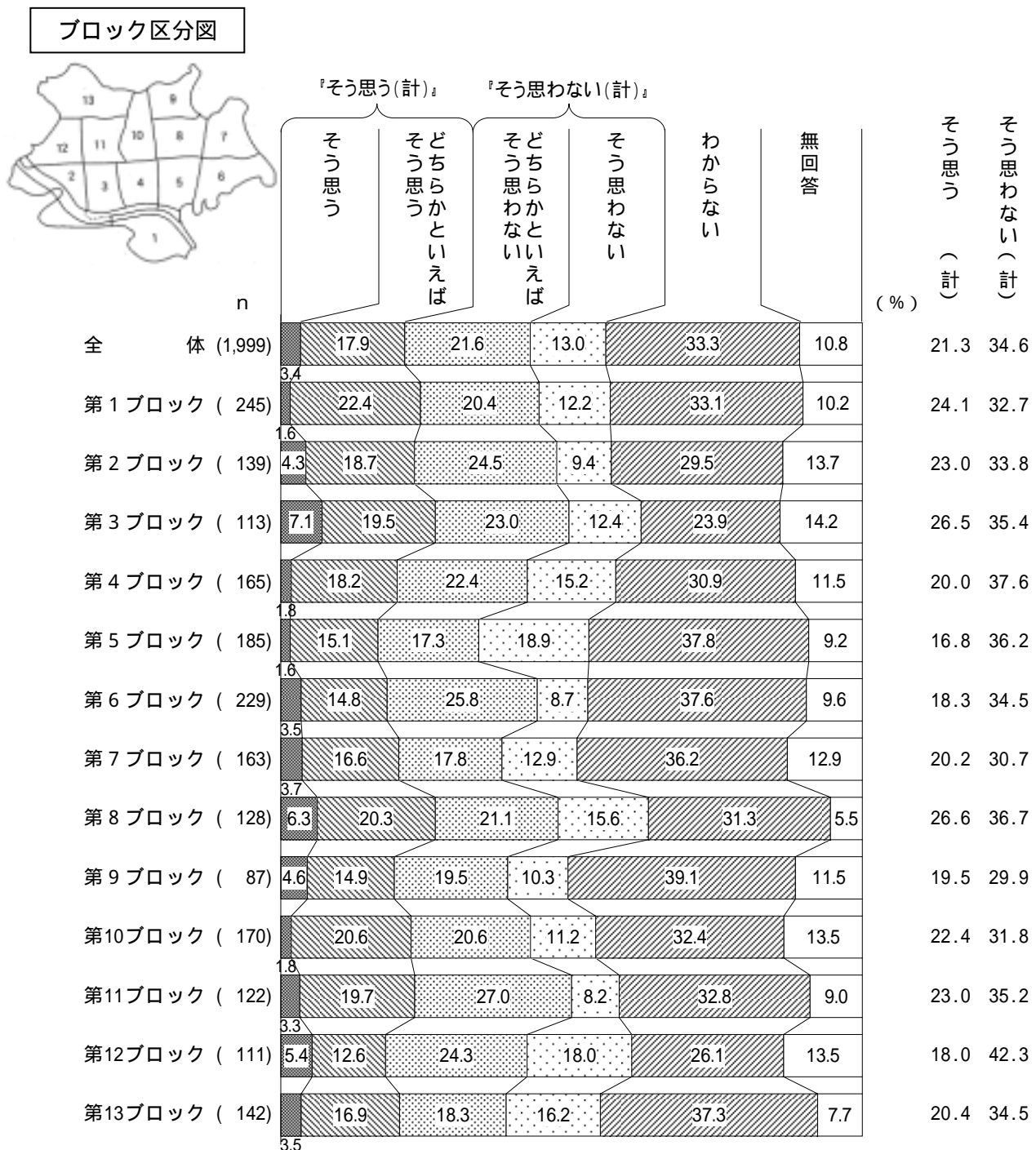
(3) 歩行者用の案内看板が整備され、公共施設に行きやすいと感じる



地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第8ブロック(26.6%)と第3ブロック(26.5%)で2割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第12ブロック(42.3%)で4割を超え高くなっている。(図7-3-5)

図7-3-5 区の取り組みについての評価・印象 - 地域ブロック別(4)

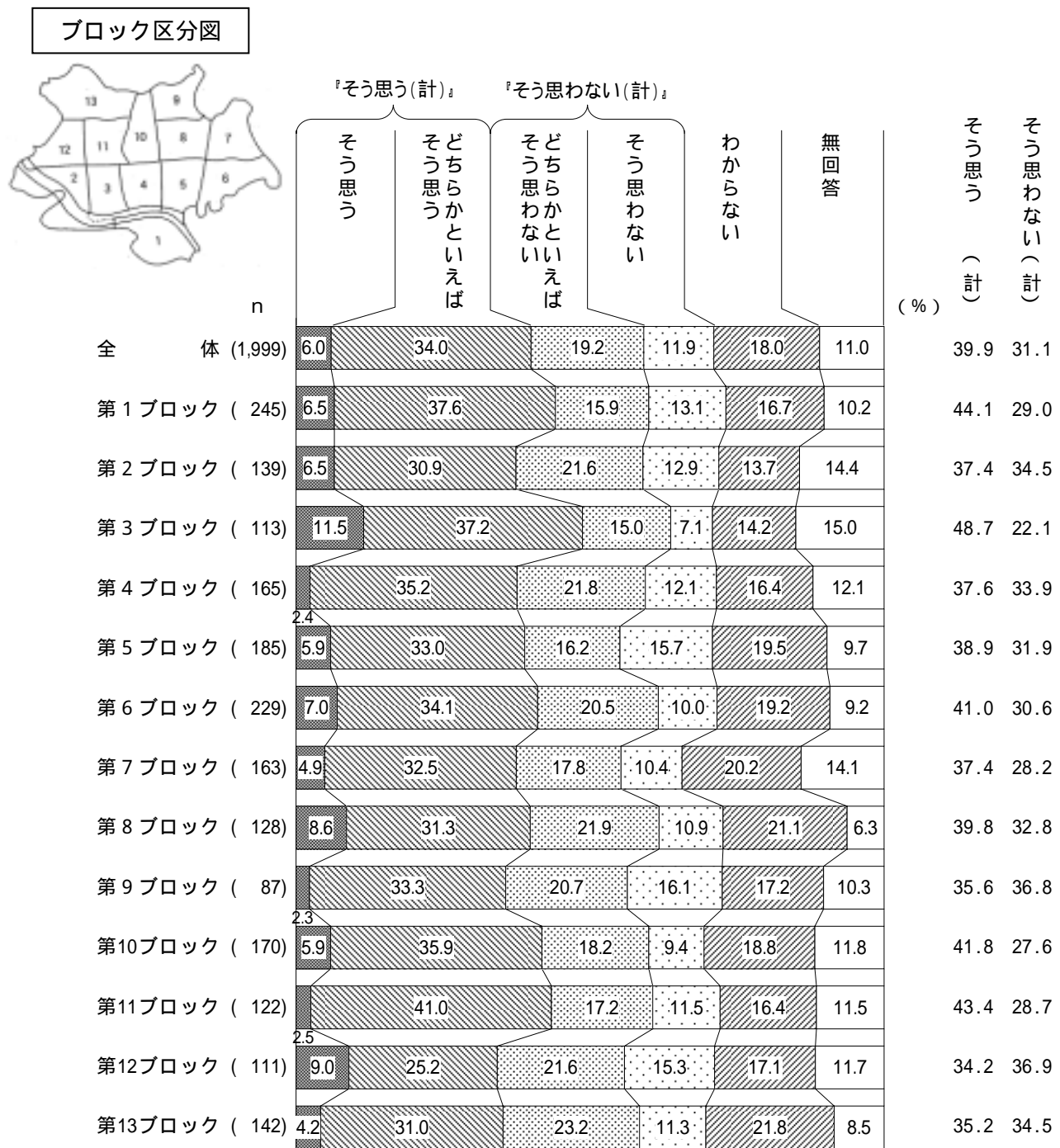
(4) 区政に区民の意見が反映されている



地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第3ブロック(48.7%)で5割近くと最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第12ブロック(36.9%)と第9ブロック(36.8%)で3割半ばと高くなっている。(図7-3-6)

図7-3-6 区の取り組みについての評価・印象 - 地域ブロック別(5)

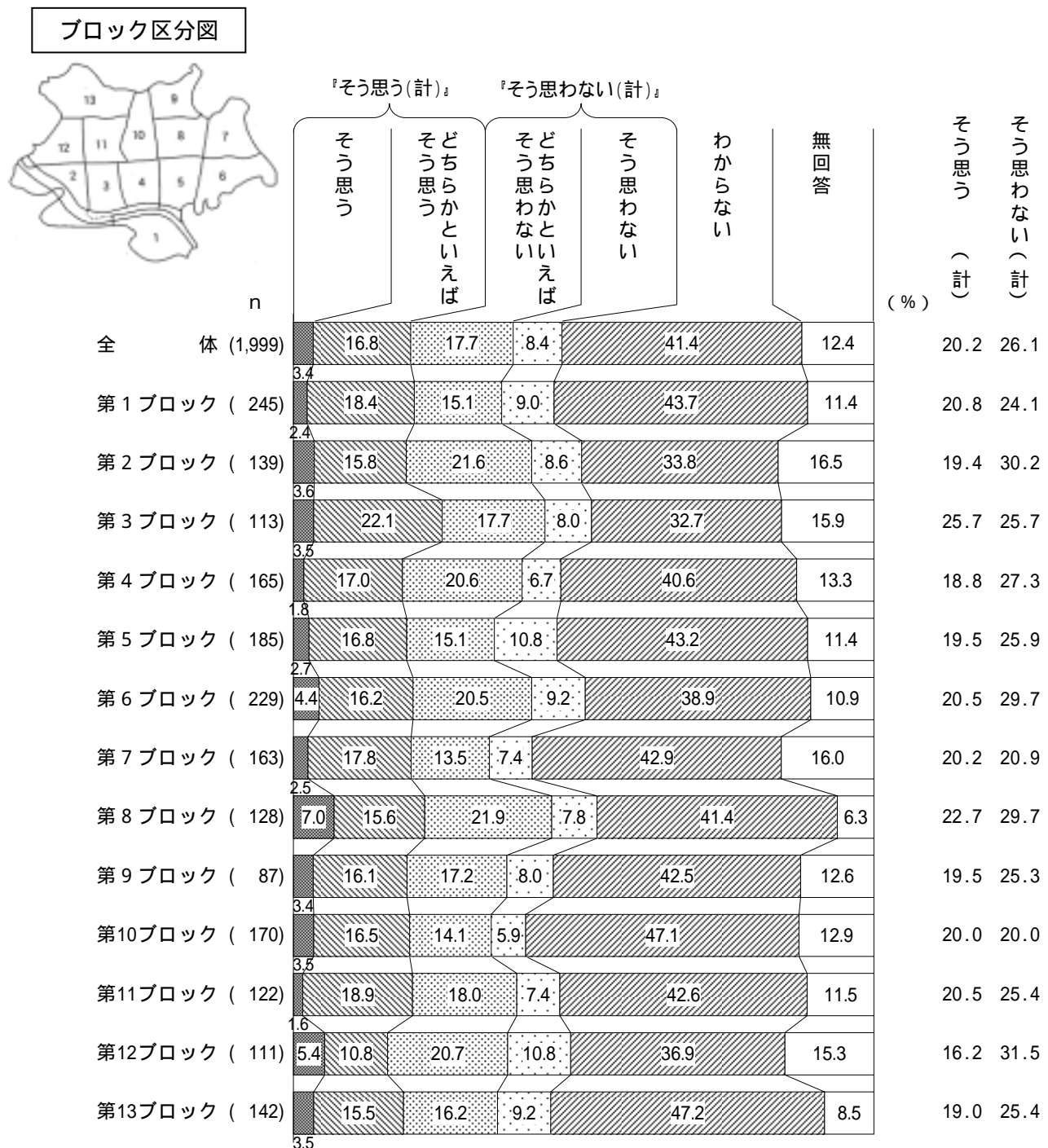
(5) 区の情報を知ることができる



地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第3ブロック(25.7%)で2割半ばと最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第12ブロック(31.5%)と第2ブロック(30.2%)で3割を超え高くなっている。(図7-3-7)

図7-3-7 区の取り組みについての評価・印象 - 地域ブロック別(6)

(6) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている

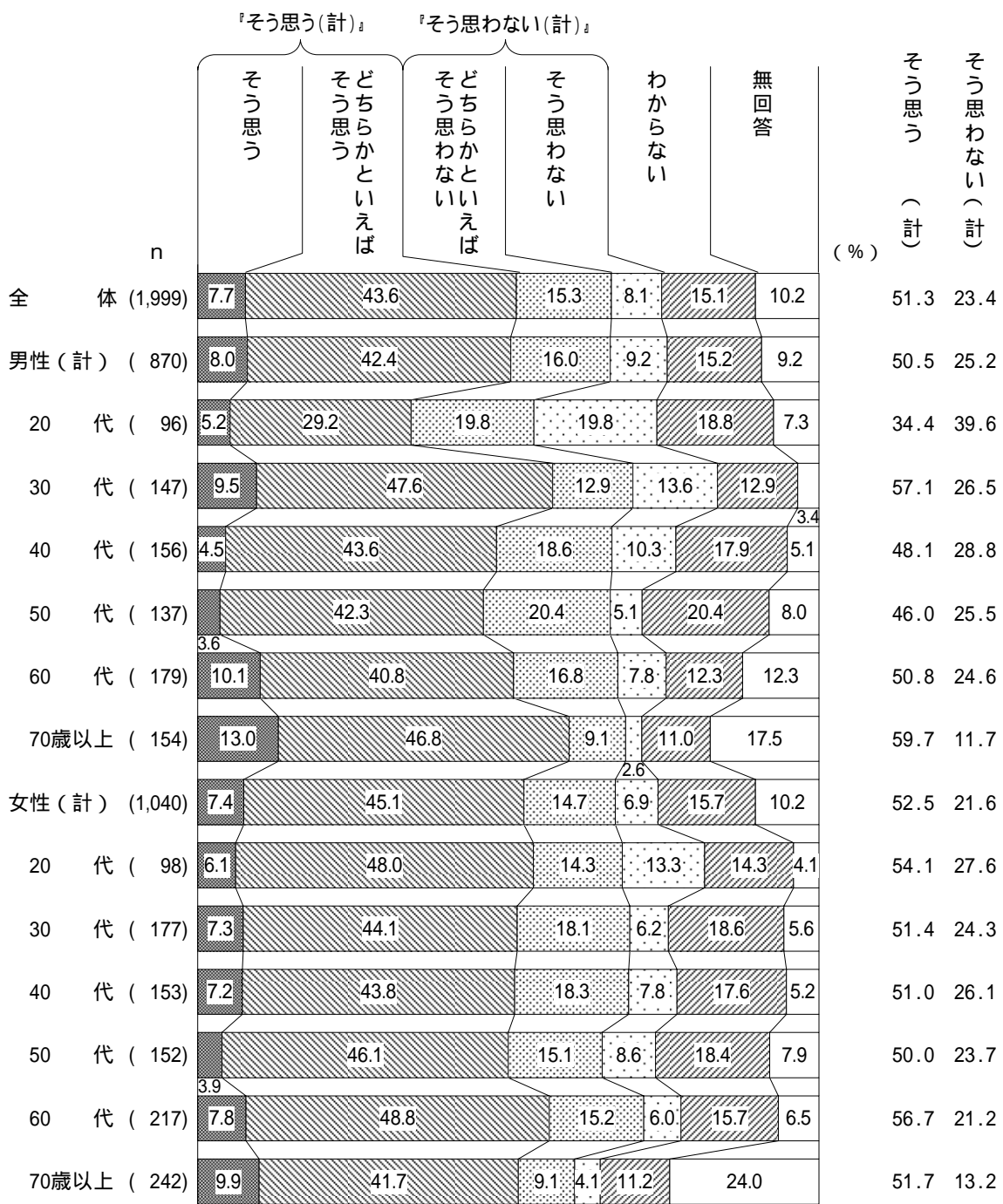


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(25.2%)が女性(21.6%)より3.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性70歳以上(59.7%)でほぼ6割と最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性20代(39.6%)でほぼ4割と高くなっている。(図7-3-8)

図7-3-8 区の取り組みについての評価・印象 - 性別、性・年代別(1)

(1) 快適で安全なまちづくりが進められている

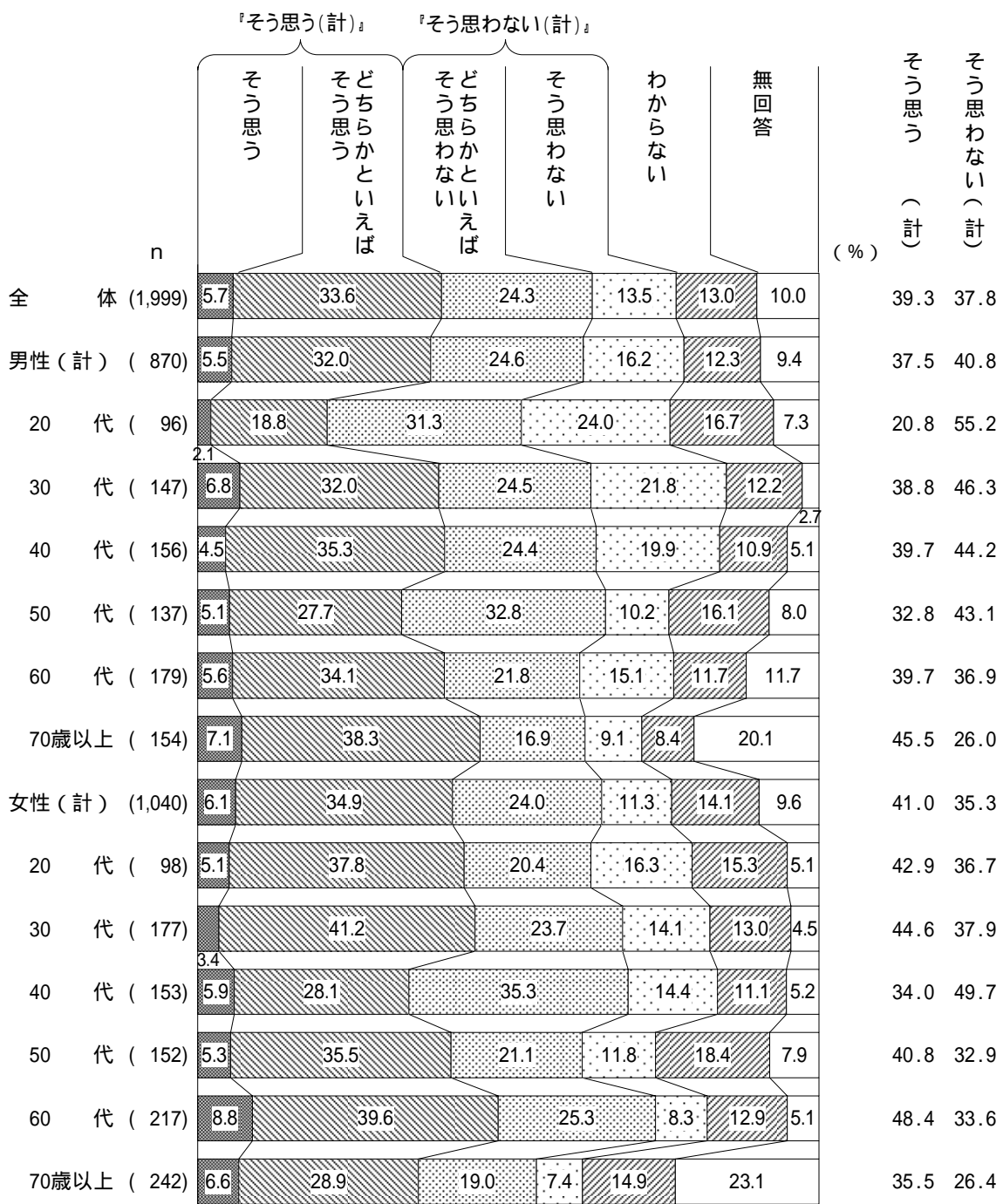


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(40.8%)が女性(35.3%)より5.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は女性60代(48.4%)で5割近くと最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性20代(55.2%)で5割半ばと最も高くなっている。(図7-3-9)

図7-3-9 区の取り組みについての評価・印象 - 性別、性・年代別(2)

(2) 景観・街並みが魅力的になってきている

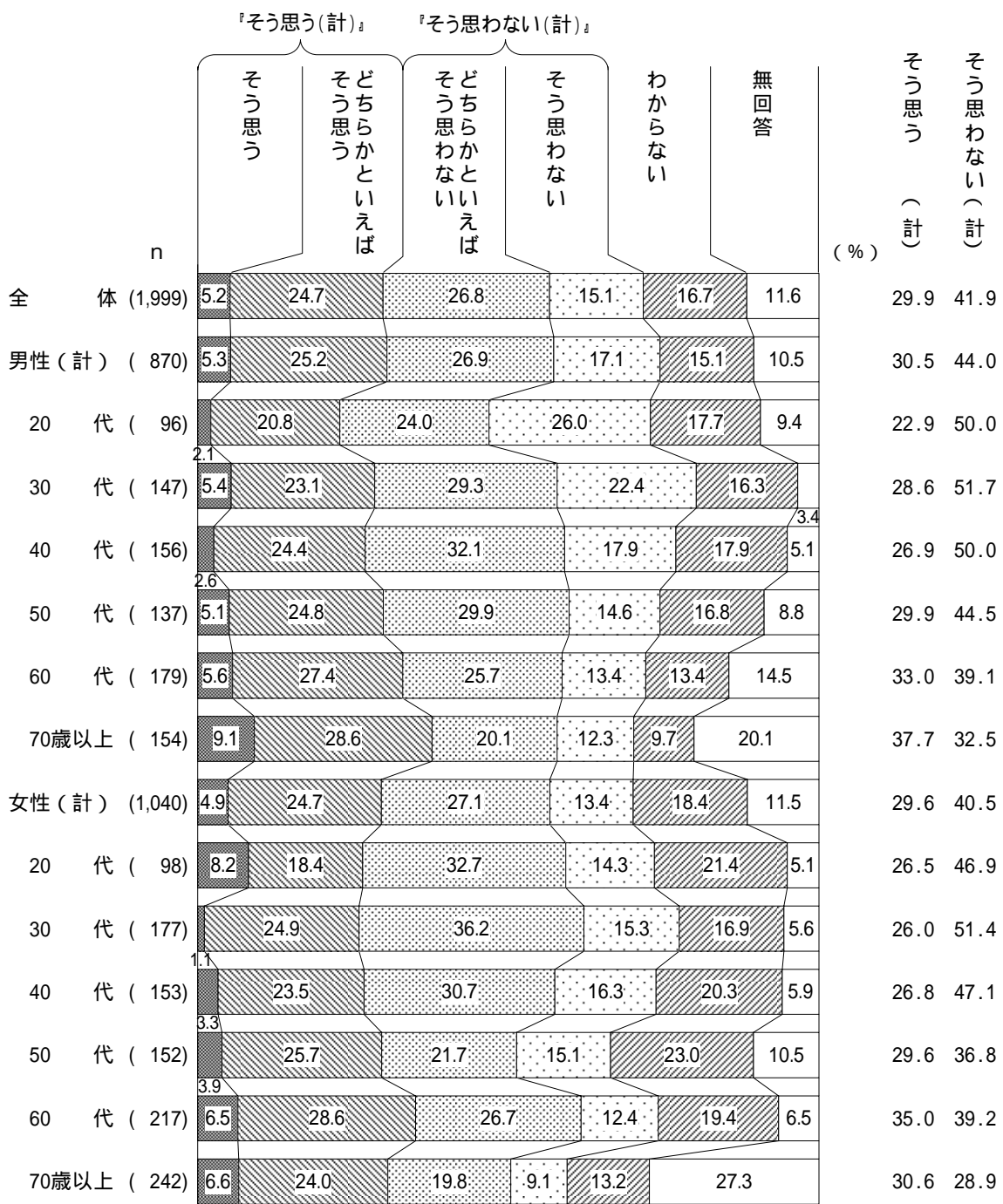


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(44.0%)が女性(40.5%)より3.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性70歳以上(37.7%)で4割近くと最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男女とも30代(男性51.7%・女性51.4%)が最も高くなっている。(図7-3-10)

図7-3-10 区の取り組みについての評価・印象 - 性別、性・年代別(3)

(3) 歩行者用の案内看板が整備され、公共施設に行きやすいと感じる

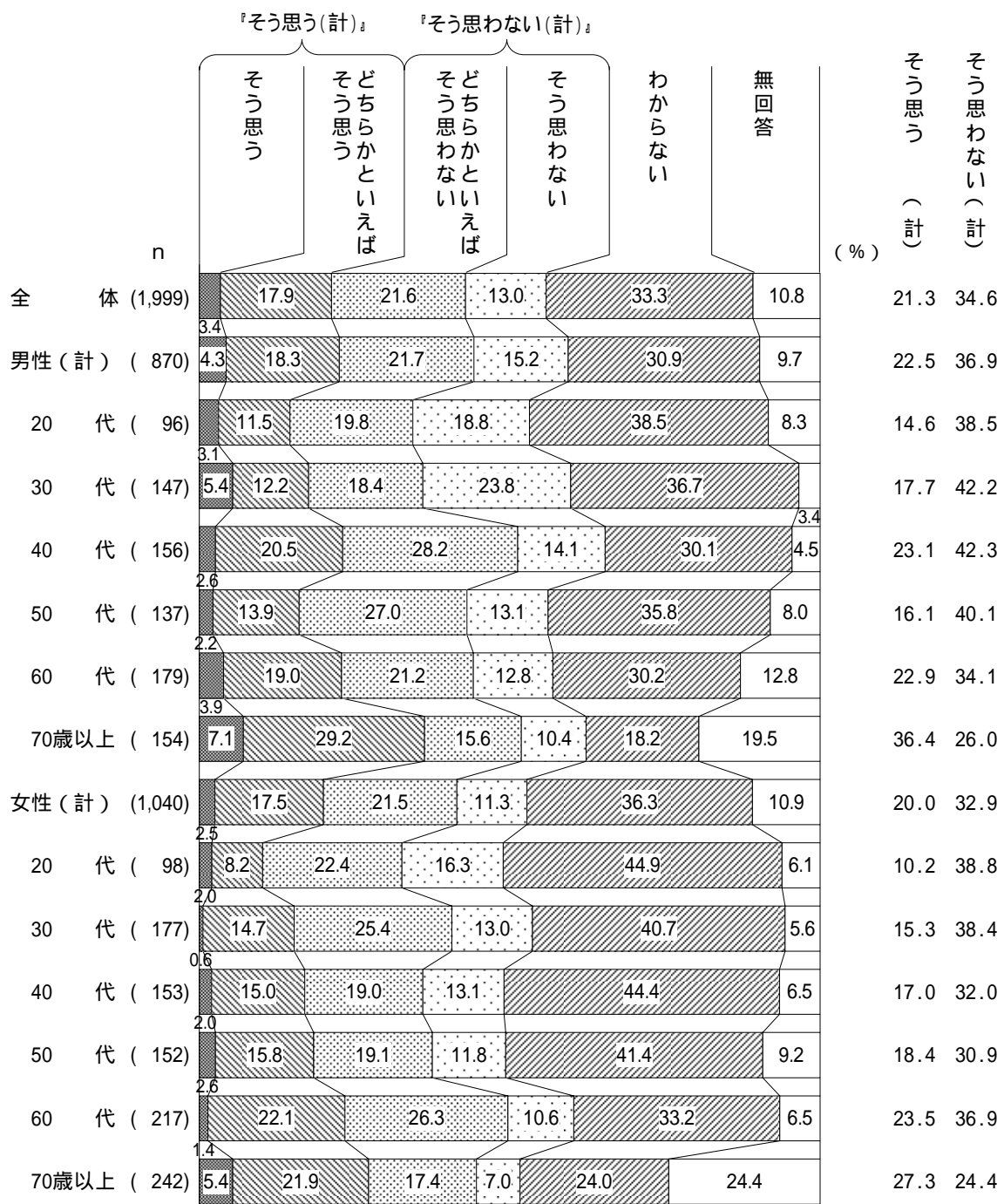


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(36.9%)が女性(32.9%)より4.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性70歳以上(36.4%)で3割半ばを超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性30代(42.2%)、40代(42.3%)、50代(40.1%)で4割台と高くなっている。(図7-3-11)

図7-3-11 区の取り組みについての評価・印象 - 性別、性・年代別(4)

(4) 区政に区民の意見が反映されている

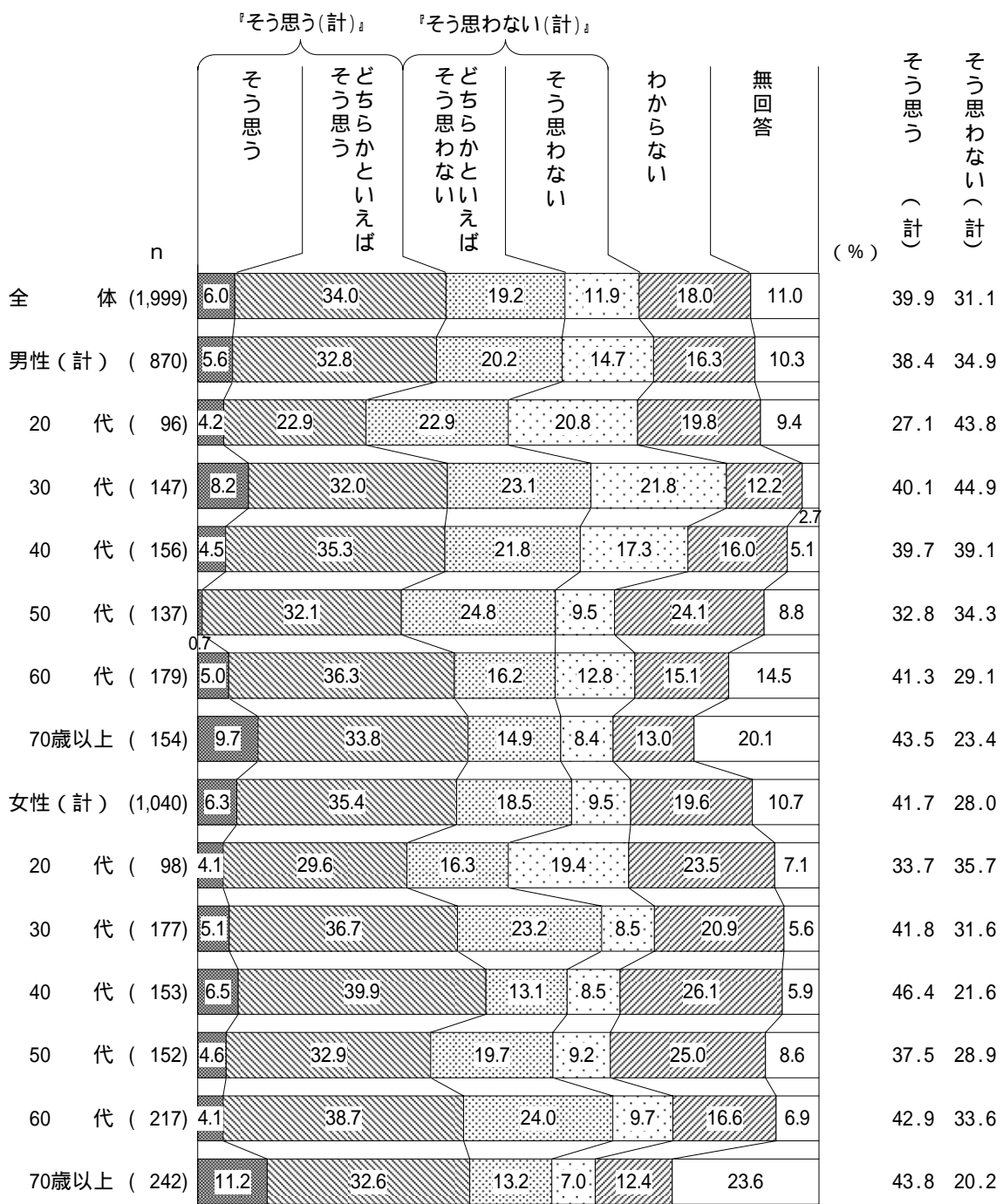


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(34.9%)が女性(28.0%)より6.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は女性40代(46.4%)で最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性30代(44.9%)、20代(43.8%)で4割を超え高くなっている。(図7-3-12)

図7-3-12 区の取り組みについての評価・印象 - 性別、性・年代別(5)

(5) 区の情報を知ることができる

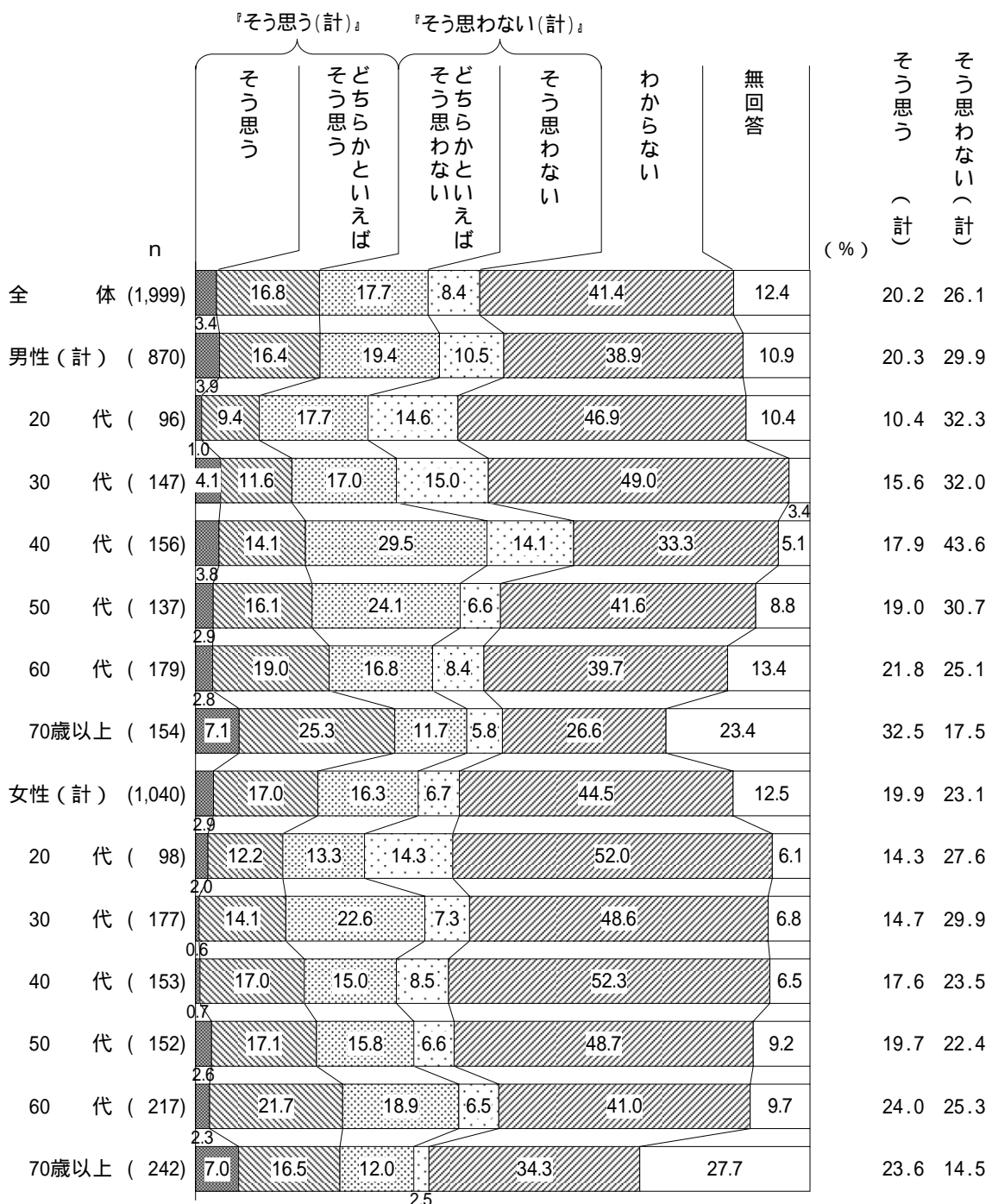


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(29.9%)が女性(23.1%)より6.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に男性70歳以上(32.5%)で3割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性40代(43.6%)で4割を超え最も高くなっている。(図7-3-13)

図7-3-13 区の取り組みについての評価・印象 - 性別、性・年代別(6)

(6) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている



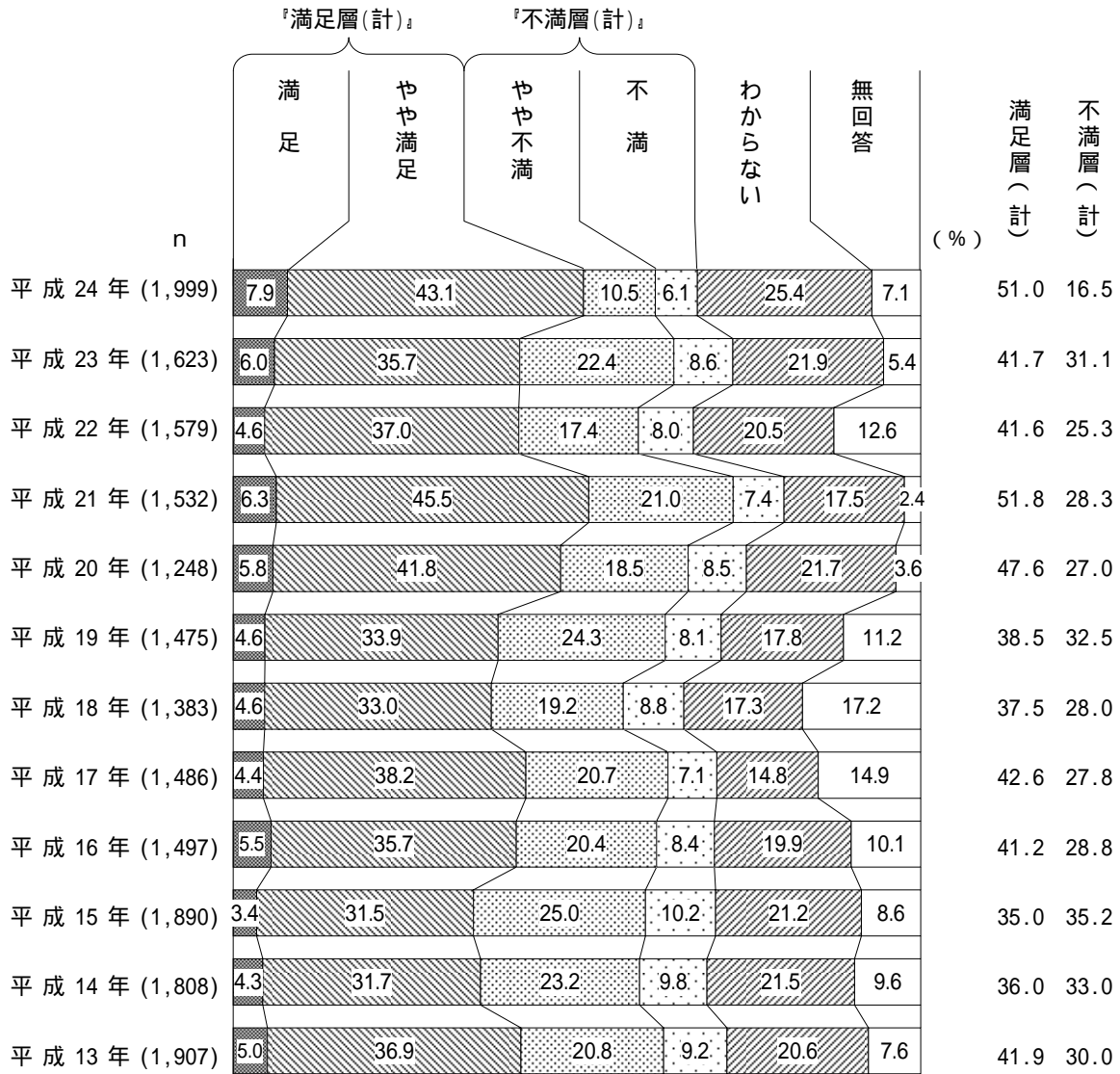
(3) 区政に対する満足度

『満足層』が5割を超え、『不満層』が1割半ば

問33 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。(は1つだけ)

図7-4-1 区政に対する満足度 - 過年度比較

(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)



現在の足立区政に満足しているか聞いたところ、「満足」(7.9%)と「やや満足」(43.1%)を合わせた『満足層(計)』(51.0%)が5割を超えている。一方、「不満」(6.1%)と「やや不満」(10.5%)を合わせた『不満層(計)』(16.5%)が1割半ばとなっている。

過去の調査と比較すると、『満足層(計)』が平成23年より9.3ポイント増加している。また、平成15年調査以外では『満足層(計)』が『不満層(計)』を上回っている。

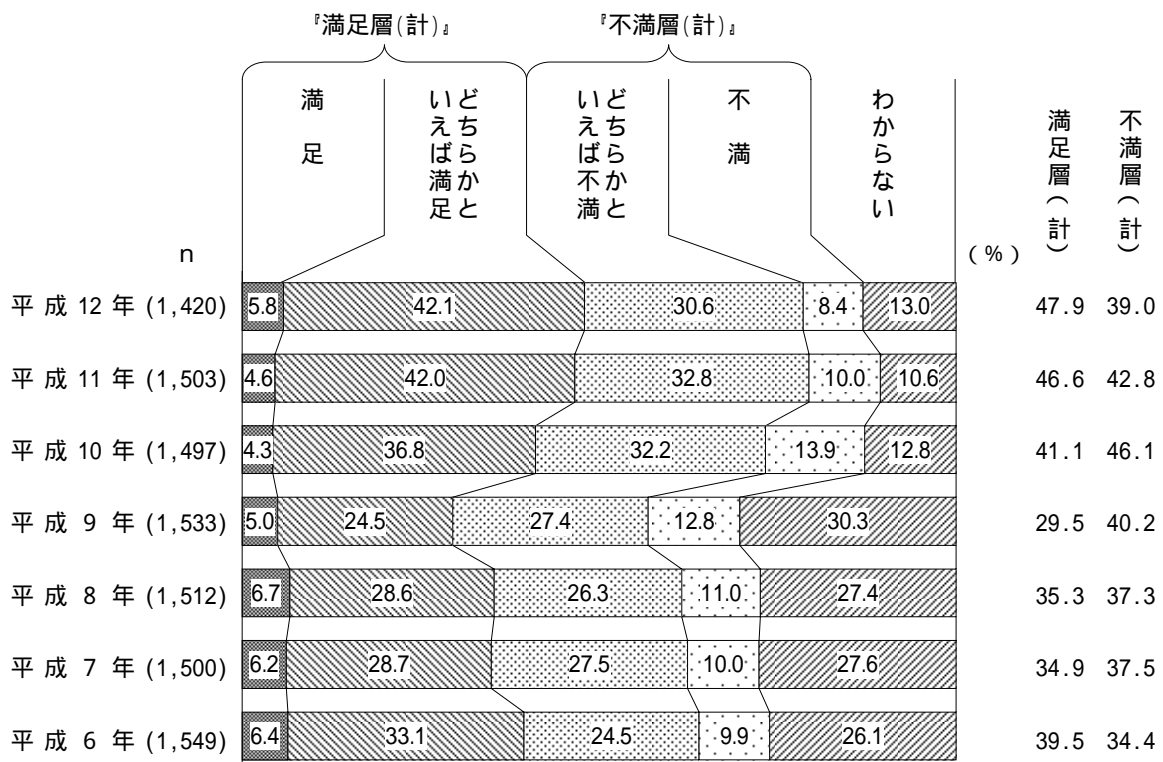
(図7-4-1)

<参考> 区政に対する満足度の推移

問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。この中から1つお答えください。
(は1つ)

図7-4-2 区政に対する満足度 - 経年変化

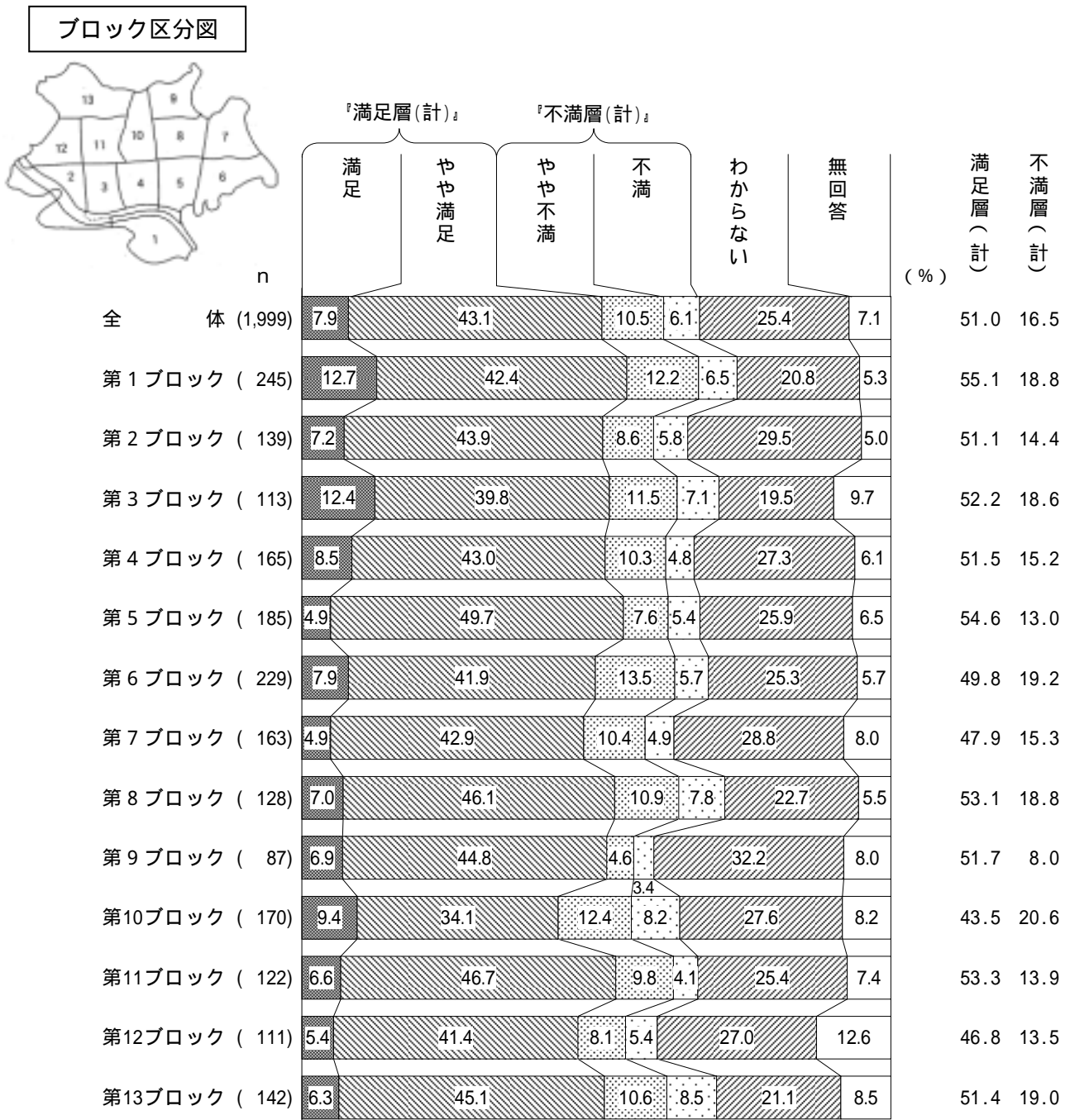
(平成12年まで 訪問面接法)



(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、平成13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域ブロック別でみると、『満足層(計)』は第1ブロック(55.1%)と第5ブロック(54.6%)で5割半ばと高くなっている。一方、『不満層(計)』は第10ブロック(20.6%)と第6ブロック(19.2%)と第13ブロック(19.0%)で2割前後と高くなっている。(図7-4-3)

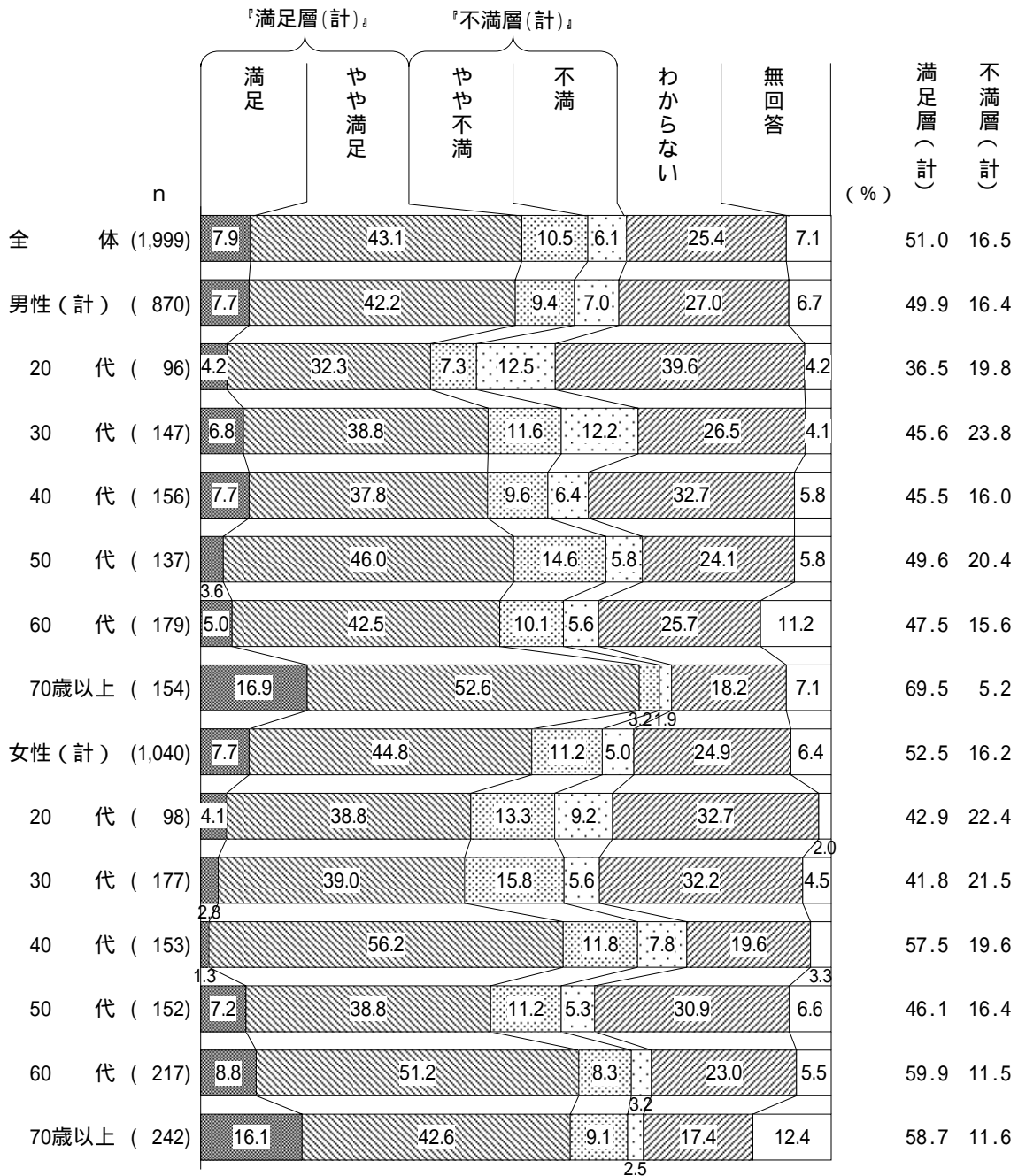
図7-4-3 区政に対する満足度 - 地域ブロック別



性別で見ると、男女とも『満足層(計)』は約5割とほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、『満足層(計)』は男性70歳以上(69.5%)でほぼ7割と最も高くなっている。一方、『不満層(計)』は男性30代(23.8%)と50代(20.4%)、女性20代(22.4%)と30代(21.5%)で2割を超え高くなっている。(図7-4-4)

図7-4-4 区政に対する満足度 - 性別、性・年代別



(3 - 1) 不満だと思う理由

(問 33 で「やや不満」又は「不満」とお答えの方に)

問 33 - 1 不満だと思う理由は何ですか。(自由にお書きください)

【372 件 (297 人) のうち、主な理由】

生活保護・低所得者対策 48 件

- ・ 生活保護や低所得者が多い
- ・ 生活保護の不正受給
- ・ 生活保護者や低所得者が優遇されている

治安・防犯対策 43 件

- ・ 犯罪が多く、治安が悪い
- ・ 深夜に公園やコンビニでたむろする中高生が多い
- ・ 防犯に力を入れてほしい

交通・道路対策 29 件

- ・ 交通が不便
- ・ 道路、歩道が狭い
- ・ バスの本数不足

ごみのポイ捨て、マナー、美化に関すること 25 件

- ・ 街がごみで汚い
- ・ 自転車のマナーが悪い
- ・ ごみのポイ捨て、歩きたばこ、犬のふんが多い

教育に関すること 20 件

- ・ 学力が低い
- ・ 教育ができていない

区政全般に関すること

- ・ 区政が何をやっているか見えない、わからない 17 件
- ・ 区民の意見が反映されていない 5 件
- ・ 窓口を土曜・日曜にもやってほしい 4 件

その他

- ・ 税金や保険料が高い 26 件
- ・ 区の職員に関すること (職員数が多い、対応が悪い、給料が高い) 17 件
- ・ 子育て・保育に関すること (待機児童、手当て) 16 件
- ・ 大きな病院の誘致、医療体制の不足 9 件

(4) 区に対する気持ち

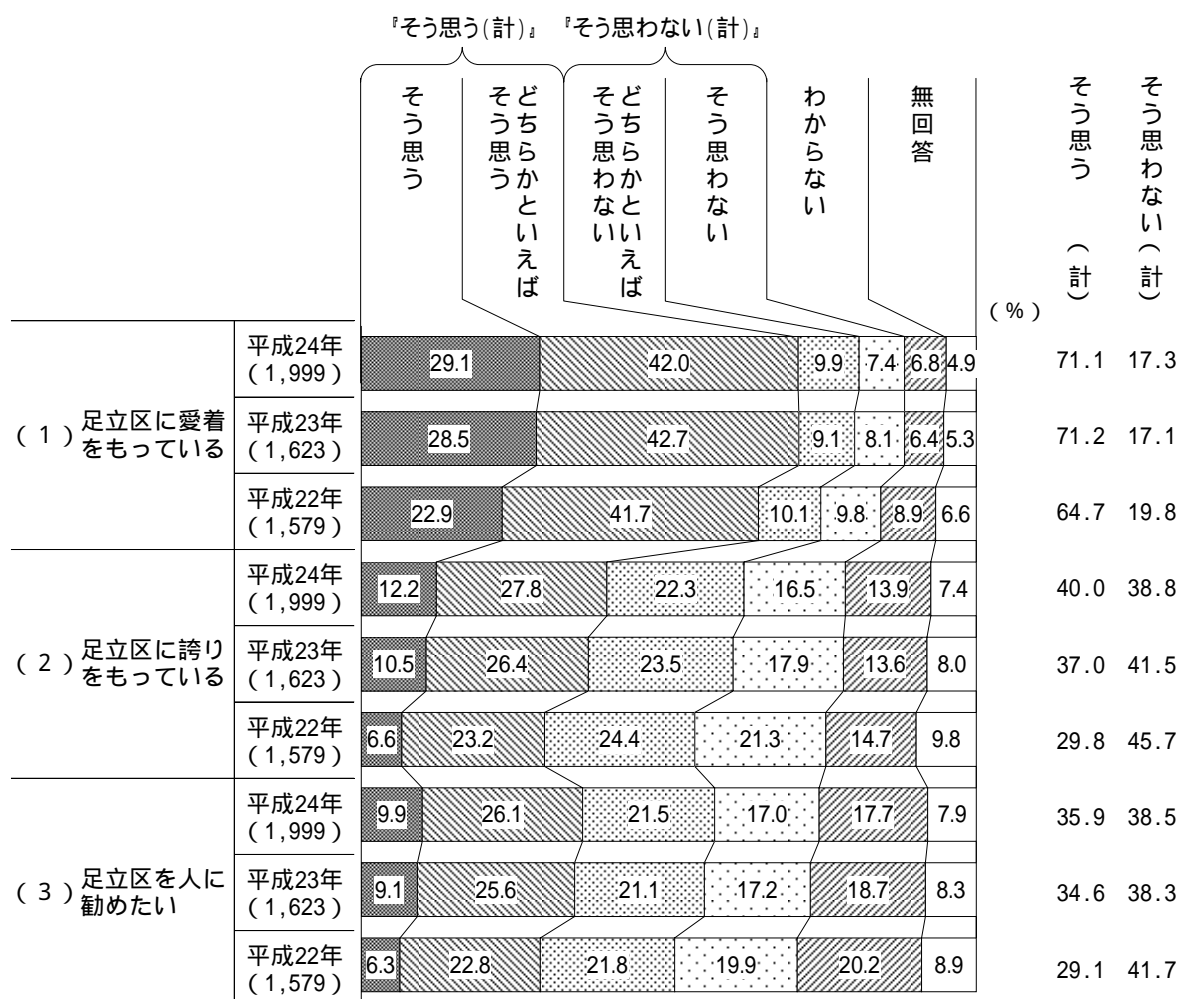
【足立区に愛着をもっている】と思う人が7割を超える

【足立区に誇りをもっている】と思う人が4割

問34 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか。

() は各項目とも1つだけ)

図7-5-1 区に対する気持ち - 過年度比較



足立区に対する気持ちを聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、【足立区に愛着をもっている】(71.1%)が7割を超え、【足立区に誇りをもっている】(40.0%)が4割となっている。

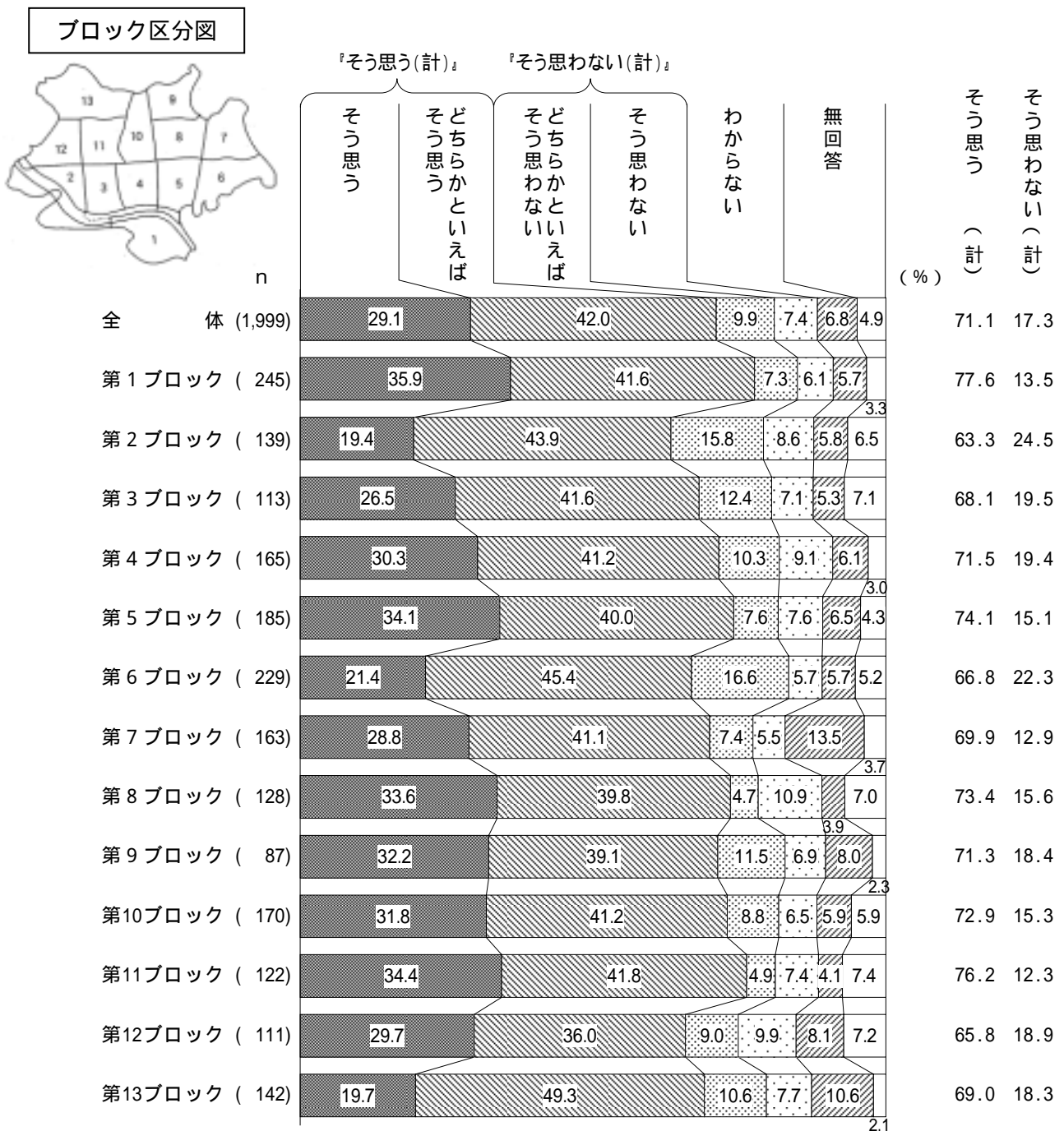
一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、【足立区に誇りをもっている】(38.8%)と【足立区を人に勧めたい】(38.5%)が4割近くとなっている。

過去の調査と比較すると、平成23年より『そう思う(計)』は、【足立区に誇りをもっている】で3.0ポイント増加している。(図7-5-1)

地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第1ブロック(77.6%)で8割近くと最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第2ブロック(24.5%)で2割半ばと高くなっている。(図7-5-2)

図7-5-2 区に対する気持ち - 地域ブロック別(1)

(1) 足立区に愛着をもっている

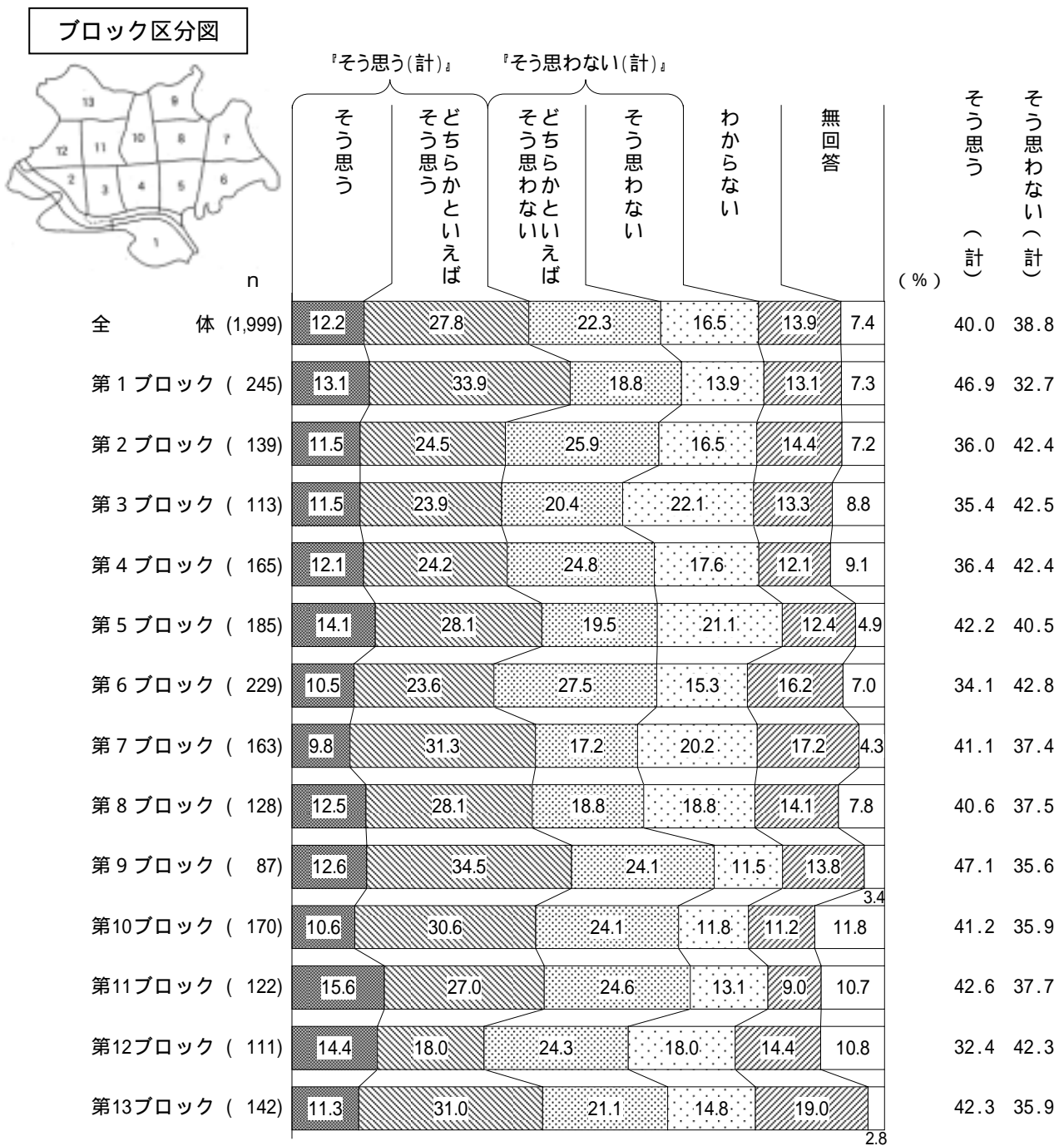


地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第9ブロック(47.1%)と第1ブロック(46.9%)で5割近くと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第6ブロック(42.8%)、第3ブロック(42.5%)、第2ブロックと第4ブロック(ともに42.4%)の順で高くなっている。

(図7-5-3)

図7-5-3 区に対する気持ち - 地域ブロック別(2)

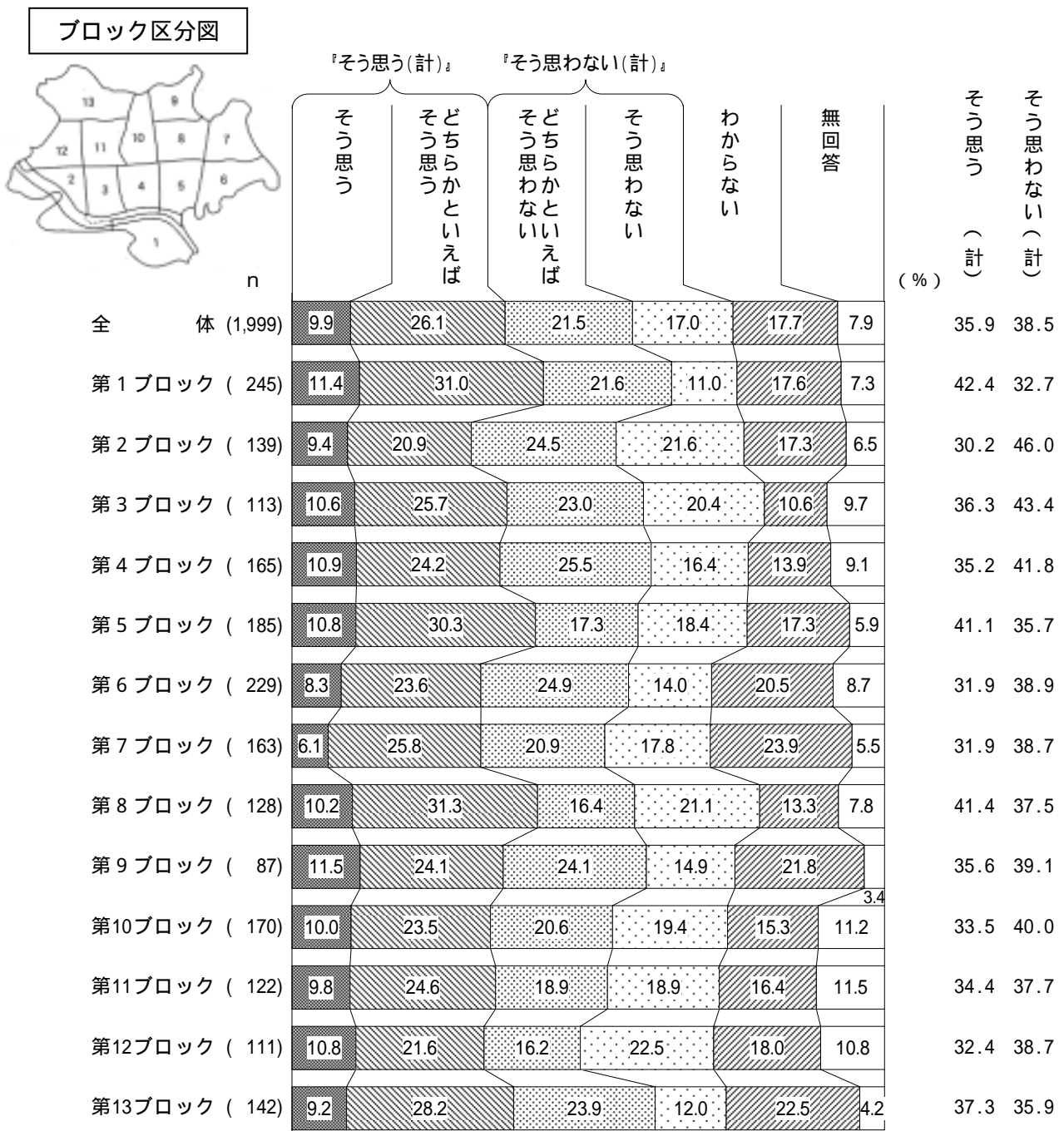
(2) 足立区に誇りをもっている



地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第1ブロック(42.4%)と第8ブロック(41.4%)と第5ブロック(41.1%)で4割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第2ブロック(46.0%)で4割半ばと高くなっている。(図7-5-4)

図7-5-4 区に対する気持ち - 地域ブロック別(3)

(3) 足立区を人に勧めたい

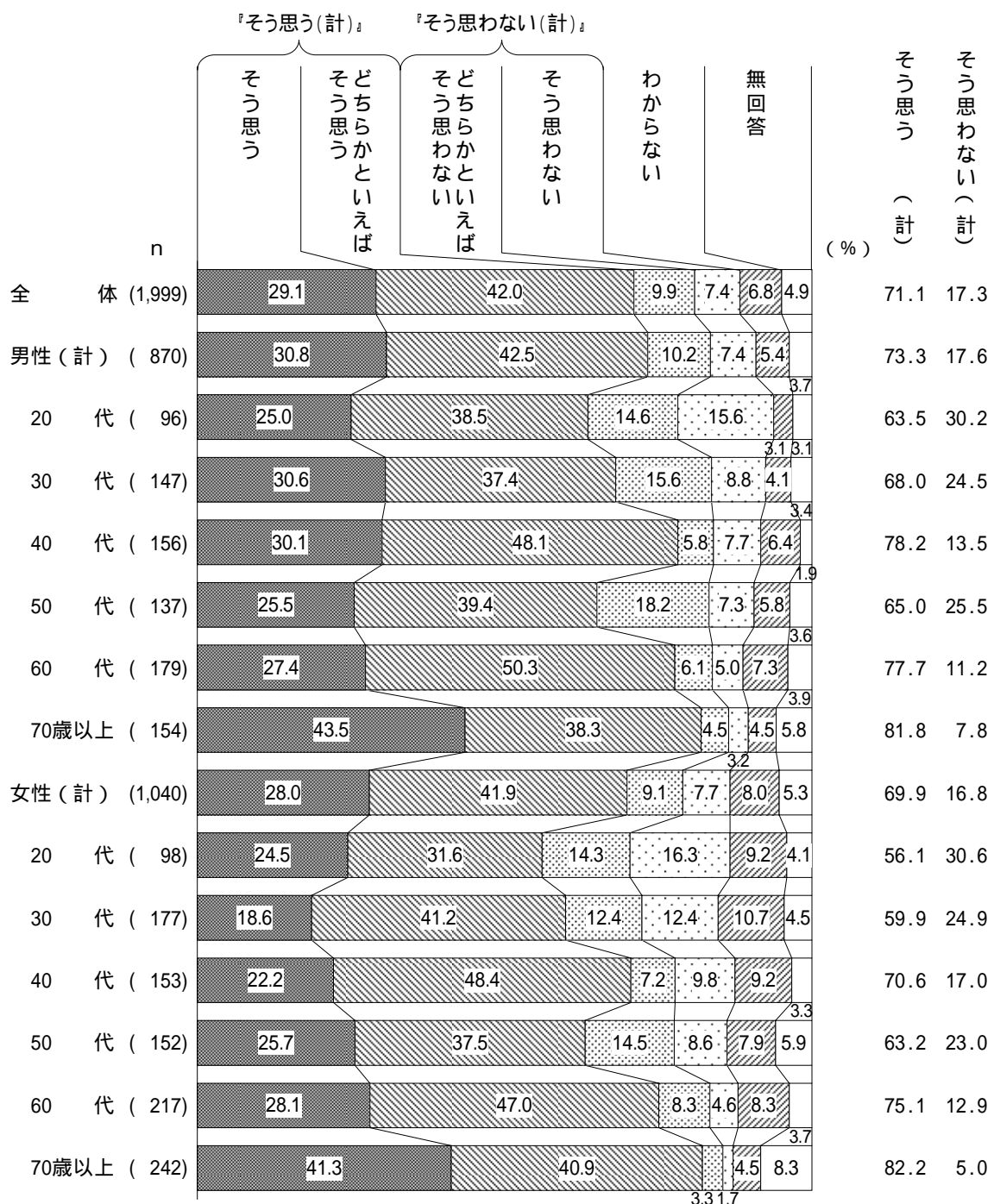


性別で見ると、男性で『そう思う(計)』(73.3%)が女性(69.9%)より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は女性70歳以上(82.2%)と男性70歳以上(81.8%)で8割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男女とも20代(女性30.6%・男性30.2%)で3割と高くなっている。(図7-5-5)

図7-5-5 区に対する気持ち - 性別、性・年代別(1)

(1) 足立区に愛着をもっている

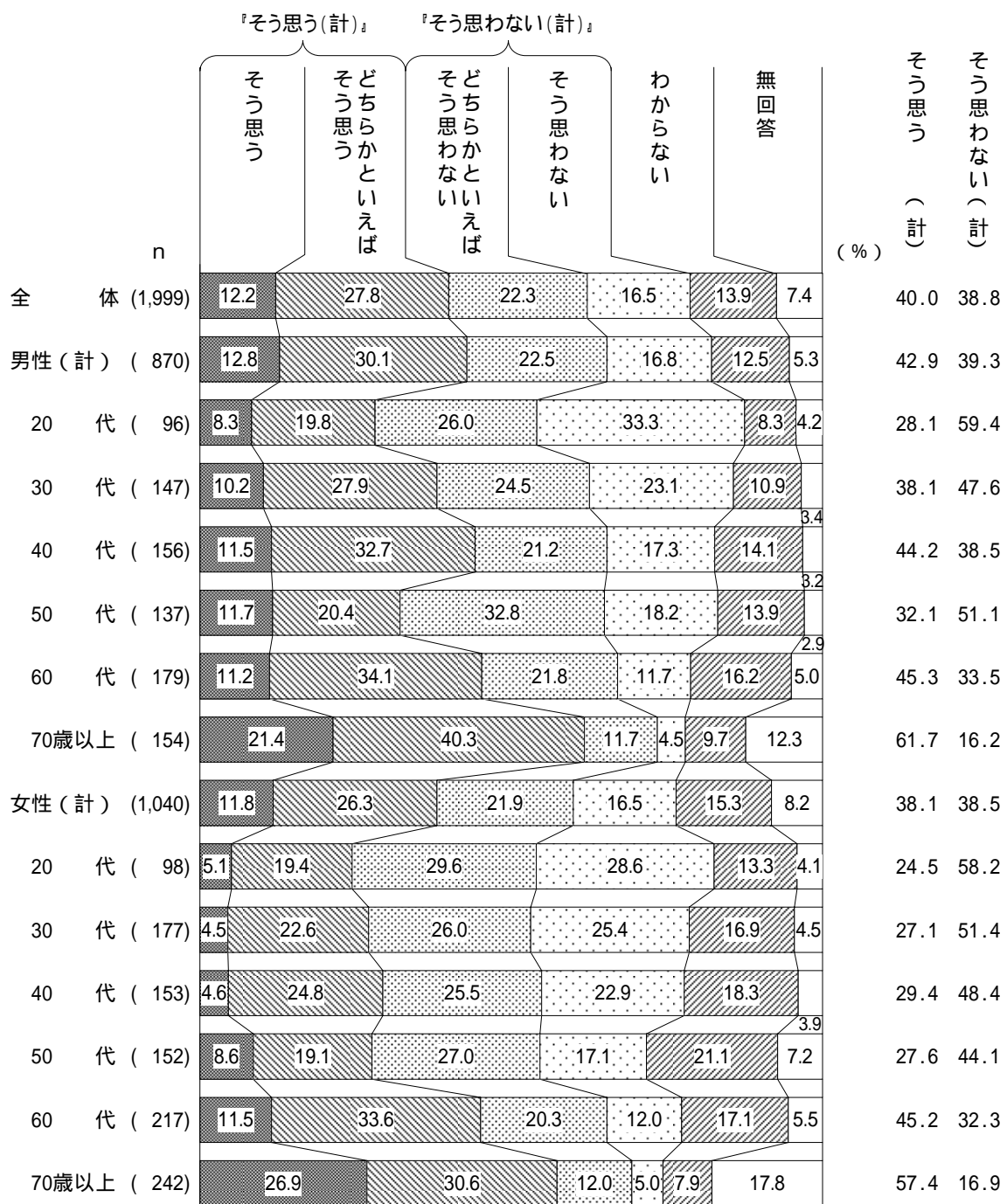


性別で見ると、男性で『そう思う(計)』(42.9%)が女性(38.1%)より4.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性70歳以上(61.7%)で6割を超え最も高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性20代(59.4%)、女性20代(58.2%)で6割近くと高くなっている。(図7-5-6)

図7-5-6 区に対する気持ち - 性別、性・年代別(2)

(2) 足立区に誇りをもっている

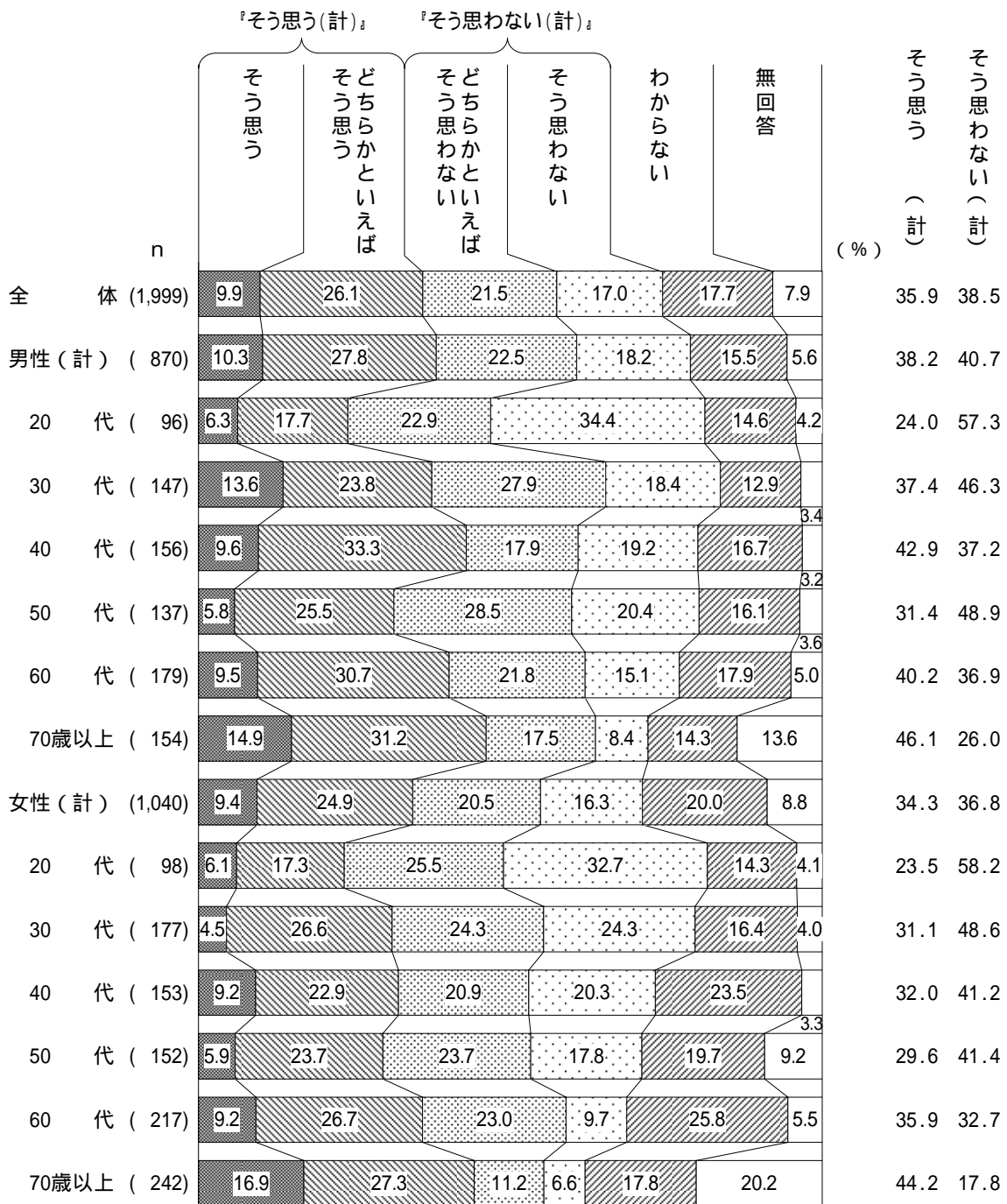


性別で見ると、男性で『そう思う(計)』(38.2%)が女性(34.3%)より3.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男女とも70歳以上(男性46.1%・女性44.2%)で4割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男女とも20代(女性58.2%・男性57.3%)で6割近くと高くなっている。(図7-5-7)

図7-5-7 区に対する気持ち - 性別、性・年代別(3)

(3) 足立区を人に勧めたい



(5) 区政についてのご意見、ご要望(自由回答)

問35 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、どのようなことでも結構ですのでお書きください。(自由にお書きください)

区政への意見、要望を自由に記述していただいたところ、664人から延べ831件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見を掲載いたします。

区政全般に関する意見・要望(112件)

- ・ 子どもに対する具体的な教育が私達にもわかりやすく伝わっています。他の区よりもNHK等にニュースとして取り上げられ、誇りに思います。ニュースで学校給食の事を知り、14階の食堂で注文し、食してきました。区民にまで、いただける様になっていておどろきました。区政の「あたたかい心」を感じました。
- ・ 最近の区政は透明性を特に感じ、分かりやすい。これからも明るく生活出来るようお願いします。
- ・ あだち広報を楽しく拝見させて頂いております。世相の文化とはいえ、考えられないような犯罪が多く心を痛めます。素晴らしい大学が出来まして嬉しく存じます。足立区の発展を若い方達と共に頑張りましょう。

交通機関・道路の整備(77件)

- ・ コミュニティバスを増やしてほしい。
- ・ 歩道が狭くて、不愉快な思いをしながら、ベビーカーを押す事が多い。(自転車のすれ違いの時)もっと広くしてほしい。
- ・ 自転車専用の車道や駐輪場の整備をしてほしい。

治安対策(64件)

- ・ 最近、安全パトロールカー等を見かけますが、私の住まいは、夜は人通りが少ないので、昼夜問わず、これまで以上にパトロールしてもらえると心強いです。毎日のように、足立区から不審者情報のAメールがくると、子どもも小さいので本当に不安です。
- ・ 学童の子どもたちが、帰り道に1人きりになっているのが心配。その時間帯に合わせたパトロールなどの強化をして欲しいです。

マナーについて(56件)

- ・ 公園をめぐる道路には犬のフン、雑草、ゴミが多い。
- ・ 歩きタバコやゴミのポイ捨ての取締りを強化してほしい。
- ・ 自転車の交通ルールを守るよう指導してほしい。

医療・福祉（55件）

- ・ 生活保護者が多い区と聞いているが、不正受給の取締りに力を入れてほしい。
- ・ 子供の救急、入院できる医療機関がないと思います。

学校教育（42件）

- ・ 公立小中学校の学区を復活させてほしい。中学校の学力、部活動など、人気校に生徒が集まってしまう為、足立区立での競争力が低下してしまい、足立区のレベルupに繋がらない。学区制で、生徒を分散した方が、相乗効果があると思います。
- ・ 小中学校の学力向上に力を入れてほしい。

都市開発（37件）

- ・ 街を自転車で走ると、シャッターの閉めっぱなしの店舗が目立ちます。更なる地域活性化の強化を願います。
- ・ 永住を考えた時に、不便な点が多々見える。今後の対策として、少子高齢化が進む前提で街づくり（都市計画）を進めて欲しい。
- ・ 駅前なども少しずつ開発されていますが、もう少し大きな商業施設が出来ると区外からも人が来て、足立区も盛りあがると思います。

高齢者支援（30件）

- ・ 低金額で利用出来る高齢者住宅を作ってほしい。
- ・ 一人暮らしの高齢者に介護が必要になった時に安心して支援してくれる施設や相談窓口の充実。

防災対策（29件）

- ・ 足立区は川に囲まれた地域であり、地震が起きた時に液状化等が発生し、道路が被災する可能性があるが、何か対策を考えるべき。
- ・ 地震や津波などの災害に関する情報をもっと知りたい。今後、さらなる防災対策の強化をしてほしい。

足立区のイメージ（28件）

- ・ 自分は、足立区に住んでいるので、愛着を持っているが、犯罪が多いとか学力が低いというイメージが有るので、悪いイメージがなくなるとよいと思う。
- ・ 足立区のイメージが大変悪い。足立区と聞くと...怖いイメージ。それを改善出来るような施策があれば是非やってください。各論も大事ですが総論も大事なような気がします。

生涯学習（24件）

- ・ 子どもを連れて参加できるような教室やイベントを増やしてほしい。
- ・ 図書館やスポーツ施設の充実。文化面にも力を入れてほしい。

子育て支援（23件）

- ・ 安心して子どもを産み育てられる、働きたい母親の支援をしてほしい。
- ・ 足立区に引越して来た当時は、子供が居なかったのでそれほど感じなかったが、子供が産まれてみて歩道や保育園の少なさなど、非常に子供を育てにくいと感じた。子育てしやすい区を目指してほしい。

職員の接客態度（21件）

- ・ 区役所に行くと感じるのが、人の多さ（職員が多すぎる）、髪の毛の色、おしゃべり、やる気の無さ、態度などマナーはいいとは思えない。
- ・ 区役所の職員の方の対応が丁寧でした。

資源環境対策（20件）

- ・ 衣類を生ごみと一緒に処分するのは心が痛むので資源とならないかと思ってます。
- ・ 資源ゴミが、回収日に組織的に持ち去られている。区と警察が連携して対策を強化してほしい。

自然・緑化対策（15件）

- ・ 町の緑化運動は、地球温暖化問題の対策として大変重要です。しかし、区の予算不足から、樹木の手入れは、なおざり。保存木にいたっては、費用の半分を持ち主が出している現状。自分の住まいに樹木のない人は多く、環境対策は待ったなし。区民から、巾広く協力をいただく検討を願いたい。

職員数について（14件）

- ・ 区の職員の削減。必要最小限の人数で業務に取り組むべき。

花火大会について（12件）

- ・ イルミネーションや花火などとてもきれいですが、財政面やエネルギーについて考えると、疑問と不安があります。
- ・ 昨年の花火大会が10月になったが、やはり花火は、夏・ゆかた・うちわが似合う。夏の開催にしてほしい。

障がい者支援（9件）

- ・ 障がい者の一人暮らしの人々にもっと眼を向けてほしい。自立支援にこちらから出向かなければならぬ、連絡しなければならぬ事が多々有る。ヘルパーはいるものの、人数が少ない。もっと福祉に力を入れほしい。
- ・ 障がい者にやさしい町づくりをお願いします。道路の凸凹をなくす。川のテラスに車椅子でおりられるようにする。レストランはバリアフリーにする。

地域活動支援（7件）

- ・ 昔みたいに近所の人に普通にあいさつしたり、会話したり出来る環境になったらいいと思う。

雇用促進（6件）

- ・ 若者の就業支援を強力に進めてほしい。パート、アルバイトではなく、正規社員になれるようにしてほしい。
- ・ 非正規社員を正社員にするルートを明確に整備していただきたい。

保健衛生対策（4件）

- ・ 無料健康診査の拡大。
- ・ 蚊の駆除薬の散布をしてもらいたい。

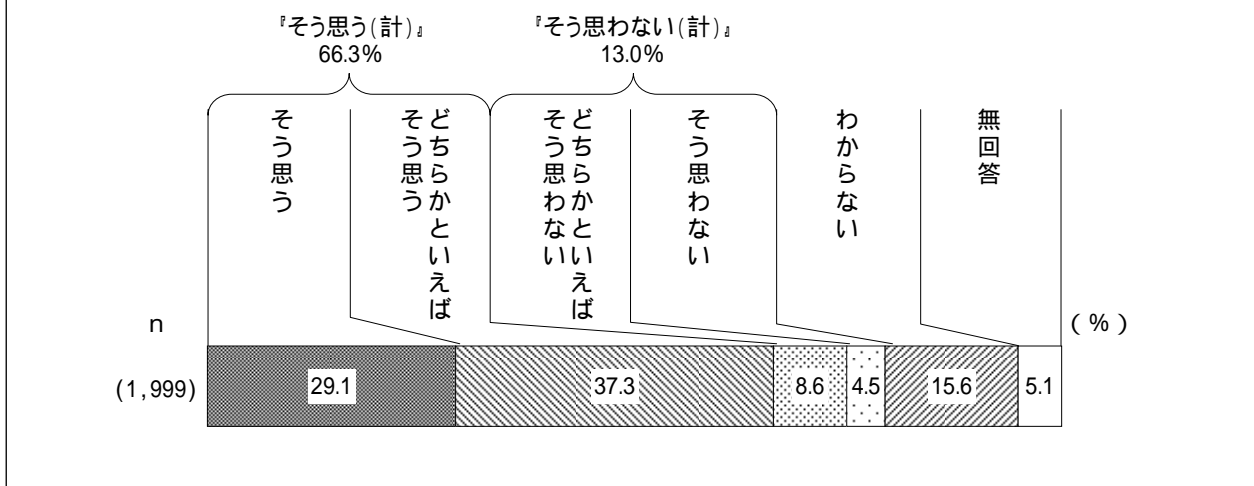
その他（70件）

- ・ 転居してきたばかりで、区政や以前の運営との比較はできませんが、近々出産予定でもありますので、今後は区の活動にも興味を持ちたいと考えています。
- ・ 足立で生まれ、育ち、結婚して足立で子どもを育てました。23区内でもいつもレベルが低いと思われている足立区ですが、私にとっては大切なふるさとです。いつか「私は足立区よ」と誇りを持って言える日が来ることを願っています。

(6) アンケートの有効性
『そう思う』人が7割近く

問36 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後に、今回の調査の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか。
(は1つだけ)

図7-6-1 アンケートの有効性

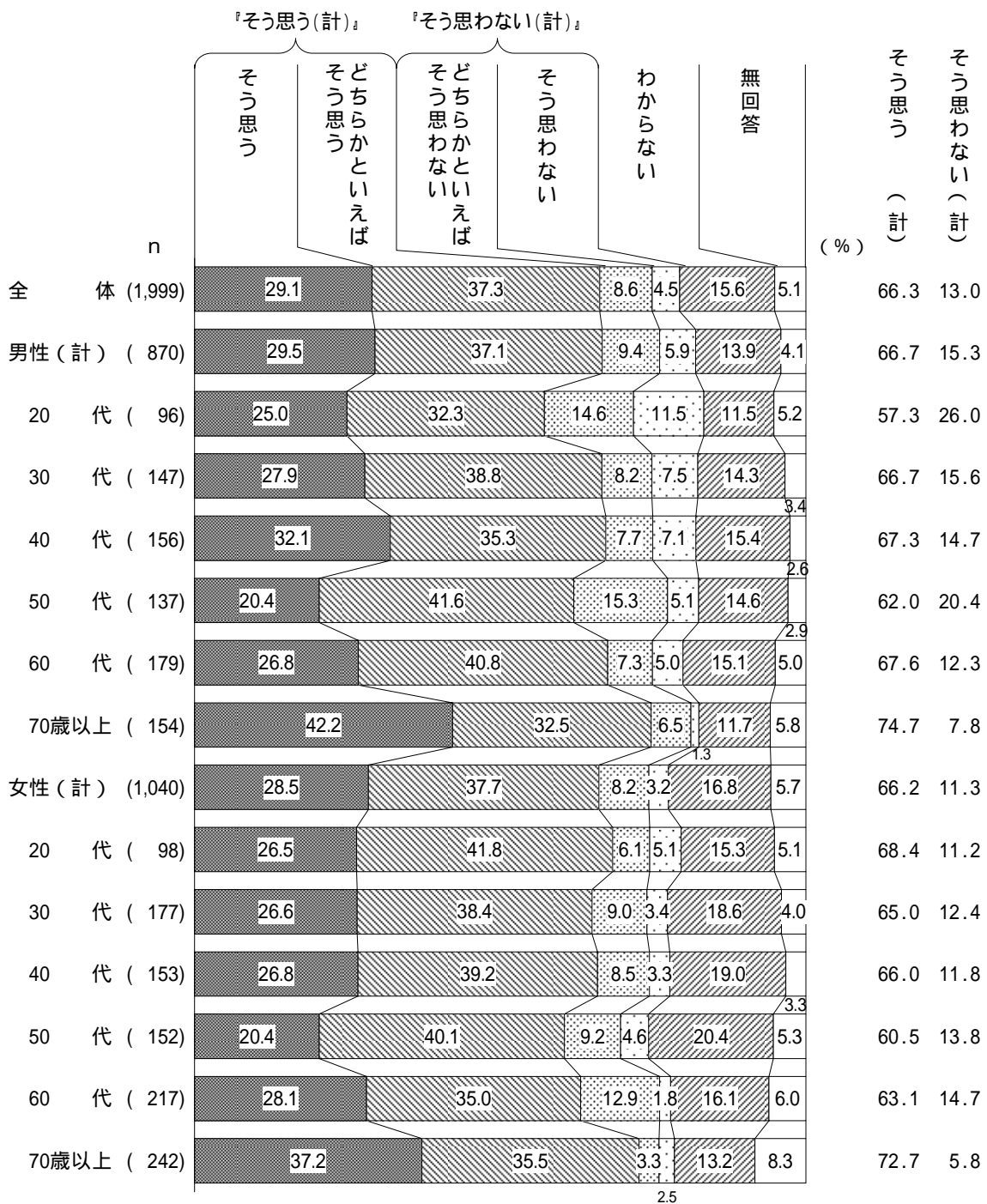


今回の調査の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容が聞いたところ、「そう思う」(29.1%)がほぼ3割、これに「どちらかといえばそう思う」(37.3%)を合わせた『そう思う(計)』(66.3%)が7割近くとなっている。一方、「そう思わない」(4.5%)と「どちらかといえばそう思わない」(8.6%)を合わせた『そう思わない(計)』(13.0%)が1割を超えている。(図7-6-1)

性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(15.3%)が女性(11.3%)より4.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男女とも70歳以上(男性74.7%・女性72.7%)で7割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性20代(26.0%)で2割半ばと最も高くなっている。(図7-6-2)

図7-6-2 アンケートの有効性 - 性別、性・年代別



使用した調査票

平成24年度（第41回）足立区政に関する世論調査

～ 調査ご協力のお願い～

この調査は、区民の皆様のご意見や日頃感じていらっしゃることをお聞きし、今後の区政に役立てるため毎年実施しております。

調査にあたりまして、区内にお住まいの20歳以上の方々の中から無作為に3,000名を選ばせていただきました。

お聞かせいただいたご意見は、統計的にとりまとめます。そのためお名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ご安心ください。

また、このページの右上の「ブロックNo.」は、区内を13の地域に分けて分析する際の区別のため用いるもので、これによってお名前や住所が判明するということはありません。

ご多用のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成24年9月

足立区

ご回答にあたってのお願い

1. この調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いいたします。
3. 回答は最初から1問ずつ、最後までお答えください。ただし、質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、()内等の指示・ことわり書きをよくお読みください。
4. お答えは、あてはまる番号に 印をつけてください。
5. 質問によって、 をつける数を「1つだけ」「あてはまるものすべて」などと指定しておりますので、その範囲内でお答えくださるようお願いいたします。
6. 「その他」にあてはまる場合は、()内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。

ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、10月1日(月)までにご投函ください(切手を貼る必要はありません)。なお、調査の内容、考え方、記入のしかたなどについて、わからないことがございましたら、下記までご連絡ください。

[調査主体] 足立区政策経営部広報室区政情報課

担当：区政情報係

足立区中央本町1-17-1

[お問合せ先] お問い合わせコール あだち

3880-0039

(受付時間:午前8時～午後7時/年中無休)

[調査受託機関] 株式会社 エスピー研

この調査票は、無記名式となっています。お名前をご記入いただく必要はありません。返信用封筒にも、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありません。調査結果は、統計的に処理します。お答えいただいた個人のお考えが公表されることはありませんので、ありのままをお答えください。

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は次のどちらですか。(は1つだけ) n = 1,999

1	男性	43.5%	2	女性	52.0	無回答	4.5
---	----	-------	---	----	------	-----	-----

F 2 あなたは何歳ですか。(は1つだけ) n = 1,999

1	20～24歳	4.6%	5	40～44歳	8.7	9	60～64歳	10.6
2	25～29歳	5.3	6	45～49歳	7.0	10	65～69歳	9.7
3	30～34歳	6.6	7	50～54歳	7.6	11	70～79歳	16.0
4	35～39歳	9.7	8	55～59歳	7.0	12	80歳以上	4.9
							無回答	2.5

F 3 あなたは足立区に住んで何年になりますか。(は1つだけ) n = 1,999

1	1年未満	2.2%	3	5～10年未満	7.4	5	20年以上	67.1
2	1～5年未満	8.4	4	10～20年未満	12.4		無回答	2.6

F 4 あなたのお住まい(住居)は次のどれにあたりますか。(は1つだけ) n = 1,999

1	一戸建て持家	45.6%	5	木造のアパート	4.1
2	一戸建て借家	2.2	6	公団・公社・都営住宅・区営住宅	13.2
3	分譲マンション	17.2	7	社宅・公務員住宅・寮	1.0
4	コンクリート造の賃貸 マンション・アパート	13.1	8	間借り・住み込み	0.5
			9	その他()	0.8
				無回答	2.4

F 5 あなたの職業は次のどれにあたりますか。(は1つだけ) n = 1,999

1	自営業・事業主	11.6%
2	自由業(開業医、弁護士、作家、芸術家など)	1.2
3	事務職(一般事務職、オペレーターなど)	9.9
4	専門・技術職(勤務医師、研究者、技術者、裁判官など)	8.8
5	労務・サービス職(販売員、工場などの生産工程従業者、運転手など)	10.7
6	役員・管理職	4.0
7	パート・アルバイト	14.7
8	主に家事に従事(専業主婦など)	13.2
9	学生	2.1
10	無職(年金生活を含む)	20.9
11	その他()	0.5
	無回答	2.7

F 6 あなたの就労場所(就学場所)は次のどれにあたりますか。(は1つだけ) n = 1,255

1	自宅	12.6%	4	23区以外の東京、神奈川、千葉、埼玉	12.4
2	足立区内	30.0	5	その他()	3.1
3	足立区外の東京22区	41.5		無回答	0.5

F 7 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか。(はあてはまるものすべて) n = 1,999

1	ひとり暮らし	14.2%	4	祖父・祖母	2.4	7	兄弟・姉妹	8.0
2	配偶者	57.2	5	子ども	43.4	8	その他()	2.1
3	父・母	19.5	6	孫	3.9		無回答	2.8

F 8 あなたご自身は、次の1から7のどれにあたりますか。

「子ども」は同居・別居を問いません (は1つだけ)

n = 1,999

1	単身者で子どもがいない	25.5%
2	配偶者がいて子どもがいない	12.7
子どもがいる		
3	一番上の子どもが小学校入学前	6.3
4	一番上の子どもが小学生	6.0
5	一番上の子どもが中学生	2.8
6	一番上の子どもが高校・大学生	6.3
7	一番上の子どもが学校卒業	28.9
	無回答	11.6

次のページからも引き続きお答えください

お住まいの地域について、おうかがいいたします

問1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか。

(は各項目とも1つだけ)

n = 1,999

	そう 思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思 わない	わか らない	無回答
回答例 -----▶	1		3	4	5	
(1)街路樹や家々の植栽、公園などの緑が多い	24.6%	41.8	13.6	14.3	0.9	4.9
(2)誰もが利用しやすい公園がある	31.1	37.3	12.5	12.8	2.2	4.3
(3)子育て環境(保育所、学童クラブなど)が整っている	12.8	32.7	15.4	9.5	24.7	5.1
(4)小中学校では子どもの教育が良好に行われている	7.1	27.5	12.4	10.0	37.7	5.4
(5)図書館など地域の施設が使いやすく、充実した時間を過ごすことができる	11.7	34.3	18.7	13.4	17.9	4.2
(6)高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい	6.6	23.1	18.8	12.1	34.9	4.6
(7)通勤や通学などの交通の便がよい	24.4	35.7	15.4	17.1	3.4	4.1
(8)普段の買い物が便利である	33.7	39.9	13.1	10.2	0.5	2.8
(9)物価が安い	15.9	38.9	20.7	13.5	7.2	3.9
(10)自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている	4.5	16.7	27.3	45.4	3.1	3.1

問2 以上のことを踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。(は1つだけ)

n = 1,999

1 暮らしやすい	23.5%	3 どちらかといえば暮らしにくい	11.6
2 どちらかといえば暮らしやすい	59.0	4 暮らしにくい	2.9
		無回答	3.1

(問2で「3 どちらかといえば暮らしにくい」又は「4 暮らしにくい」とお答えの方に)

問2 - 1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか。(自由にお書きください)

問3 あなたは、足立区に今後も住みたいと思いますか。(は1つだけ) n = 1,999

1 ずっと住みたい	37.9%	3 区外に転出したい	7.5	無回答	2.0
2 当分は住みたい	38.5	4 わからない	14.2		

大震災などの災害に備えていることについて、おうかがいたします

問4 あなたは、一時集合場所(町会・自治会などが指定した避難場所)、広域避難場所(都が指定した避難場所)、小中学校等の避難所(区が指定した避難所)を知っていますか。

(は各項目とも1つだけ) n = 1,999

	知っている	知っているが、場所はわからない	知らない	無回答
回答例 --->		2	3	
(1) 一時集合場所 (町会自治会などが指定した避難場所)	52.1%	9.5	32.7	5.7
(2) 広域避難場所 (都が指定した避難場所)	41.8	12.7	36.3	9.2
(3) 小中学校等の避難所 (区が指定した避難所)	53.8	9.3	27.3	9.6

(問4の(1)から(3)までのうち、いずれか1つでも「3 知らない」とお答えの方に)

問4-1 避難場所等を確認するために便利な方法は何ですか。

(は最もあてはまるもの1つ)

n = 918

1 あだち防災マップ[避難所マップ]	33.3%	5 クチこみ	5.6
2 区のホームページ	15.4	6 携帯端末ツール	9.7
3 わたしの便利帳(リブイン)	7.3	7 区職員に電話等で直接確認	2.7
4 地域の掲示板、看板	20.4	8 その他()	4.0
		無回答	1.6

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて非常食などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか。(は1つだけ)

n = 1,999

1 備蓄や防災用具などを用意している	30.0%	3 全く用意していない	24.3	問6へ
2 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある	43.9	程★潭	1.9	

(問5で「1 備蓄や防災用具などを用意している」とお答えの方に)

問5-1 備蓄や防災用具などの用意はいつから始めましたか。(は1つだけ)

n = 599

1 3月11日の東日本大震災以前から	51.6%
2 3月11日の東日本大震災を経験してから	45.4
無回答	3.0

問5-2へ

(問5で「1 備蓄や防災用具などを用意している」又は「2 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」とお答えの方に)

→ 問5 - 2 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

(はあてはまるものすべて)

n = 1,477

1 飲料水	80.6%	9 非常用持ち出し袋	40.4
2 非常食 (缶詰、アルファ米、 インスタント食品など)	73.2	10 消火器	20.2
3 懐中電灯	86.6	11 三角バケツ	4.4
4 携帯ラジオ	64.8	12 風呂などへの水のため置き	30.2
5 医薬品(常備薬を含む)	42.9	13 バールやハンマーなどの救助用工具	10.2
6 衣類	31.1	14 防災頭巾・ヘルメット	20.2
7 生理用品	20.4	15 はしご	6.2
8 簡易トイレ	18.6	16 その他()	4.5
		無回答	4.3

(問5 - 2で「1 飲料水」又は「2 非常食」とお答えの方に)

→ 問5 - 3 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

(は各項目とも1つだけ)

n = 1,311

	1人あたり 3日以上	1人あたり 2日分	1人あたり 1日分	1人あたり 半日(2食)分	1人あたり 1食分	無回答
回答例 -->	1	2		4	5	
1 飲料水	32.6%	31.7	21.6	3.4	3.7	6.9
2 非常食	23.8	32.9	22.3	4.0	5.6	11.4

(飲料水は大人1人1日3リットルで計算。飲料水、非常食には日常の買い置きがあるため災害時に活用できるものを含む)

問6 あなたは、町会や自治会の防災訓練に参加していますか。(は1つだけ) n = 1,999

1 毎年参加している	7.7%	3 ほとんど参加していない	19.4	無回答 2.9
2 2~3年に1回程度参加している	11.8	4 参加したことはない	58.2	

(問6で「3 ほとんど参加していない」又は「4 参加したことはない」とお答えの方に)

問6 - 1 町会や自治会の防災訓練に参加しない理由をお答えください。

(は最もあてはまるもの1つ) n = 1,552

1 訓練を実施することを知らなかったから	44.7%
2 訓練に参加したかったが、都合がつかなかったから	17.7
3 自分が訓練に参加した方がいいのか分からなかったから	7.1
4 勤務先などで防災訓練に参加しているから	7.8
5 地域の防災訓練にまで参加したくないから	4.4
6 その他()	10.1
7 防災訓練自体に関心がないから	7.2
無回答	1.0

問7 あなたの近隣に高齢者のみの世帯、一人暮らしの高齢者、障がい者など災害発生時に自力あるいは家族等の支援を受けても避難することが困難と思われる災害弱者・災害時要援護者といわれる方はいますか。(は1つだけ) n = 1,999

1 いる	20.1%	3 いない	23.0	5 その他()	0.5
2 多分いると思う	15.0	4 わからない	39.2	無回答	2.2

(問7で「1 いる」又は「2 多分いると思う」とお答えの方に)

問7-1 東日本大震災が発生した際に災害弱者・災害時要援護者といわれる方に声掛けをしましたか。(は1つだけ) n = 702

1 顔見知り、顔見知りでないにかかわらず、声掛けして安否を確認した	9.1%
2 顔見知りの人には、声掛けして安否を確認した	21.7
3 顔見知りではないが、声掛けして安否を確認した	0.9
4 顔見知りではあるが、特に声掛けはしなかった	10.5
5 顔見知りではないので、特に声掛けはしなかった	10.1
6 自宅にいなかったので、声掛けできなかった	36.9
7 その他()	8.4
無回答	2.4

問8 身近に大地震が起きた場合に、あなたが特に不安に思うことは何ですか。

(は最大5つまで) n = 1,999

1 建物の倒壊	65.4%	9 電話・メールなどの通信機能のマヒ	36.5
2 火災の発生	62.7	10 正確な情報が得られなくなる	22.6
3 家族の安否	75.3	11 避難所での生活	25.1
4 停電・断水・ガスの途絶	52.5	12 治安の悪化	10.8
5 自宅などに閉じ込められること	15.0	13 ペットの世話	8.3
6 食糧・飲料水等の確保	38.8	14 その他()	1.6
7 帰宅・移動手段の途絶	20.5	15 特にない	0.5
8 医療体制の確保	20.5	無回答	0.9

問9 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。(は最大5つまで) n = 1,999

1 非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保	83.5%	8 災害に関する情報提供の充実	41.4
2 非常用トイレの確保など衛生対策の充実	76.6	9 医療体制の確保	56.6
3 消火設備・チェーンソーなどの救助設備の充実	14.3	10 高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実	38.8
4 救助・消火訓練内容の充実	11.5	11 耐震診断・耐震改修事業などの促進	18.0
5 避難所設営訓練の充実	7.3	12 その他()	2.6
6 避難所の施設の充実	50.1	13 特にない	0.5
7 避難場所・避難所のPR	29.0	無回答	1.0

環境・エネルギーに対する意識について、おうかがいたします

問10 あなたが環境のために心がけていることは何ですか。(はあてはまるものすべて)

n = 1,999

1	ごみと資源の分別を実行している	86.4%
2	ごみや吸いがらのポイ捨てはしていない	72.1
3	マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	47.3
4	環境に配慮した製品を利用するようにしている	19.0
5	節電や節水など省エネルギーを心がけている	67.4
6	その他()	2.3
7	特になし	1.9
	無回答	2.3

問11 あなたは東日本大震災が発生する前に、省エネや節電などエネルギーについて意識していましたか。(は1つだけ)

n = 1,999

1	かなり意識していた	13.6%	4	全く意識していなかった	9.0
2	多少意識していた	47.3	5	わからない	0.6
3	あまり意識していなかった	27.0		無回答	2.6

問12 あなたは東日本大震災が発生した後、省エネや節電などエネルギーに対する意識が変わりましたか。(は1つだけ)

n = 1,999

1	より強く意識するようになった	45.8%	4	むしろ意識しないようになった	0.6
2	少し意識するようになった	39.8	5	わからない	0.2
3	変わらない	11.1		無回答	2.5

問13 エネルギーについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。

(は各項目とも1つだけ)

n = 1,999

回答例	必要だ と思う	どちら ともい えない	必要だ とは思 わない	わから ない	無回答
回答例 ----->		2	3	4	
(ア)地球の温暖化を防ぐため、省エネルギーに取り組むこと	79.2%	10.1	2.1	1.8	6.9
(イ)石油や天然ガスなどの資源保護のため、省エネルギーに取り組むこと	71.9	14.1	1.7	4.1	8.3
(ウ)光熱水費の節約のため、省エネルギーに取り組むこと	76.2	11.9	1.7	2.2	8.0
(エ)電力不足による停電を防ぐため、節電に取り組むこと	77.2	12.3	2.5	1.3	6.8
(オ)太陽光や太陽熱、風力などの自然エネルギーを活用すること	71.6	15.2	1.8	3.2	8.2
(カ)自らの電気・ガス・ガソリンなどエネルギーの使用量を把握し、チェックすること	62.5	22.1	2.8	4.8	7.9

問14 次のことごとらについて、あなたの現在の状況にあてはまるものお選びください。

(は各項目とも1つだけ)

n = 1,999

	震災の前 から既に 取り組ん でいた	震災の後 から取り 組み始め た	現在は取 り組んで いないが これから 取り組み たい	今後も取 り組むつ もりは ない	無回答
回答例 -----▶		2	3	4	
(ア)長時間使わない電化製品は、コンセントからプラグを抜く	49.3%	20.7	18.0	6.6	5.6
(イ)部屋の温度を確認し、本当に必要なときだけエアコンをつける	60.6	22.9	7.2	3.9	5.5
(ウ)電化製品を買い替えるときは、省エネ性能の高いものを選ぶ	49.9	20.1	20.2	3.8	6.1
(エ)エネルギーリサイクル、生き物や自然などの環境問題に関心を持つ	42.5	18.4	25.6	6.3	7.3
(オ)買い物のときは、古紙や再生プラスチックで作られた商品や、詰め替えができる商品など環境を考えて作られた商品を選ぶ	44.5	11.9	27.5	9.5	6.7
(カ)自然体験や環境のイベントなどに参加する	5.4	4.3	46.2	36.1	8.0
(キ)花や緑、リサイクル、清掃活動など地域の環境活動に参加する	12.8	4.5	44.4	30.4	7.9

【車をお持ちの方または車を運転される方のみお答えください】 (ク) n = 889、(ケ) n = 938

(ク)発進から5秒で時速20キロになるようなふんわりアクセルの運転を心がける	56.5	8.9	22.8	11.8	-
(ケ)区内や都心への移動は、できるだけ車を使わず、鉄道・バス・自転車を利用する	50.1	7.2	23.6	19.1	-

「あだち広報」、「わたしの便利帳」のあり方について、おうかがいいたします

【あだち広報について】

問15 足立区に関する情報はどのような手段でご覧になっていますか。(は3つまで)

n = 1,999

1 あだち広報	82.5%	6 ポスター	10.6
2 ときめき	49.2	7 チラシ	9.9
3 区のホームページ	15.7	8 区民事務所などの窓口	4.8
4 A-メール	5.9	9 町会・自治会掲示板・回覧板	31.9
5 ツイッター	0.4	10 その他()	3.2
		無回答	4.0

問16 あなたは、「あだち広報」をどの程度読んでいますか。(は1つだけ) n = 1,999

1 ほとんどの記事を読んでいる	20.0%	3 見出しだけをながめる程度	15.6
2 興味のある記事だけを読んでいる	45.5	4 ほとんど読まない	12.7
		無回答	6.3

問18へ

(問16で「1 ほとんどの記事を読んでいる」又は「2 興味のある記事だけを読んでいる」とお答えの方に)

→ 問16-1 「あだち広報」でよく読む内容はどのようなものですか。(は3つまで)

	n = 1,309
1 一面(表紙)	37.7%
2 特集面(見開きカラー中面)	39.5
3 お知らせ記事(区の制度関係)	58.6
4 お知らせ記事(講座・イベント情報)	49.4
5 まちの見どころ(区の施設や史跡などの紹介)	33.5
6 インタビューなどの取材記事(区制80周年おめでとうコラムなど)	5.0
7 近所deまなボー(生涯学習施設・スポーツ施設の催し)	21.4
8 その他()	1.5
無回答	4.5

→ 問16-2 お選びになった記事をよく読まれる理由について、どのようなことでも結構ですので、ご自由にご記入ください。(例: 写真がきれい、読み応えがある、講座情報を知りたい、など)

問16-1の番号	理 由

(問16で「1 ほとんどの記事を読んでいる」又は「2 興味のある記事だけを読んでいる」とお答えの方に)

→ 問17 「あだち広報」は、読みやすいですか。(は1つだけ) n = 1,309

1 読みやすい	28.3%	3 どちらかといえば読みにくい	7.0
2 どちらかといえば読みやすい	58.3	4 読みにくい	0.2
		無回答	6.3

(問17で「1 読みやすい」又は「2 どちらかといえば読みやすい」とお答えの方に)

→ 問17-1 「あだち広報」を“読みやすい”と思われるのは、どのような点ですか。(あてはまるものすべてに) n = 1,133

1 活字の大きさがちょうどよい	62.4%	5 記事内容がわかりやすい	58.9
2 写真が多い	19.2	6 紙面が親しみやすい	20.7
3 企画記事、特集ページが充実している	25.0	7 その他()	2.6
4 カラーページが多い	11.3	無回答	1.6

問17-2へ

(問17で「3 どちらかといえば読みにくい」又は「4 読みにくい」とお答えの方に)

問17-2 「あだち広報」を“読みにくい”と思われるのは、どのような点ですか。 ←

(あてはまるものすべてに)

n = 94

1 活字が小さい	35.1%	5 記事内容がむずかしい	10.6
2 写真が少ない	7.4	6 全体の印象が堅い	41.5
3 レイアウトがよくない	41.5	7 その他()	17.0
4 カラーページが少ない	6.4	無回答	4.3

【「わたしの便利帳(リブイン)」について】

問18 足立区では区の施設やサービス等の概要をまとめた冊子「わたしの便利帳 2010-2012版」、「別冊わたしの便利帳」の全戸配布を行いました。「わたしの便利帳(リブイン)」を普段どの程度使っていますか。(は1つだけ) n = 1,999

1 毎月	3.2%	3 ほとんど使わない	35.7	無回答	6.0
2 年数回	37.6	4 便利帳の存在を知らない	17.6		

問19 「わたしの便利帳」を利用するとき、主にどこをご覧になりますか。

(は3つまで)

n = 1,647

1 施設案内	46.5%	8 スポーツ	4.3
2 急病・緊急のとき	36.3	9 生活環境・暮らし	18.9
3 相談	6.9	10 災害対策	5.2
4 休日開庁	3.4	11 ダイヤルガイド	6.6
5 届出	12.5	12 医療機関ガイド	31.6
6 教育	1.5	13 その他()	3.2
7 生涯学習	2.8	無回答	18.0

問20 あだちマップ(主要施設案内図・交通案内図)は、ご利用になった事がありますか。

(は1つだけ)

n = 1,999

1 毎月	3.1%	3 ほとんど使わない	41.5
2 年数回	28.8	4 あだちマップの存在を知らない	20.8
		無回答	5.8

問21 あだちマップは主にどのようなご利用ですか。(は1つだけ)

n = 1,583

1 仕事	2.7%	4 おでかけ	15.0
2 区の施設利用	29.4	5 交通案内	20.8
3 民間の施設利用	2.9	6 その他()	5.3
		無回答	24.0

保健・医療や福祉について、おうかがいいたします

問22 保健と医療などについて、あなた自身にあてはまるものをすべてお答えください。
(はあてはまるものすべて) n = 1,999

1	自分は健康だと思う	43.6%
2	毎年健康診断を受けている	58.5
3	がん検診を定期的に受けている	15.6
4	毎日朝ごはんを食べている	68.3
5	主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている	52.0
6	食品の表示(添加物、消費期限など)を見て購入している	49.7
7	食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている	57.8
8	健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある	33.1
9	疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある	11.9
10	現在、喫煙習慣がある	20.7
11	健康づくり、子どもの健康、感染症、医療機関などの情報が区から提供されており、利用しやすいと感じる	9.6
12	安心して受診できる医療機関が身近にある	39.3
13	その他()	1.7
14	特になし	0.8
	無回答	4.1

問23 あなたは、高齢者等の権利を守るしくみとして、「成年後見制度」をご存知ですか。
(は1つだけ) n = 1,999

1	内容を含め知っている	14.6%	3	知らない	53.4
2	内容は分からないが、名前は知っている	26.2		無回答	5.9

(問23で「1 内容を含め知っている」又は「2 内容は分からないが、名前は知っている」とお答えの方に)

問23 - 1 区では成年後見制度の周知や利用促進のために、次のような取り組みをしていますがご存知ですか。(はあてはまるものすべて) n = 815

1	パンフレットの配布	13.4%
2	講演会・講座の開催	9.2
3	あだち広報・区ホームページに制度の内容を掲載	30.2
4	高齢者くらしのガイド(冊子)に制度の内容を掲載	9.6
5	地域包括支援センターや権利擁護センター等での窓口相談	12.3
6	その他()	2.0
7	知らない	46.5
	無回答	7.4

「ビューティフル・ウィンドウズ」運動等について、おうかがいたします

問24 イメージキャラクター「ビュー坊」を知っていますか。

(は1つだけ)

n = 1,999

1 知っている	12.3%
2 見た(聞いた)ことはある	19.7
3 知らない(初めて見た。もしくは聞いた)	63.5
無回答	4.6



問25 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動()」という取り組みを知っていますか。(は1つだけ)

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

n = 1,999

1 知っており、活動を実践している	2.8%
2 知っているが、特に何も行っていない	13.5
3 名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	17.3
4 知らない(初めて聞いた)	61.2
無回答	5.3

問26 あなたは、足立区の刑法犯認知件数()が、ピーク時の平成13年と比較し、10年間で約4割程度減少していることを知っていますか。(は1つだけ)

警察が犯罪について、被害の届出等によりその発生を確認した件数。ただし、交通違反等を除く。

n = 1,999

1 知っている	5.2%	2 聞いたことはある	20.4	3 知らない(初めて聞いた)	69.7
				無回答	4.7

問27 あなたは、お住まいの地域の治安()について、よいと感じますか。

(は1つだけ)

犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれていること。

n = 1,999

1 そう思う	11.8%	3 あまりそう思わない	29.8	5 わからない	11.3
2 ややそう思う	29.2	4 そう思わない	13.7	無回答	4.2

問28 あなたは、自転車を駐車したときには、自転車に鍵をかけていますか。

(は1つだけ)

n = 1,999

1	いつも鍵をかけている	70.5%
2	鍵をかけることが多い(時々鍵をかけ忘れることがあるを含む)	8.7
3	鍵をかけることは少ない	1.9
4	鍵はかけていない(錠がついていない、錠が壊れているを含む)	0.5
5	自転車を持っていない、使っていない	14.2
	無回答	4.2

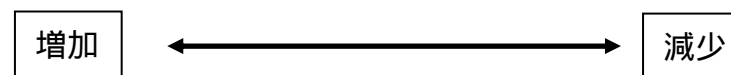
問29 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。

以下の項目について、現在は以前と比べてどのようにお感じになっていますか。

(は各項目とも1つだけ) n = 1,999



	明らかに減っている	どちらかといえば減っている	以前と変わらない	どちらかといえば増えている	明らかに増えている	わからない	無回答
回答例 --->	1	2		4	5	6	
(ア) ゴミやタバコのポイ捨て	14.7%	38.0	30.3	3.8	2.1	7.1	4.1
(イ) 放置自転車	13.0	36.2	27.8	5.5	2.8	9.9	4.9
(ウ) ペットの糞	9.2	30.8	31.4	8.0	6.7	9.8	4.3



	明らかに増えている	どちらかといえば増えている	以前と変わらない	どちらかといえば減っている	明らかに減っている	わからない	無回答
回答例 --->	1	2		4	5	6	
(エ) まちなかの花や緑	6.4%	25.7	47.3	5.1	1.7	9.2	4.7
(オ) 登下校時のあいさつなどの声掛け運動	2.4	13.4	38.9	6.1	3.8	30.1	5.5
(カ) 防犯パトロール	6.4	25.4	33.5	4.6	1.9	23.2	5.1

問30 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか。 (はあてはまるものすべて) n = 1,999

内 容	この1年間に参加された活動 (はあてはまるものすべて)	引き続き、または今後参加したいと思う活動 (はあてはまるものすべて)
(1) 町会や自治会の運営に関する活動	13.9%	10.0
(2) 町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物	18.9	17.9
(3) 区が主催する各種のイベントや催し物	12.7	18.0
(4) ボランティアやNPO (民間の非営利活動の組織) などの活動	3.6	9.6
(5) まちの美化活動 (ゴミ拾い、門掃き、公園の清掃など)	9.7	13.2
(6) 緑化 (花壇づくり、緑のカーテンの設置など) や緑の普及啓発活動	4.5	10.5
(7) 防犯パトロールなどのまちの防犯に関する活動	7.0	9.0
(8) スポーツ指導に関する活動	2.8	8.5
(9) お囃子、獅子舞など地域の伝統芸能を保護・継承する活動	1.6	6.4
(10) 特に参加していない・特にない	46.2	23.1
無回答	17.9	37.2

問30 - 1 こんな活動があったら参加してみたいと思う内容がありましたらお書きください。

足立区の区政について、おうかがいいたします

問31 あなたが以前と比べてよくなったと思う区の取り組みと、今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを、下の表からお選びください。 n = 1,999

区の取り組み	内 容	以前と比べてよくなったこと (はあてはまるものすべて)	今後特に力を入れてほしいこと (はあてはまるものすべて)
(1) 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	35.6%	42.7

区の取り組み	内 容	以前と比べてよくなったこと(はあてはまるものすべて)	今後特に力を入れてほしいこと(はあてはまるものすべて)
(2) 住宅対策	良質な住宅の供給支援など	14.7	38.1
(3) 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	26.8	45.4
(4) 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	30.0	35.9
(5) 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	13.8	45.6
(6) 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	18.1	43.9
(7) 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	11.4	32.9
(8) 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	10.3	32.3
(9) 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	16.6	35.2
(10) 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	23.9	26.7
(11) 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	19.1	26.3
(12) 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	11.1	32.2
(13) 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	14.6	24.0
(14) 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	11.2	19.0
(15) 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	7.8	16.8
(16) 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	6.9	22.3
(17) 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	8.3	16.8
(18) 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	18.9	24.1
(19) 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	24.5	26.2
(20) 特にない		6.3	2.3
無回答		26.3	11.8

問32 次の区の実施について、あなたはどのように感じていますか。

(は各項目とも1つだけ)

n = 1,999

	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら かとい えばそ う思わ ない	そう思 わない	わから ない	無回答
回答例 -----▶	1		3	4	5	
(1) 快適で安全なまちづくりが進められている	7.7%	43.6	15.3	8.1	15.1	10.2
(2) 景観街並みが魅力的になってきている	5.7	33.6	24.3	13.5	13.0	10.0
(3) 歩行者用の案内看板が整備され、公共施設に行きやすいと感じる	5.2	24.7	26.8	15.1	16.7	11.6
(4) 区政に区民の意見が反映されている	3.4	17.9	21.6	13.0	33.3	10.8
(5) 区の情報を容易に知ることができる	6.0	34.0	19.2	11.9	18.0	11.0
(6) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている	3.4	16.8	17.7	8.4	41.4	12.4

問33 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。(は1つだけ)

n = 1,999

1 満足	7.9%	3 やや不満	10.5	5 わからない	25.4
2 やや満足	43.1	4 不満	6.1	無回答	7.1

(問33で「3 やや不満」又は「4 不満」とお答えの方に)

問33 - 1 不満だと思う理由は何ですか。(自由にお書きください)

問34 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか。

(は各項目とも1つだけ) n = 1,999

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思 わない	わか ら ない	無回答
回答例	1		3	4	5	
(1) 足立区に愛着をもっている	29.1%	42.0	9.9	7.4	6.8	4.9
(2) 足立区に誇りをもっている	12.2	27.8	22.3	16.5	13.9	7.4
(3) 足立区を人に勧めたい	9.9	26.1	21.5	17.0	17.7	7.9

問35 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、どのようなことでも結構です
 でお書きください。(自由にお書きください)

問36 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後に、今回の調査の質
 問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか。

(は1つだけ)

n = 1,999

1	そう思う	29.1%
2	どちらかといえばそう思う	37.3
3	どちらかというところそう思わない	8.6
4	そう思わない	4.5
5	わからない	15.6
	無回答	5.1

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、このアンケート用紙と一緒に送りました
 返信用封筒(切手を貼る必要はありません)に入れて10月1日(月)までにご投函ください。

第41回 足立区政に関する世論調査

2013年3月

発行 足立区政策経営部広報室区政情報課
東京都足立区中央本町1-17-1
電話 03-3880-5111(代表)

実施 株式会社エスピー研
東京都千代田区飯田橋3-11-20
電話 03-3239-0071(代表)

印刷登録番号24-460

この報告書は再生紙を使用しています。



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス<http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区政策経営部広報室区政情報課